

三内丸山遺跡34

—旧野球場建設予定地発掘調査報告書9
掘立柱建物跡編(3)・南盛土(1)—

平成19年度

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書 第463集

三内丸山遺跡34

—旧野球場建設予定地発掘調査報告書 9
掘立柱建物跡編(3)・南盛土(1)—

平成19年度

青森県教育委員会



第26号掘立柱建物跡



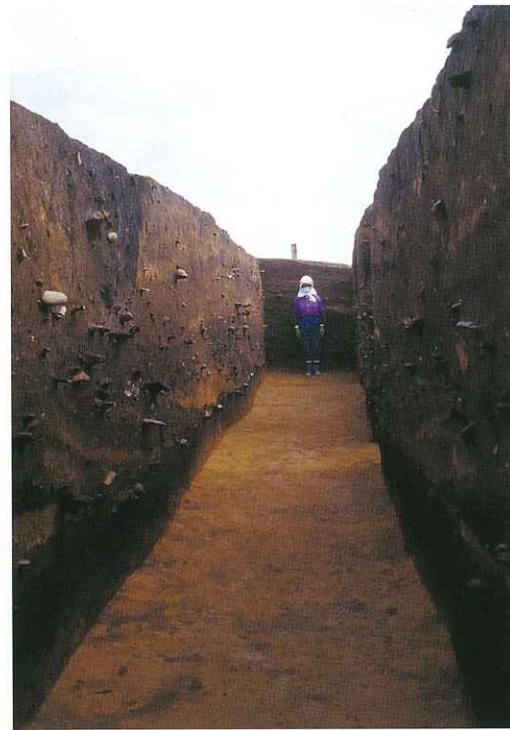
第26号掘立柱建物跡 ピット4 木柱検出状況



南盛土全景



1・4 トレンチ土層断面



1・4 トレンチ土層断面

序

青森市に所在する三内丸山遺跡は青森県総合運動公園拡張整備事業に
係る新県営野球場建設に先立ち、平成4年度から平成6年度まで県教育
委員会が発掘調査を行いました。

調査の結果、本遺跡は縄文時代・平安時代・中世の複合遺跡であるこ
とが明らかとなりました。特に大規模な遺構、多種多量の出土遺物から、
縄文時代前期中葉から中期にかけて約1500年以上継続して営まれた円筒
土器文化を代表する大規模な集落跡であることが判明しました。

本書はその成果の一部をまとめたものですが、今後三内丸山遺跡の解
明及び埋蔵文化財の保護と研究に役立てば幸いです。

最後に調査及び本書作成に御尽力いただいた関係各位に対し、厚くお
礼申し上げます。

平成20年3月

青森県教育委員会

教育長 田 村 充 治

例　　言

- 1 本報告書は平成4～6年度に実施した青森県総合運動公園拡張整備事業に係る三内丸山遺跡の発掘調査のうち、旧野球場建設予定地で『三内丸山(2)遺跡Ⅱ』（青森県埋蔵文化財調査報告書第157集 平成5年度 青森県教育委員会）で報告済みの3星側スタンド部分を除く区域で、『三内丸山遺跡30』・『三内丸山遺跡32』（青森県埋蔵文化財調査報告書第423・444集 青森県教育委員会）に報告された部分を除く縄文時代の掘立柱建物跡及び南盛土についての報告書である。他の遺構の報告書については『特別史跡三内丸山遺跡発掘調査報告書一覧』(p301) を参考にしていただきたい。
- 2 調査の概要については、『三内丸山遺跡X』（青森県埋蔵文化財調査報告書第250集 平成9年度 青森県教育委員会）の「第Ⅰ章 調査に至る経過と調査要項」、「第Ⅱ章 調査の方法と経過」、「第Ⅲ章 遺跡の概要」を参照されたい。
- 3 三内丸山遺跡は、平成14年3月19日付けて周知の遺跡範囲に変更がなされている。旧遺跡名での小三内遺跡（旧遺跡番号01017）、近野遺跡（同01065）の一部、三内丸山(1)遺跡（同01020）、三内丸山(2)遺跡（同01021）が統合され、三内丸山遺跡となった。新遺跡番号は01021番である。
- 4 本遺跡の遺構番号は、種類毎に通し番号を付してある。
- 5 挿図の縮尺は、各図に示している。
- 6 遺構図面の記載にあたっては、土器—P、石器・石—S、ロームブロック—L.B.の略号を用いた。
- 7 掘立柱建物跡については発掘調査時及び整理作業時に高島成侑 前八戸工業大学教授の指導を受けた。
- 8 石器・石製品の石材の種類鑑定については、山口義伸青森県立浪岡高校教諭に依頼した。
- 9 遺構・遺物の文・図中での表現は原則として次の様式・基準に従った。
 - (1) 遺構番号は一部を除いて発掘調査時のものを用いている。
 - (2) 遺構内外の堆積土の注記は、「新版標準土色帖」（小山、竹原1990）を用いた。
 - (3) 原則として、遺物には観察表・計測表を付し、出土地点、法量及び諸特徴を一覧できるようにした。
 - (4) 遺構名については配置図・観察表中で以下の略称で表記している。

第〇号掘立柱建物跡—○掘立 第〇号ピット—○ピット
 - (5) 縄文原体は、山内清男「日本先史土器の縄紋」（先史考古学会 1979）を参考に分類し、記述はそれに従った。ただし、観察表では以下のように省略した。

結節回転文—結回、単軸絡条体○類—単絡○、結束第〇種—結束○、多軸絡条体—多軸絡

また表中では、縄文原体の回転文の場合は種類のみ、押圧文（撚糸圧痕・側面圧痕）の場合は種類の後に「押」を付けている。馬蹄形の圧痕については「R馬蹄押」のように表記を分けている。隆帶・貼付帶上の施文文様は「貼」の直後に括弧書きした。
 - (6) 観察表中では、以下の略語で縄文原体以外の土器文様や付着物等を記載している。

竹管状工具による刺突—竹管刺突、半截竹管状工具による刺突—半竹刺突、ヘラ状工具による刺突—ヘラ刺突、折り返し口縁—折返

炭化物付着（部位）－炭（部位）、漆塗布（部位）－漆（部位）、赤色顔料付着（部位）－赤色（部位）。

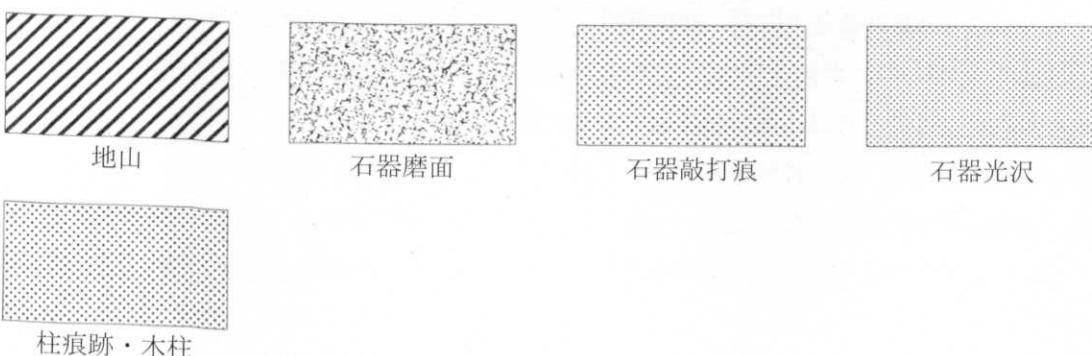
付着物等の部位については、外面全体－外、内面全体－内、口頸部外面－口外、口頸部内面－口内、胴部外面－胴外、胴部内面－胴内、胴部外面の上半部－胴外上、胴部外面の下半部－胴外下、胴部内面の上半部－胴内上、胴部内面の下半部－胴内下、底部外面－底内、底部外面－底内と略記した。

(7) 石質は以下のように略称する。

玉髓－玉、頁岩－頁、玉髓質珪質頁岩－玉珪、珪質頁岩－珪頁、黒曜石－黒、鉄石英－鉄、凝灰岩－凝、砂岩－砂、安山岩－安、流紋岩－流、閃綠岩－閃、緑色細粒凝灰岩－緑細凝、細粒凝灰岩－細凝、溶結凝灰岩－溶凝、軽石－軽、輝綠岩－輝、花崗岩－花、花崗閃綠岩－花閃

10 発掘調査における出土遺物・実測図・写真等は、現在、青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡対策室が保管している。

11 図中に使用したスクリーントーンは以下のものを表す。



12 遺物の分類

(1) 土器

土器は時代ごとに次のように分類した。

第Ⅰ群 繩文時代草創期～早期

第Ⅱ群 繩文時代前期

- 1類 円筒下層a式より古く位置付けられる土器群
- 2類 円筒下層a式に位置づけられるもの
- 3類 円筒下層b式に位置づけられるもの
- 4類 円筒下層c式に位置づけられるもの
- 5類 円筒下層d式に位置づけられるもの
さらに2つに細分する 1 d 1式
2 d 2式
- 6類 1～5類で時期を特定できないもの

第Ⅲ群 繩文時代中期

- 1類 円筒上層a式に位置づけられるもの
- 2類 円筒上層b式に位置づけられるもの
- 3類 円筒上層c式に位置づけられるもの
- 4類 円筒上層d式に位置づけられるもの
- 5類 円筒上層e式に位置づけられるもの
- 6類 1～5類で、時期を特定できないもの
- 7類 榎林式以前に位置づけられる大木式土器系のもの
- 8類 榎林式に位置づけられるもの
- 9類 最花式・中の平Ⅲ式に位置づけられる

もの	るもの
10類 大木10式併行に位置づけられるもの	2類 十腰内遺跡第Ⅰ群に位置づけられるも
11類 8~10類で時期を特定できないもの	の
第IV群 縄文時代後期	第V群 縄文時代晚期
1類 十腰内遺跡第Ⅰ群以前に位置づけられ	第VI群 弥生時代

(2) 石器

石器は形態・機能ごとに次のように分類した。

A類 石鏃	b 摳形 "
a 有茎T基のもの	F類 ピエス・エスキュー
b 有茎Y基のもの	G類 不定形石器
c 尖基 "	a いわゆるスクレイパー類
d 平基 "	b いわゆるR. フレイク
e 円基 "	c いわゆるU. フレイク
f 凹基 "	H類 石斧
B類 石槍	a 磨製石斧
a 無茎のもの	b 打製石斧
b 有茎 "	I類 敲磨器類
C類 石匙	a 主に凹のあるもの
a 縦型のもの(以下のd~gに該当するものを除く)	b " 敲打痕 "
b 横型のもの (")	c " 磨痕 "
c 斜型のもの (")	J類 半円状扁平打製石器
d 両面加工で石槍状の尖端をもつもの	K類 挿入磨製石斧
e " 石錐状の "	L類 石皿・台石
f 四角形の短辺部分に抉りをもち、長辺部分を刃部とするもの	M類 石棒類
g 細部加工がほとんど加えられないもの	a 石棒
D類 石錐	b 石刀
a 棒状のもの	c a, b の区別のできないもの
b つまみがあるもの(以下のcに該当するものを除く)	N類 石錘
c 尖端のみつくりだしたもの	O類 石冠
d 石鏃を転用したもの	a 三角柱状もしくは斧上の突出部を持つ磨製石器
E類 石籠	b 北海道式石冠
a 短冊型のもの	P類 石核類
	a 石核
	b 原石

- c 剥片・碎片(剥片石器の製作に関するもの)
 - d 剥片・碎片(礫石器の製作・使用に関するもの)
- Q類 その他
- R類 異形石器
- S類 砥石
- a 楕円礫を素材とし、顕著な擦痕をもつもの
 - b 扁平あるいは板状の礫を素材とするもの
 - c 大型のもの (L類から分離されるもの)
- T類 軽石・軽石製品
 - a 使用痕・加工痕の認められないもの
 - b 使用痕・加工痕の認められるもの
- U類 角柱状の礫・礫石器
- a 使用痕・加工痕の認められないもの
 - b 使用痕・加工痕の認められるもの
- V類 擦切具
- W類 磨・礫片

目 次

口 絵

序

例 言

目 次

第IV章 繩文時代の検出遺構と出土遺物

第7節 掘立柱建物跡(3)	1
第8節 南盛土	21
1. 調査の経緯と方法	21
(1) 調査の経緯	21
(2) 調査の方法	21
2. 南盛土の範囲と層序	22
(1) 南盛土の捉え方と範囲	22
(2) 層序と堆積状況	22
3. 各層の検出遺構と出土遺物	27
(1) 1トレンチの検出遺構と出土遺物	27
(2) 4トレンチの検出遺構と出土遺物	110
(3) ポイント4の検出遺構と出土遺物	193
4. 小結	214
(1) 円筒上層式土器の変遷	214
(2) 1・4トレンチ、ポイント4から見る南盛土の形成過程	222
(3) 土偶、土・石製品について	225
観察表	229
写真図版	247
特別史跡三内丸山遺跡報告書一覧	309
報告書抄録	311

第7節 掘立柱建物跡(3)

第26号掘立柱建物跡（1図～19図、写真1～21）

〔位置と確認〕 VII B～D-89～91に位置する。地山まで下げたところで、茶褐色の円形の落ち込みを確認した。

〔調査経過〕 平成6年6月下旬、VII B・C-90・91で長径約1mの茶褐色の落ち込みを確認し、第9865号ピットとして登録した。中心部分に柱痕跡の可能性がある部分が認められたため、土層の堆積状態を確認する目的で北側半分のみを掘り下げていたところ、6月21日に木柱の一部を確認した。掘立柱建物跡を構成する柱穴と考えられたため、周囲で他の柱穴の有無を確認したところ、規則的に配置された残り5つの柱穴を検出した。このため第26号掘立柱建物跡として、北東隅の柱穴をピット1に、以下反時計まわりにピット6まで柱穴名を付け、精査を実施した。最初に確認した第9865号ピットはピット5に名称を変更した。ピット5については、木柱の長径に対して、柱穴の長径が小さすぎるため、周囲を掘り下げて確認したところ、当初堀方と考えていたのは、柱痕跡だったことが判明した。

本遺構の東側では、平成4年に重複した掘立柱建物跡（第11～15号掘立柱建物跡）を検出し（位置関係を5図に示した）、木柱も1本出土していたが、それよりさらに大規模な遺構であること、建物跡ではないのではないか、との声もあったことから、調査担当者一同で今後の調査方法について検討を行った。この結果、未着手のピット2については、木柱が直立していたのかどうかを確認するため、柱痕跡を確認後、半分を5cmずつ掘り下げて、その都度平面図を作成することとした。また、他の柱穴との時間差、及び柱穴と埋土の時間差を確認するため、遺物の出土地点をドット・マップ化することとした（4図下段）。更に、建物外側に雨落溝や、柱の抜き取り痕がないか、確認に努めることとなつた。

〔重複〕 なし。

〔規模〕 衍行2間（約8.4m）、梁行1間（約4.2m）である。主軸方位はN-55°-Eである。

〔平面形式〕 正方形を2個連結した状態の長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕・木柱〕 全ての柱穴で柱痕跡及び木柱を確認した。ピット1は開口部150cm×150cm、底面126cm×118cm、確認面からの深さ（以下、同じ）143cm、ピット2は開口部184cm×172cm、底面138cm×120cm、深さ152cm、ピット3は開口部175cm×159cm、底面135cm×124cm、深さ169cm、ピット4は開口部214cm×209cm、底面155cm×153cm、深さ146cm、ピット5は開口部188cm×180cm、底面183cm×175cm、深さ179cm、ピット6は開口部194cm×165cm、底面138cm×132cm、深さ135cmである。ピット6の南東壁際には径約35cm、深さ7cmの小ピットが確認された。埋土は、ロームを主体とし、極めて硬く締まっていた。砂が部分的に混入することと併せて、他の掘立柱建物跡の埋土の様相とは異なり、木柱の周囲をつき固めていたものと考えられる。図4上段は、5cmずつ掘り下げて確認した柱痕跡の範囲を約20cm間隔ほどで抜き出し示したものである。

ピット2～5で確認された木柱は、残存状態が良好で、中でもピット2の木柱は最も太く、径86cmである。それぞれの木柱底面では、部分的な炭化と石斧による整形痕が確認できる。ピット1・6出土木柱の遺存状態は悪い。材質はいずれもクリである。

VII B-90

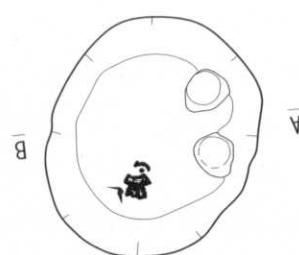
×

VII C-89

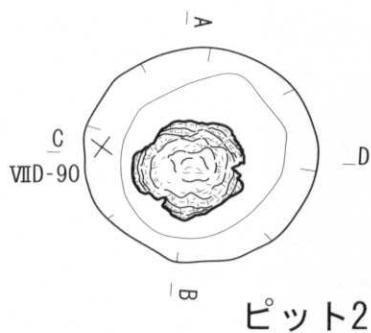
×



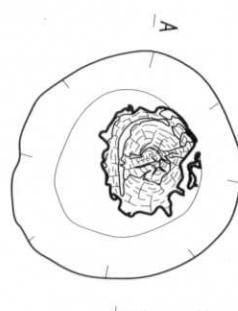
ピット1



ピット6



ピット2

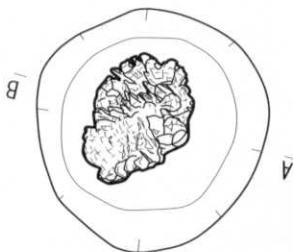


ピット5

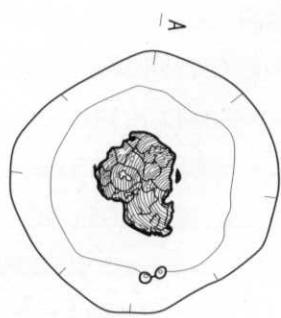
VII C-92
×

VII D-91

×



ピット3



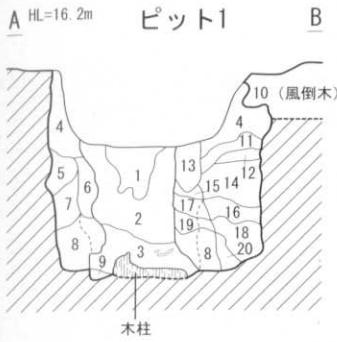
ピット4

0

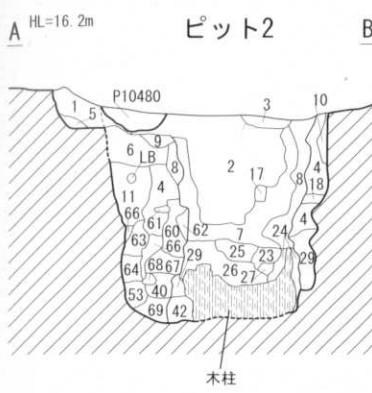
(S=1/60)

4m

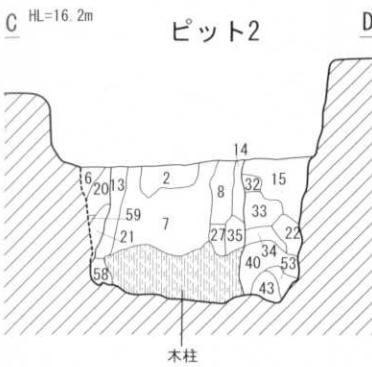
1図 第26号掘立柱建物跡 (1)



ピット1	
第1層	黒褐色土
第2層	にふい黄色色土
第3層	黄灰色土
第4層	にふい黒褐色土
第5層	黄褐色土
第6層	にふい黄色色土
第7層	黄褐色土
第8層	浅黄色土
第9層	灰オーブ色土
第10層	黒褐色土
第11層	にふい黃褐色土
第12層	にふい黃褐色土
第13層	にふい黃褐色土
第14層	にふい黃褐色土
第15層	黄褐色土
第16層	明黄褐色土
第17層	にふい黃褐色土
第18層	黄褐色土
第19層	にふい黃褐色土
第20層	にふい黃褐色土



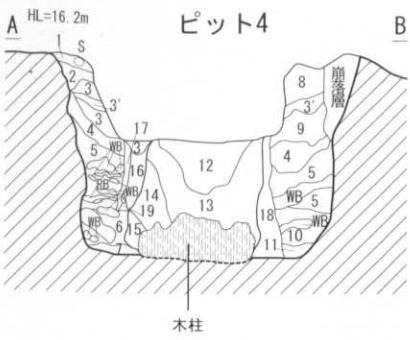
ピット2	
第1層	褐灰色土
第2層	黒褐色土
第3層	黒褐色土
第4層	明黄褐色土
第5層	黄褐色土
第6層	黄褐色土
第7層	灰黄褐色土
第8層	にふい黄色色土
第9層	明黄褐色土
第10層	明褐色土
第11層	明褐色土
第12層	灰褐色土
第13層	黄色土
第14層	明黄褐色土
第15層	黄色土
第16層	明黄褐色土
第17層	黄色土
第18層	明黄褐色土
第19層	灰色土
第20層	明褐色土
第21層	浅黄色土
第22層	黄色土
第23層	にふい褐色土
第24層	灰色土
第25層	明赤褐色土
第26層	灰色土
第27層	灰色土
第29層	黄灰色土
第32層	明黄褐色土
第33層	明黄褐色土
第34層	淡黄色土
第35層	明黄褐色土
第40層	浅黄色土
第42層	暗綠灰色土
第43層	灰白色土
第53層	浅黄色土
第58層	にふい黄色土
第59層	明褐色土
第60層	褐色土
第61層	淡黄色土
第62層	明黄褐色土
第63層	灰褐色土
第64層	黄色土
第66層	灰褐色土
第67層	灰白色土
第68層	淡黄色土
第69層	灰白色土



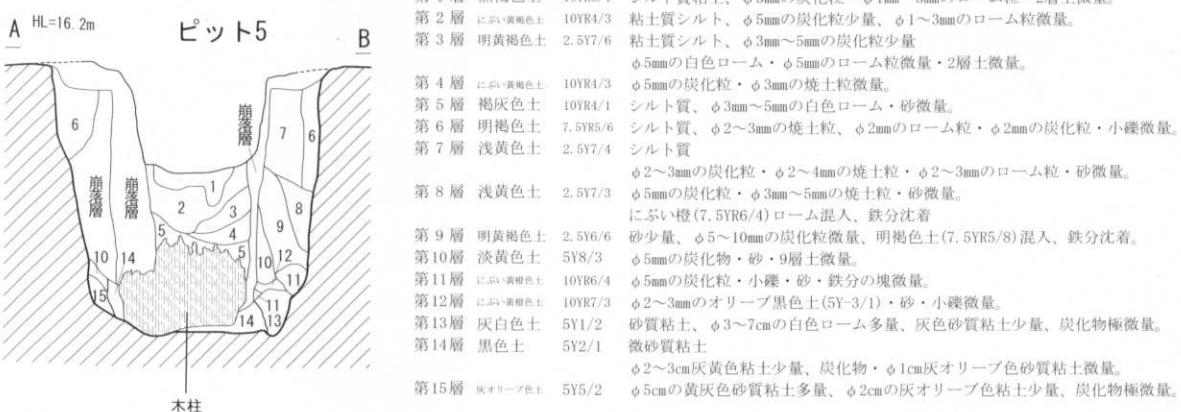
ピット3	
第1層	黑色土
第2層	黒褐色土
第3層	灰色土
第4層	灰褐色土
第5層	黄色土
第6層	褐色土
第7層	黄色土
第8層	灰白色土
第9層	灰白色土
第10層	オーブ黄色土
第11層	褐色土
第12層	黄色土
第13層	にふい黃褐色土
第14層	灰色土
第15層	黑色土

0 (S=1/50) 2m

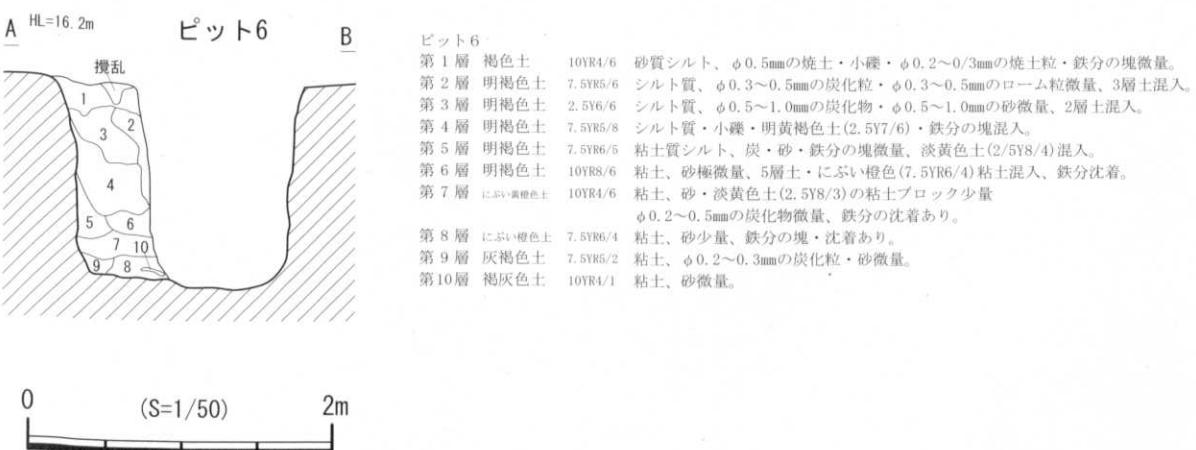
2図 第26号掘立柱建物跡(2)



ピット4	
第1層	黒褐色土
10YR3/2	シルト質、 ϕ 1~10mmの炭化物粒・ ϕ 1mmの焼土粒微量。
第2層	にぶい黄褐色土
10YR4/3	シルト質砂、 ϕ 1~7mmの炭化物微量。
第3層	にぶい黄褐色土
10YR6/4	シルト質砂、ガラス質の粒(ϕ 1~2mm)を含む。
第3'層	にぶい黄褐色土
10YR6/4	シルト質砂、ガラス質の粒(ϕ 1~2mm)を含む。
第4層	明黄褐色土
7.5YR5/6	粘質シルト、 ϕ 1~5mmの炭化物少量。
第5層	褐色土
7.5YR4/6	粘質シルト、 ϕ 1~5mmの炭化物少量、 ϕ 1~2mmの焼土粒微量。
第6層	灰黄褐色土
10YR5/2	粘質シルト、 ϕ 1~5mmの炭化物少量。
第7層	灰黄色土
2.5YR6/2	粘質シルト、 ϕ 1~3mmの炭化物微量。
第8層	明黄褐色土
10YR6/6	シルト質砂、 ϕ 1~10mmの炭化物微量・ ϕ 1mmの焼土粒微量。
第9層	にぶい黄褐色土
10YR6/4	砂質シルト。
第10層	褐色土
10YR4/6	粘質シルト、 ϕ 1~2mmの炭化物微量。
第11層	明黄褐色土
10YR6/6	粘質シルト。
第12層	黒褐色土
10YR3/2	粘質シルト、 ϕ 1~5mmの炭化物中量、 ϕ 1~5ミリの焼土粒微量。
第13層	にぶい黄褐色土
10YR4/3	シルト質砂、 ϕ 1~5mmの炭化物中量、 ϕ 1から10mmの焼土粒微量。
第14層	にぶい黄褐色土
10YR5/3	粘質シルト、 ϕ 1~5mmの炭化物少量、 ϕ 1~2mmの焼土粒微量。
第15層	灰黄褐色土
10YR5/2	シルト質粘土、 ϕ 1~3mmの炭化物少量、 ϕ 1~3mmの焼土粒微量。
第16層	にぶい黄褐色土
10YR6/4	ϕ 1mmの炭化物微量。
第17層	にぶい黄褐色土
10YR6/4	
第18層	
第19層	

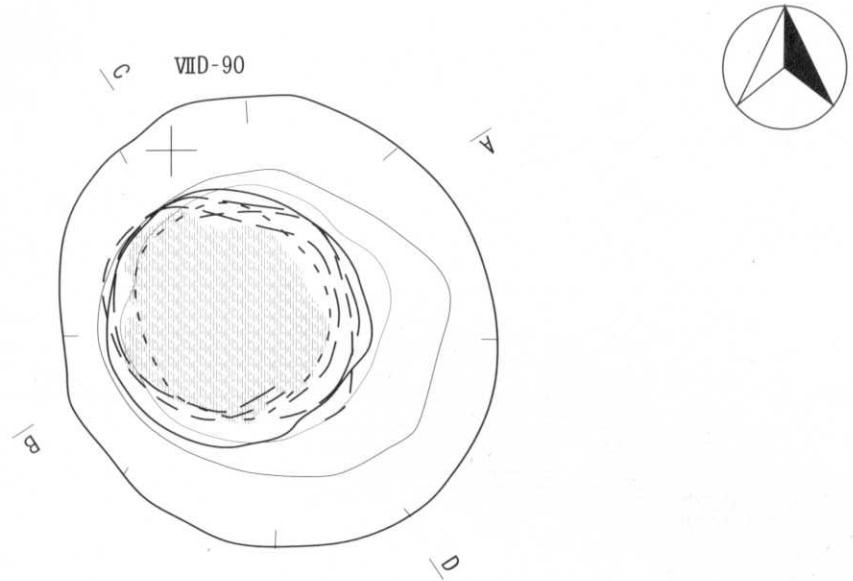


ピット5	
第1層	黒褐色土
10YR3/1	シルト質粘土、 ϕ 3mmの炭化物・ ϕ 1mm~3mmのローム粒・2層土微量。
第2層	にぶい黄褐色土
10YR4/3	粘土質シルト、 ϕ 5mmの炭化物少量、 ϕ 1~3mmのローム粒微量。
第3層	明黄褐色土
2.5Y7/6	粘土質シルト、 ϕ 3mm~5mmの炭化物少量 ϕ 5mmの白色ローム・ ϕ 5mmのローム粒微量・2層土微量。
第4層	にぶい黄褐色土
10YR4/3	ϕ 5mmの炭化物・ ϕ 3mmの焼土粒微量。
第5層	褐色土
10YR4/1	シルト質、 ϕ 3mm~5mmの白色ローム。
第6層	明褐色土
7.5YR5/6	シルト質、 ϕ 2~3mmの焼土粒、 ϕ 2mmのローム粒・ ϕ 2mmの炭化物・小礫微量。
第7層	浅黄色土
2.5Y7/4	シルト質 ϕ 2~3mmの炭化物・ ϕ 2~4mmの焼土粒・ ϕ 2~3mmのローム粒・砂微量。 ϕ 5mmの炭化物・ ϕ 3mm~5mmの焼土粒・砂微量。
第8層	浅黄色土
2.5Y7/3	ϕ 5mmの炭化物・ ϕ 3mm~5mmの焼土粒・砂微量。 にぶい橙(7.5YR6/4)ローム混入、鉄分沈着。
第9層	明黄褐色土
2.5Y6/6	砂少量、 ϕ 5~10mmの炭化物微量、明褐色土(7.5YR5/8)混入、鉄分沈着。
第10層	淡黄色土
5Y8/3	ϕ 5mmの炭化物・砂・9層土微量。
第11層	にぶい黄褐色土
10YR6/4	ϕ 5mmの炭化物・小礫・砂・鉄分の塊微量。
第12層	にぶい黄褐色土
10YR7/3	ϕ 2~3mmのオリーブ黒色土(5Y-3/1)・砂・小礫微量。
第13層	灰白色土
5Y1/2	砂質粘土、 ϕ 3~7cmの白色ローム多量、灰色砂質粘土少量、炭化物極微量。
第14層	黒色土
5Y2/1	微砂質粘土 ϕ 2~3cm灰黄色粘土少量、炭化物・ ϕ 1cm灰オリーブ色砂質粘土微量。 ϕ 5cmの黄灰色砂質粘土多量、 ϕ 2cmの灰オリーブ色粘土少量、炭化物極微量。
第15層	灰オリーブ色土
5Y5/2	

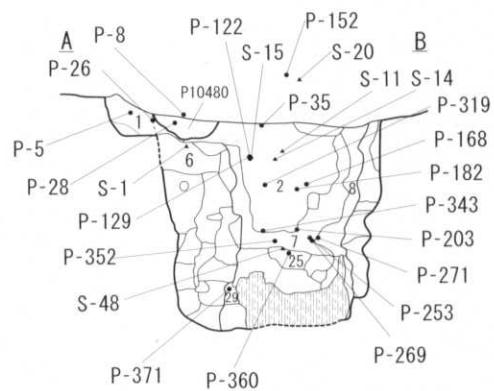
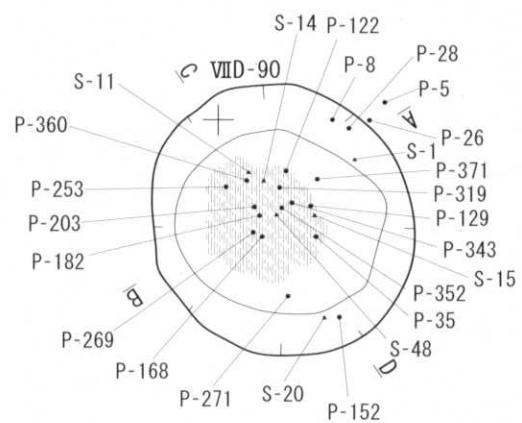


ピット6	
第1層	褐色土
10YR4/6	砂質シルト、 ϕ 0.5mmの焼土・小礫・ ϕ 0.2~0.3mmの焼土粒・鉄分の塊微量。
第2層	明褐色土
7.5YR5/6	シルト質、 ϕ 0.3~0.5mmの炭化物・ ϕ 0.3~0.5mmのローム粒微量、3層土混入。
第3層	明褐色土
2.5Y6/6	シルト質、 ϕ 0.5~1.0mmの炭化物・ ϕ 0.5~1.0mmの砂微量、2層土混入。
第4層	明褐色土
7.5YR5/8	シルト質・小礫・明黄褐色土(2.5Y7/6)・鉄分の塊混入。
第5層	明褐色土
7.5YR6/5	粘土質シルト、炭・砂・鉄分の塊微量、淡黄色土(2.5Y8/4)混入。
第6層	明褐色土
10YR8/6	粘土・砂極微量、5層土・にぶい橙色(7.5YR6/4)粘土混入、鉄分沈着。
第7層	にぶい黄褐色土
10YR4/6	粘土・砂・淡黄色土(2.5Y8/3)の粘土ブロック少量 ϕ 0.2~0.5mmの炭化物微量、鉄分の沈着あり。
第8層	にぶい褐色土
7.5YR6/4	粘土・砂少量、鉄分の塊・沈着あり。
第9層	灰褐色土
7.5YR5/2	粘土・ ϕ 0.2~0.3mmの炭化物微量・砂微量。
第10層	褐色土
10YR4/1	粘土・砂微量。

3図 第26号掘立柱建物跡 (3)

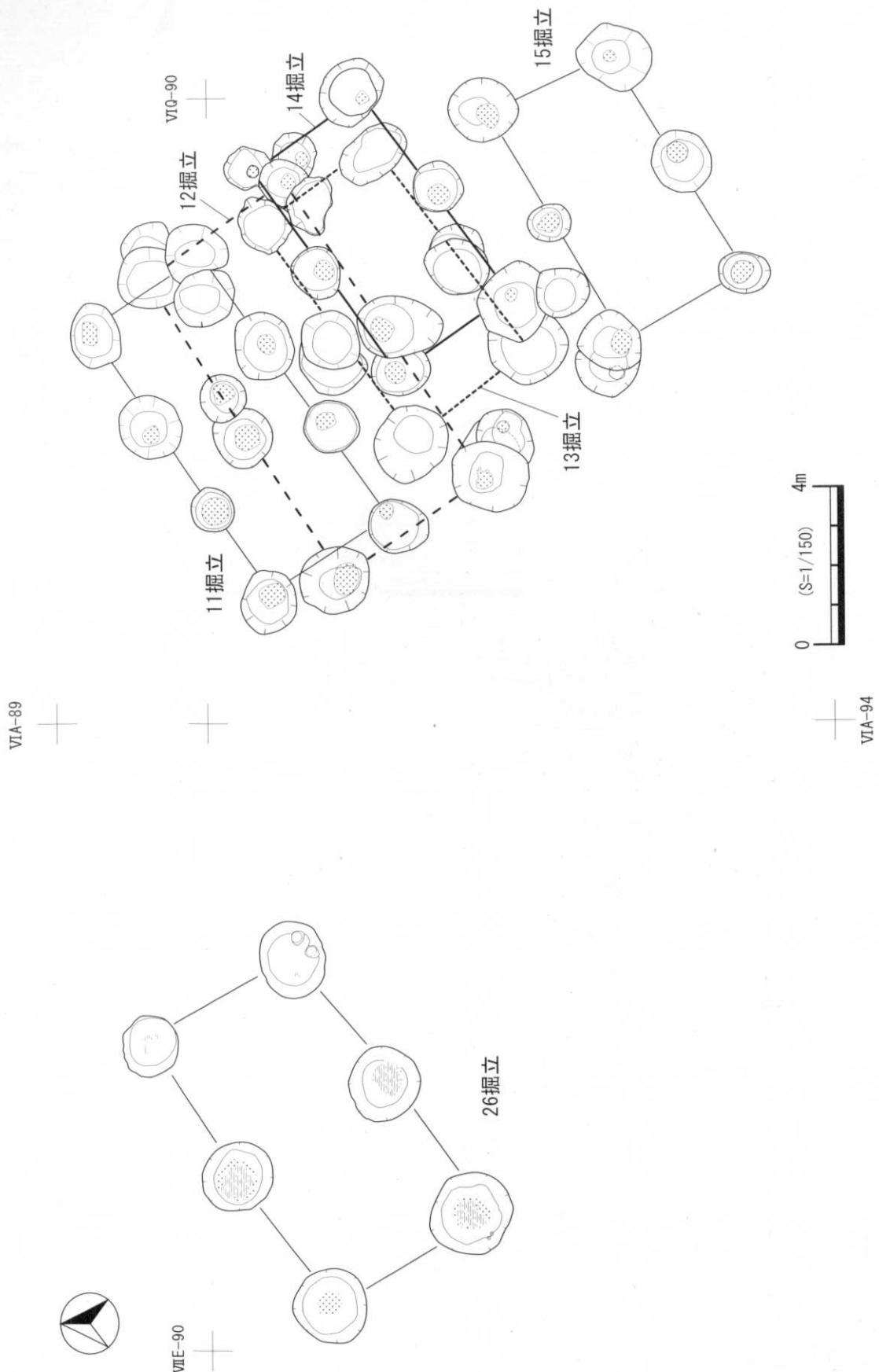


0 (S=1/30) 2m



0 (S=1/50) 2m

4図 第26号掘立柱建物跡 (4)



5図 第11～15号・第26号掘立柱建物跡

[柱間寸法] 柱・梁方向とも4.2mである。

[出土遺物]

ピット1

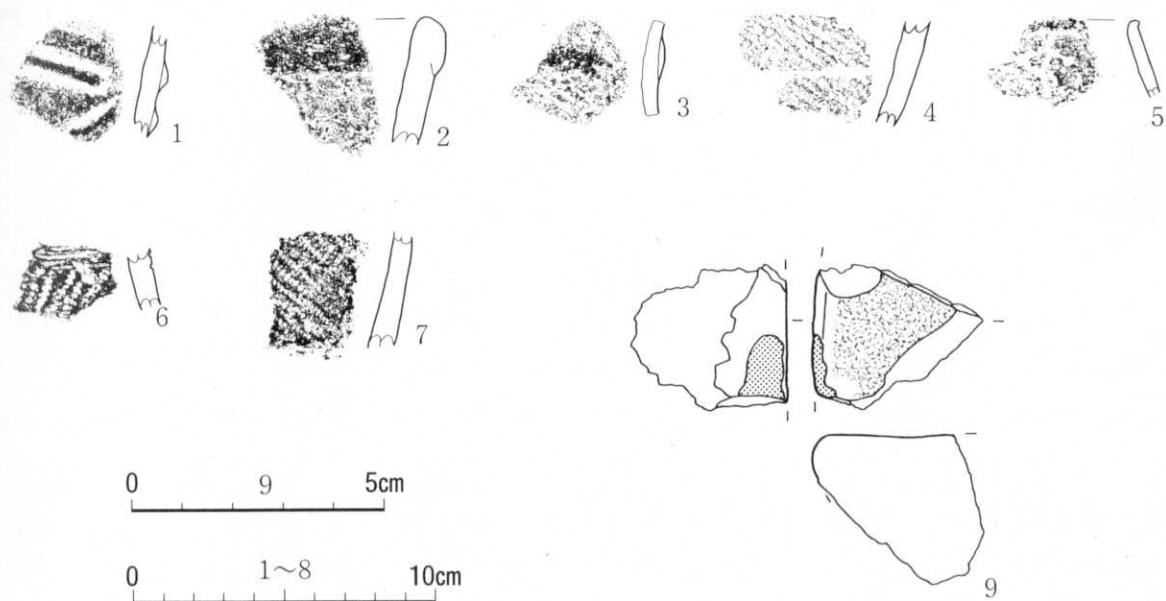
土器は柱の埋め土に相当する第4・8・14層からIII群4・6・8類が出土した。

6図1は貼付文様が施された胴部片である。2は折り返し状の口縁を呈する破片で、胎土・焼成はIII群8類のものである。3は円筒上層式の破片で、貼付文様の存在が確認できる。

柱痕部に相当する第2層からはIII群6・9・11類が出土した。

5は無文の口縁部で、III群9類の広口壺の破片と考えられる。6、7は縦位の単節斜縄文が認められる胴部破片である。

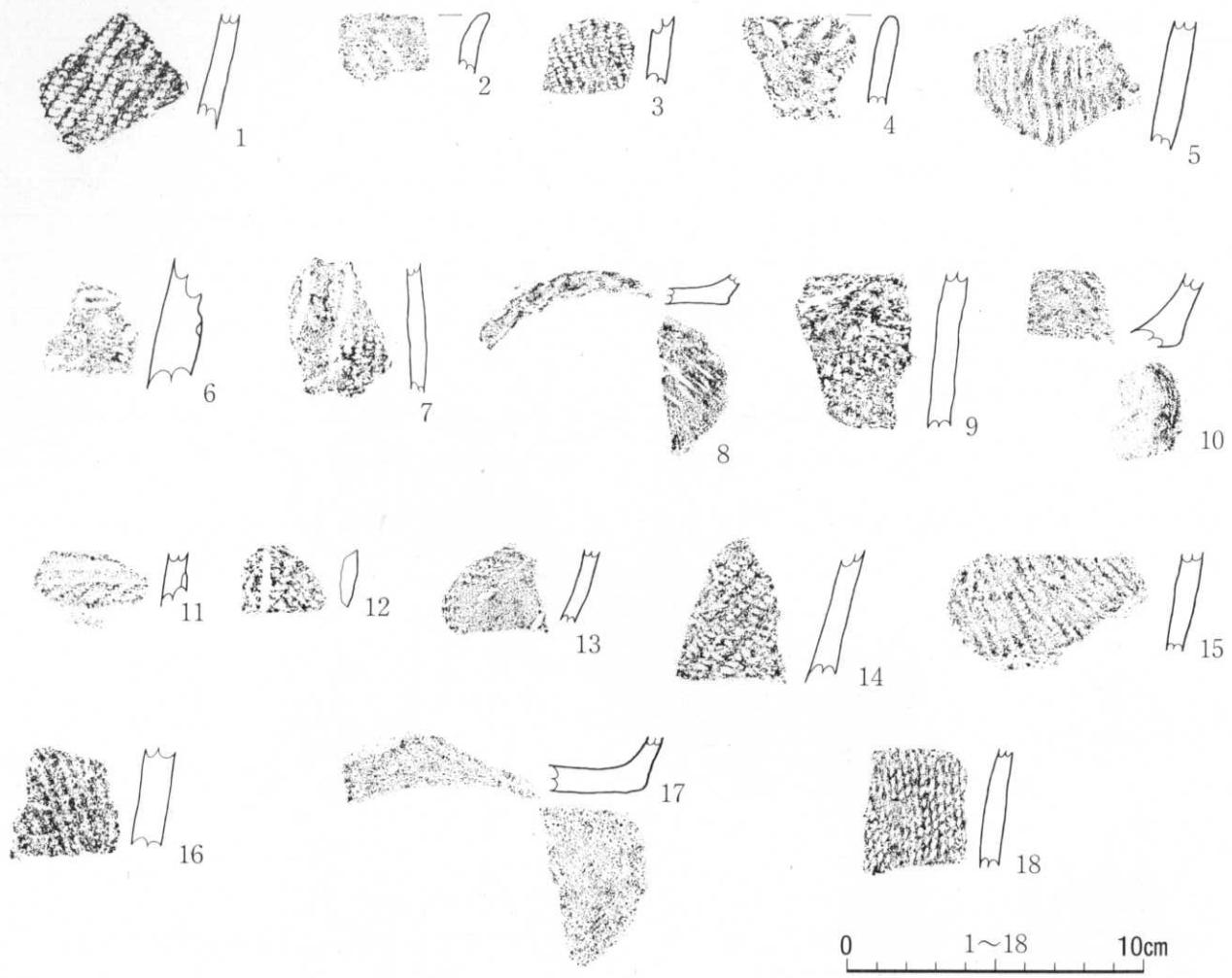
石器は石皿の一部と考えられるもの1点を図示した。安山岩製で、上面は良く磨られている。側面にみられる敲打痕は二次利用によるものと思われる。図示したもの以外では石皿の小破片や磨製石斧の小破片、剥片、被熱痕のある礫、礫の破片などがみられる。(集合写真参照)。



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 横			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	26掘立ピット1	14		貼付		不明		III-4	P-33	FP3
2	"	8	折返口縁						P-93	FP10
3	"	4		貼付斜縄文(RL)		剥離		III-6	P-19	FP1
4	"	2		RL		不明		III-6	P-24	FP2
5	"	2	無文			ミガキ		III-9	広口壺口縁部	P-64
6	"	2		RL、沈線		ミガキ		III-11	P-44	FP4
7	"	2			RL	ミガキ		III-11	P-42	FP5

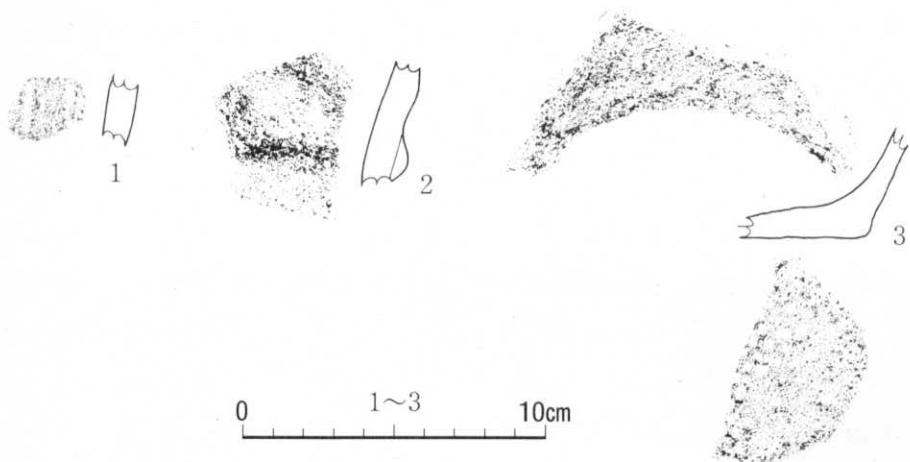
番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備 考	整理番号
9	26掘立ピット1	フク土	(58)	(68)	(60)	(223.4)	安	L	I b	S-1 50141

6図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 標			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	26掘立ピット2	2			RL	ミガキ		III-11	P-71	FP7
2	"	26		RL		ミガキ		III-11	P-360	FP28
3	"	24		LR		ミガキ		III-11	P-371	FP29
4	"	14	RL押			ミガキ		III-5	P-271	FP24
5	"	7		R単絡1		不明		II-6	P-352	FP27
6	"	7		沈線、R押、刺突		ミガキ		III-3	P-343	FP26
7	"	7		沈線、RL		ミガキ		III-10	炭(内外面)P-269	FP23
8	"	7				ミガキ	沈線?	III-6・11	P-253	FP22
9	"	2	R結回	RLR		ミガキ		II-2	織維混入	P-28
10	"	2				不明	不明	III-6・11	P-203	FP21
11	"	2		LR、貼(LR?)		不明		III-4	P-35	FP15
12	"	2		RL、沈線		不明		III-8・9	P-8	FP12
13	"	2		沈線、LR		ミガキ		III-10	P-168	FP19
14	"	2			RL	ミガキ		III-11	P-122	FP16
15	"	2			LR	ミガキ		III-11	P-182	FP20
16	"	2			RL?	ミガキ		III-11	P-319	FP25
17	"	2				不明	不明	III-11	P-129	FP17
18	"	1		L単絡1		ミガキ		II-6	P-5	FP11

7図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (2)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 樣			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	26掘立ピット2	1			斜縫文(LR)、沈線	不明		III-8・9	P-26	FP13
2	"	—		貼付		不明		III-6	P-152	FP18
3	"	"				不明	網代痕	III-11		FP81

8図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (3)

ピット2

土器は柱痕部からⅡ群2類、Ⅲ群3～6・8～11類が出土した。

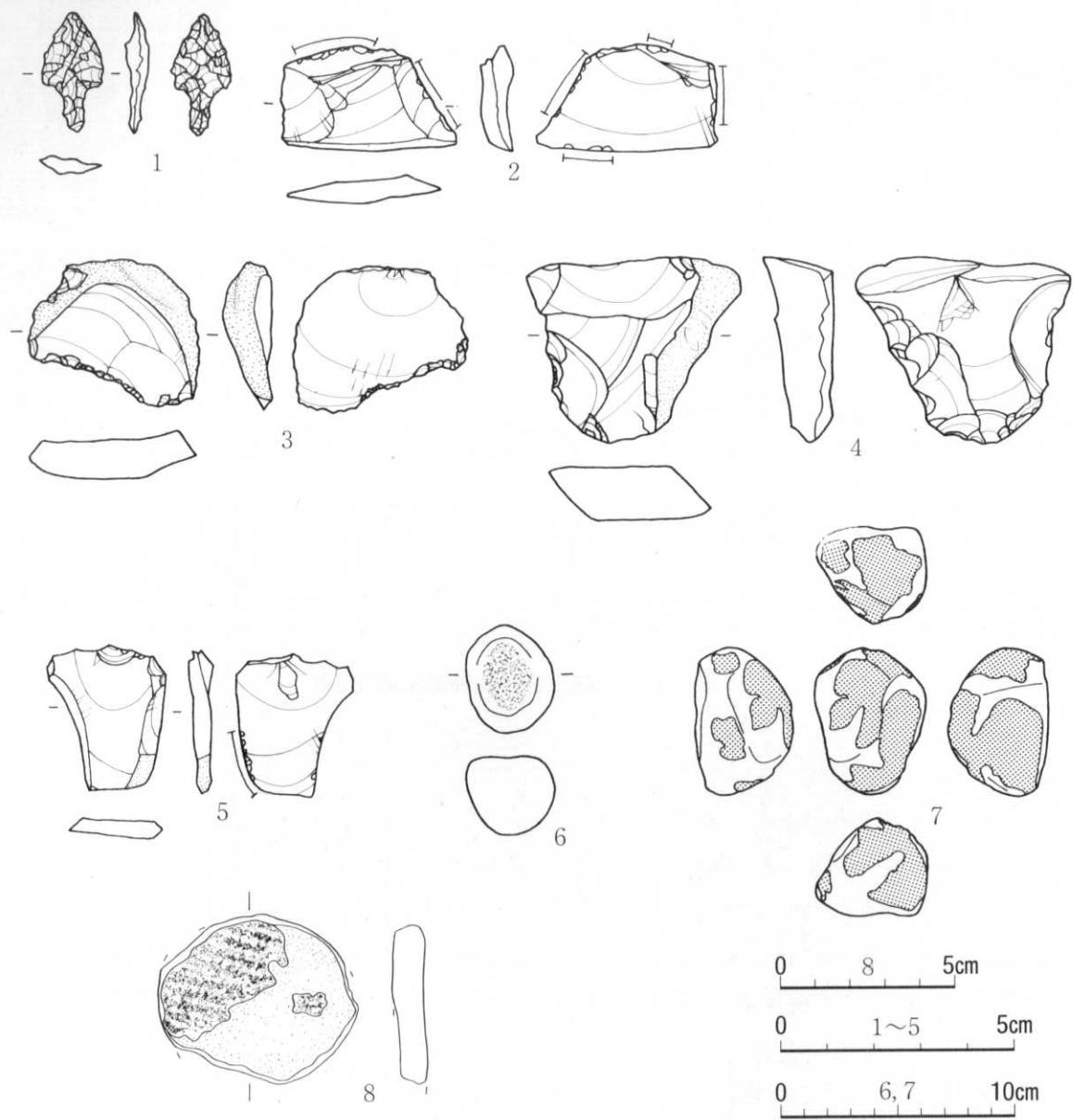
7図4、8、7図6は胎土に纖維を含む破片で、8は円筒下層式前半期、6は後半期に属するものと思われる。7図5は半円形の刺突が施された厚手の破片で、Ⅲ群3類に分類される。7図10は縄文地文上に貼付がなされた破片で、Ⅲ群4類の特徴を持つ。7図3はヘラ状工具による刻みが施される口縁部で、Ⅲ群5類である。

7図1は外反する口縁部に沈線が施されており、縄文中期後半に属する破片である。7図1、3、7図14～16は縦位の単節斜縄文が施される胴部片で、同じく縄文中期後半に属する。7図12、8図1は縄文地文に縦方向の沈線が重なる縄文中期後半の破片で、Ⅲ群11類である。7図7は、沈線区画文内に縄文が充填施文された胴部片で、Ⅲ群10類である。

7図8、10、17、8図3、9はⅢ群11類の底部破片である。7図8は外面に赤色顔料が残存し、底面には細い工具による磨き傷が見られる。8図3の底面には網代編みの圧痕が残る。

石器は、石鏸、Rフレイク、Uフレイク、磨痕のある礫、敲打痕のある礫の7点を図示した。9図2～6は柱痕部から出土したものである。9図3、4、5には礫表皮が残存し、4の剥離は非常に粗いものである。9図7は親指～中指で支えて用いるのに丁度良い大きさ・形状で、ほぼ全面に敲打痕がみられる。図示したもの以外では剥片、被熱痕のある剥片、礫、礫の破片、被熱痕のある礫などがみられる（集合写真参照）。

また、ピット2の堆積土から土器片利用円盤が1点出土した（9図8）。一部欠損しており、摩滅が激しい。土器片を利用したもので、縁辺部を打ち欠き後に擦って成形している。



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
1	26掘立ビット2	—	26	13	5	1.1	珪質	A a	S-1	55378
2	"	2	23	39	7	6.0	珪質	G c	S-14	55383
3	"	7	31	38	11	11.5	珪質	G c	S-11	55389
4	"	25	40	46	15	20.9	珪質	G b	S-48	55393
5	"	7	31	26	5	2.5	珪質	G c	S-35	55390
6	"	2	46	38	34	75.7	安	I c	S-15	55420
7	"	—	63	47	42	149.0	安	I b	S-20	55410

番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	表面	裏面	種類	備考	整理番号
8	26掘立ビット2	14	(50)	(10)	(26.2)	RL		土器片利用円盤	P-273	7305

9図 第26号掘立柱建物跡出土遺物(4)

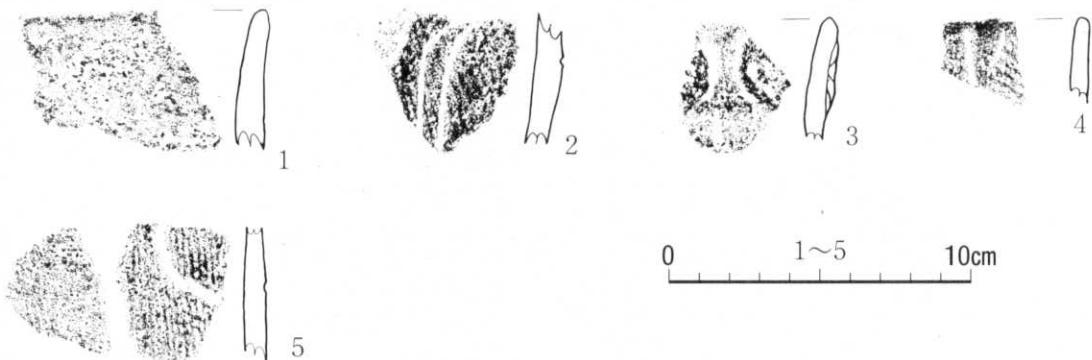
ピット3

土器は底面からⅢ群11類、柱痕部からⅢ群7、9～11類が出土した。

11図11は、細い貼付による区画文様が施された厚手の破片で、Ⅲ群7類である。10図2は、縄文地文上に沈線が施される胴部片である。二本組み沈線による逆U字または波状のモチーフであったと思われ、Ⅲ群9類に分類される。

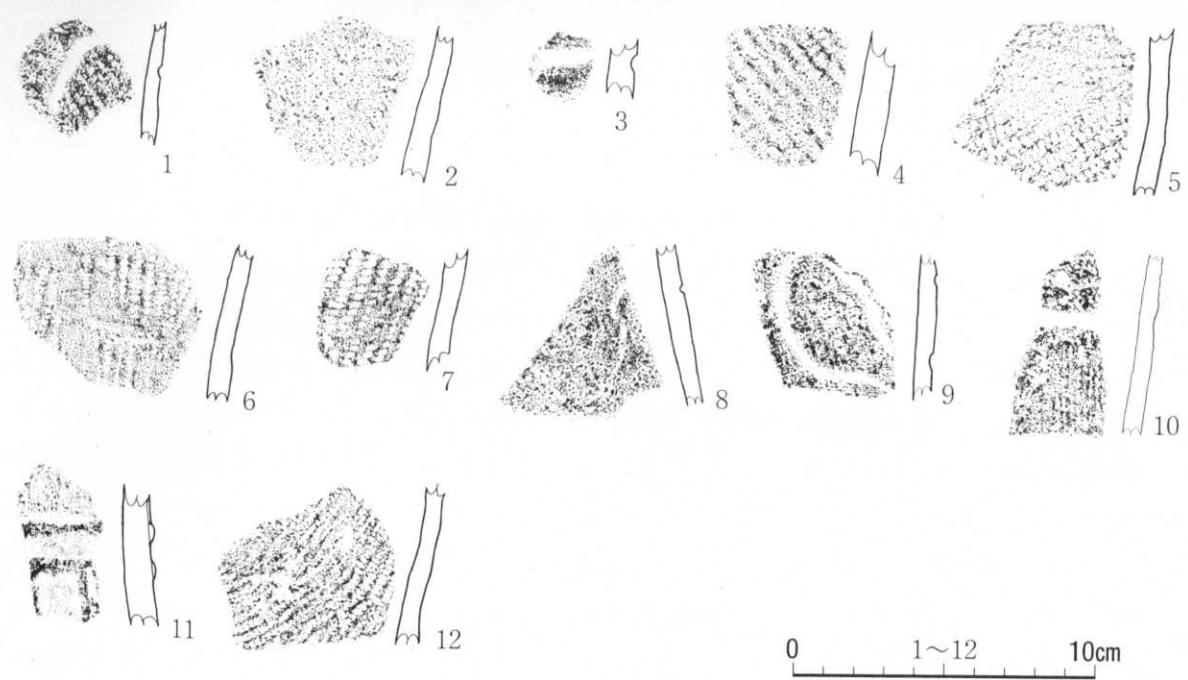
10図4、5は、縄文地文上に沈線が施される破片である。4の沈線は口縁から垂下し、Ⅲ群10類に分類できる。11図1はいわゆる磨消縄文の破片で、Ⅲ群10類である。10図3はヒレ状の貼付装飾が施された口縁部破片で、Ⅲ群10類である。11図3、8、9は沈線のみが施された破片で、Ⅲ群11類に分類される。10図1は縄文の回転施文が施される破片であるが、摩滅が激しいため原体種は不明である。11図6、7は縦位、4、12は斜位の縄文のみが施された胴部片である。

石器は、石槍とRフレイク、Uフレイク、敲打痕のある礫、砥石の5点を図示した。12図1、2、3は柱痕部からの出土である。12図9は石籠に似た形状であるが、尖り気味の上端部と器体の薄さから無茎石槍と判断したものである。12図2には被熱によるハジケが観察される。12図5の砂岩製の砥石は全面によく使い込まれたもので、断面の屈曲度合いからすると磨製石斧や石棒等の整形に用いられたものかと推定される。図示したもの以外では剥片、被熱痕のある剥片、礫、礫の破片、被熱痕のある礫などがみられる（集合写真参照）。



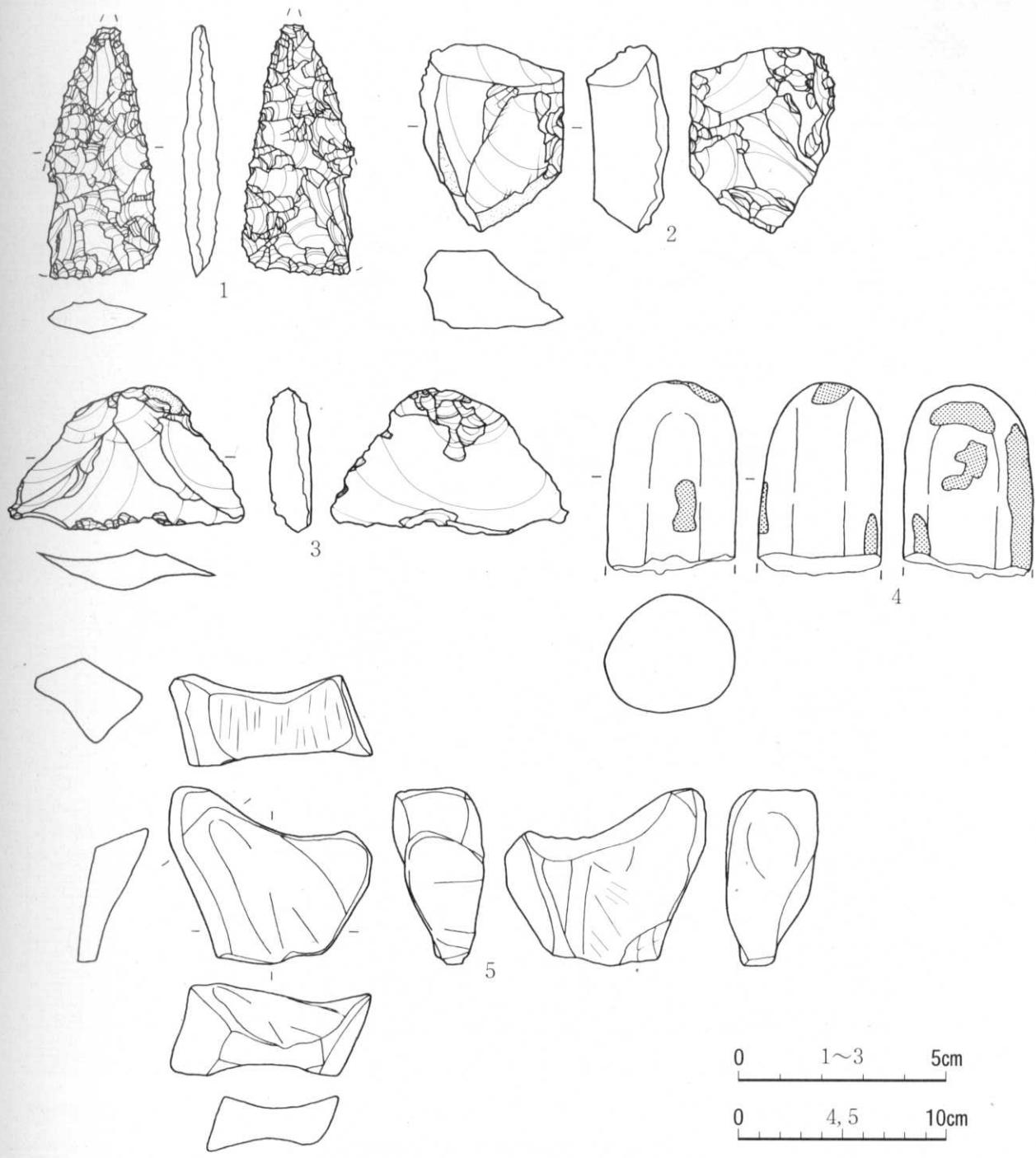
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	26掘立柱建物跡	底面	斜行縄文(LR?)	斜行縄文(LR?)		不明		III-11	摩滅激しい、P-17	FP31
2	"	2		RL、沈線		ミガキ		III-7	P-202	FP45
3	"	2	ヒレ状貼付(刺突)	沈線		不明		III-10	P-211	FP46
4	"	2	沈線、RL			ミガキ		III-10	P-168	FP41
5	"	2		R單絡1、沈線				III-10	P-75	FP33

10図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (5)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 樣			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胸部上半	胸部下半					
1	2G掘立ビット3	2		磨消(沈線、RL)		ミガキ		III-10	P-229	FP48
2	"	2		斜行繩文(LR?)		ミガキ		III-11	P-127	FP37
3	"	2	沈線			ミガキ		III-11	P-139	FP38
4	"	2	LR			ミガキ		III-11	P-144	FP39
5	"	2	LR, LR押			ミガキ		III-11	P-154	FP40
6	"	2		RL		ミガキ		III-11	P-175	FP42
7	"	2	RL			ミガキ		III-11	P-191	FP44
8	"	1	波状沈線			不明		III-10	P-116	FP34
9	"	1	斜行繩文、沈線			ミガキ		III-10	P-117	FP36
10	"	1		単絡1		ミガキ		III-11	P-116	FP35
11	"	フク土	貼付			不明		III-6	全体摩滅	FP75
12	"	"		LR		ミガキ		IV-11	P-224	FP47

11図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (6)



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
1	26掘立ピット3	2	62	(22)	9	(15.8)	珪質	E	S-9	52280
2	"	2	45	35	20	30.3	珪質	G b	S-15	51691
3	"	フク土	35	52	11	14.0	珪質	G c		50089
4	"	フク土	(94)	63	60	(503.7)	凝	I b		50158
5	"	2	(86)	98	44	(239.8)	砂	S	S-19	52356

12図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (7)

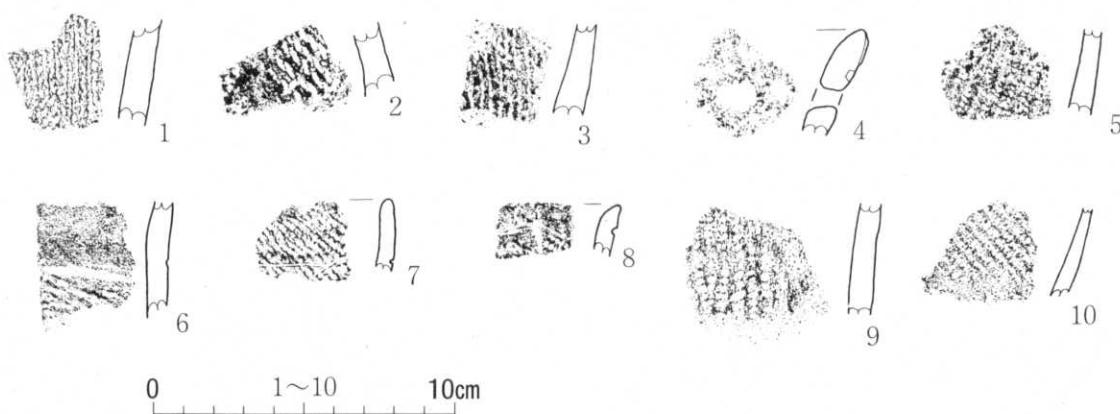
ピット4

土器は柱痕部に相当する13層からⅡ群6類、Ⅲ群3・9～11類が出土した。

13図1～3は単軸絡条体が縦位に回転施文される胴部片で、円筒下層式の後半期にあたる破片と思われる。4は貼付、棒状工具による刺突、楕円孔が見られる弁状突起の破片で、Ⅲ群3類である。

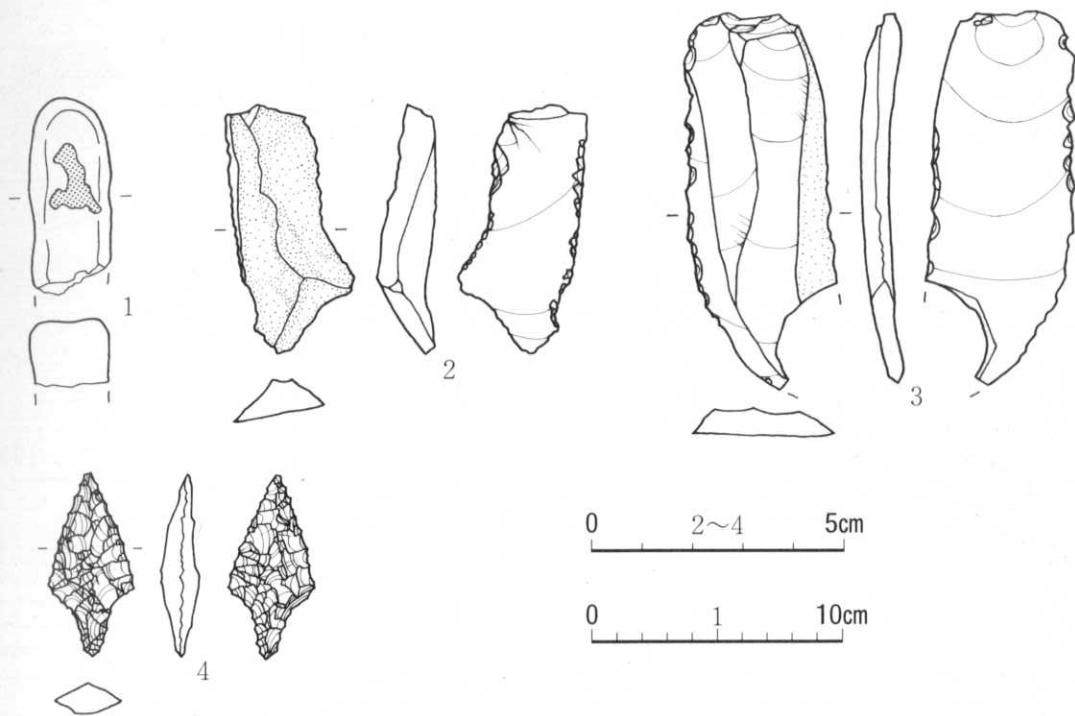
13図5、9、10は縄文のみが施された胴部片で、胎土、色調等からⅢ群11類に分類される。13図6～8はいわゆる磨消文様が施されたⅢ群10類の破片である。

石器は、敲打痕のある礫、Uフレイク、石鏃の4点を図示した。14図1～3は柱痕部からの出土である。14図3は縦長剥片の両サイドが刃部として機能している。図示したもの以外では剥片、被熱痕のある剥片、礫、礫の破片、被熱痕のある礫などがみられる（集合写真参照）。



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	26掘立ピット4	13		L・R单絡1a?		ミガキ		II-6	P-41	FP50
2	"	13			L单絡1	ミガキ		II-6	P-69	FP53
3	"	13		RL	R单絡	不明		II-6	全体摩滅 P-79	FP55
4	"	13	突起(貼付、刺突)			不明		III-3	全体摩滅 P-71	FP54
5	"	13			LR	ミガキ		III-6・11	P-80	FP56
6	"	13		磨消(LR、沈線)		ミガキ		III-10	P-96	FP58
7	"	13	LR、沈線			ミガキ		III-10	P-83	FP57
8	"	13	LR、沈線			不明		III-10	P-37	FP49
9	"	13		RL		ミガキ		III-11	P-57	FP51
10	"	13		RL		ミガキ		III-11	P-67	FP52

13図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (8)



番号	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	分類	備考	整理番号
1	26掘立ピット4	13	(79)	33	(27)	(106.8)	凝	I b	S-8	55458
2	"	13	50	25	11	8.5	珪質	G c	S-4	55400
3	"	13	(74)	(30)	8	(15.0)	珪質	G c	S-76	55405
4	"	8	37	17	8	3.0	珪質	A b	S-1	52281

14図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (9)

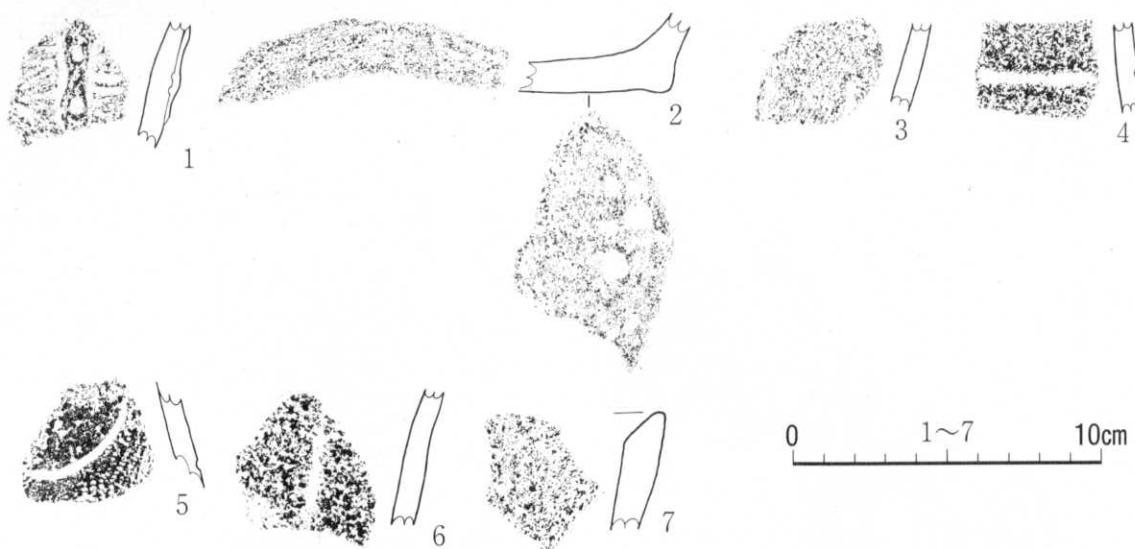
ピット 5

土器は堆積土からIII群5・10・11類が出土した。

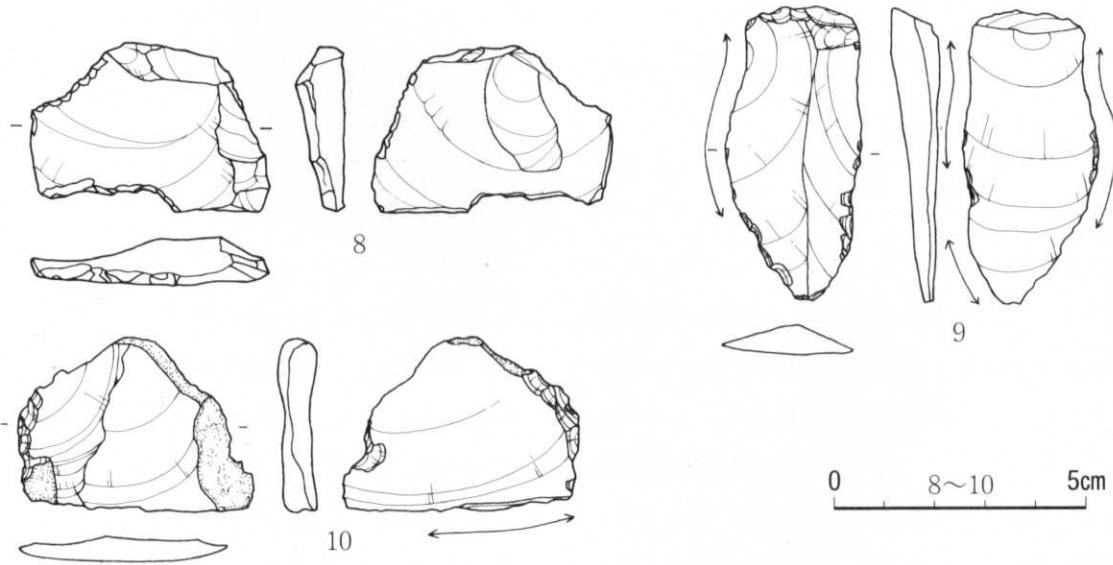
15図1は沈線による弧状文と、指頭押圧を伴う貼付帯が施されるIII群5類の胴部片である。15図3、4は沈線のみ残存する破片で、III群11類に分類される。5、6はいわゆる磨消文様が施され、III群10類に相当する。7は器面の磨耗が激しいため全く文様が残存しないが、口縁の断面形状からIII群11類とした。

石器は、Rフレイク、Uフレイク、凹の発達した敲打痕のある礫、石皿（？）の6点を図示した。15図9は縦長剥片の両サイドが刃部として機能している。16図3の剥離は非常に粗いものであるが、厚手の刃部として利用されている。図示したもの以外では剥片、敲打痕のある礫の破片、角柱状の礫の破片、礫の破片、被熱痕のある礫などがみられる（集合写真参照）。

ほかにピット5の堀方下部より、焼成粘土塊が1点出土している。直径3cmほどの粘土塊2つを接合した状態で焼成したとみられ、接合痕が明瞭である。焼成不良のため灰白色を呈し、粘土中には炭化物が混入している。表面には指跡がみられる。

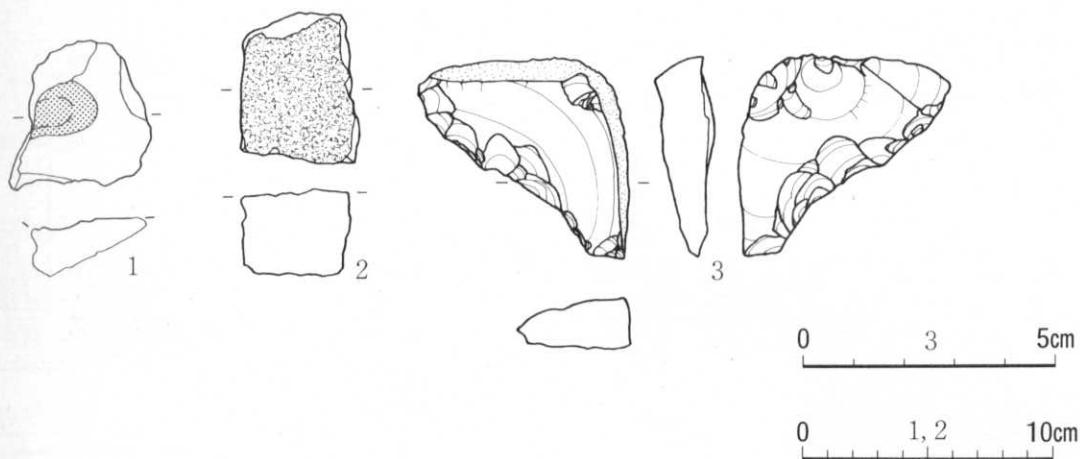


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 樣			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	26掘立ピット5	フク土		貼付(指頭印), 沈線		ミガキ		III-5		FP59
2	"	フク土			不明	網代痕?	不明	III-11	器面磨磨	FP62
3	"	フク土		沈線				III-9・10	器面磨磨	FP64
4	"	フク土		沈線、斜行繩文		不明		III-11	器面磨磨	FP61
5	"	フク土		RL、沈線		ミガキ		III-10		FP60
6	"	フク土		沈線、斜行繩文	RL	ミガキ		III-9・10	器面磨磨	FP65
7	"	フク土	器面磨磨					III-10		FP63

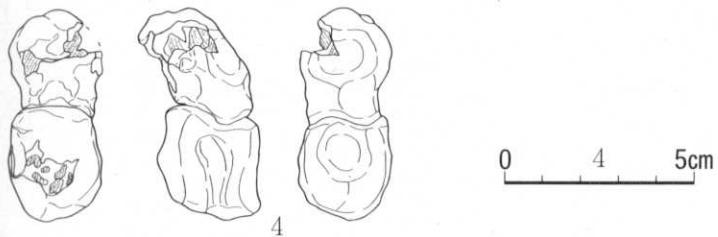


番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備 考	整理番号
8	26掘立ピット5	フク土	33	48	10	11.5	珪頁	G b・G c		40391
9	"	フク土	59	27	10	11.0	珪頁	G c		40370
10	"	フク土	55	47	8	13.2	珪頁	G b		50093

15図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (10)



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
1	26掘立ピット5	フク土	(59)	(57)	(25)	(55.2)	凝	I a		50178
2	"	フク土	(60)	(48)	(36)	(98.8)	凝	L		50180
3	"	フク土	40	42	15	16.5	珪質	G b		40394



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	表面	裏面	種類	備考	整理番号
4	26掘立ピット5	掘方下部	(57)	(32)	(29.3)	指跡		焼成粘土塊	W-1	7303

16図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (11)

ピット6

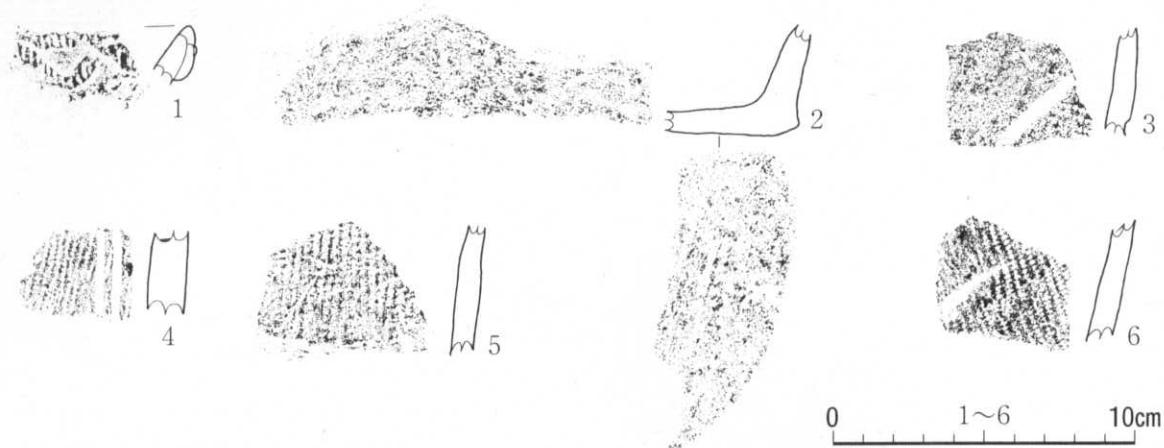
柱の埋め土に相当する4層からIII群3類が、堆積土全体からIII群6・8~11類が出土した。

17図5は、コイル状の縄文原体が縦位施文された胴部片で、胎土には纖維が混入される。II群6類である。17図1は、ヘラ刻みを伴う波状の貼付文様が施される口縁部片で、III群3類と考えられる。

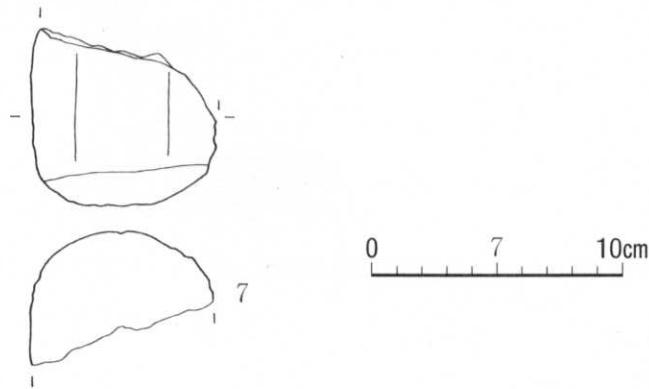
4は縄文を縦位施文したのち沈線が施された胴部片で、III群9類である。

12は磨消縄文モチーフの胴部破片で、III群10類に分類される。2は全体の磨耗が激しく判別が難しいが、底面に網代圧痕と思われる痕跡が認められる。

石器は、石棒1点を図示した(17図7)。全面が整形され、一部には被熱による黒化範囲が観察される。図示したもの以外では剥片、礫、礫の破片などがみられる(集合写真参照)。



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 樣			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	26掘立ピット6	4	貼付(ヘラ刻み)			ミガキ		III-3	P-43	FP70
2	〃	フク土				不明	網代痕?	III-11		FP80
3	〃	フク土		沈線、LR		不明		II-10		FP71
4	〃	底面						III-8・9	P-39	FP69
5	〃	底面		L単絡(コイル)				II-6	纖維混入	P-38 FP68
6	〃	底面		RL		ミガキ		III-11	P-37	FP67

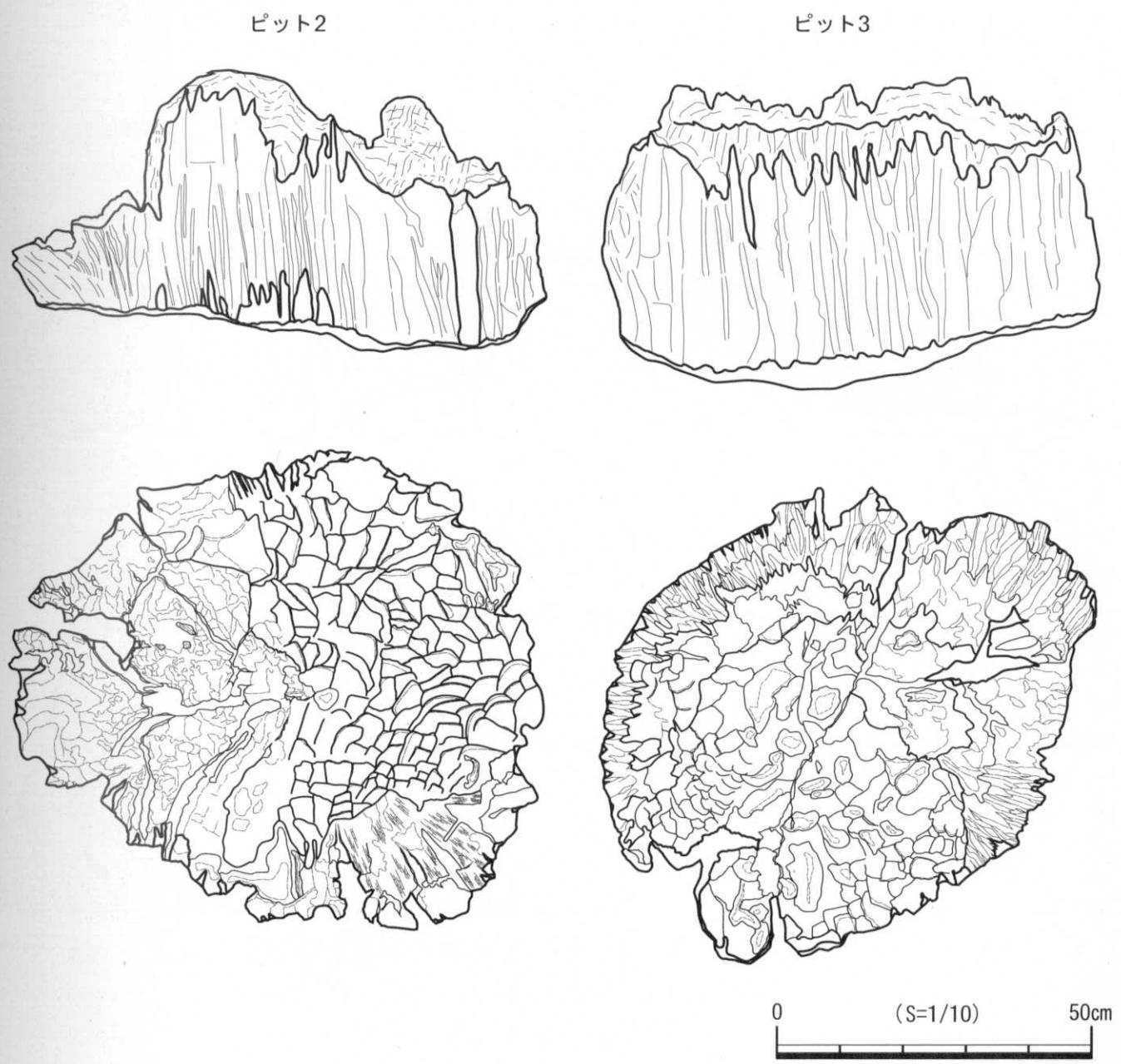


番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備 考	整理番号
7	26掘立ピット6	—	(71)	(75)	(58)	(279.9)	凝	M a		55463

〔時期〕 遺構の時期を決定できる遺物はわずかである。ピット3・6底面から大木式系の土器が出土したことから、中期後半期に位置づけることができる。放射性炭素年代測定結果からも同様の年代が得られている。

(岡田、木村、中村、木村、小笠原、秦、水谷)

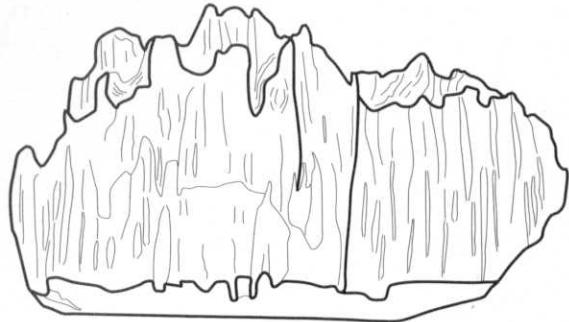
17図 第26号掘立柱建物跡出土遺物 (12)



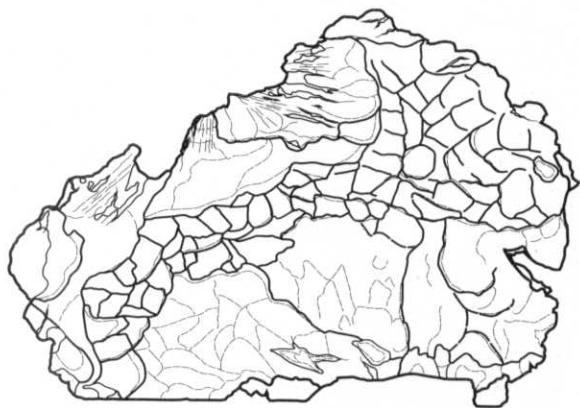
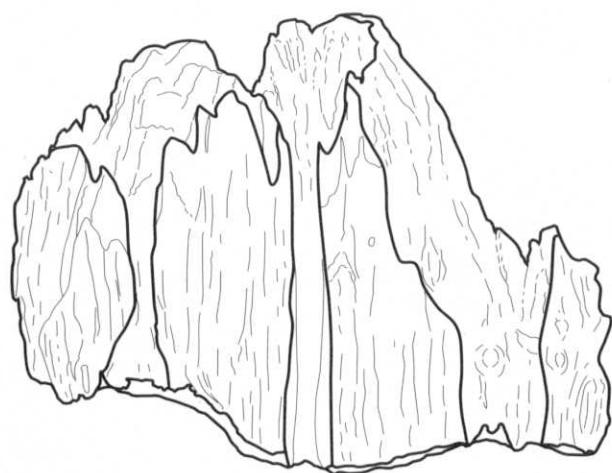
出土位置	残存長径(cm)	残存短径(cm)	残存高(cm)	樹種
ピット 2	85	76	45	クリ
ピット 3	86	79	50	クリ

18図 第26号掘立柱建物跡出土木柱 (1)

ピット4



ピット5



0 (S=1/10) 50cm

	残存長径(cm)	残存短径(cm)	残存高(cm)	樹種
ピット4	76	53	42	クリ
ピット5	77	71	61	クリ

19図 第26号掘立柱建物跡出土木柱 (2)

第8節 南盛土

1. 調査の経緯と方法

(1) 調査の経緯

南盛土は旧野球場内に位置し、平成5年度にその存在を確認した。トレンチ調査を行い、厚さや範囲の確認に努めた。平成6年8月に発掘調査の中止と遺跡の保存が決定して以来、調査体制は縮小し、精査途中の遺構の完掘と、今後の整備に向けた調査が目的となった。南盛土はトレンチ内に入り見学できるよう整備することとなり、幅約1mだった1・4トレンチを見学者に対応できるよう50cm拡張することとした。また、両トレンチの間の1m四方のブロック（「ポイント4」と呼称）を取り除き、長さ約17mのトンネル状に見学通路を設けることとした。本報告はトレンチを拡張した際の調査の記録である。

(2) 調査の方法

南盛土は、平成5年度に最大厚約2mにも達する包含層であることが確認された。初めに南北方向に試掘溝を設定し掘り下げ、その厚さと遺物量の多さに驚いたが、その後、範囲確認のため8~10mほどの間隔で南北方向に3列、8mほどの間隔で東西方向に4列のトレンチを設定した。トレンチの本数は計24本である。なお、東西120ライン以北は部分的に精査が進んでいたこともあり、トレンチ調査と並行して面的な掘り下げをしたところもある。

当初、盛土全体の完掘を目指し、各トレンチは厚さと堆積状況を確認することを第一義としたため、急ぎ掘り下げたものである。そのため、遺物の取り上げは第Ⅲ層一括とした。遺跡の保存と調査の中止の決定以降は補完的な調査となった。

すでにローム面まで掘り下げていた1・4トレンチの北側を拡張することとなり、土層の堆積状況を確認することから開始した。盛土は主に厚さ5~10cm程度の薄い層が重層し、堆積層の平面観察と同時に、断面の観察を行い、確実に各層の広がりと厚さを確認した。層序を確認し、上層から順に剥いでいきながら、調査を進めた。1トレンチでは、各層の平面分布を記録し、目に付いた出土遺物は出土地点を記録し取り上げた。しかし幅50cmと狭く、遺物の出土は限定的で、しかもそれらは廃棄の状態を示していると考えられ、有意な出土状況を示しているものとは思われなかった。ただし、トレンチの調査すでに縄文時代中期後葉から中期初頭にかけての土器の型式として連続した出土を確認しており、堆積層が中期の良好な包含層であることを確認した。そのため、遺物の取り上げには細心の注意を払った。

4トレンチでは、層序を確認しながら遺物の取り上げを行った。ポイント4も東・南・西壁の断面観察をし、層序を確認しながら遺物を取り上げた。

調査に当たり最も困難だった作業は、各トレンチなどの層の対比である。薄層の連続で盛土全体またはトレンチ全体を区切るような明確な鍵層がなく、それぞれの時間的な前後関係が不明なものが少なくない。あまりにも微細な堆積層であり、それぞれのトレンチで層番号をつけたこともあり、1・4トレンチ、ポイント4で層番号は対応しない。その点は不備であるが、層の端部では層界が不明瞭で、細分できる部分といくつかの層をおおまかに捉えた部分がある。層番号は各トレンチで固有のも

のである。別に対応表を示したので、それを参照されたい。

2. 南盛土の範囲と層序

(1) 南盛土の捉え方と範囲

南盛土は堆積土層中に炭化物や焼土、二次堆積のローム質土など明らかに自然堆積層とは異なる堆積層で形成されている。盛土として把握したのは、以下の条件によるものである。

- ・炭化物や焼土、二次堆積のローム質土などによる人為的な堆積層であること
- ・自然的な要因による地形改変の可能性の低い場所が、周辺地形とは異なる状態を示していること
- ・一定の範囲に限られた区域が、繰り返し継続的に使用されていること
- ・遺物も多量に含むこと などが挙げられ、その範囲を盛土として把握した。

南盛土は南側緩斜面に形成されており、高まりの様子はよく観察される。同様に土砂が多量に廃棄された区域として、第6鉄塔地区に代表される台地北斜面がある。低い斜面部への廃棄により、台地がせり出した状態である。原地形が平坦面ないし緩斜面か、斜面の違いである。広義においては、双方とも盛土として理解することができる。

南盛土は、調査開始前の地表面でも周辺より小高くなっているのが確認でき、昭和47年に青森土木事務所により作成された青森県運動公園地形図でも、周囲よりも一段高い様子が記録されている。

確認した南盛土の範囲(図1)は、北東端がVIC-112～VIE-111、北西端がVIO-110～VIQ-113、南東端がVIK-129、南西端がVIP-129～VIR-128である。当初「盛土」としての意識がなく、平成4・5年度にすでに調査が進み、部分的には掘り下げられていたところもあるため、西側を除きそれぞれの周縁部は、厳密に言えば若干の異同があるかもしれないが、おおむね上記のラインと言ってよい。117ライン付近で緩く屈曲し、全体としてL字形のような平面形で、南北約70m、東西40m前後の規模である。

(2) 層序と堆積状況

各トレンチはローム層上面まで掘り下げた。その上層の第Ⅴ層(漸移層)上部には第Ⅳ層(黒色土)が堆積し、その上に盛土が形成されている。第Ⅳ層中からは、縄文時代前期の土器が出土しており、層位的には矛盾はない。また、盛土層の上層には第Ⅱ層が堆積する。この層中からは、大木10式併行期の土器が出土する。なお、通称「北の谷」の第Ⅱ層中上位では白頭山火山灰が確認されている。そのため、時期的にも第Ⅲ層に相当する盛土層は縄文時代中期初頭から後葉にかけてのものという、大まかな位置づけが可能である。

各トレンチの細分層は、黒色土が全体の5割で、その間に炭化物や焼土、二次堆積のローム質土の細かな堆積層が確認される。これらは純層を形成する場合もあるが、黒色土層などに混入するものも多い。特に炭化物は、判別しやすいこともあるが、土層断面全体で確認できるほどである。これらは、層位的な年代測定資料として供されている。

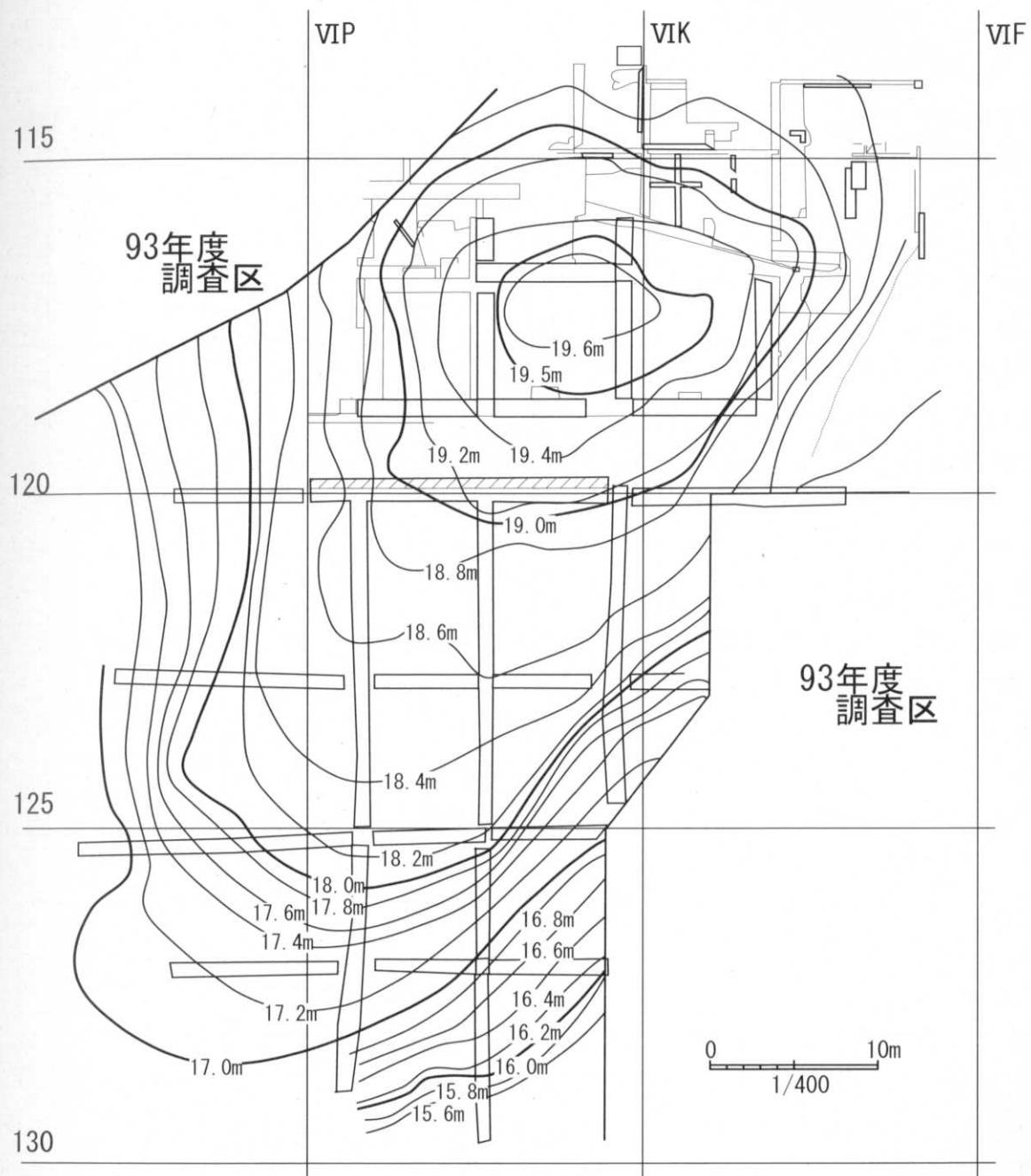
二次堆積ロームは他の混入物を交えずに確認されることが多い。供給源は遺構掘削による排土と見られるが、具体的な遺構は不明である。可能性としては、道路跡(修繕も含めて)やフラスコ状土坑などが挙げられる。

焼土層の多くは、上下層との境が明瞭である。その場での焚き火の可能性もあるが、焼土遺構(炉

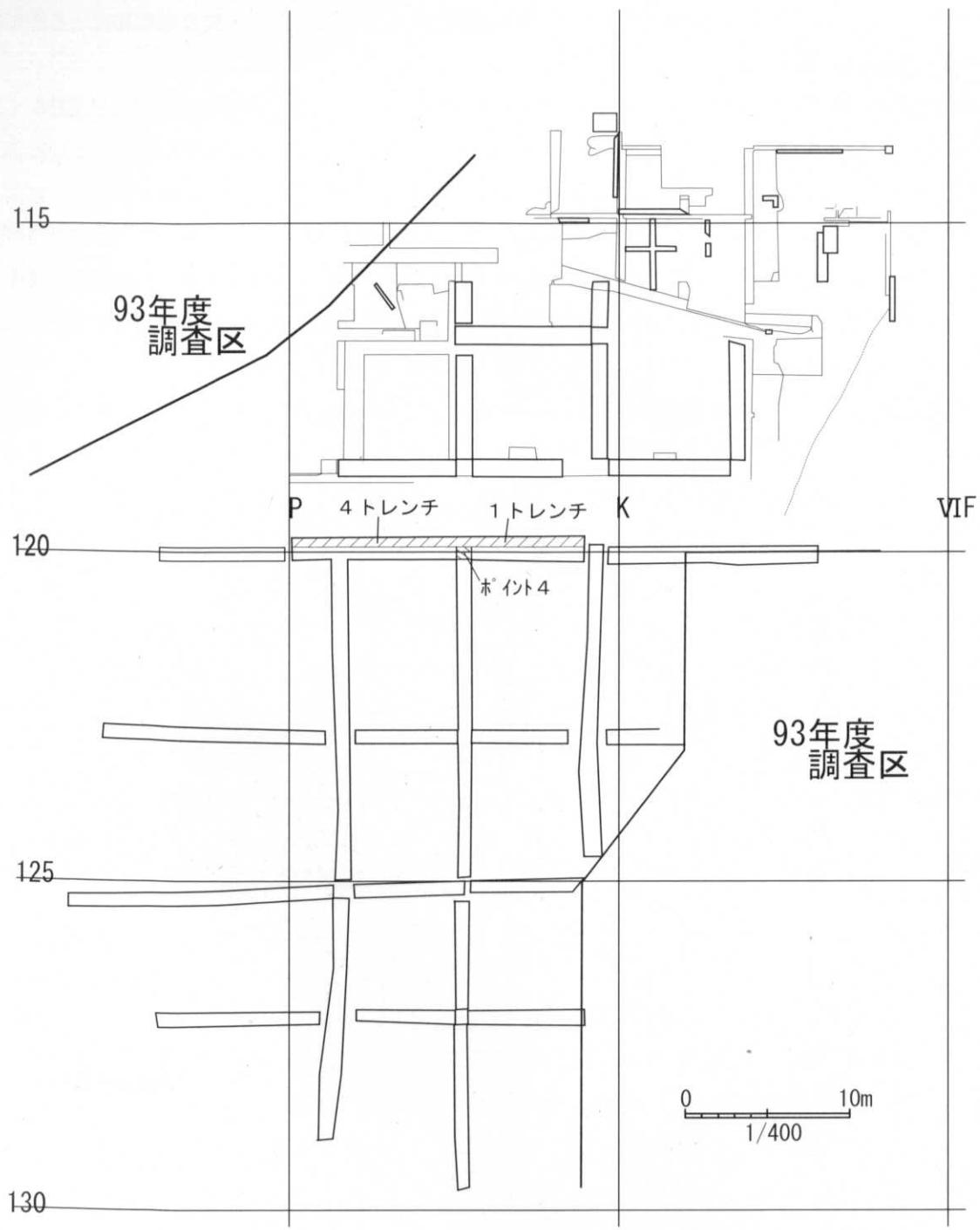
も含めた)などに見られる、漸移的な被熱痕跡が確認されるものは少なく、焼土の集積による廃棄層であると考えられる。

これらの土砂は厚い部分でも10cmほどの非常に薄い層をなす。各層中で層厚の差はほとんどなく、層端ほど薄くなる。土砂以外にも、土器が密集し、あたかも敷かれたような状態で出土している部分も見られる。黒色土やローム層などは互層となるが、堆積に規則性は見られない。

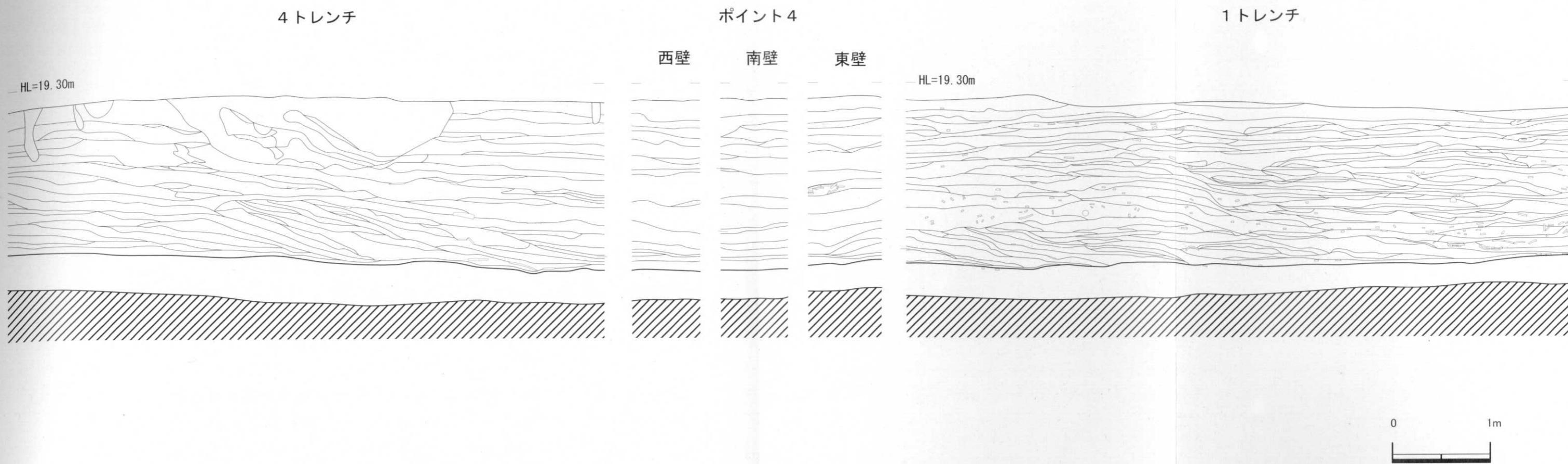
堆積順としては、1・4トレンチに限って言えば、下層で東側へ傾斜する堆積状況を示す部分が多い。堆積状況から判断して、西側から東側へ向かって盛土の範囲が拡大したものと見られる。また4トレンチの上半、1トレンチの大半は、水平な堆積として確認され、盛土範囲の確定及び全域の上方への拡大として判断できる。



20図 表土除去後の等高線図



21図 トレンチ配置図



22図 1・4トレンチ、ポイント4土層断面図

3. 各層の検出遺構と出土遺物

(1) 1トレンチの検出遺構と出土遺物

1トレンチはVIK～M-119に位置する。120ラインに沿って設定したトレンチを、北側に50cm拡張した範囲である。確認面の標高は、19.05～19.15mである。確認面から第IV層上面までの厚さは151～172cmである。第IV層の厚さは25～35cmである。

本トレンチからの検出遺構はない。

盛土部分は144層に細分した。部分的には細々分し、' (ダッシュ) で示した層もある。ロームや炭化物、焼土など土質が明瞭に区別できる層は、各廃棄単位をほぼ表しているものと思われる。しかし、黒～褐色土層については複数の廃棄単位を一括して認識している可能性もある。調査段階で十分な観察に努めたものの、144層の細分層＝廃棄の回数とは必ずしもならない。

盛土の時期は円筒上層a式期から最花式期である。このトレンチでは各土層の分布図と遺物の出土位置図(24～34図)を作成した。限られた範囲ではあるが、記載に当たっては、各層の広がりと厚さ、構成する土質、出土遺物について触れることにする。

以下に、各層の堆積土と出土遺物について述べる。出土遺物は必要に応じて記載し、石器のチップについては10g～30gを少量、30g～40gを中量、40g以上を多量と記載する。

第1層

VI L・M-119・120に最大厚15cmで広がる。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、炭化物が微量、焼土粒がごく微量含まれる。遺物は、土器は最花式土器を主体に出土した。2は粘土紐を渦巻き状に貼付したものである。石器は石槍が1点出土した。

第2層

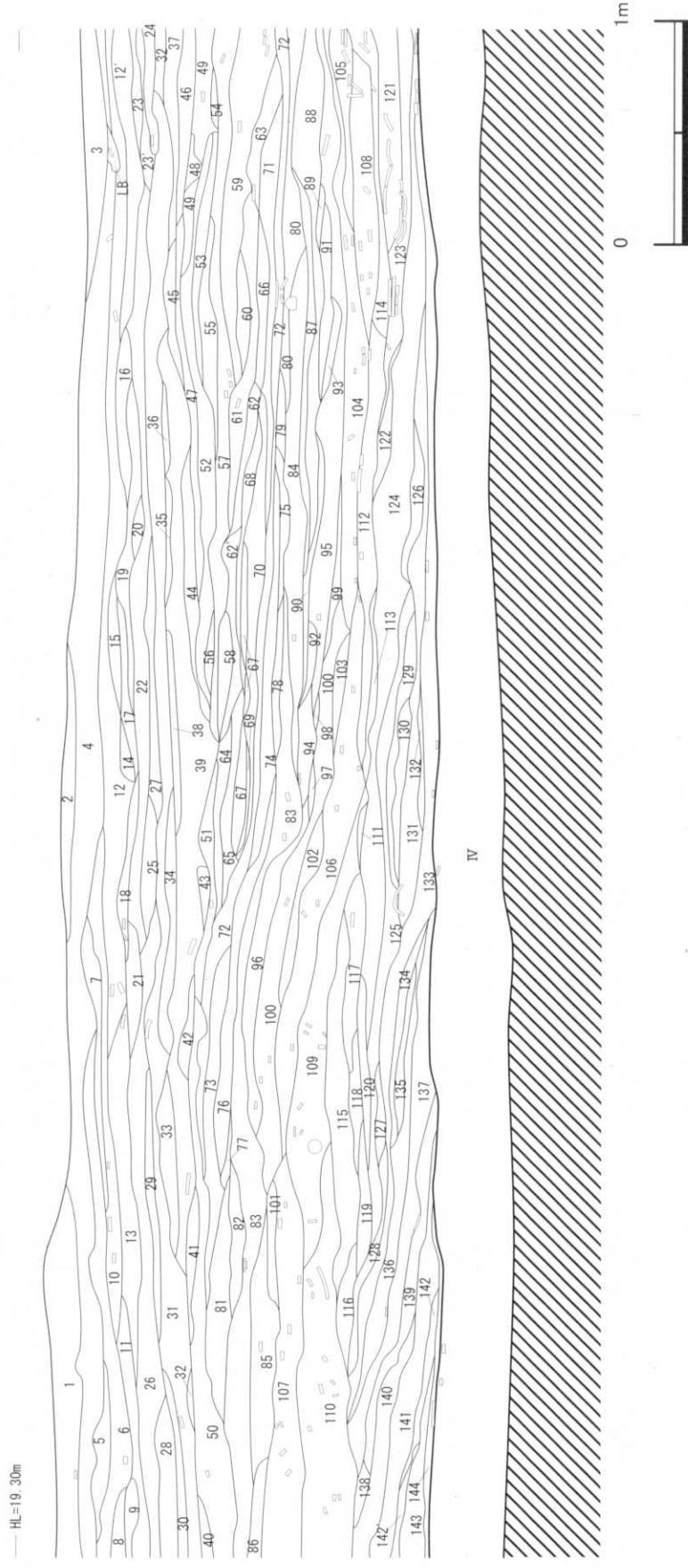
VI L-119・120に幅約1.4m、最大厚6cmで分布する。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とする。ロームと黒褐色土との混合土で、浮石粒が中量、炭化物が微量含まれる。遺物の出土量は少ない。楕円式土器が出土した。35-9は幅が広く浅い沈線が施文される。石器は石皿？が1点出土した。

第3層

VIK-119・120に最大厚11cmで確認された。堆積土は褐色(10YR4/4)土を主体とし、炭化物や白色浮石が少量含まれる。出土遺物は少ない。土器は楕円式～最花式土器が出土した。36-1は表面が摩滅しているが、頂部が渦巻状で、垂下する沈線が施文される。

第4層

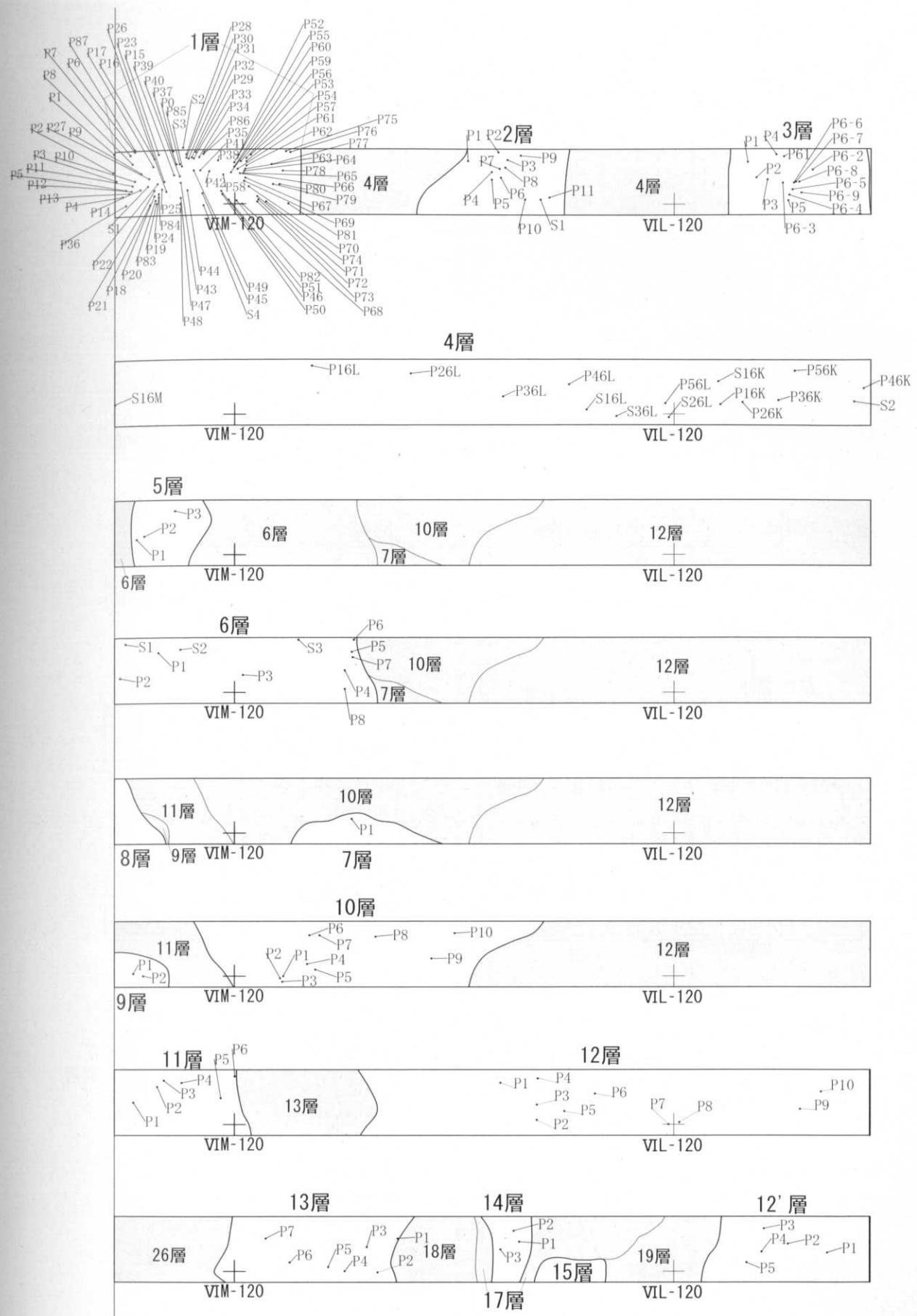
VIK～M-119・120の1トレンチ全体に、最大厚15cmで広がる。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、ローム粒が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器片が少量出土した。楕円式土器を主体とする。



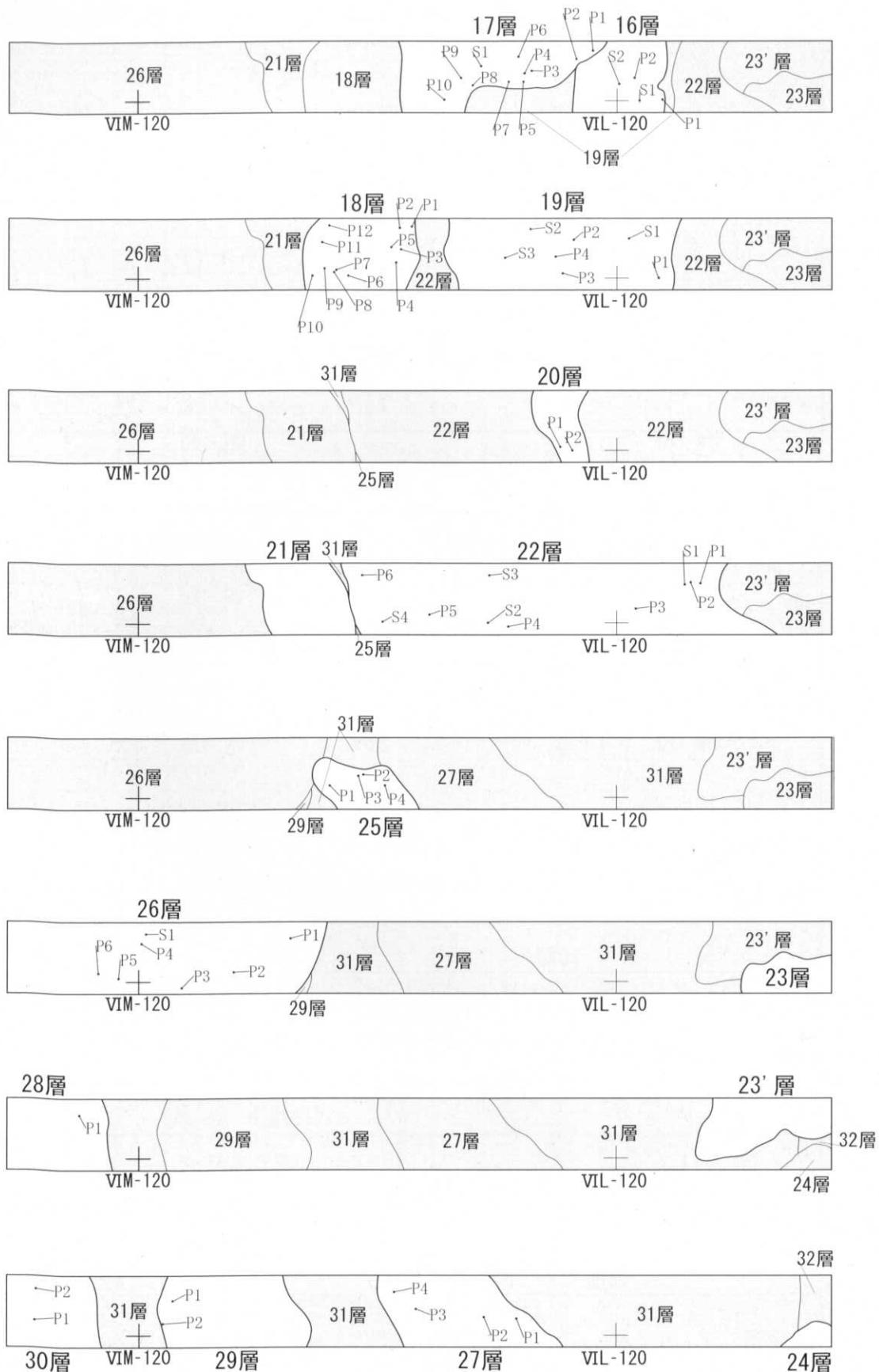
23図 1トレンチ土層断面

1	トレンチ土層注記	
1	黒褐	10YR2/2 炭化物微量、焼土粒極微量
2	暗褐	10YR3/4 ロームと黒褐色の混合土、浮石粒中量、炭化物微量
3	褐	10YR4/4 炭化物・白色バニス少量
4	黒褐	10YR2/2 ローム粒少量、炭化物微量
5	暗褐	10YR3/4 暗褐色土とロームとの混合土、炭化物微量
6	黄褐	10YR5/6 ローム主体層、炭化物少量、暗褐色土微量（5・10層よりも明るく、ロームの割合多い）
7	暗褐	10YR3/4 ロームと黒褐色の混合土、炭化物微量
8	褐	10YR4/4 ローム多量、炭化物微量
9	暗褐	10YR3/3 ロームと暗褐色との混合層（ロームの割合大）
10	褐	10YR4/4 ローム主体層、炭化物微量
11	にぶい黄褐	10YR4/3 ローム主体層、炭化物少量（10層よりやや暗い、炭化物多い）
12	黒褐	10YR3/2 ローム粒少量、炭化物微量
13	暗褐	10YR2/3 白色バニス多量
14	黒褐	10YR2/3 ローム中量（15層に似るが、炭化物なし）
15	黒褐	10YR2/3 ローム多量、炭化物微量（12・17層より暗く、炭化物量多い）
16	黒褐	10YR2/3 炭化物・ローム粒少量
17	褐	10YR4/4 ローム主体、白色バニス少量、炭化物微量
18	黒褐	10YR2/3 炭化物中量、焼土粒極微量
19	黒褐	10YR3/2 炭化物粒～塊少量、ローム粒少量
20	暗褐	10YR3/3 炭化物多量
21	褐	10YR4/6 ローム主体、暗褐色土多量、炭化物少量
22	褐	10YR4/4 ローム主体層、特に東側で密、暗褐色土・炭化物少量
23	暗褐	10YR3/3 ローム粒少量、炭化物微量
24	黄褐	10YR4/6 ローム主体層、炭化物・焼土粒微量
25	褐	10YR4/4 ローム主体層、暗褐色土中量、炭化物微量
26	黒褐	10YR2/3 炭化物中量、ローム粒少量（13層より炭化物・ロームとも多い）
27	にぶい黄褐	10YR4/3 ローム主体層、白色バニス多量、炭化物少量（22層よりロームの割合多い）
28	黒褐	10YR2/2 ローム粒少量、焼土粒、炭化物微量（26層より暗く、炭化物少ない）
29	黒褐	10YR2/2 ローム粒・炭化物極微量
30	黒褐	10YR3/2 ローム粒・炭化物少量（28・31層よりやや明るい）
31	黒褐	10YR2/3 ローム粒・塊少量、炭化物中量
32	にぶい黄褐	10YR4/3 ローム主体層
33	黄褐	10YR5/6 ローム主体層、炭化物・黒褐色土少量
34	黒褐	10YR3/2 炭化物少量、ローム粒微量（31層より明るく、39層よりもくすむ）
35	黒	10YR2/1 炭化物多量
36	暗褐	10YR3/3 焼土塊状に中量入る、ローム粒少量
37	褐	10YR4/4 ロームと黒褐色土の混土層、炭化物微量（36層より明るい）
38	褐	10YR4/4 炭化物極微量（31層・39層よりも明るい、39層より炭化物少）
39	暗褐	10YR3/4 炭化物少量、ローム塊少量
40	暗褐	10YR3/4 ローム粒・炭化物少量、焼土粒微量
41	にぶい黄褐	10YR4/3 砂質ローム主体
42	黒褐	10YR2/2 砂質ローム塊下部に密、炭化物微量
43	暗褐	10YR3/3 浮石粒中量
44	黄褐	10YR5/6 ローム主体、暗褐色土少量、炭化物微量
45	黒褐	10YR2/2 炭化物・白色バニス微量
46	黒褐	10YR2/3 炭化物中量、焼土粒微量（37・49層より暗い）
47	黒	10YR1/1.7 炭化物主体、ローム粒、焼土粒微量
48	黄褐	10YR5/6 ローム主体層、炭化物微量
49	暗褐	10YR3/3 炭化物筋状に微量、白色バニス微量
50	黒褐	10YR2/3 炭化物・ローム粒少量、焼土粒微量
51	黒褐	10YR2/3 ローム粒少量
52	黒褐	10YR2/3 炭化物粒・ローム粒微量
53	にぶい黄褐	10YR5/4 ローム主体、黒褐色土少量、焼土粒・炭化物微量
54	黒	10YR2/1 炭化物主体層
55	暗褐	10YR3/4 炭化物微量
56	にぶい黄褐	10YR5/4 ロームと暗褐色土との混合土
57	褐	10YR4/4 炭化物中量
58	にぶい黄褐	10YR4/3 ローム主体、暗褐色土少量（57層より明るい）
59	黒褐	10YR2/2 ローム粒・炭化物微量
60	にぶい黄橙	10YR6/3 砂質土、炭化物微量
61	黒褐	10YR2/3 ローム粒・塊少量、炭化物微量
62	褐	10YR4/4 焼土中量、白色砂・炭化物少量
63	黒	10YR2/1 炭化物・白色バニス微量（59層よりも暗い）
64	黒褐	10YR2/2 炭化物少量（51・65層より暗い）
65	暗褐	10YR3/3 焼土粒・炭化物微量
66	黒褐	10YR3/2 白色バニス少量、炭化物微量
67	にぶい黄橙	10YR6/4 ロームと白色砂の混合土、砂質で粗い、焼土粒微量
68	黒褐	10YR5/4 炭化物・ローム粒微量
69	黒	10YR2/1 炭化物層
70	暗褐	10YR3/3 ローム粒微量、炭化物極微量
71	黒褐	10YR2/2 炭化物微量
72	黒褐	10YR3/2 炭化物多量、ローム粒極微量

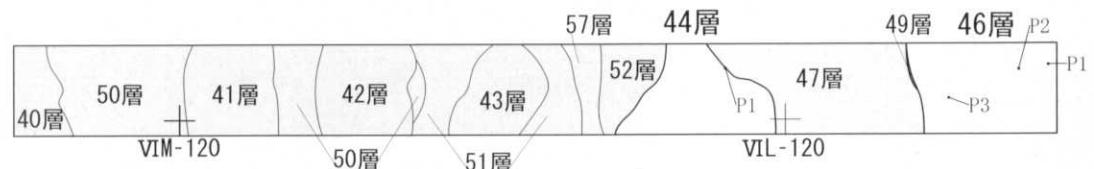
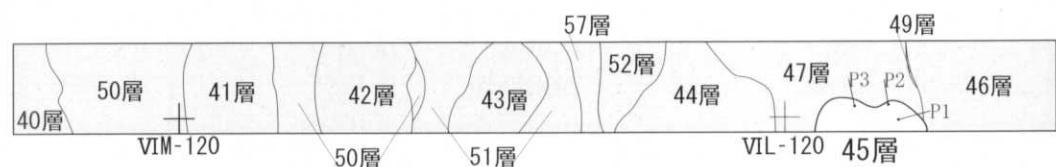
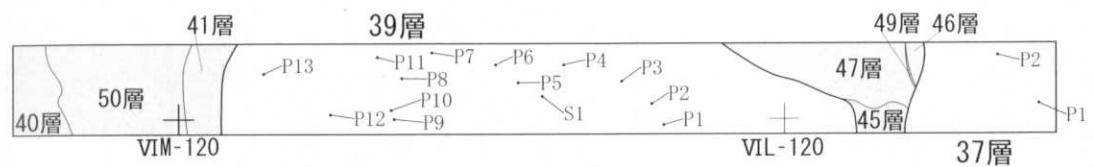
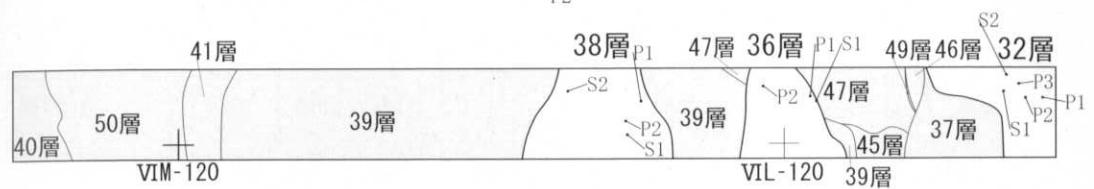
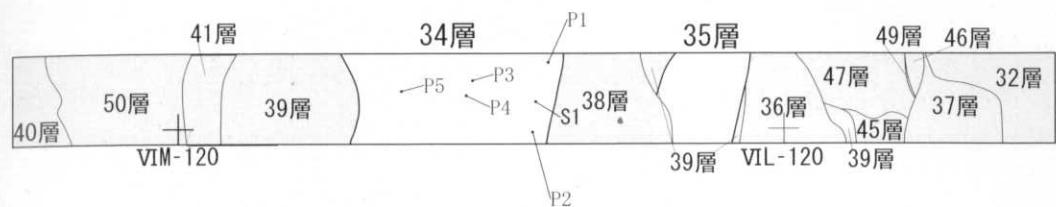
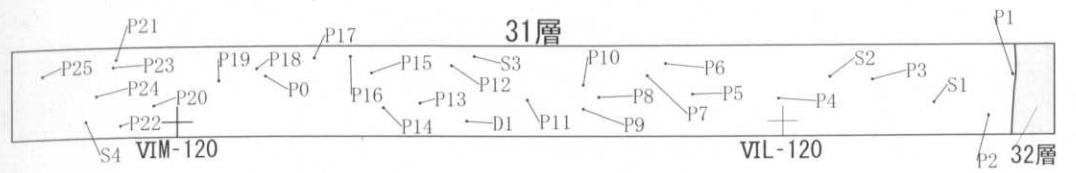
73	暗褐	10YR3/4	炭化物少量、ローム粒・焼土粒微量
74	暗褐	10YR3/3	炭化物・白色バミス微量 (76層よりも暗い)
75	黒褐	10YR3/2	ローム粒・炭化物少量
76	にぶい黄褐	10YR4/3	白色バミス中量、炭化物少量 (83層より明るく、炭化物割合少)
77	黄褐	10YR5/6	ローム主体層
78	褐	10YR4/4	ロームと黒褐色との混合土、炭化物微量
79	黒褐	10YR2/2	炭化物中量、ローム粒微量
80	黒褐	10YR2/3	炭化物少量、ローム粒微量
81	黄褐	10YR5/8	砂質ローム主体層、黒褐色土少量、炭化物中量で部分的に筋状に入る、焼土粒微量
82	褐	10YR4/4	砂質ローム主体、黒褐色土少量 (81層よりも黒褐色土の割合多い)
83	黒褐	10YR2/3	炭化物・ローム粒少量
84	暗褐	10YR3/4	炭化物微量、焼土粒極微量
85	黒褐	10YR2/3	炭化物・焼土粒微量
86	暗褐	10YR3/4	炭化物・ローム粒少量 (85層より明るく、混入物多い)
87	黒褐	10YR3/1	炭化物微量
88	暗褐	10YR3/4	炭化物・白色バミス極微量 (87層より明るく、混入物少)
89	黒褐	10YR3/1	炭化物・焼土粒微量
90	黒褐	10YR3/1	炭化物多量、ローム粒・焼土粒微量
91	黒褐	10YR2/3	ローム粒多量、炭化物・焼土粒少量
92	褐	10YR4/4	ローム多量
93	暗褐	10YR3/4	ローム粒・塊・炭化物少量、白色粘土塊微量
94	黒褐	10YR2/3	炭化物・焼土粒微量
95	黒褐	10YR3/3	炭化物・白色バミス少量 (90・99層より明るく、混入物少)
96	暗赤褐	5YR3/6	焼土主体、炭化物微量
97	黒	10YR2/1	
98	にぶい黄褐	10YR4/3	ローム主体、黒褐色土中量
99	黒褐	10YR2/2	炭化物中量、ローム粒少量
100	黒褐	10YR2/3	白色バミス・炭化物少量、炭化物は部分的に筋状に入る
101	暗褐	10YR3/3	ローム粒・炭化物少量
102	褐	10YR4/4	ローム多量、部分的に塊状、炭化物・焼土粒微量
103	黒	10YR2/1	炭化物微量
104	にぶい黄褐	10YR4/4	ローム塊状・粒状で多量、炭化物少量、焼土粒微量
105	暗褐	10YR3/4	ローム粒少量、炭化物・焼土粒微量
106	黒褐	10YR2/2	炭化物・ローム粒多量、焼土粒微量
107	褐	10YR4/6	ローム主体、炭化物少量
108	黄褐	10YR5/8	ローム主体、暗褐色土少量、114層との境に黑色土のごく薄層挟む
109	暗褐	10YR3/3	白色バミス、炭化物中量 (106層に比べ明るく、炭化物割合少)
110	暗褐	10YR3/3	炭化物多量、焼土粒・ローム粒少量 (109層よりやや暗く、混入物多い)
111	黒	10YR1.7/1	炭化物主体層
112	赤褐	5YR4/8	焼土主体層、炭化物少量
113	黒	10YR1.7/1	炭化物主体層
114	褐	10YR4/6	ローム主体、塊状ではなく、粒状の集合 (かき集めたような)、浮石・炭化物少量
115	黒褐	10YR3/2	炭化物少量
116	にぶい黄褐	10YR4/3	ローム主体層、炭化物微量
117	褐	10YR4/6	ローム多量、部分的に塊状をなす。炭化物少量
118	暗褐	10YR3/4	ローム粒・塊多量、炭化物微量
119	褐	10YR4/6	ローム主体、黒褐色土との混土
120	黒褐	10YR2/2	炭化物多量、ローム粒少量
121	黒褐	10YR3/2	炭化物・浮石粒少量
122	黒褐	10YR2/3	炭化物少量、灰白色粘土塊微量
123	暗褐	10YR3/3	炭化物中量、114層との境に部分的に板状の炭化物、ローム粒少量
124	黒褐	10YR2/3	ローム中量、部分的に筋状に入る。炭化物微量
125	暗褐	10YR3/4	炭化物・ローム粒微量 (124層より明るい)
126	褐	10YR4/4	ローム多量、浮石中量
127	黒褐	10YR2/3	ローム粒・塊多量、炭化物少量 (128層よりやや暗く、混入物多い)
128	黒褐	10YR3/2	炭化物・焼土粒少量
129	黒褐	10YR3/2	炭化物多量、白色バミス少量
130	褐	10YR4/6	ロームと黒褐色土との混土層、炭化物微量
131	にぶい黄褐	10YR4/3	ローム主体層、黒褐色土・炭化物微量
132	黒	10YR2/1	炭化物主体層
133	暗褐	10YR3/4	ローム粒多量、炭化物中量、焼土粒微量
134	黒	10YR2/1	炭化物主体層
135	黄褐	10YR5/6	ローム主体、炭化物微量
136	黒褐	10YR2/3	ローム粒・炭化物少量
137	にぶい黄褐	10YR4/3	ローム主体、塊状に入る、黒褐色土少量、炭化物微量
138	黒褐	10YR2/2	ローム粒・塊少量、炭化物微量
139	暗赤褐	5YR3/6	焼土主体層、炭化物微量
140	褐	10YR4/6	ローム主体層、黒褐色土少量、炭化物微量
141	黄褐	10YR5/8	ローム層
142	暗赤褐	5YR3/6	焼土主体層、炭化物少量
143	黄褐	10YR5/6	ローム主体層、炭化物微量
144	黒	10YR1.7/1	炭化物主体層



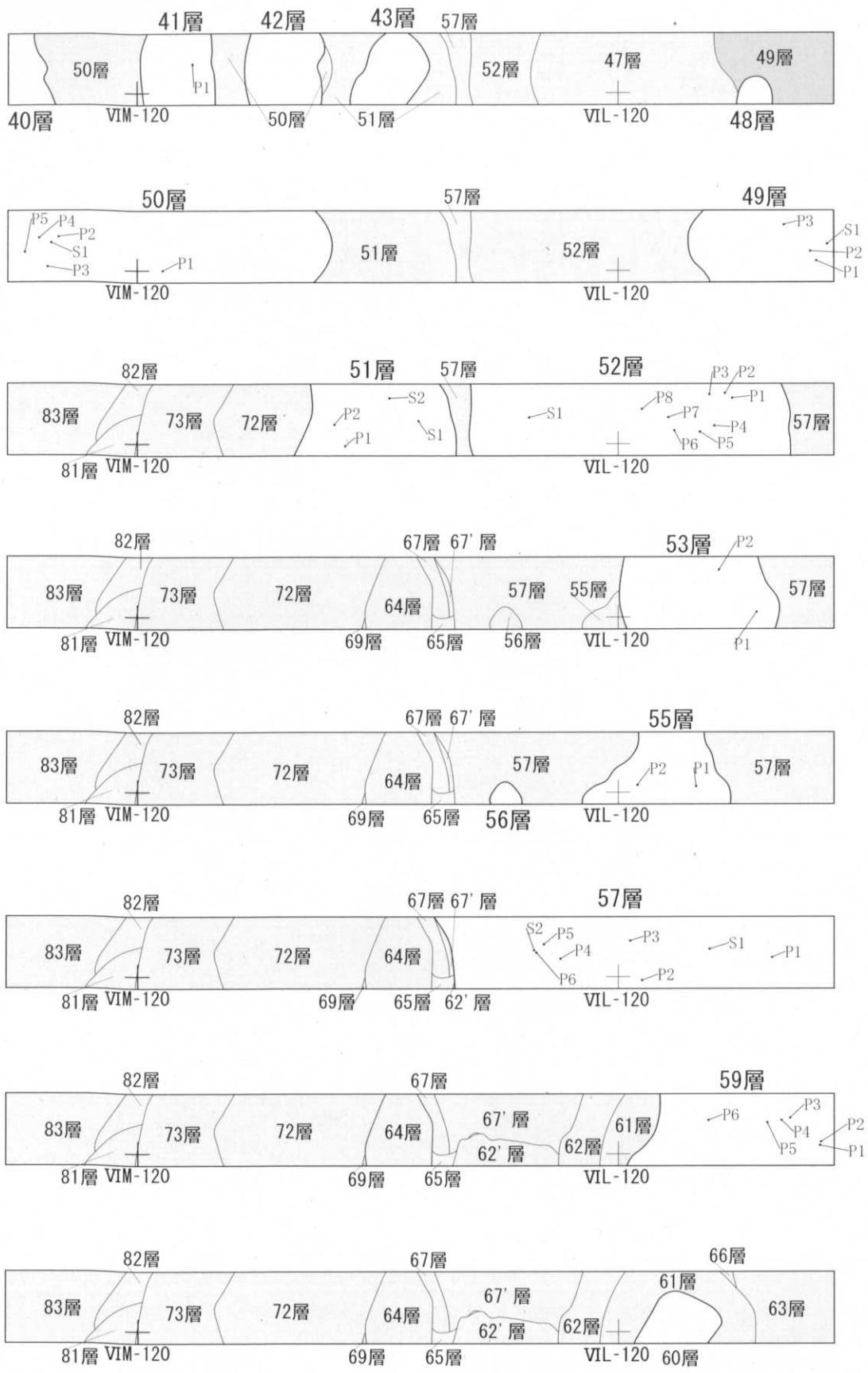
24図 第1～15層分布図



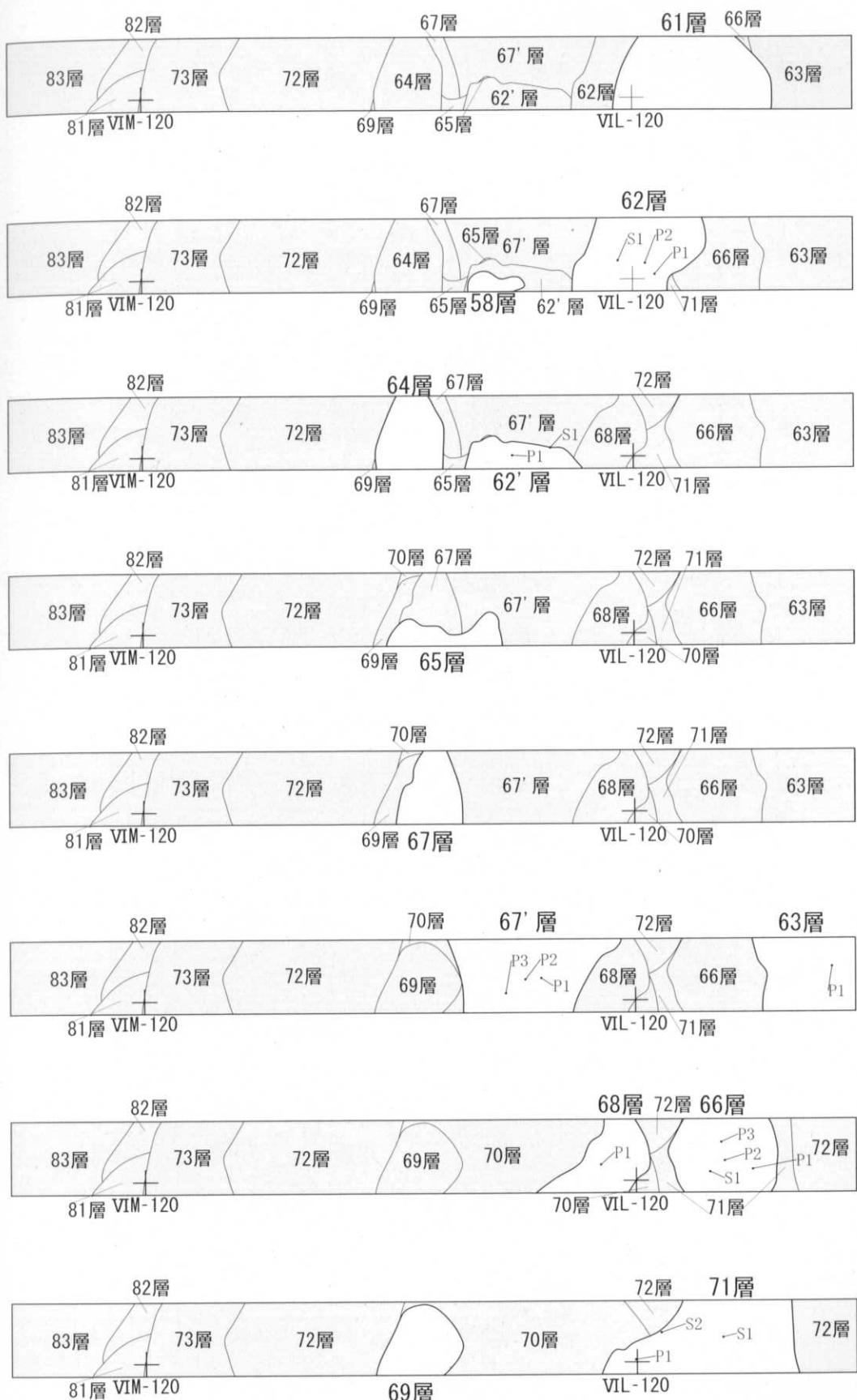
25図 第17~30層分布図



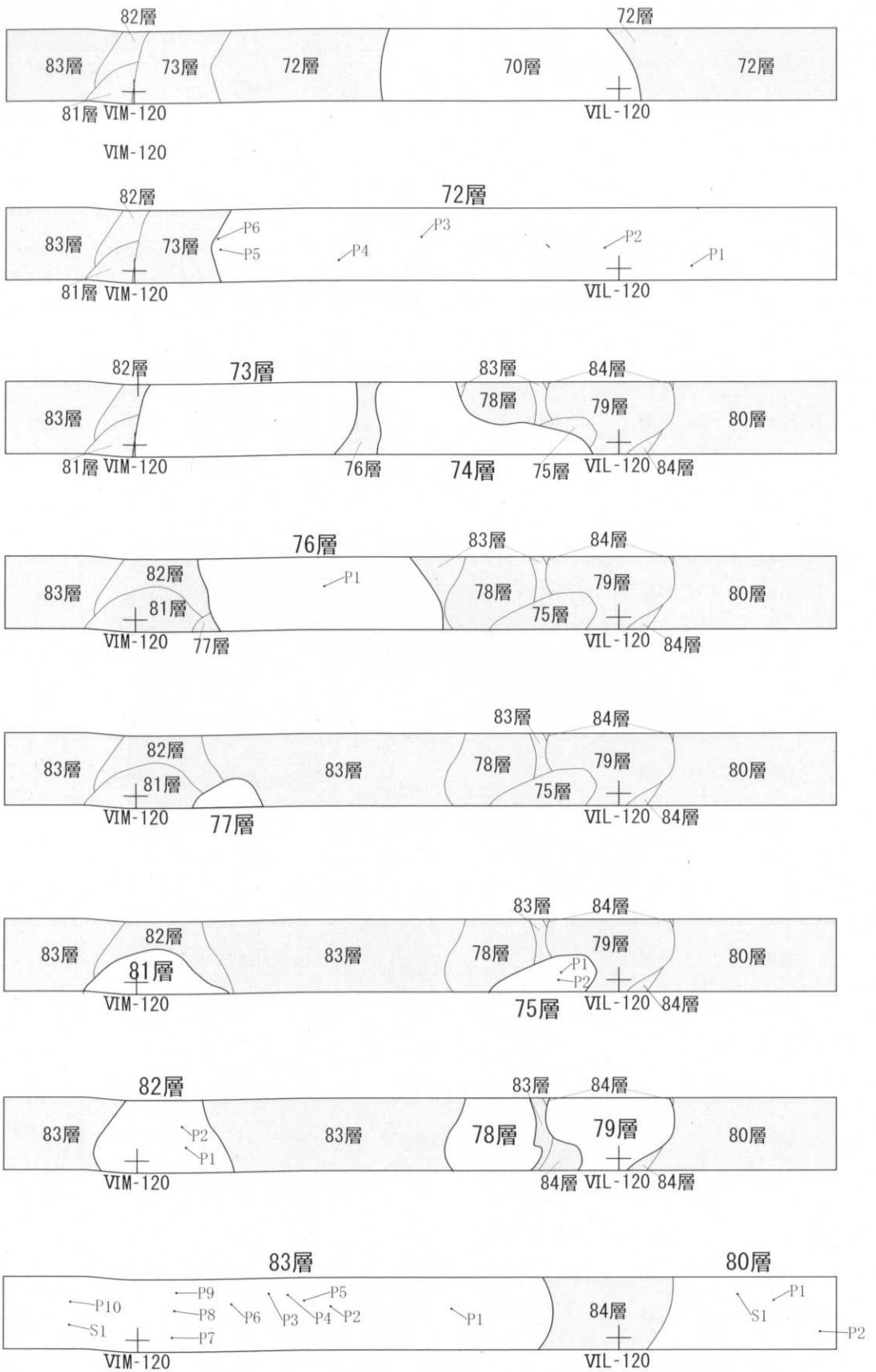
26図 第31～47層分布図



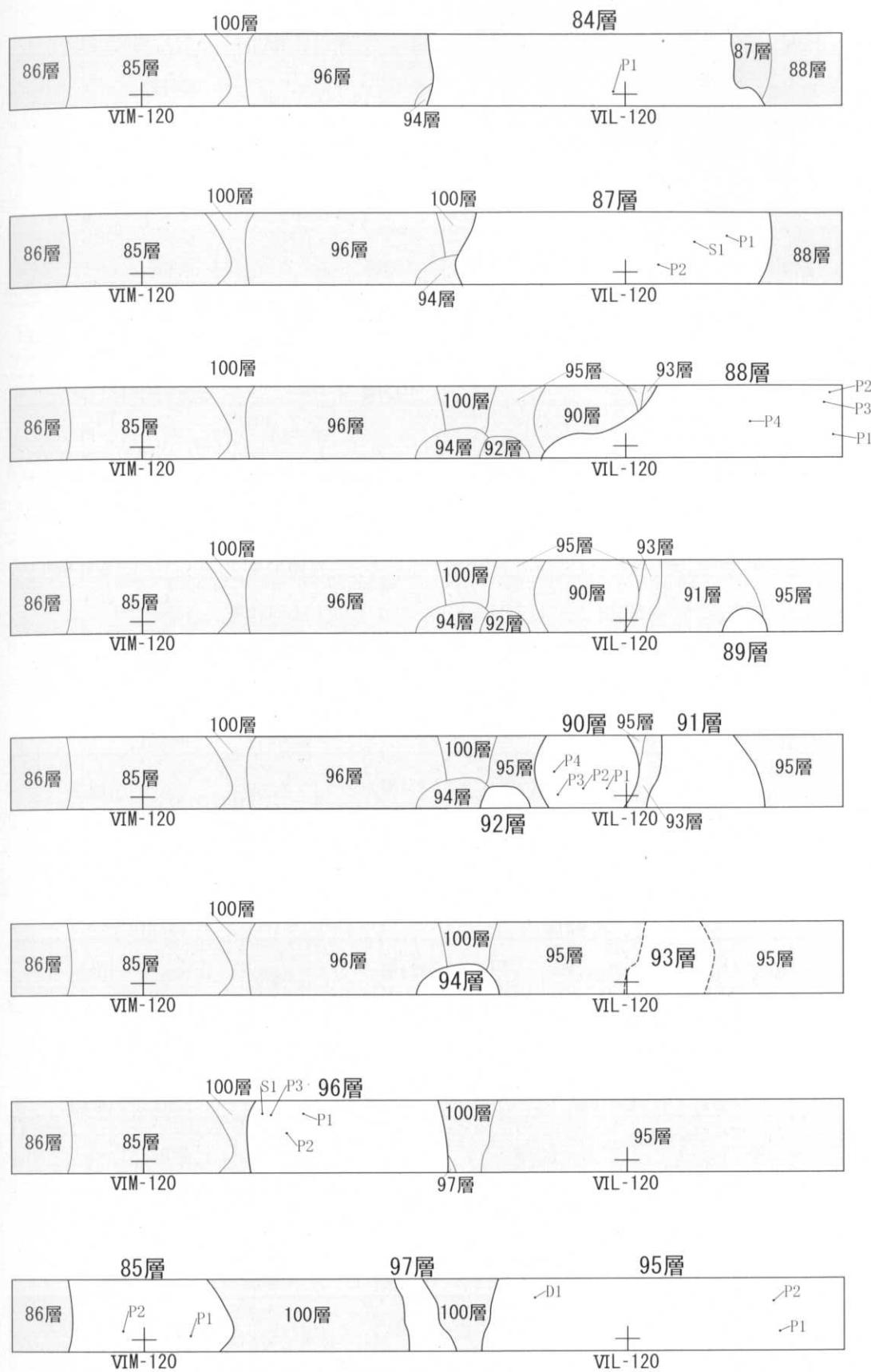
27図 第40~60層分布図



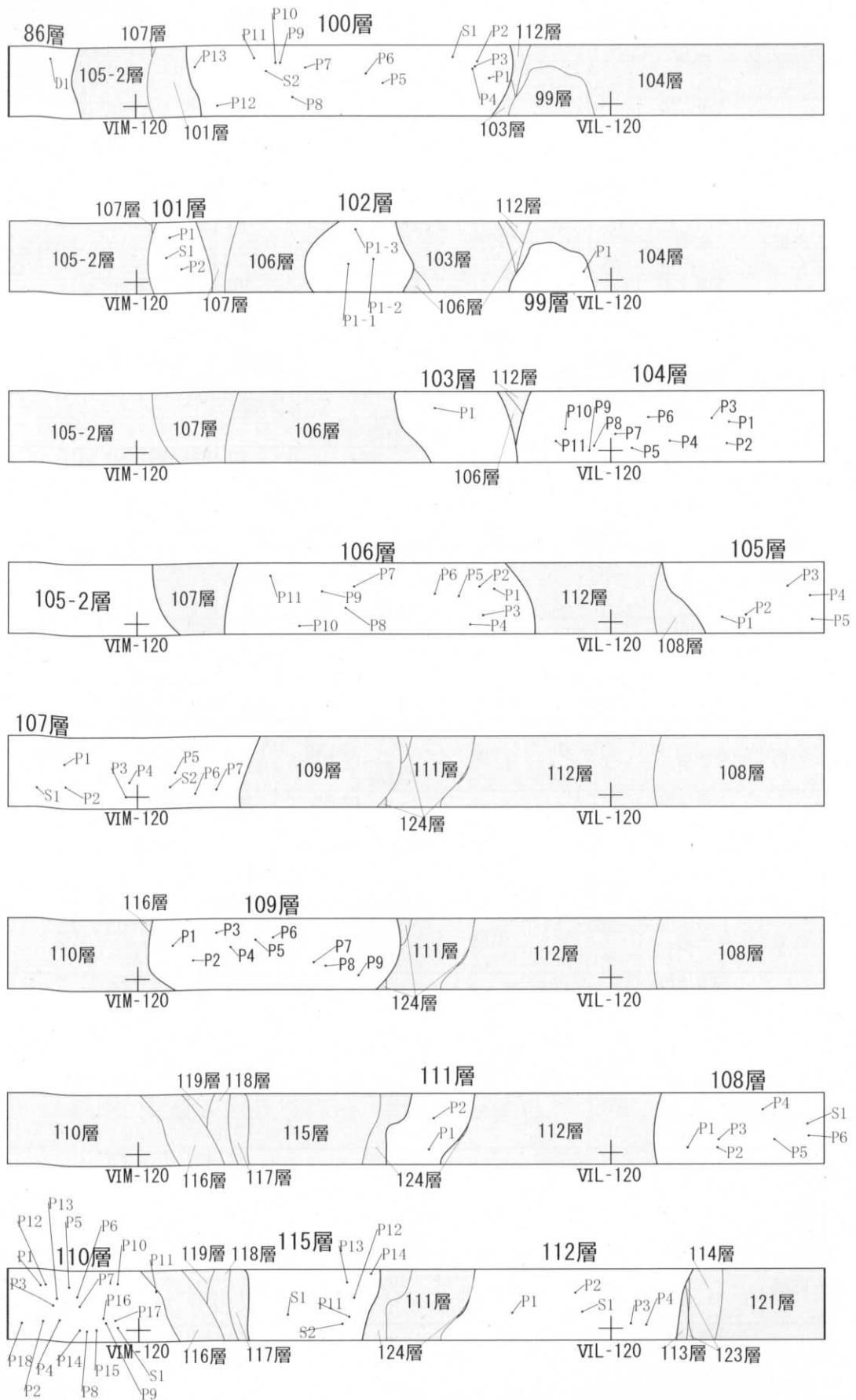
28図 第61～71層分布図



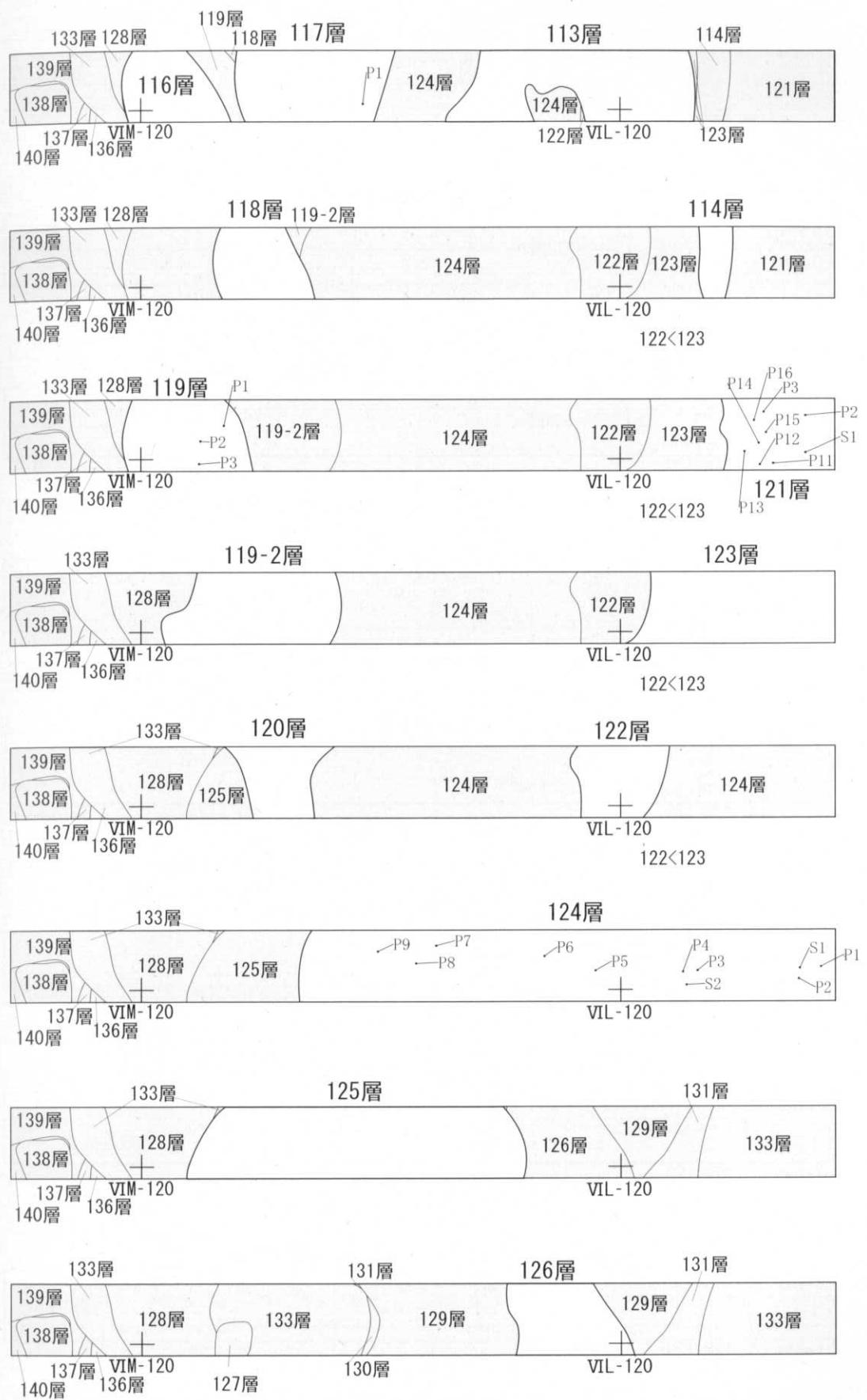
29図 第70～83層分布図



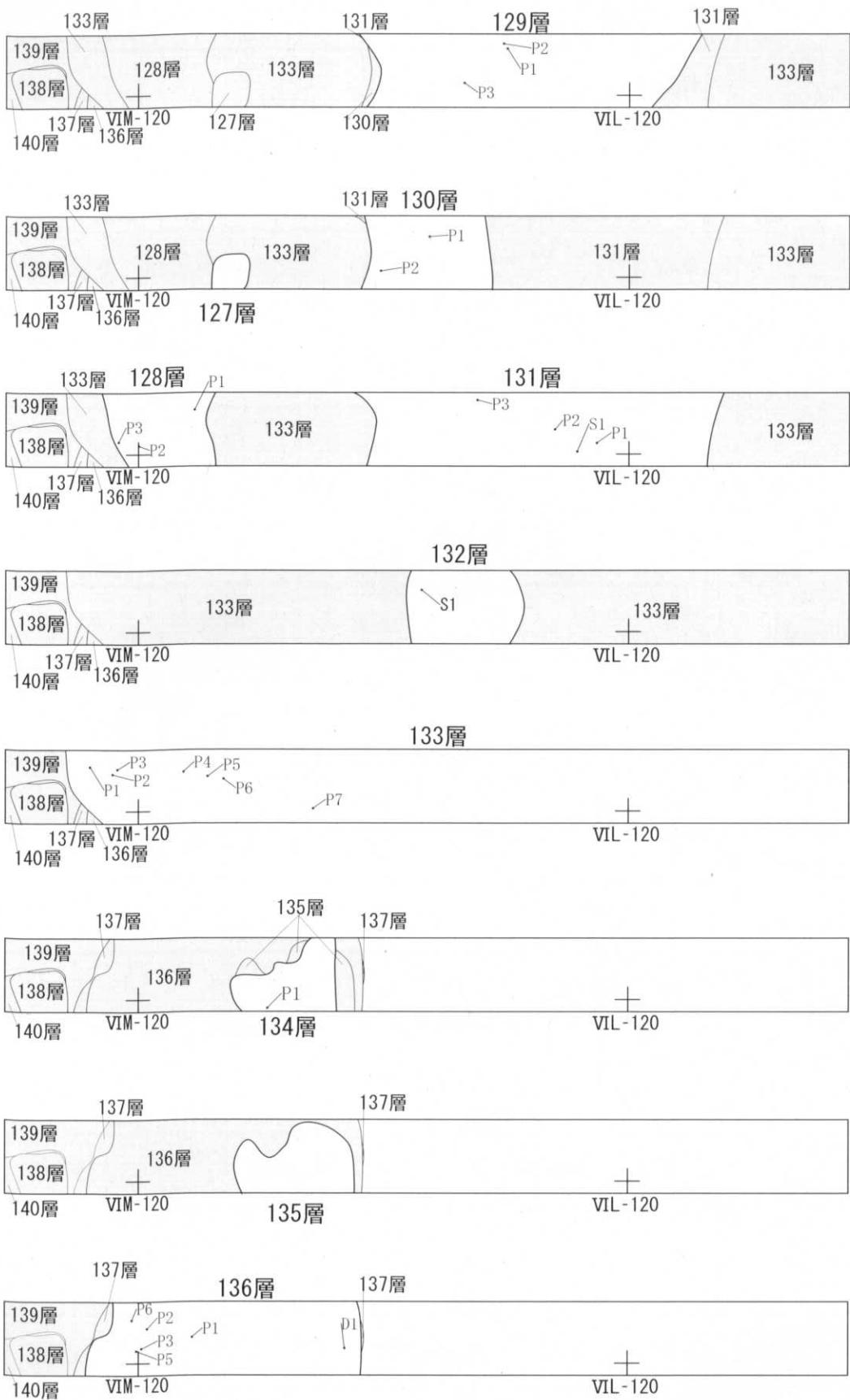
30図 第84~96層分布図



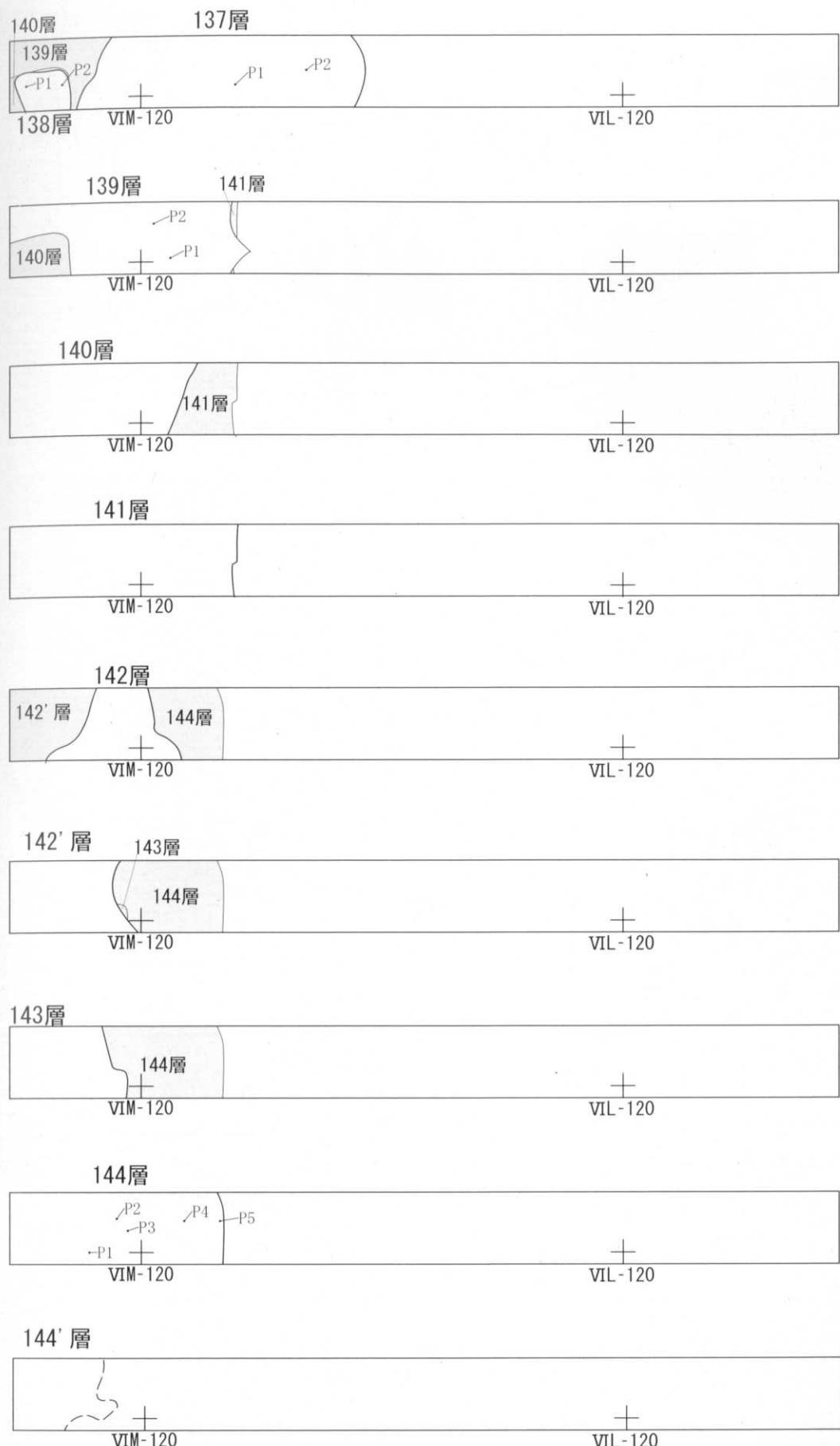
31図 第86～115層分布図



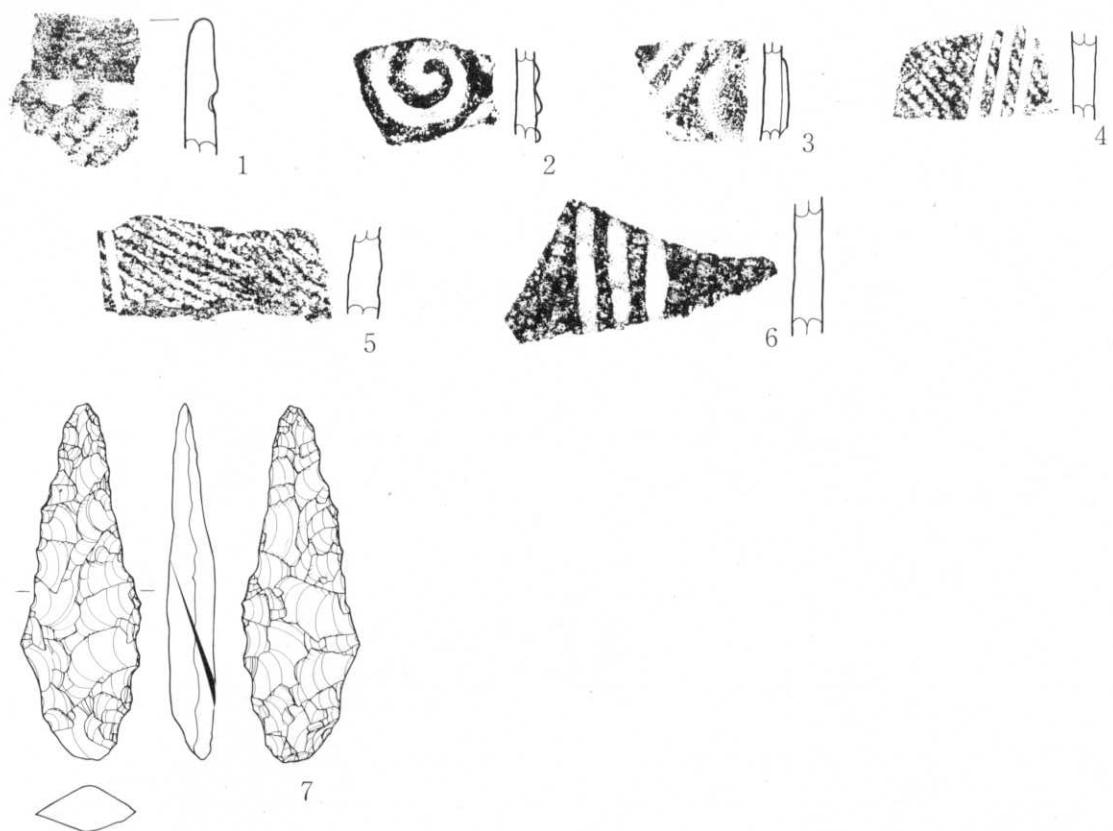
32図 第116~127層分布図



33図 第129~137層分布図



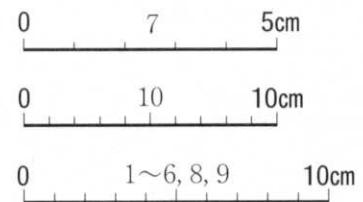
34図 第137~144層分布図



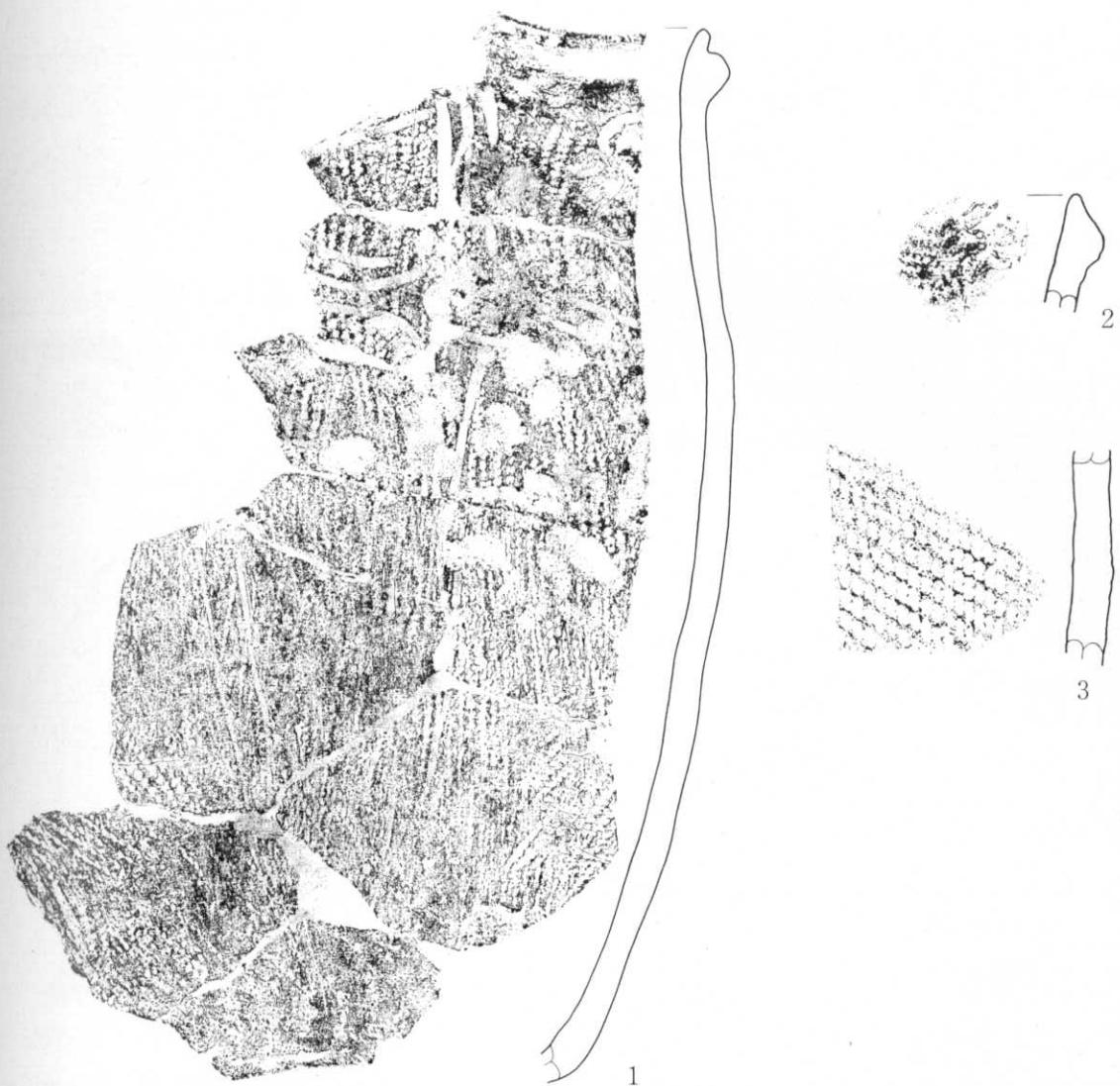
III-1層



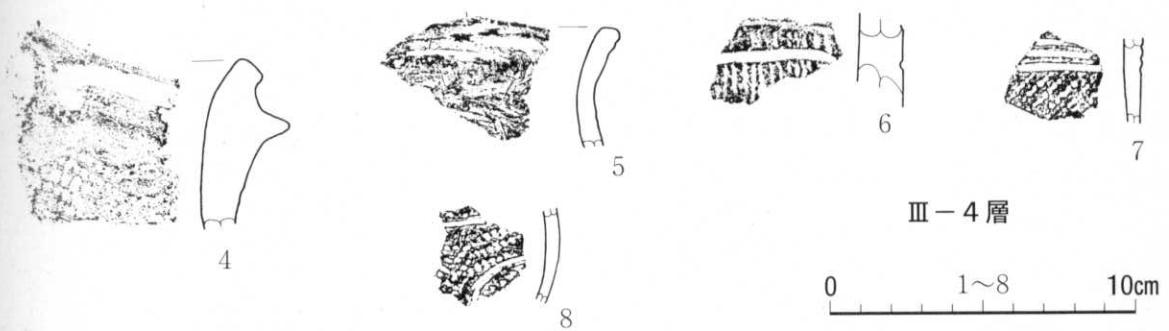
III-2層



35図 1トレンチIII-1・2層出土遺物



III-3層



III-4層

0 1~8 10cm

36図 1トレンチIII-3・4層出土遺物

第5層

VIL-119・120に幅約70cm、最大厚8cmで分布する。層上面はやや起伏が見られる。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とする。暗褐色土とロームとの混合土で、炭化物が微量含まれる。出土遺物はない。

第6層

VIL・M-119・120で最大厚10cmで広がる。ほぼ水平に堆積するが、上面はやや起伏がある。堆積土は黄褐色ローム(10YR5/6)土を主体とし、炭化物が少量、暗褐色土が微量含まれる。下部の第10層よりも明るく、ロームの割合が多い。出土遺物は土器・石器がわずかに出土したに過ぎない。出土土器は最花式である。石器は有茎の石鏃が出土した。

第7層

VIL-119・120に幅約1.4m、最大厚7cmで分布する。西側は3cmほどで薄く水平であるが、東側は厚みを増し、やや盛り上がった堆積状況である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とする。ローム土と黒褐色土との混合土で、炭化物が微量含まれる。出土遺物はない。

第8層

VIM-119・120に幅約0.5m、最大厚7cmで分布する。水平な堆積である。堆積土は褐色(10YR4/4)土を主体とし、ロームが多量、炭化物が微量含まれる。出土遺物はない。

第9層

VIM-119・120に幅約0.5m、最大厚7cmで分布する。水平な堆積である。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、ロームと暗褐色土との混合土層である。第8層に比べてロームの混入割合が大きい。出土遺物は、土器は最花式土器などがわずかに出土した。

第10層

VIL・M-119・120に幅約3.2m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平な堆積である。層中央部は3cm程度と薄い。堆積土は褐色(10YR4/4)土でローム土を主体とし、炭化物が微量に含まれる。出土遺物は、土器は中期後半のもので少量出土した。

第11層

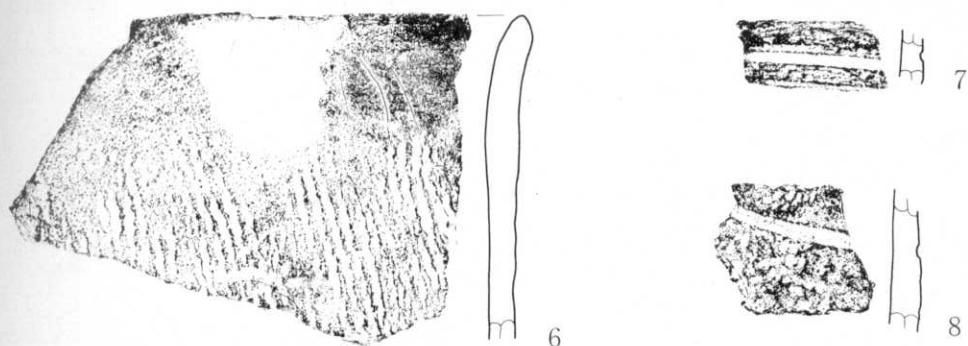
VIL・M-119・120に幅約1.2m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平な堆積であるが、層上面はやや起伏がある。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)土でローム土を主体とする。炭化物が少量含まれ、第10層に比べるとやや暗い色調で、炭化物の混入が多い。出土遺物は、土器は榎林式の細片が少量出土した。



III-6層



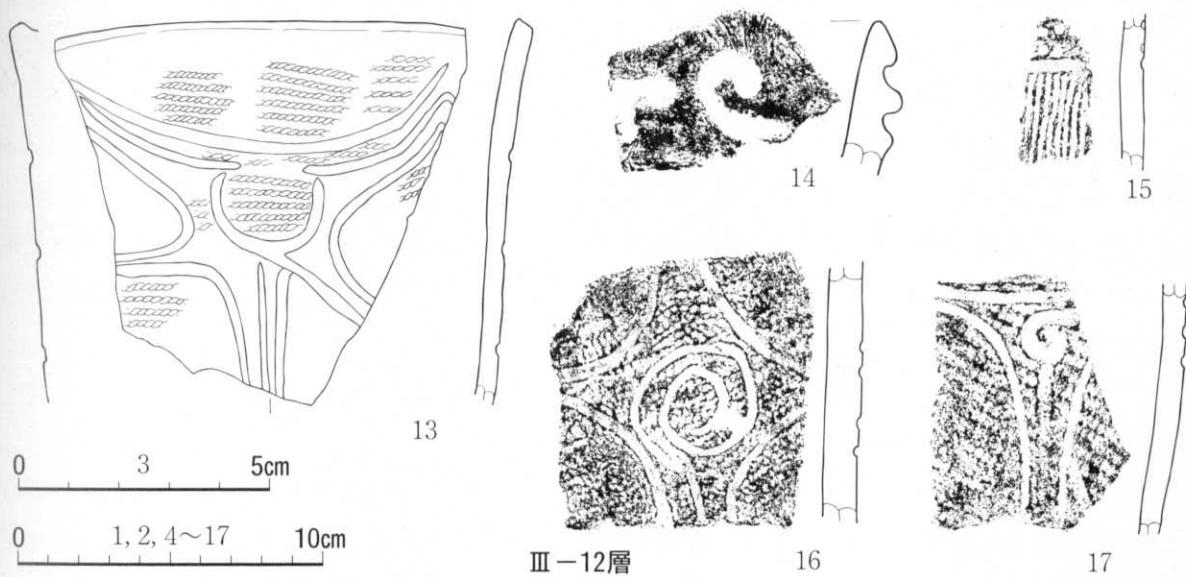
III-9層



III-10層



III-11層



37図 1トレンチIII-6・9・10・11・12層出土遺物

第12層

VIL-119・120に幅約4.7m、最大厚12cmである。他の層に比べると広い分布で、ほぼ水平に堆積する。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、ローム粒が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は榎林式土器が少量出土した。37-13・16は半円ないし渦巻状の沈線の周囲を4から5条の曲線状沈線が囲うモチーフである。37-17は渦巻状沈線が上を横位沈線、両側を曲線状に挟まれたような文様が施文される。

第12'層

VIL・M-119・120に幅約1.4m、最大厚10cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。層東側でやや厚みを増す。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土で、白色浮石・焼土粒がごく微量含まれる。当初第12層と同一層としていたが、本層の色調がやや明るいため分層した。遺物は、土器は中期後半のもので少量出土した。

第13層

VIL・M-119・120に幅約1.7m、最大厚11cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は暗褐色(10YR2/3)土主体で、白色浮石が多量に含まれる。出土遺物は、土器は榎林式土器が少量出土した。

第14層

VIL-119・120に幅約0.45m、最大厚6cmで分布する。第17・18層間の窪み状の部分に堆積した状態である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土主体で、ロームが中量含まれる。第15層に似るが、本層には炭化物は混入しない。出土遺物はない。

第15層

VIL-119・120に幅約0.6m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、ロームが多量、炭化物が微量含まれる。上下の第12・17層より色調が暗く、炭化物量が多い。出土遺物はない。

第16層

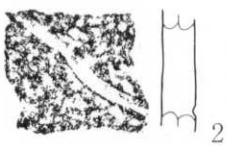
VIK・L-119・120に幅約0.75m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土が主体で、炭化物・ローム粒が少量含まれる。遺物は、土器はごくわずかに出土した。石器は有茎石鏃が1点、スクリイバーが1点出土した。

第17層

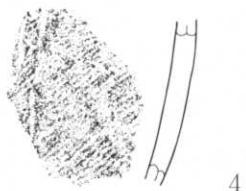
VIL-119・120に幅約1.75m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土は褐色(10YR4/4)土でローム土を主体とし、白色浮石が少量、炭化物が微量に含まれる。遺物は、土器は榎林式土器が少量出土した。



1



2

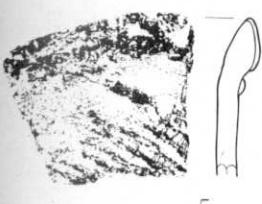


4

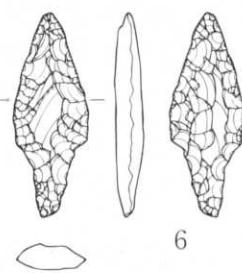


3

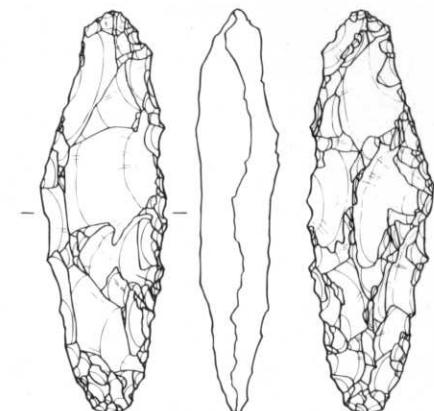
III-13層



5



6



7

III-17層

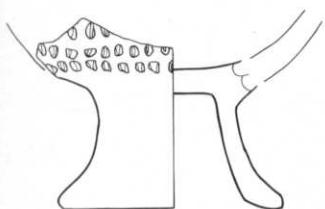


8

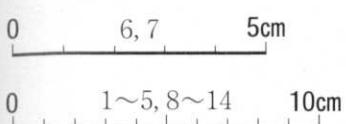


9

III-16層



10



6, 7

5cm



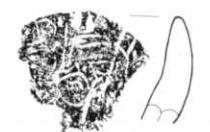
11



12



13



14

III-18層

38図 1 トレンチIII-13・16・17・18層出土遺物

第18層

VIL-119・120に幅約1.0m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、炭化物が中量、焼土粒が極微量含まれる。遺物は、土器は榎林式土器が主体である。曲線状の沈線を施文したものが多い。38-10は台付鉢形土器であるが、型式学的には榎林式のものとは思われない。

第19層

VIK・L-119・120に幅約1.9m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平な堆積であるが、層西側は3cm程度と薄い。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、炭化物粒や塊が少量、ローム粒が少量含まれる。遺物は、土器は榎林式土器片が少量出土した。石器は剥片、石皿?、磨痕のある礫がそれぞれ1点出土した。チップも少量出土した。

第20層

VIL-119・120に幅約0.4m、最大厚6cmで分布する。第22層の窪み状の部分に堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、炭化物が多量に含まれる。遺物は、土器は中期後半のものがごく少量出土した。

第21層

VIL-119・120に幅約0.8m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平な堆積である。堆積土は褐色(10YR4/6)土でローム土を主体とする。暗褐色土が多量、炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は榎林式の細片がごく少量出土したに過ぎない。

第22層

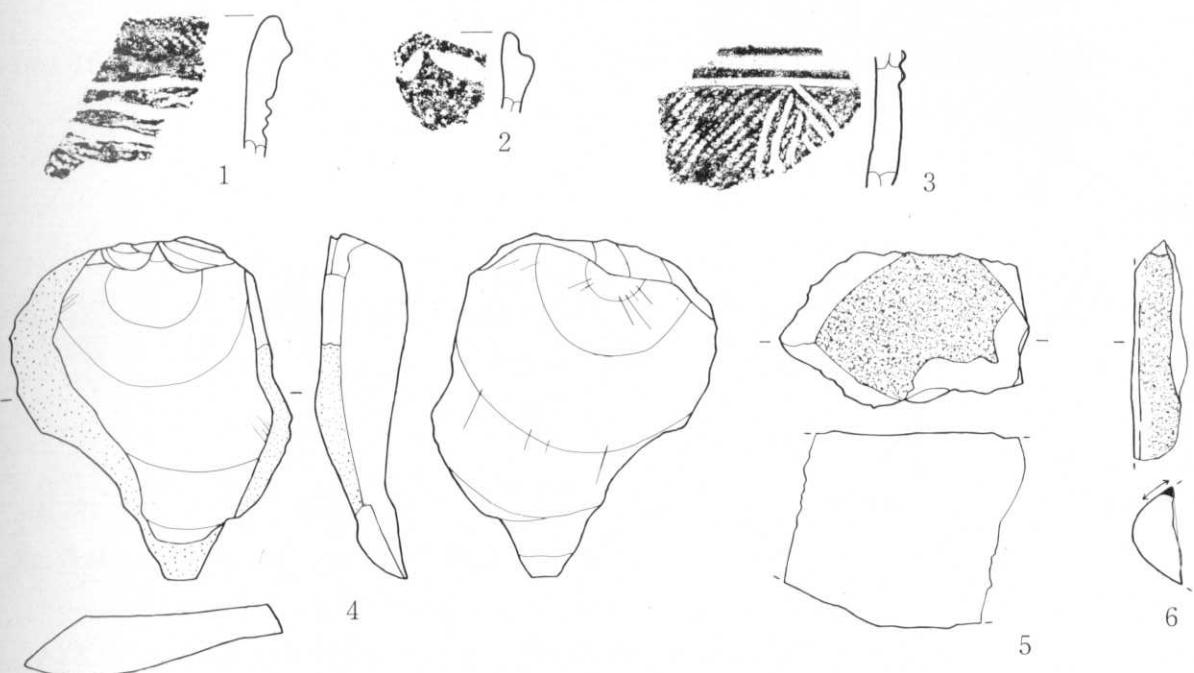
VIK・L-119・120に幅約3.5m、最大厚9cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層上面はやや起伏がある。堆積土は褐色(10YR4/4)土のローム主体で、特に東側では純層を成す。暗褐色土・炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は榎林式土器が少量出土した。39-10は本層出土土器と第20層出土土器とが接合した資料で、地文のみの土器である。石器は有茎鏃(14)、石鏃の未製品(15)、チップが中量出土した。

第23層

VIK-119・120に幅約0.7m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土で、ローム粒が少量、炭化物が微量含まれる。出土遺物はない。

第23'層

VIK-119・120に幅約1.15m、最大厚4cmで狭い範囲に分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)土主体で、焼土・黄褐色ロームブロックが多量に含まれる。遺物は出土しなかつた。

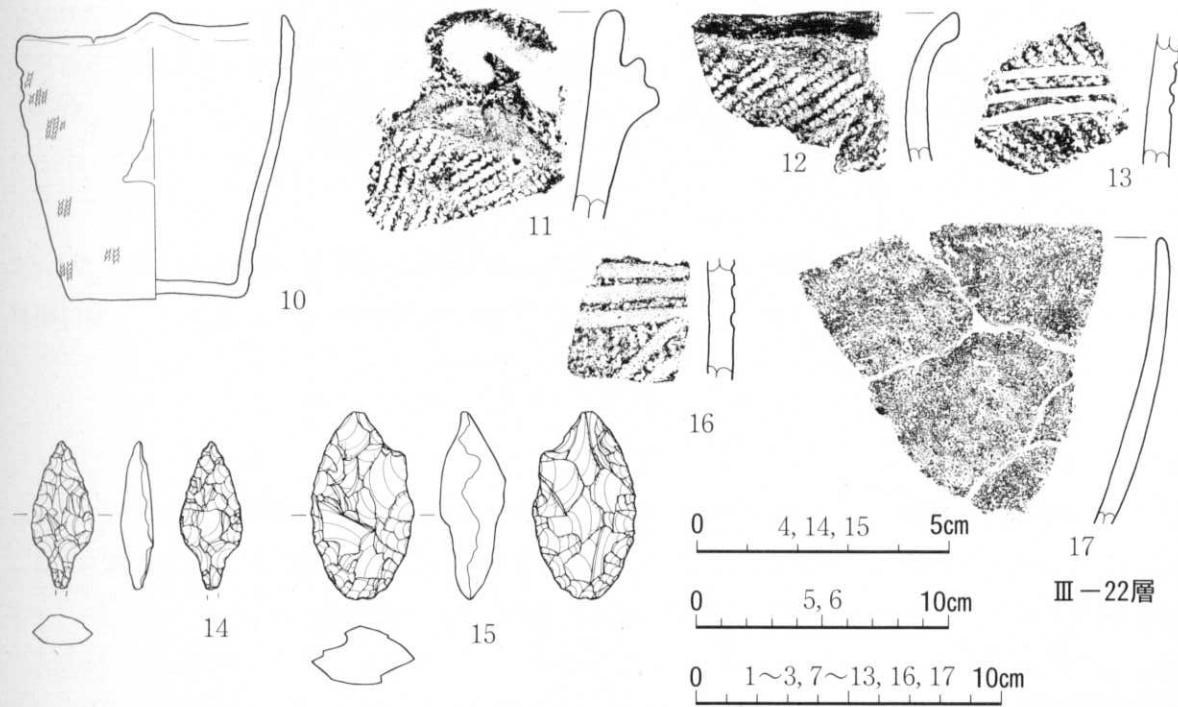


III-19層



III-20層

III-21層



III-22層

39図 1 トレンチIII-19・20・21・22層出土遺物

第24層

VIL-119・120に幅約0.4m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は黄褐色(10YR4/6)土のローム主体で、炭化物や焼土粒が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第25層

VIL-119・120に幅約0.9m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は褐色(10YR4/4)土のローム主体層で、暗褐色土が中量、炭化物が微量含まれる。遺物は、中期後半の土器片がごく少量出土した。

第26層

VIL・M-119・120に幅約2.7m、最大厚12cmで分布する。ほぼ水平の堆積であるが、層厚は部分によって異なる。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土が主体で、炭化物が中量、ローム粒が少量含まれる。第13層に比べ、炭化物・ローム粒・塊とも多い。遺物は、土器は榎林式土器片が少量出土した。石器は、先端部が尖頭状で、急角度の40-8は石錐の可能性がある。ほかに、磨痕のある礫が出土している。

第27層

VIL-119・120に幅約1.3m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)土のローム土を主体とし、白色浮石が多量、炭化物が少量含まれる。上層の第22層よりロームの割合が多く、混入物の割合は少ない。遺物は、土器は榎林式土器片がごく少量出土した。

第28層

VIM-119・120に幅約0.9m、最大厚8cmで分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、ローム粒が少量、焼土粒・炭化物が微量含まれる。上層の第26層より色調が暗く、炭化物の混入割合が少ない。遺物は、土器は榎林式土器片がごく少量出土した。

第29層

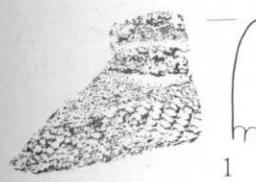
VIL-119・120に幅約1.3m、最大厚4cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、層厚も薄く均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、ローム粒・炭化物が極微量含まれる。遺物は、土器は榎林式土器片がごく少量出土した。

第30層

VIM-119・120に幅約0.75m、最大厚4cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も薄く均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量含まれる。上下層の第28・31層より色調がやや明るい。遺物は、土器は中期中～後半の破片がごく少量出土した。

第31層

VIK～M-119・120に幅約6.7m、最大厚12cmで広く分布する。ほぼ水平な堆積であるが、層厚は部



1



2

III-25層



3



4



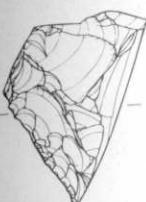
5



6



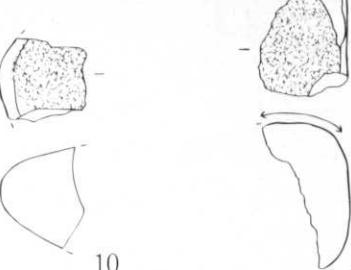
7



8



9



III-26層

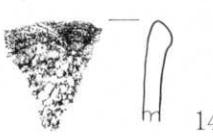


12



13

III-27層



III-28層



15



16

III-29層



17



18

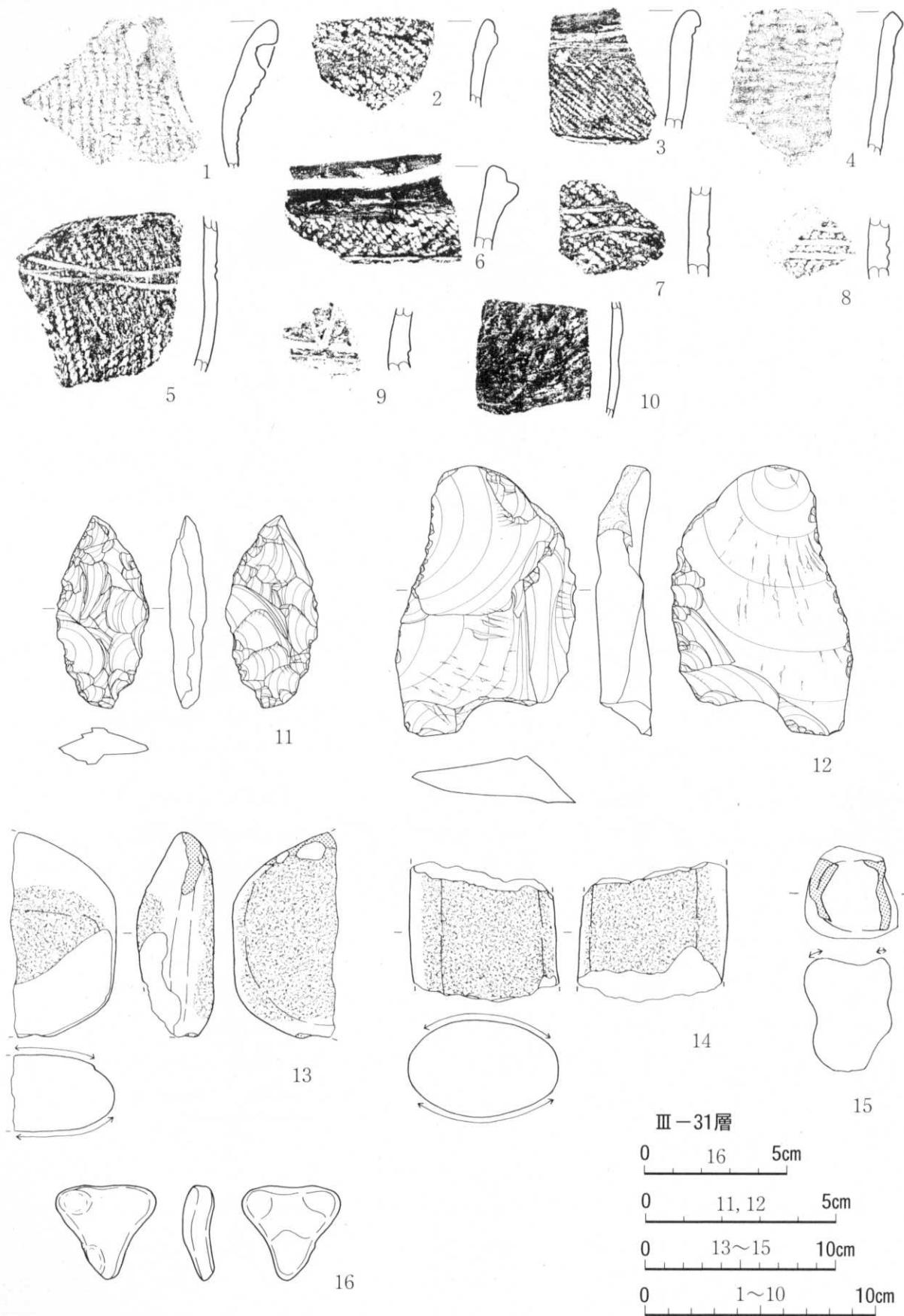
III-30層

0 8 5cm

0 9, 10, 11 10cm

0 1~7, 12~18 10cm

40図 1 トレンチIII-25・26・27・28・29・30層出土遺物



41図 1 トレンチIII-31層出土遺物

分によって異なる。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、ローム粒・塊が少量、炭化物が中量含まれる。遺物は、土器は榎林式土器の破片が出土した。浅い沈線が施文されたものが多い。石器は石槍や、両面を加工した41-11は石鏃の未製品の可能性がある。ほかに使用痕のある剥片(41-12)、磨痕のある礫(41-13・14)、敲打痕のある礫(41-15)、チップが少量出土した。土製品では三角型土製品が1点出土した。やや湾曲しており、表裏とも無文である。

第32層

VIK-119・120に幅約0.85m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)土の混入物を含まないローム主体である。遺物は、土器は榎林式土器が少量出土した。石器は、茎部にアスファルトが付着する有茎石鏃(42-4)とUフレイクがそれぞれ1点出土した。

第33層

VIL-119・120に幅約0.9m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は黄褐色(10YR5/6)土のローム主体層で、炭化物・黒褐色土が少量含まれる。遺物は、榎林式土器片がごく少量出土しただけである。

第34層

VIL-119・120に幅約1.5m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も一定である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土主体で、炭化物が少量、ローム粒が微量含まれる。上層の第31層より明るく、第39層よりもくすんだ色調である。遺物は、土器は円筒上層d式～榎林式土器片が少量出土した。ほかに環状石製品が出土した。垂飾品と思われる。

第35層

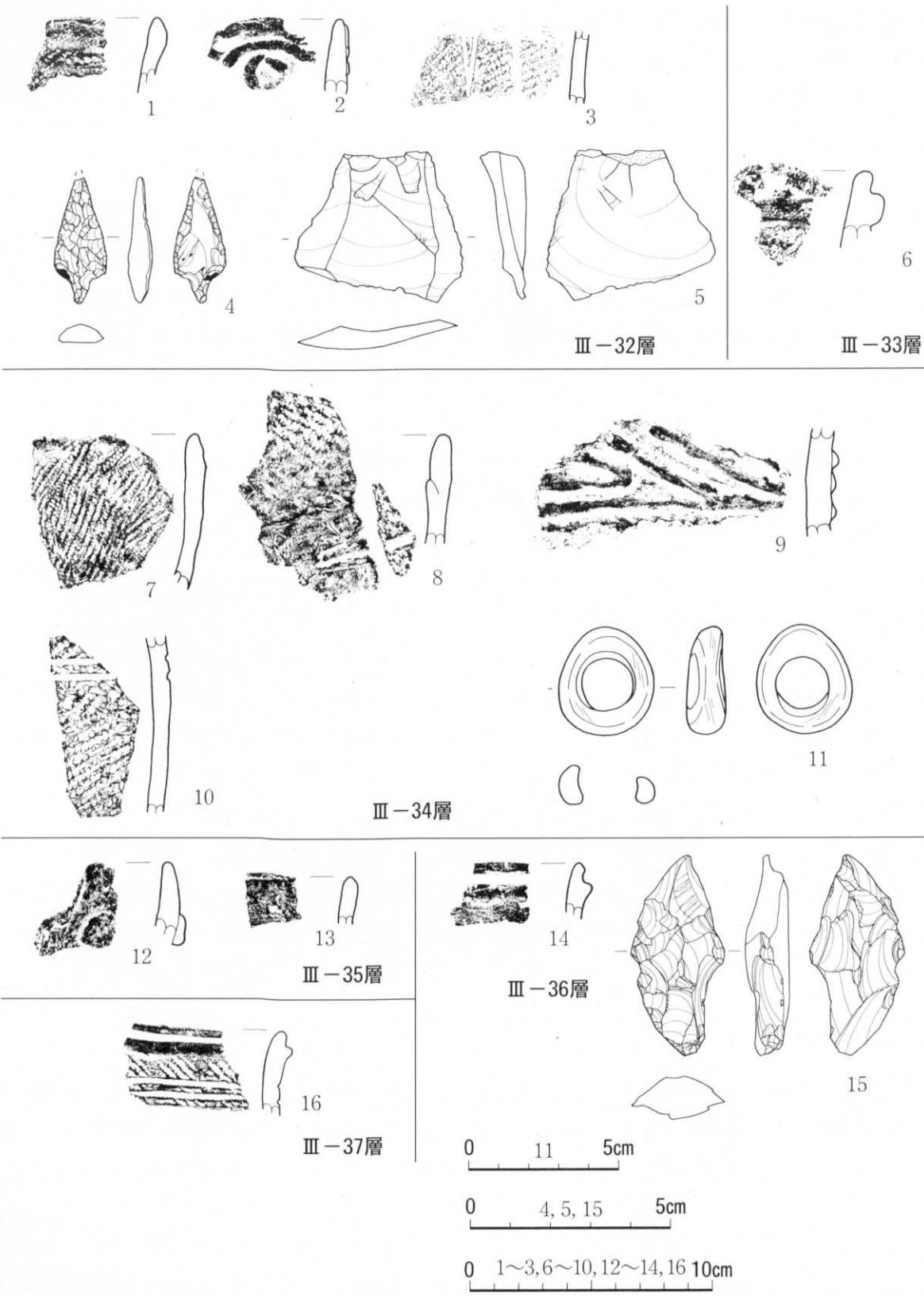
VIL-119・120に幅約0.6m、最大厚3cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も一定する。堆積土は黒色(10YR2/1)土主体で、炭化物が多量に含まれる。遺物は、土器の小片がごく少量出土したに過ぎない。

第36層

VIK・L-119・120に幅約0.7m、最大厚3cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も一定する。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土主体で、焼土が塊状に中量、ローム粒が少量含まれる。遺物は、榎林式土器の小片がごく少量出土した。石器は、42-15は両面加工され、石鏃の未製品の可能性がある。

第37層

VIK・L-119・120に幅約1.0m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土は褐色(10YR4/4)土が主体としたロームと黒褐色土の混合土層である。炭化物が微量含まれる。第46層より明るい色調である。遺物は、土器は榎林式土器片がごく少量、石器チップが少量出土した。



42図 1 トレンチIII-32・33・34・35・36・37層出土遺物

第38層

VIL-119・120に幅約1.0m、最大厚3cmで分布する。ほぼ水平の堆積で、層厚も均一である。堆積土は褐色(10YR4/4)土を主体とし、炭化物がごく微量含まれる。上下層である第31・39層よりも色調が明るく、第39層に比べ炭化物の混入割合が少ない。遺物は、土器は中期後半の土器片がごく少量出土した。43-2は鍔付土器の破片である。石器は、横形の石匙(43-3)、Uフレイク(43-4)がそれぞれ1点出土した。

第39層

VIK・L-119・120に幅約4.2m、最大厚17cmで分布する。ほぼ水平の堆積であるが、層上面はやや起伏がある。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、炭化物・ローム塊が少量含まれる。遺物は、土器は中期中葉から後葉の土器片が出土した。44-3は本層出土土器と、第34層出土土器が接合したものである。石器は、有茎鏃(44-13)、削器あるいは搔器と考えられるもの、チップが少量出土した。44-16は焼成粘土塊である。

第40層

VIM-119・120に幅約0.4m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平な堆積である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量、焼土粒が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第41層

VIM-119・120に幅約0.6m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)の砂質ローム主体とする。

第42層

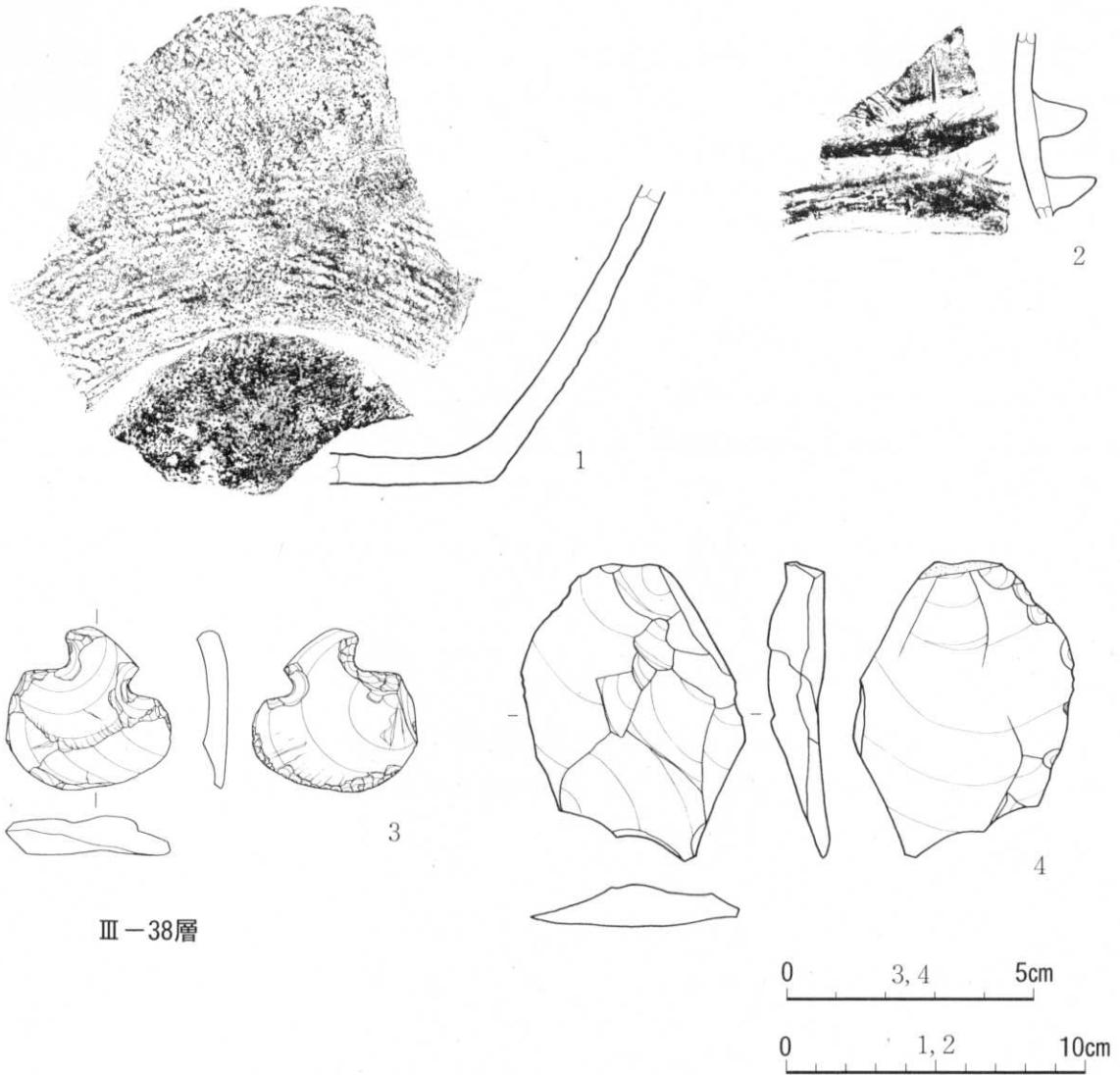
VIL-119・120に幅約0.65m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。層上面はやや起伏がある。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土が主体で、砂質ローム塊が混入し、特に下部で密である。他に炭化物が微量混入する。遺物は出土しなかった。

第43層

VIL-119・120に幅約0.55m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土が主体で、浮石粒が中量含まれる。遺物は出土しなかった。

第44層

VIL-119・120に幅約1.1m、最大厚6cmで分布する。層厚は均一でほぼ水平に堆積するが、東側から西側にやや低い堆積状況である。堆積土は黄褐色(10YR5/6)土のロームが主体で、暗褐色土が少量、炭化物が微量含まれる。出土遺物はない。



43図 1 トレンチIII-38層出土遺物

第45層

VIK-119・120に幅約0.7m、最大厚5cmで分布する。層厚は均一でほぼ水平に堆積するが、東側から西側へ若干傾斜する。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土主体で、炭化物・白色浮石が微量含まれる。遺物は、円筒上層d式土器の小片がごく少量出土した。

第46層

VIK-119・120に幅約1.0m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土主体で、炭化物が中量、焼土粒が微量含まれる。上下層の第37・49層に比べ色調が暗い。遺物は、楕円形土器の小片がごく少量出土した。

第47層

VIK・L-119・120に幅約1.7m、最大厚5cmで分布する。層厚が均一でほぼ水平の堆積であるが、東側から西側へ若干傾斜する。堆積土は炭化物が主体で黒色(10YR1.7/1)を呈し、ローム粒や焼土粒が微量混入する。遺物は、土器は中期中葉から後葉の土器小片がごく少量出土した。石器は有茎鏃が2点出土した。

第48層

VIK-119・120に幅約0.25m、最大厚5cmで分布する。第49層の間隙に入り込んだような堆積状況である。堆積土は黄褐色(10YR5/6)のローム主体層で炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第49層

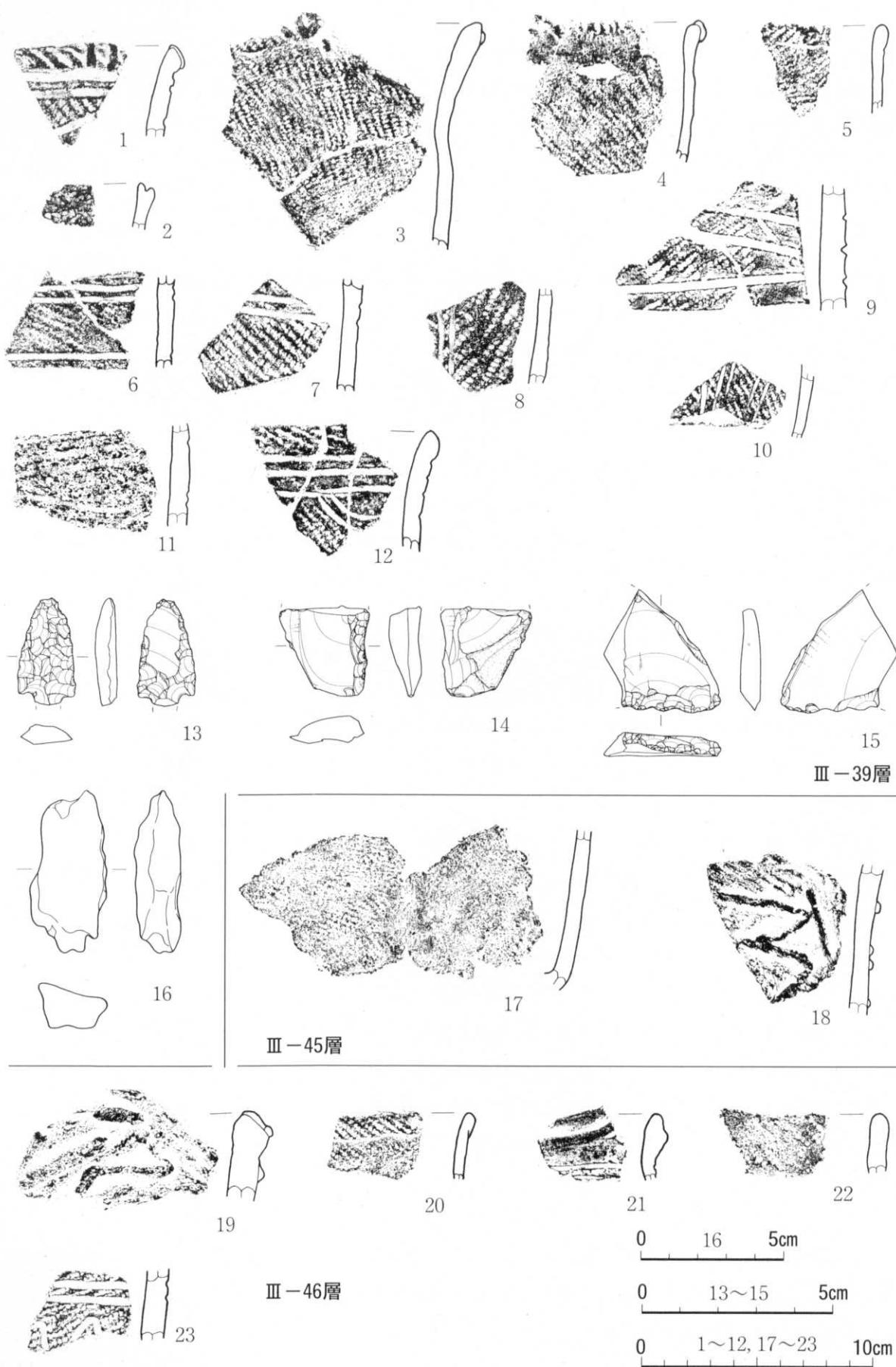
VIK-119・120に幅約1.2m、最大厚11cmで分布する。ほぼ水平の堆積であるが、部分的に第52・54層の間隙に入り込んだような堆積状況を示す部分もある。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、炭化物が筋状に微量含まれる。遺物は、中期中葉から後葉の土器小片がごく少量出土した。

第50層

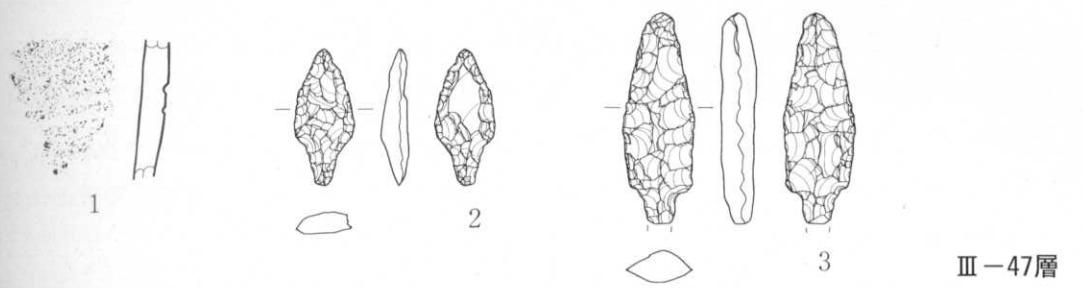
VIL・M-119・120に幅約2.7m、最大厚16cmで分布する。ほぼ水平な堆積であるが、層上面はやや起伏があり、層厚も一定しない。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、炭化物・ローム粒が少量、焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式が主体で、e式土器も若干混じる。石器は被熱痕と使用痕のある剥片(45-14)、異形石器が各1点、チップが少量出土した。

第51層

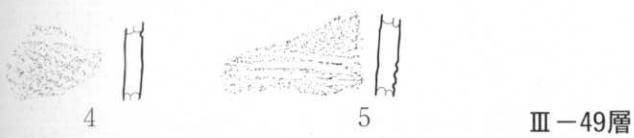
VIL-119・120に幅約1.35m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平に堆積するが、層上面は起伏がある。堆積土は黒褐色(10YR2/3)主体で、ローム粒が少量混入する。遺物は、土器は円筒上層d式土器片が少量出土した。石器は剥片が出土した。



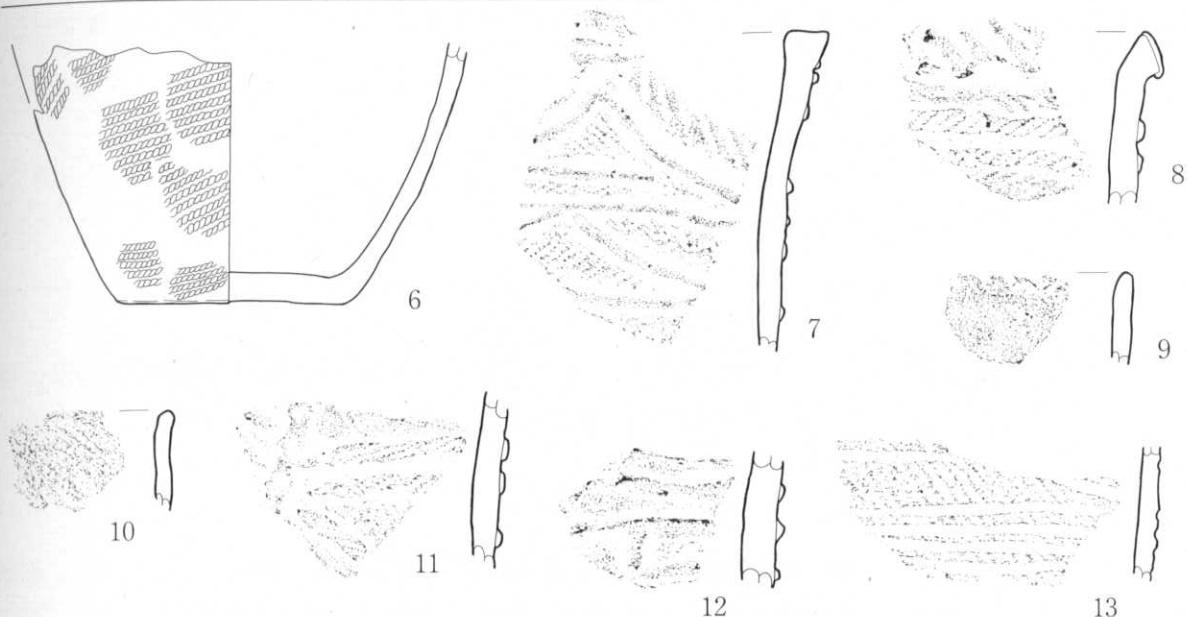
44図 1トレンチIII-39・45・46層出土遺物



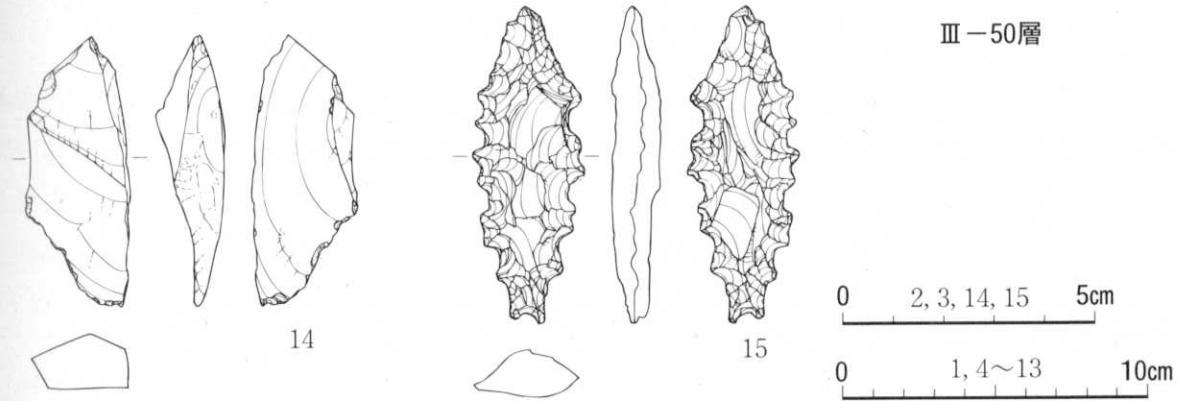
III-47層



III-49層



III-50層



0 2, 3, 14, 15 5cm
0 1, 4~13 10cm

45図 1トレンチIII-47・49・50層出土遺物

第52層

VIK・L-119・120に幅約2.65m、最大厚8cmで分布する。ほぼ水平に堆積するが、層中央が第53・55・56層の間隙に落ち込んだように堆積する。その部分の層厚は厚い。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土が主体で、炭化物・ローム粒が微量混入する。遺物は、土器は沈線文が施文されたものが出土している。46-7・11には曲線状のモチーフが、46-10はカギ状のモチーフが見られる。石器は磨痕のある礫が1点、チップが少量出土した。

第53層

VIK-119・120に幅約1.3m、最大厚5cmで分布する。層厚は均一で、ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR5/4)のローム土が主体で、黒褐色土少量、焼土粒・炭化物が微量含まれる。出土遺物は、口縁部に多条の横位沈線が施文された土器片が出土した。遺物の出土量はごく少量である。

第54層

VIK-119・120に幅約0.35m、最大厚3cmで分布する。堆積土は黒色(10YR2/1)の炭化物が主体で、非常に狭い範囲の広がりである。遺物は出土しなかった。

第55層

VIK・L-119・120に幅約1.2m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層中央部が厚い。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土主体で、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第56層

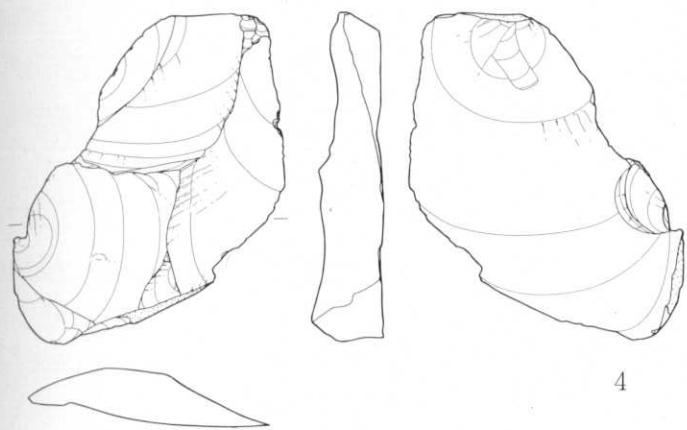
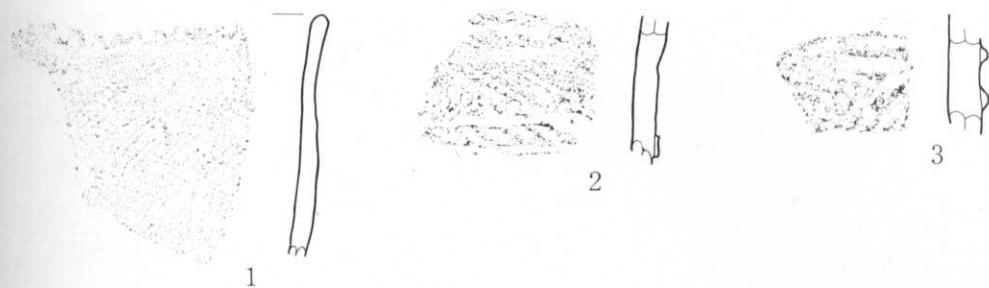
VIL-119・120に幅約0.3m、最大厚4cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層中央が最も厚い。堆積土はにぶい黄褐色(10YR5/4)土が主体で、暗褐色土との混合土である。遺物は出土しなかった。

第57層

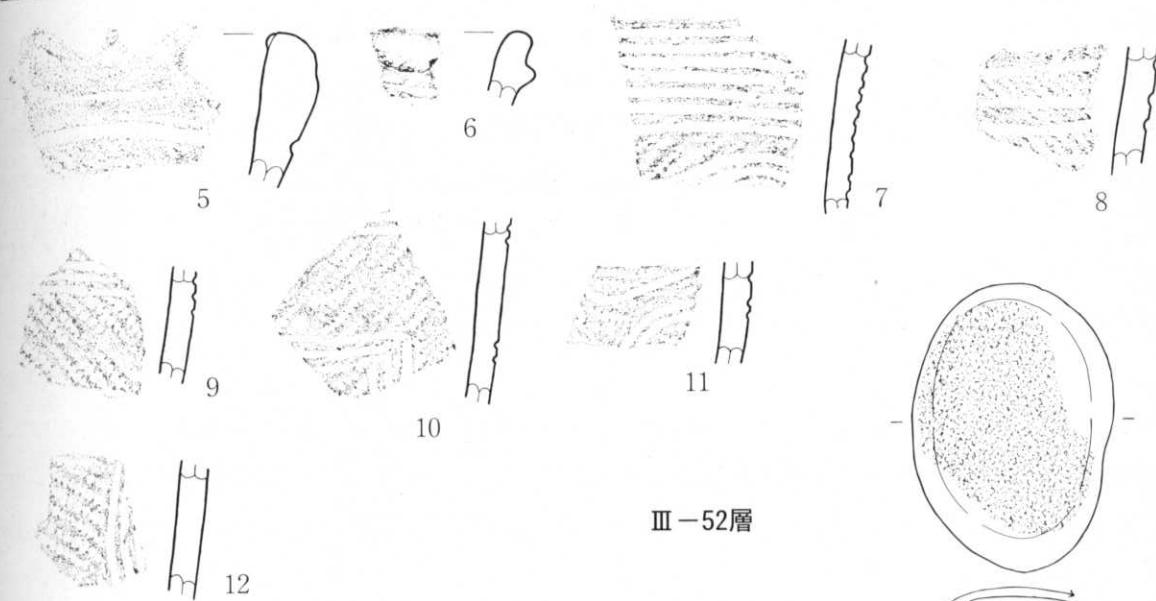
VIK・L-119・120に幅約3.3m、最大厚11cmで分布する。堆積に若干の起伏はあるものの、ほぼ水平の堆積である。堆積土は褐色(10YR4/4)土が主体で、炭化物が中量混入する。遺物は、土器は円筒上層e土器片が出土した。47-1は上半部を復元したので、横位沈線が多段に施文された円筒上層e式土器である。他の土器片にも沈線が施文されたものが多い。石器は有茎鏃(47-5)、被熱痕のある剥片(47-6)が出土しており、両面加工石器(47-7)は、石鏃の未製品の可能性がある。他に石錐1点(47-8)が出土した。

第58層

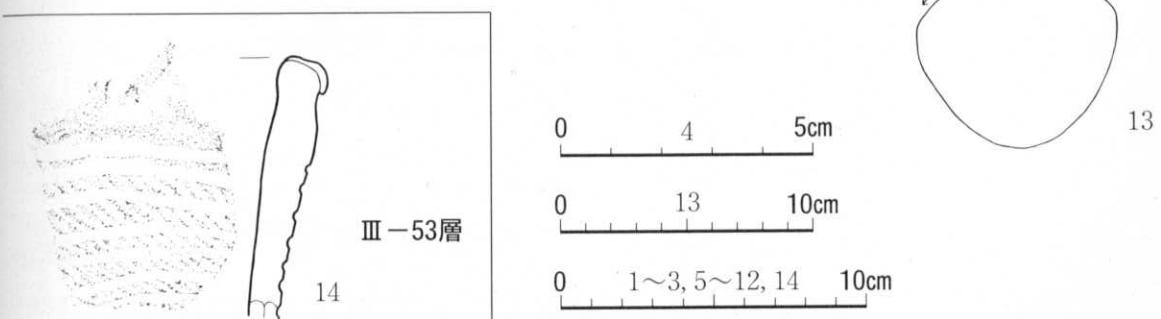
VIL-119・120に幅約0.5m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)のローム主体層で暗褐色土が少量含まれる。上層の第57層より明るい色調である。遺物は横位沈線が施文された土器小片が出土した。



III-51層



III-52層



46図 1トレンチIII-51・52・53層出土遺物



47図 1 トレンチIII-57層出土遺物

第59層

VIK・L-119・120に幅約1.7m、最大厚18cmで分布する。ほぼ水平の堆積であるが、東側で層厚を増し、他の層に比べても厚い。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、ローム粒・炭化物が微量含まれる。遺物は、円筒上層d土器片が少量出土した。48-2は口縁部で、口唇部に刻みが巡る。石器チップが少量出土した。

第60層

VIL-119・120に幅約0.6m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平な堆積である。堆積土は砂質のにぶい黄褐色(10YR6/3)土を主体とし、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第61層

VIK・L-119・120に幅約1.4m、最大厚8cmで分布する。ほぼ水平に堆積するが、層上面は起伏がある。堆積土は黒褐色(10YR2/3)主体で、ローム粒・塊が少量、炭化物が微量混入する。遺物は、土器は沈線が施文された小片が少量出土した。

第62層

VIK・L-119・120に幅約0.95m、最大厚4cmで分布する。東側に若干傾斜して堆積するが、層厚が均一である。堆積土は褐色(10YR4/4)土が主体で、焼土が中量、白色砂・炭化物が少量混入する。遺物は、土器は復元したものが1点と中期中葉の土器片がごく少量、石器は石鏃が2点出土した。48-9は口縁部から胴上半部まで約1/4が復元でき、地文のみが施文されたもので、第57層出土土器と接合したものである。石器は、有茎鏃(48-14・15)が2点出土した。48-15の茎部にはアスファルトが付着している。また、チップが少量出土した。

第62'層

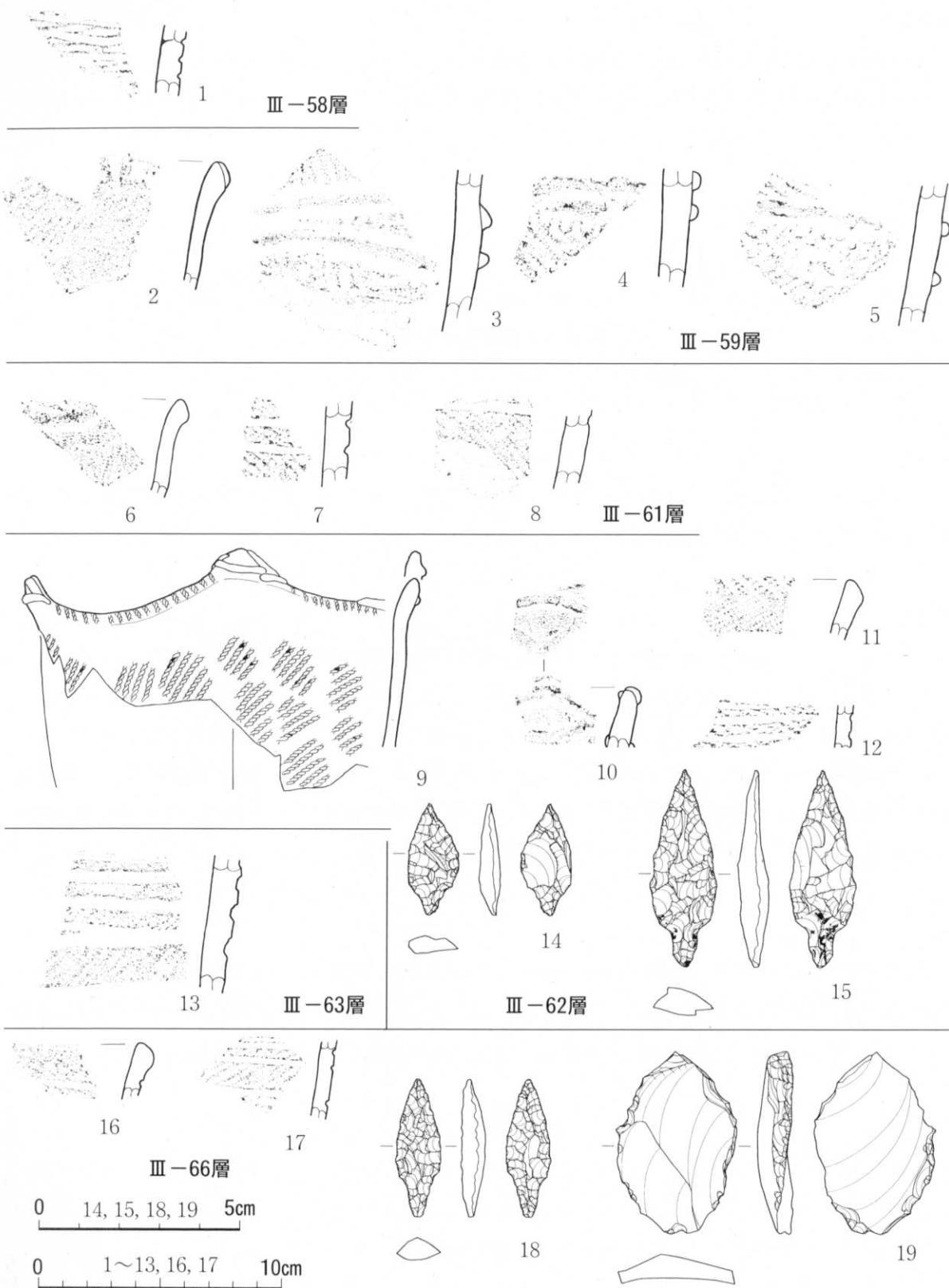
VIL-119に幅約0.95m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積するが、層上面は起伏がある。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土が主体で、黄褐色ロームブロック・白色粘土が多量に混入する。当初第62層と同一層としてとらえていたが、第62層よりも色調が暗いために分層した。遺物は出土しなかった。

第63層

VIK-119・120に幅約0.85m、最大厚8cmで分布する。層厚は均一で、東側に向かって傾斜する。堆積土は黒色(10YR2/1)土が主体で、炭化物・白色浮石が微量含まれる。上層の第59層よりも色調が暗い。遺物は、横位沈線が施文された土器片が出土しただけである。

第64層

VIL-119・120に幅約0.70m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚もほぼ同じである。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土が主体で、炭化物少量含まれる。上下層の第51・65層より色調が暗い。遺物は出土しなかった。



48図 1 トレンチIII-58・59・61・62・63・66層出土遺物

第65層

VI L - 119・120に幅約0.95m、最大厚6cmで狭い範囲に分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土主体で、焼土粒・炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第66層

VI K - 119・120に幅約0.9m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土主体で、白色浮石が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は横位沈線が施文された小片がごく微量、石器は有茎鏃(48-18)、削器あるいは搔器(48-19)が出土した。

第67層

VI L - 119・120に幅約0.55m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平の堆積で、層厚も一定である。堆積土はにぶい黄橙色(10YR6/4)のロームと白色砂の混合土である。砂質で粗い。焼土粒が微量混入する。遺物は、土器は円筒上層e土器片が出土した。49-1は復元し得たもので、口縁部から胴部上半に地文が施文される。突起部下のボタン状貼付は剥落している。この土器は、第50層から出土した土器と接合したものである。石器は、被熱痕のある有茎石鏃(49-6)、敲打による凹をもつ礫がそれぞれ1点出土した。

第67'層

VI L - 119・120に幅約0.85m、最大厚3cmで分布する。ほぼ水平の堆積で、層厚も一定である。堆積土は褐色(7.5YR4/6)土で、焼土が多量に含まれる。当初第67層と同一層としていたが、焼土粒の多さにより分層した。遺物は、土器は円筒上層e土器小片がごく少量と敲磨器類が出土ただけである。

第68層

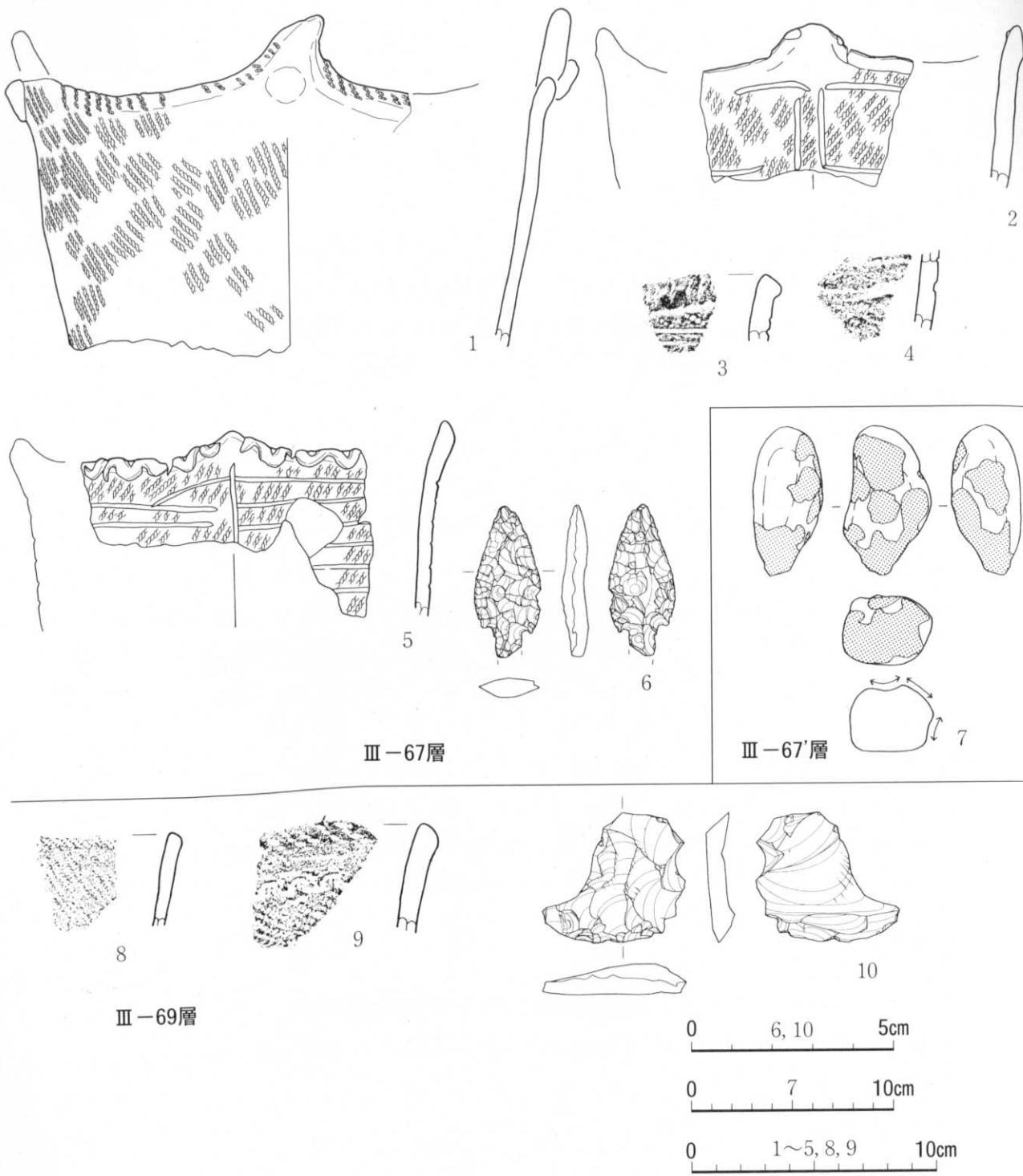
VI K・L - 119・120に幅約1.2m、最大厚5cmで分布する。やや東側に傾斜するが、ほぼ水平に堆積する。堆積土は黒褐色(10YR5/4)土が主体で、ローム粒・炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第69層

VI L - 119・120に幅約0.6m、最大厚2cmで分布する。ほぼ水平に、第70層の落ち込みに入り込んだように堆積する。堆積土は黒色(10YR2/1)の炭化物層である。遺物は、土器は中期中葉の土器小片がごく少量、石器は剥片が出土した。

第70層

VI K・L - 119・120に幅約2.1m、最大厚10cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、層中央がやや厚い。堆積土は砂質の暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、ローム粒が微量、炭化物がごく微量含まれる。遺物



49図 1 トレンチIII-67・67'・69層出土遺物

は、土器は中期中葉の土器片が少量、石器は有茎鏃が1点、チップが中量出土した。

第71層

VIK・L-119・120に幅約1.8m、最大厚8cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層東側は厚くなる。堆積土は黒褐色(10YR2/2)主体で、炭化物が微量混入する。遺物の出土量はわずかである。土器では円筒上層e式土器片がごく少量出土した。石器では石鏃が有茎鏃(50-6)、尖基鏃(50-7)が2点、チップが中量出土した。

第72層

VIK・L-119・120に幅約5.2m、最大厚10cmで分布する。最大厚の部分を除けば、全体に5cm以下と薄い。東側に向かって緩く傾斜して堆積するが、層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土が主体で、炭化物が多量、ローム粒がごく極微量混入する。遺物は、土器は中期中葉の土器片が少量出土した。石器は削器ないし搔器(51-4~6)、被熱痕のある剥片(51-7)、使用痕のある剥片、石器断片、チップが多量に出土した。

第73層

VL-119・120に幅約1.8m、最大厚6cmで分布する。層厚はほぼ均一で、水平に堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土が主体で、炭化物が少量、ローム粒・焼土粒が微量含まれる。遺物は、中期中葉の土器小片がわずかに出土しただけである。

第74層

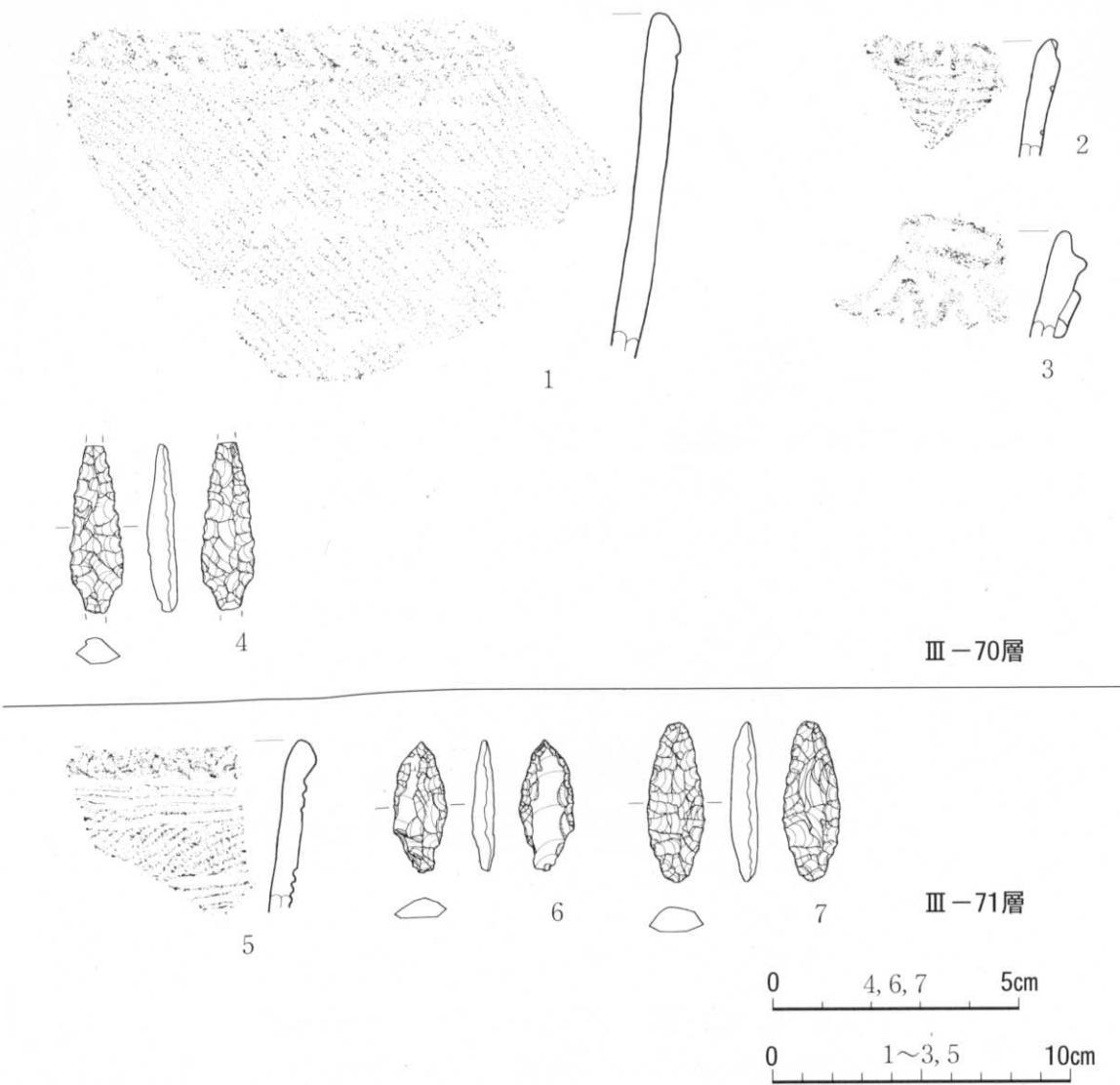
VL-119・120に幅約1.8m、最大厚7cmで分布する。若干東側に傾斜するものの、ほぼ水平な堆積である。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土が主体で、炭化物・白色浮石が微量含まれる。西側の第76層よりも色調が暗い。遺物は出土しなかった。

第75層

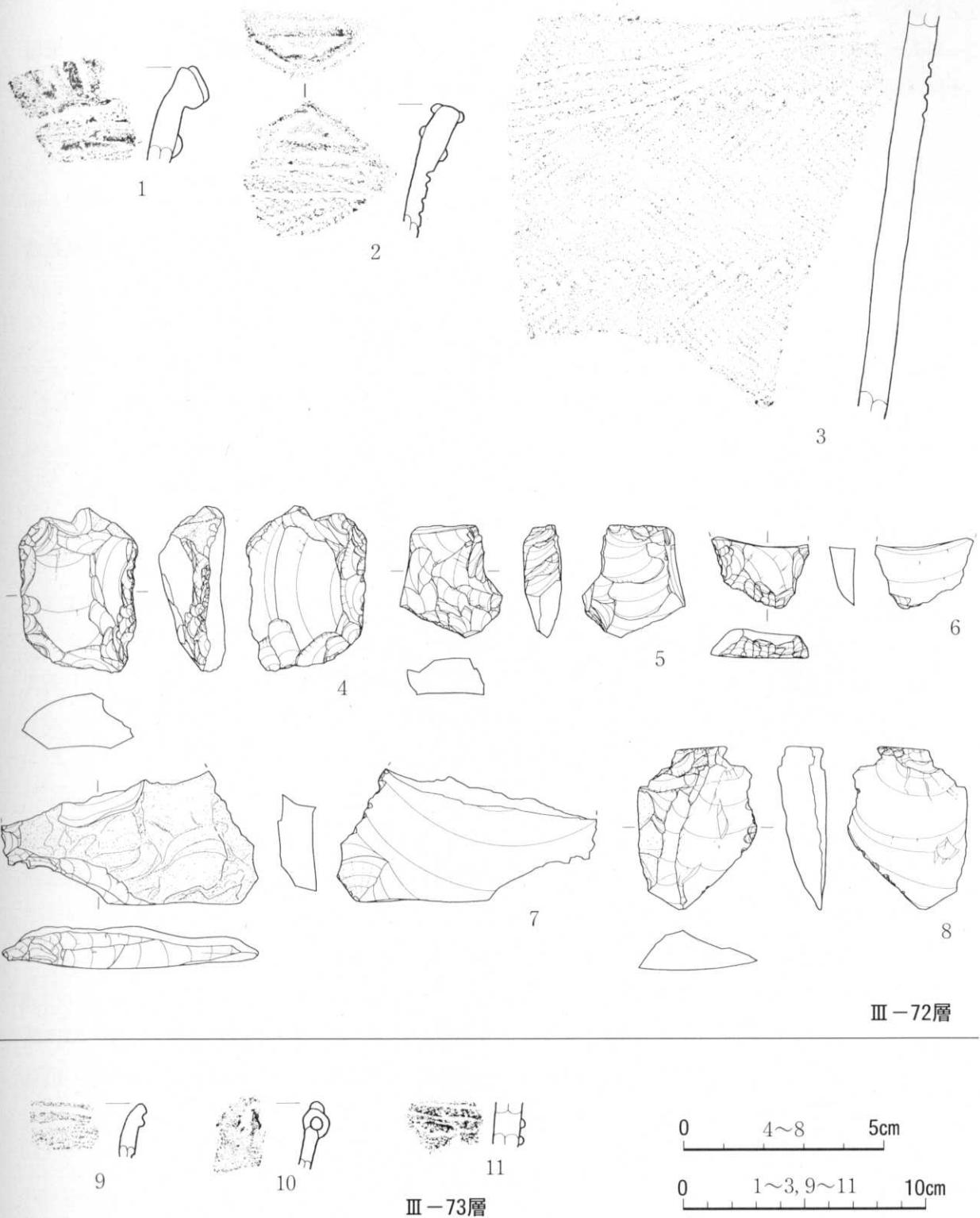
VL-119・120に幅約0.75m、最大厚4cmで狭い範囲に分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土主体で、ローム粒・炭化物が少量含まれる。遺物は、中期中葉の土器片がごく少量出土しただけである。

第76層

VL-119・120に幅約1.8m、最大厚7cmで分布する。東側に向かって低く傾斜しながら堆積し、層厚は均一である。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)土主体で、白色浮石が中量、炭化物が少量含まれる。下層の第83層より色調が明るく、炭化物の混入割合が少ない。遺物は、中期中葉の土器片がごく少量出土しただけである。



50図 1トレンチIII-70・71層出土遺物



51図 1 トレンチIII-72・73層出土遺物

第77層

VIL-119・120に幅約0.5m、最大厚5cmでごく狭い範囲に分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土は黄褐色(10YR5/6)のローム主体層である。遺物は出土しなかった。

第78層

VIL-119・120に幅約0.7m、最大厚3cmでごく狭い範囲に分布する。ほぼ水平の堆積で、層厚も均一である。堆積土は褐色(10YR4/4)土主体で、ロームと黒褐色土との混合土である。炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第79層

VIK・L-119・120に幅約1.05m、最大厚4cmで分布する。ほぼ水平の堆積で、層厚も均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土主体で、炭化物が中量、ローム粒が微量混入する。遺物は出土しなかった。

第80層

VIK-119・120に幅約1.7m、最大厚10cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、第84・87層の間隙に落ち込み層中央が厚い。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、炭化物が少量、ローム粒が微量含まれる。遺物は、土器は中期中葉の土器片が少量出土した。52-5は胴下半部が復元したので、無文である。石器は有茎鏃が1点出土した。

第81層

VIL・M-119・120に幅約1.2m、最大厚11cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層中央が厚い。堆積土は黄褐色(10YR5/8)の砂質ローム主体層で、黒褐色土が少量、炭化物が中量混入する。炭化物は部分的に筋状に入る。遺物は出土しなかった。

第82層

VIL・M-119・120に幅約0.9m、最大厚5cmで分布する。第83層の落ち込みに堆積し、層厚はほぼ均一である。堆積土は褐色(10YR4/4)の砂質ロームが主体で、黒褐色土が少量混入する。上層の第81層よりも黒褐色土の混入割合が多い。遺物は出土しなかった。

第83層

VIL・M-119・120に幅約4.4m、最大厚6cmで分布する。西側ではほぼ水平な堆積であるが、東側で落ち込む。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土が主体で、炭化物・ローム粒が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器片が少量出土した。石器は、削器ないし搔器(53-5・6)、二次加工剥片(53-7)、Uフレイク(53-8)、チップが少量出土した。



1

2

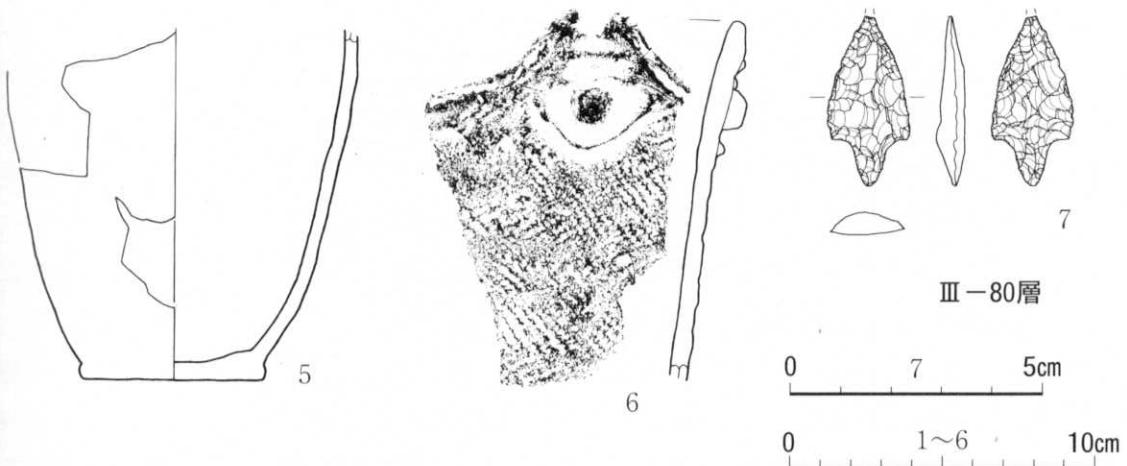
III-75層



3

4

III-76層

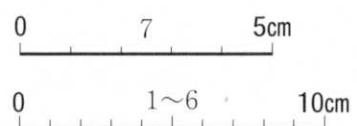


5

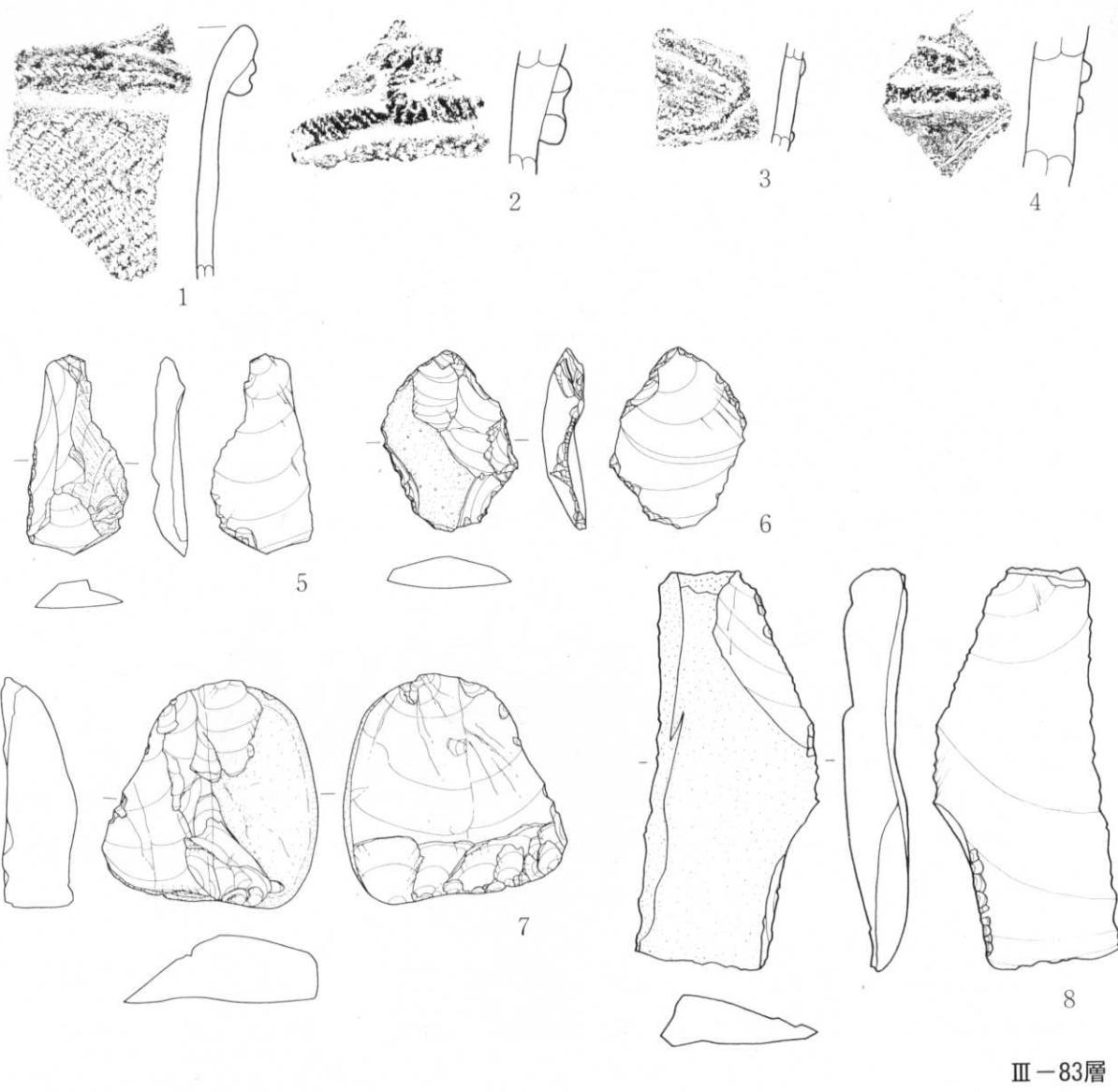
6

7

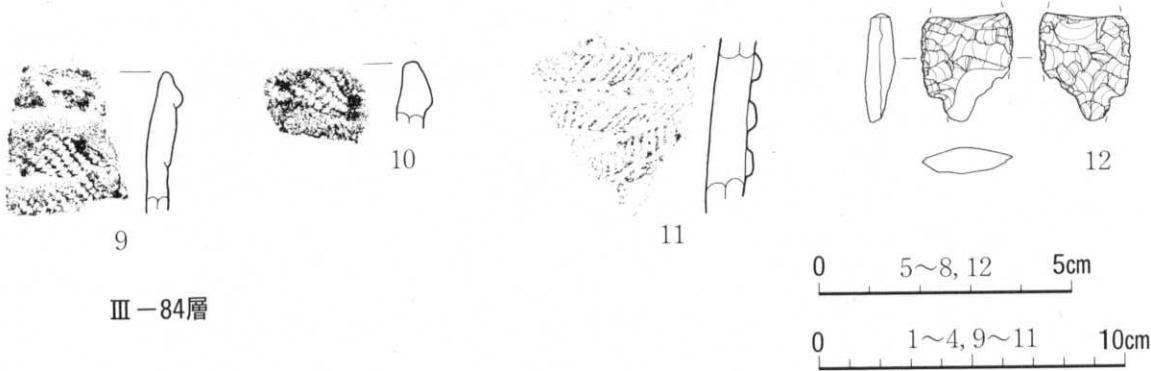
III-80層



52図 1トレンチIII-75・76・80層出土遺物



III-83層



III-84層

0 5~8, 12 5cm
0 1~4, 9~11 10cm

53図 1トレンチIII-83・84層出土遺物

第84層

VIK・L-119・120に幅約2.4m、最大厚9cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、若干の凹凸はあるものの、層厚もほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土が主体で、炭化物微量、焼土粒ごく微量含まれる。遺物は、土器は中期中葉の土器小片がごく少量、石器は有茎鏃の基部の破片が1点、チップが中量出土した。

第85層

VIL・M-119・120に幅約1.3m、最大厚13cmで分布する。ほぼ水平に堆積で、第86・101層の間隙に入り込んだ部分で厚くなる。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土主体で、炭化物・焼土粒が微量含まれる。遺物は石器チップが少量出土した。

第86層

VIM-119・120に幅約0.5m、最大厚4cmで分布する。層厚は均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土主体で、炭化物・ローム粒が少量含まれる。東側の第85層より色調が明るく、混入物の割合が多い。遺物は出土しなかった。

第87層

VIK・L-119・120に幅約1.8m、最大厚4cmで分布する。ほぼ水平の堆積で、層厚も薄く均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/1)土主体で、炭化物が少量混入する。遺物は、土器は円筒上層d式土器片が少量出土した。石器では、縦形石匙の末端部と推定される断片、チップが少量出土した。ほかに石製品が1点出土した。台または脚部の可能性があるものと思われる。

第88層

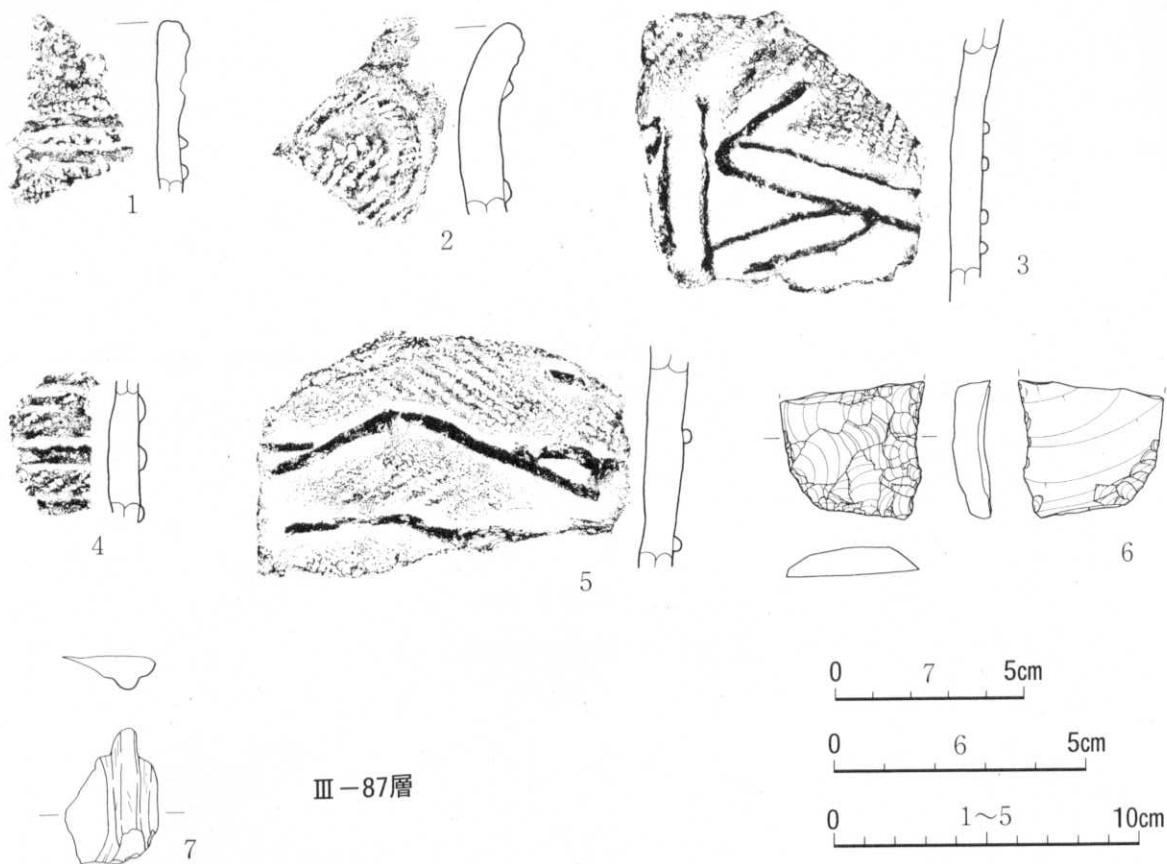
VIK・L-119・120に幅約2.4m、最大厚12cmで分布する。ほぼ水平の堆積で、層東側で厚さを増す。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土で、炭化物・白色浮石がごく微量含まれる。上層の第87層より色調が明るく、混入物の割合が少ない。遺物は、土器は円筒上層d式土器の小片が少量出土した。石器では、使用痕のある剥片(55-8)、末端部に整形加工が施された使用痕のある剥片(55-9)、石核(55-10)のほかにチップが少量出土した。

第89層

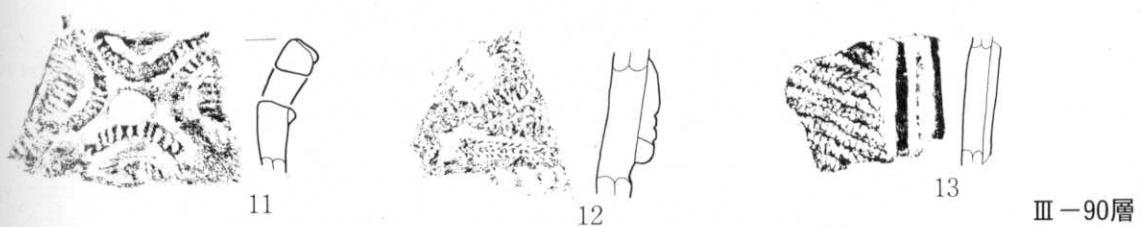
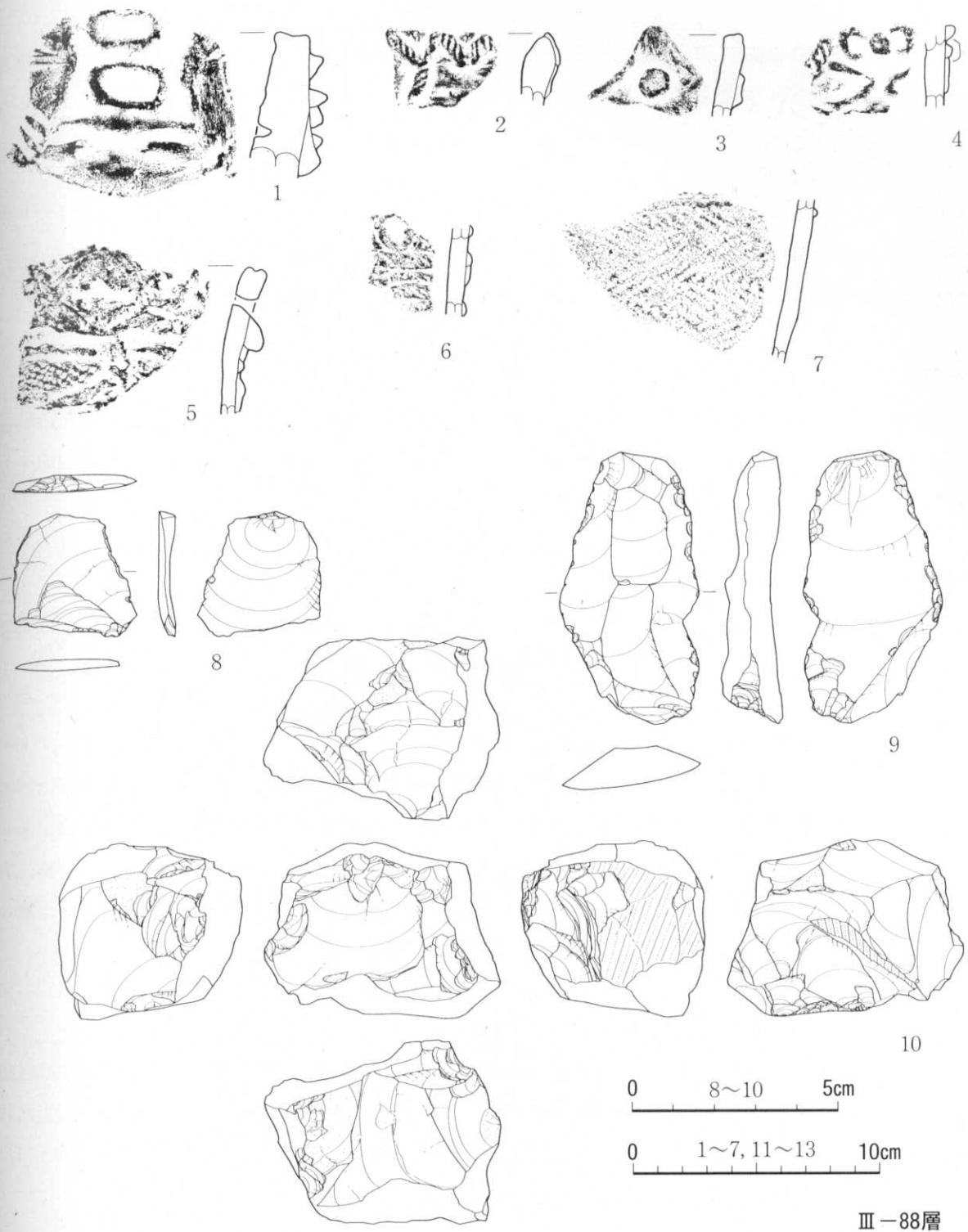
VIK-119・120に幅約0.3m、最大厚3cmでごく狭く分布する。ほぼ水平の堆積である。堆積土は黒褐色(10YR3/1)土主体で、炭化物・焼土粒が微量混入する。遺物は出土しなかった。

第90層

VIK-119・120に幅約1.1m、最大厚3cmで分布する。若干東側に低く傾斜するものの、ほぼ水平な堆積で、層厚も均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/1)土を主体とし、炭化物が多量、ローム粒・焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は中期中葉の土器片がごく少量出土した。



54図 1 トレンチIII-87層出土遺物



55図 1 トレンチIII-88・90層出土遺物

第91層

VIK-119・120に幅約1.0m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土主体で、ローム粒が多量、炭化物・焼土粒が少量混入する。遺物は出土しなかった。

第92層

VIL-119・120に幅約0.4m、最大厚3cmでごく狭く分布する。第94・95層の落ち込みに堆積する。堆積土は褐色(10YR4/4)土主体でロームが多量に含まれる。遺物は出土しなかった。

第93層

VIK-119・120に幅約0.5m、最大厚3cmで分布する。第95層の落ち込みに堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土が主体で、ローム粒・塊・炭化物が少量、白色粘土塊が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第94層

VIL-119・120に幅約0.6m、最大厚7cmでごく狭く分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土が主体で、炭化物・焼土粒が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第95層

VIK・L-119・120に幅約3.05m、最大厚13cmで分布する。ほぼ水平に堆積するが、層上面には起伏がある。堆積土は黒褐色(10YR3/3)土主体で、炭化物・白色浮石が少量含まれる。上下層の第90・99層より色調が明るく、混入物の割合が少ない。遺物は、土器は中期中葉の土器小片がごく少量、石器は断片(56-3)、削器ないし搔器(56-4・5)、石器チップが多量に出土した。そのほか、無文の土偶の腕部が出土した。胸部の突起は剥落している。

第96層

VIL-119・120に幅約1.7m、最大厚7cmで分布する。東側に向かって低く傾斜するが、層厚はほぼ同じである。堆積土は暗赤褐色(5YR3/6)の焼土が主体で、炭化物微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器小片が出土した。石器は、分類上のその他(56-10・11)が出土している。56-11には煤が付着している。チップも少量出土した。

第97層

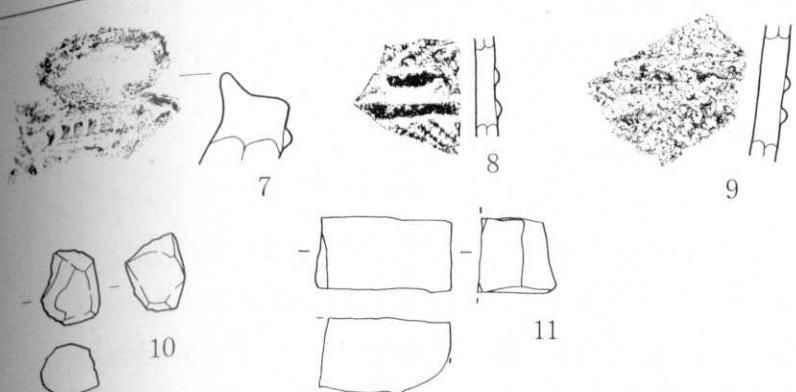
VIL-119・120に幅約0.3m、最大厚3cmで分布する。第100層の落ち込みに堆積する。堆積土は黒色(10YR2/1)土主体である。遺物は、中期中葉の土器小片がごく少量出土しただけである。

第98層

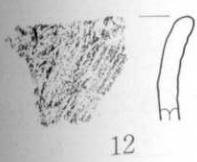
VIL-119・120に幅約0.15m、最大厚3cmでごく狭く分布する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)



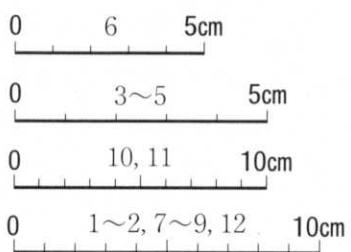
III-95層



III-96層



III-97層



56図 1トレンチIII-95・96・97層出土遺物

のローム主体層で、黒褐色土が中量含まれる。遺物は出土しなかった。

第99層

VIL-119・120に幅約0.7m、最大厚5cmで分布する。非常に薄い堆積層である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土主体で、炭化物が中量、ローム粒が少量混入する。遺物は出土しなかった。

第100層

VIL-119・120に幅約2.7m、最大厚3cmで分布する。東側に低く傾斜する。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、白色浮石・炭化物が少量含まれる。炭化物は部分的に筋状に入る。遺物は、土器は円筒上層d式土器片が出土した。貼り付け隆帯上面は無文のものが多いが、57-7は刻みが連続するものである。石器は、石鏃未製品(57-9)、メノウ製の使用痕のある剥片(57-10)、削器ないし搔器(57-11・12)、磨痕のある礫(57-13)、チップも中量出土した。ほかに、土偶の腕部が1点出土した。縄文の回転施文後、直線状の縄文押圧が加えられている。

第101層

VIL-119・120に幅約0.55m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土主体で、ローム粒・炭化物が少量混入する。遺物は、中期中葉の土器小片が少量出土した。

第102層

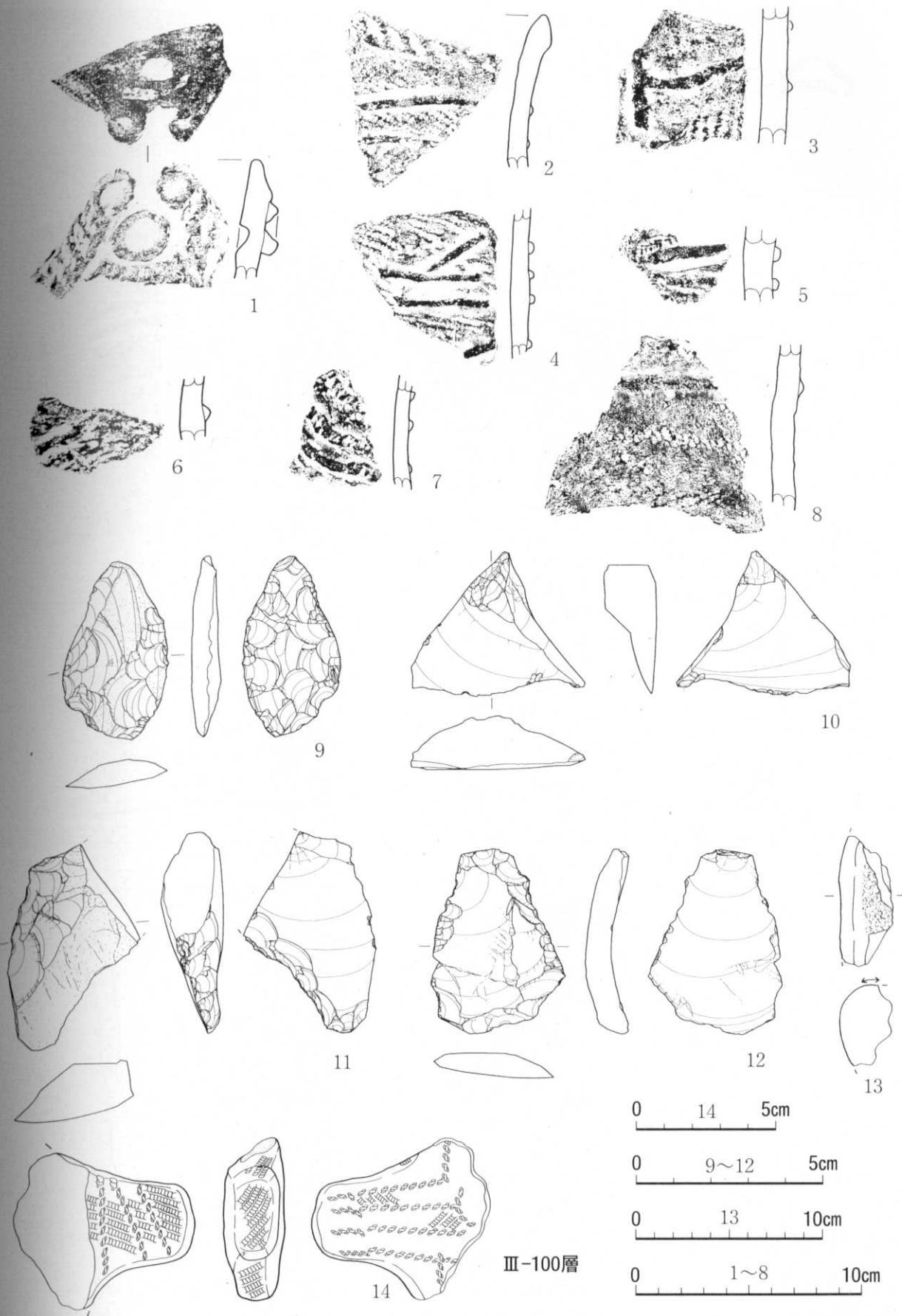
VIL-119・120に幅約0.9m、最大厚7cmで分布する。東側に低く傾斜し、若干の凹凸はあるが、層厚はほぼ同じである。堆積土は褐色(10YR4/4)土主体で、ローム粒が多量、部分的には塊状に、炭化物・焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d・e式の復元し得た地文のみの土器や円筒上層d式土器小片が少量出土した。石器では、使用痕のある剥片(58-6)が1点出土した。

第103層

VIL-119・120に幅約0.8m、最大厚5cmで分布する。東側に低く傾斜して堆積する。堆積土は黒色(10YR2/1)土が主体で、炭化物が微量含まれる。遺物は口唇部に刻み、胴部に条痕が施文された土器が出土した。この土器は第104層出土土器と接合した。

第104層

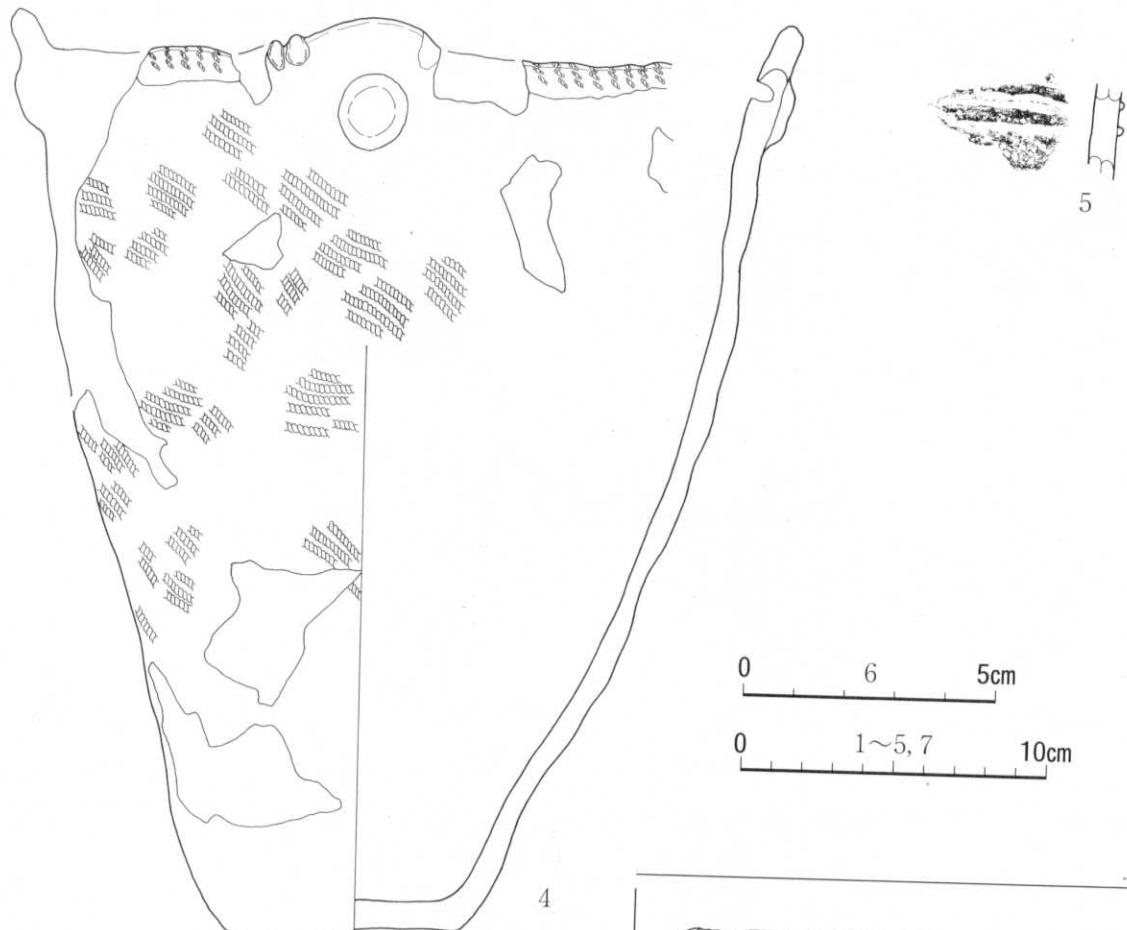
VIK・L-119・120に幅約2.7m、最大厚10cmで分布する。層西側では層厚も均一で、ほぼ水平に堆積する。東側では薄くなり高くなる。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/4)土が主体で、ローム土が塊状・粒状で多量、炭化物が少量、焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は中期中葉の土器が出土した。59-1は胴下半の破片である。他には隆帯を貼り付けたものが多い。59-4は無文である。石器は使用痕のある剥片(59-6・7)のほか、チップが中量出土した。



57図 1トレンチⅢ-100層出土遺物



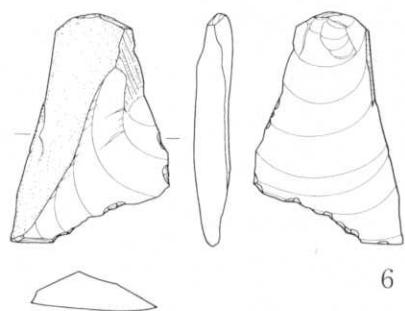
III-101層



4

0 6 5cm

0 1~5, 7 10cm



6

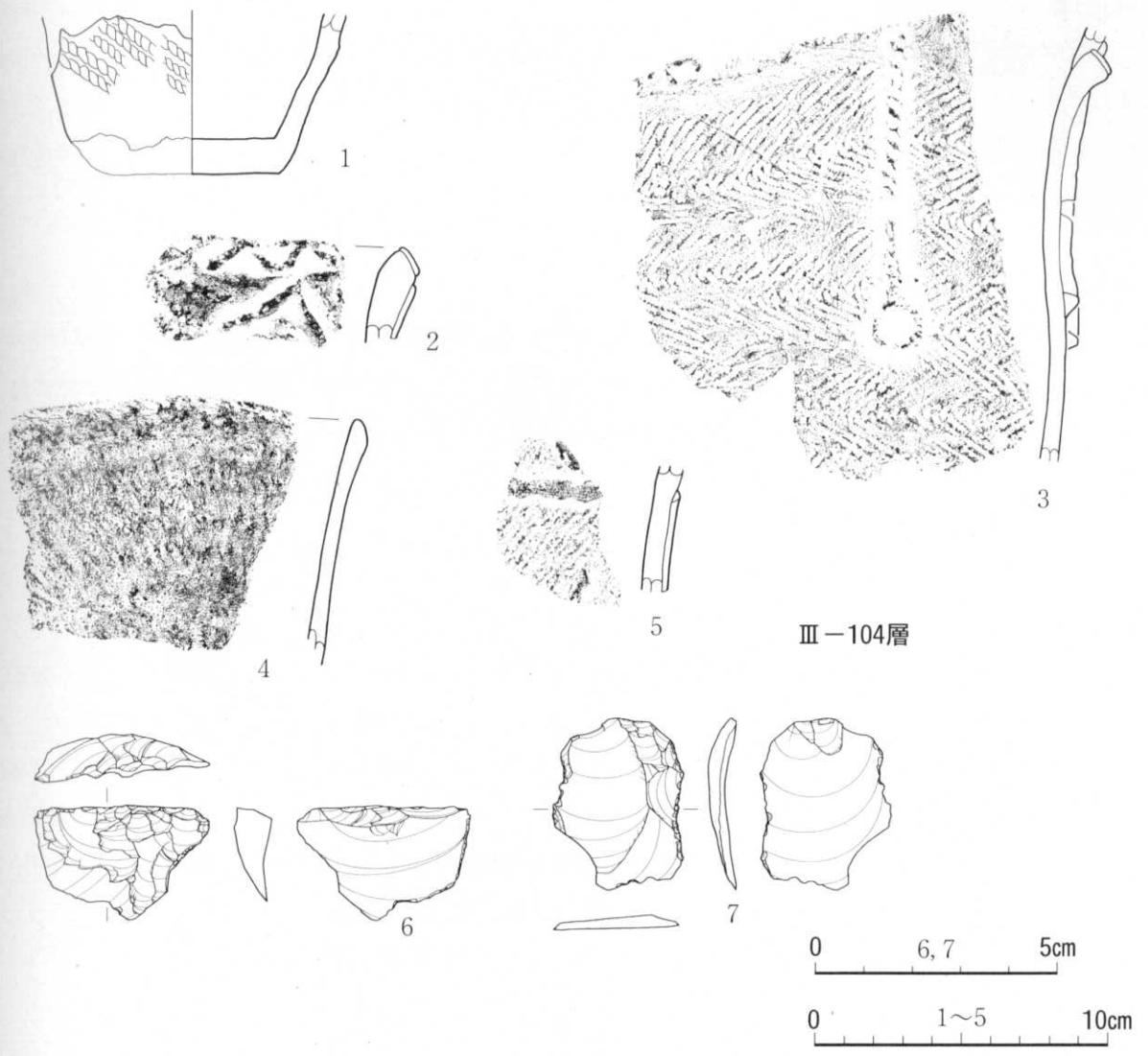
III-102層



7

III-103層

58図 1トレンチIII-101・102・103層出土遺物



59図 1 トレンチIII-104層出土遺物

第105層

VIK-119・120に幅約1.4m、最大厚5cmで分布する。東側に高く傾斜し、層厚は均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土主体で、ローム粒が少量、炭化物・焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒土層c式やd式土器片が出土した。石器は有茎鏃(60-7)が1点出土した。ほかに不明石製品が1点出土した。

第106層

VIL-119・120に幅約2.5m、最大厚15cmで分布する。東側に向かって低く傾斜するが、層厚は若干の凹凸はあるがほぼ同じである。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土が主体で、炭化物・ローム粒が多量、焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は他の層に比べると多量に出土した。円筒上層d式が主体であるが、円筒上層c式土器片も含まれる。前者は地文施文後に、後者は無文面に隆帯が貼り付けられている。石器は敲打痕と磨痕をもつ礫が1点、チップも中量出土した。

第107層

VIL・M-119・120に幅約2.2m、最大厚17cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム主体層である。炭化物が少量含まれる。遺物は多量に出土した。土器はいずれも破片のみであるが、円筒上層c土器を主体とし、上層b式・上層d式も含まれる。石器も多数出土した。削器ないし搔器(63-1)、剥片(63-2)、Uフレイク(63-3)、石鏃の未製品と推定される両面加工石器(63-4)、敲打による凹をもつ礫(63-5)、煤が付着するその他(63-6)、被熱した磨痕のある礫(63-8)がある。63-7は全面が磨られ、黒化した軽石である。また、チップも多量に出土した。63-9は焼成粘土塊で、窪んだ1面には指紋が観察される。

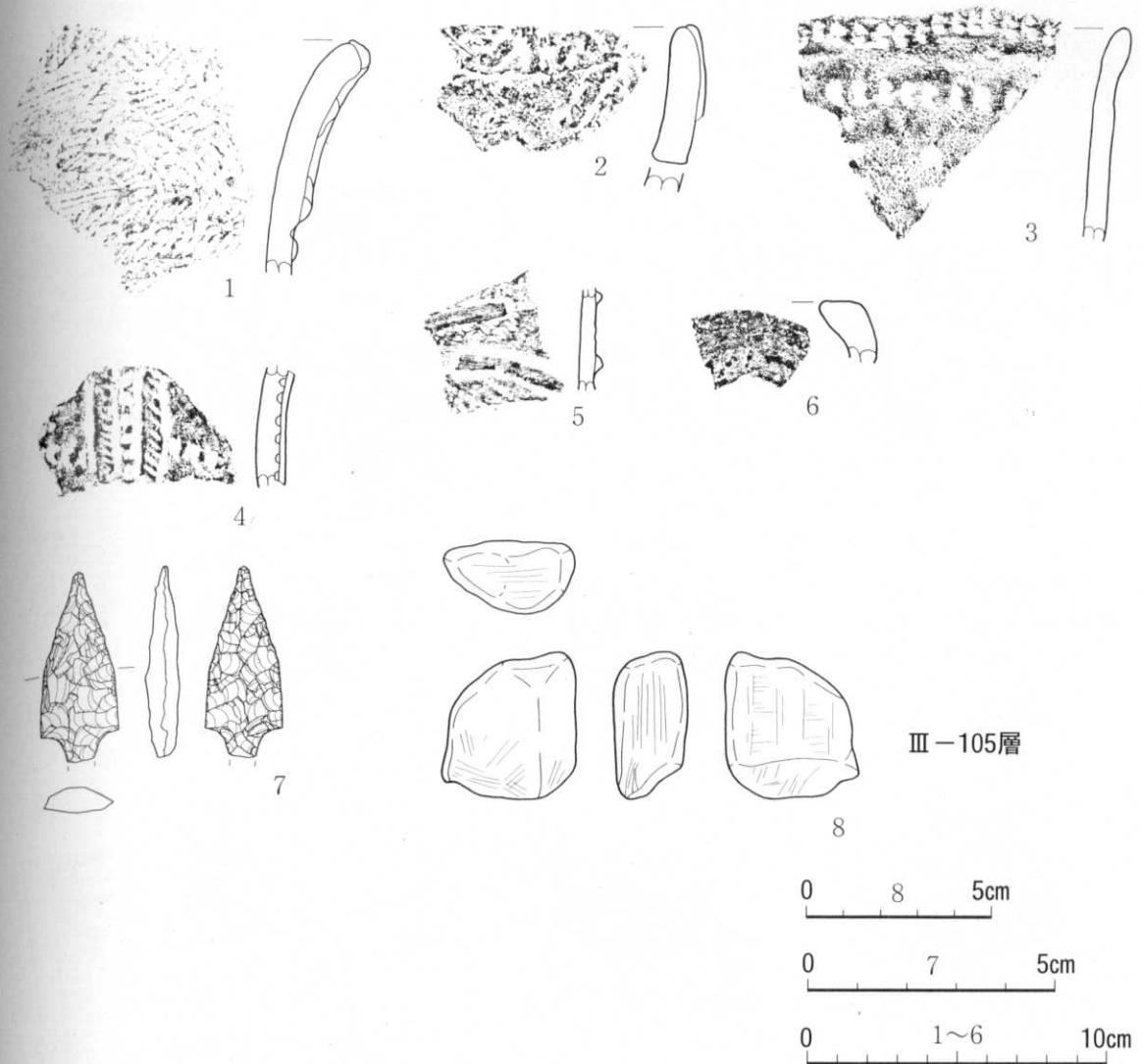
第108層

VIK-119・120に幅約1.4m、最大厚10cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は黄褐色(10YR5/8)のローム主体層で、暗褐色土が少量含まれる。下層の第114層との境には黒色土のごく薄層を挟む。遺物は、土器は円筒上層b式・上層c式土器片が少量出土した。64-2は縄文原体による馬蹄形押圧が、64-3は円形の工具による刺突が施文されている。石器は、煤が付着し敲打による凹をもつ礫(64-5)、チップも少量出土した。

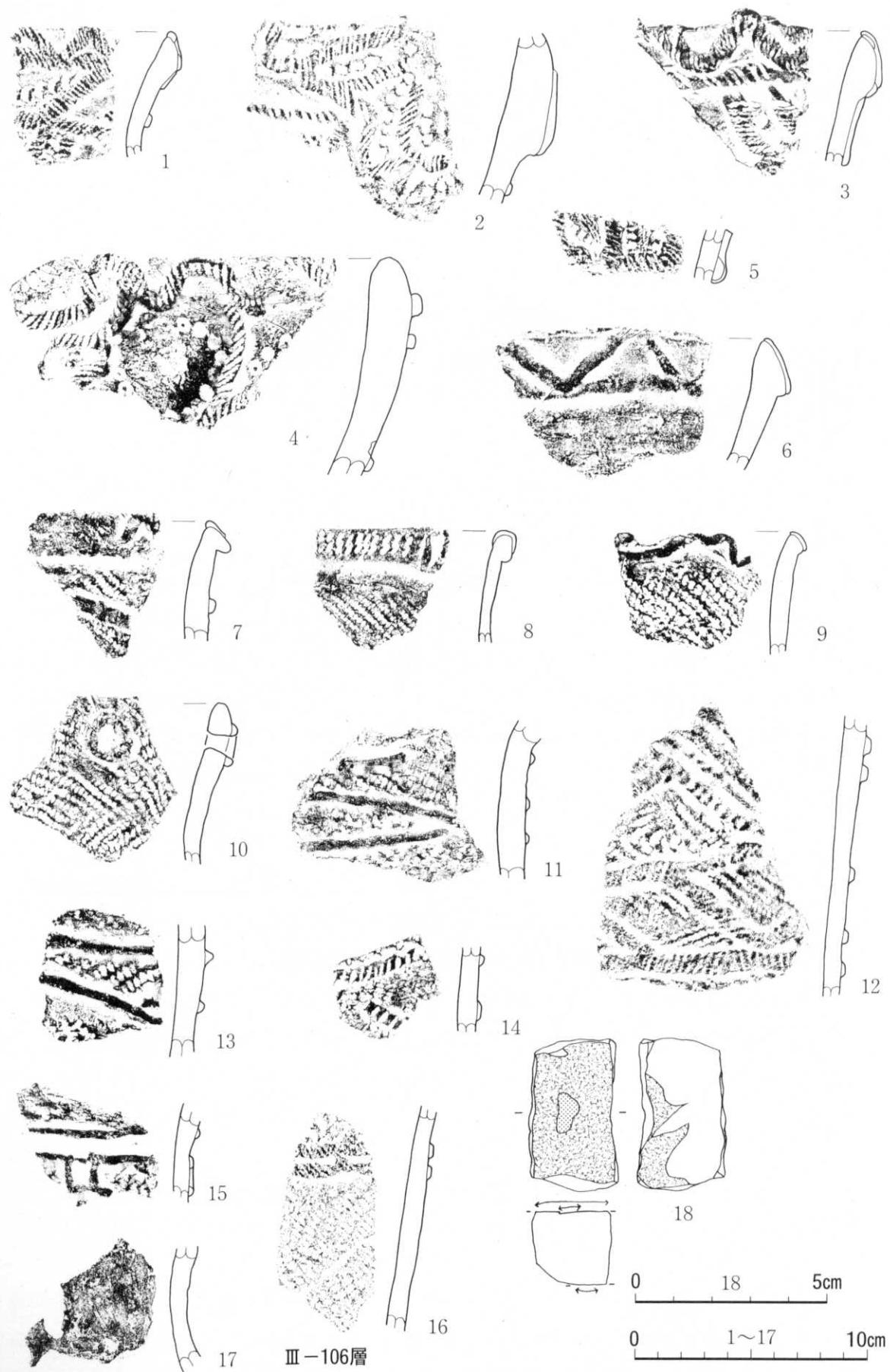
第109層

VIL-119・120に幅約2.2m、最大厚20cmで分布する。東側に低く傾斜する。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土主体で、白色浮石、炭化物が中量混入する。上層の第106層に比べ色調が明るく、炭化物の混入割合が少ない。

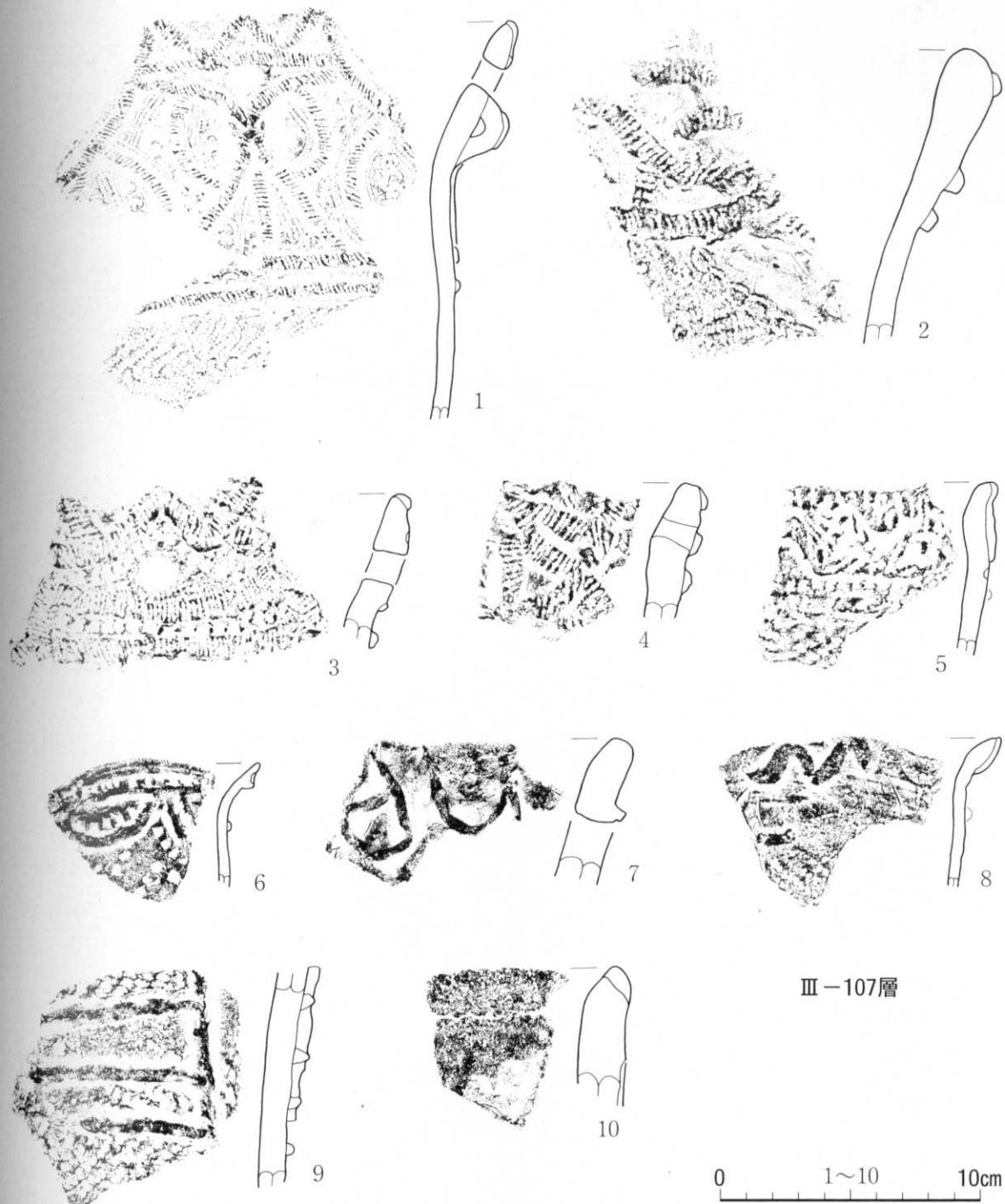
遺物は、土器は復元可能なものを含み多量に出土した。65-1は口縁部まで地文を施文後に刺突が口縁部に平行と横位隆帯間に連続するもので、65-3は3段の横位の縄文押圧の間に縄文原体による馬蹄形押圧が巡るものである。破片も含め円筒上層b式に位置づけられるものが主体である。石器は有茎鏃(66-1)、使用痕のある剥片(66-2)、磨痕と敲打痕をもつ礫(66-3)や、チップも多量



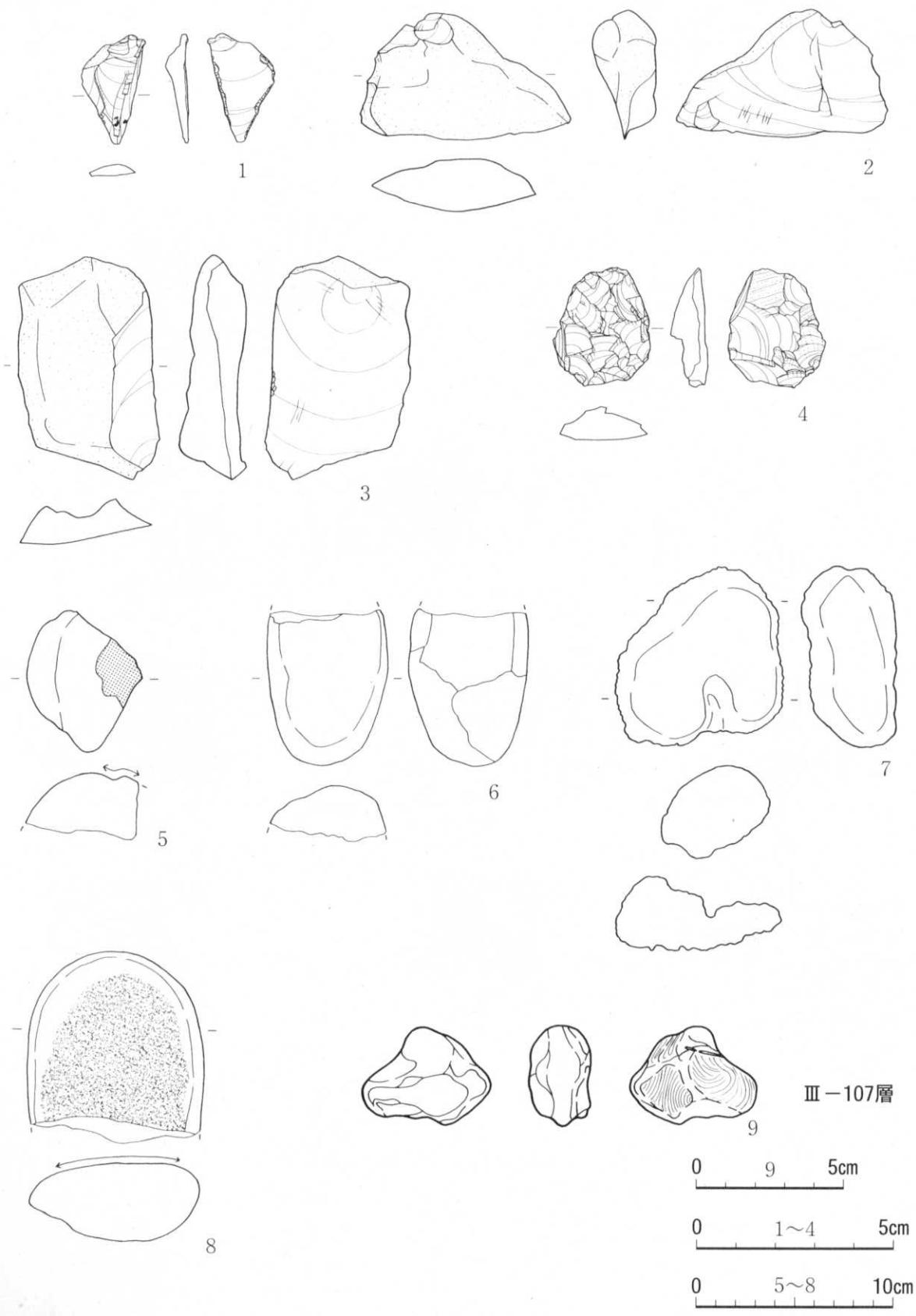
60図 1トレンチIII-105層出土遺物



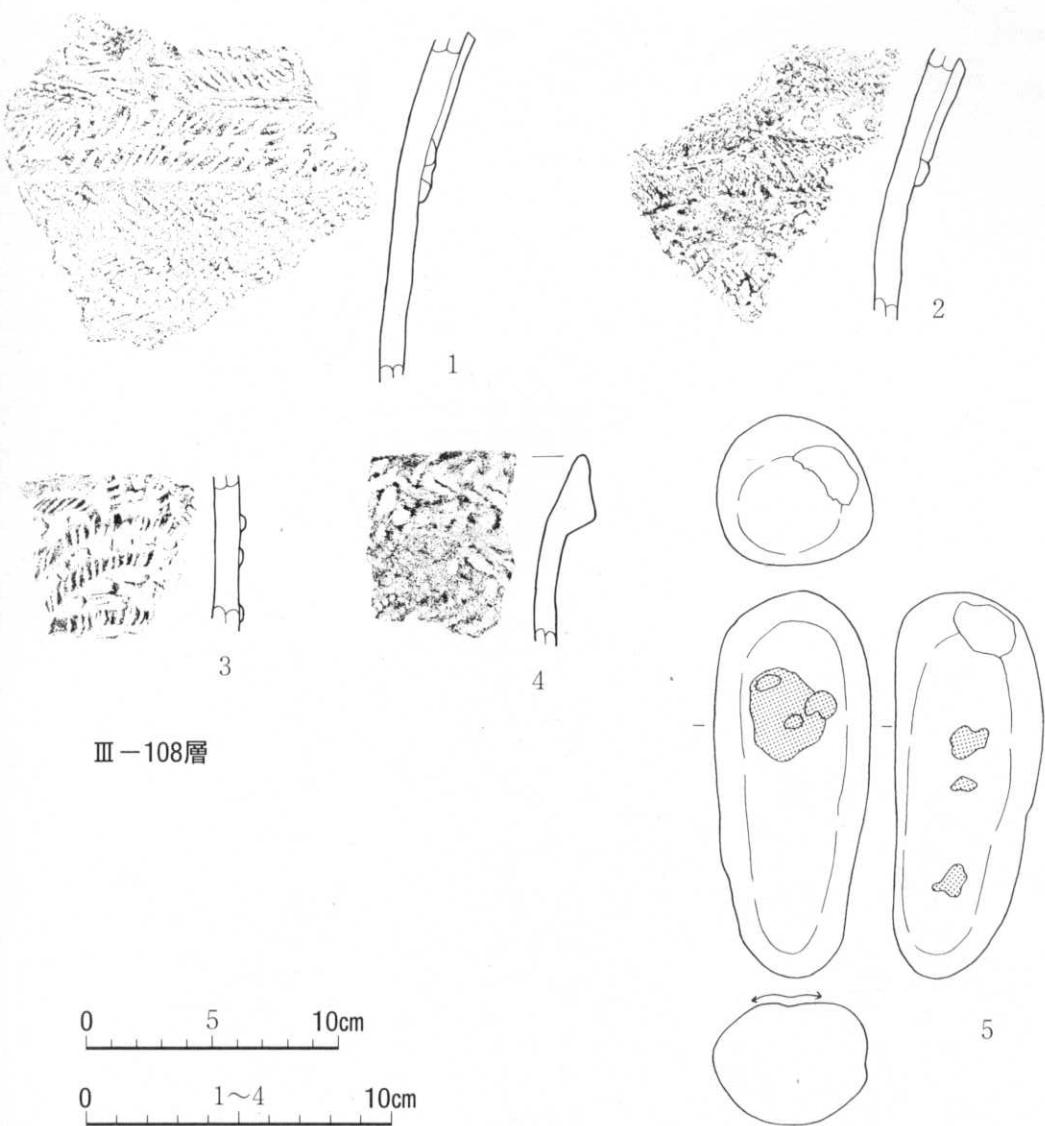
61図 1トレンチIII-106層出土遺物



62図 1トレンチIII-107層出土遺物 (1)

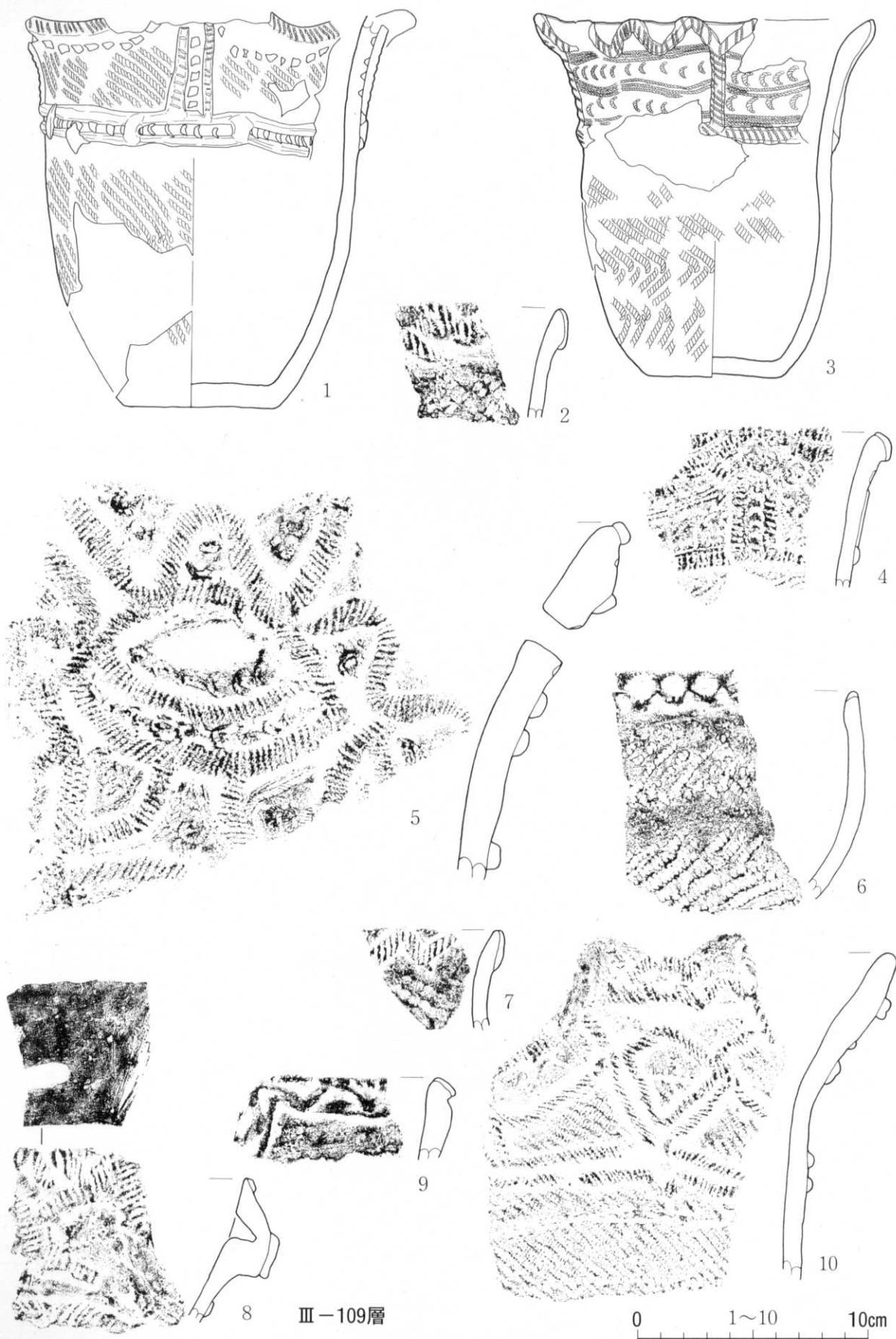


63図 1 トレンチIII-107層出土遺物 (2)

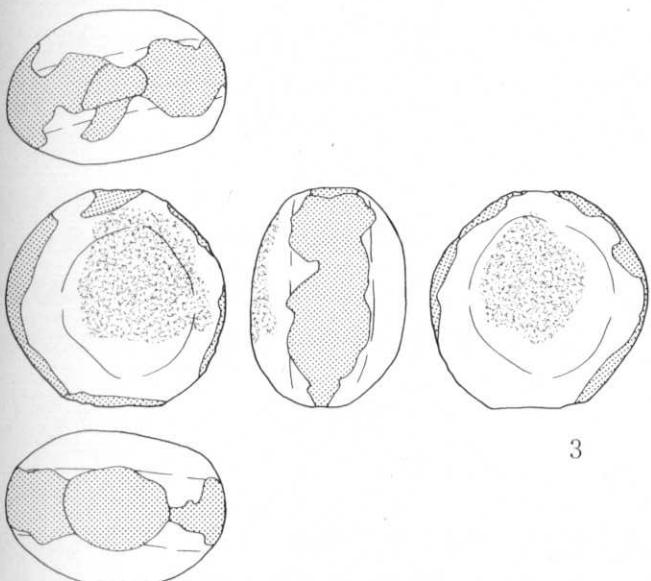
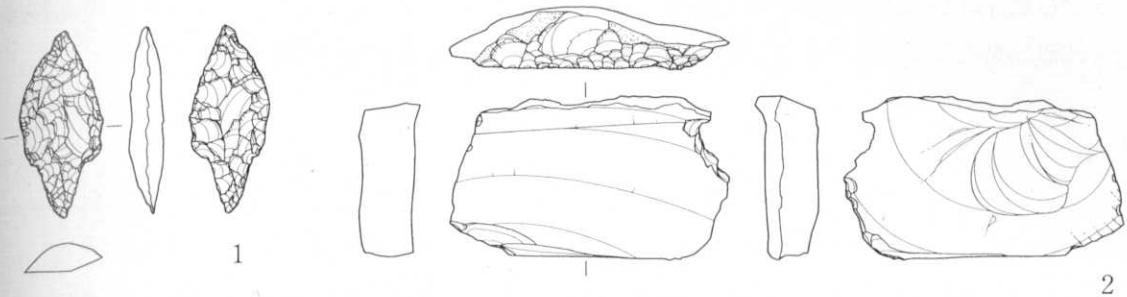


III-108層

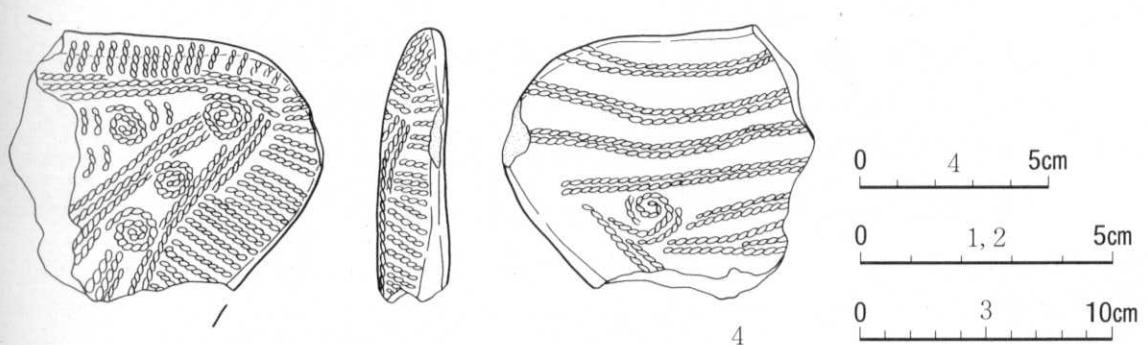
64図 1トレンチIII-108層出土遺物



65図 1トレンチⅢ-109層出土遺物 (1)



III-109層



66図 1 トレンチIII-109層出土遺物 (2)

にが出土した。ほかに土偶の腕部が1点出土した。表面には、直線状と渦巻状・曲線状の縄文押圧が施される。裏面には2条1単位で多段の横位縄文押圧と渦巻状押圧が観察される。

第110層

VIL・M-119・120に幅約1.85m、最大厚25cmで分布する。認識の仕方もあるが、本トレンチでは最も厚い層で、ほぼ水平に堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、炭化物が多量、焼土粒・ローム粒が少量含まれる。上層の第109層より色調がやや暗く、混入物の割合が多い。遺物は、土器は復元可能なものも含め、円筒上層b・c式土器を主体に出土した。67-1はある程度復元できたもので、口縁部には刺突が密に連続する。石器は使用痕のある剥片(67-8)、全面が磨られた軽石(67-9)が出土したほか、チップも多量に出土した。

第110'層

VIL・M-119・120に幅約0.8m、最大厚9cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層中央が最も厚い。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、焼土粒が中量、黄褐色ローム粒が少量含まれる。当初第110層と同一層としていたが、本層の色調がやや明るく、焼土粒の混入割合が多いため分層した。遺物は出土しなかった。

第111層

VIL-119・120に幅約0.5m、最大厚3cmで分布する。東側に若干傾斜して堆積する。堆積土は黒色(10YR1.7/1)の炭化物主体層である。遺物は、円筒上層b式土器の小片がごく少量出土した。

第112層

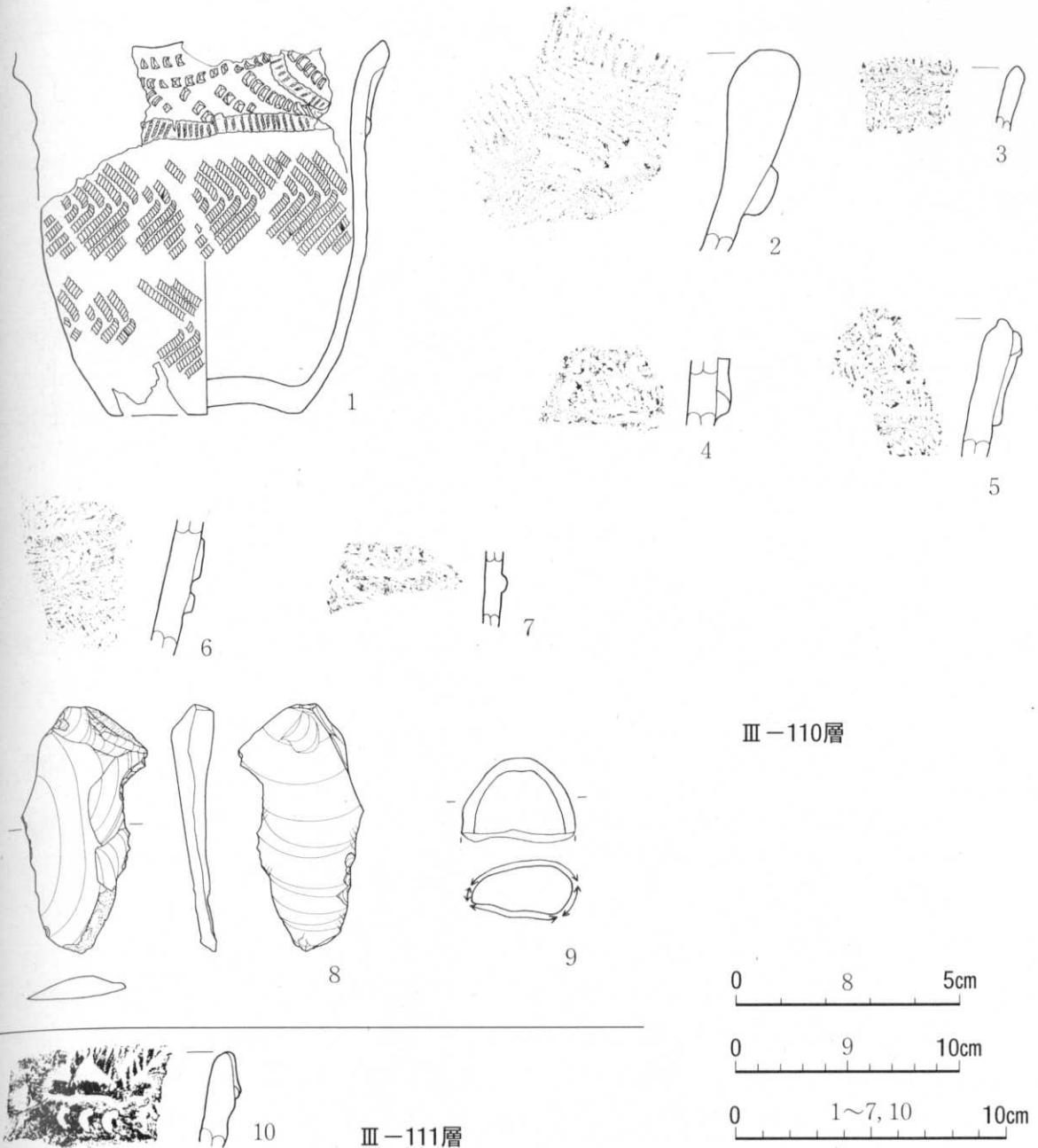
VIK・L-119・120に幅約2.0m、最大厚8cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚はほぼ同じであるが、西側は5cmと薄くなる。堆積土は赤褐色(5YR4/8)の焼土主体層で、炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層c式土器片が少量出土した。石器は、敲打による凹をもつ礫(68-7)のほか、チップも中量出土した。

第113層

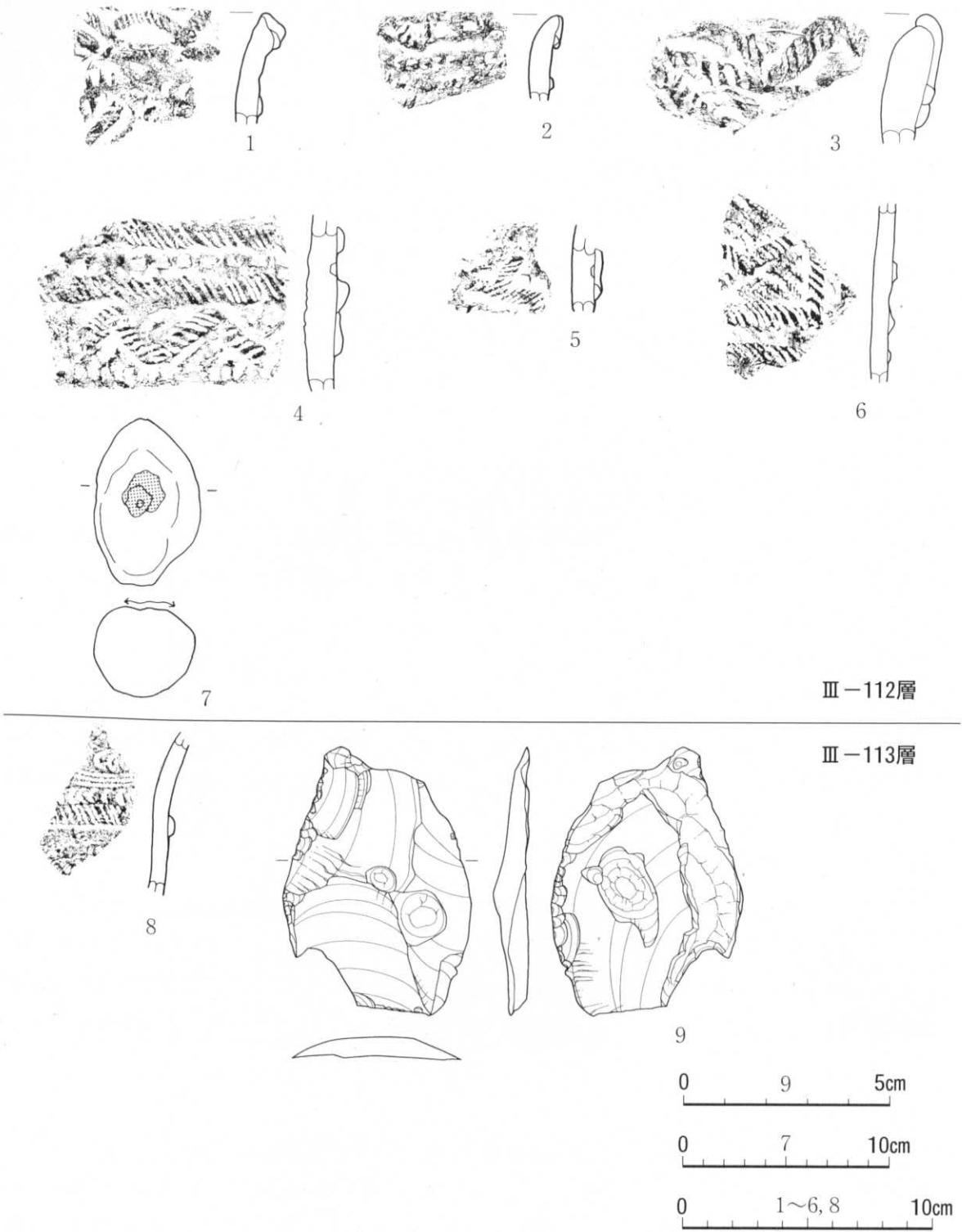
VIL-119・120に幅約0.85m、最大厚4cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は黒色(10YR1.7/1)の炭化物主体層である。断面図では表現しきれないが、厚さ1cm以下の非常に薄い炭化物層が、トレンチ東端まで第122~124層の上面に広がっていた。遺物は被熱した削器ないし搔器(68-9)が1点出土しただけである。

第114層

VIK-119・120に幅約1.4m、最大厚10cmで分布する。層上面ラインは西側ではほぼ水平で、層厚も均一であるが、トレンチ東端では盛り上がったように高くなり、層厚も増す。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム主体層である。ロームは塊状ではなく、かき集めたような粒状の密集した状態である。浮石・



67図 1トレンチIII-110、111層出土遺物



68図 1トレンチIII-112、113層出土遺物

炭化物少量ローム土が塊状・粒状で多量含まれる。遺物は出土しなかった。

第115層

VIL-119・120に幅約1.7m、最大厚11cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚は均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土主体で、炭化物が多量に含まれる。遺物は、土器は円筒上層c式片や円筒上層式土器胴部片、石器は磨痕と敲打痕をもつ礫(69-3)が出土した。

第116層

VIL・M-119・120に幅約0.7m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい褐色(10YR4/3)のローム土主体で、炭化物が微量含まれる。遺物は石器チップが少量出土しただけである。

第117層

VIL-119・120に幅約1.3m、最大厚10cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚もほぼ均一である。堆積土は褐色(10YR4/6)土主体である。ロームが多量に入り、部分的には塊状をなす。ほかに炭化物が少量含まれる。遺物は土器小破片がごく少量出土した。

第118層

VIL-119・120に幅約0.7m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚もほぼ均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土主体で、ローム粒・塊が多量、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第119層

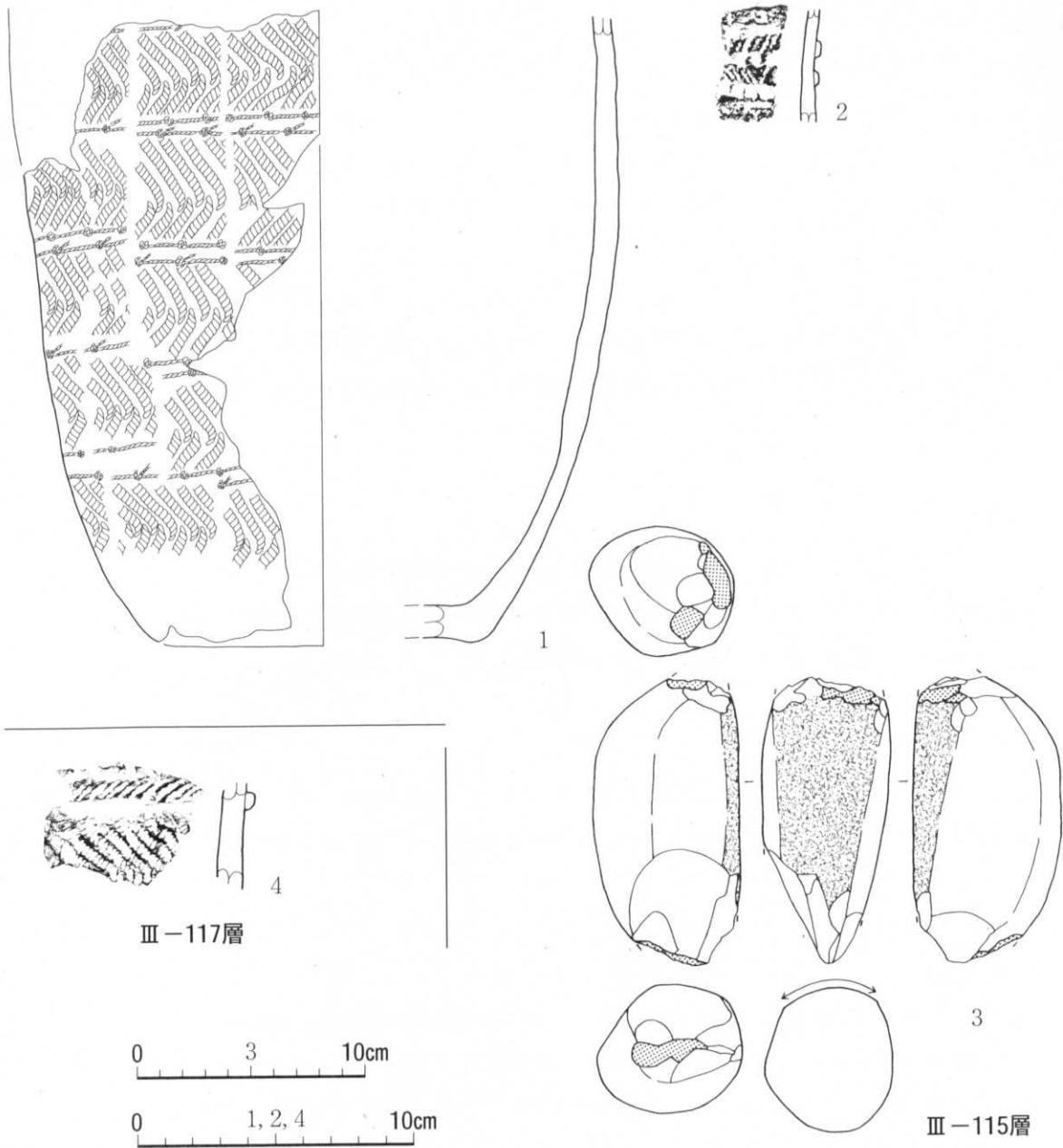
VIL・M-119・120に幅約0.8m、最大厚6cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム土主体層で、黒褐色土との混合土である。遺物は、土器は円筒上層b・c式土器片がごく少量出土した。石器では、使用痕のある剥片(70-3)、二次加工剥片(70-4)がそれぞれ1点出土した。

第120層

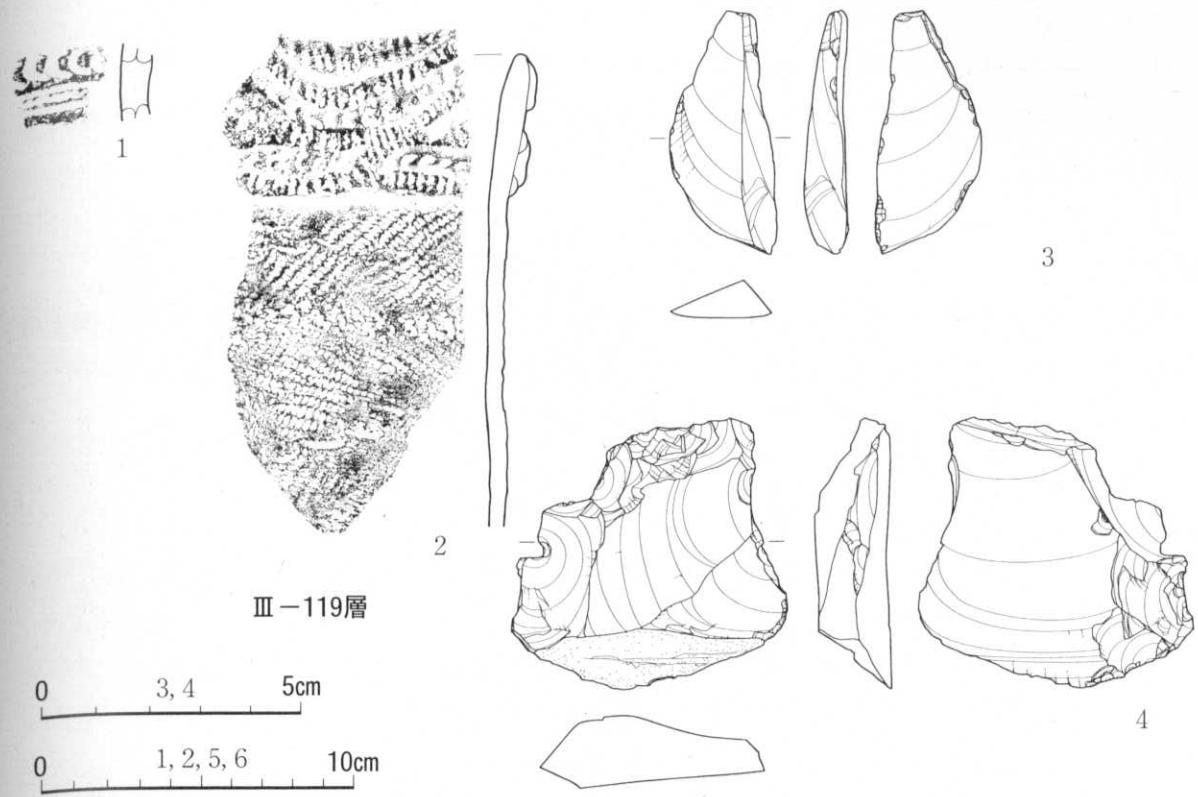
VIL-119・120に幅約1.3m、最大厚3cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、炭化物が多量、ローム粒が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第121層

VIK-119・120に幅約1.0m、最大厚11cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土主体で、炭化物・浮石が少量混入する。遺物は出土しなかった。



69図 1トレンチIII-115、117層出土遺物



70図 1トレンチIII-119、123層出土遺物

第122層

VIK・L-119・120に幅約0.8m、最大厚5cmで分布する。東側に低く傾斜し、層厚は中央部が最も厚い。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土主体で、炭化物が少量、灰白色粘土塊が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第123層

VIK-119・120に幅約1.8m、最大厚8cmで分布する。若干東側に低く傾斜して堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土が主体で、炭化物が中量、ローム粒が少量混入する。第114層との境に部分的に板状の炭化物が狭在する。遺物は、円筒上層c式土器片などが少量出土した。

第124層

VIK・L-119・120に幅約4.5m、最大厚17cmで分布する。層厚は中央が最も厚く、東側へ低く傾斜する。層上面は若干の起伏がある。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土が主体で、ロームが中量混入する。部分的には筋状に入る。ほかに炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層b式土器片などが少量、石器は基部にアスファルト?が付着する凹基鏃(71-4)、全面が磨られた軽石(71-5)やチップも少量出土した。71-6は石製品で、碗状に割り貫かれたものである。

第125層

VIL-119・120に幅約2.8m、最大厚8cmで分布する。若干東側に傾斜するが、ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土主体で、炭化物・ローム粒が微量含まれる。上層の第124層よりも色調が明るい。遺物は、土器は円筒上層b式片が少量、石器は有茎鏃(71-11)が1点とチップが少量出土した。

第126層

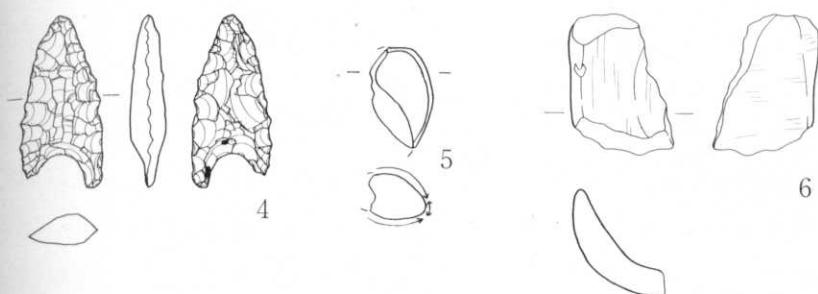
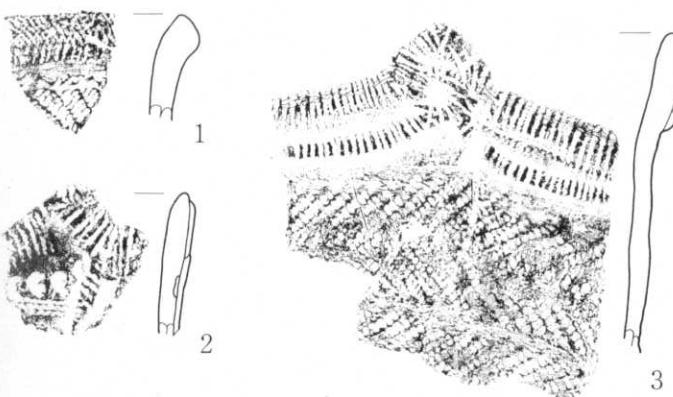
VIK・L-119・120に幅約0.8m、最大厚5cmで分布する。層上面は起伏があるが、ほぼ水平に堆積する。堆積土は褐色(10YR4/4)土主体でロームが多量、浮石が中量含まれる。遺物は出土しなかった。

第127層

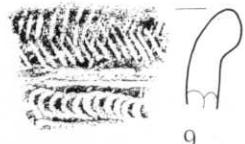
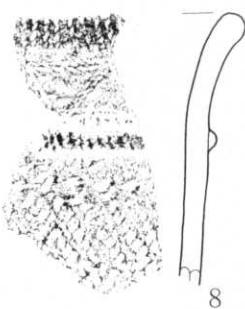
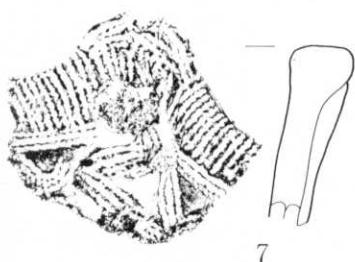
VIL-119・120に幅約0.4m、最大厚5cmで、ごく狭い範囲に分布する。第128・133層の隙間の落ち込みへ堆積し、層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土主体である。ローム粒・塊が多量、炭化物が少量含まれる。西側の第128層より色調がやや暗く、混入物の割合が多い。遺物は出土しなかった。

第128層

VIL・M-119・120に幅約0.8m、最大厚4cmで分布する。東側に低く段状に傾斜し、層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土主体で、炭化物・焼土粒が少量含まれる。遺物は、土器では円筒上層a式土器小片が少量出土した。石器では剥片(72-5)、削器ないし搔器(72-6)のほか、



III-124層

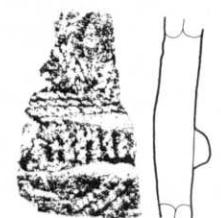
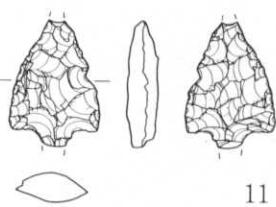


0 6 5cm

0 4, 11 5cm

0 5 10cm

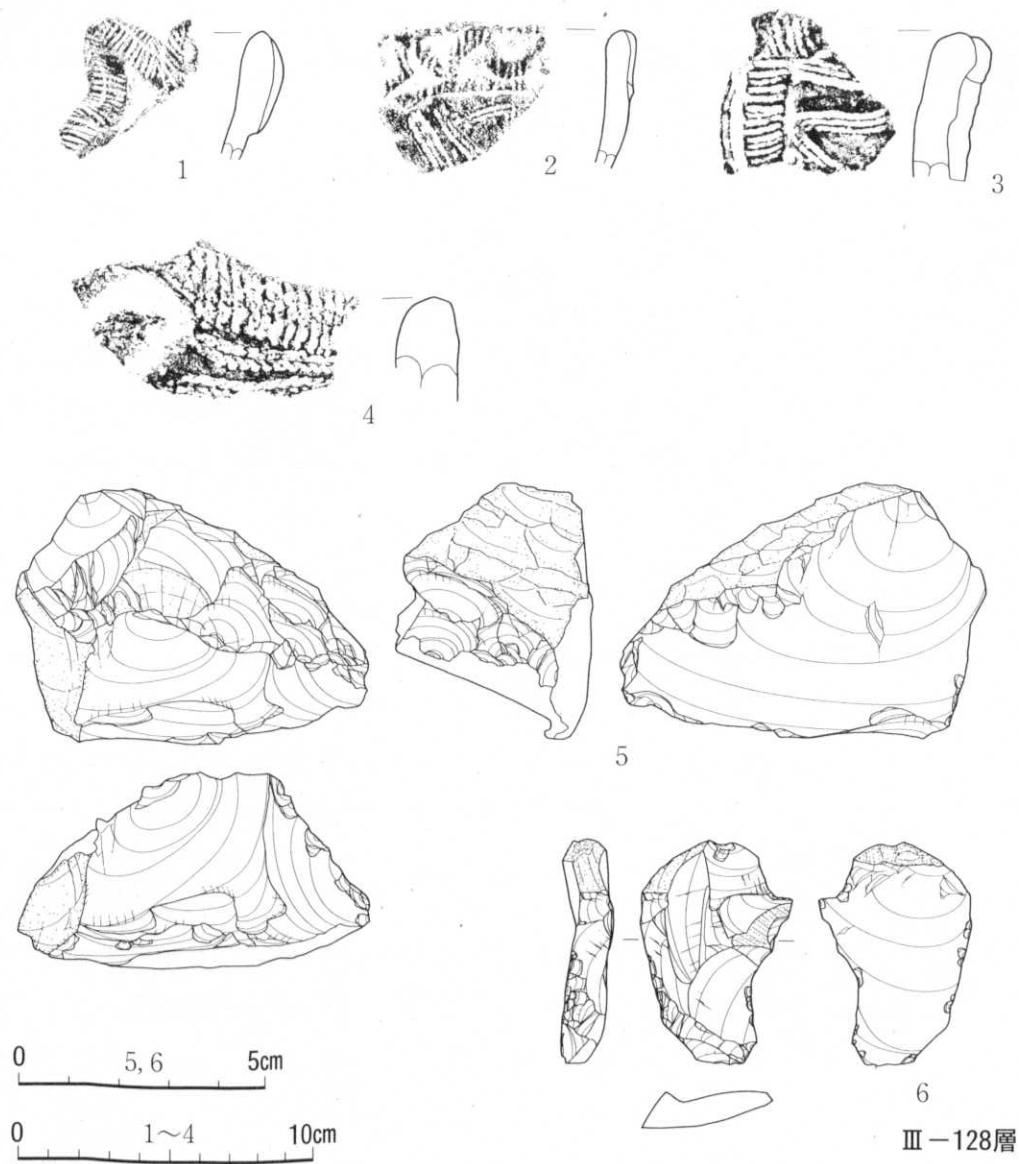
0 1~3, 7~10 10cm



10

III-125層

71図 1トレンチIII-124、125層出土遺物



72図 1トレンチIII-128層出土遺物

チップが少量出土した。

第129層

VIL-119・120に幅約1.3m、最大厚6cmで分布する。若干東側に低く傾斜し、層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土主体で、炭化物が多量、白色浮石が少量混入する。遺物は、土器は円筒上層式土器小片が少量出土した。

第130層

VIL-119・120に幅約0.9m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も均一である。堆積土は褐色(10YR4/6)土を主体とし、ローム土と黒褐色土との混合土層である。炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第131層

VIK・L-119・120に幅約2.7m、最大厚11cmで分布する。層上面は起伏があり、層厚も一定ではないが、ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)のローム主体層で、黒褐色土・炭化物が微量混入する。遺物は、土器は円筒上層式土器の小片がごく少量出土し、石器では石籠(73-7)が出土した。チップも少量出土した。

第132層

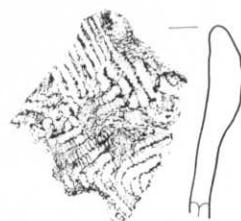
VIL-119・120に幅約0.8m、最大厚3cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚も薄く均一である。堆積土は黒色(10YR2/1)の炭化物主体層である。遺物は、土器は円筒上層a式土器小片がごく少量出土した。石器では、尖頭部に衝撃剥離がみられる有茎鏃(73-9)、削器ないし搔器(73-10)がそれぞれ1点出土した。

第133層

VIK～M-119・120に幅約6.4m、最大厚11cmで分布する。層西側では東側に向かって低く傾斜し、層東側では第IV層に接し水平に堆積する。層厚はほぼ一定である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土が主体で、ローム粒が多量、炭化物が中量、焼土粒が微量混入する。遺物は、円筒上層b・c式土器片などが出土した。74-9は鉢形で、全面に刺突がある。石器は削器ないし搔器(74-12)が1点、チップも少量出土した。ほかに土製品が2点出土した。74-13は土偶の上半身部で、表裏面とも無文である。頭部には窪みがある。74-14は焼成粘土塊である。

第134層

VIK・L-119・120に幅約0.9m、最大厚3cmで分布する。東側へ低く傾斜し、層厚は均一である。堆積土は黒色(10YR2/1)の炭化物主体層である。遺物は出土しなかった。



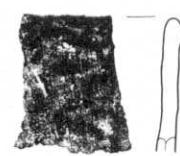
1



2

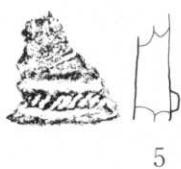


3

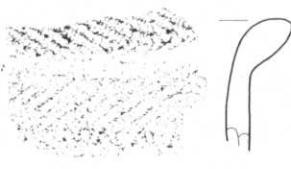


4

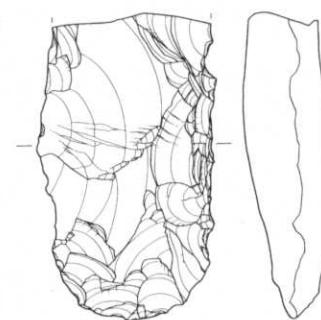
III-129層



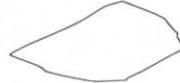
5



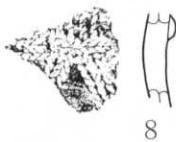
6



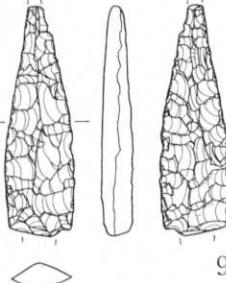
7



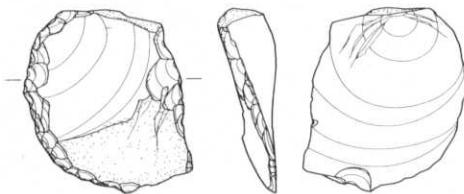
III-131層



8



9



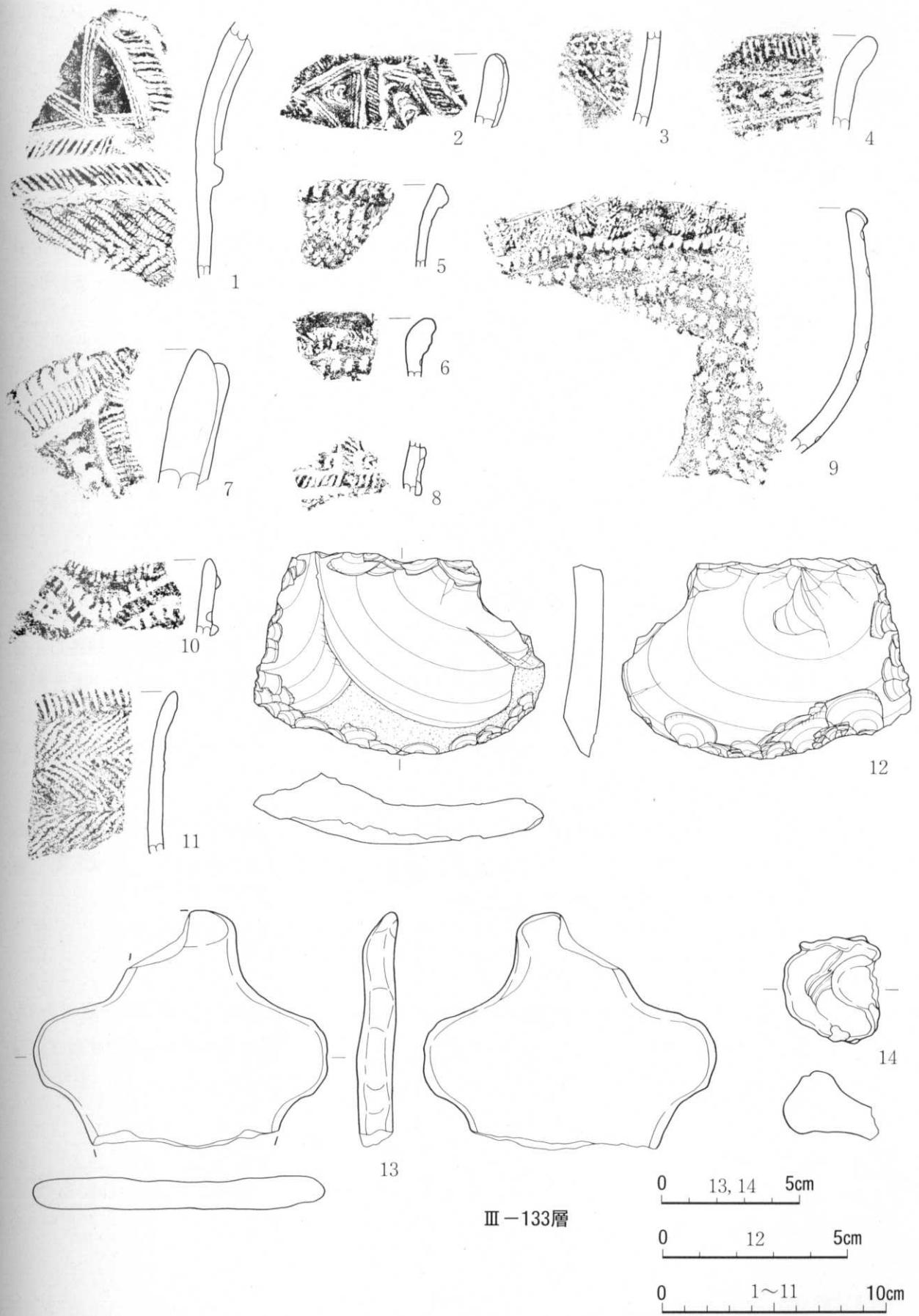
10

III-132層

0 7, 9, 10 5cm

0 1~6, 8 10cm

73図 1 トレンチIII-129、131、132層出土遺物



74図 1トレンチIII-133層出土遺物

第135層

VIL-119・120に幅約1.0m、最大厚4cmで分布する。東側に傾斜し、層厚は均一である。堆積土は黄褐色(10YR5/6)のローム土主体層で、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第136層

VIL・M-119・120に幅約2.2m、最大厚9cmで分布する。東側へ低く傾斜し、層厚はほぼ一定する。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土主体でローム粒・炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層式土器小片が少量、土製品は中央に穿孔のある垂飾品?(75-4)、無文のミニチュア土器(75-5)が出土した。

第137層

VIL・M-119・120に幅約2.4m、最大厚11cmである。東側へ低く傾斜し、部分的に違いはあるが層厚はほぼ一定である。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)のローム主体層で、塊状に混入する。黒褐色土が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は、円筒上層a式土器小片などが少量出土したほか、石器チップも少量出土した。

第138層

VIM-119・120に幅約0.4m、最大厚5cmで、ごく狭い範囲に分布する。若干東側に低く傾斜し、層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土主体で、ローム粒・塊が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は土器は円筒上層a式土器小片がごく少量出土した。

第139層

VIL・M-119・120に幅約1.9m、最大厚6cmで分布する。東側に低く傾斜し、層厚はほぼ均一である。堆積土は暗赤褐色(5YR3/6)の焼土主体層で、炭化物が微量混入する。遺物は、土器は円筒上層式土器の胴部片がごく少量出土した。

第140層

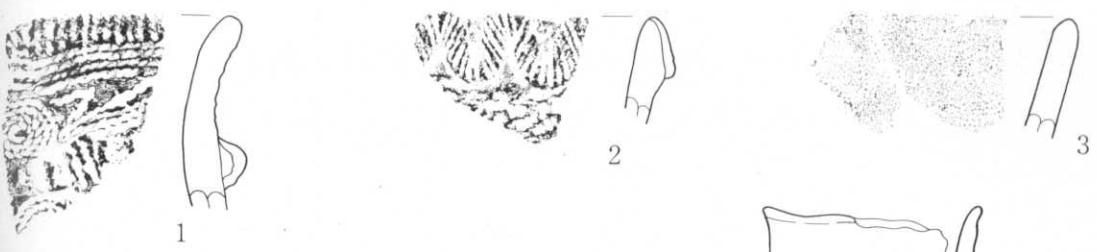
VIL・M-119・120に幅約1.5m、最大厚10cmで分布する。東側に低く傾斜し、層厚は一定である。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム主体層で、黒褐色土が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層式土器小片がごく少量、石器は敲打痕のある礫(75-15)が出土した。

第141層

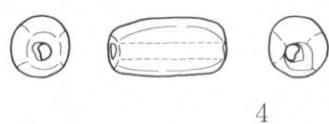
VIL・M-119・120に幅約1.9m、最大厚11cmで分布する。東側に低く傾斜し、層厚はほぼ一定である。堆積土は黄褐色(10YR5/8)のローム層である。遺物は出土しなかった。

第142層

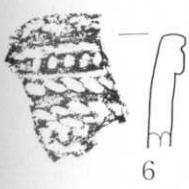
VIL・M-119・120に幅約0.9m、最大厚4cmで分布する。東側に低く傾斜し、層厚も薄くほぼ均一



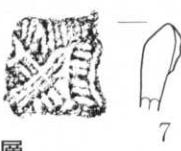
III-136層



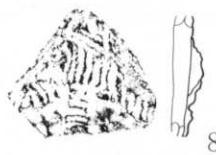
5



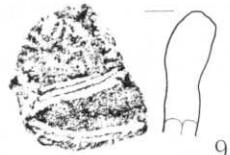
III-137層



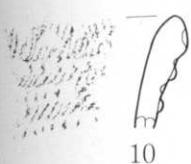
7



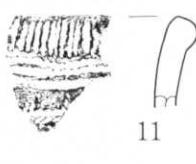
8



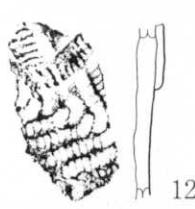
9



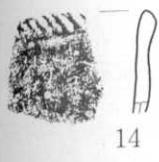
III-138層



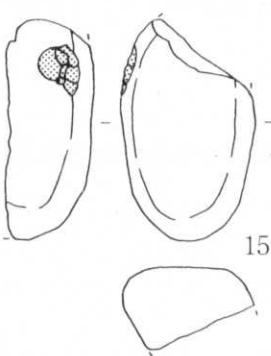
11



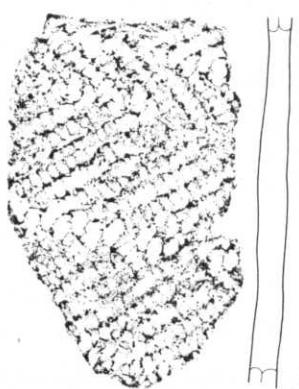
12



III-140層



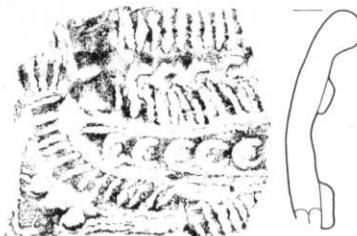
III-139層



13



16



17



18



19



20

III-144層

0 4, 5 5cm

0 15 10cm

0 1~3, 6~14, 16~20 10cm

75図 1 トレンチIII-136、137、138、139、140、144層出土遺物

である。堆積土は暗赤色(5YR3/6)の焼土主体層である。炭化物が少量含まれる。遺物は出土しなかつた。

第142'層

VIM-119・120に幅約0.6m、最大厚4cmで分布する。若干東側に傾斜し、層厚は薄くほぼ均一である。堆積土は暗赤色(5YR3/6)土の焼土主体であるが、ブロック状の焼土塊が中量含まれる。これにより、第142層とは分層した。遺物は出土しなかつた。

第143層

VIM-119・120に幅約0.9m、最大厚10cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚は中央が最も厚い。堆積土は黄褐色(10YR5/6)のローム主体層で、炭化物が微量混入する。遺物は出土しなかつた。

第144層

VIL・M-119・120に幅約1.9m、最大厚3cmで分布する。第IV層に接し、ほぼ水平に堆積する。堆積土は黒色(10YR1.7/1)の炭化物主体層である。遺物は円筒上層b式土器片が少量出土した。

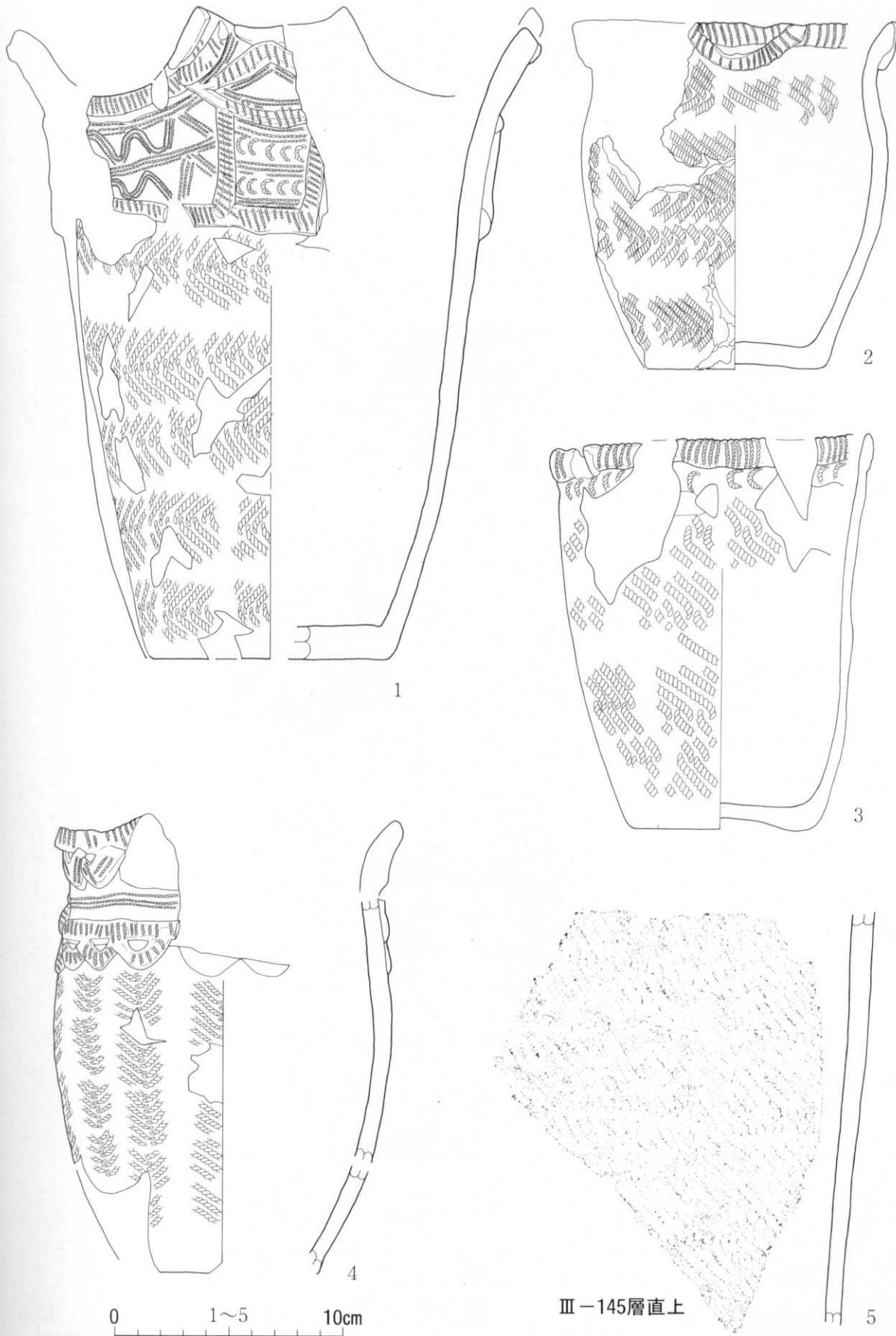
第144'層

VIL・M-119・120に幅約0.35m、最大厚2cmで分布する。第IV層に接し、ほぼ水平に堆積する。堆積土はにぶい黄色褐色(10YR4/3)のローム土主体層である。非常に薄く堆積する。遺物は出土しなかつた。

なお第145層直上からは、円筒上層a・b式土器が復元個体を含み多数出土した。76-1は波頂部下の2条の貼付隆帶間に馬蹄形押圧が見られる。76-3は平縁の頸部に馬蹄形押圧が一巡する。石器は石籠ないし石槍と思われる両面加工石器(78-1)、不定形石器、敲打痕と磨痕をもつ礫(78-5)が出土した。78-6は焼成粘土塊である。

第IV層(=第145層)

厚さ20~40cmである。堆積土は黒褐色(10YR2/1)土で、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は前期円筒下層式土器片が少量、石器は削器ないし搔器(79-9・11)、敲打痕のある礫(79-10)が出土した。

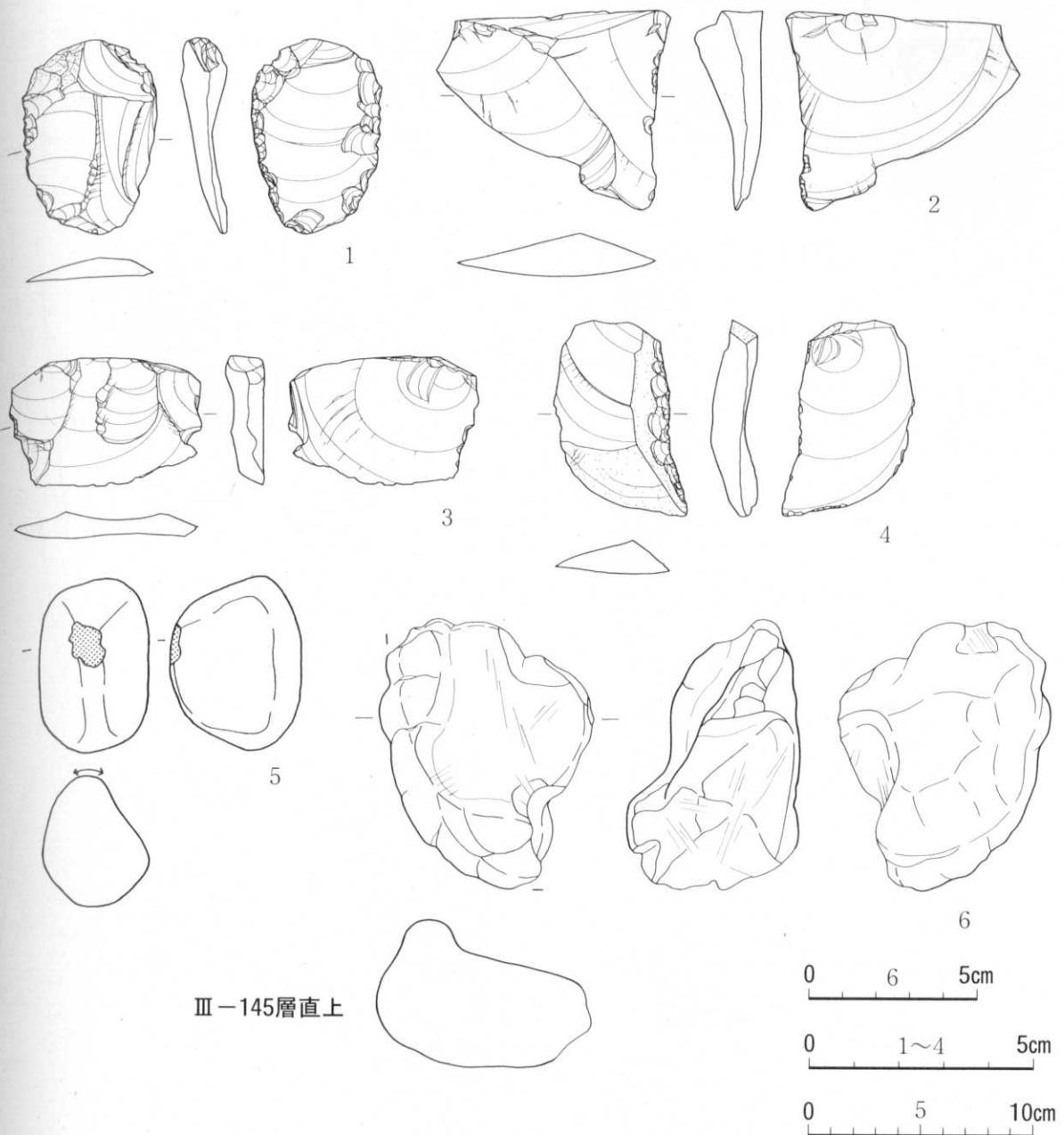


76図 1トレンチIII-145層直上出土遺物 (1)

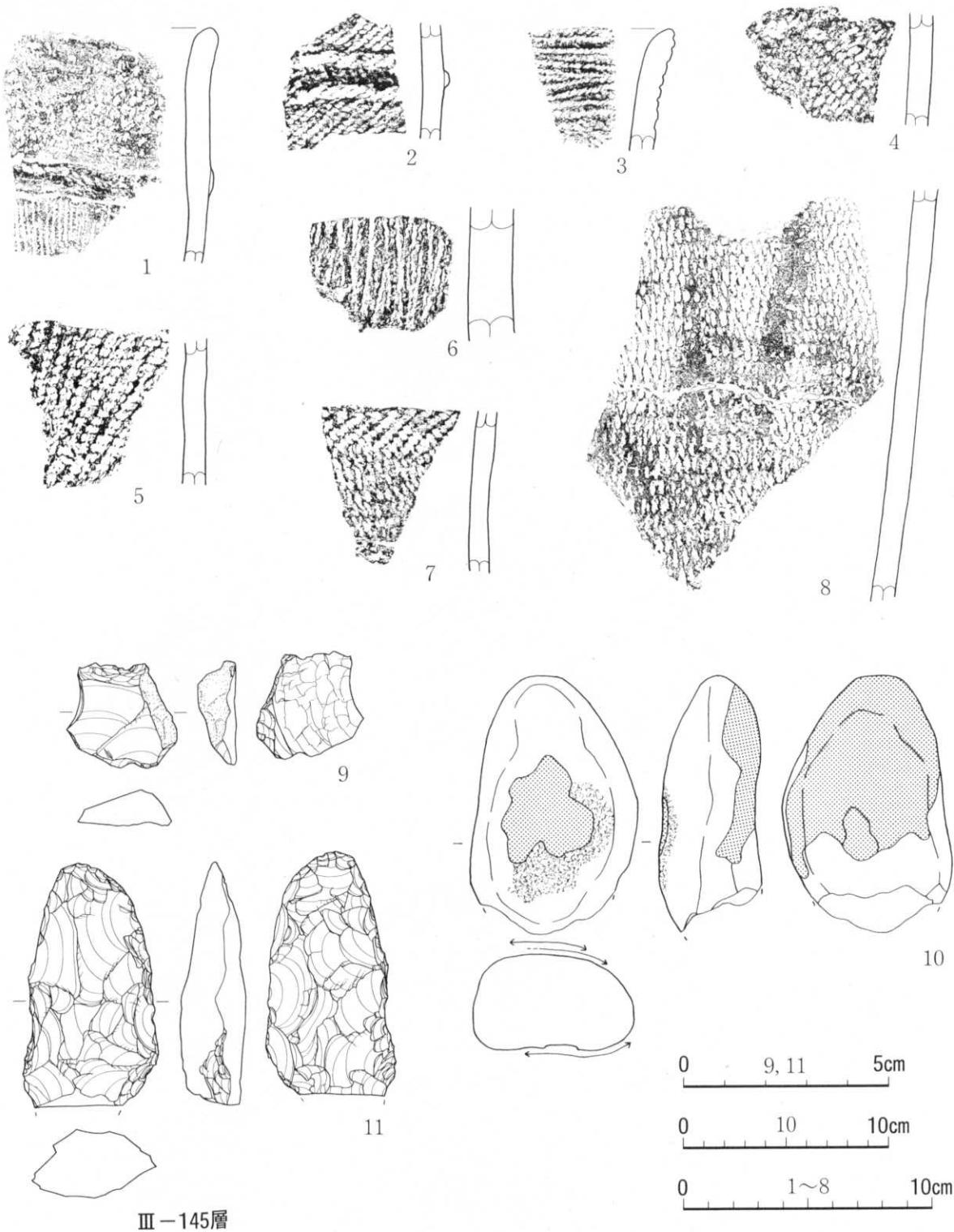


III-145層直上

77図 1トレンチIII-145層直上出土遺物 (2)

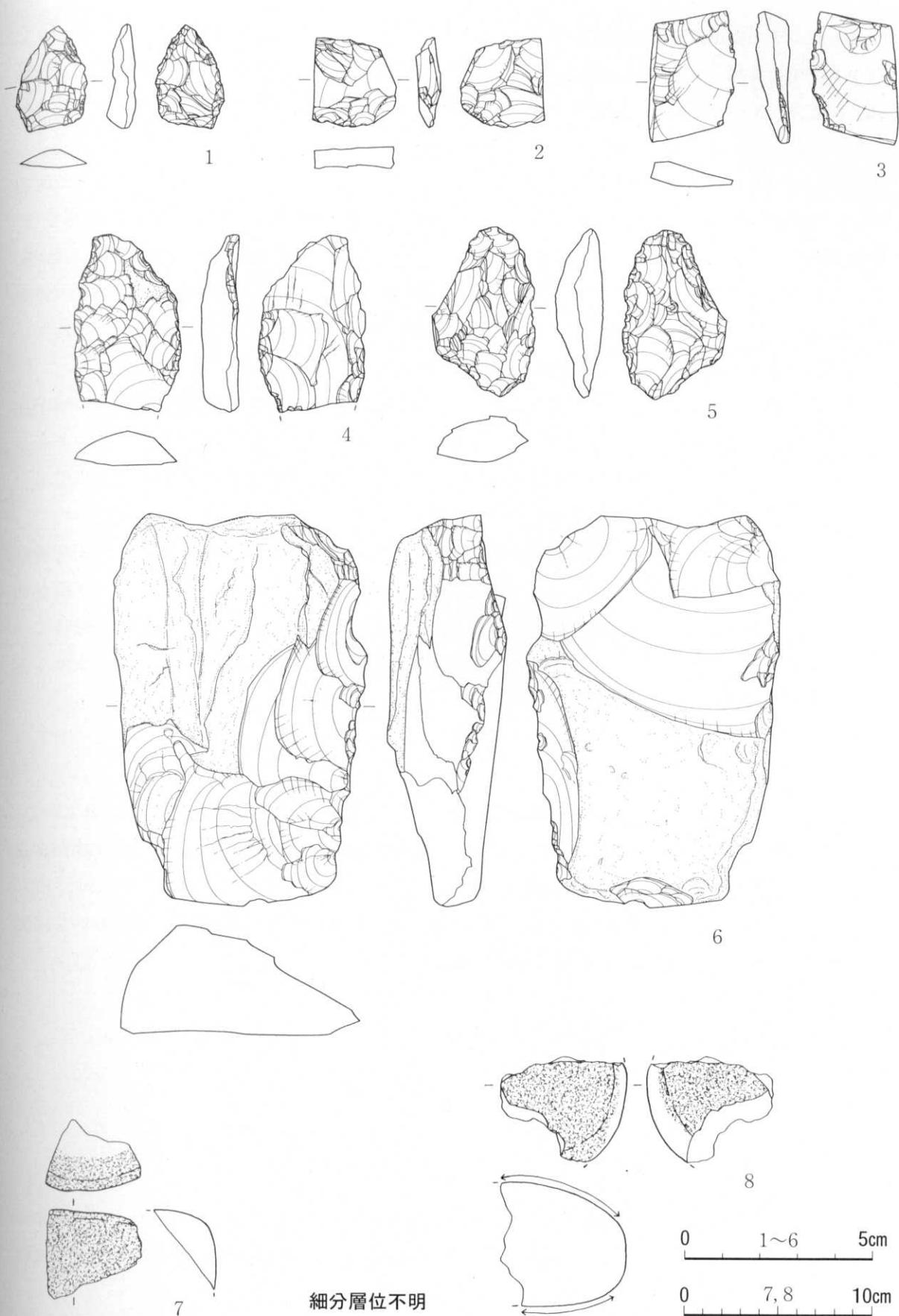


78図 1 トレンチIII-145層直上出土遺物 (3)



III-145層

79図 1トレンチIII-145層直上出土遺物



80図 1トレンチ細分層位不明出土遺物

(2) 4トレンチの検出遺構と出土遺物

4トレンチはVIM～P-119に位置する。120ラインに沿って設定したトレンチを、北側に50cm幅で拡張した範囲である。確認面の標高は、18.9～18.8mと平坦である。確認面から第IV層上面までの厚さは150～175cmである。第IV層の厚さは28～47cmである。

本トレンチからの検出遺構は盛土層を除去後に土坑を1基検出した。これについては、すでに報告済み（青森県教委2005『三内丸山遺跡27』青森県埋蔵文化財調査報告書第405集）であるので割愛し、写真掲載のみに止める。時期は、盛土層下の確認であることから、中期初頭以前のものと考えられる。また、第57層で6個の礫の集積を検出した。同様の遺構は、同じ南盛土内でも検出されており（青森県教委2006『三内丸山遺跡30』青森県埋蔵文化財調査報告書第423集）、配石遺構として報告されている。そのためこれを踏襲し、配石遺構として報告する。第57層の項で触れる。

盛土部分は89層に細分した。時期は最花式期から円筒上層a式期である。層厚は10cmほどの層が多いが、最大厚が25cmにもなる層も見られ、1トレンチに比べると厚い層として認識した。このトレンチの記載に当たっては、各層の広がりと厚さ、構成する土質、出土遺物について触ることにする。

以下に、各層の堆積土と出土遺物について述べる。

なお、本トレンチのほぼ中央で風倒木痕が確認された。幅2.9m、深さ約70cmの規模で、盛土を攪乱している。風倒木内部も分層し、4トレンチの通し番号を付している。第6～10、19～23、26層が相当する。これら風倒木内からも遺物は出土している。それらについては4トレンチの記載の最後に一括して触ることにする。層ごとの記載には上記の風倒木内堆積土は含めないものとする。また、草木根と見られる攪乱も4カ所確認された。

第1層

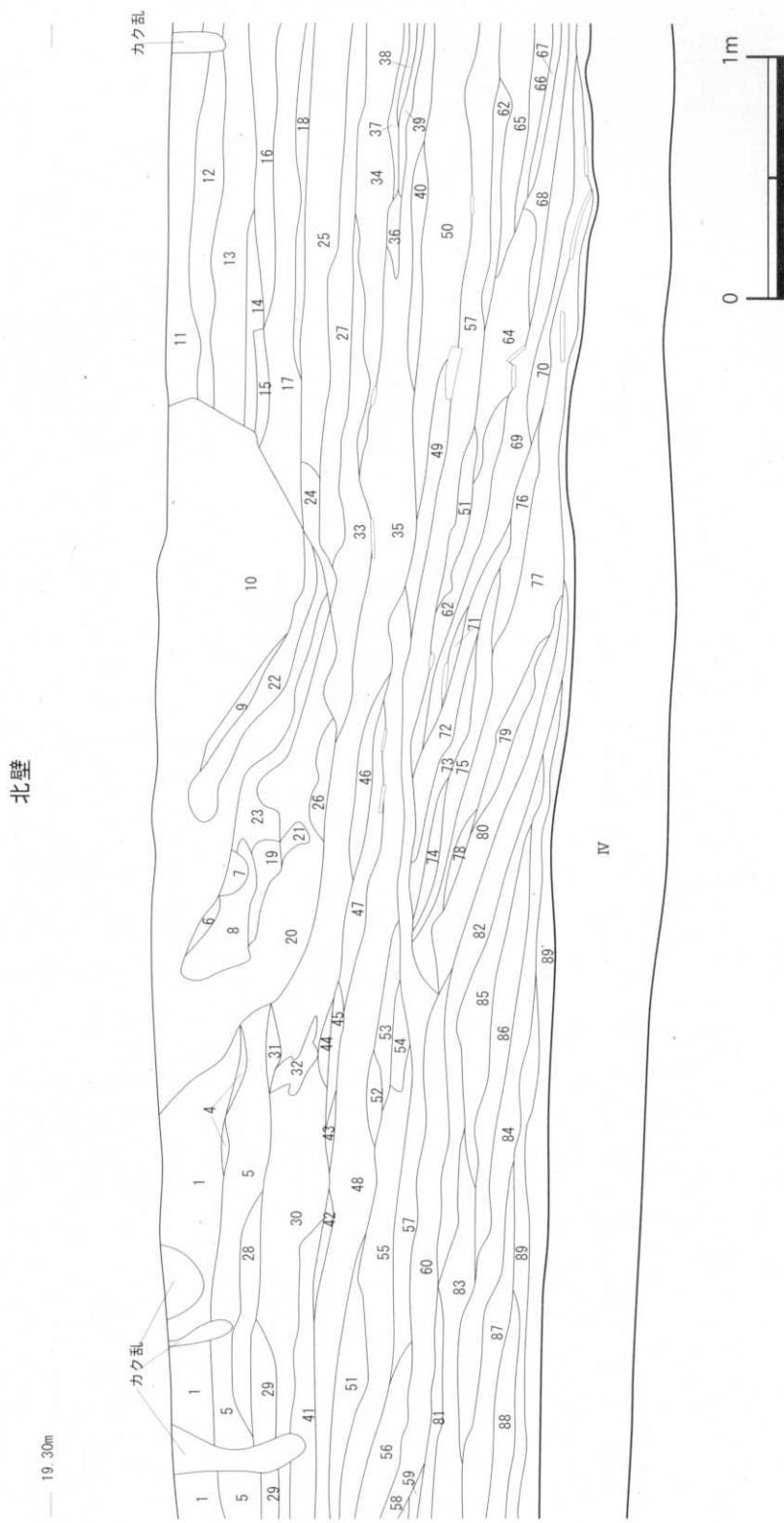
VIN・O-119・120に幅約2.0m、最大厚25cmで分布する。層東側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積で、層厚はほぼ同じである。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、炭化物が多量に、ローム粒・焼土粒が少量含まれる。遺物は、土器は最花式土器片を主体に、多量に出土した。82-7は無文で、台部の可能性もある。82-9は底部に格子状の圧痕が見られる。石器は削器ないし搔器(82-10)、両面加工石器(82-11～14)が計5点出土した。

第2層 欠番

第3層 欠番

第4層

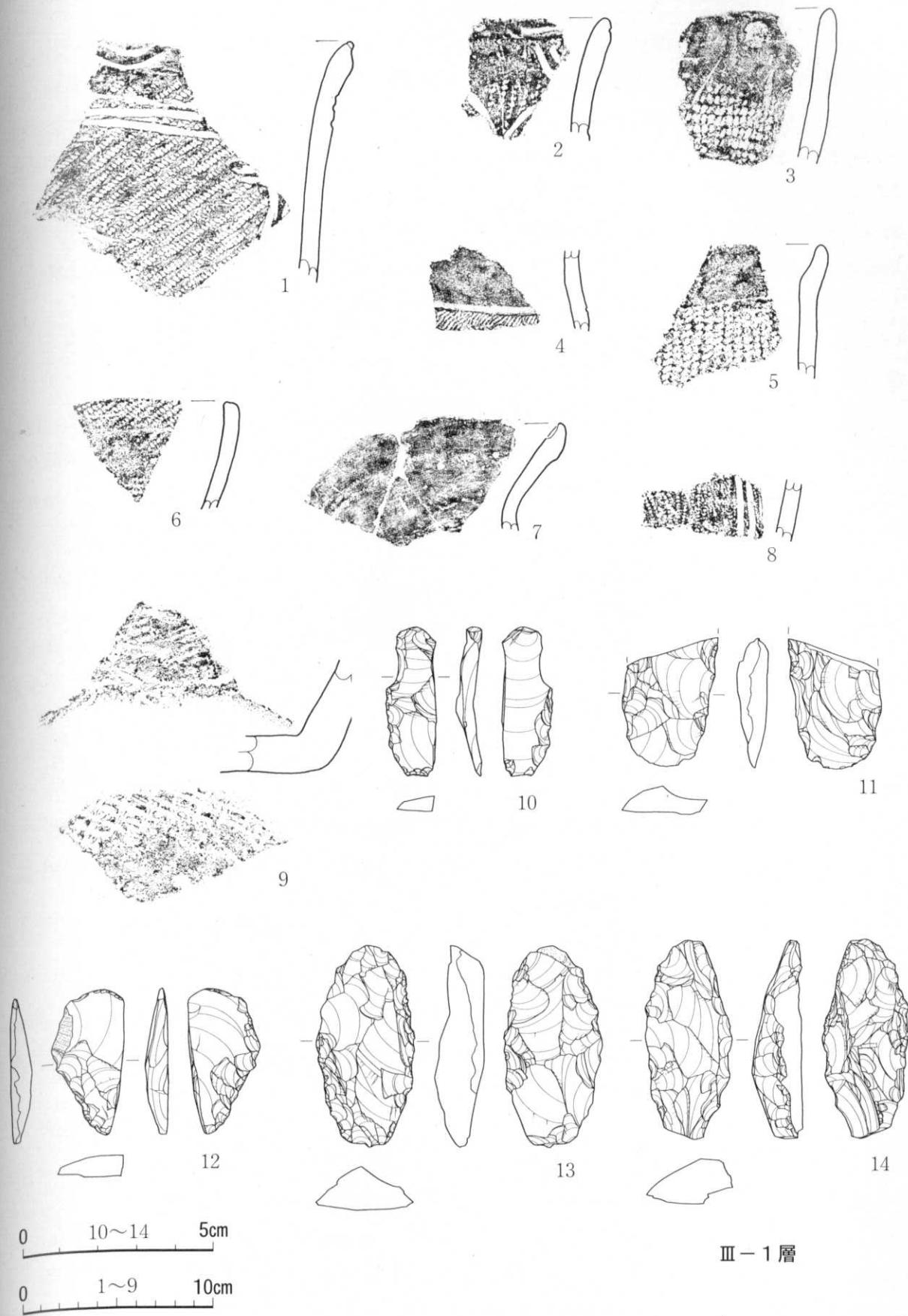
VIN-119・120に幅約0.6m、最大厚3cmで分布する。第5層の落ち込みに入り込んだように堆積する。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、ローム粒が多量、褐色土が中量、炭化物が微量含まれる。第1層より暗い色調である。遺物は出土しなかった。



81図 4トレンチ北壁土層断面

4トレンチ土層注記

1 黒褐	10YR2/3	炭化物中量、焼土粒・ローム粒少量
2 欠		
3 欠		
4 黒褐	10YR3/2	ローム粒多量、褐色土中量、炭化物微量 (1層より暗い)
5 暗褐	10YR3/3	ローム粒少量、炭化物・焼土粒微量
6 黒	10YR2/1	風倒木堆積土
7 黒褐	10YR2/3	風倒木堆積土、炭化物・ローム粒少量
8 褐	10YR4/4	風倒木堆積土、炭化物微量
9 暗褐	10YR3/3	風倒木堆積土、炭化物少量
10 黒	10YR1.7/1	風倒木堆積土、炭化物少量、焼土粒微量
11 黒褐	10YR2/2	炭化物微量、焼土粒極微量
12 褐	10YR4/4	ローム主体、暗褐色土少量
13 黒褐	10YR3/2	ローム粒少量、炭化物・焼土粒微量
14 黒褐	10YR2/2	炭化物・焼土粒微量
15 褐	10YR4/6	ローム主体、炭化物微量
16 暗褐	10YR3/4	ローム粒・炭化物少量
17 黒褐	10YR3/2	炭化物・灰白色粘土粒中量、ローム粒微量
18 褐	10YR4/4	ローム主体、炭化物・黒褐土微量
19 暗褐	10YR3/3	風倒木堆積土、炭化物少量
20 黒	10YR2/1	風倒木堆積土、ローム粒多量、炭化物少量 (1層と同じ?)
21 にぶい黄褐	10YR5/4	風倒木堆積土、ローム主体、炭化物少量
22 褐	10YR4/6	風倒木堆積土、炭化物少量、焼土粒微量
23 暗褐	10YR3/3	風倒木堆積土
24 褐	10YR4/6	ロームと黒褐土との混土層
25 暗褐	10YR3/4	ローム粒・炭化物・灰白色粘土粒少量
26 褐	10YR4/6	風倒木堆積土、ローム主体、炭化物・焼土粒含む
27 褐	10YR4/4	ローム多量、炭化物・焼土粒少量
28 暗褐	10YR3/3	ローム粒少量、炭化物微量
29 暗褐	10YR3/4	ローム粒・炭化物少量、28・30層よりも明るい
30 黒褐	10YR3/2	炭化物多量、ローム粒・灰色粘土少量、35層と同一層
31 褐	10YR4/6	ローム主体、暗褐土中量、炭化物少量
32 にぶい黄褐	10YR4/3	ローム主体、炭化物少量
33 暗褐	10YR3/4	ロームと黒褐土との混土、34層より明るく、27層より暗い
34 暗褐	10YR3/3	炭化物・灰白色粘土粒多量、ローム粒・焼土粒微量
35 黒褐	10YR2/2	炭化物中量、焼土粒・ローム粒少量
36 褐	10YR4/6	ローム主体、炭化物微量
37 黒	10YR2/1	炭化物層
38 黒褐	10YR2/3	炭化物・焼土粒微量
39 暗褐	10YR3/4	ローム粒・塊多量、炭化物微量
40 黒	10YR2/1	ローム粒微量
41 暗褐	10YR3/4	炭化物・ローム粒少量
42 にぶい黄褐	10YR5/4	ローム主体層、43層と同一
43 にぶい黄褐	10YR5/4	ローム主体層
44 褐	10YR4/4	ローム主体、黒褐土少量
45 黒褐	10YR2/2	炭化物微量
46 褐	10YR4/6	ローム主体、炭化物微量、43層と同一?
47 暗褐	10YR3/4	炭化物・焼土粒少量
48 黒褐	10YR3/2	ローム粒・炭化物多量、灰白色粘土少量、焼土粒微量
49 黒褐	10YR3/1	炭化物多量
50 褐	10YR4/6	ローム主体、炭化物少量
51 黒褐	10YR2/2	炭化物中量、ローム粒少量、灰色粘土・焼土粒微量
52 褐	10YR4/4	ローム主体、炭化物少量、焼土粒微量
53 暗褐	10YR3/4	炭化物・ローム粒少量、焼土粒微量
54 黒褐	10YR3/2	炭化物多量、ローム粒・焼土粒微量
55 黒暗褐	10YR3/4	ローム粒・炭化物少量、焼土粒ごく微量
56 黒褐	10YR2/3	炭化物・焼土粒多量
57 暗褐	10YR3/4	ローム粒・塊・炭化物多量、焼土粒微量
58 暗褐	10YR3/4	ローム粒・炭化物少量
59 黒褐	10YR2/2	炭化物・焼土粒少量
60 暗褐	10YR3/3	ローム塊・粒少量、炭化物・浮石粒少量
61 黒	10YR2/1	炭化物多量
62 褐	7.5YR4/6	焼土多量、炭化物中量
63 黒褐	10YR2/3	炭化物・焼土粒・ローム粒少量
64 暗褐	10YR3/3	黒褐土とロームの混合土
65 暗褐	10YR3/4	ローム粒・塊・炭化物多量、焼土粒微量
66 黄褐	10YR5/8	ローム主体層、炭化物多量、灰白色粘土粒・焼土粒微量
67 暗褐	10YR3/4	ローム粒少量
68 黄褐	10YR5/6	ローム主体層、炭化物微量
69 黒	10YR1.7/1	炭化物主体層
70 黒褐	10YR2/3	ローム粒中量、炭化物・焼土粒少量
71 にぶい黄橙	10YR6/3	粘土主体、密なブロック状、暗褐土少量混入
72 暗褐	10YR3/3	炭化物少量、焼土粒微量
73 黒	10YR2/1	炭化物層、暗褐土少量
74 褐	10YR4/6	ローム主体、黒褐土少量
75 暗褐	10YR3/4	ローム塊多量、炭化物少量
76 黒褐	10YR2/2	ローム粒・炭化物少量
77 褐	10YR4/6	ローム主体、炭化物中量、焼土粒微量
78 黒褐	10YR3/1	炭化物微量
79 暗褐	10YR3/3	ローム粒・炭化物少量 (79層より暗い)
80 黒褐	10YR2/3	暗褐土斑状、ローム粒少量
81 褐	10YR4/6	炭化物層
82 黒	10YR2/1	炭化物多量、ローム粒・灰色粘土少量、褐色土斑状
83 暗褐	10YR3/3	ローム主体層、密なブロック状で締まりなし、炭化物微量
84 褐	10YR3/3	炭化物・焼土粒中量
85 暗褐	10YR3/3	ローム主体、緻密でしまり強、炭化物極微量
86 褐	10YR4/6	ローム粒少量、炭化物微量
87 暗褐	10YR3/4	炭化物少量
88 黒褐	10YR3/2	粘性強、炭化物少量
89 黒褐	10YR2/2	



82図 4トレンチIII-1層出土遺物

第5層

VIM・O-119・120に幅約2.1m、最大厚15cmで分布する。層東側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積で、層厚はほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、ローム粒が多量に、炭化物・焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は榎林式土器を主体に、多量に出土した。83-1は口唇部に凹状沈線が施文され胴部は地文のみの土器である。また、83-15は沈線で同心円が描かれている。石器も多数出土した。石鏸の未製品(83-17)、剥片(83-18)、石錐(83-19)、使用痕のある剥片(84-1)、異形石器の可能性がある両面加工石器(84-2)、削器ないし搔器(84-3)、使用痕のある剥片(84-4・5)、剥片(84-6)、磨痕のある礫(84-7)がある。ほかに、土製品として、土偶の右胸片が1点、ミニチュア土器の底部片が2点出土した。

第11層

VIM-119・120に幅約1.5m、最大厚13cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、炭化物が微量、焼土粒がごく微量含まれる。遺物は、土器は最花式土器小片を主体に、ごく微量に出土した。86-3は縦位の沈線が施文されている。石器では、石器断片(86-4)、削器ないし搔器(86-5)がそれぞれ1点出土した。

第12層

VIM-119に幅約1.6m、最大厚12cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積で、層厚はほぼ同じである。堆積土は褐色(10YR4/4)のローム土を主体とし、暗褐色土が少量に含まれる。遺物は出土しなかった。

第13層

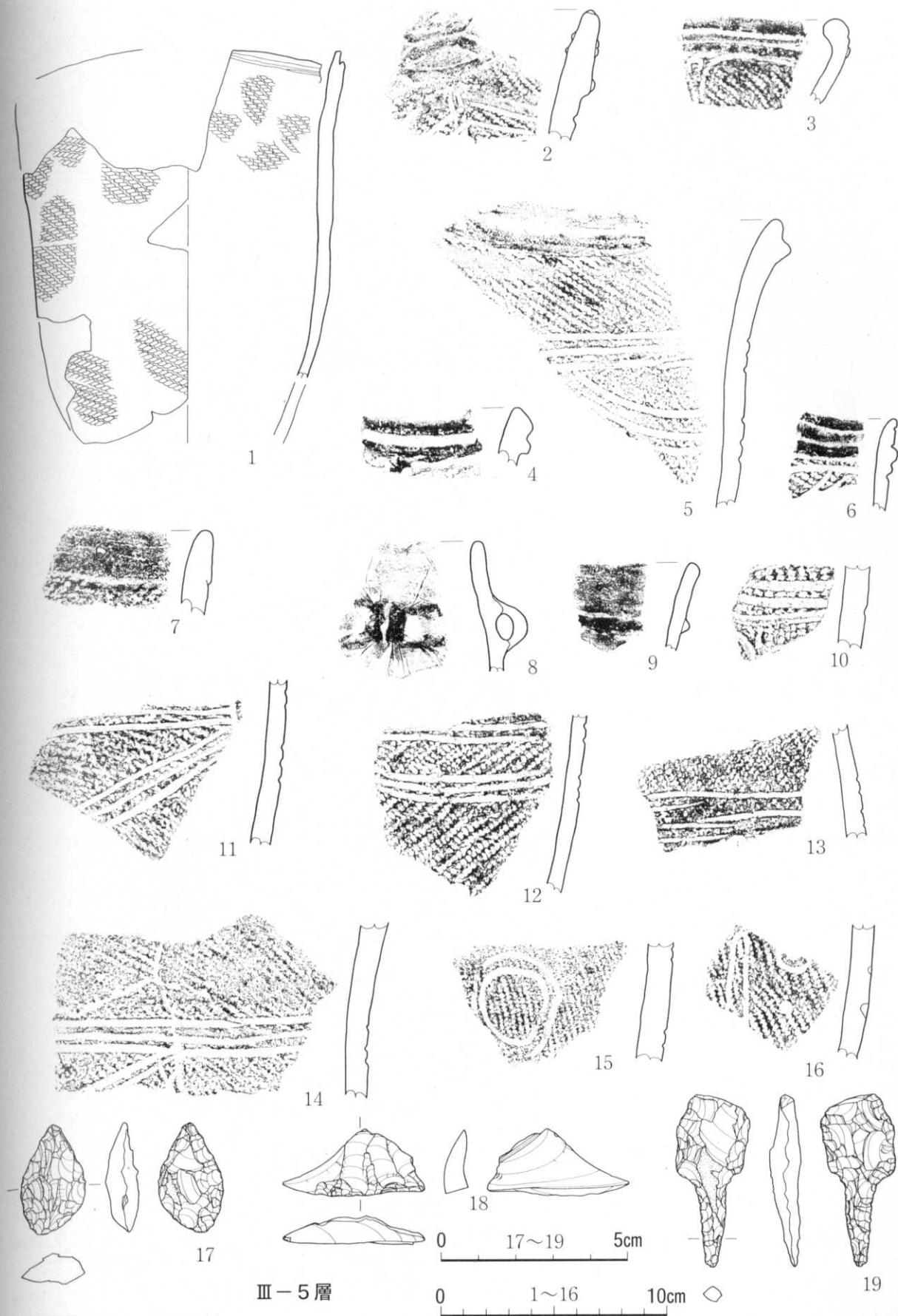
VIM-119・120に幅約1.65m、最大厚14cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積で、層厚はほぼ同じである。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、ローム粒が少量、炭化物・焼土粒が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第14層

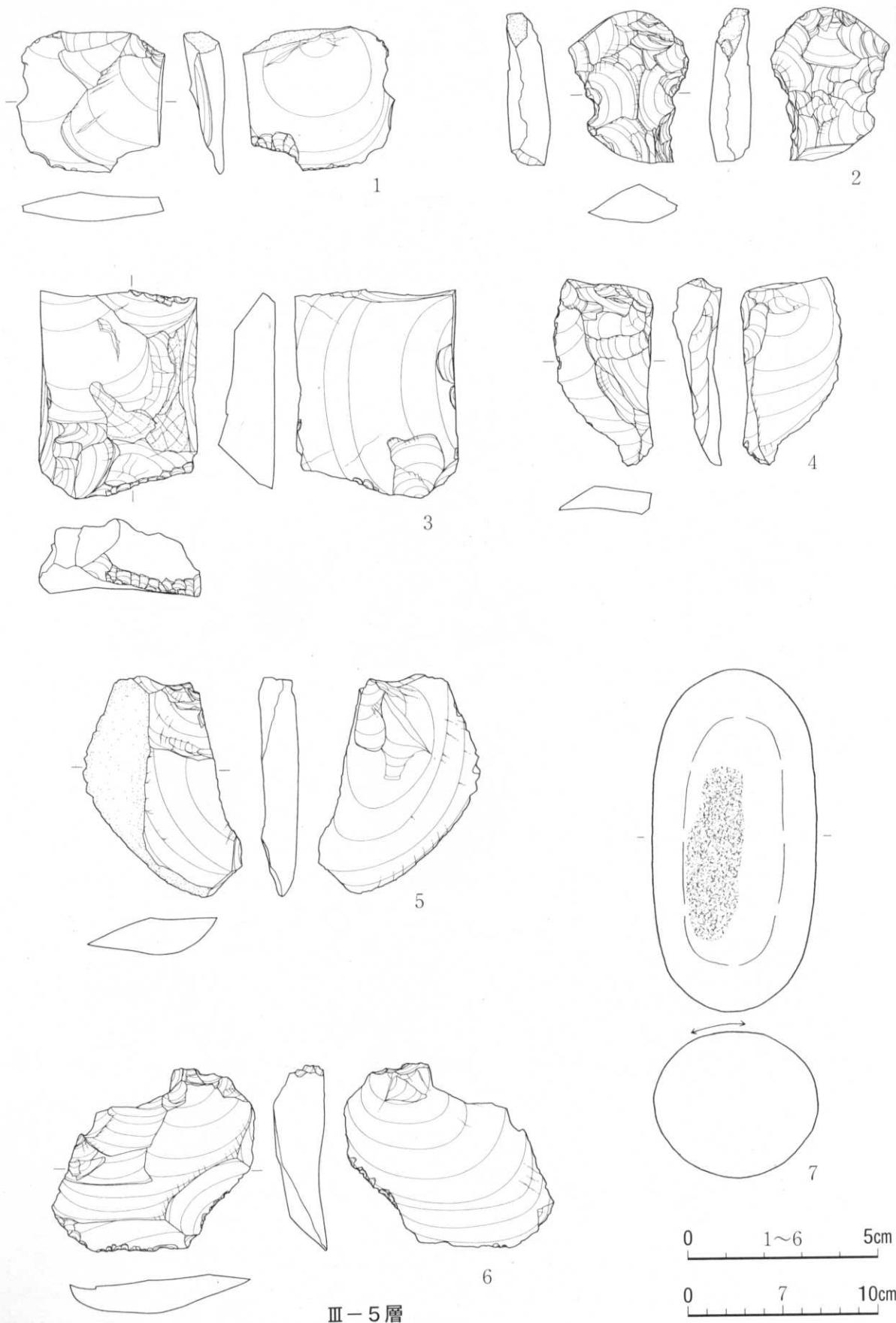
VIM-119・120に幅約0.9m、最大厚6cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積で、層厚はほぼ同じである。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、炭化物・焼土粒が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第15層

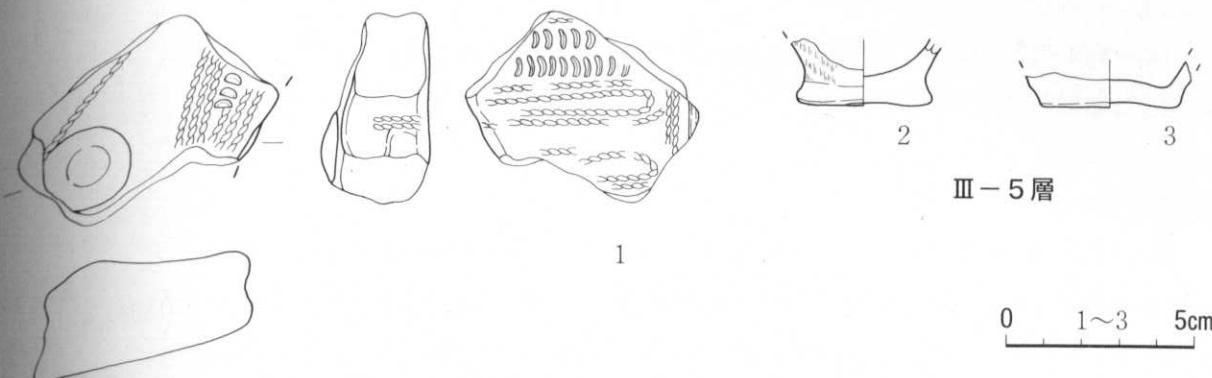
VIM-119・120に幅約0.5m、最大厚4cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積で、層厚は薄くほぼ同じである。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム土を主体とし、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。



83図 4トレンチIII-5層出土遺物(1)



84図 4トレンチⅢ-5層出土遺物 (2)



85図 4トレンチIII-5層出土遺物(3)

第16層

VIM-119・120に幅約1.2m、最大厚11cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、東側に向かって厚くなる。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第17層

VIM-119・120に幅約2.05m、最大厚15cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。ほぼ水平な堆積で、層厚は風倒木側がやや厚いものほぼ同じである。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、炭化物・灰白色粘土粒が中量、ローム粒が微量含まれる。遺物は、石器は被熱痕のある有茎鏃(86-18)、磨痕と敲打による凹みをもつ礫(86-19)が出土した。

第18層

VIM-119・120に幅約1.45m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、層厚は薄く、ほぼ同じである。堆積土は褐色(10YR4/4)のローム土を主体とし、炭化物・黒褐色土が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第24層

VIM・N-119・120に幅約0.6m、最大厚6cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。層東側はほぼ水平な堆積で、西側は第27・33層の落ち込みへ入り込んだように堆積する。堆積土は褐色(10YR4/6)土を主体とし、ロームと黒褐色土との混合土層である。遺物は、円筒上層式土器の突起部片が出土した。

第25層

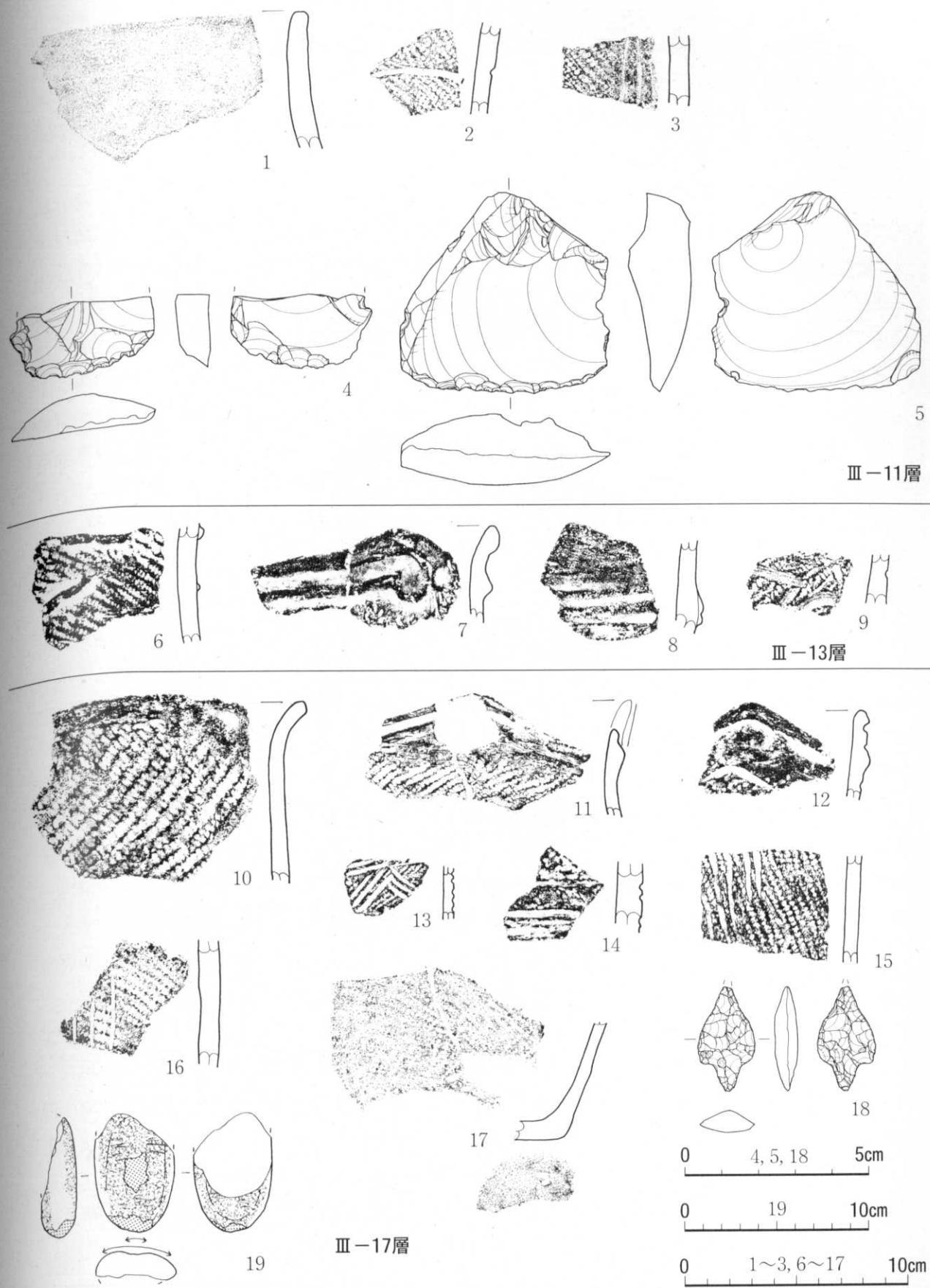
VIM-119・120に幅約1.9m、厚さ15cmで分布する。いく分東側へ低く傾斜し、層厚も増すようだが、ほぼ水平な堆積で、層厚もほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物・灰白色粘土粒が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層e式土器片が少量出土した。沈線文が施文されたものや地文のみのものがある。石器では、石鏃の未製品(87-12)、磨痕のある礫(87-13・14)が出土した。

第27層

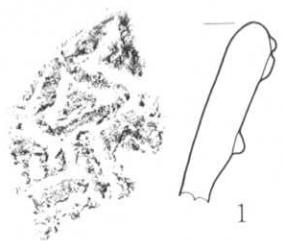
VIM・N-119・120に幅約2.2m、最大厚11cmで分布する。やや東側へ低く傾斜し、層厚は薄くなるが、ほぼ水平な堆積で、層厚もほぼ同じである。堆積土は褐色(10YR4/4)土を主体とし、ローム粒が多量、炭化物・焼土粒が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第28層

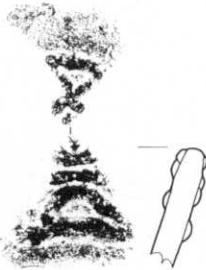
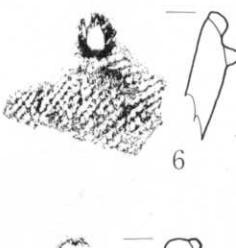
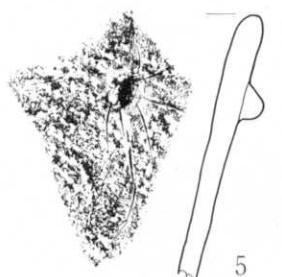
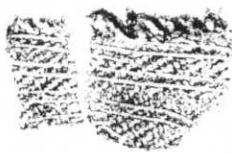
VIN-119・120に幅約1.0m、最大厚7cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、層厚もほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、ローム粒が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。



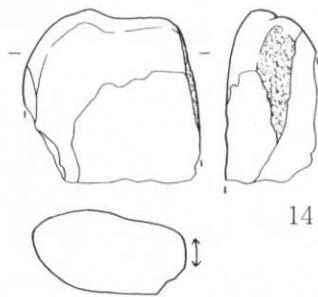
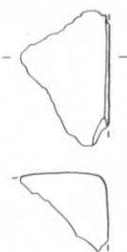
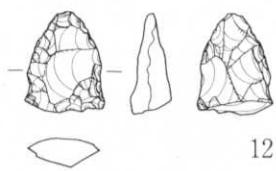
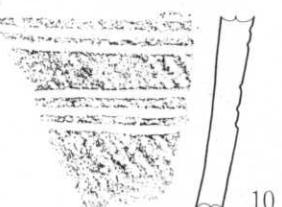
86図 4トレンチIII-11・13・17層出土遺物



III-24層



7



III-25層

0 12 5cm

0 13, 14 10cm

0 1~11 10cm

87図 4トレンチIII-24・25層出土遺物

第29層

VIN・O-119・120に幅約0.7m、最大厚10cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、第30層の落ち込みへ入り込んだように堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量含まれる。上下層の第28・30層よりも明るい色調である。遺物は出土しなかった。

第30層

VIN・O-119・120に幅約1.9m、厚さ26cmで分布する。全体的にやや東側へ傾斜し、層厚も増す。第32層で分断されるが、第35層と同一層である可能性が高い。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、炭化物が多量、ローム粒・灰色粘土が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器片が多量に出土した。地文施文後の貼付隆帯が施文されたものが多い。89-2は復元個体であるが、他の出土土器より古い段階のものである。また、89-4は波頂部下に渦巻き状沈線が描かれている。石器も多量に出土した。有茎鏃(89-5・8)、石鏃を転用した石錐(89-6)、欠損している石鏃(89-7)、石鏃未製品(89-9)、使用痕のある剥片(89-10・12・14・15)、縦形石匙(89-13、90-1)、被熱している石器断片(90-2)、削器ないし搔器(90-3)、ハンマーの可能性もある敲打痕のある礫(90-4)、磨痕のある礫(90-5・7)、敲打による凹をもつ礫(90-6)、石棒(90-8)がある。土製品は、中央に穿孔のある丸玉(91-1)、半割したクルミ核の内側に粘土を押しつけたクルミ押圧土製品(91-2・3)が出土した。

第31層

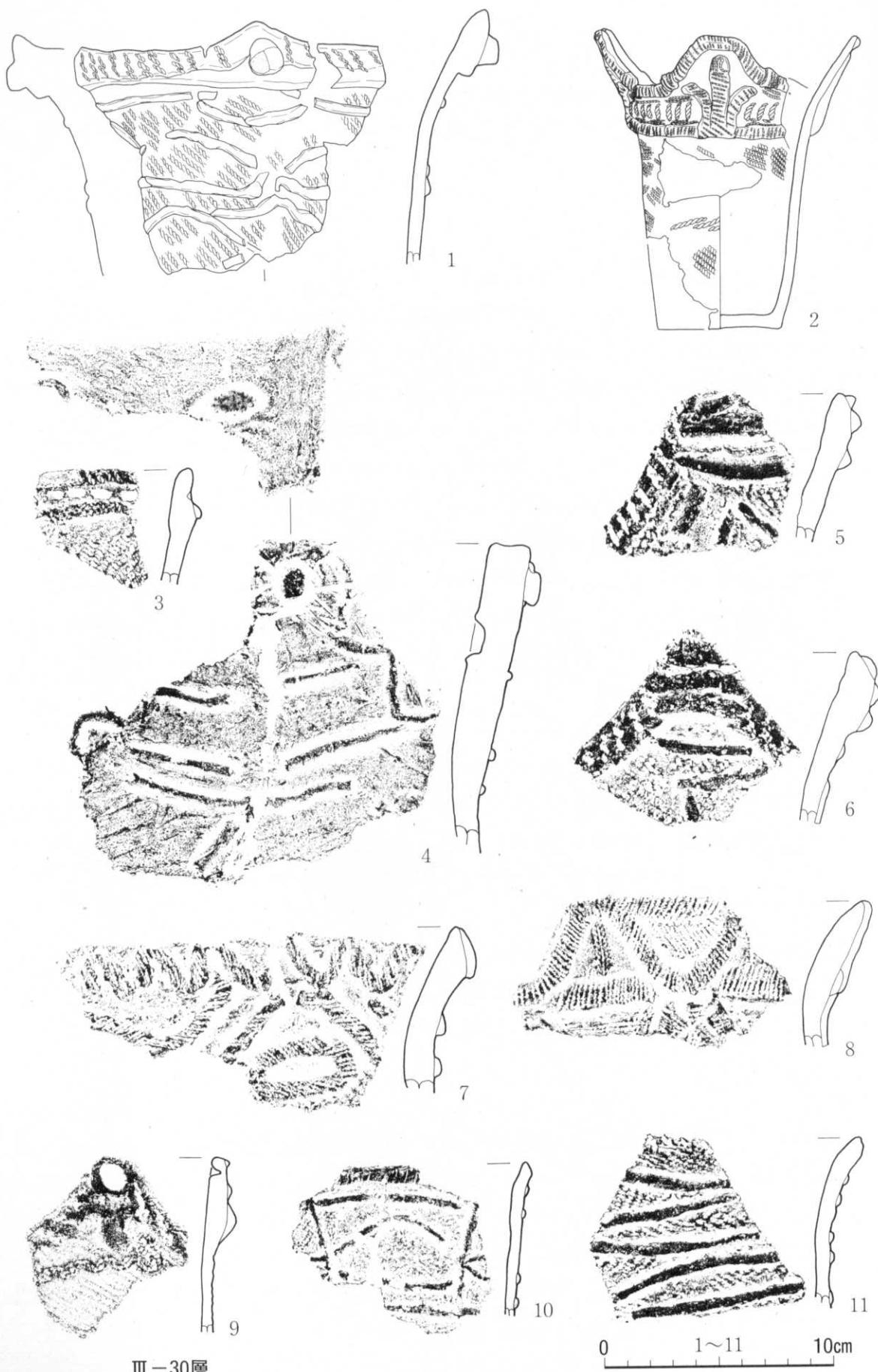
VIN・O-119・120に幅約0.3m、最大厚7cmで狭い範囲に分布する。第35層の落ち込みへ入り込んだように堆積する。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム土を主体とし、暗褐色土が中量、炭化物が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第32層

VIM・N-119に幅約0.3m、最大厚15cmで分布する。層の堆積状況から、攪乱により形成されたものと考えられる。堆積土はにぶい黄褐色(10YR4/3)のローム土を主体とし、炭化物が少量に含まれる。遺物は出土しなかった。

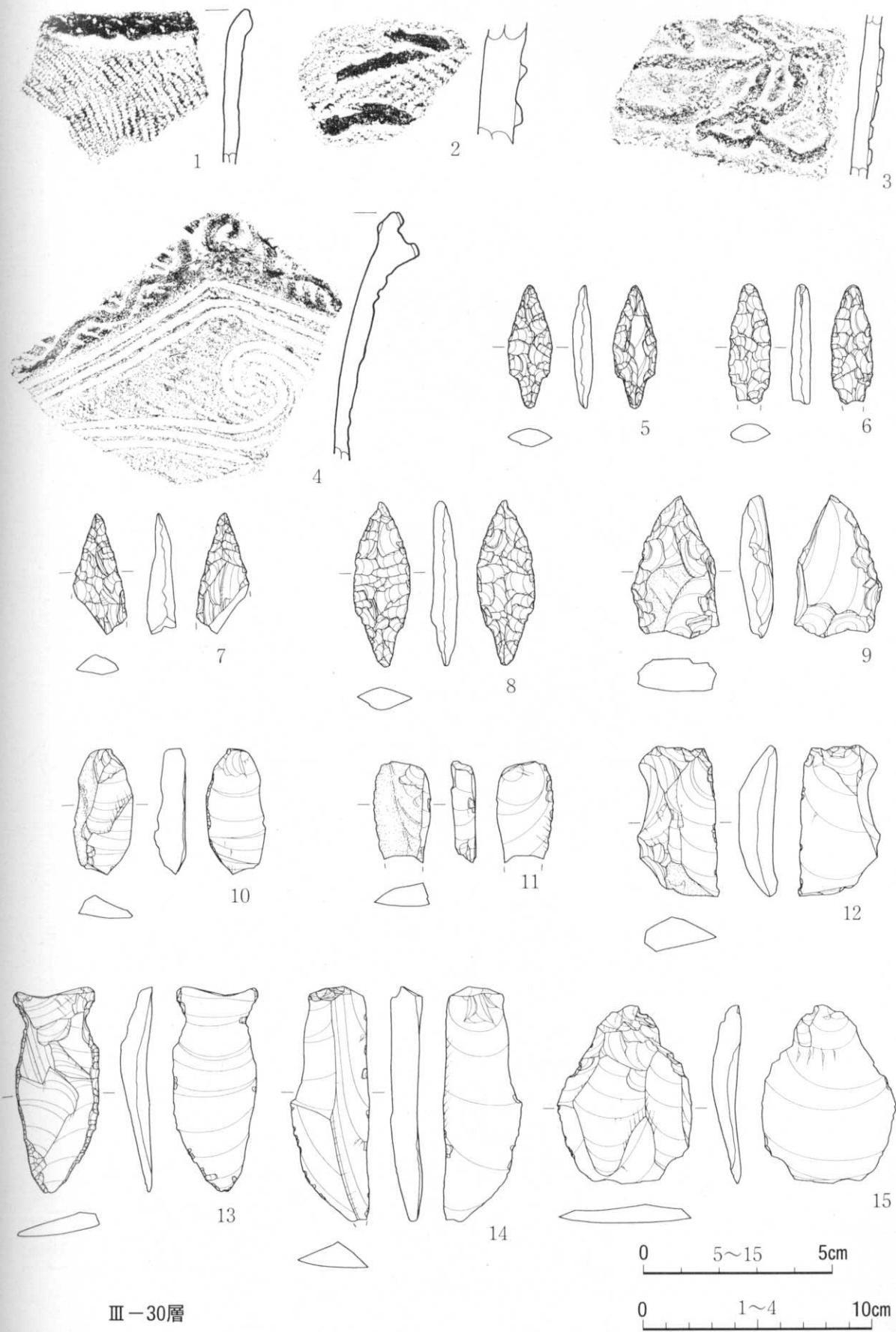
第33層

VIM・N-119・120に幅約2.15m、最大厚14cmで分布する。層西側を風倒木によって壊されている。若干東側へ傾斜し、層厚を減じながら堆積する。層上面はやや起伏がある。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体としたロームと黒褐色土との混合土である。上下層の第34層より明るく、第27層より暗い色調である。遺物は、土器は円筒上層d式土器を主体に出土した。91-8は横位と渦巻き状の沈線文が施文されたものである。石器では、使用痕のある剥片(91-9~11)、磨痕のある礫(91-12)が出土した。



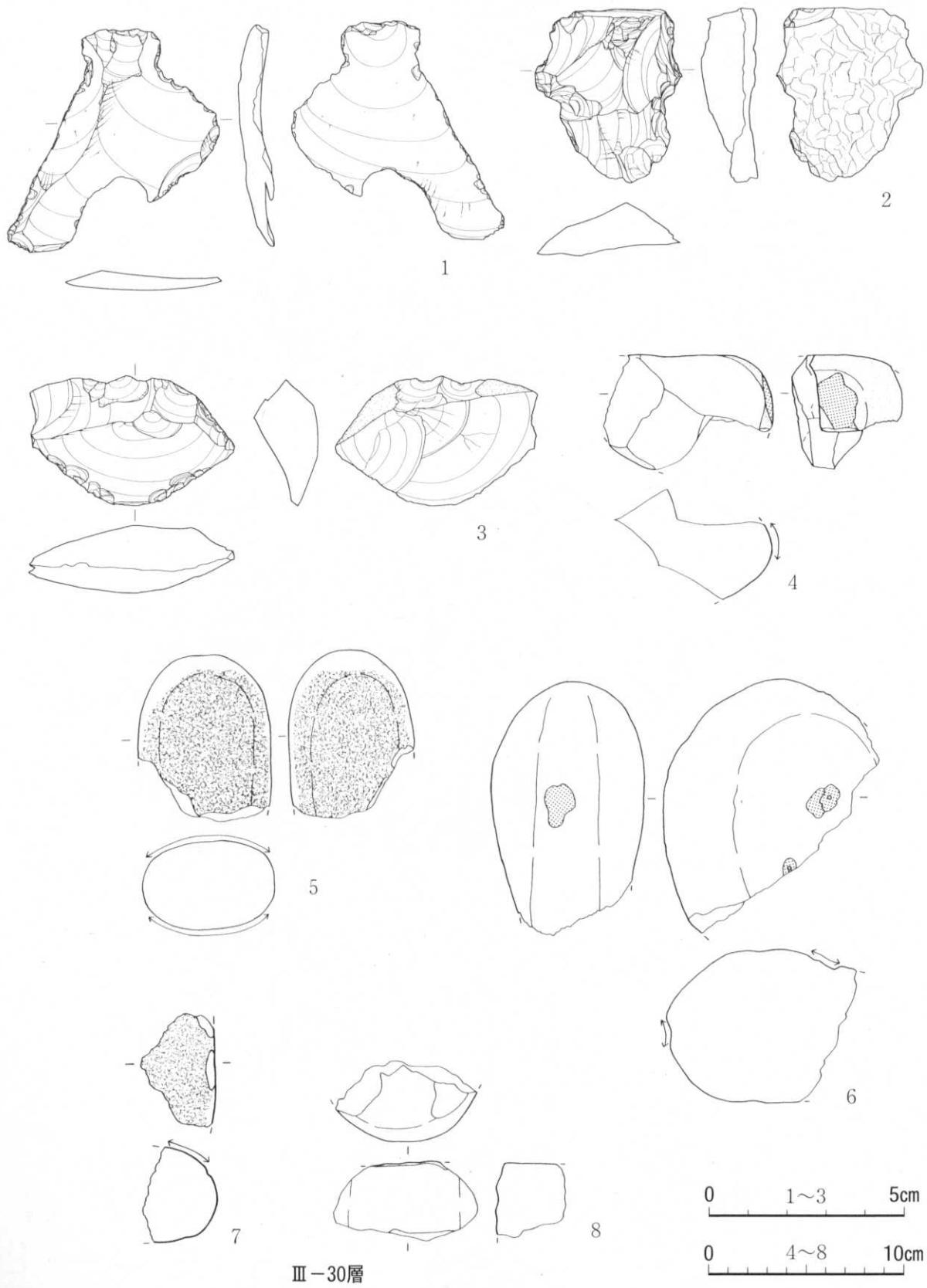
III-30層

88図 4トレンチIII-30層出土遺物 (1)



III-30層

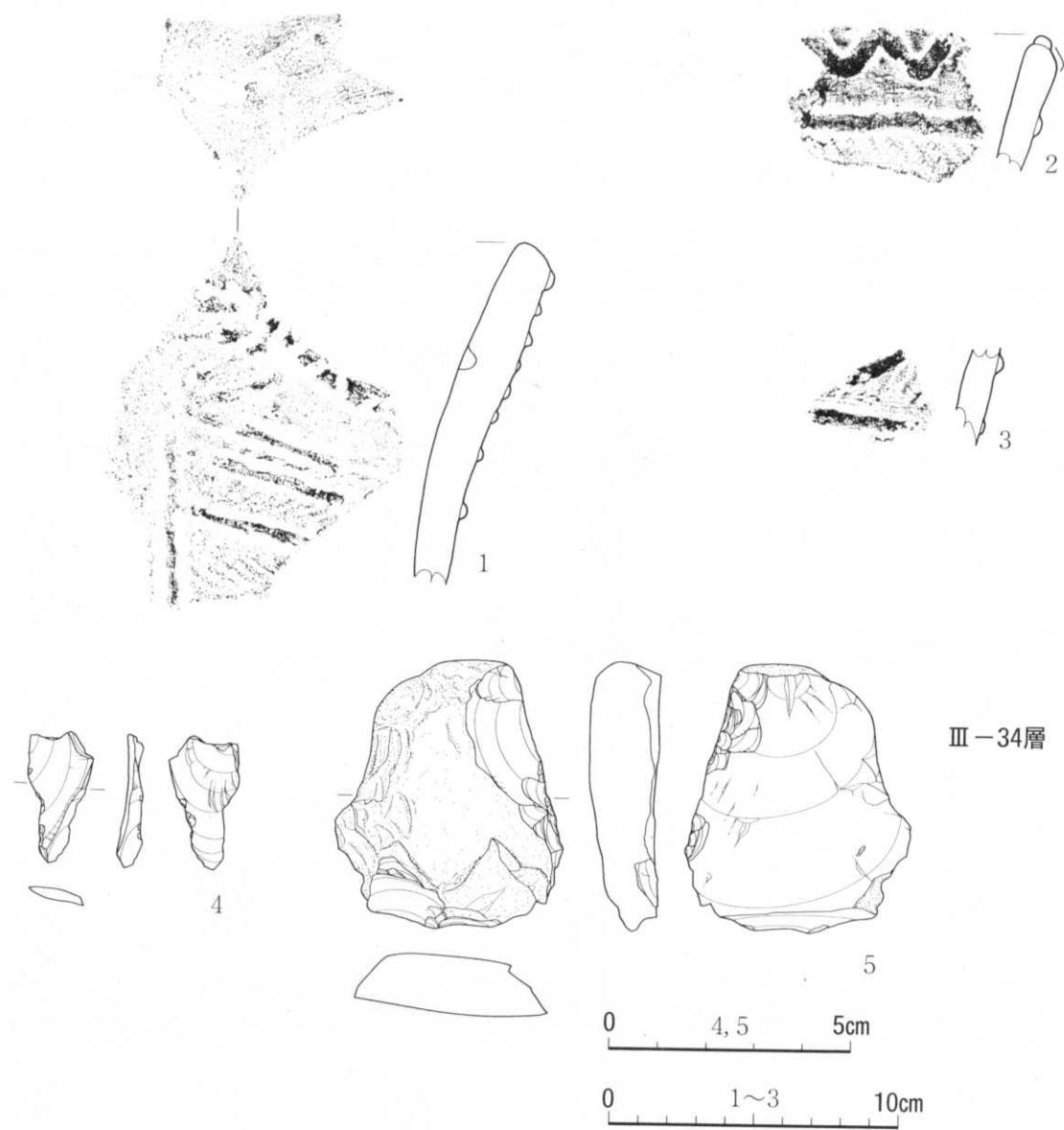
89図 4トレンチIII-30層出土遺物(2)



90図 4 トレンチIII-30層出土遺物 (3)



91図 4トレンチIII-30層出土遺物(4)・33層出土遺物



92図 4トレンチIII-34層出土遺物

第34層

VIM-119・120に幅約1.8m、最大厚15cmで分布する。若干東側へ傾斜するものの、ほぼ水平な堆積で、厚さは西側で薄くなる。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、炭化物・灰白色粘土粒が多量、ローム粒・焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器を主体に少量出土した。石器は使用痕のある剥片(92-4)、玉髓製の削器ないし搔器(92-5)が出土した。

第35層

VIM-N-119・120に幅約4.3m、最大厚22cmで分布する。上面の一部を風倒木によって壊されている。東側へ向かって低く傾斜して堆積し、層厚は東側で薄くなる。上述のように、第30層と同一層である可能性が高い。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、炭化物が中量、焼土粒・ローム粒が少量含まれる。遺物は、土器はある程度復元し得たものを含めて多量に出土した。円筒上層d式土器が主体である。94-1は貼付隆帯間に刺突が加わるものである。石器では、使用痕のある剥片(94-10)、凹基鏃(94-11)、二次加工剥片(94-12)、ハンマーの可能性がある敲打痕が観察される礫(95-1)が出土した。

第36層

VIM-119・120に幅約0.35m、最大厚5cmで、ごく狭い範囲に分布する。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム土を主体とし、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第37層

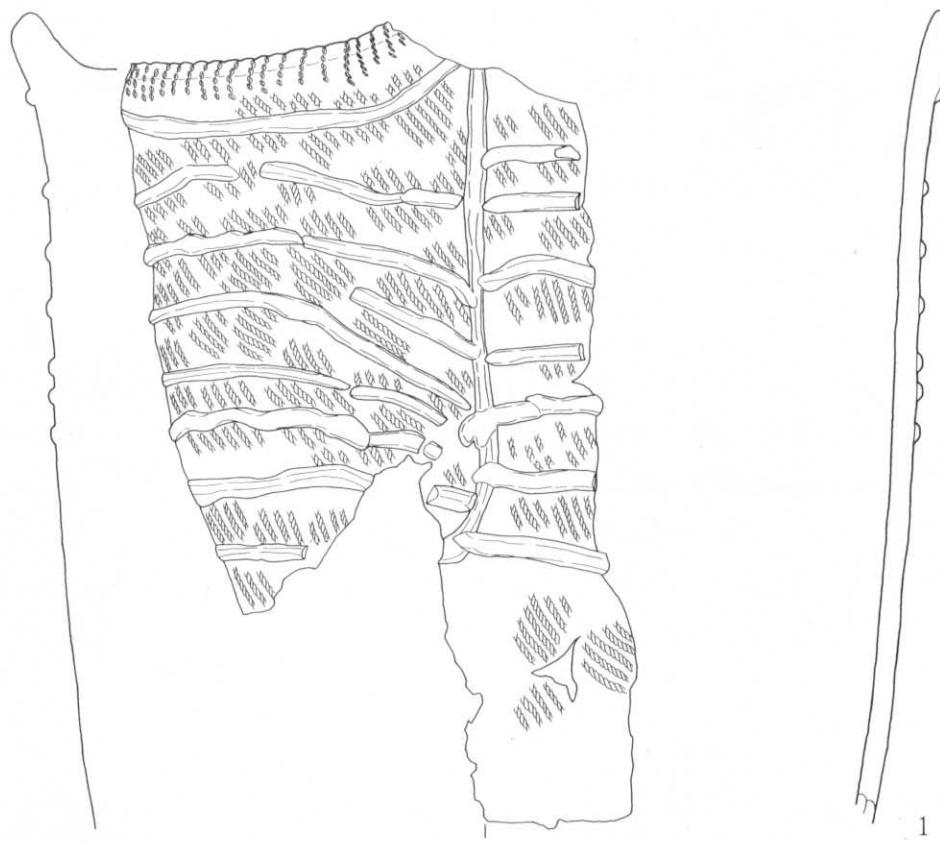
VIM-119・120に幅約0.7m、最大厚5cmで分布する。やや東側へ低く傾斜して堆積し、層厚はほぼ同じである。堆積土は黒色(10YR2/1)の炭化物層である。遺物は、土器は円筒上層d式土器片がごく少量出土した。また、土製品では、95-3は棒状の側縁に刻みを入れたものが、石製品では軽石製で「J」字状に成形したもの(95-4)が出土した。

第38層

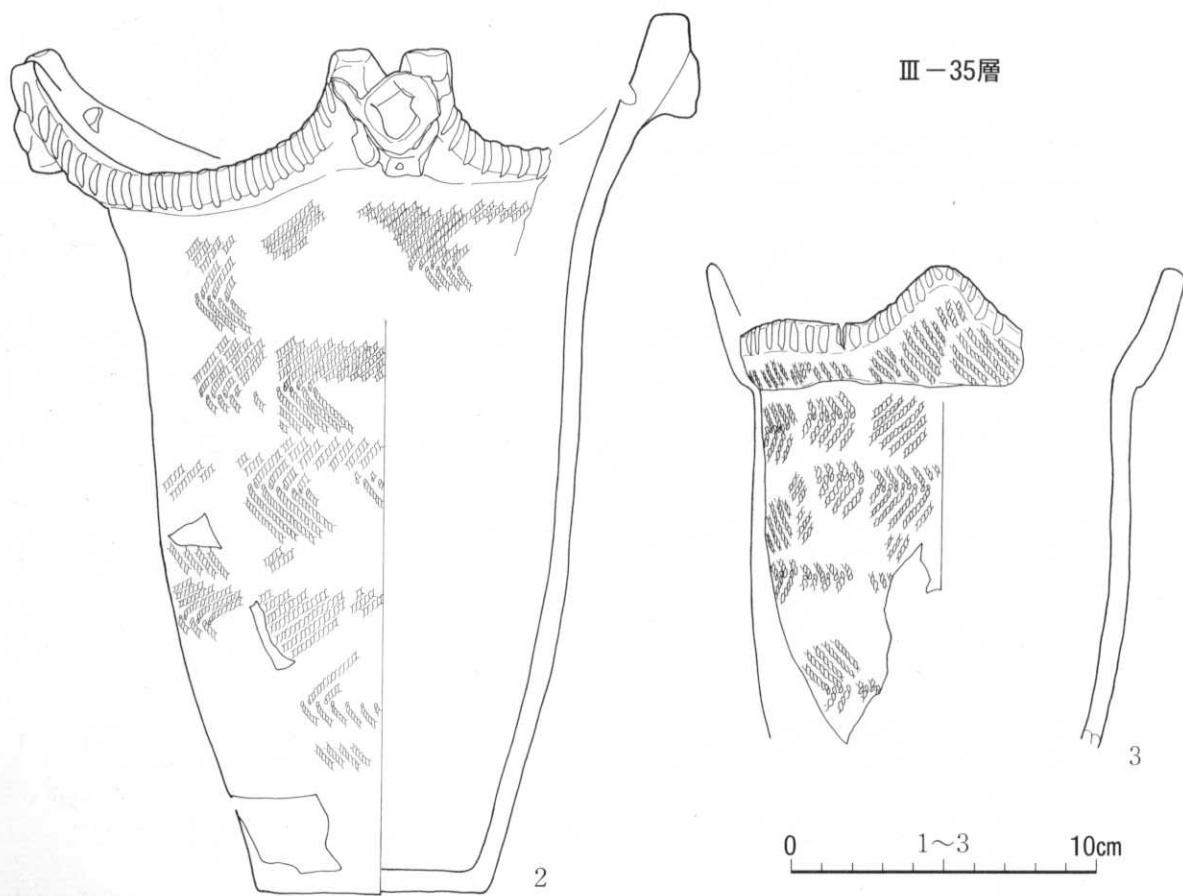
VIM-119・120に幅約0.4m、最大厚3cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積し、層厚は薄く均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、炭化物・焼土粒が微量含まれる。遺物は、円筒上層d式土器片が少量出土した。96-1は比較的大型の破片で、第37層から出土した破片と接合したものである。

第39層

VIM-119・120に幅約0.7m、最大厚5cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積し、層厚は薄く均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・塊が多量、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。



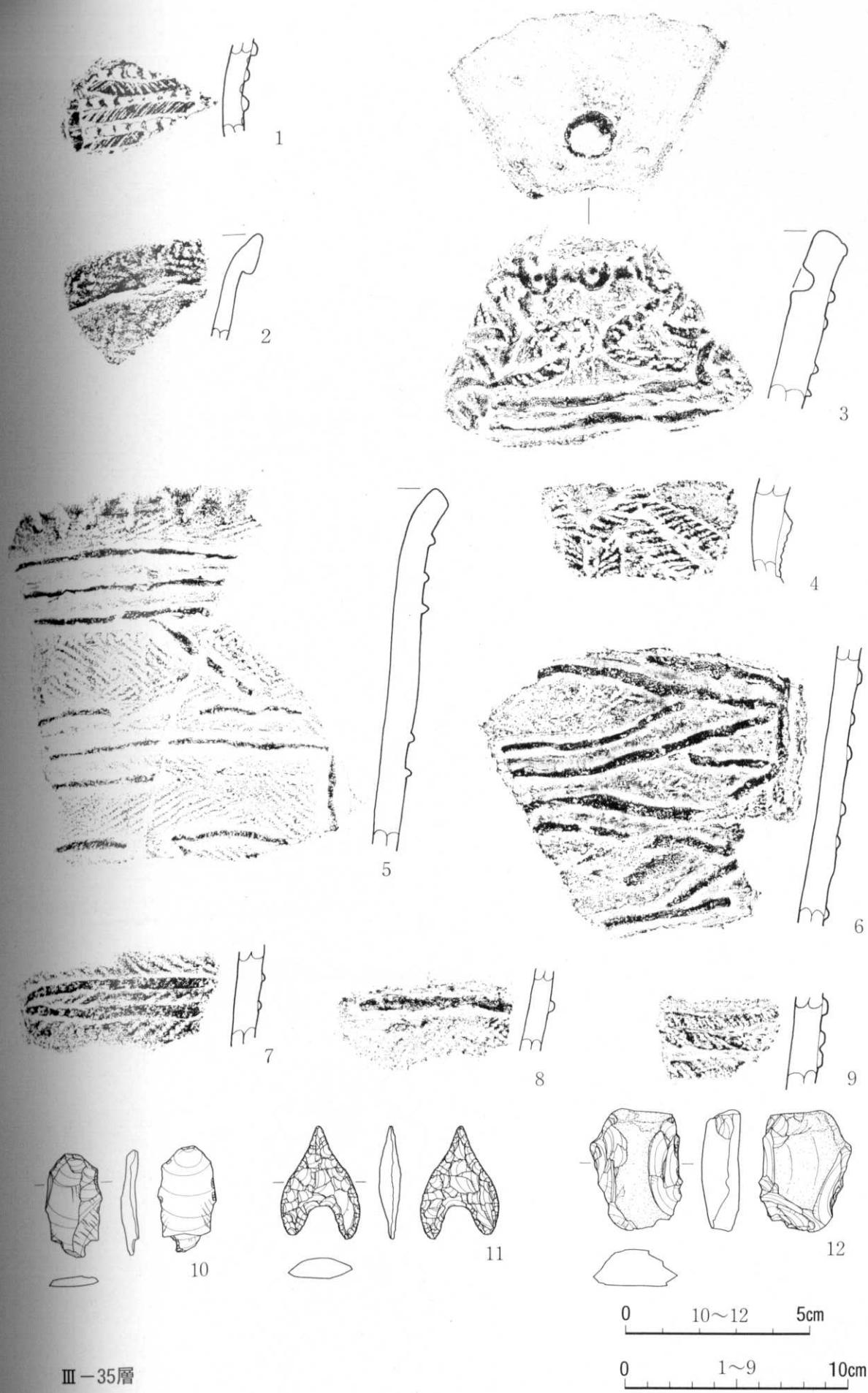
1



3

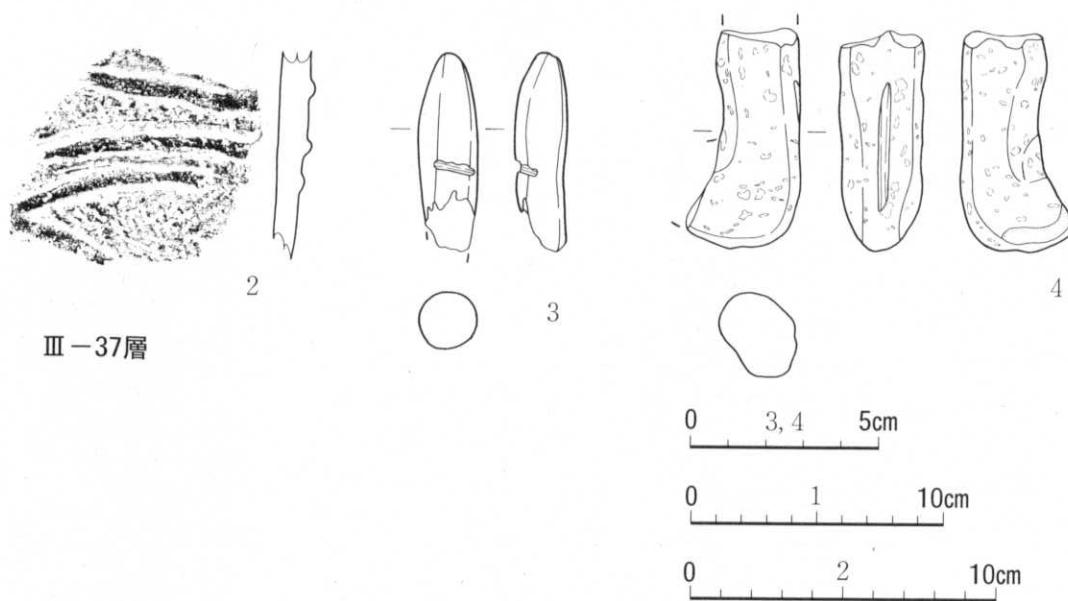
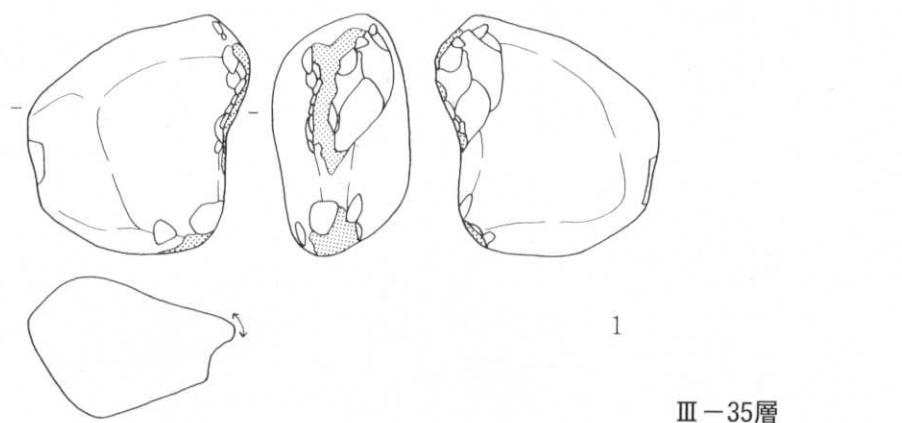
0 1~3 10cm

93図 4トレンチIII-35層出土遺物 (1)

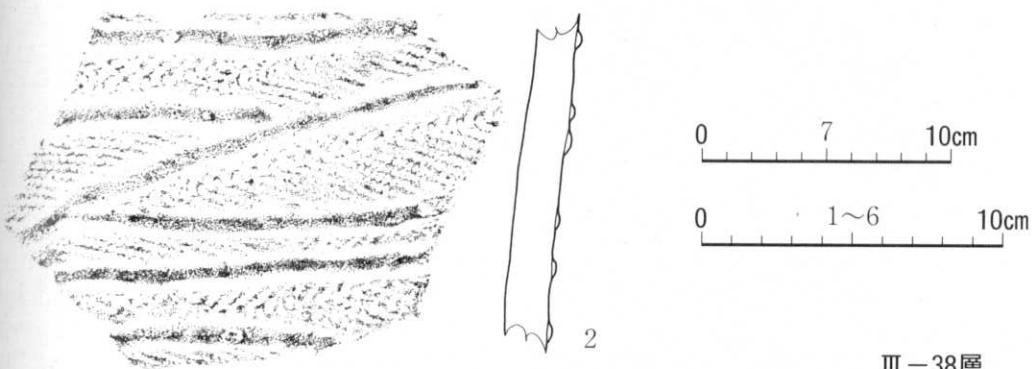
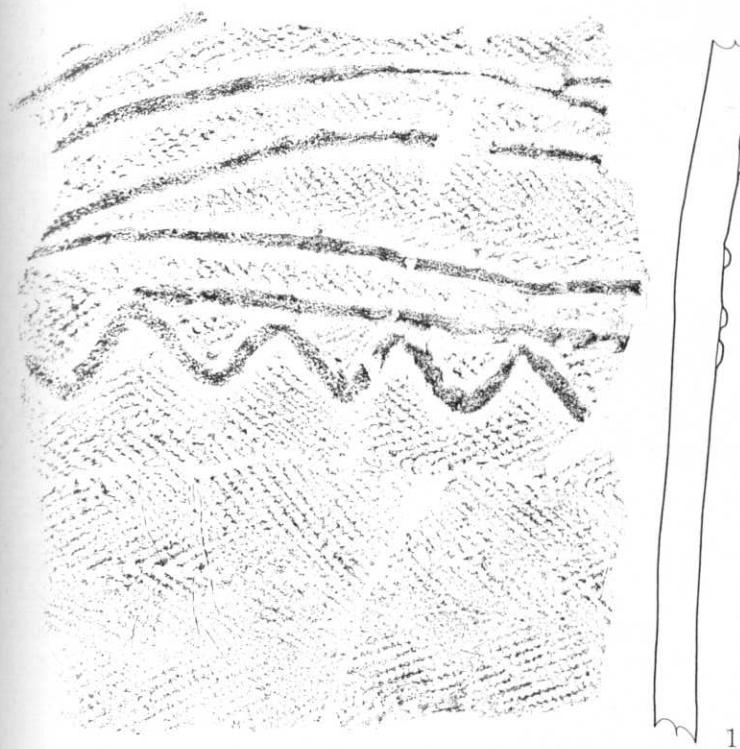


III-35層

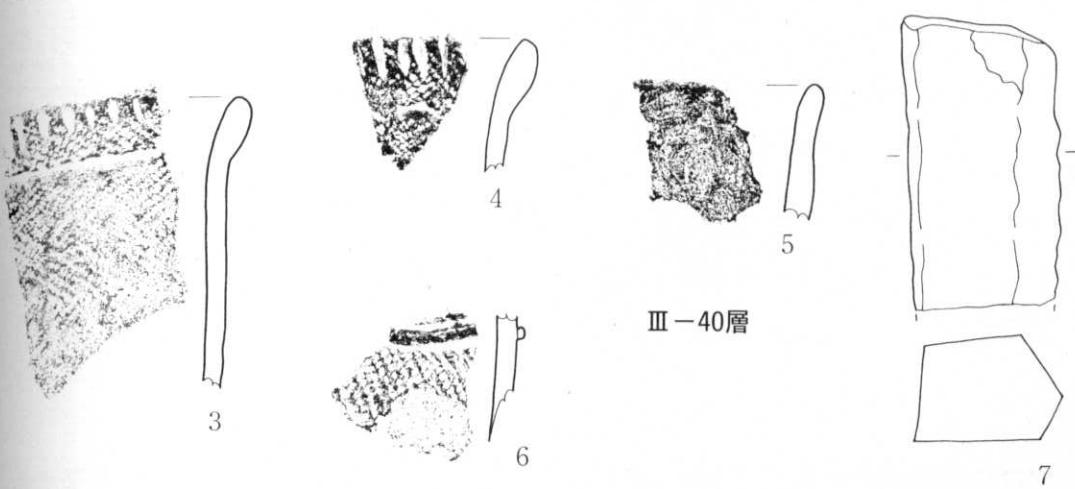
94図 4トレンチIII-35層出土遺物(2)



95図 4トレンチIII-35層出土遺物(3)・37層出土遺物



III-38層



96図 4トレンチIII-38・40層出土遺物

第40層

VIM-119・120に幅約1.0m、厚さ6cmで分布する。ほぼ水平な堆積で、層厚もほぼ同じである。堆積土は黒色(10YR2/1)土を主体とし、ローム粒が微量含まれる。遺物は、土器では円筒上層d式土器の小片などがごく少量出土した。96-5は無文の口縁部である。石器では角柱状の礫(96-7)が1点出土した。

第41層

VIN-O-119・120に幅約1.2m、最大厚10cmで分布する。やや東側へ傾斜して堆積する。層厚はほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器を主体として、多量に出土したが、復元し得たものはなかった。97-1は貼付隆帯間に縄文原体による馬蹄形押圧が施文される。97-6・7は突起部内面に盲孔のあるものである。石器では、削器ないし搔器(98-1)、磨痕のある礫(98-2)、敲打痕のある礫(98-3)がそれぞれ1点出土した。

第42層

VIN-119に幅約0.55m、最大厚4cmで分布する。第48層の小さな落ち込みへ入り込んだように堆積する。堆積土はにぶい黄褐色(10YR5/4)のローム土を主体とする。第43層と同一層と見られる。遺物は出土しなかった。

第43層

VIN-119・120に幅約0.3m、最大厚3cmで分布する。第42層と同一層と考えられる。堆積土はにぶい黄褐色(10YR5/4)のローム土が主体である。遺物は出土しなかった。

第44層

VIN-119・120に幅約0.35m、最大厚4cmでごく狭い範囲に分布する。ほぼ水平な堆積である。堆積土は褐色(10YR4/4)のローム土を主体とし、黒褐色土が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器片などがごく少量出土した。また、ミニチュア土器の底部片(98-5)が出土した。縄文が施文されている。

第45層

VIN-119・120に幅約0.6m、最大厚6cmで分布する。第43・47層の間隙に入り込んだように堆積する。東側へ向かってやや傾斜する。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

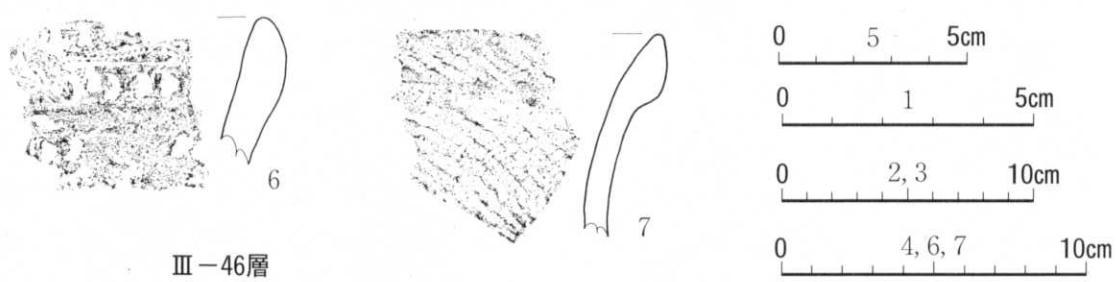
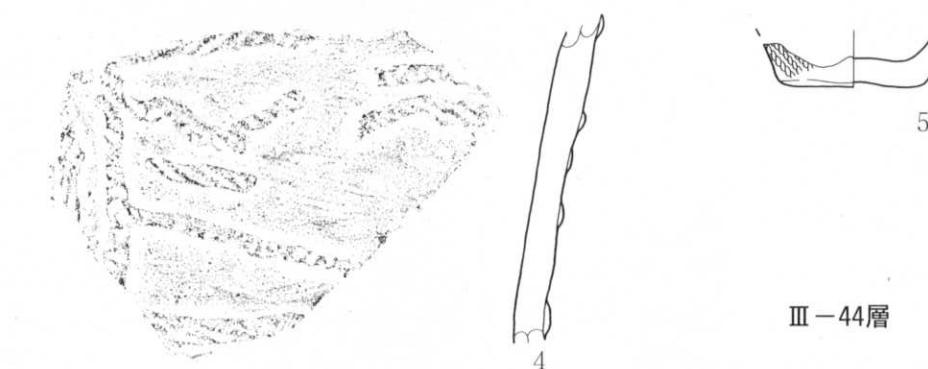
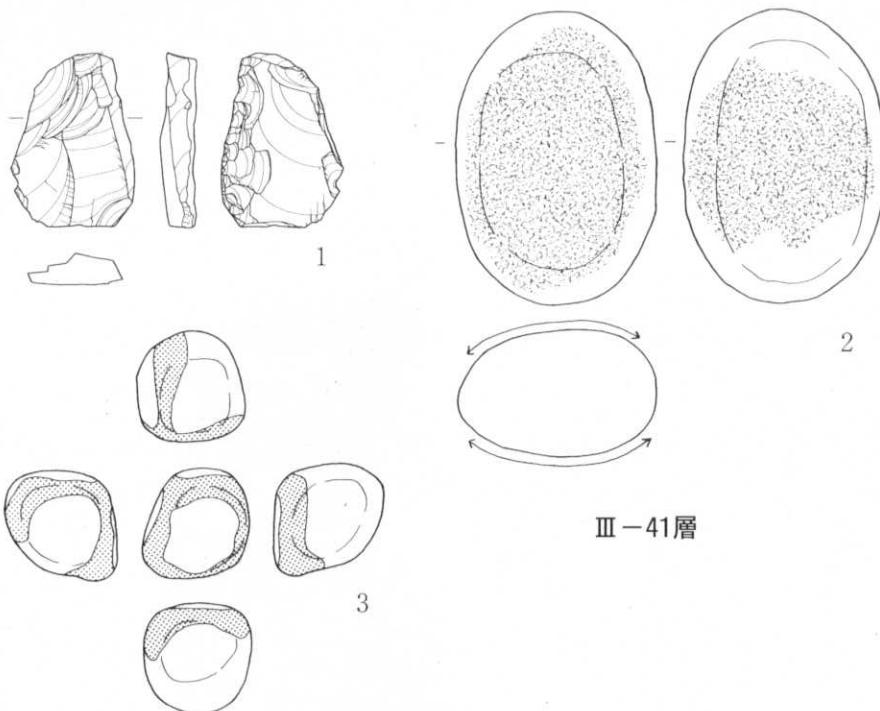
第46層

VIN-119・120に幅約0.8m、最大厚6cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積し、層厚は均一である。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム土を主体とし、炭化物が微量含まれる。第43層と同一層の可能



III-41層

97図 4トレンチIII-41層出土遺物(1)



98図 4 トレンチIII-41層出土遺物 (2)・44・46層出土遺物

性がある。遺物は、中期中葉の土器小片がごく少量出土した。98-6は口唇部に刺突が施文されたものである。

第47層

VIN-119・120に幅約1.25m、最大厚9cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積し、層厚はほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、炭化物・焼土粒が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第48層

VIN・O-119・120に幅約3.8m、最大厚19cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積し、層中央が最も厚い。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、ローム粒・炭化物が多量、灰白色粘土が少量、焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器片を主体とし多量に出土した。99-1・2は貼付隆帶間に刺突が加わるものである。99-4は無文面に隆帶が貼付けられている。石器の出土量も多い。有茎鏃(99-8~10・12)が4点、両面加工石器(99-11)、異形石器(99-13)、敲打痕のある礫(99-14)がそれぞれ1点出土した。

第49層

VIM・N-119・120に幅約1.1m、最大厚7cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積し、層厚は均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/1)土を主体とし、炭化物が多量に含まれる。遺物は台石?(100-1、2)が出土した。

第50層

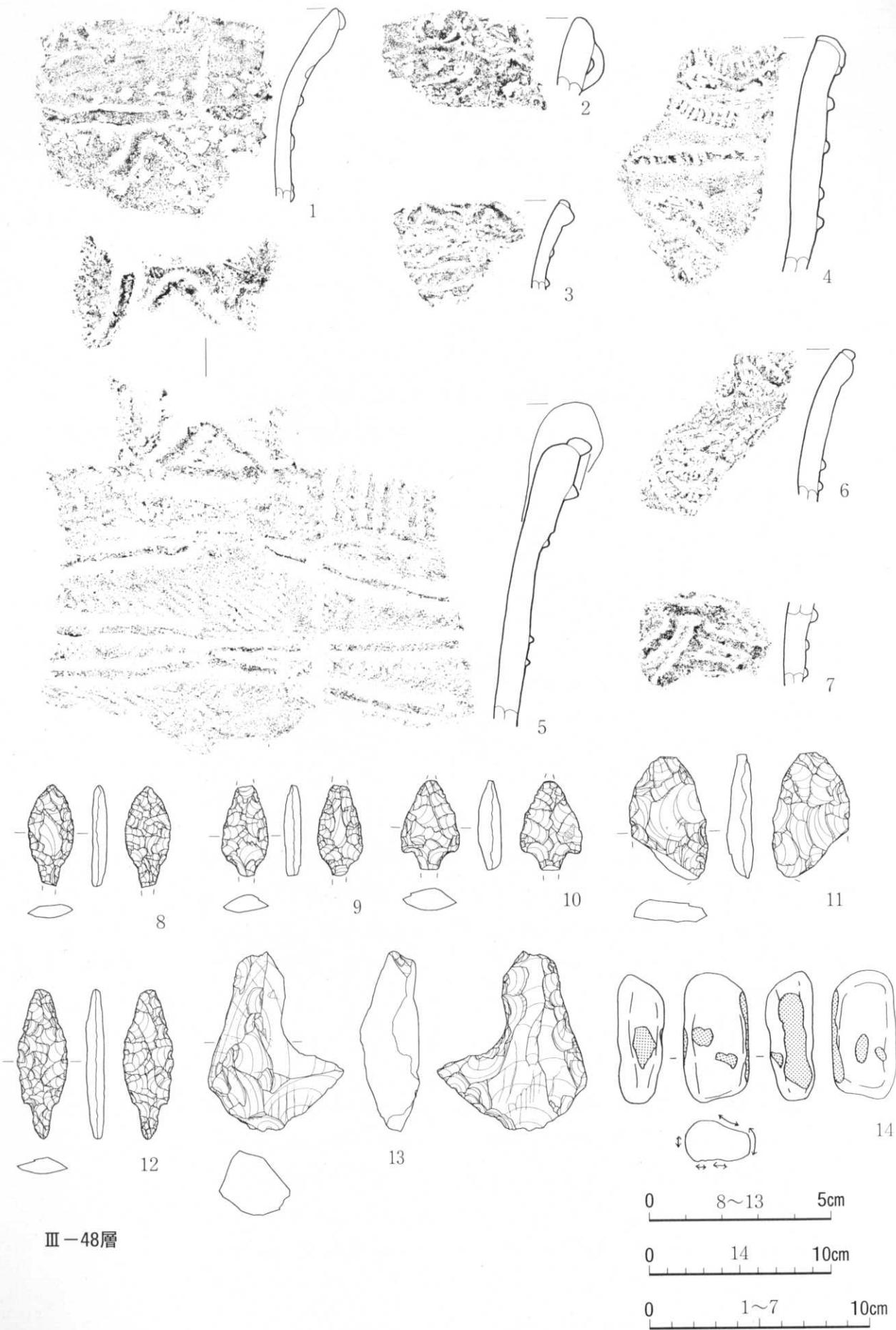
VIM-119・120に幅約2.0m、厚さ20cmで分布する。東側へ低く層厚を増しながら、傾斜して堆積する。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム土を主体とし、炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層d式土器小片などが少量出土した。101-7は鉢形の土器である。石器は玉髓製の有茎鏃(101-8)、磨痕と敲打痕をもつ礫(101-9)が出土した。ほかに環状土製品が1点出土した。側面に抉り状に沈線が一巡する完形品である。

第51層

VIN・O-119・120に幅約1.15m、最大厚14cmで分布する。やや東側へ傾斜して堆積する。第55層の落ち込みに入り込んだ部分が最も厚い。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、炭化物が中量、ローム粒が少量、灰色粘土・焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層b・c式土器小片を主体とし少量出土した。復元し得たものはない。石器はアスファルトが付着する石錐(101-14)、磨痕のある礫(101-15)が出土した。

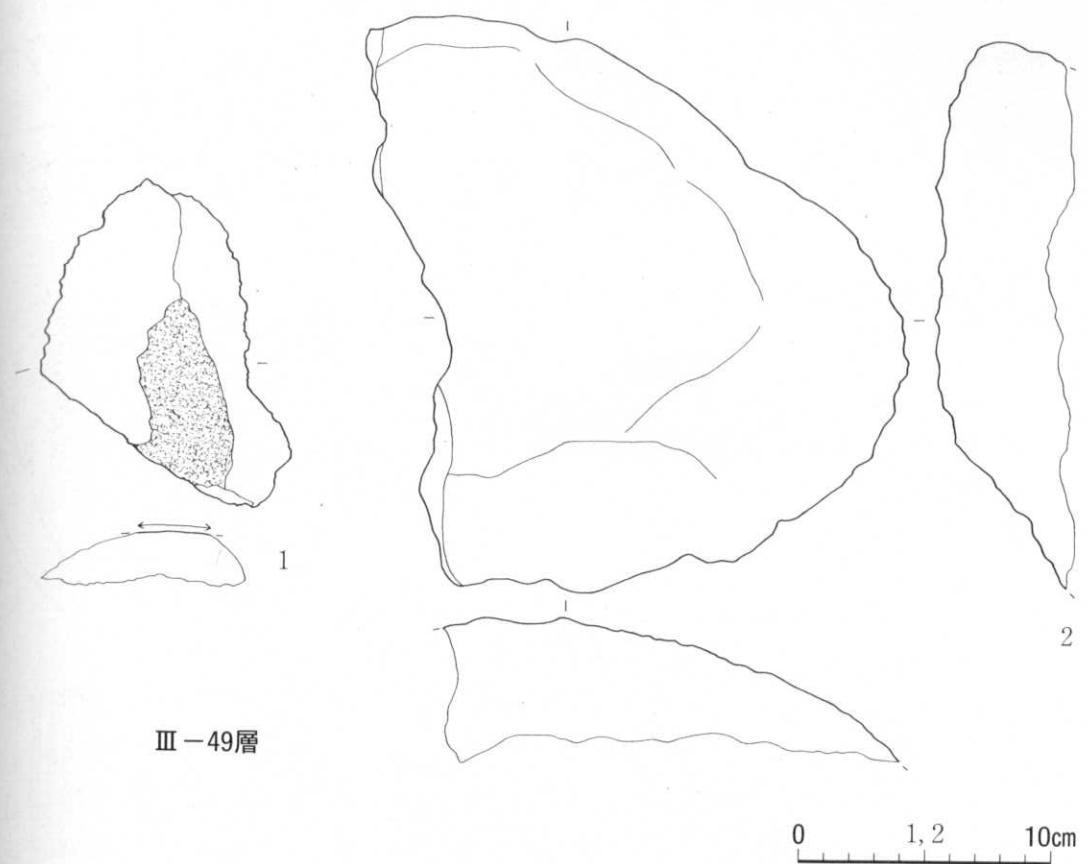
第52層

VIN-119に幅約0.35m、最大厚5cmで、ごく狭い範囲に分布する。堆積土は褐色(10YR4/4)のロー



III-48層

99図 4トレンチⅢ-48層出土遺物



100図 4トレンチIII-49層出土遺物



101図 4 トレンチIII-50・51層出土遺物

ム土を主体とする。炭化物が少量、焼土粒が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第53層

VIN-119・120に幅約0.75m、最大厚7cmで分布する。東側へやや傾斜しながら堆積し、層厚はほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土が主体で、炭化物・ローム粒が少量、焼土粒が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第54層

VIN-119・120に幅約0.45m、最大厚7cmでごく狭い範囲に分布する。東側へやや傾斜しながら堆積する。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土を主体とし、炭化物が多量、ローム粒・焼土粒が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

第55層

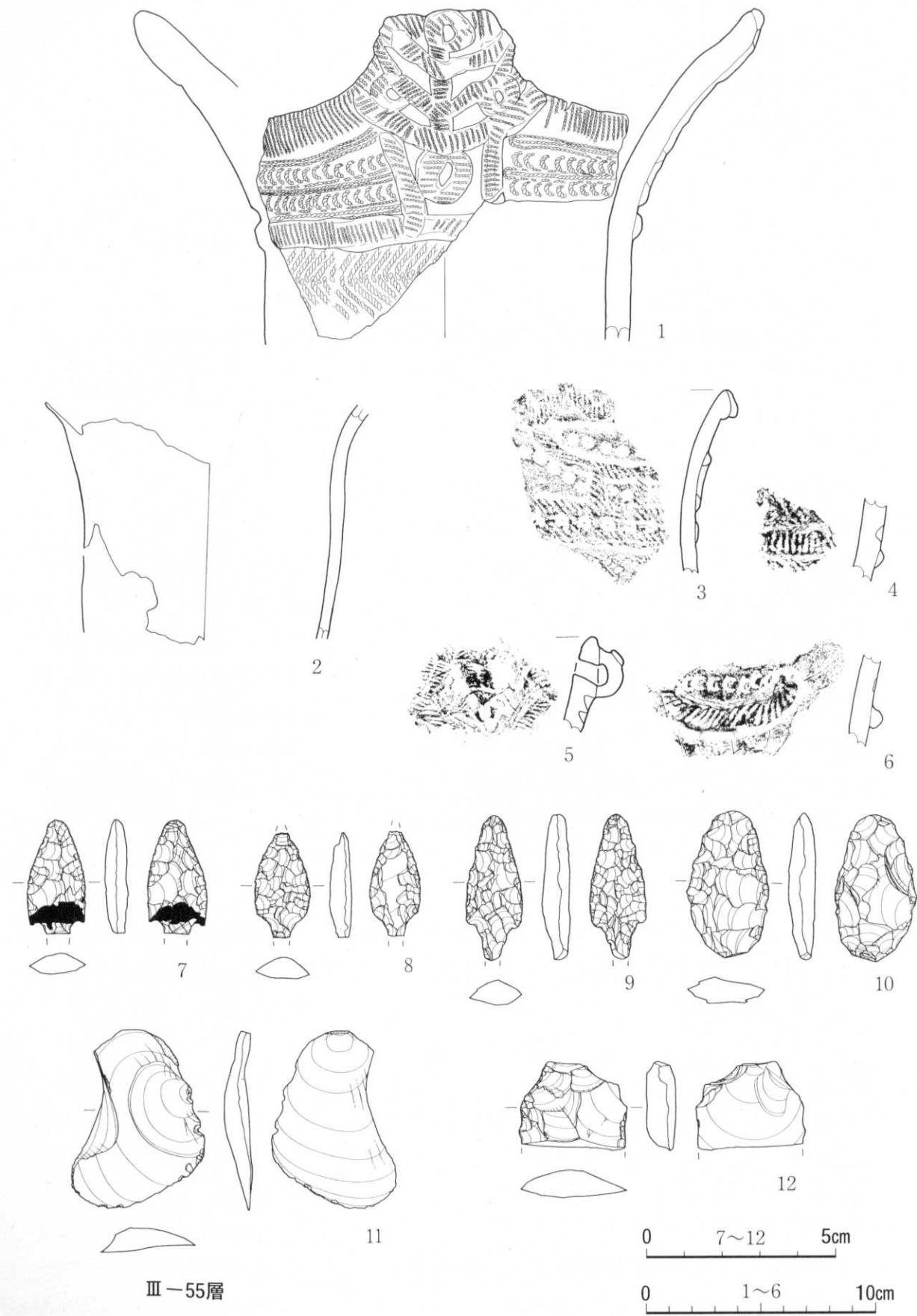
VIN・O-119・120に幅約1.9m、最大厚15cmで分布する。東側へ向かって傾斜して堆積する。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量、焼土粒がごく微量含まれる。遺物は、土器は復元個体を含み多量に出土した。円筒上層b・c式土器が主体である。102-1は貼付隆帯間に縄文原体の馬蹄形押圧が施文されたもの、102-2は無文の口縁部である。102-3・5は刺突が観察される。石器の出土量も多い。茎部にアスファルトが付着する有茎鏃(102-7)、有茎鏃(102-8・9)、玉髓製の石鏃未製品(102-10)、使用痕のある剥片(102-11)、削器ないし搔器(102-12)、使用痕のある剥片(103-1)、二次加工剥片(103-2)、石核(103-3)、使用痕のある剥片(103-4)、メノウ製の削器ないし搔器(103-5)、磨痕と敲打痕をもつ礫(103-6)などが出土した。また103-8は垂飾と見られる土製品で、頂部には横方向の穿孔があり、下は逆V字状に延びるものと思われる。103-7は半分に割れた蛇紋岩?製のケツ状耳飾りである。

第56層

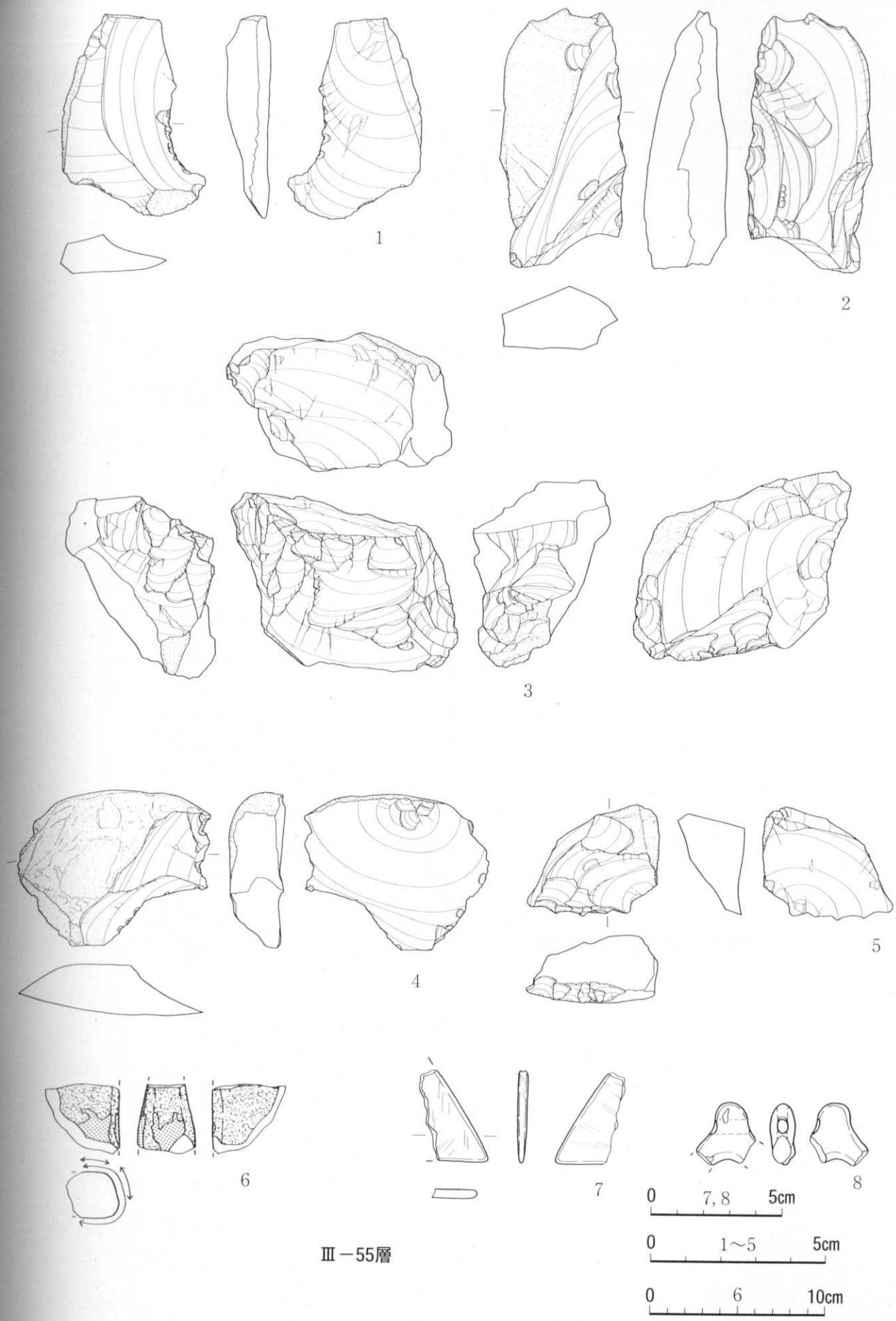
VIO-119・120に最大厚15cmで分布する。東側に傾斜して堆積する。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、炭化物・焼土粒が多量に混入する。遺物の出土量は少ない。円筒上層b式土器片と石棒(104-4)が1点出土した。

第57層

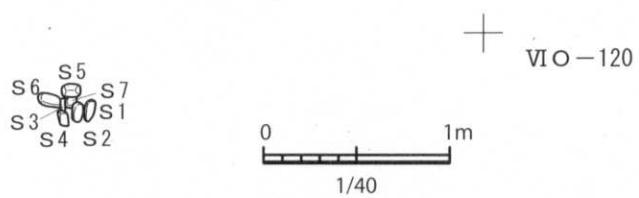
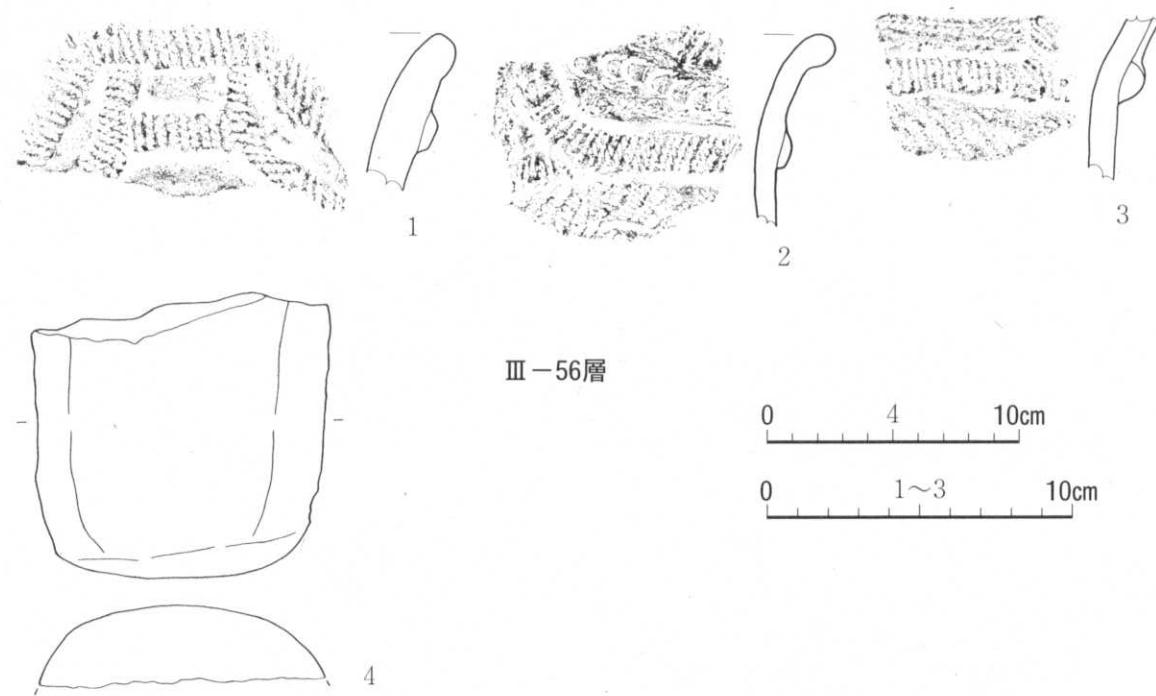
VIN-119・120に幅約6.1m、最大厚15cmで分布する。本トレンチ大部分を横断する広い層として認識した。東側へやや傾斜して堆積し、層厚は若干の差はあるもののほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、炭化物・焼土粒が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層c・d式土器片を主体に多量に出土した。復元し得たものはない。105-6は口唇部に沿って刻み状の刺突が2段に施文されたものである。105-12は口唇部が肥厚した無文の土器である。石器の出土量も多い。有茎鏃(105-14・15)、刃部に光沢がみられる縦形石匙(106-1)、磨痕のある礫(106-2)、敲打による凹をもつ礫(106-3)、砥石(106-4)、磨痕と敲打痕をもつ礫(106-5)が出土した。



102図 4トレンチIII-55層出土遺物 (1)

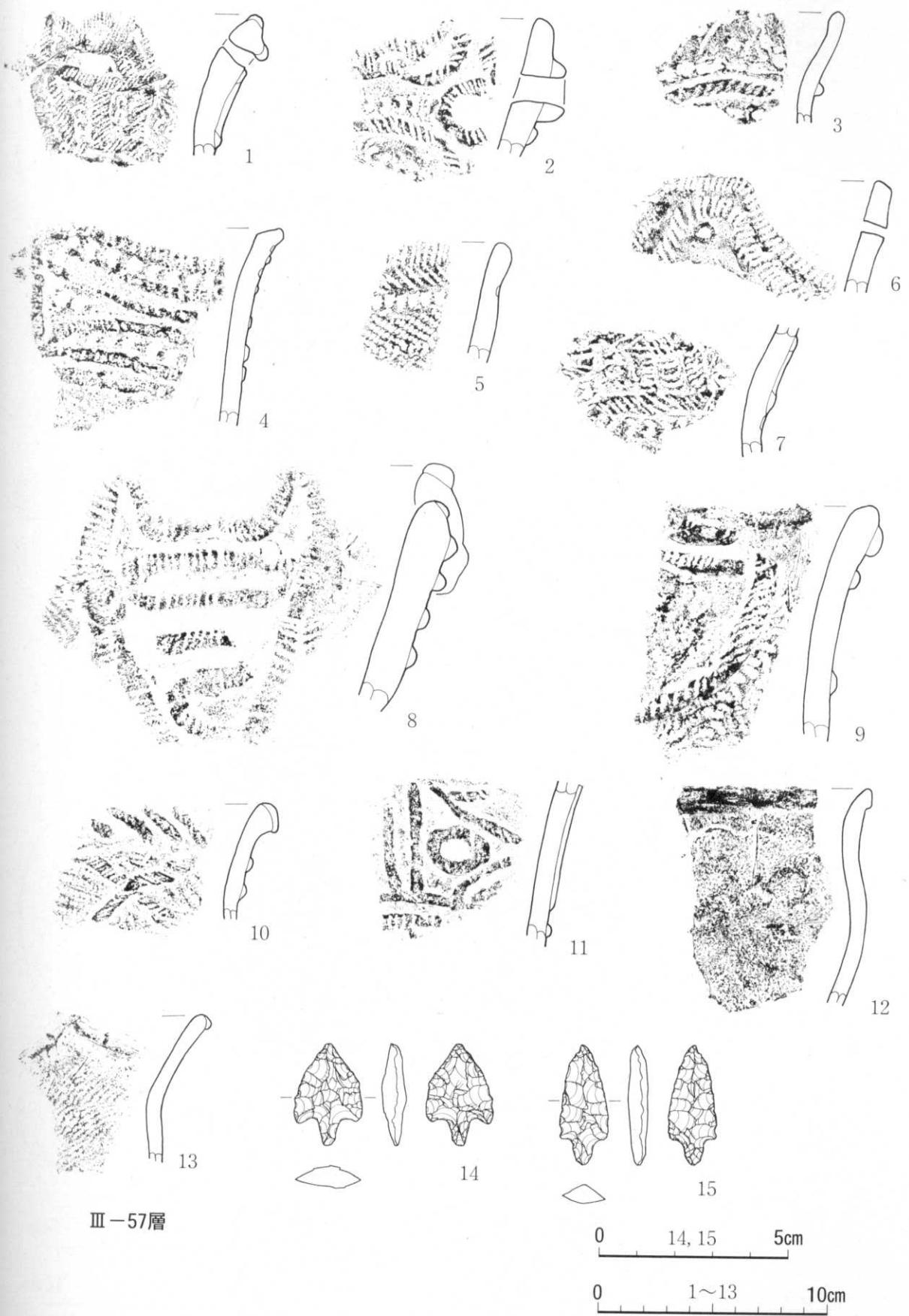


103図 4トレンチIII-55層出土遺物 (2)

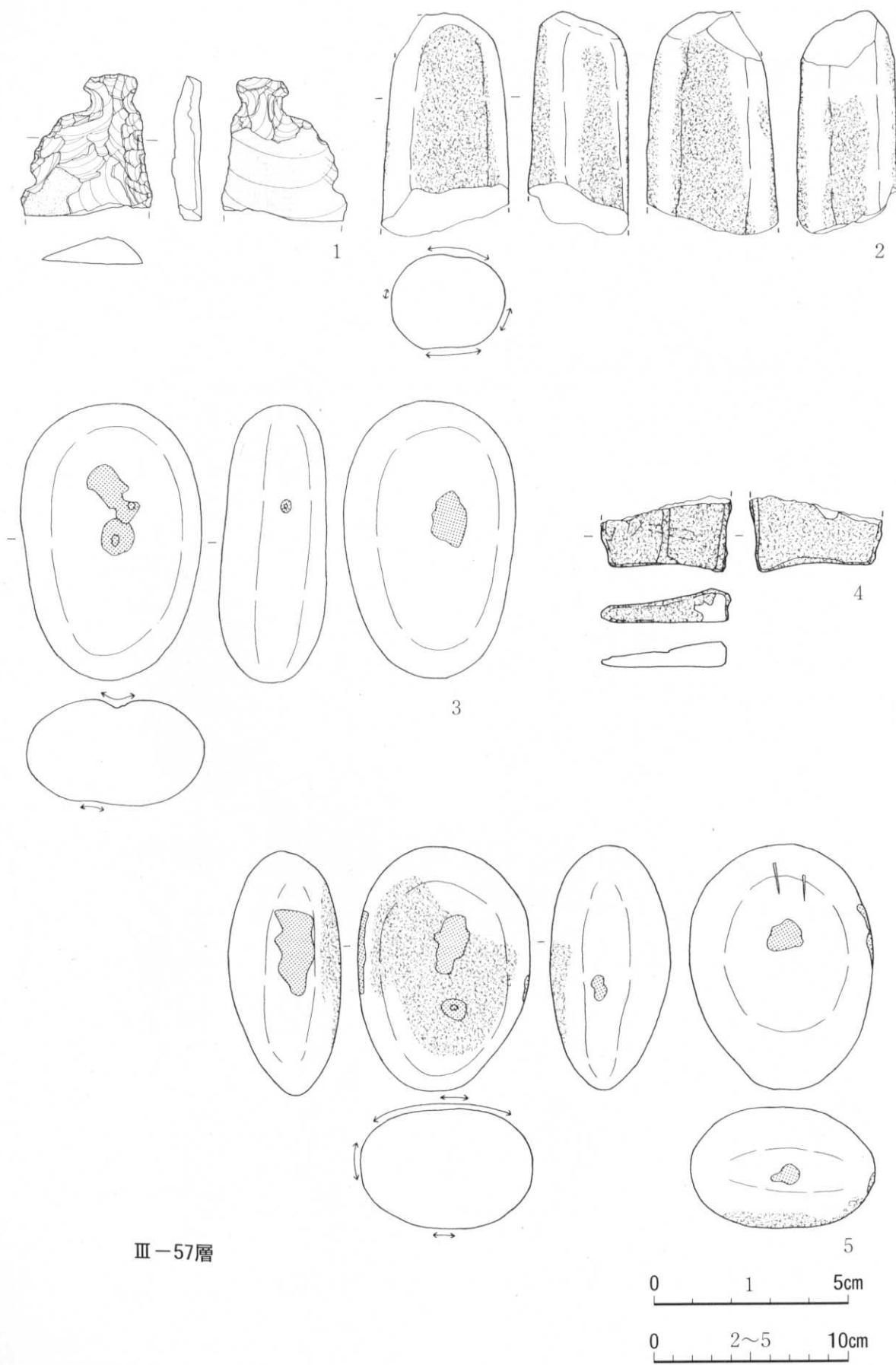


第57層中検出の配石遺構

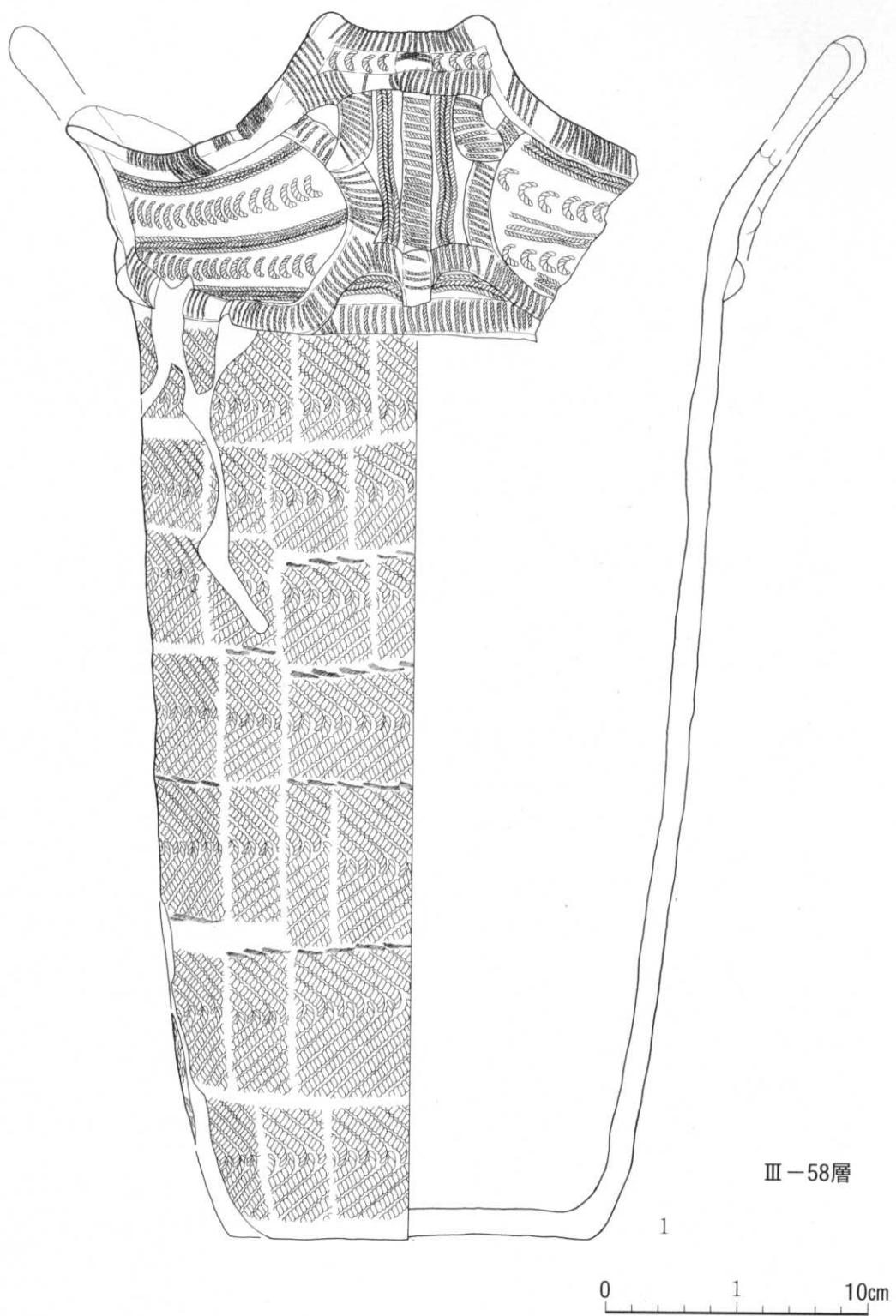
104図 4 トレンチIII-56層出土遺物



105図 4 トレンチIII-57層出土遺物 (1)



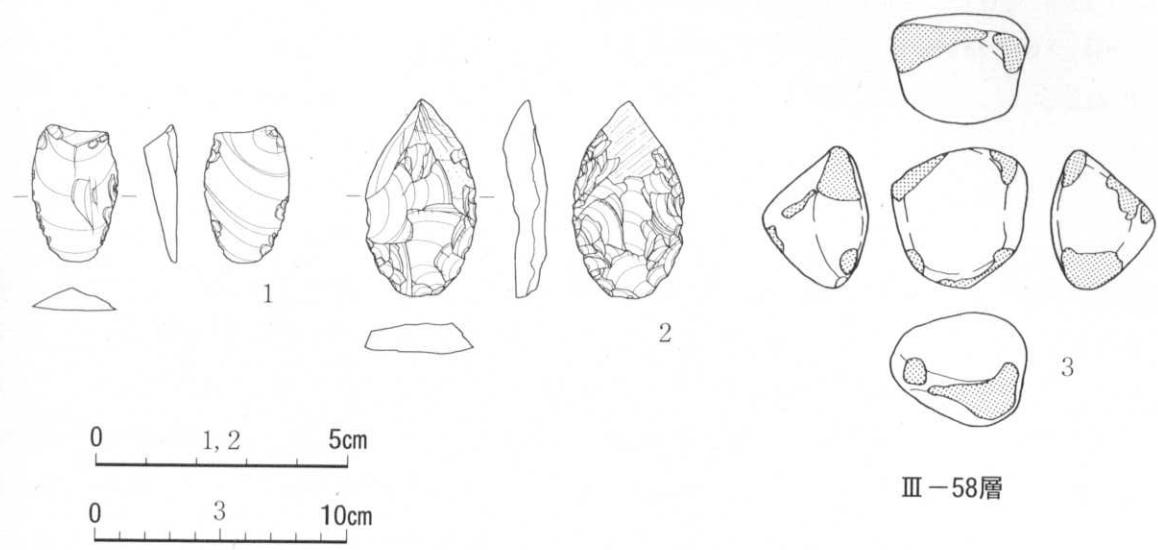
106図 4トレンチIII-57層出土遺物(2)



107図 4 トレンチIII-58層出土遺物 (1)



108図 4トレンチIII-58層出土遺物(2)



109図 4 トレンチIII-58層出土遺物 (3)

配石遺構 VIO-120に位置する。第57層精査中に礫のまとまりを確認した。東西35cm、南北20cmの小範囲に7個の礫が分布する。それぞれの礫は丸みのあるもので、いずれも自然礫である。付属する遺構等はない。また、これと確実に伴う遺物はなかった。遺構の時期は、円筒上層bないし c式期である。

第58層

VIO-119・120に幅約0.07m、最大厚5cmで分布する。水平に堆積するようであるが、ごく一部だけが本トレンチに現れているため、規模は不明である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量混入する。遺物は、カードの記入ミスにより、直下の第59層と混同している可能性のあるものがある。土器は円筒上層b式土器片を主体として出土した。復元し得たものも含まれる。107-1は波頂部下の貼付以外の口縁部に縄文原体による馬蹄形押圧が一巡するものである。石器は削器ないし搔器(108-3)、被熱した剥片(108-4)、有茎鏃(108-5)がそれぞれ1点出土した。ほかに使用痕のある剥片(109-1)、石鏃の未製品(109-2)、敲打痕のある礫(109-3)である。

第59層

VIN・O-119・120に幅約0.2m、最大厚6cmで分布する。水平に堆積するようであるが、ごく一部だけが本トレンチに現れているため、規模は不明である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土を主体とし、炭化物・焼土粒が少量含まれる。遺物は上記の第58層と混同しているものがあり、本層出土遺物である可能性もある。

第60層

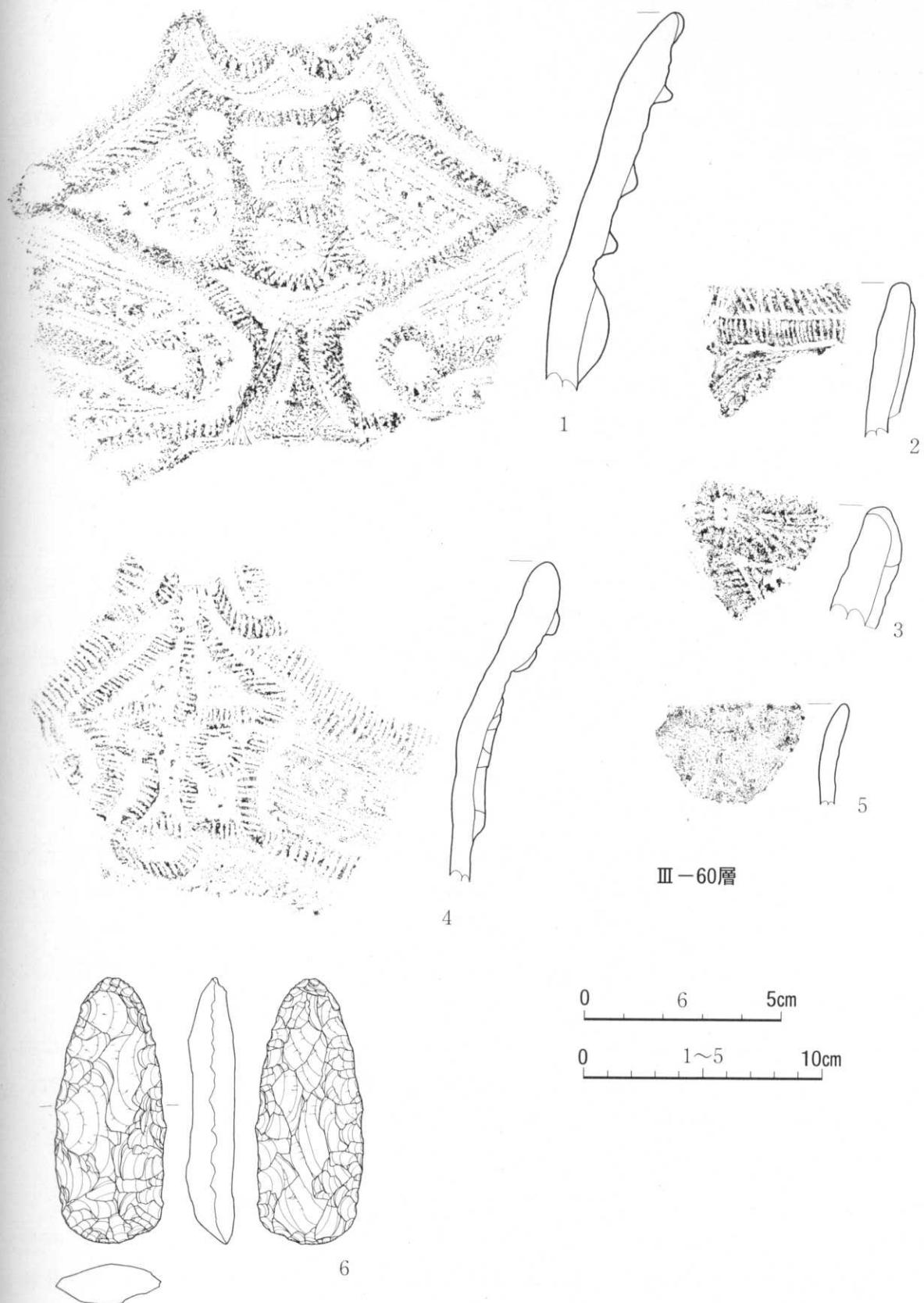
VIN・O-119・120に幅約2.25m、厚さ10cmで分布する。層西側では東側へやや傾斜し、水平方向への堆積となる。層厚は均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、ローム塊・粒が少量、炭化物・浮石粒が少量含まれる。遺物は、土器は円筒上層b式土器片など少量出土した。110-1や110-4は貼付間や口縁部を一巡する馬蹄形押圧が施文されたものである。110-5は無文の土器口縁部である。石器は石籠(110-6)が出土した。

第61層

VIM・N-119・120に幅約1.05m、最大厚7cmで分布する。東側へやや傾斜しながら堆積する。層厚はほぼ同じである。堆積土は黒色(10YR2/1)土を主体とする。炭化物が多量に含まれる。遺物は、円筒上層b式土器片がごく少量出土した。

第62層

VIM-119・120に幅約1.55m、最大厚6cmで分布する。東側へ傾斜しながら堆積する。層上面にやや起伏があるが、層厚はほぼ同じである。堆積土は褐色(7.5YR4/6)土を主体とする。焼土が多量、炭化物が中量含まれる。遺物は、円筒上層c式土器片がごく少量出土した。波頂部片で貫通孔があり、その両側に円形の貼付が付けられている。



110図 4トレンチIII-60層出土遺物

第63層 欠番

第64層

VIM-119・120に幅約1.1m、最大厚17cmで分布する。東側へやや傾斜しながら堆積する。層厚は一定ではなく、第62・68層の間隙部分が厚い。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、黒褐色土とローム土の混合土である。遺物は、土器は円筒上層b式土器とc式土器片が出土した。石器は有茎鏃(111-7)が1点出土した。

第65層

VIM-119・120に幅約1.05m、最大厚14cmで分布する。東側へ向かってやや傾斜して堆積する。層上面にやや起伏がある。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・塊、炭化物が多量、焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層c式土器片がごく少量出土した。隆帯間に円形の刺突が施文される。石器は使用痕のある剥片(111-10)が1点出土した。

第66層

VIM-119・120に幅約0.85m、最大厚7cmで分布する。東側へ向かってやや傾斜して堆積する。層厚はほぼ均一である。堆積土は黄褐色(10YR5/8)のローム主体層で、炭化物が多量、灰白色粘土粒・焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層c・d式土器小片がごく少量出土した。地文施文後に隆帯が貼付けられたものである。111-12はミニチュア土器である。下部が厚くなる鉢形の破片で、無文である。

第67層

VIM-119・120に幅約0.7m、最大厚4cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積し、層厚は均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第68層

VIM-119・120に幅約1.25m、最大厚10cmで分布する。東側へやや傾斜して堆積し、層上面は部分的に起伏があるが、それ以外はほぼ均一である。堆積土は黄褐色(10YR5/6)のローム土が主体で、炭化物が微量混入する。遺物は出土しなかった。

第69層

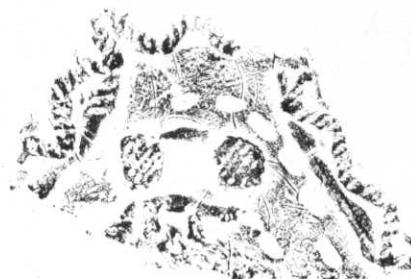
VIM・N-119・120に幅約2.95m、最大厚12cmで分布する。東側に低く傾斜して堆積する。層厚は中央部がやや厚くなっているが、それ以外はほぼ均一である。堆積土は黒色(10YR1.7/1)の炭化物主体層である。遺物は、土器は円筒上層b式土器小片を主体として少量出土した。復元し得たものはない。112-1・2のように煩雑な貼付間に縄文原体による馬蹄形押圧が加えられる。石器では、茎部にアスファルトが付着する有茎鏃(112-8)、削器ないし搔器(112-9)、使用痕のある剥片(112-10)



III-61層



1



III-62層



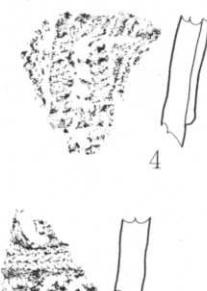
2



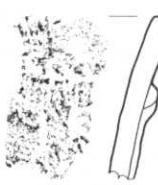
3



4



5



6



7

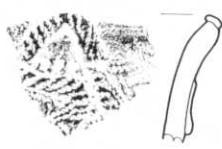
III-64層



8



9



10

III-65層



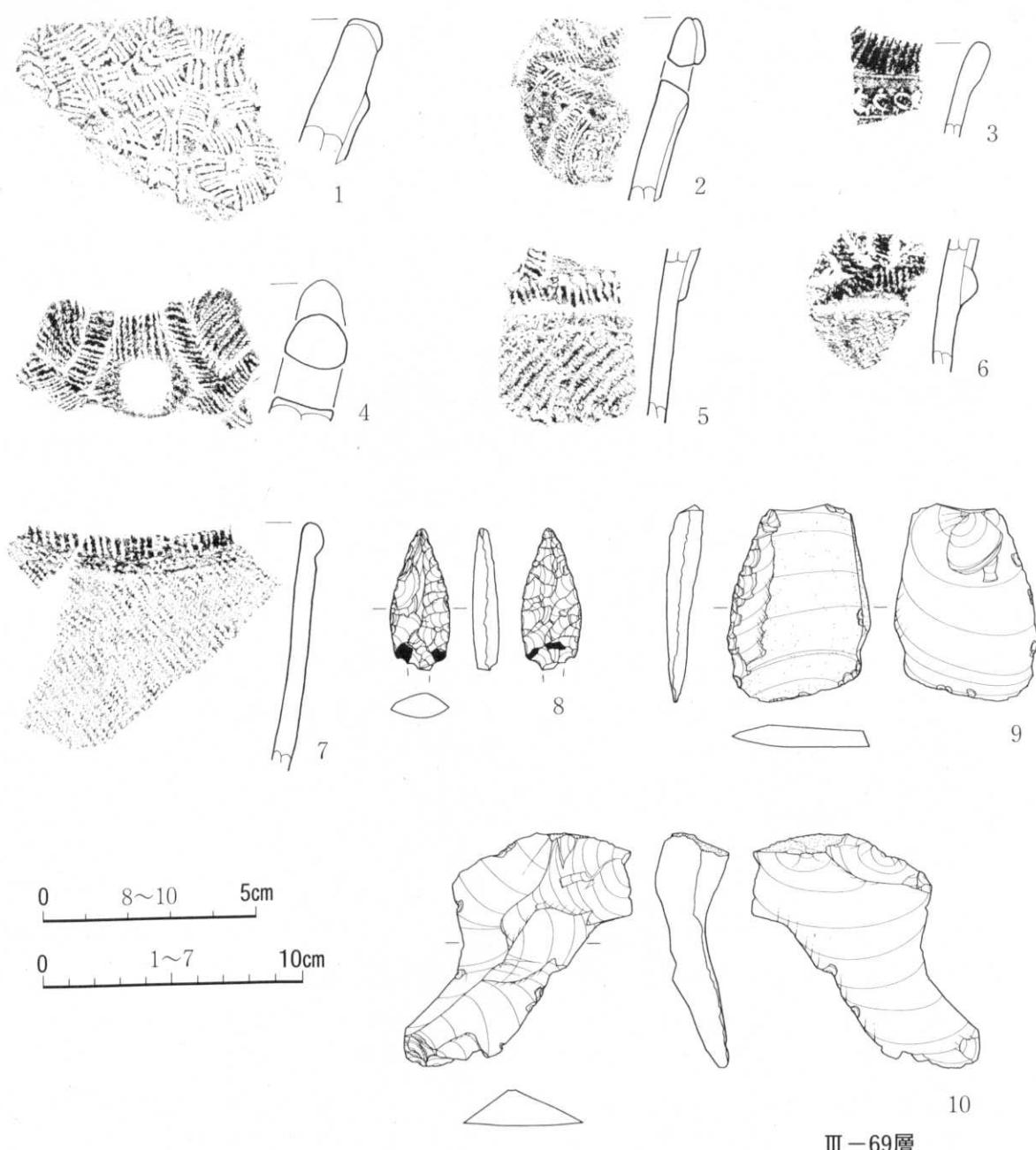
III-66層

0 12 5cm

0 7, 10 5cm

0 1~6, 8, 9, 11 10cm

111図 4トレンチIII-61・62・64・65・66層出土遺物



III-69層

112図 4トレンチIII-69層出土遺物

がそれぞれ1点出土した。

第70層

VIM-119・120に幅約1.6m、厚さ7cmで分布する。東側へやや傾斜して堆積する。層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、ローム粒が中量、炭化物・焼土粒が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第71層

VIN-119・120に幅約0.4m、最大厚4cmで、ごく狭い範囲に分布する。東側へ傾斜しながら堆積する。層厚はほぼ同じである。堆積土はにぶい黄橙色(10YR6/3)の粘土を主体とする。密なブロック状を呈し、暗褐土は少量混入する。遺物は、円筒上層b式土器片がごく少量出土した。113-1は隆帯間と口縁部全体に縄文原体による馬蹄形押圧が施されている。

第72層

VIN-119・120に幅約1.4m、最大厚9cmで分布する。東側へ傾斜しながら堆積する。層厚はほぼ均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とする。炭化物が少量、焼土粒が微量含まれる。遺物は、円筒上層b式土器小片がごく少量出土した。113-5は大型の破片であるが、前期末のものと判断され、型式学的に見ても時期決定の資料とはならない。

第73層

VIN-119・120に幅約1.15m、最大厚5cmで分布する。東側へ傾斜しながら堆積する。層厚はほぼ均一である。堆積土は黒色(10YR2/1)の炭化物層である。暗褐色土が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第74層

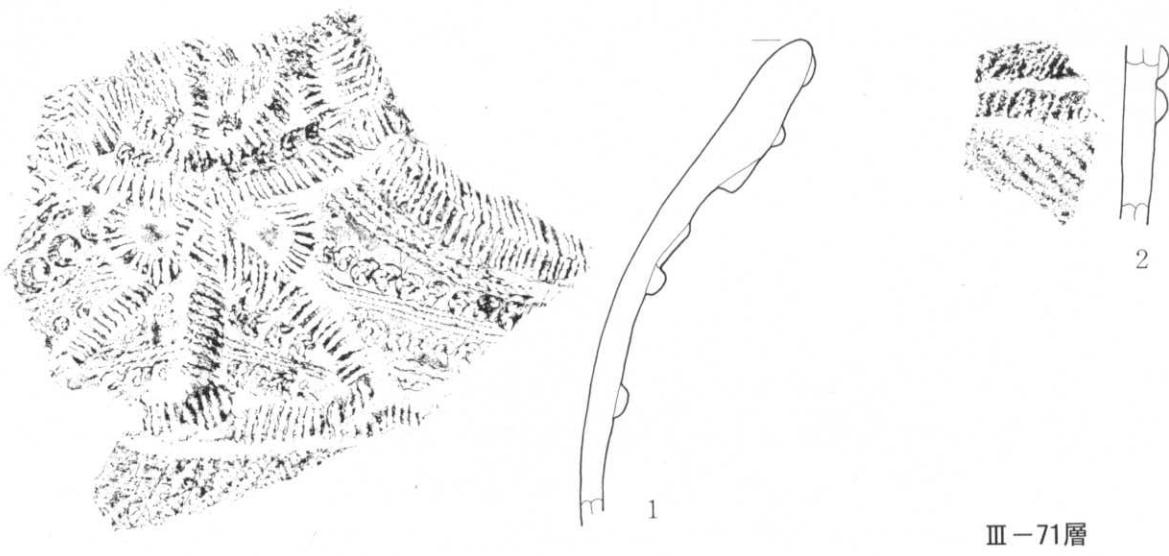
VIN-119・120に幅約0.6m、最大厚4cmで分布する。東側へ低く傾斜しながら堆積する。層厚は一定である。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム主体層で、黒褐色土が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

第75層

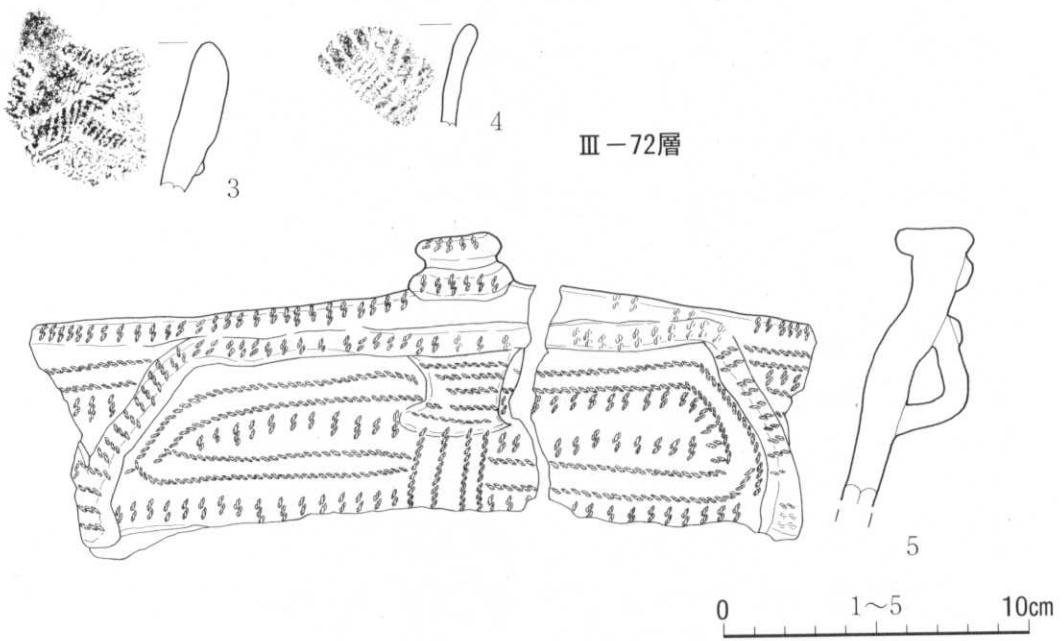
VIN-119・120に幅約1.5m、最大厚6cmで分布する。東側へ向かって傾斜して堆積する。層厚はほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土を主体とし、ローム塊が多量、炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は口唇部に刻みが巡り、胴部に条痕が施文された土器片が出土した。石器は縦型石匙(114-2)が1点出土した。

第76層

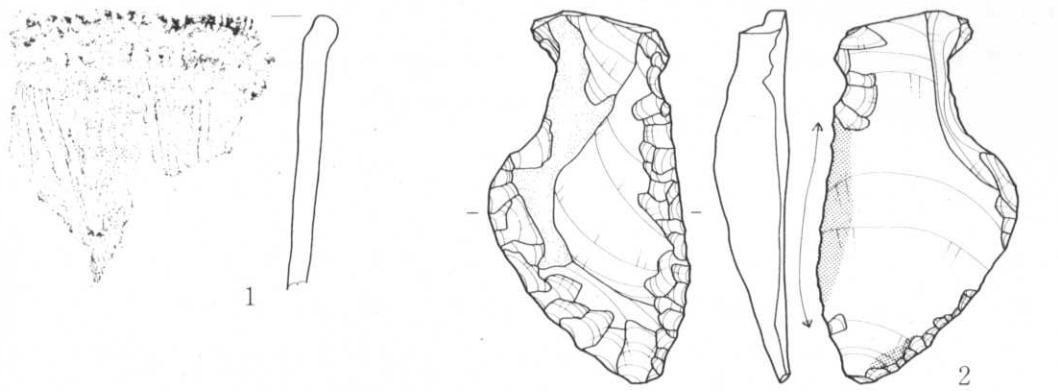
VIM-N-119・120に幅約0.95m、最大厚8cmで分布する。東側へ向かって傾斜しながら堆積する。



III-71層



113図 4トレンチIII-71・72層出土遺物



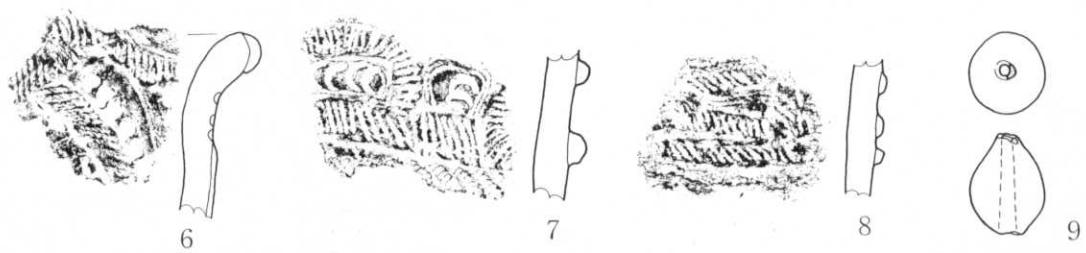
III-75層



4

5

III-76層



III-77層

0 9 5cm

0 2, 5 5cm

0 1, 3, 4, 6~8 10cm

114図 4トレンチIII-75・76・77層出土遺物

層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/2)土が主体で、ローム粒・炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は地文のみの破片がごく少量出土した。114-3はある程度復元し得たもので、全面に結束第一種羽状縄文が施された台付鉢形土器である。石器は使用痕のある剥片(114-5)が出土した。

第77層

VIM-N-119・120に幅約3.3m、最大厚17cmで分布する。東側へ低く傾斜して堆積する。層厚は一定せず、層中央部が最も厚い。堆積土は褐色(10YR4/6)のローム主体層で、炭化物が中量、焼土粒が微量含まれる。遺物は、土器は円筒上層b式土器とc式土器小片がごく少量出土した。また、114-9は土製品でラグビーボール状の形状で長軸中央に貫通孔がある。

第78層

VIN-119・120に幅約0.4m、最大厚4cmで、ごく狭い範囲に分布する。東側へ傾斜して堆積し、層厚はほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/1)土が主体で、炭化物が微量混入する。遺物は出土しなかった。

第79層

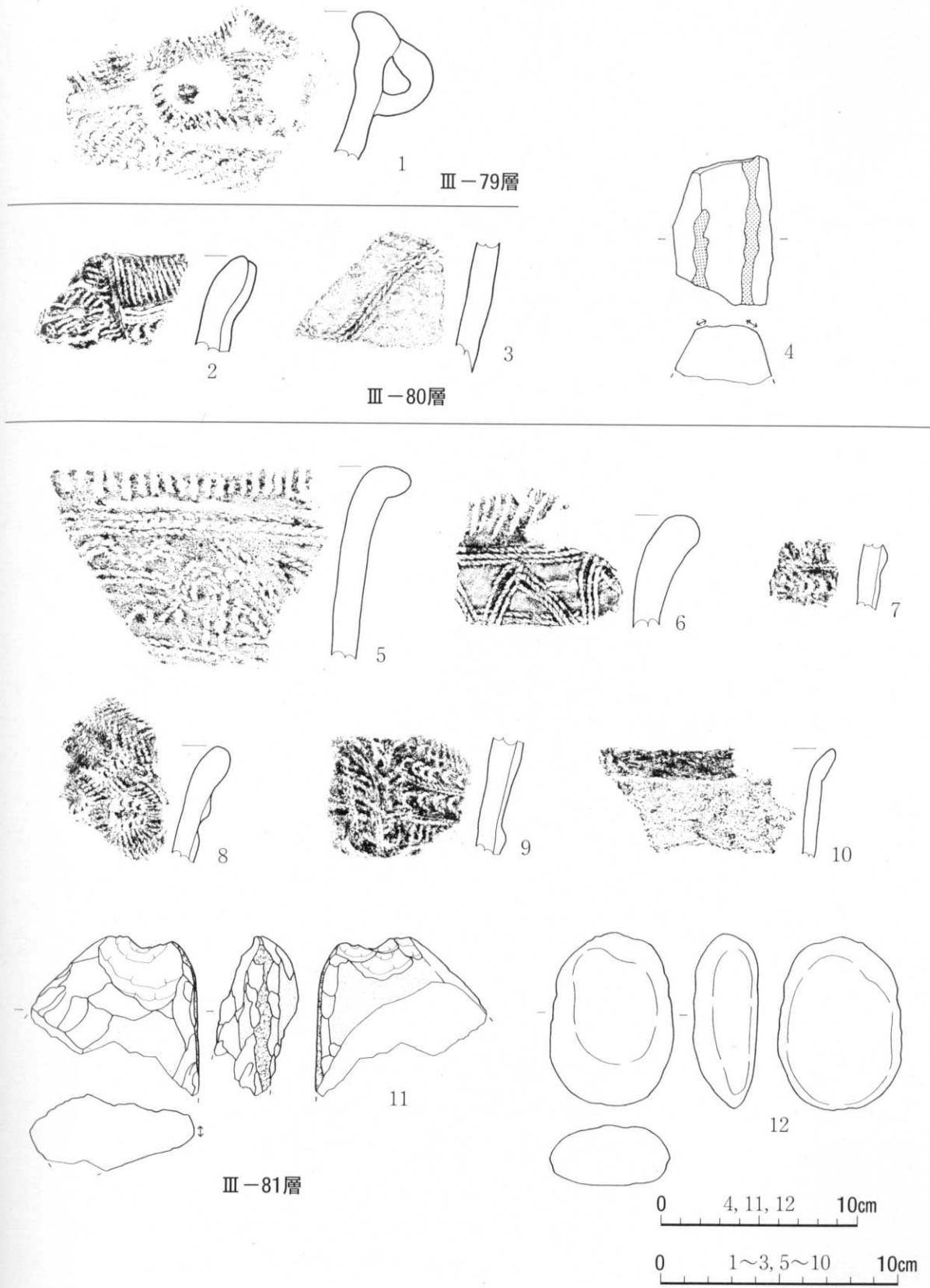
VIN-119・120に幅約0.8m、最大厚8cmで分布する。東側に低く傾斜して堆積する。層厚は部分的に若干異なるものの、ほぼ均一である。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土が主体で、ローム粒・炭化物が少量含まれる。遺物は、土器がごく少量出土した。115-1は波頂部下に橋状の隆帯が貼付けられたもので、口唇部上面の縄文原体押圧以外は地文のみである。

第80層

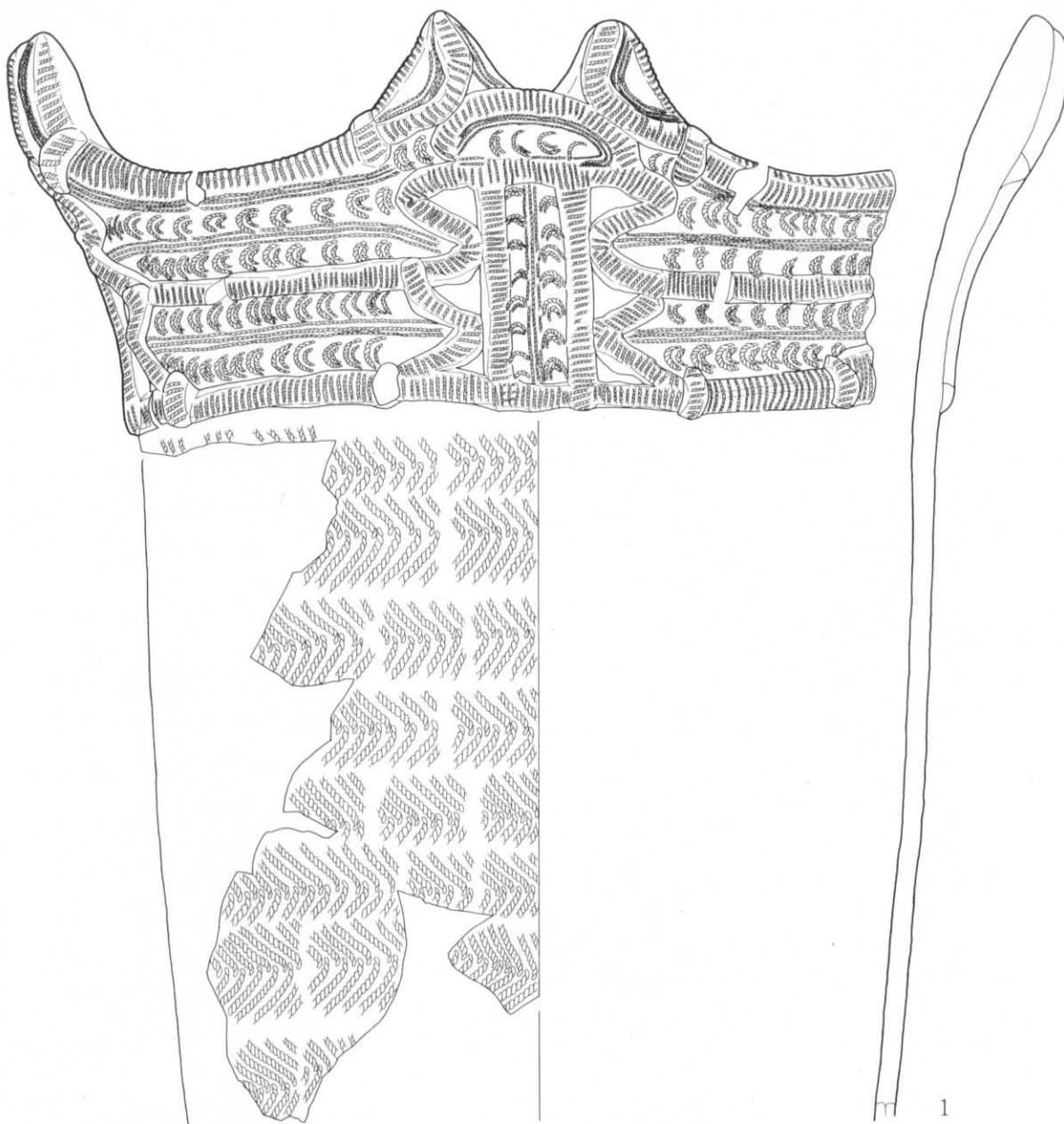
VIN-119・120に幅約1.65m、厚さ12cmで分布する。東側に低く傾斜して堆積する。層厚は部分的に若干違いはあるものの、全体的にはほぼ均一である。堆積土は黒褐色(10YR2/3)土を主体とし、ローム粒・炭化物が少量含まれる。上層の第79層に比べると暗い色調である。遺物は、土器は円筒上層b式土器の小片がごく少量出土した。また、石器では敲打痕のある角柱状の礫(115-4)が1点出土した。

第81層

VIN-O-119・120に幅約0.95m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚はほぼ同じである。堆積土は褐色(10YR4/6)土を主体とする。暗褐色土が斑状に入り、ローム粒が少量混入する。遺物は、円筒上層a式土器・上層b式土器片が少量出土した。115-5・6は鋸歯状の縄文原体押圧が、115-7・9は縄文原体による馬蹄形押圧が施されている。また115-10は口唇部が「く」の字状に屈曲する無文の土器である。石器は抉りのある半円状扁平打製石器(115-11)、全面が磨られた軽石(115-12)がそれぞれ1点出土した。



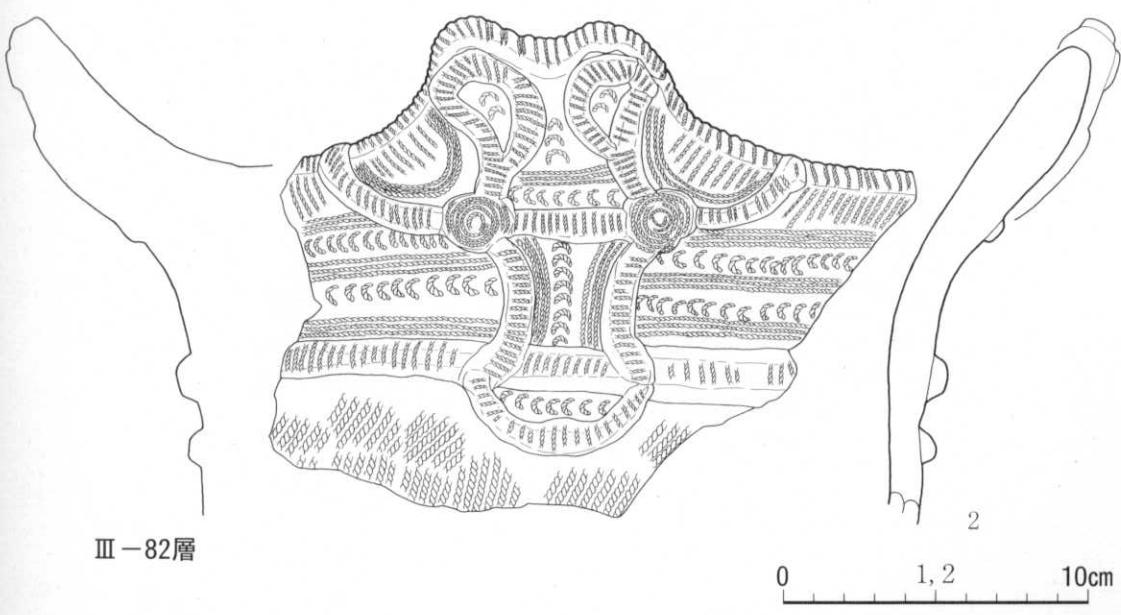
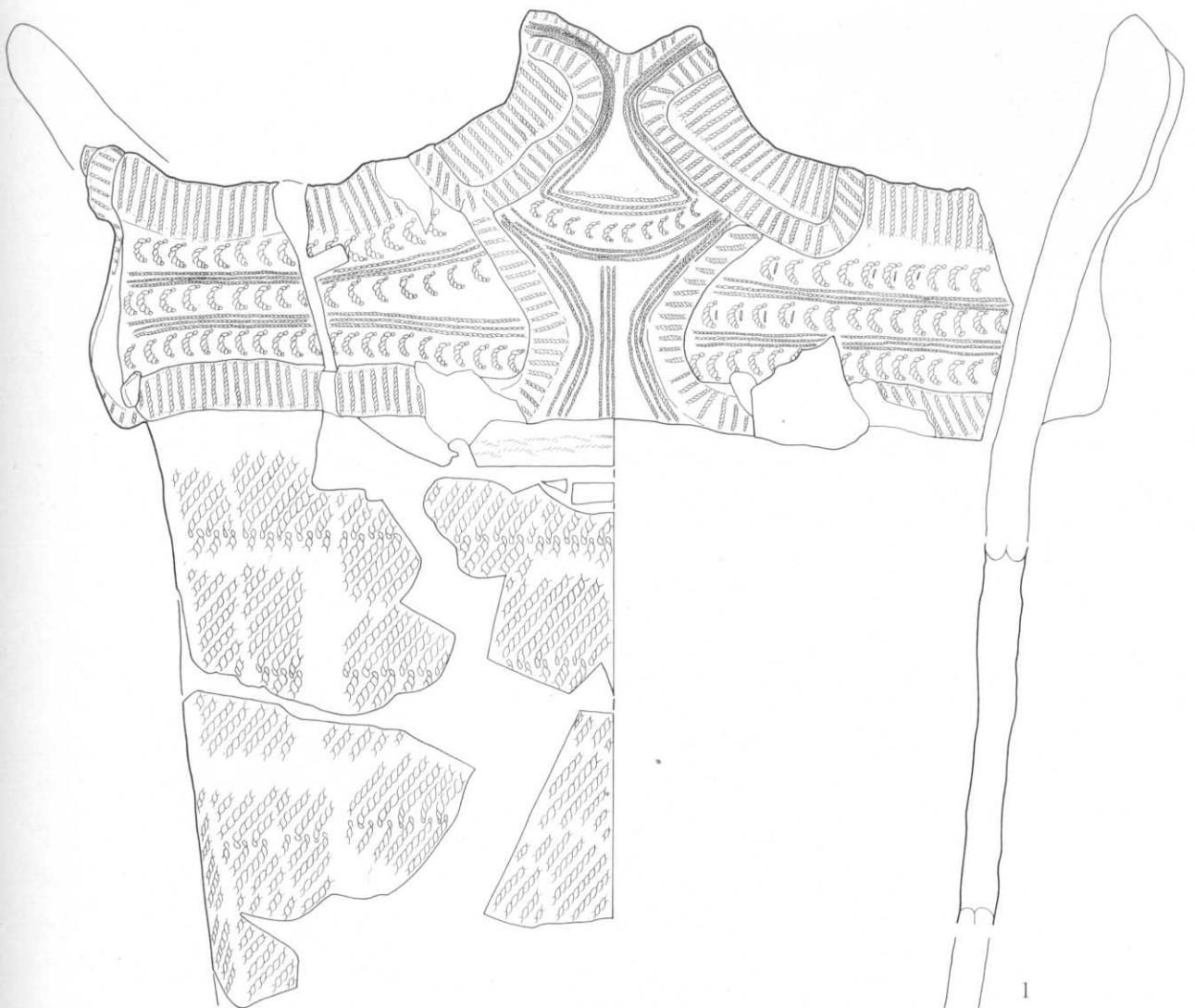
115図 4トレンチIII-79・80・81層出土遺物



III-82層

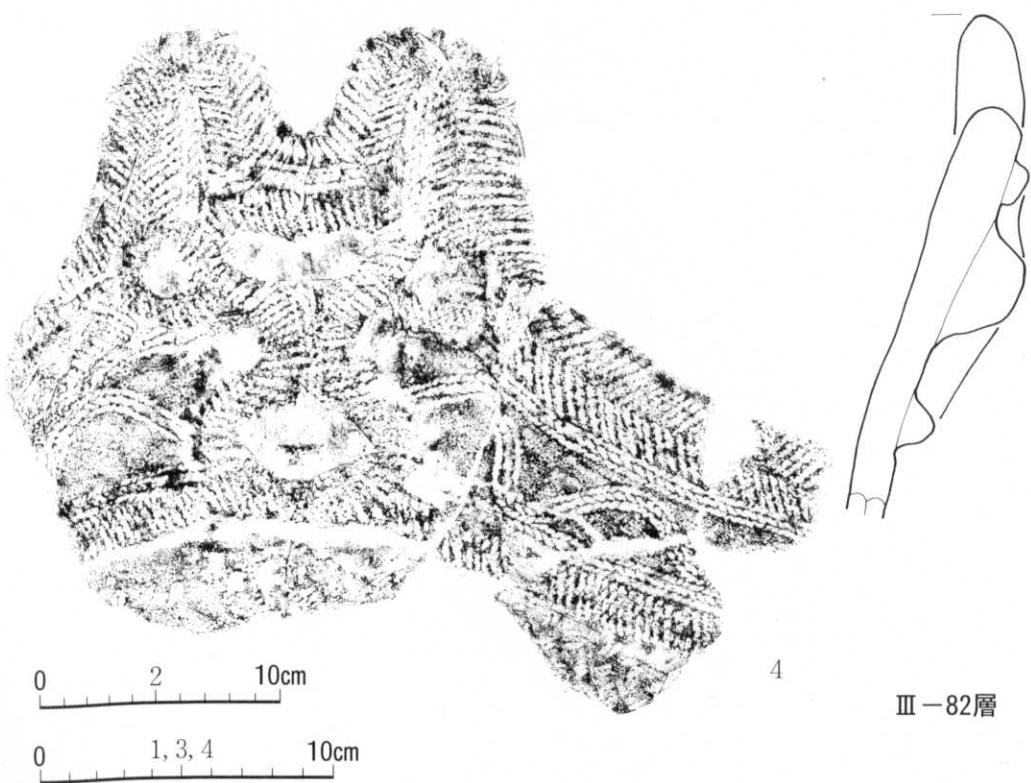
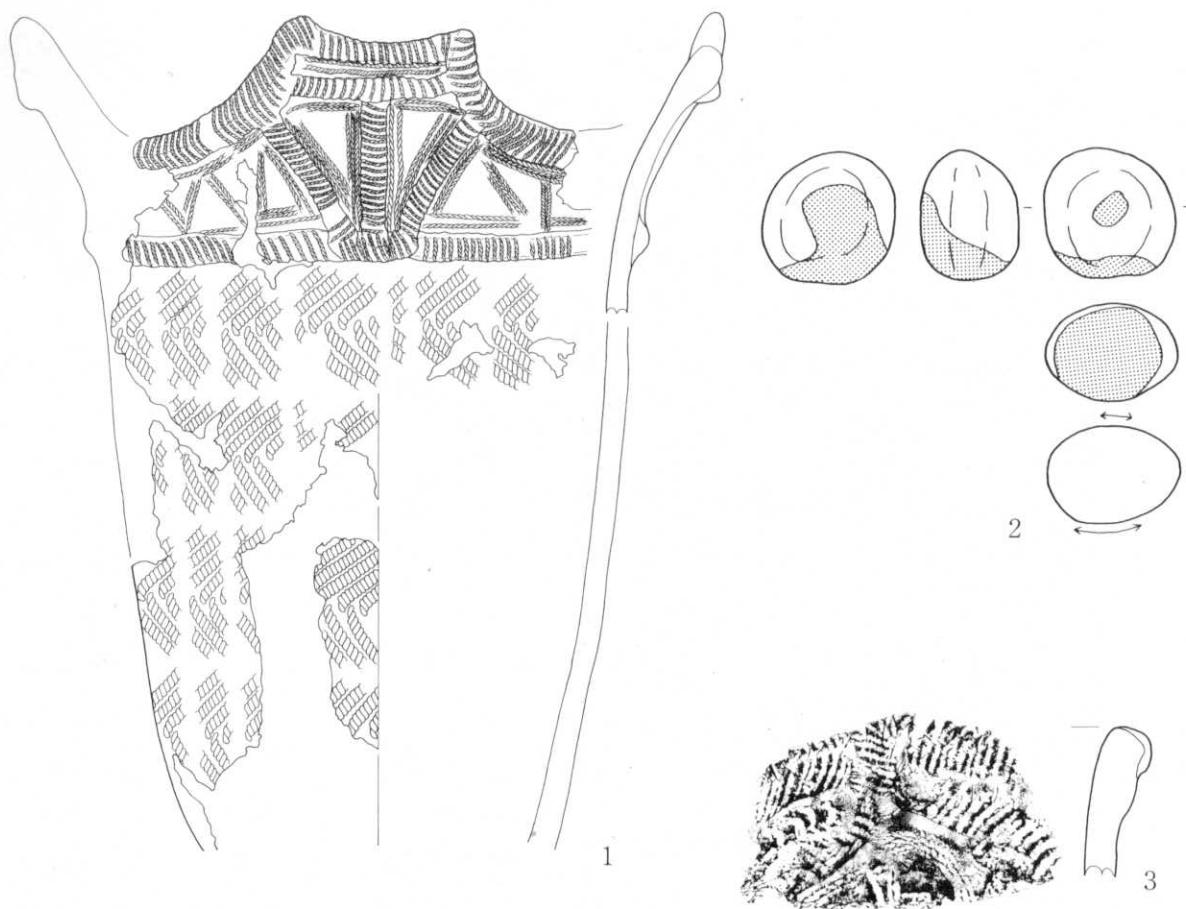
0 1, 2 10cm

116図 4トレンチIII-82層出土遺物 (1)



III-82層

117図 4トレンチIII-82層出土遺物 (2)



118図 4トレンチIII-82層出土遺物 (3)

第82層

VIN-119・120に幅約2.9m、最大厚11cmで分布する。東側へ傾斜しながら堆積する。層厚はほぼ均一である。堆積土は黒色(10YR2/1)の炭化物を主体とする。遺物は、土器は複数の復元個体を含み多数出土した。116-1・2、117-1・2は波頂部下の隆帶間や口縁部全体に馬蹄形押圧が施文される土器である。117-1は馬蹄形押圧の中央に爪の圧痕が観察される部分もある。116-2は縄文原体による鋸歯状と馬蹄形押圧が多段に施文されたものである。118-1・4は鋸歯状押圧が口縁部を一巡するものである。石器は敲打痕のある礫(118-2)が1点出土した。

第83層

VIN-O-119・120に幅約1.6m、最大厚14cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚は若干異なる部分もあるがほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土が主体で、炭化物が多量、ローム粒・灰色粘土が少量、褐色土が斑状に含まれる。遺物は、土器は復元個体を含み多量に出土した。119-1・3などは口縁部全体に縄文原体による馬蹄形押圧が施文されたもので、120-1・4には鋸歯状押圧が施文される。また、120-4には鋸歯状押圧と馬蹄形押圧が上下に施文されている。石器も多数出土した。剥片石器では尖基鏃(121-1)、茎部にアスファルトが付着する有茎鏃(121-2)、有茎鏃(121-3・4)、玉髓製の石鏃未製品(121-5)、削器ないし搔器(121-6)、削器ないし搔器(121-7・8)、剥片(121-9)、削器ないし搔器(122-1~3)があり、礫石器では磨痕のある礫(122-4)、敲打痕のある礫(122-5・6、123-1・2)、全面が磨られた軽石(123-3~5)がある。ほかに土製品では、土偶が1点(123-6)、土器片利用円盤が1点(123-7)出土した。土偶は腕部で、馬蹄形押圧と直線状の押圧が組み合わされている。土器片利用円盤は前期末の土器が使われている。

第84層

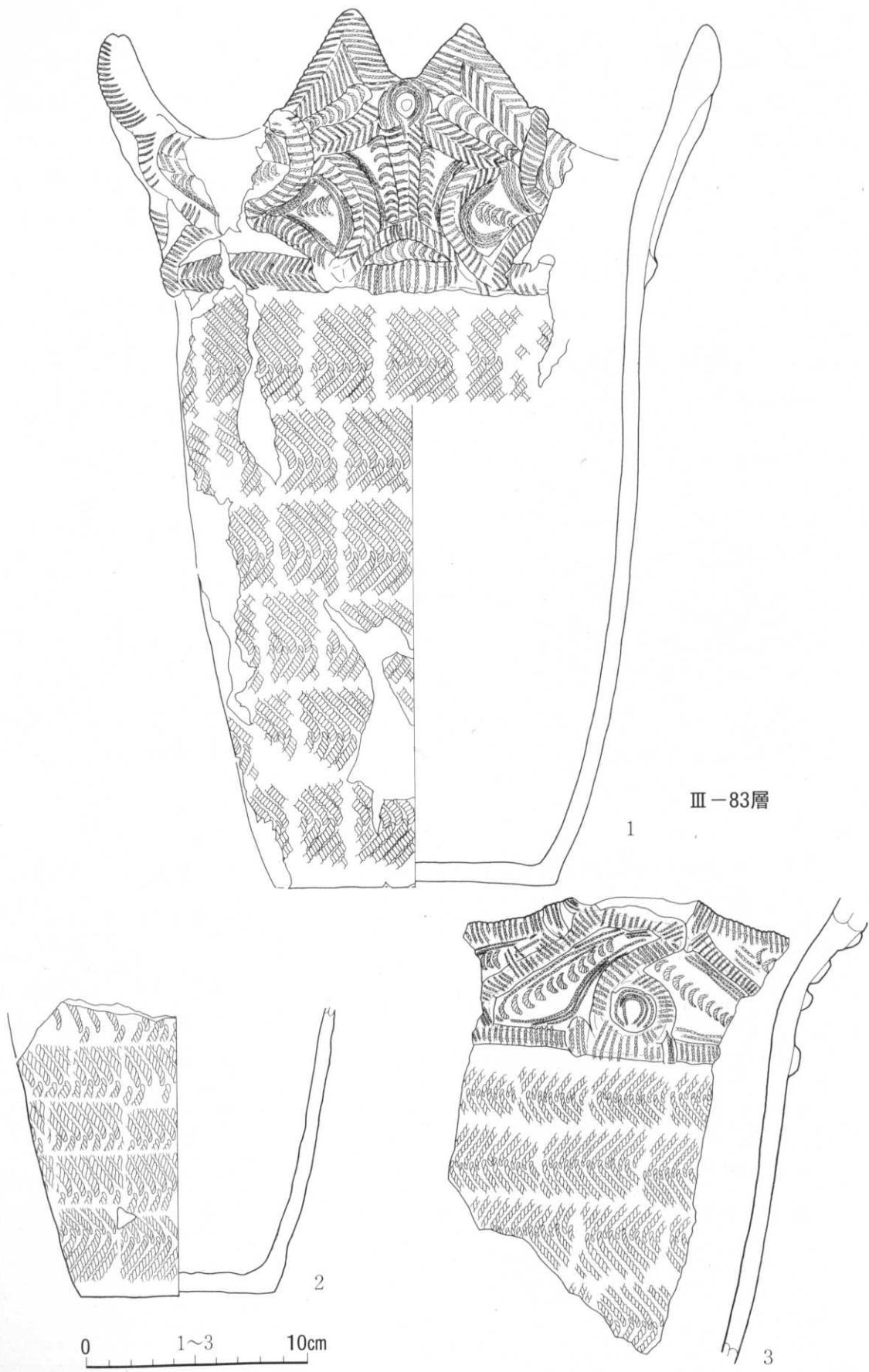
VIN-119・120に幅約2.9m、最大厚10cmで分布する。東側へ若干傾斜しながら堆積する。層厚はほぼ一定である。堆積土は褐色(10YR4/4)のローム主体層で、締まりのない密なブロック状を呈し、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は前期末から中期初頭の土器が出土した。124-1は口唇部から胴部まで地文のみの土器である。124-7は底部で、底面にスダレ状の圧痕が観察される。石器では、削器ないし搔器(124-8)、敲打による凹をもつ礫(124-9)、磨痕のある礫(124-10)、全面が磨られた軽石(124-11)がそれぞれ1点出土した。

第85層

VIN-119・120に幅約1.75m、最大厚14cmで分布する。東側へ向かって傾斜して堆積する。層厚は中央部が最も厚い。堆積土は暗褐色(10YR3/3)土を主体とし、炭化物・焼土粒が中量含まれる。遺物は、土器は上部2/3を復元し得たものが出土し、波頂部以外に馬蹄形押圧が巡るものである。石器は角柱状の礫(125-2)が出土した。

第86層

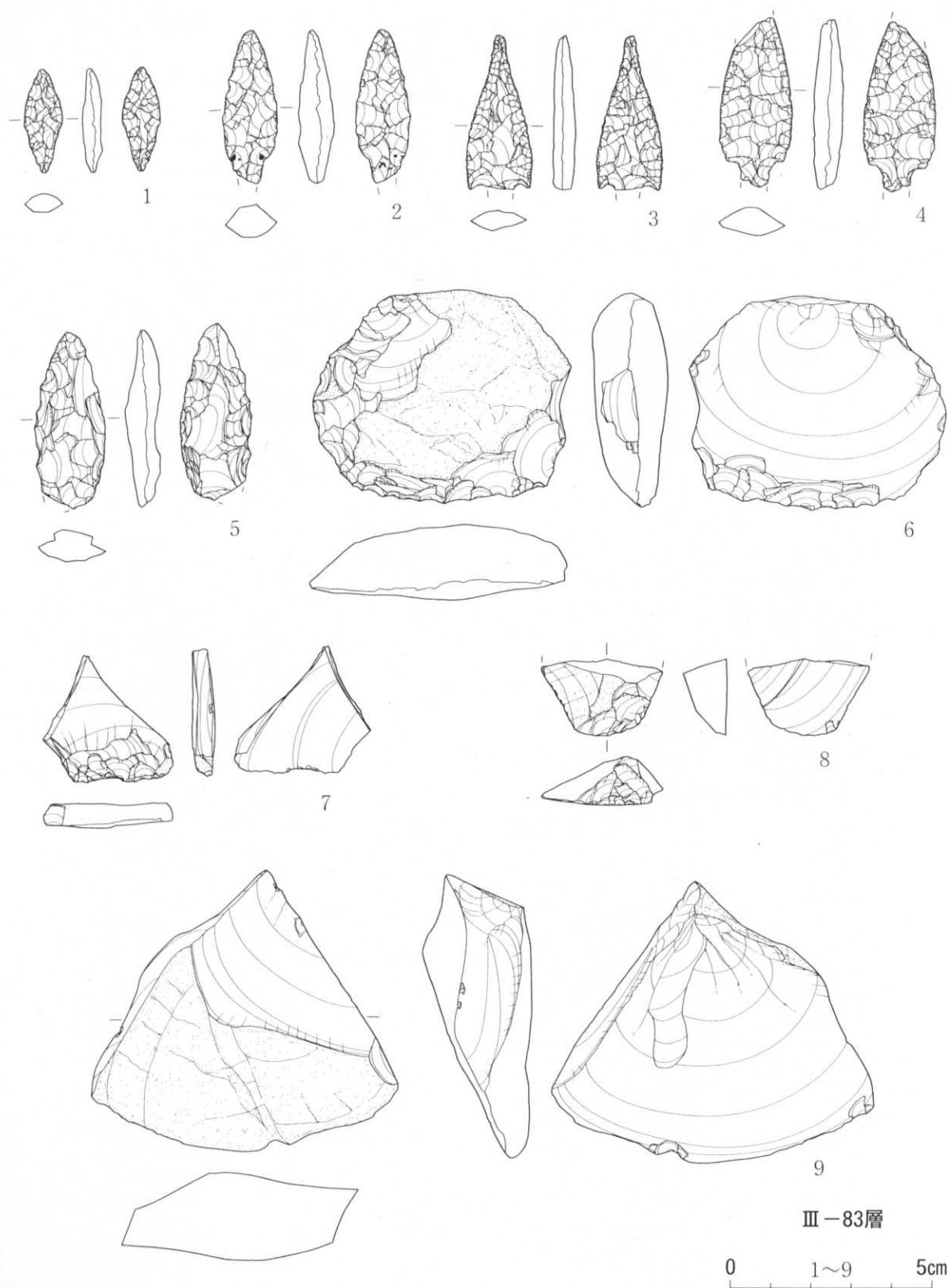
VIN-119・120に幅約1.8m、最大厚9cmで分布する。東側へ向かって若干傾斜しながら堆積する。



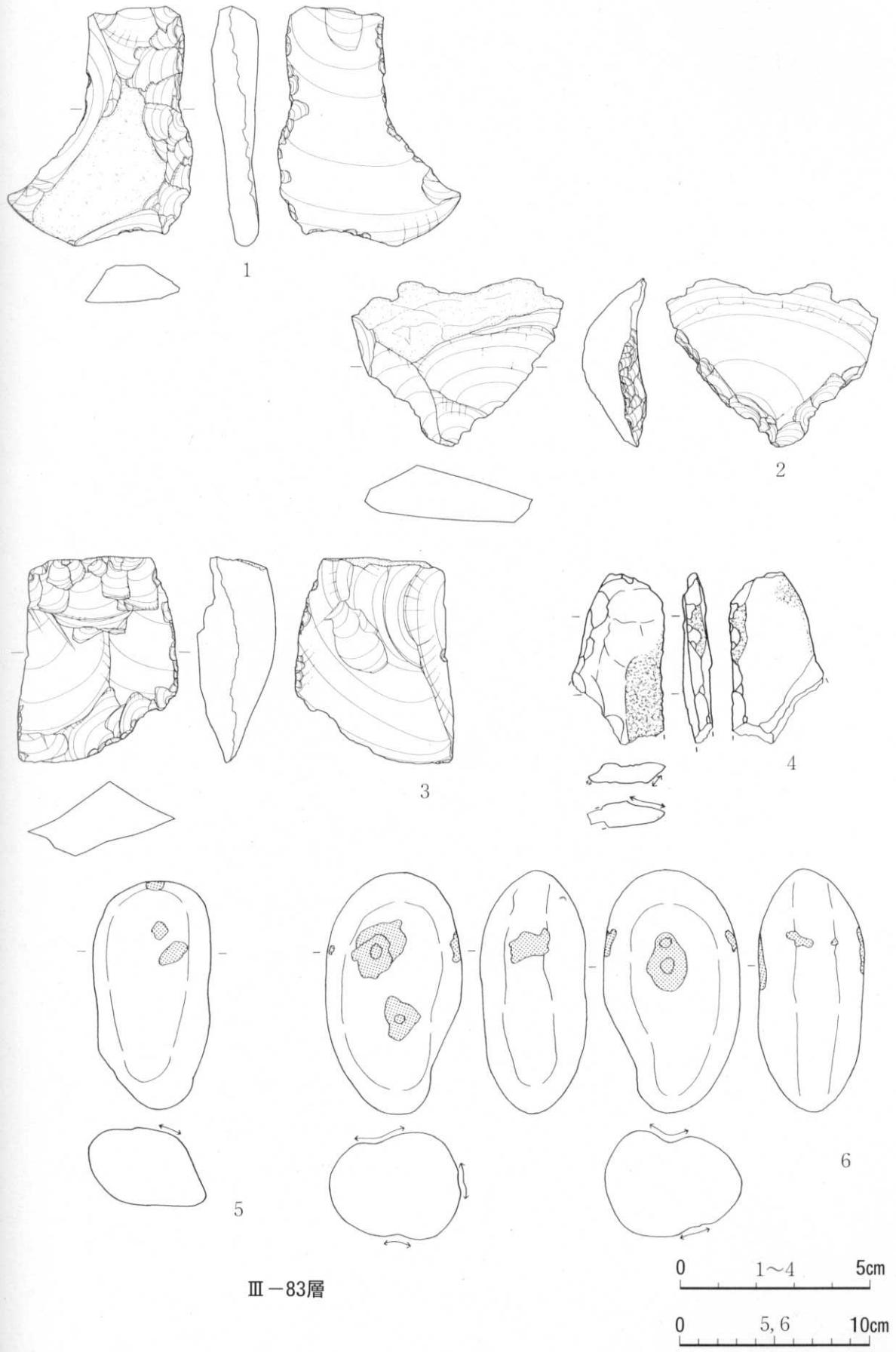
119図 4トレンチIII-83層出土遺物 (1)



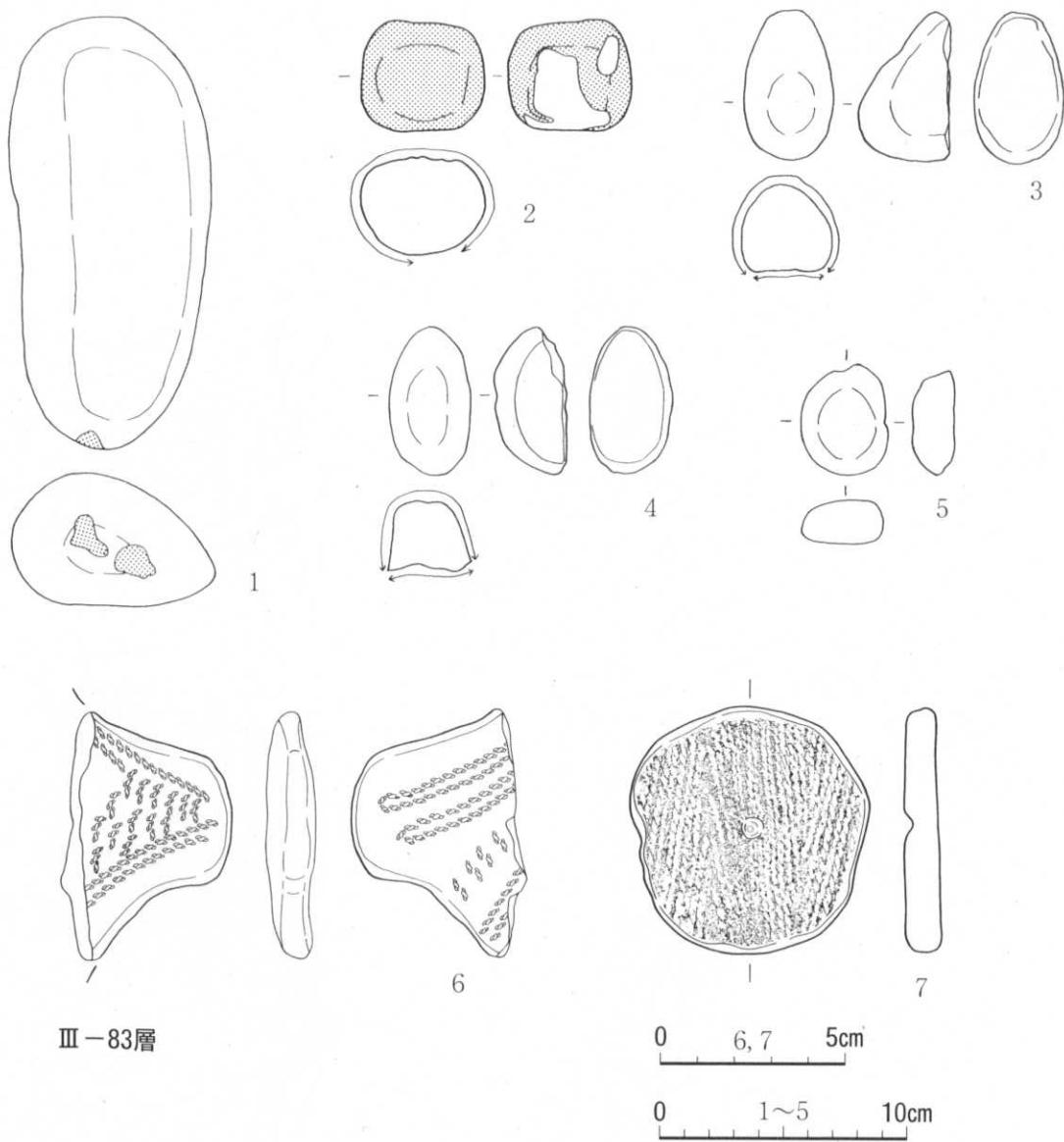
120図 4 トレンチIII-83層出土遺物 (2)



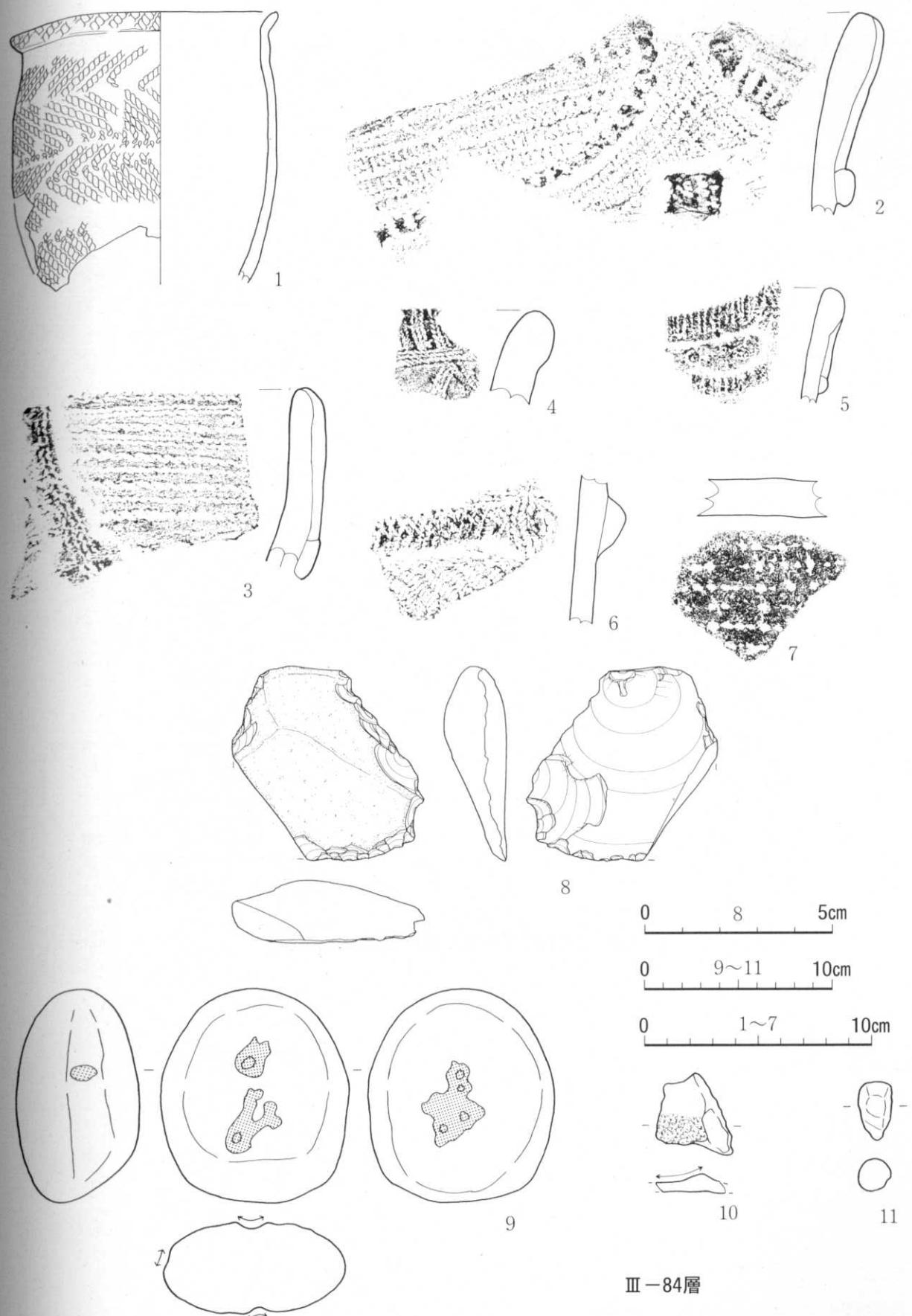
121図 4 トレンチIII-83層出土遺物 (3)



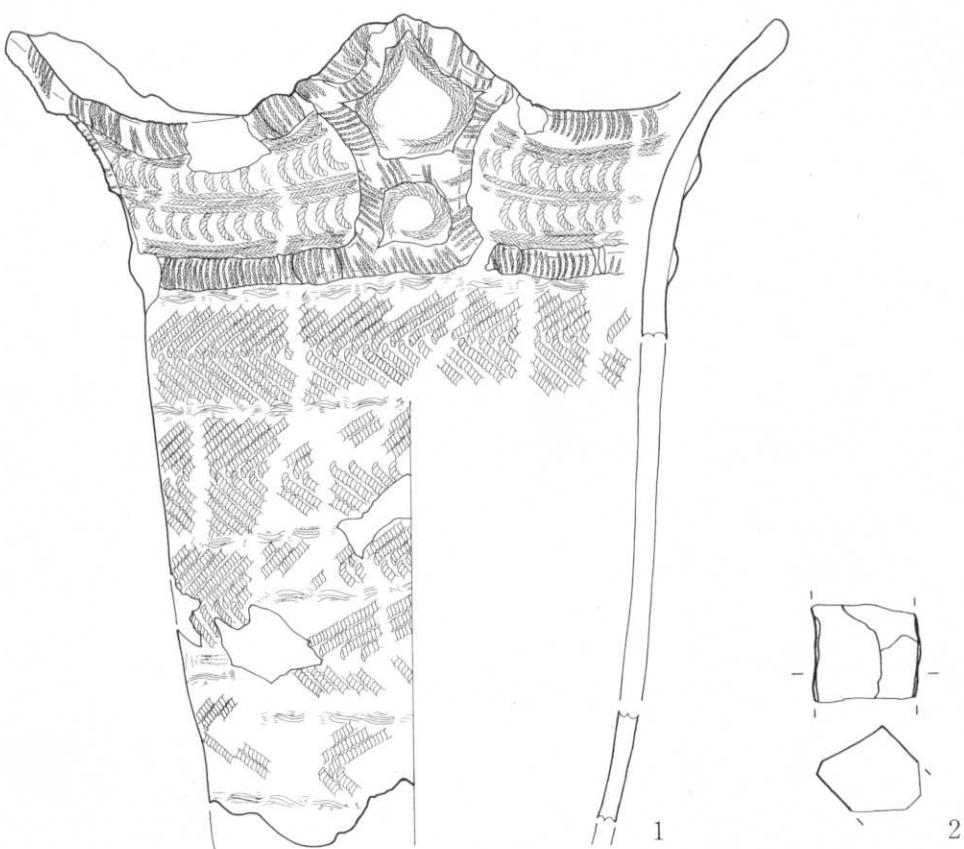
122図 4 トレンチIII-83層出土遺物 (4)



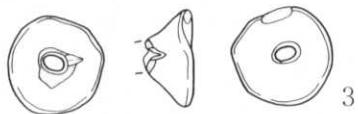
123図 4 トレンチIII-83層出土遺物 (5)



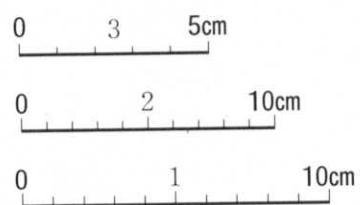
124図 4トレンチIII-84層出土遺物



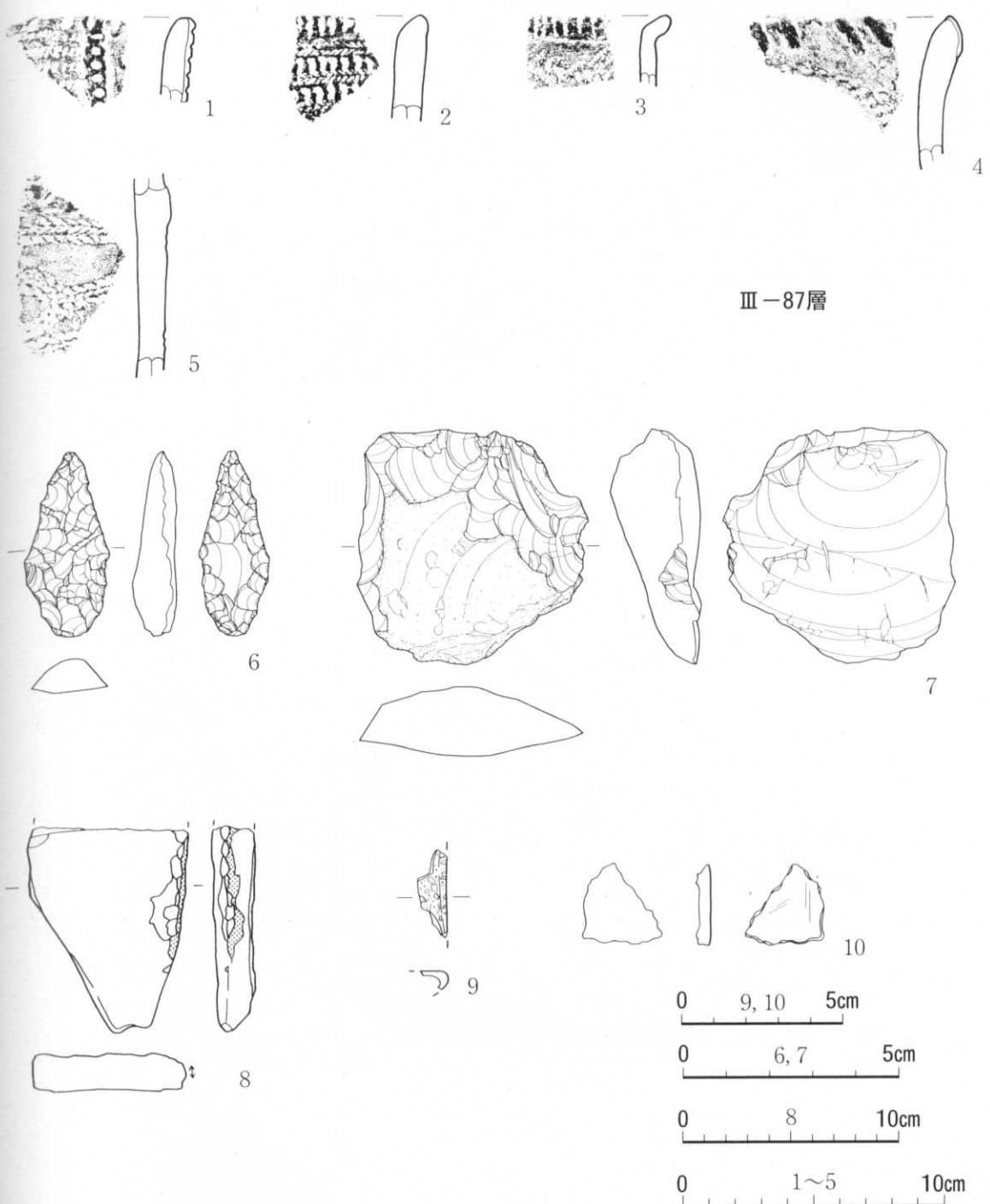
III-85層



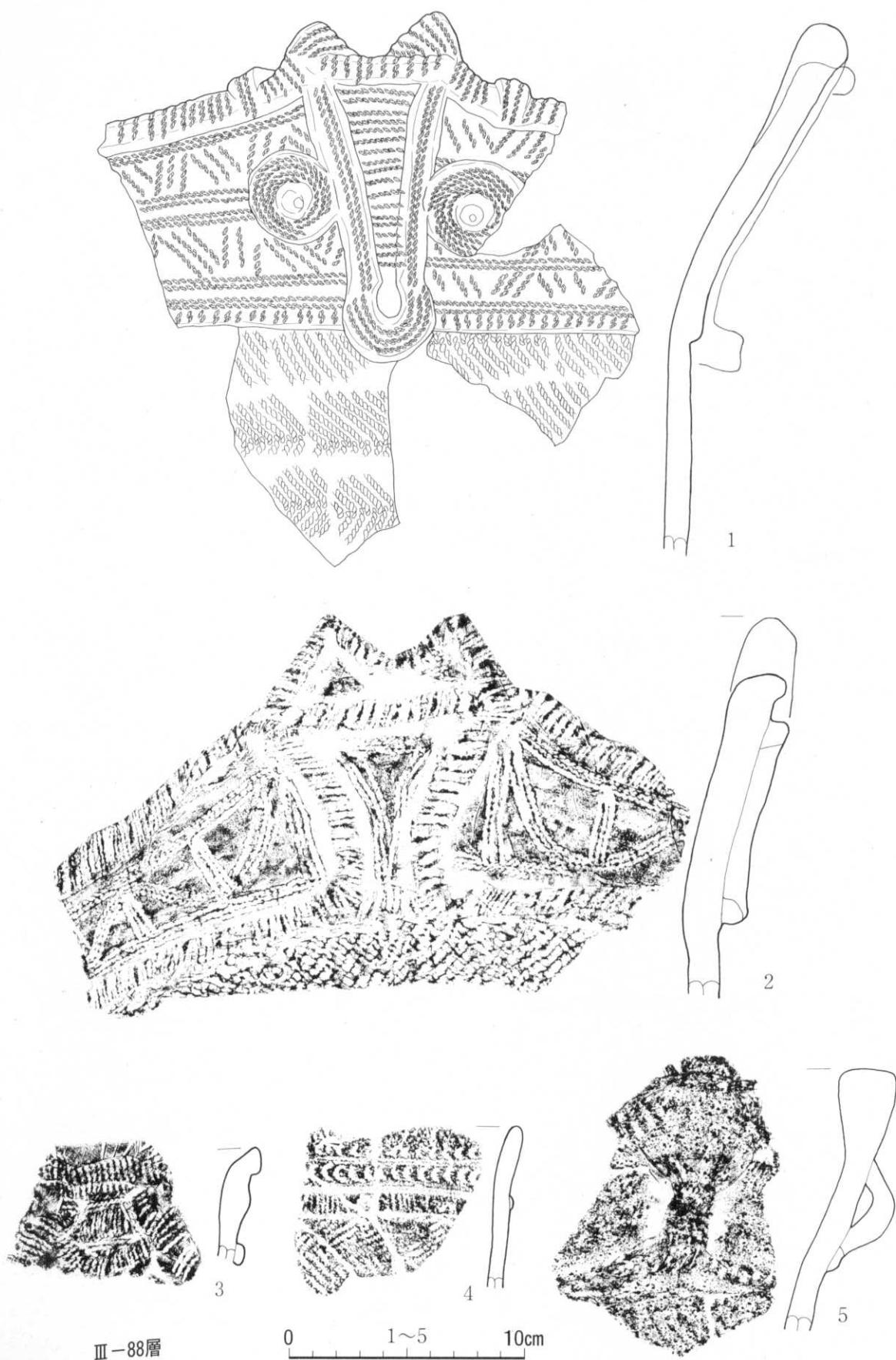
III-86層



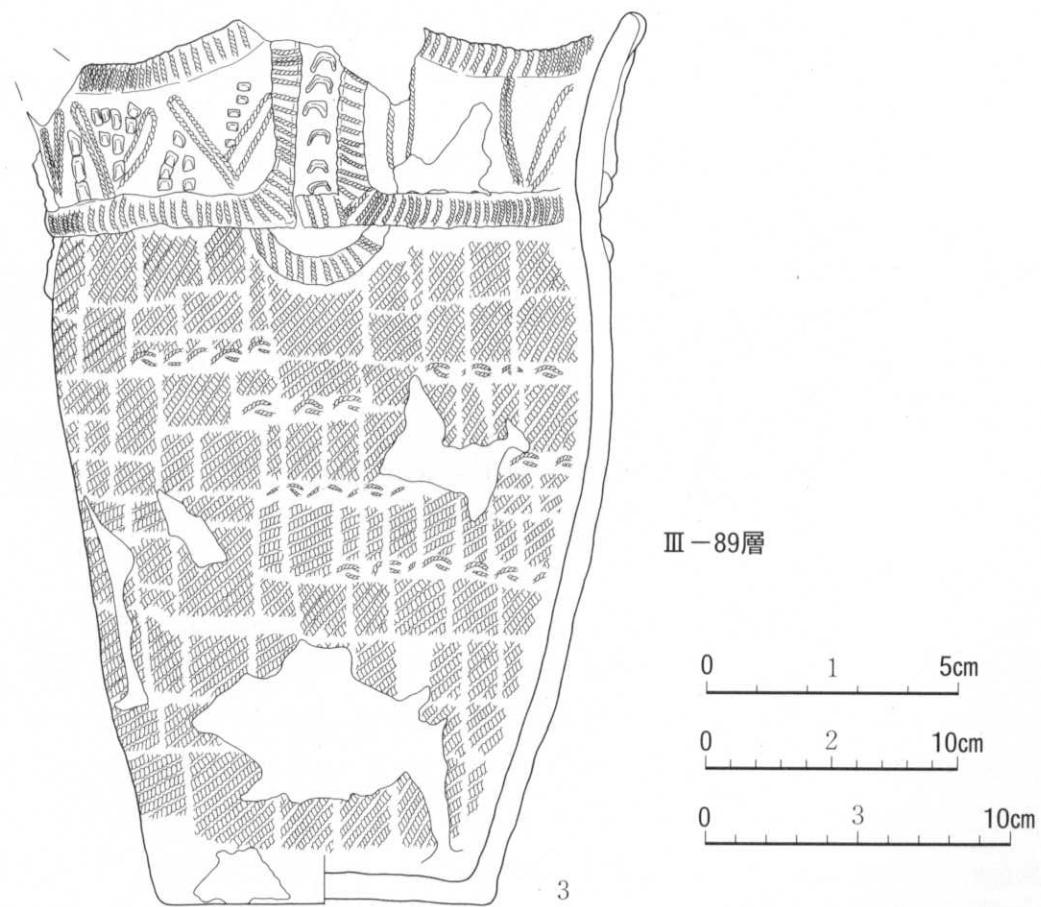
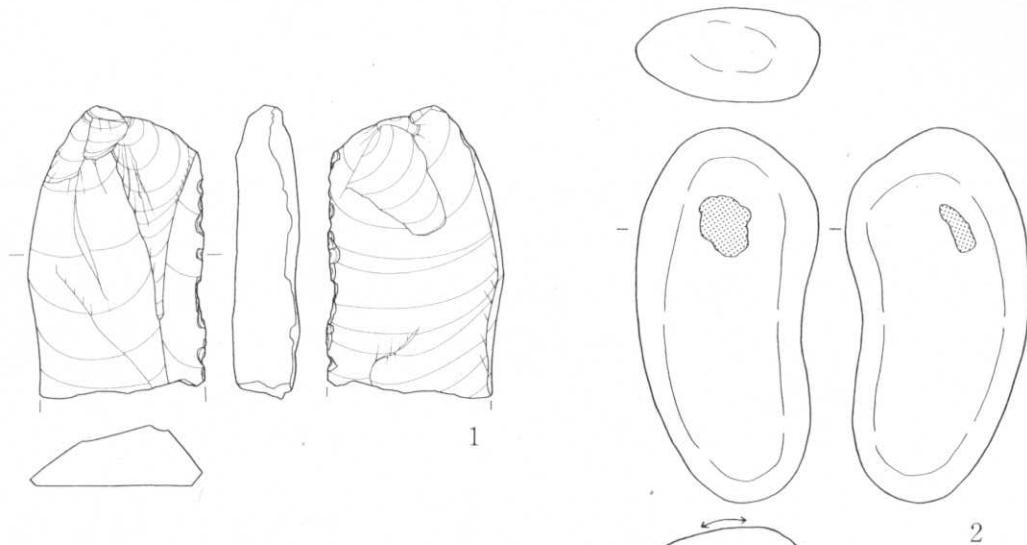
125図 4 トレンチIII-85・86層出土遺物



126図 4トレンチIII-87層出土遺物



127図 4 トレンチIII-88層出土遺物 (1)



128図 4 トレンチIII-88層出土遺物 (2)・III-89層出土遺物 (1)

層厚はほぼ均一である。堆積土は緻密でしより強い褐色(10YR4/6)のローム土が主体で、炭化物が微量含まれる。遺物は、土製品が1点出土した。平面形が円形で、断面形が三角形状のもので、中央に穿孔がある。

第87層

VIN・O-119・120に幅約1.45m、最大厚12cmで分布する。東側へやや傾斜するものの、ほぼ水平な堆積で、層厚はほぼ同じである。堆積土は暗褐色(10YR3/4)土が主体で、ローム粒が少量、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は前期末から中期初頭の土器小片がごく少量出土した。石器は石鏃未製品(126-6)、剥片(126-7)、敲打痕のある礫(126-8)が出土した。ほかに不明土製品、被熱した獸骨片が各1点出土した。

第88層

VIN・O-119・120に幅約0.9m、最大厚8cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚は均一である。堆積土は黒褐色(10YR3/2)土が主体で、炭化物が少量混入する。遺物は、土器は中期初頭の土器片が少量出土した。127-1・2は縄文原体による鋸歯状押圧が施文されたもので、127-1は多段に構成される。127-4は平縁で、馬蹄形押圧が一巡する。127-5は摩滅が著しく、文様が不明確である。石器は削器ないし搔器(128-2)、煤が付着した敲打痕のある礫(128-3)が出土した。

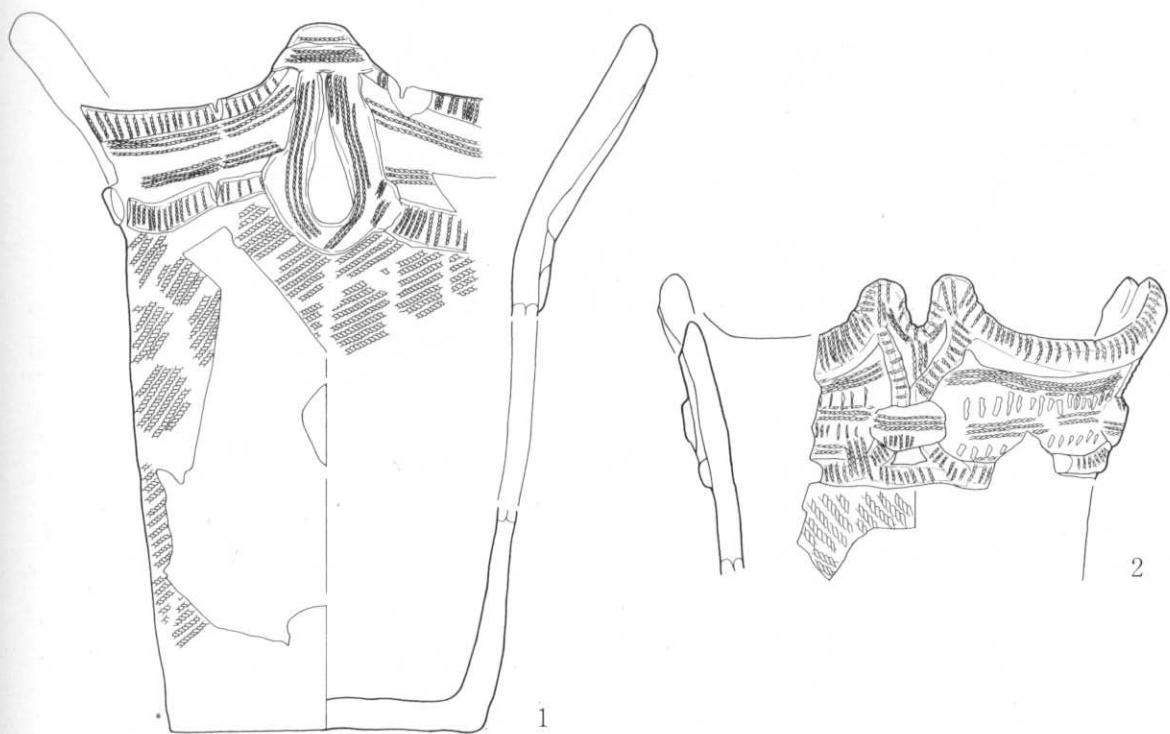
第89層

VIN・O-119・120に幅約2.2m、最大厚5cmで分布する。ほぼ水平に堆積し、層厚はほぼ均一である。堆積土は粘性の強い黒褐色(10YR2/2)土が主体で、炭化物が少量含まれる。

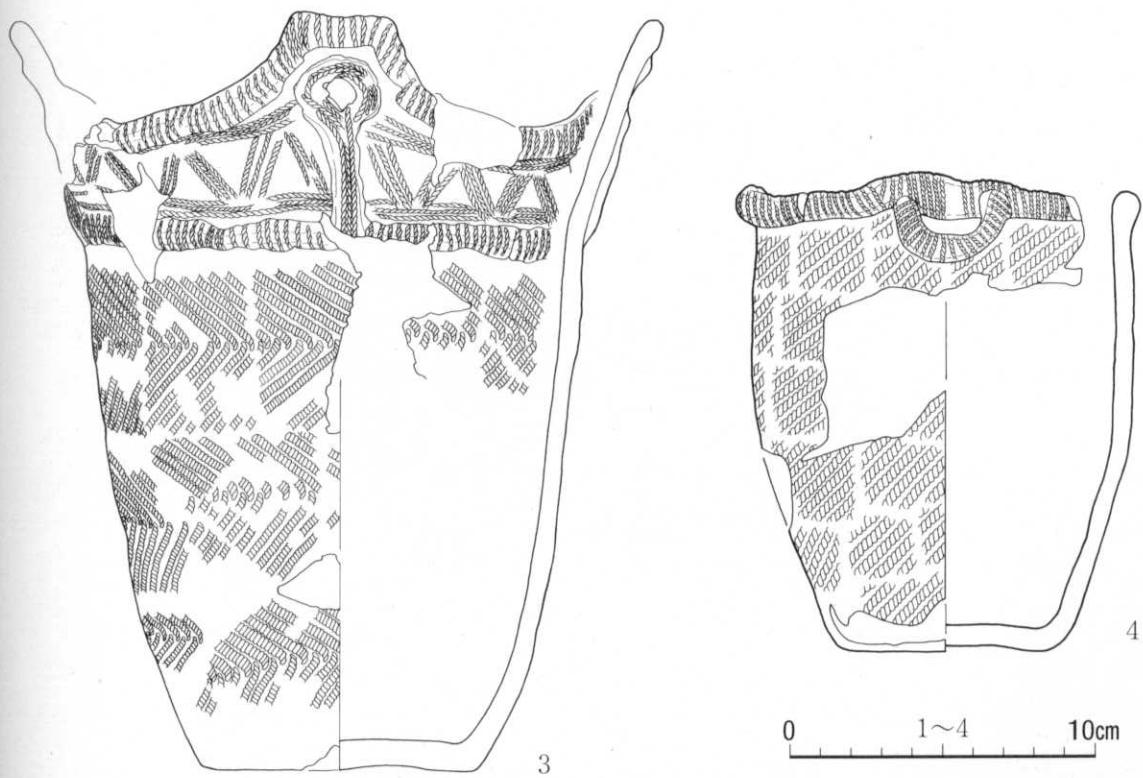
遺物は多量に出土した。土器は複数の復元個体を含む。129-3・130-1・131-1は波頂部以外に鋸歯状押圧が施文されたものである。また130-2・131-2・132-2は波頂部以外に馬蹄形押圧が施文されたものである。129-2には波頂部下と鋸歯状押圧の間に刺突が施されている。131-3は台付鉢形土器で、口縁部の横位隆帶間に馬蹄形押圧が密に巡るものである。石器の出土量も多い。使用痕のある剥片(133-8・9)、石籠かと思われる両面加工石器(133-10)、削器ないし搔器(133-11・12)、使用痕のある剥片(133-13)、全面が磨られた軽石(133-14)などがある。

第89'層

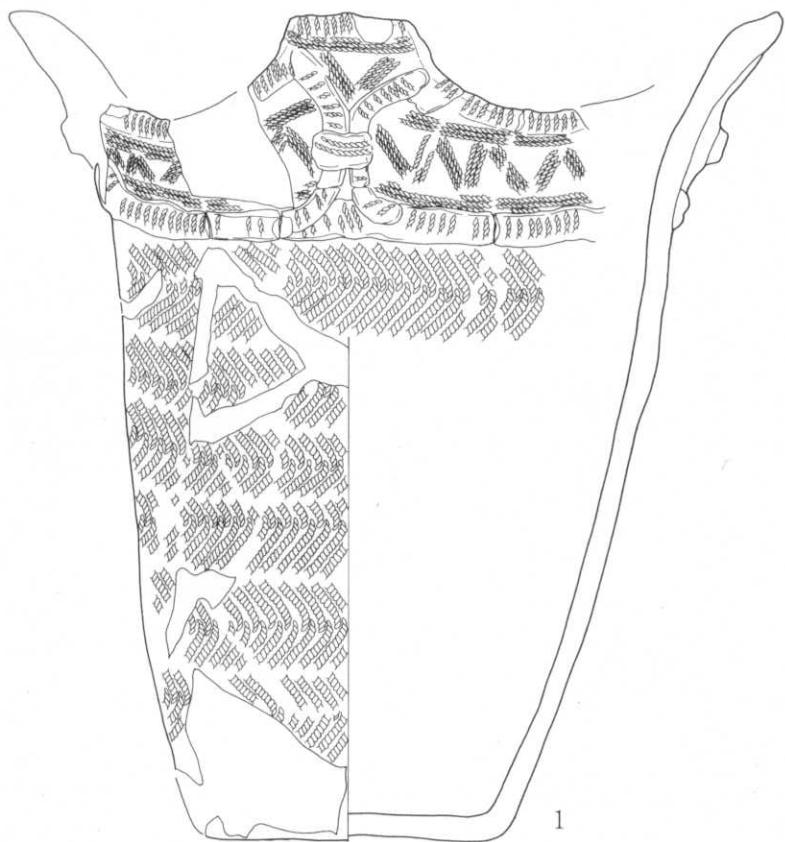
VIN・O-119・120に幅約6.1m、最大厚10cmで分布する。第IV層の上にほぼ水平に堆積する。層厚は部分的に若干違いはあるものの、全体的にはほぼ均一である。堆積土は黒褐色土を主体とし、炭化物が少量含まれる。遺物は、土器は復元個体を含む円筒上層a式土器が多量に出土した。134-1は縄文原体による鋸歯状押圧が施文されたものである。135-6は馬蹄形押圧が観察される。また、石器は半円状扁平打製石器(136-1)、敲打痕のある擦切具(136-2)、磨痕と敲打痕をもつ礫(136-3)、角柱状の礫(136-5)、敲打痕のある礫(136-6)などが出土した。全面が磨られた軽石(136-4)、全面が磨られた軽石(136-4)、角柱状の礫(136-5)、敲打痕のある礫(136-6)などが出土した。有茎鏃(137-1)、凹基鏃(137-2)、削器ないし搔器(137-3・4)、使用痕のある剥片(137-5)、剥片(137-6)、上面にコーン?の痕跡がみられる両極石器(137-7)、刃部に光沢がみられる使用



III-89層

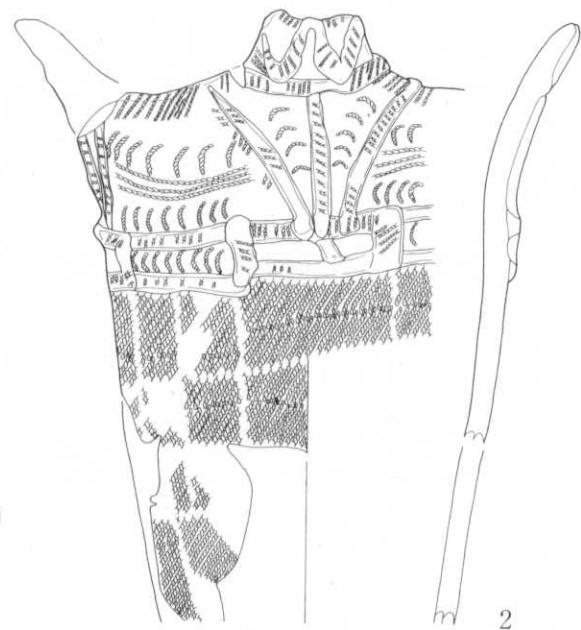


129図 4トレンチIII-89層出土遺物(2)

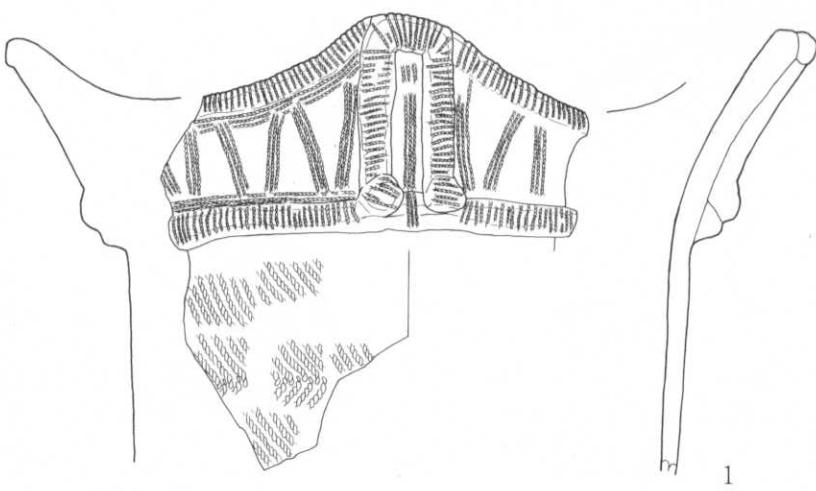


III-89層

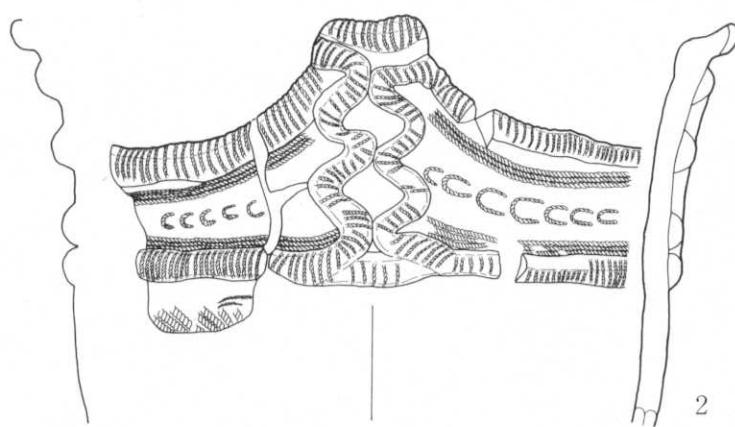
0 1, 2 10cm



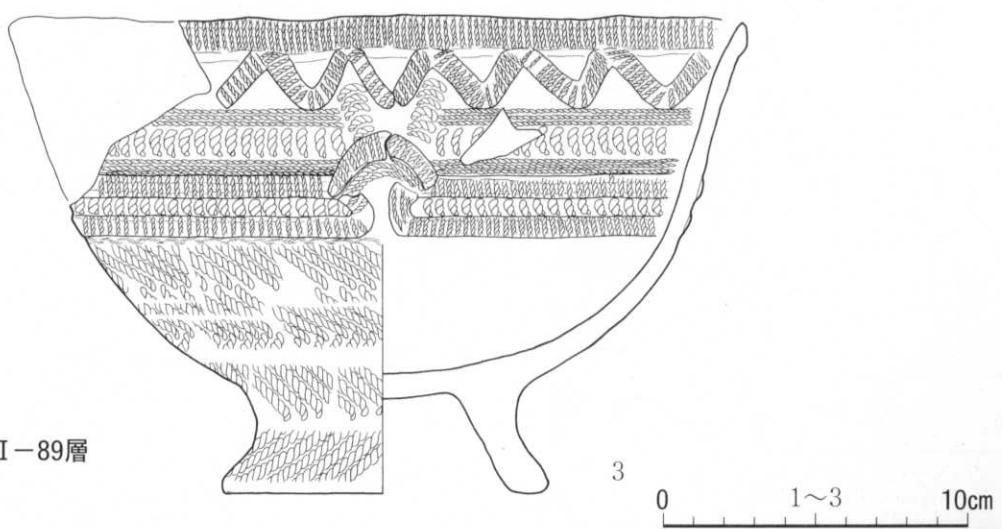
130図 4 トレンチIII-89層出土遺物 (3)



1



2

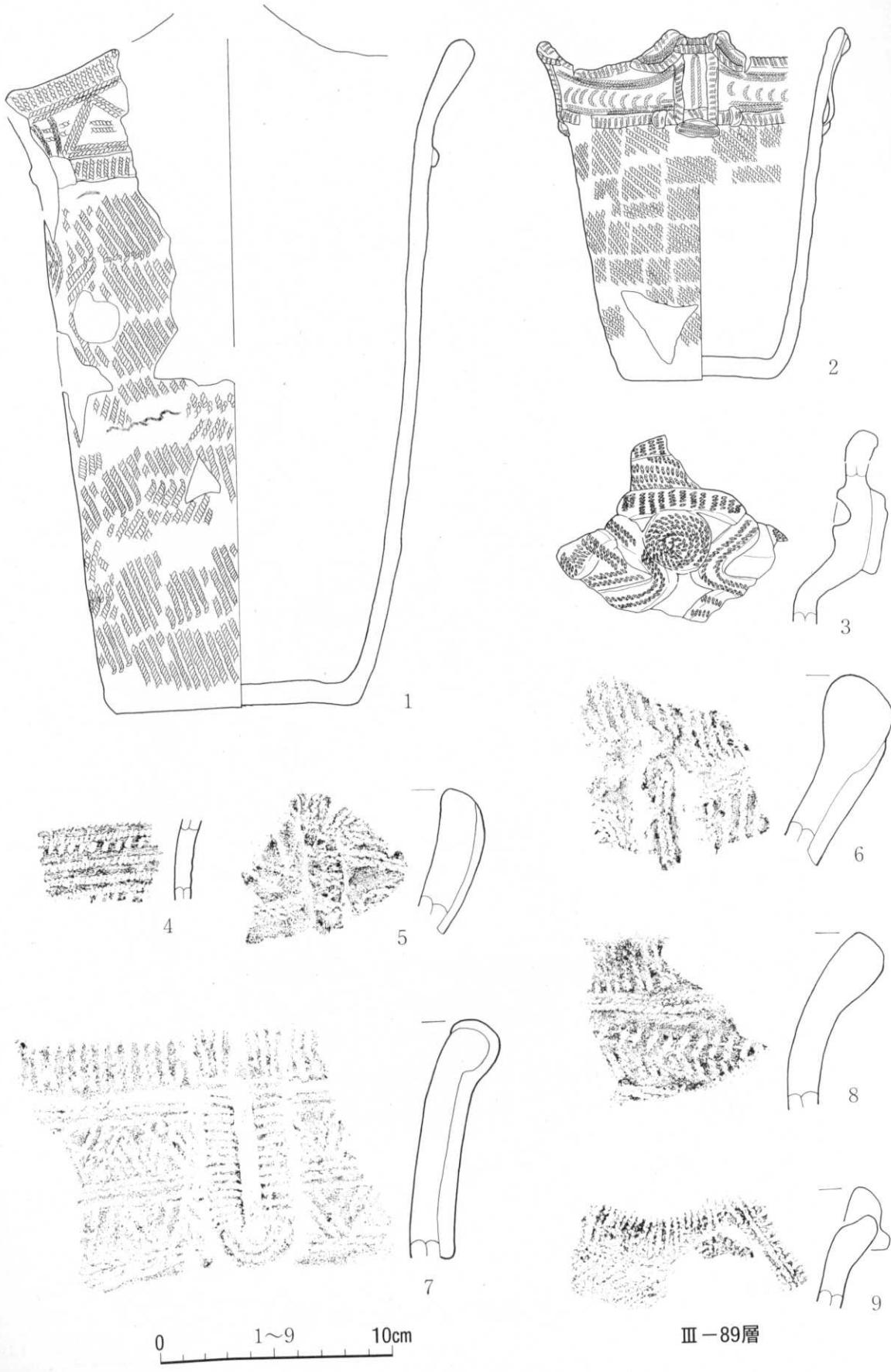


III-89層

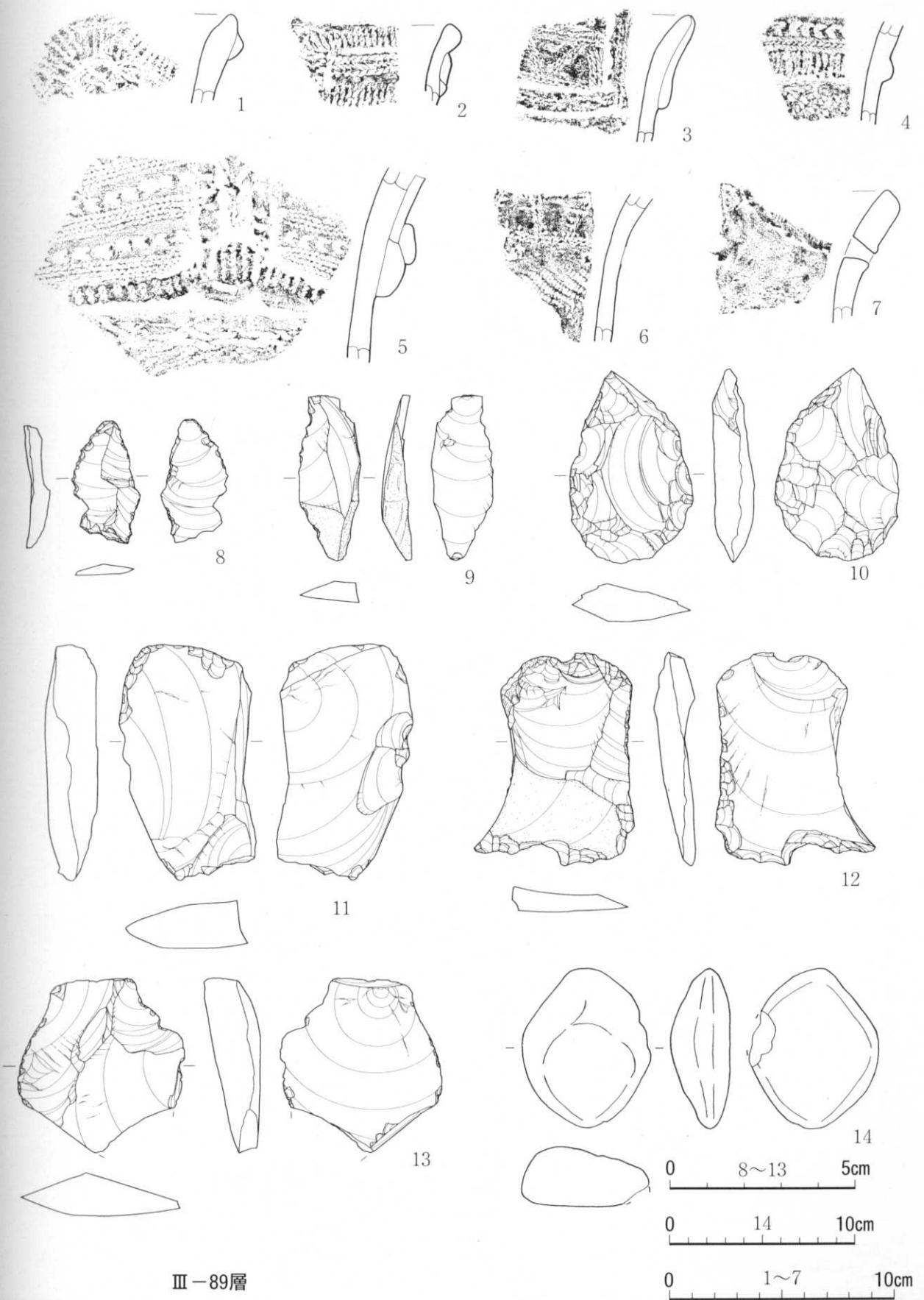
3

0 1~3 10cm

131図 4トレンチIII-89層出土遺物(4)

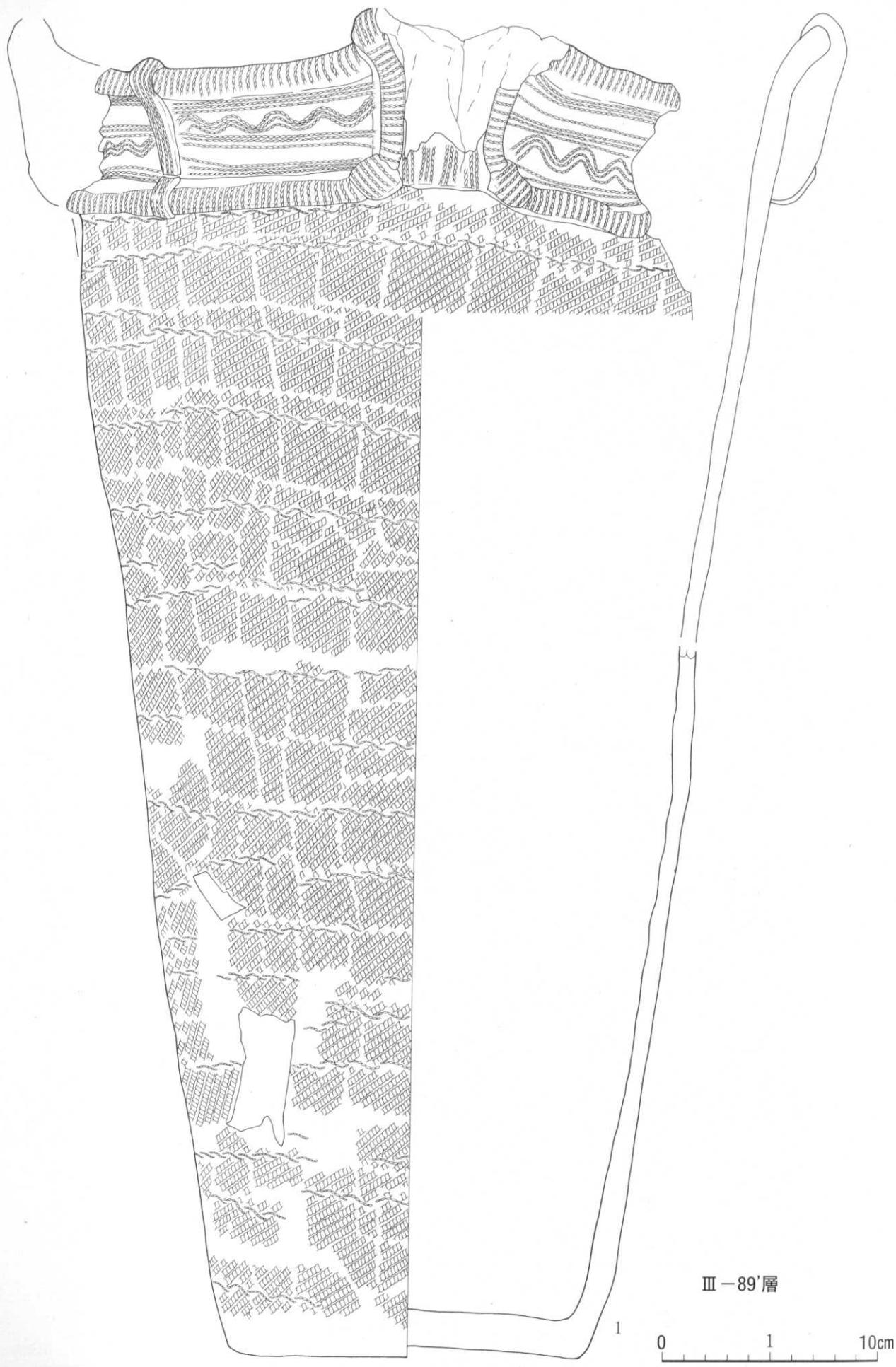


132図 4トレンチIII-89層出土遺物 (5)

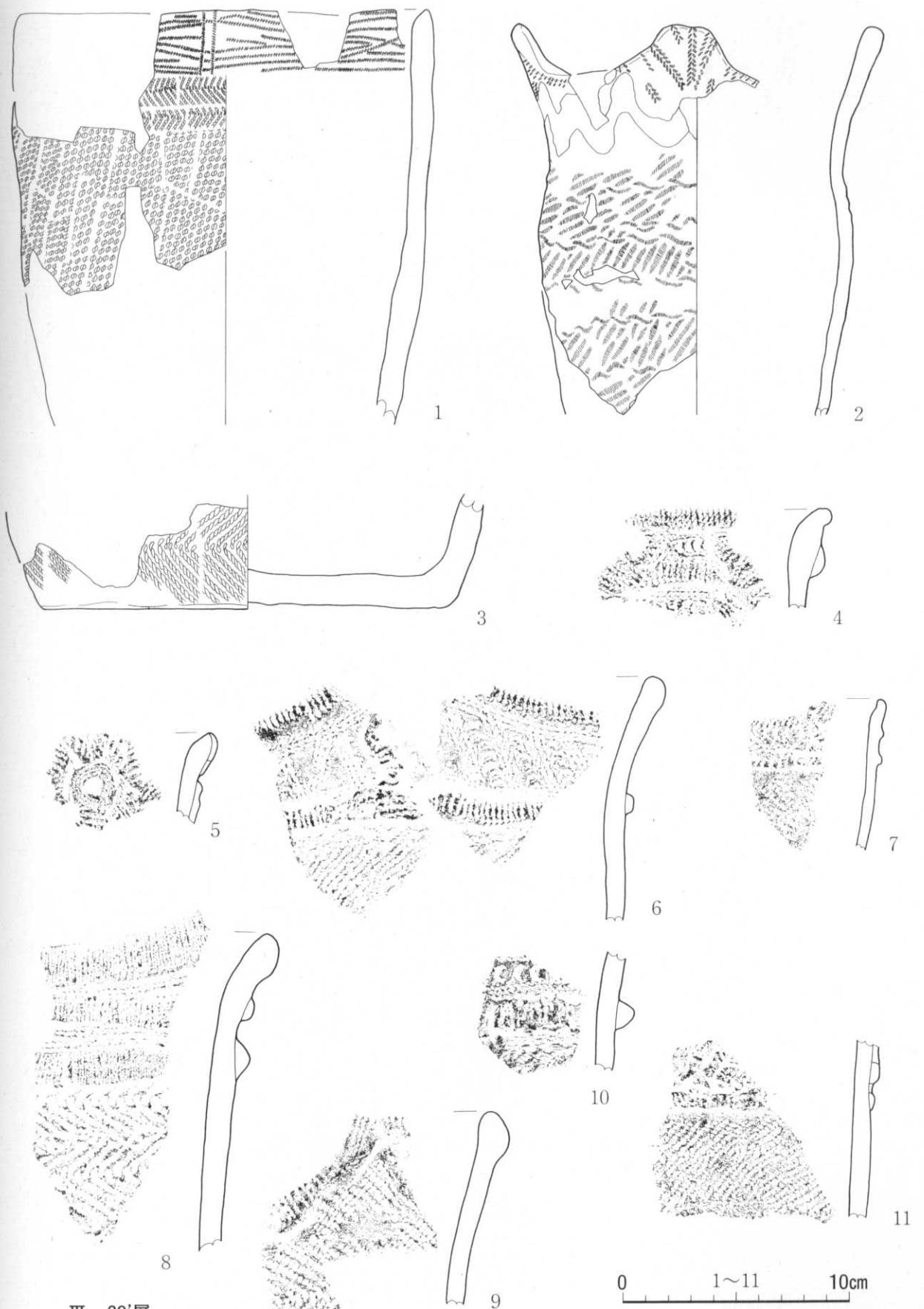


III-89層

133図 4トレンチIII-89層出土遺物 (6)



134図 4トレンチIII-89'層出土遺物(1)



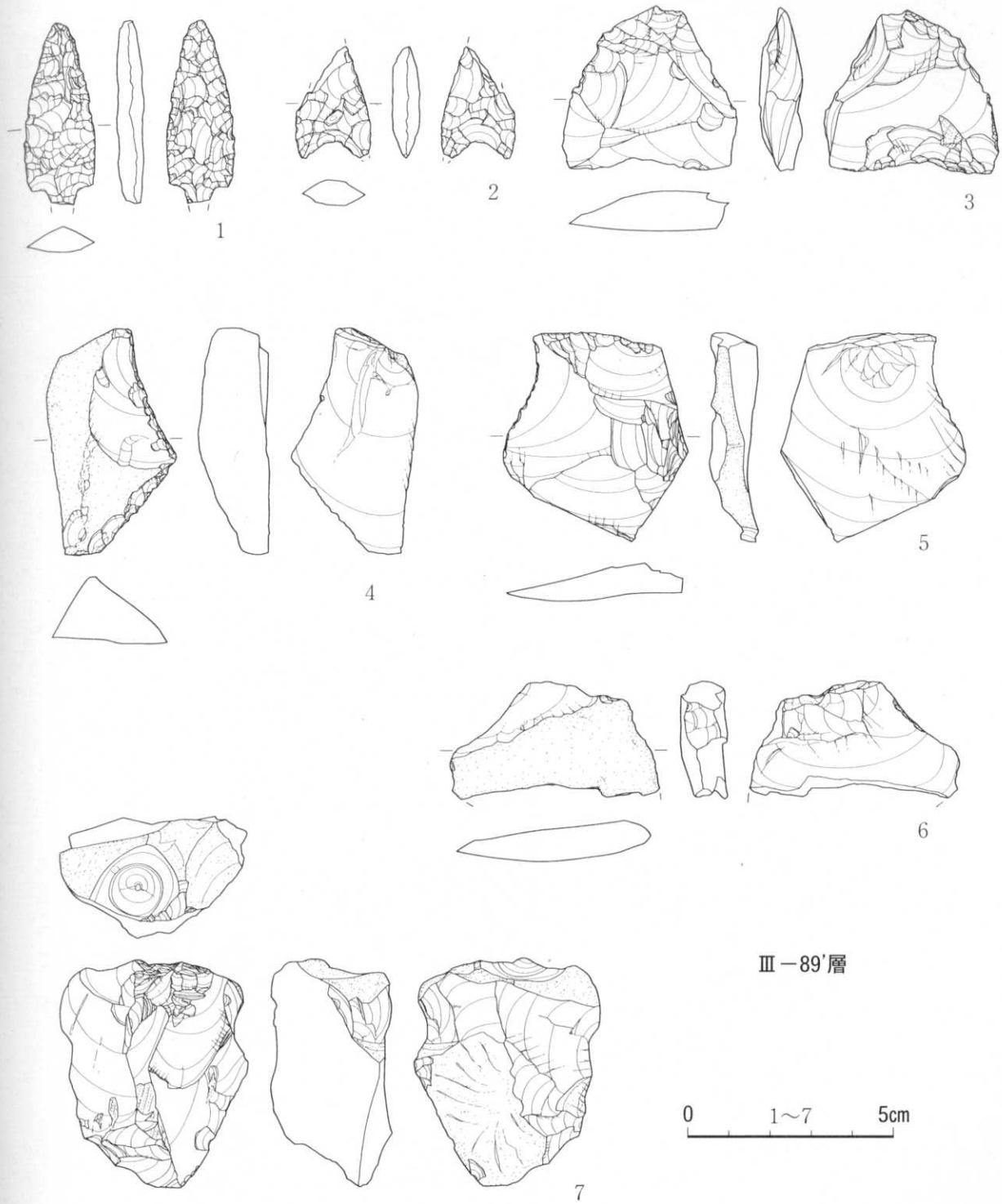
III-89'層

135図 4 トレンチIII-89'層出土遺物(2)

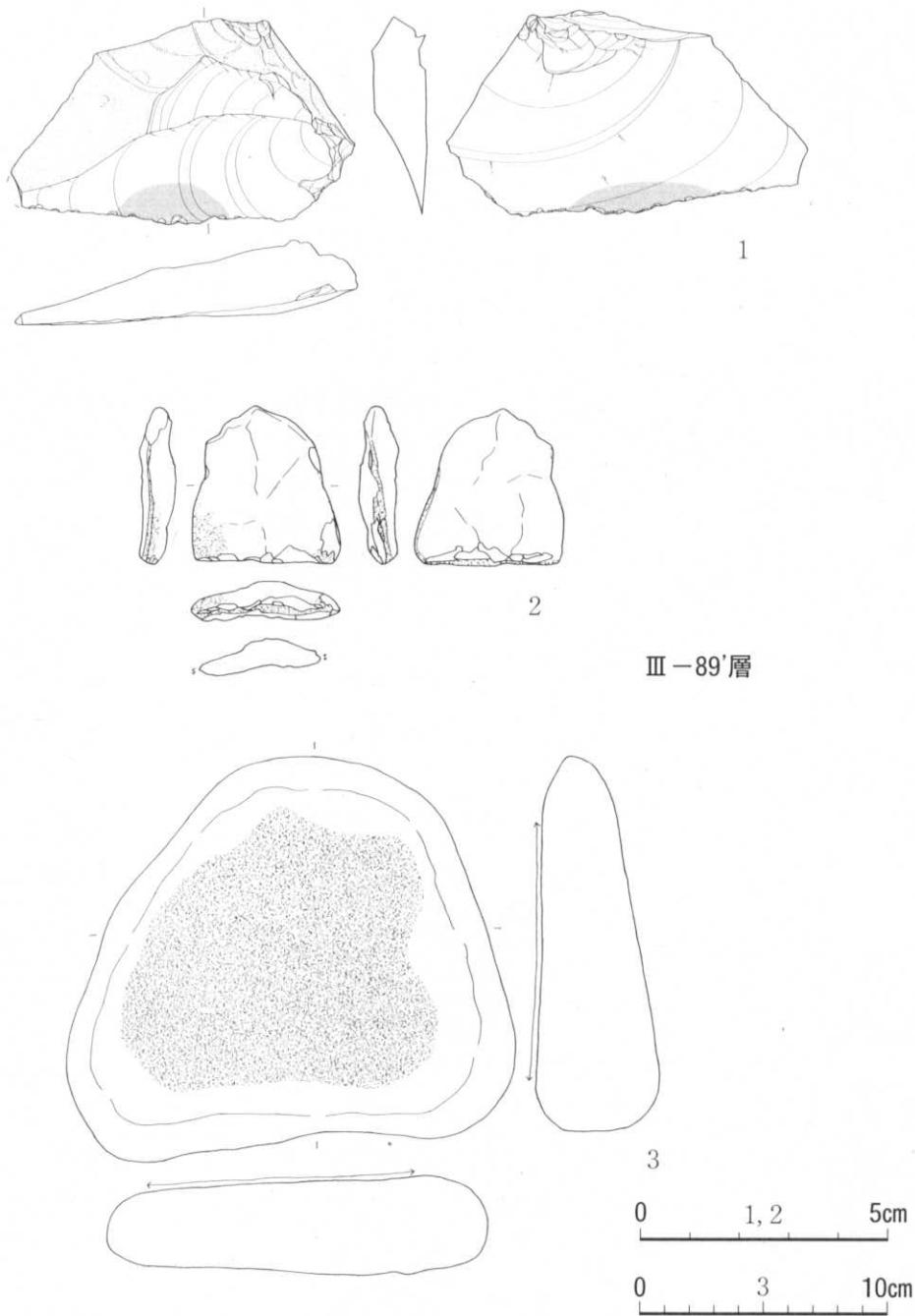


136図 4 トレンチIII-89'層出土遺物 (3)

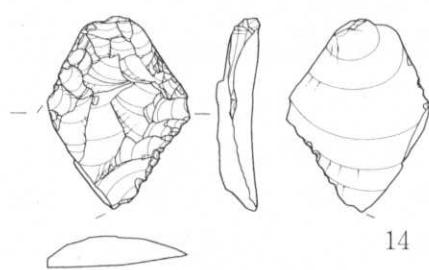
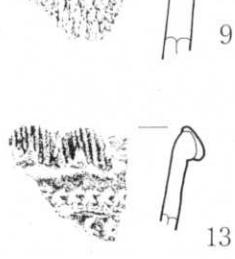
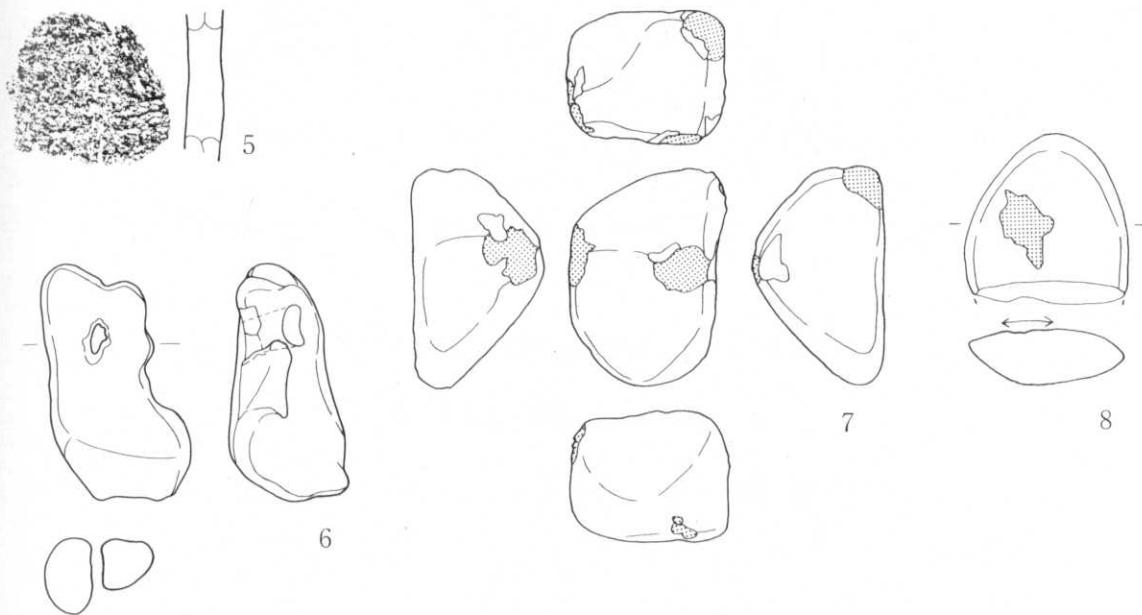
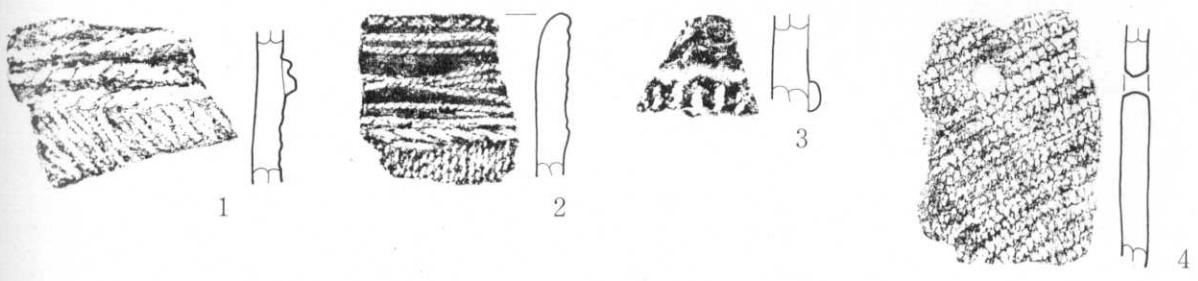
III-89層



137図 4 トレンチIII-89'層出土遺物 (4)



138図 4 トレンチIII-89'層出土遺物 (5)



III-90層

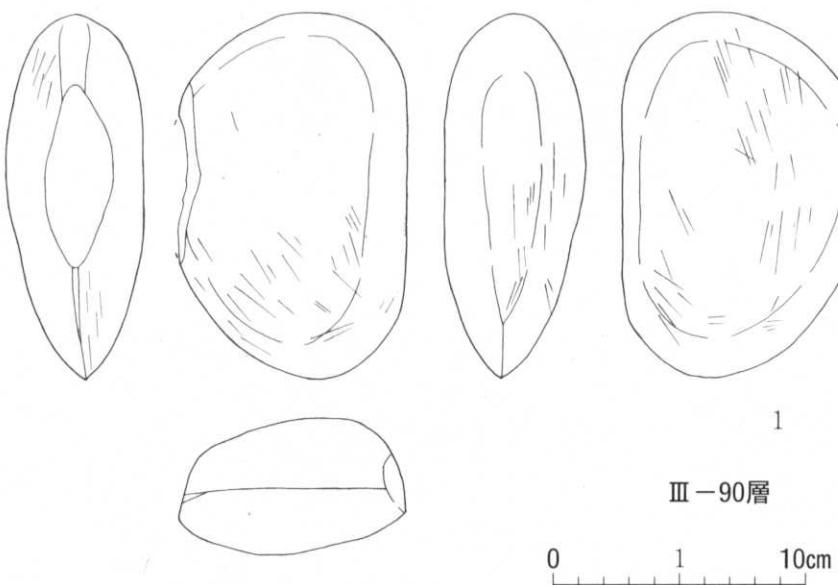
0 6 5cm

0 14 5cm

0 7, 8 10cm

0 1~5, 9~13 10cm

139図 4トレンチIII-90層出土遺物(1)



140図 4トレンチIII-90層出土遺物(1)

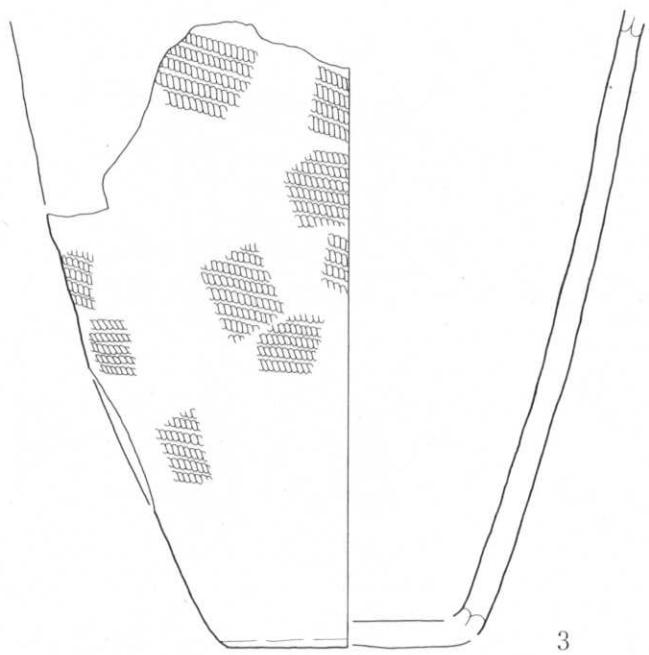
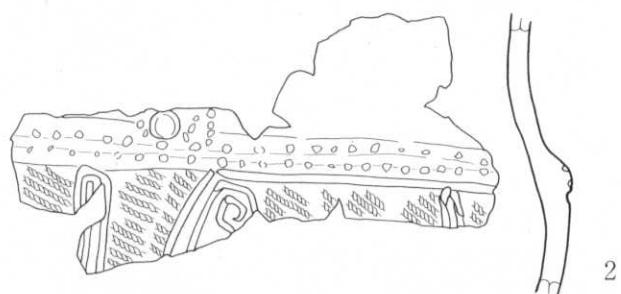
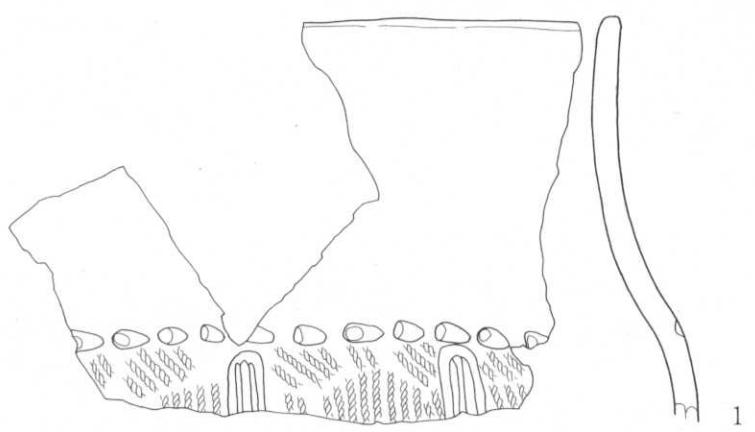
痕剥片(138-1)、磨痕のある礫(138-2)、石皿(138-3)が出土した。

第IV層(=第90層)

VIM・O-119・120に幅約6.1m、最大厚50cmで分布する。ほぼ水平に均一な厚さで堆積する。堆積土は黒褐色(10YR2/1)土で、炭化物が微量含まれる。遺物は、土器は前期の円筒下層式土器が少量出土した。石器では、敲打痕のある礫(139-7・8)、削器ないし搔器(139-14)、磨製石斧の未製品(140-1)が出土した。

風倒木痕(=第6~10・19~23・26層)

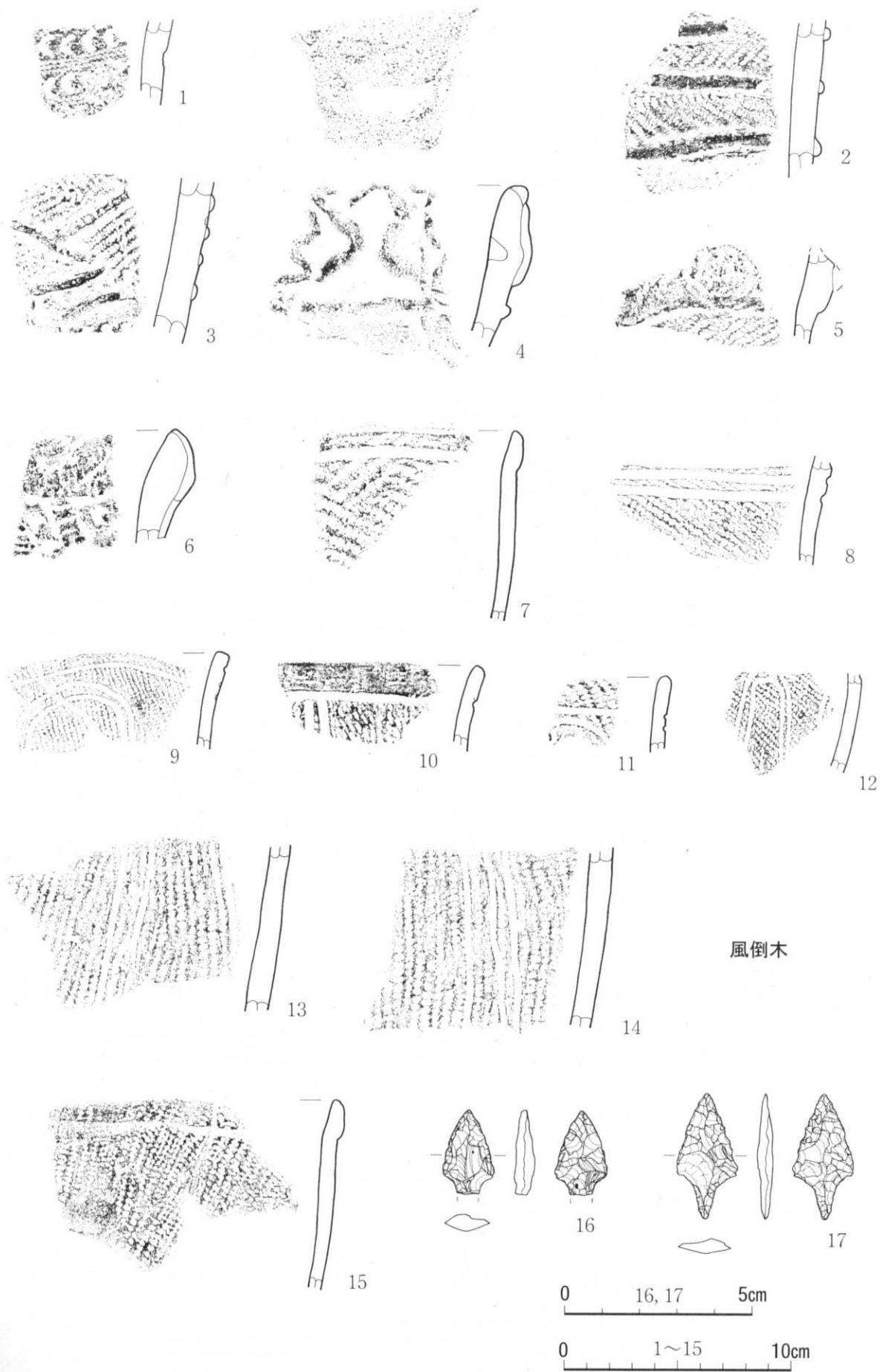
VIM・O-119・120に幅約2.9m、最大厚70cmで広がる。堆積土は黒色土を主体とし、ローム土、褐色土などが東側に傾斜しながら混入する。全体に炭化物や焼土粒が入る。遺物は多量に出土した。土器は円筒上層b式から最花式まで出土しているが、搅乱土層であり時期毎のまとまりをもつものではない。いずれも破片のみで、復元したものはない。石器は、茎部にアスファルトが付着する有茎鏃(142-16)、被熱している有茎鏃(142-17)、凹基鏃(143-1)、両面加工石器(143-2)、石槍(143-3)、使用痕のある剥片(143-4)、削器ないし搔器(143-5~7・9)、使用痕のある剥片(143-8)、被熱している裂片(144-1)、コーン痕跡?のある石核(144-2)、ハンマーかと推定される石核(144-3)、両面加工石器(144-4)、砂岩製の砥石(144-5)、半円状扁平打製石器(144-6)、茎部にアスファルトが付着する有茎鏃(146-1)、両面加工石器(146-2)、削器ないし搔器(146-3)、石核(146-4)、敲打痕のある礫(146-5)、全面が磨られた軽石(146-6)など多量に出土した。



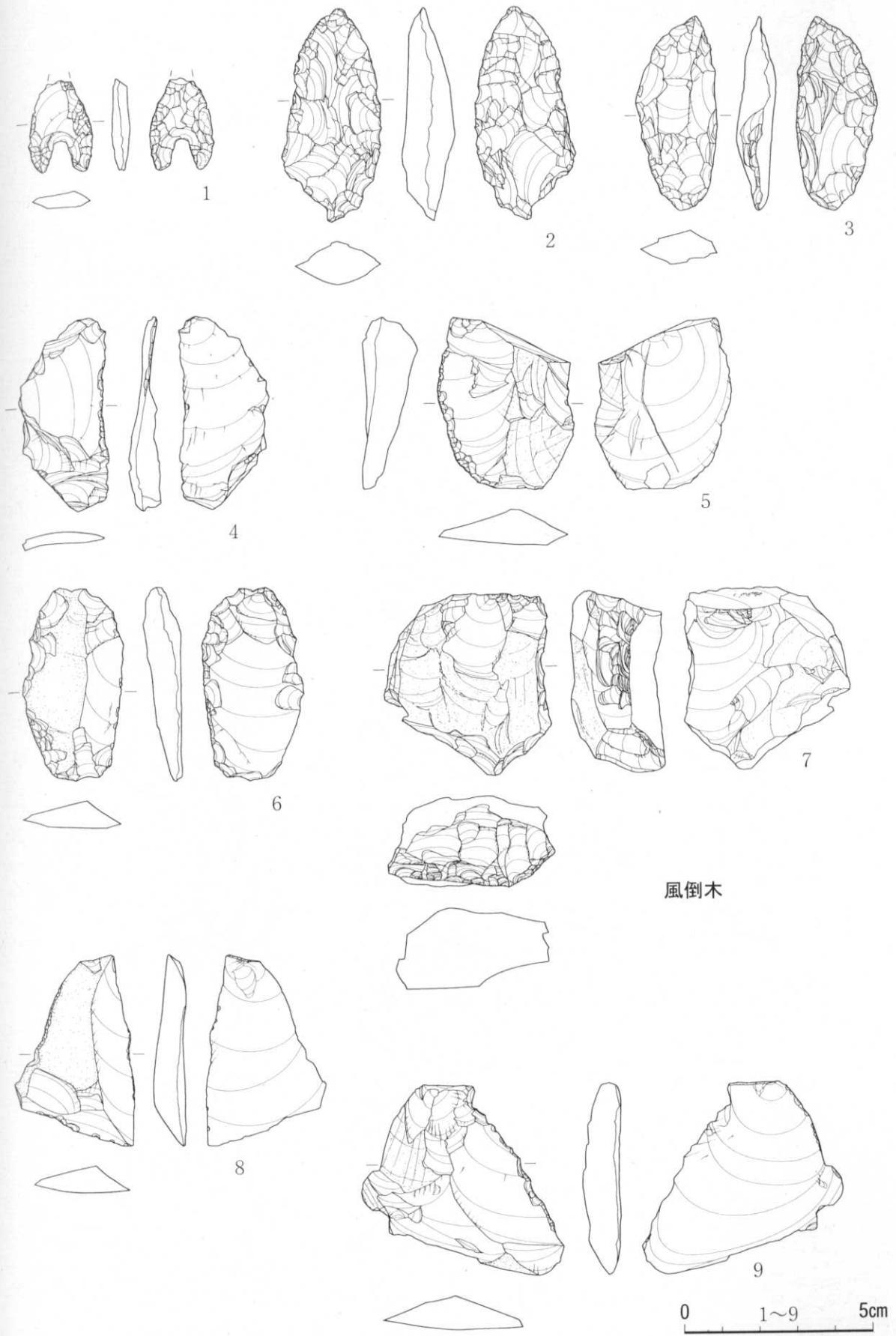
風倒木

0 1~3 10cm

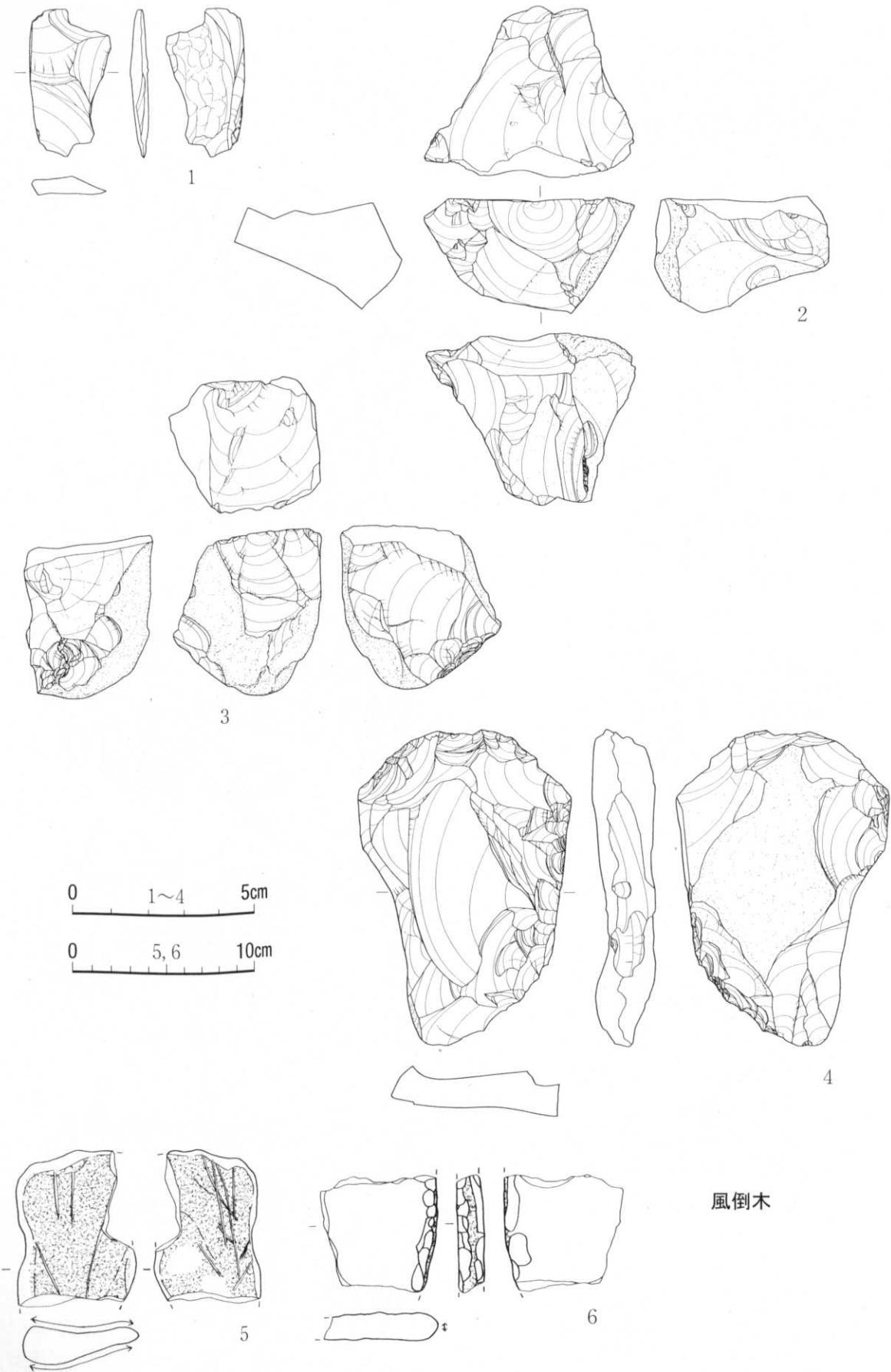
141図 4 トレンチ風倒木出土遺物 (1)



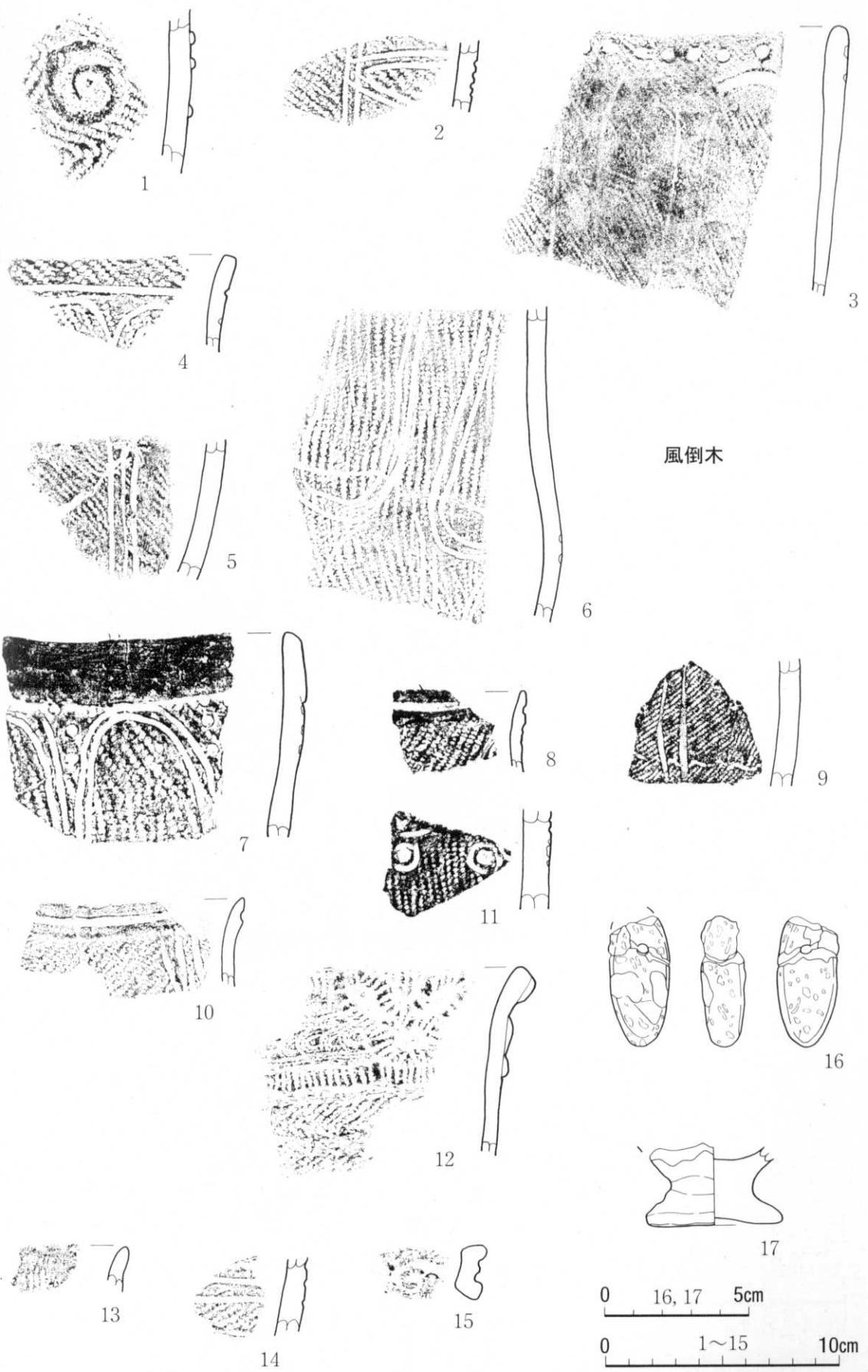
142図 4 トレンチ風倒木出土遺物 (2)



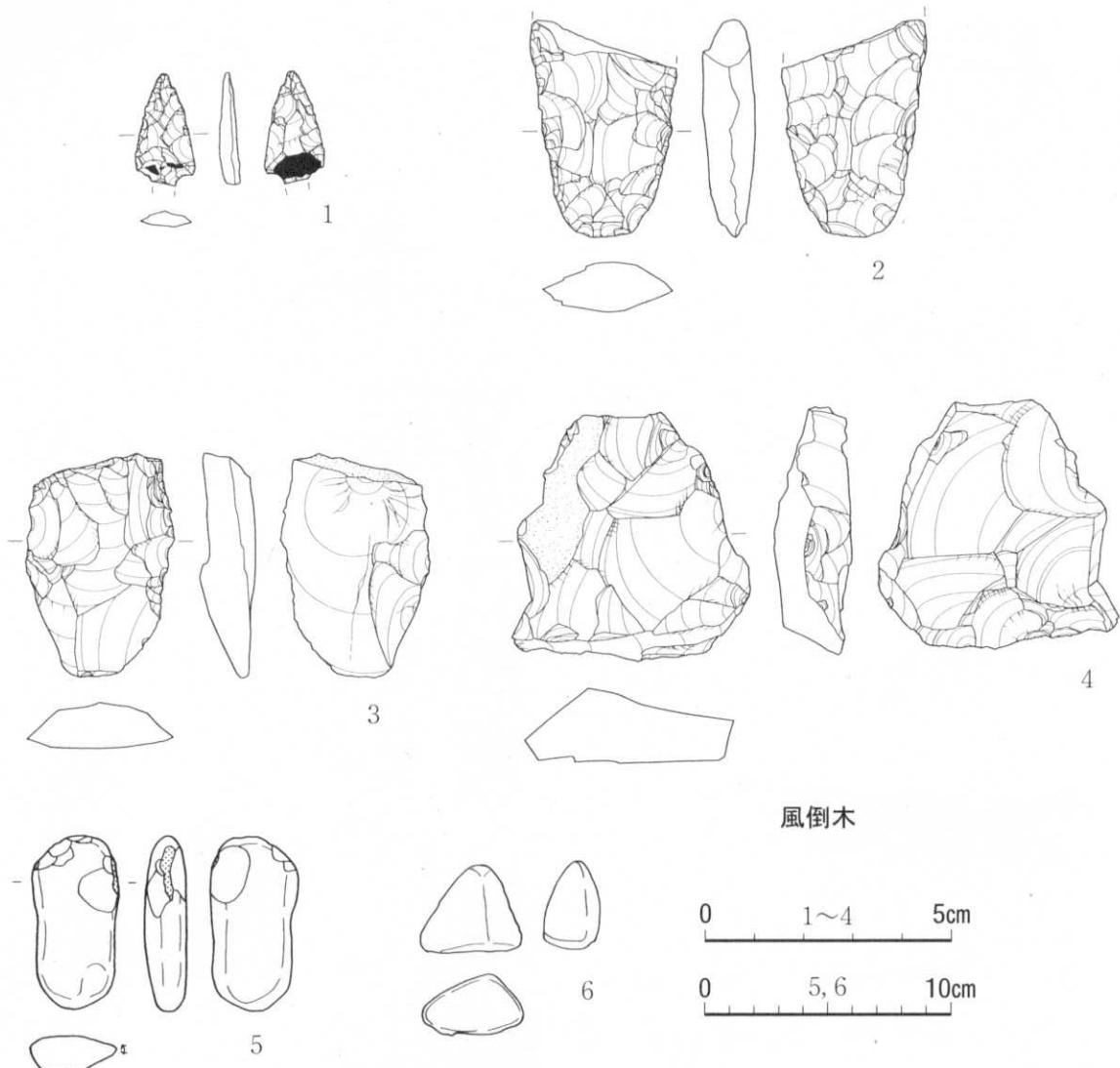
143図 4 トレンチ風倒木出土遺物 (3)



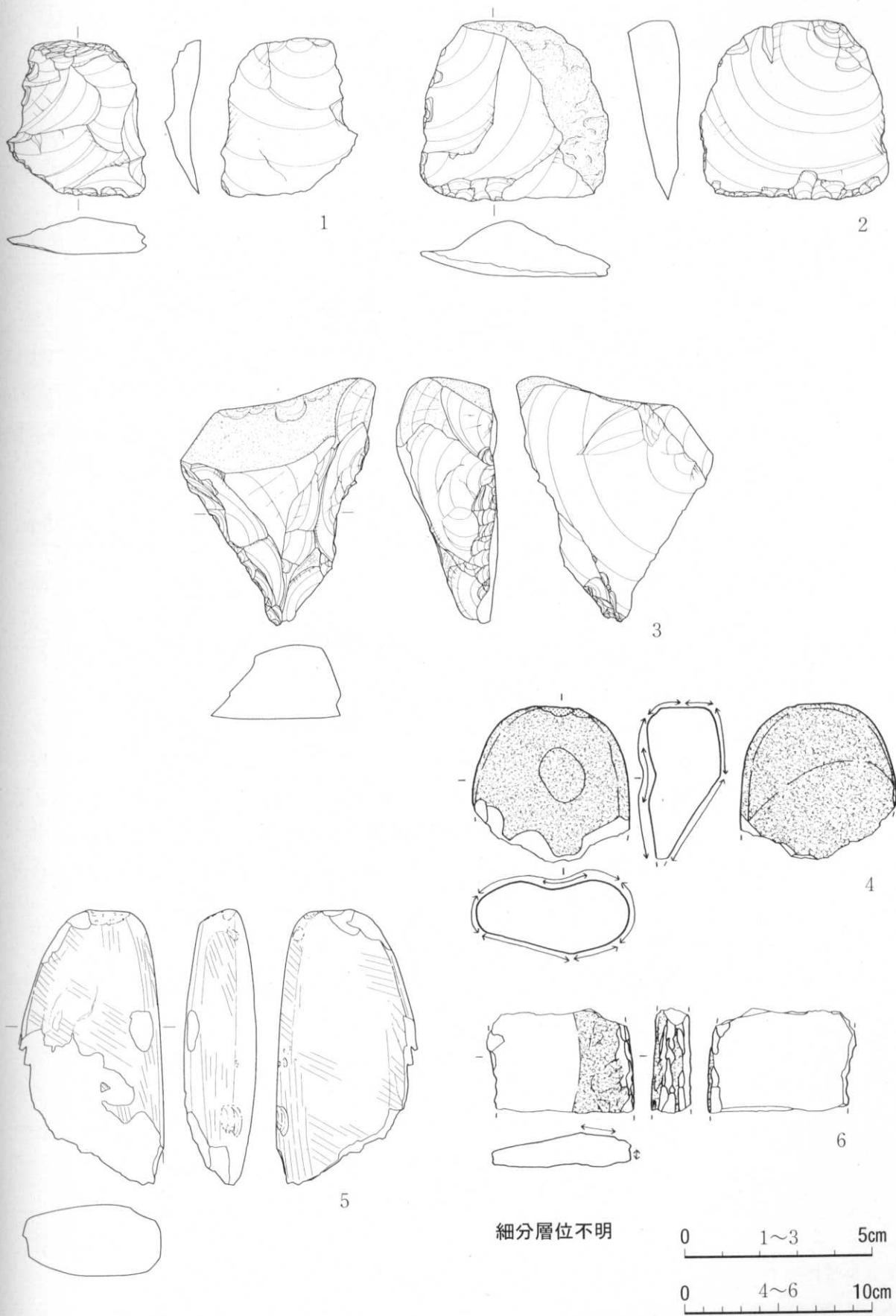
144図 4 トレンチ風倒木出土遺物 (4)



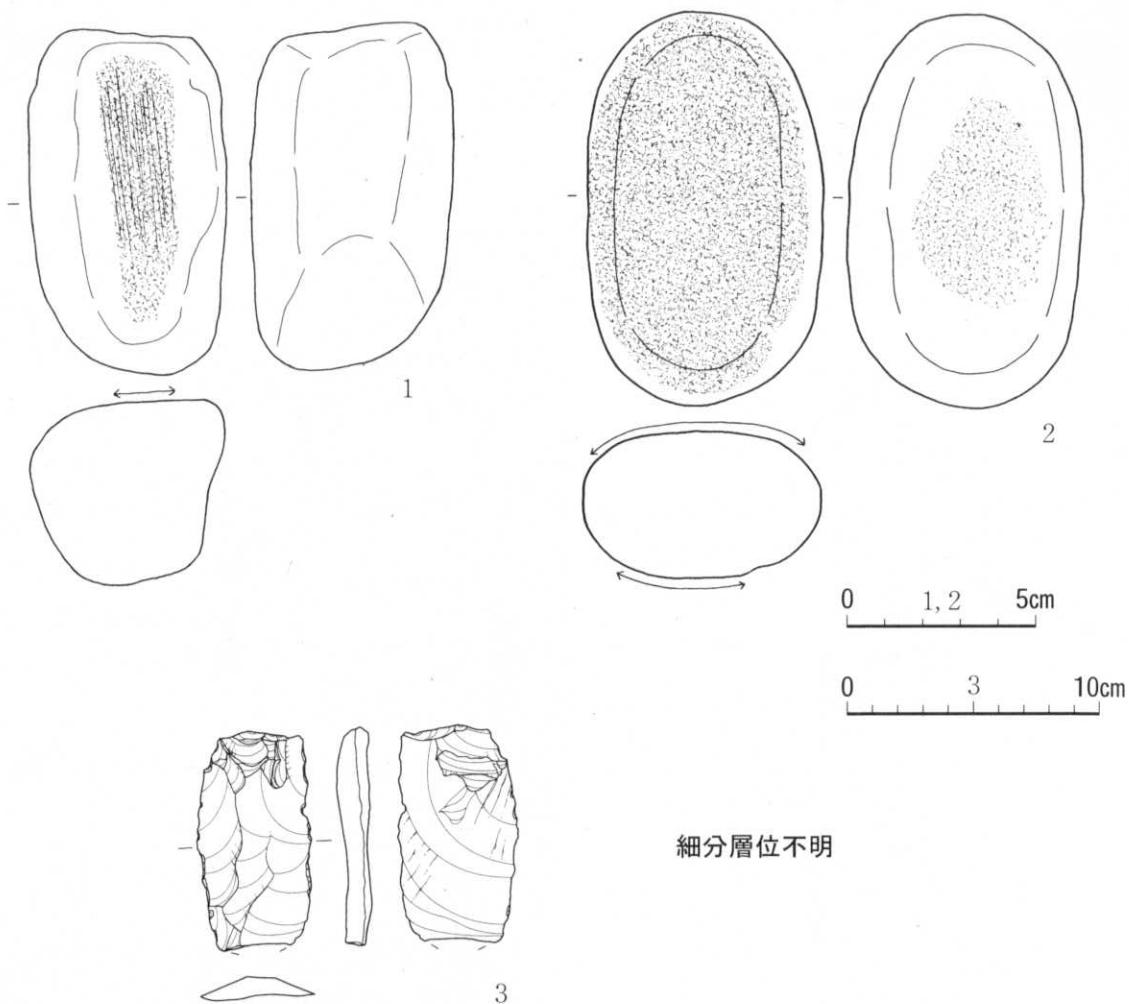
145図 4トレンチ風倒木出土遺物 (5)



146図 4 トレンチ風倒木出土遺物 (6)



147図 4トレンチ細分層位不明出土遺物 (1)



148図 4トレンチ細分層位不明出土遺物 (2)

(3) ポイント4の検出遺構と出土遺物

ポイント4はVIM-119、1トレンチと4トレンチの間に位置する。土層観察用に残していおいた各トレンチの交点に、順に番号を付しポイント4と呼称したものである。遺跡整備に当たって1トレンチと4トレンチを通じて見学用通路とすることになり、両トレンチの間の約75cm四方を調査した。確認面の標高は、19.15mである。確認面から第IV層上面までの厚さは166～172cmである。第IV層の厚さは26～30cmである。

本トレンチからの検出遺構は、第IV層上面で土器埋設遺構を確認した。これについては、盛土層の記載の後に触れる。

盛土部分は16層に分層し、23層に細々分した。時期は最花式期から円筒上層a式期である。ここで最も注意したのが、1・4トレンチとの土層の対応である。薄く狭い層の連続である盛土層では、上下関係が非常にわかりにくいため、やや大つかみではあっても、確実に連続ないし上下関係が明確な層を確認し、1・4トレンチへの連絡とすることにした。大つかみであるがため、1・4トレンチとの連続が判断できる層に関しては、細々分を行った。当然、1トレンチと4トレンチの細分層は連続するとは限らない。また、1・4トレンチの層が、特に層端では、隣接する層と区分しにくくなっていることも多く、土層の把握に苦慮したこと少なくなかった。

このトレンチの記載に当たっては、各層の広がりと厚さ、構成する土質、出土遺物について触ることにする。

以下に、各層の堆積土と出土遺物について述べる。

第1層

VIM-119・120で厚さ13～20cmで分布する。堆積土は黒褐色土を主体とし、1トレンチの第1層、4トレンチの第11層に相当する。ほぼ水平に堆積する。遺物は、土器は最花式土器を主体に、少量出土した。口縁部は折り返し状の無文帶、胴部は2～3条の縦位沈線が施文される。石器は未製品と思われる尖基鏃(150-8)、石槍と推定される両面加工石器(150-9)片がそれぞれ1点出土したほか、容器と思われる石製品が1点出土した。

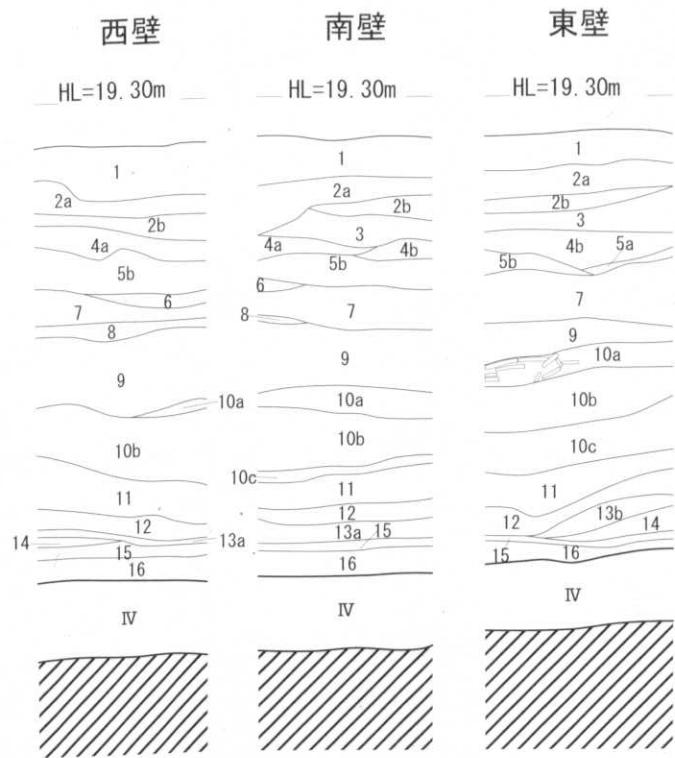
第2層 第2a層と第2b層の2つに分層した。

第2a層

VIM-119・120に厚さ6～14cmで分布する。堆積土は褐色土を主体とし、1トレンチの第4・6層、4トレンチの第12層に相当する。わずかに南側へ傾斜して堆積する。遺物は、土器は最花式土器の小片を主体に、少量出土した。口縁部は折り返し状の無文帶、胴部は曲線状・カギ状の沈線が施文されている。石器は削器ないし搔器(151-6)が1点出土した。

第2b層

VIM-119・120に厚さ0～5cmで分布する。堆積土は褐色土を主体とし、1トレンチでは消滅してしまうが、4トレンチでは第13層に相当する。わずかに南側へ傾斜して堆積する。遺物は土器が榎林式土器の小片を主体に、少量出土した。口縁部は折り返し状の無文帶、胴部は直線状・曲線状の沈線

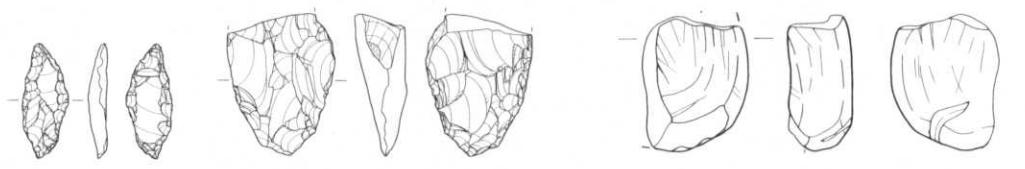
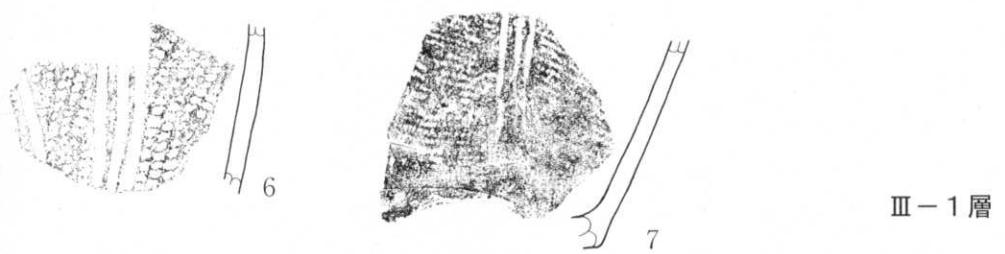
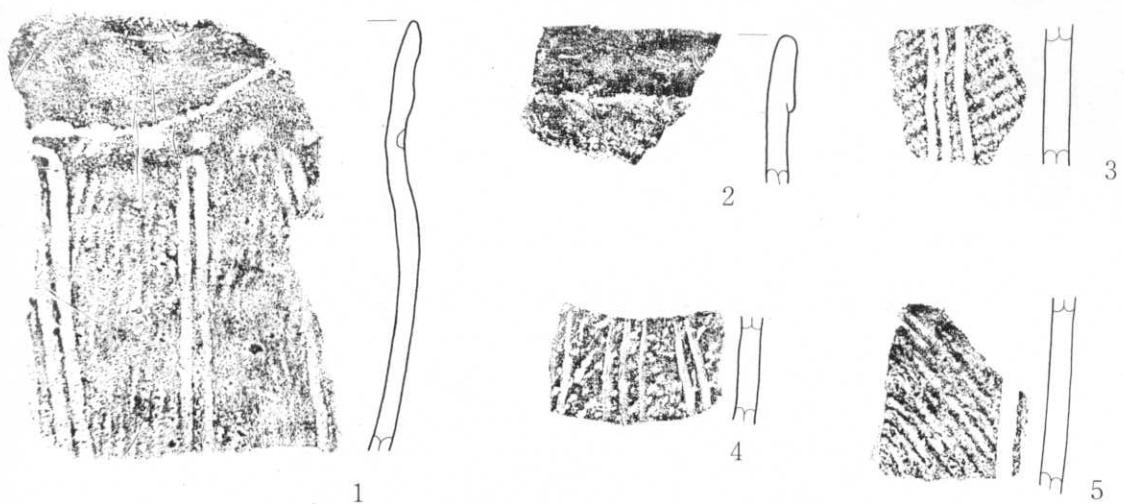


ポイント4 土層断面図

層対応表

4トレンチ	ポイント4	1トレンチ
11	1	1
12	2a	4·6
13	2b	
	3	8·9·11
16	4a	
	4b	26
	5a	28
17·18	5b	
25	7	30·31·40·50
27	8	
34·35·37·38·39	9	83
	10a	86·107
50	10b	107
	10c	110
57·65	11	140
66	12	141
67	13a	
	13b	142
68	14	143
69	15	144

149図 1・4トレンチ、ポイント4土層対応表



0 10 5cm

0 8, 9 5cm

0 1~7 10cm

150図 ポイント4 III-1層出土遺物

が施文されている。

第3層

VIL・M-119・120に厚さ0~17cmで分布する。堆積土は暗褐色土を主体とし、第1トレンチの8・9・11層に相当し、第4トレンチでは消滅する。ほぼ水平に堆積する。遺物は、土器は円筒上層d・e式、榎林式土器が少量に出土した。151-13・16は隆帯の貼り付け、151-17・18は横位沈線が、151-19は太い渦巻き状沈線が施文されている。石器は擦切具(151-20)が1点出土した。

第4層 第4a層と第4b層の2つに分層した。

第4a層

VIM-119・120に厚さ0~14cmで分布する。堆積土は暗褐色土を主体とし、1トレンチでは消滅し、4トレンチの第16層に相当する。わずかに南側へ傾斜して堆積する。遺物は、土器は円筒上層d式土器片がごく少量出土した。

第4b層

VIM-119・120に厚さ0~5cmで分布する。堆積土は黒褐色土を主体とし、1トレンチの第26層に相当し、4トレンチでは消滅する。ほぼ水平に堆積する。遺物は、土器は円筒上層d・e式式土器の小片がごく少量出土した。石器では茎部にアスファルト?が付着する有茎鏃(151-25)が1点出土した。

第5層 第5a層と第5b層の2つに分層した。

第5a層

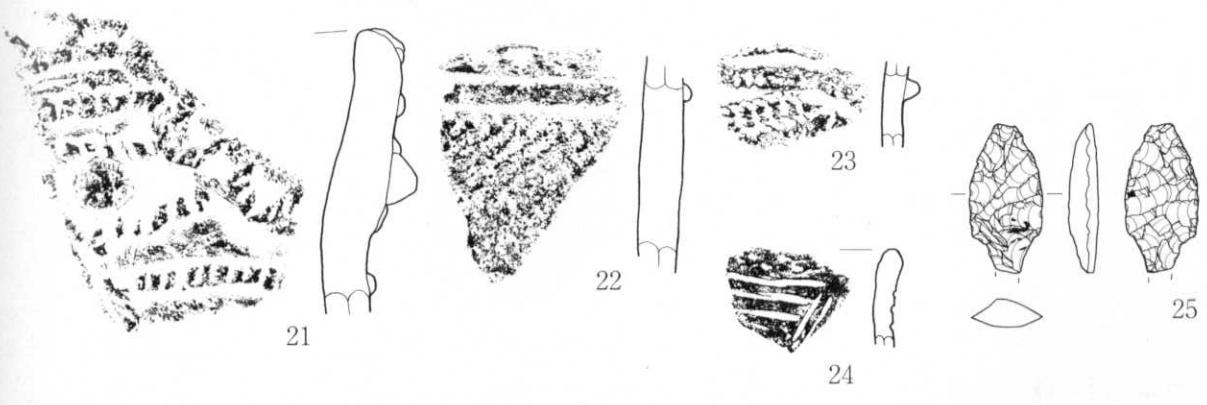
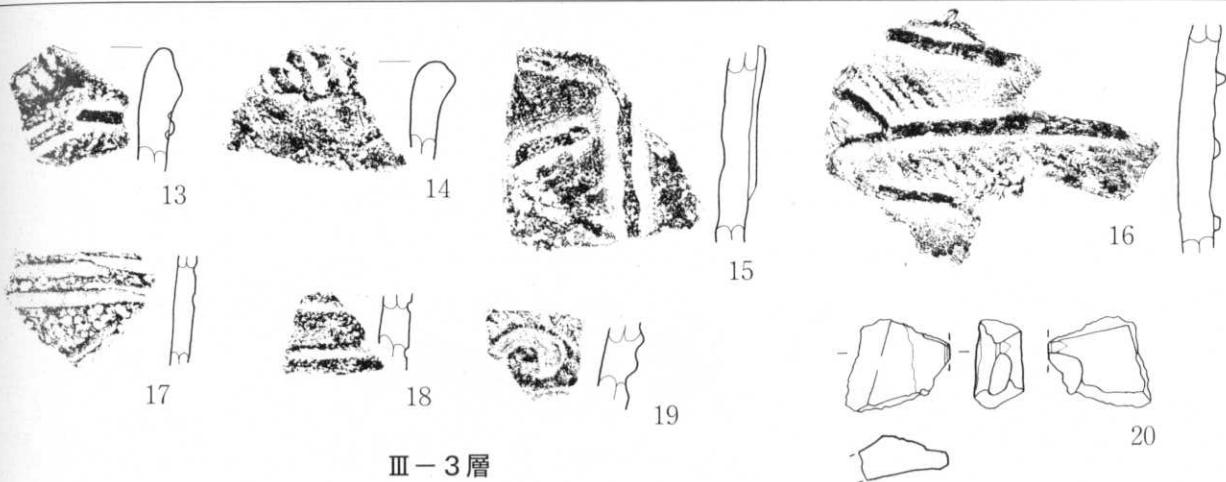
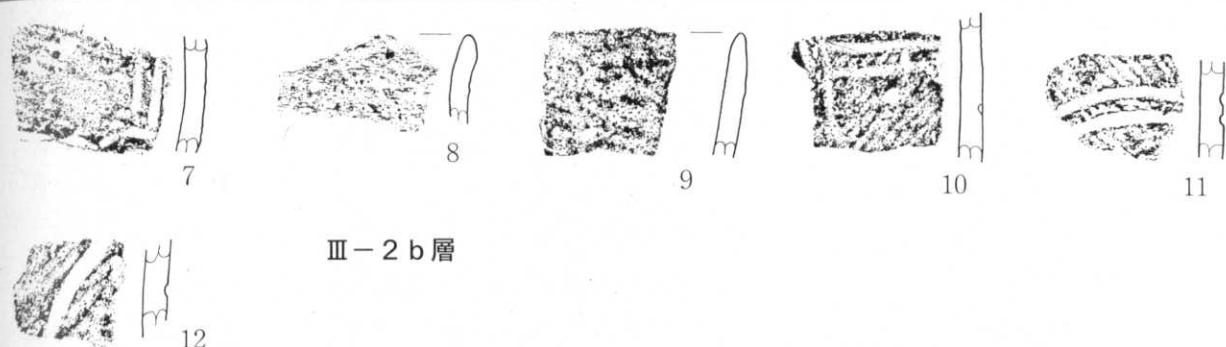
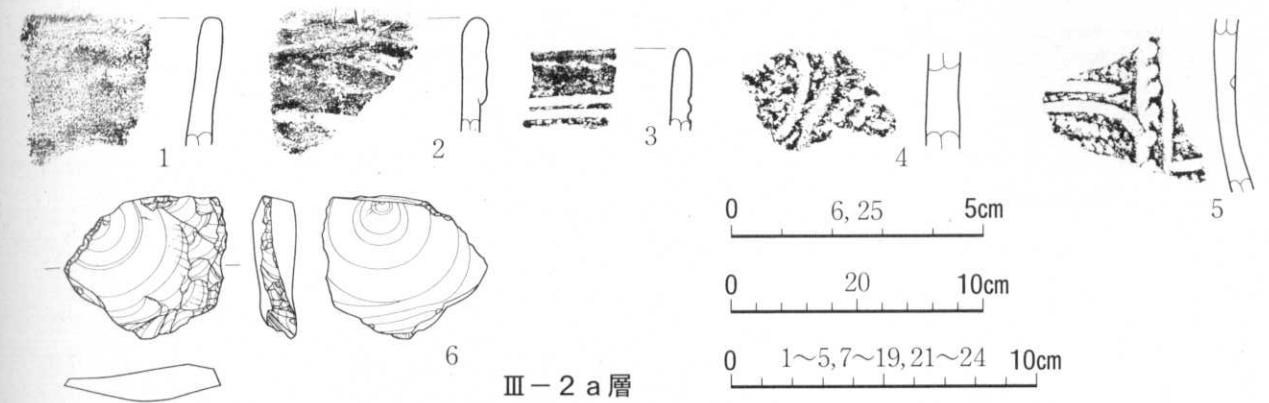
VIM-119・120に厚さ0~3cmで分布する。堆積土は黒褐色土を主体とし、1トレンチの第28層に相当し、4トレンチでは消滅する。南側へ低く傾斜して堆積する。遺物は、土器は円筒上層d式土器や榎林式土器片がごく少量出土した。152-3は凹状沈線が施文された口唇部である。石器は、剥片石や石器では被熱している有茎鏃(152-4)、削器ないし搔器(152-5)、礫石器では敲打による凹と磨痕をもつ礫(152-6)が出土した。

第5b層

VIM-119・120に厚さ0~18cmで分布する。堆積土は暗褐色土を主体とし、1トレンチでは消滅し、4トレンチでは第17・18層に相当する。ほぼ水平に堆積する。遺物は、榎林式土器片を主体に少量出土した。152-9は波頂部に渦巻き状沈線、それ以外の口唇部には回転縄文が施文されたものである。

第6層

VIM-119・120に厚さ0~6cmで分布する。堆積土は褐色土を主体とし、1トレンチ・4トレンチともには現れてこない狭い範囲に広がる。ほぼ水平に堆積する。遺物は出土しなかった。



151図 ポイント4 III-2 a・2 b・3・4 b層出土遺物



152図 ポイント4 III-5 a・5 b層出土遺物

第7層

VIM-119に厚さ5~29cmで分布する。堆積土は黒褐色土を主体とする。1トレンチでは第30・31・40・50層に相当し、比較的幅の広い層としてとらえた。ほぼ水平に堆積する。4トレンチでは第25層に相当する。遺物は、土器は円筒上層d式土器を主体に、上層c・e式土器もわずかに混じる。石器は有茎鏃(153-6)、石鏃(153-7)、削器ないし搔器(153-8)、使用痕のある剥片(153-9・10)が出土した。

第8層

VIM-119・120に、厚さ0~6cmで分布する。堆積土は褐色土を主体とし、4トレンチでは第27層に相当し、1トレンチでは消滅する。ほぼ水平に堆積する。出土遺物は、基部にアスファルト?が付着する凹基鏃(153-11)が1点出土したのみである。

第9層

VIM-119・120に厚さ5~30cmで分布する。堆積土は黒褐色土を主体とする。1トレンチでは第83層に相当し、4トレンチでは第30・34・36~38層に相当する。ほぼ水平に堆積する。4トレンチ側では細分が可能であったが、層の対応を重視し幅の広い層としてとらえた。遺物は、土器は上半部が復元されたものや破片が少量出土した。154-1は地文のみの円筒上層dまたはe式土器で、破片は上層d式が主体である。また、取り上げ時のミスにより、第10層と混同している石器がある。使用痕のある剥片(154-5・6)、削器ないし搔器(154-7)が第9~10層から出土した。

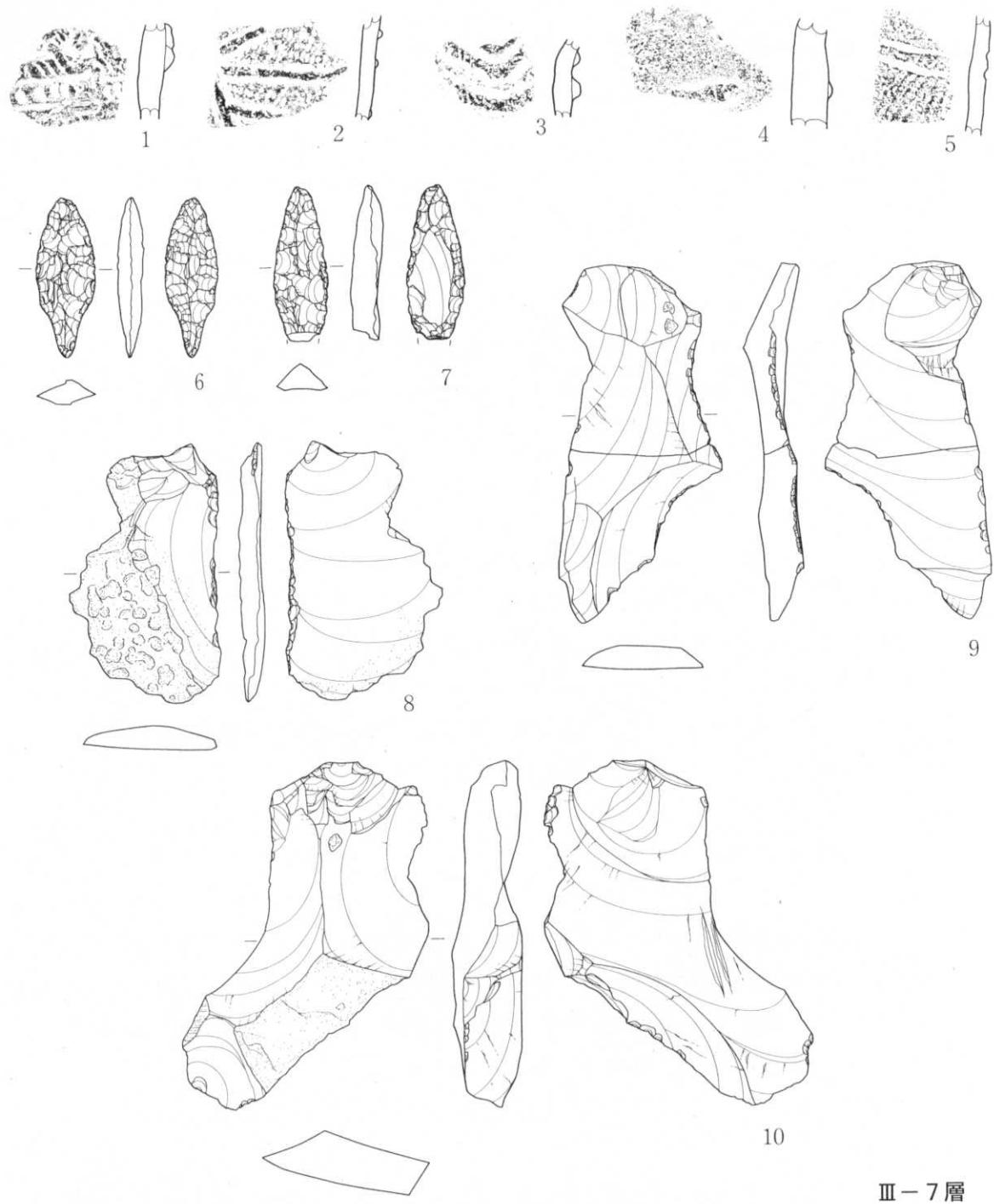
第10層 第10a~第10c層の3つに分層した。

第10a層

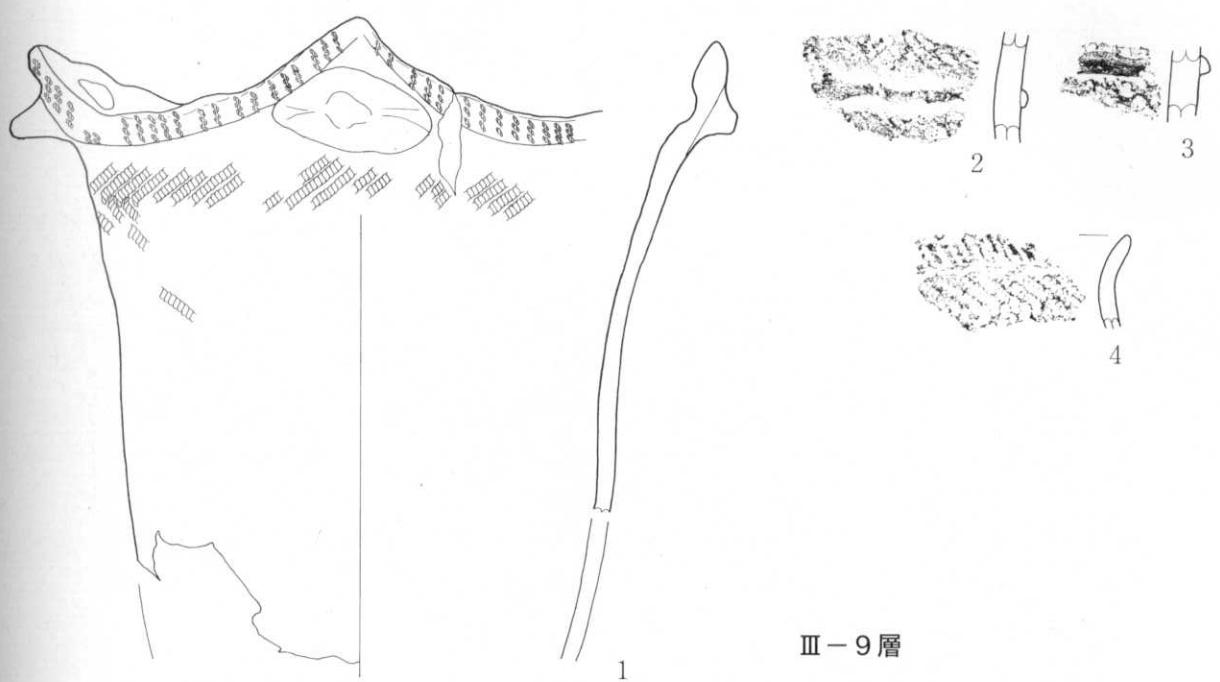
VIM-119・120に厚さ0~11cmで分布する。堆積土は黒褐色土を主体とし、1トレンチ第86層が相当し、4トレンチでは消滅する。南側へ低く傾斜して堆積する。遺物土器が多量に出土した。復元されたものではなく、全て破片資料である。いずれも円筒上層d式に相当するものである。地文施文後に隆帯を貼り付け、上面は無文のものが多い。155-5は鉢形である。

第10b層

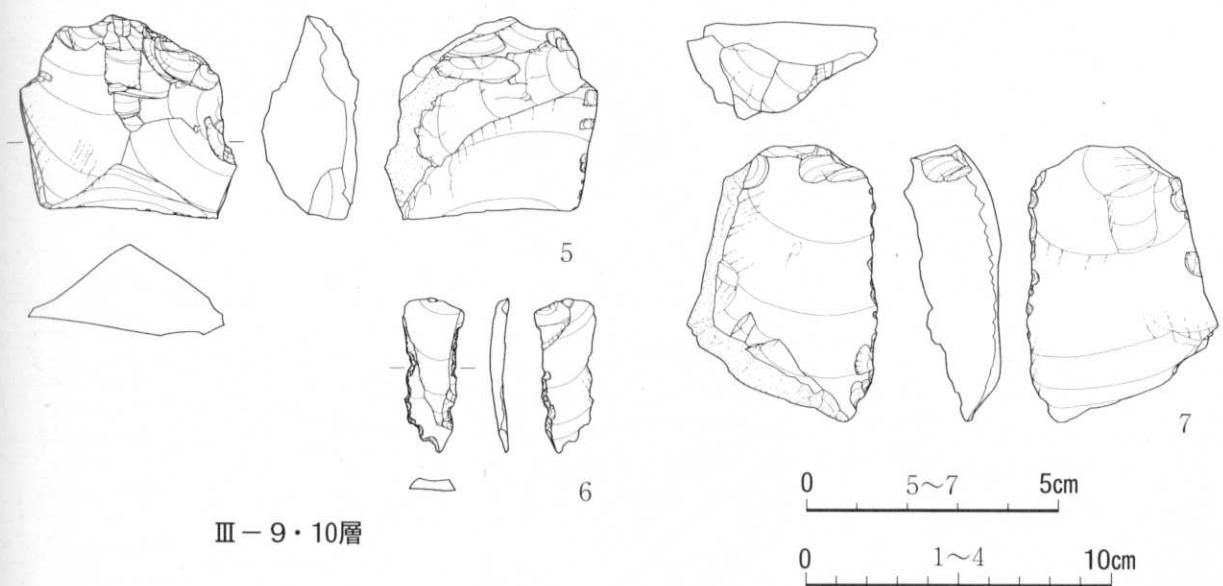
VIM-119・120に厚さ11~26cmで分布する。他の層に比べると厚い層として認識される。堆積土は褐色土を主体とし、1トレンチ第107層が相当し、4トレンチでは第50層に相当する。南側へ低く傾斜して堆積する。遺物は土器は上半部が復元されたもののほか、破片がごく少量出土した。157-1は地文に隆帯が貼付けられた円筒上層d式土器で、破片も上層d式が主体である。石器は両極石器(158-1)、削器ないし搔器(158-2)、縦形石匙(158-3)、削器ないし搔器(158-4)、使用痕のある剥片(158-5・6)、全面が磨られ、一部黒化している軽石(158-7)が出土した。そのほかに土偶の腕・胸部(158-8)が出土した。表裏面とも3条単位の縄文押圧で施文され、菱形状・X字状の構成である。腕部と胸突起上面には渦巻状の縄文押圧がある。



153図 ポイント4 III-7・8層出土遺物

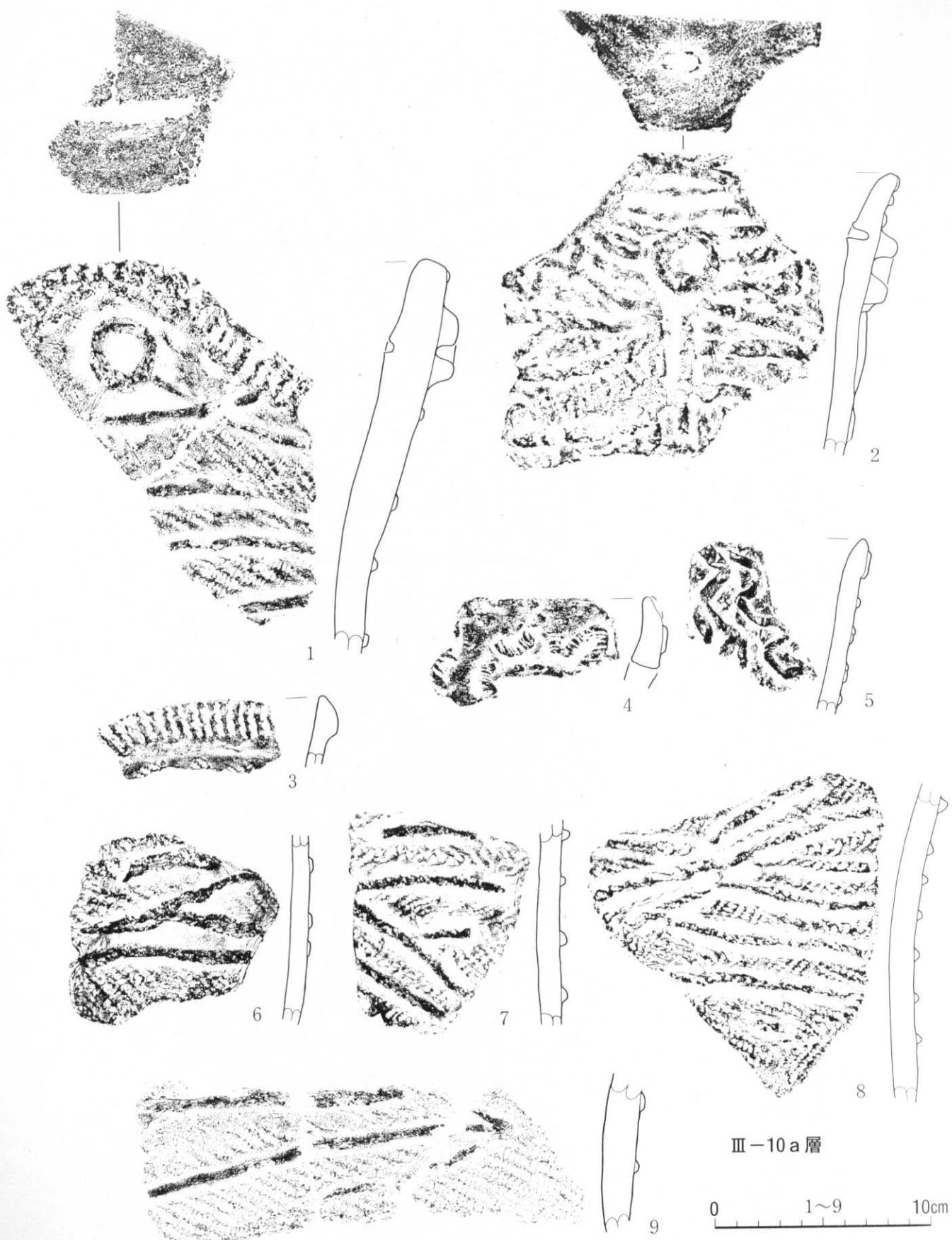


III-9層

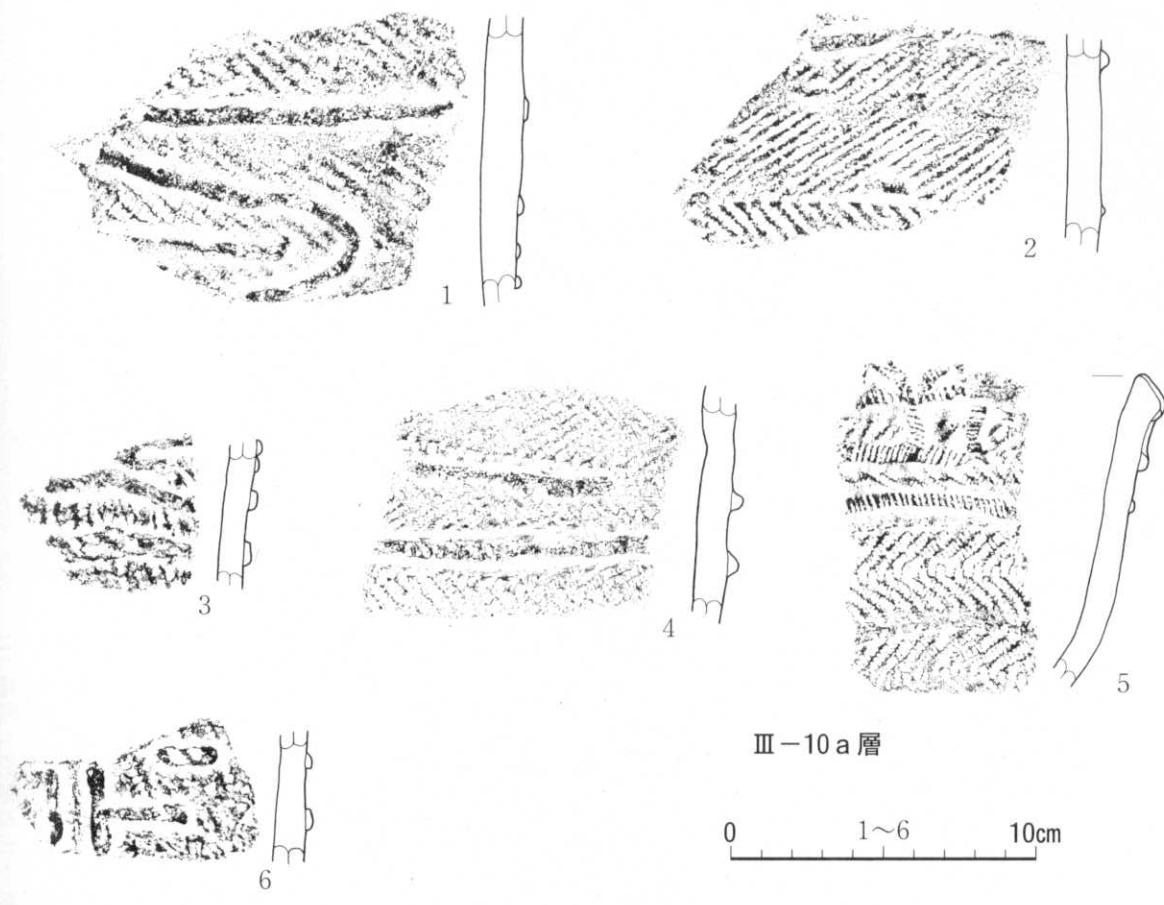


III-9・10層

154図 ポイント4 III-9、9・10層出土遺物



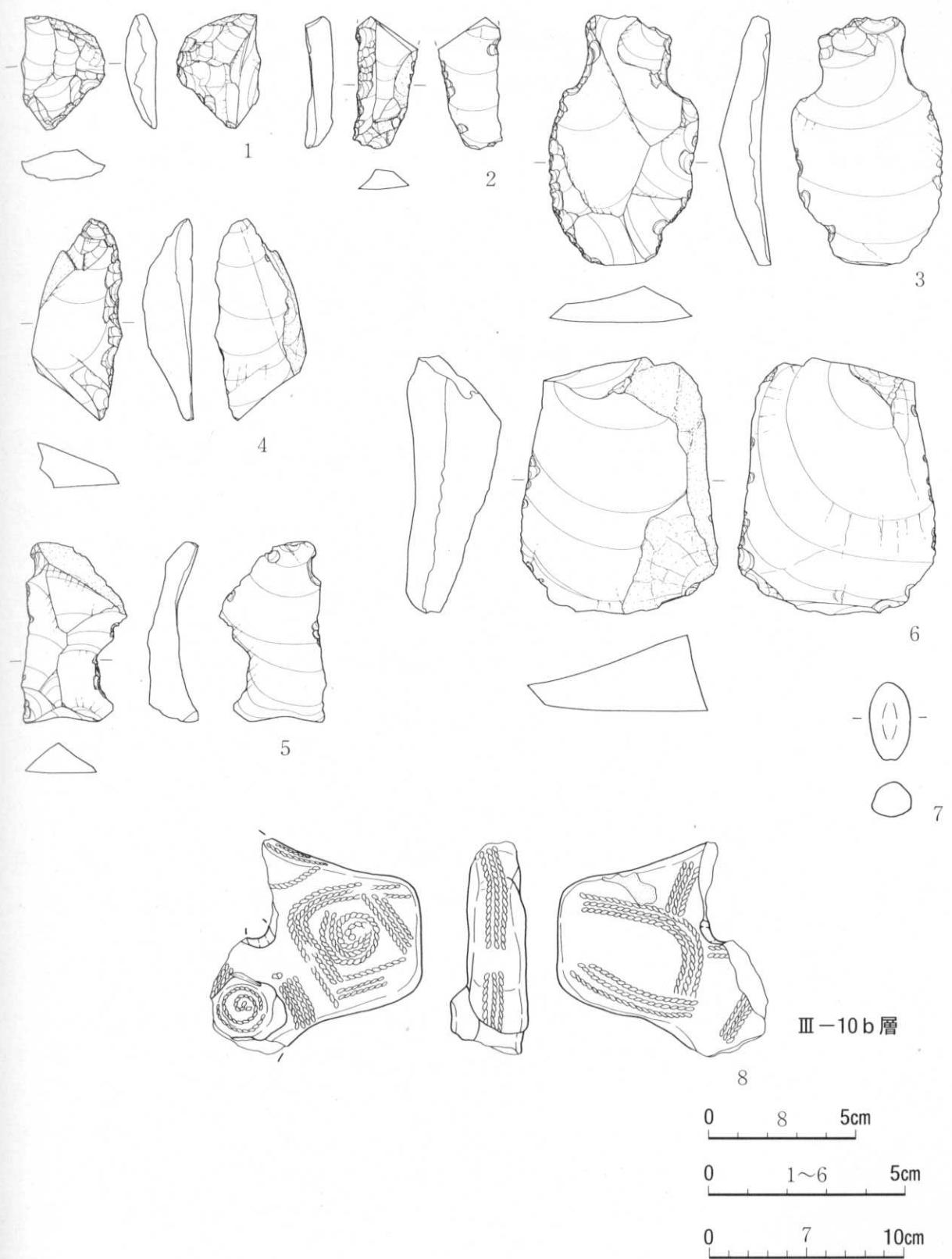
155図 ポイント4 III-10a層出土遺物 (1)



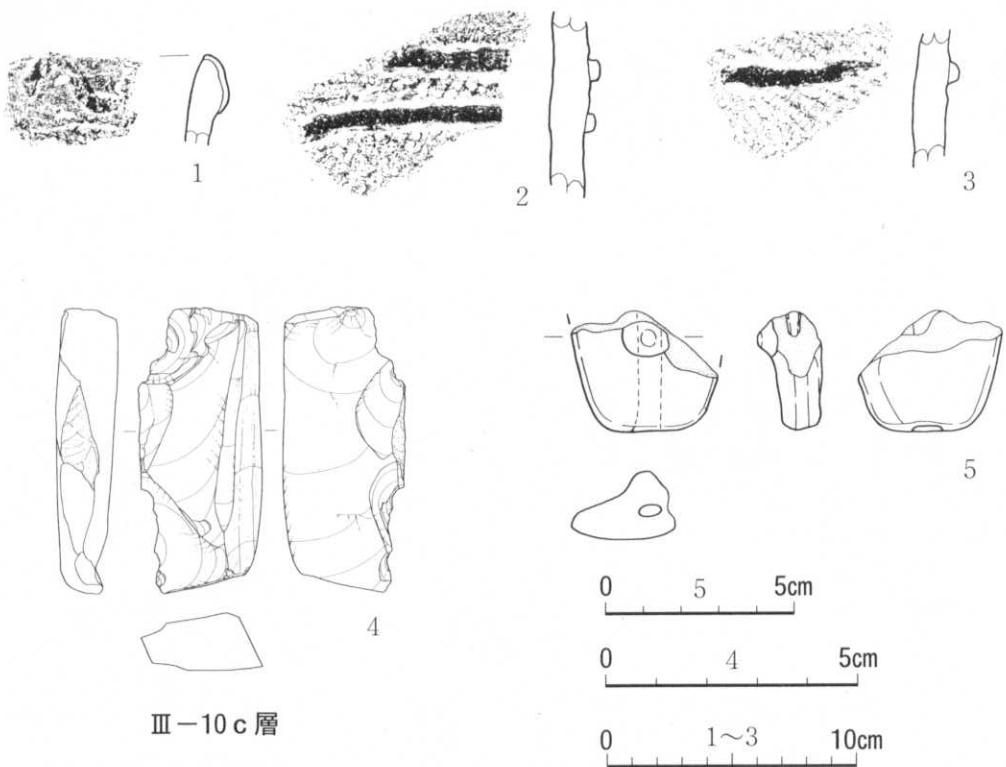
156図 ポイント4 III-10a層出土遺物(2)



157図 ポイント4 III-10b層出土遺物(1)



158図 ポイント4 III-10b層出土遺物 (2)



159図 ポイント4 III-10c層出土遺物

第10 c 層

VIM-119・120に厚さ0～19cmで分布する。堆積土は暗褐色土を主体とし、1トレンチ第110層が相当し、4トレンチでは消滅する。なお、1トレンチ・4トレンチ双方に現れてこない、範囲の狭い薄層が第10 b 層との間に狭在するが、一括して扱った。南側へ低く傾斜して堆積する。遺物は少量の円筒上層d式土器片のほか、二次加工剥片(159-4)が1点出土した。159-5は無文の土偶の脚部である。縦に貫通孔がある。

第11層

VIM-119・120に厚さ6～15cmで分布する。堆積土は暗褐色土を主体とし、1トレンチでは第140層に相当し、4トレンチでは第57・65層に相当する。南側に低く傾斜して堆積する。遺物は、土器は円筒上層d式土器片が主体である。石器では有茎鏃(160-5)、剥片(160-6)、横形石匙(160-7)が出土した。

第12層

VIM-119・120に厚さ4～11cmで分布する。堆積土は黄褐色のローム土を主体とし、1トレンチでは第141層に相当し、4トレンチでは第66層に相当する。南側に低く傾斜して堆積する。遺物は、土器は円筒上層b式土器片がごく少量出土した。また土製品が1点出土した。鐸形土製品の鈎部に似ており、穿孔が見られる。

第13層 第13 a 層と第13 b 層の2つに分層した。

第13 a 層

VIM-119・120に厚さ0～4cmで薄く分布する。堆積土は暗褐色土を主体とし、4トレンチの第67層に相当し、1トレンチでは消滅する。南側へやや傾斜して堆積する。遺物は円筒上層b式土器片がごく少量出土したにすぎない。

第13 b 層

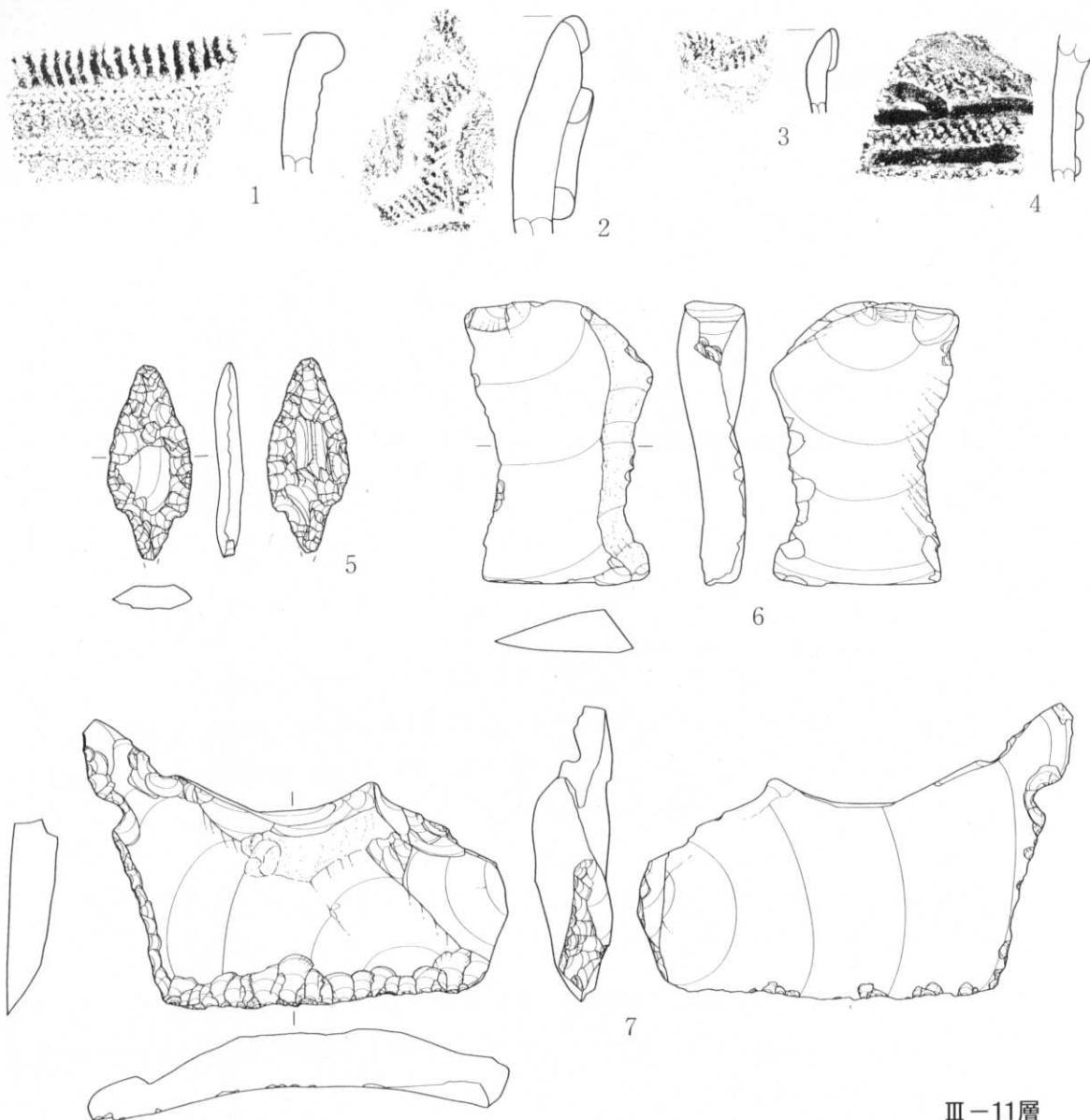
VIM-119・120に厚さ0～8cmで分布する。堆積土は暗赤褐色の焼土を主体とし、1トレンチでは第142層に相当し、4トレンチでは消滅する。南側へ低く傾斜して堆積する。遺物は出土しなかった。

第14層

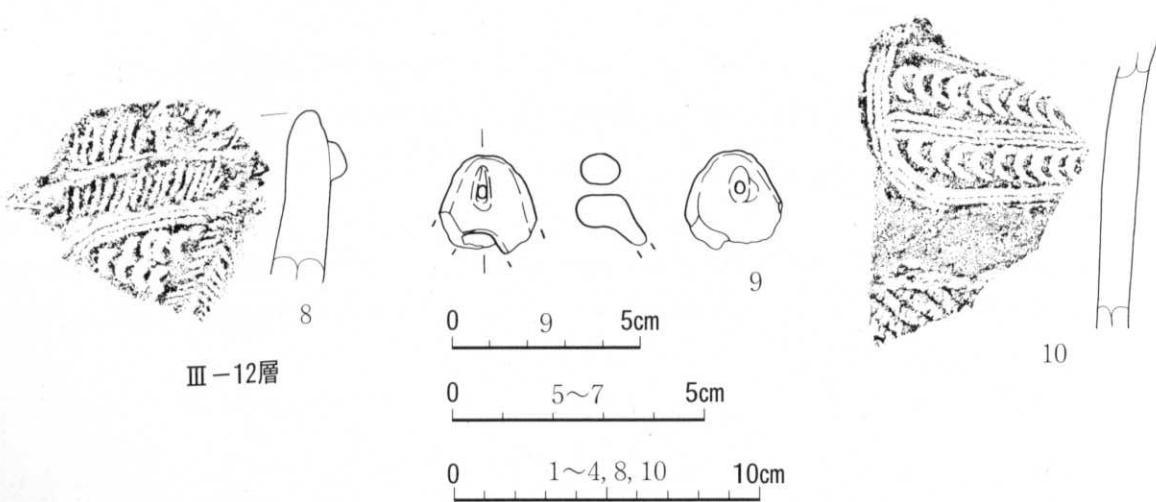
VIM-119・120に厚さ0～9cmで分布する。堆積土は黄褐色のローム土を主体とし、1トレンチでは第143層に相当し、4トレンチでは第68層に相当する。南側にやや傾斜して堆積する。遺物は出土しなかった。

第15層

VIM-119・120に厚さ2～5cmで分布する。堆積土は黒色の炭化物を主体とし、1トレンチでは第144層に相当し、4トレンチでは第89層に相当する。ほぼ水平に堆積する。遺物は多量に出土した。1



III-11層

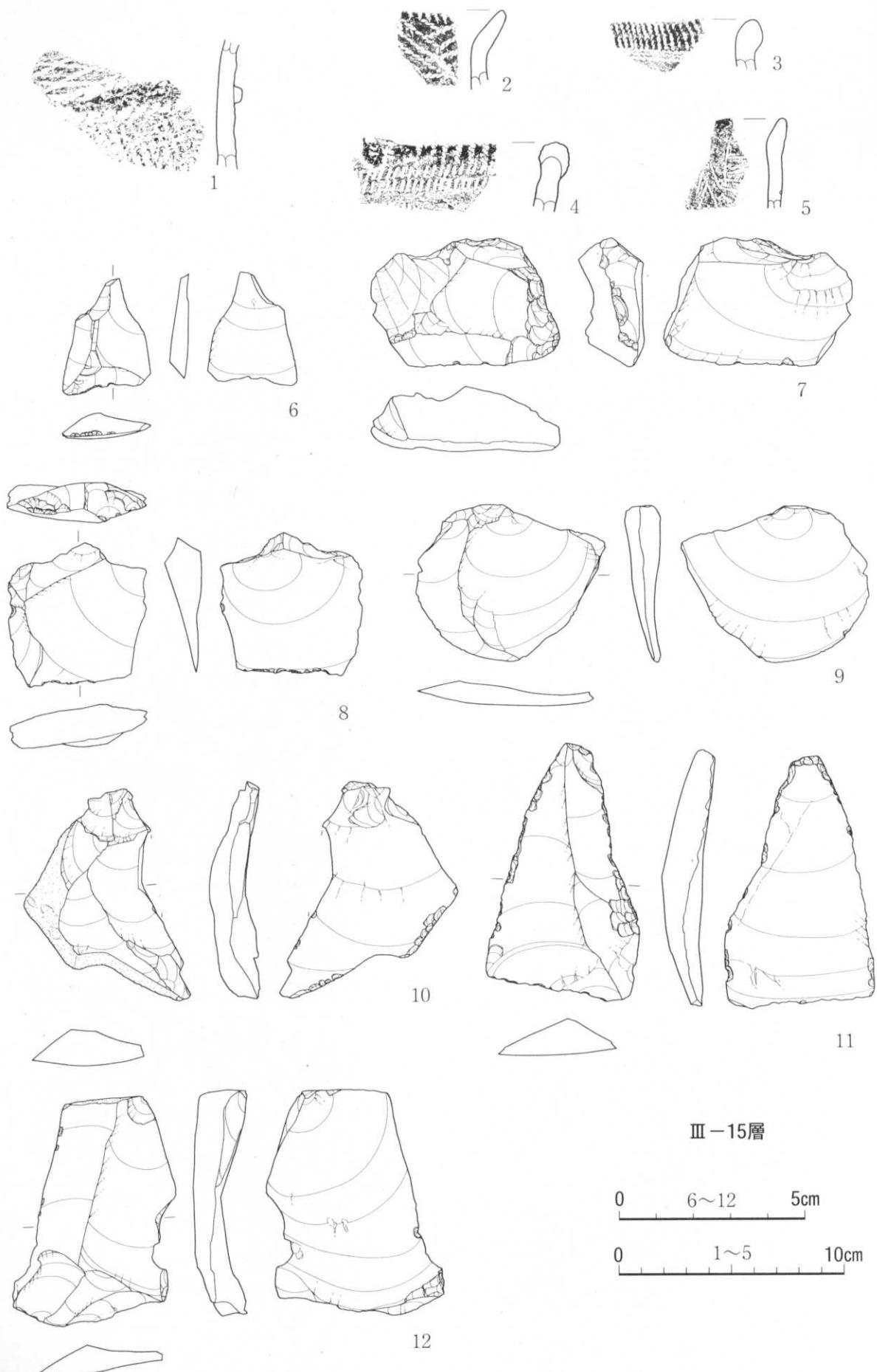


160図 ポイント4 III-11・12層出土遺物

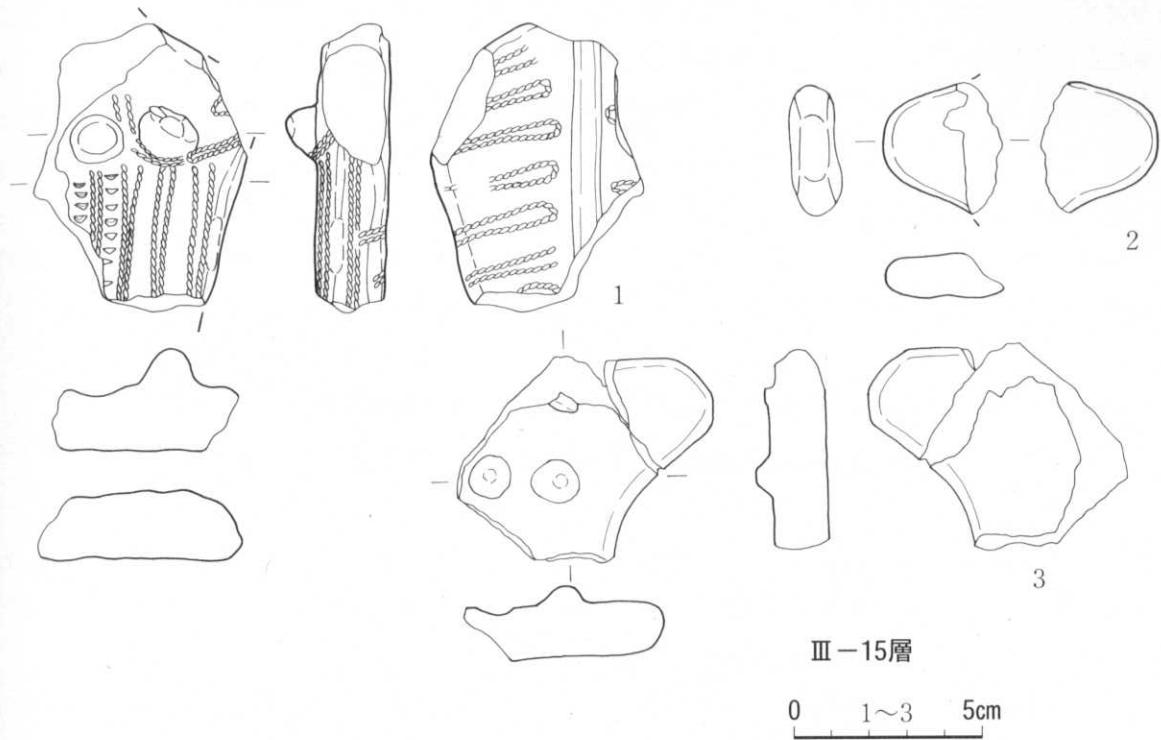


III-15層

161図 ポイント4 III-15層出土遺物



162図 ポイント4 III-15層出土遺物 (1)



163図 ポイント4 III-15層出土遺物(2)

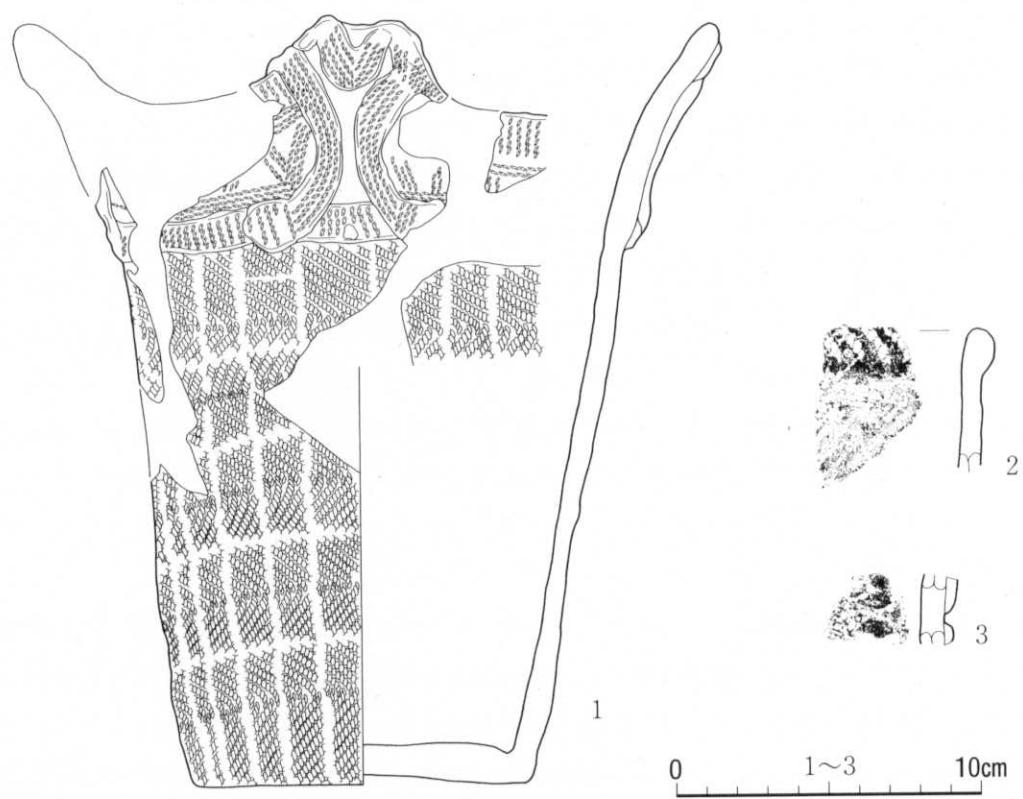
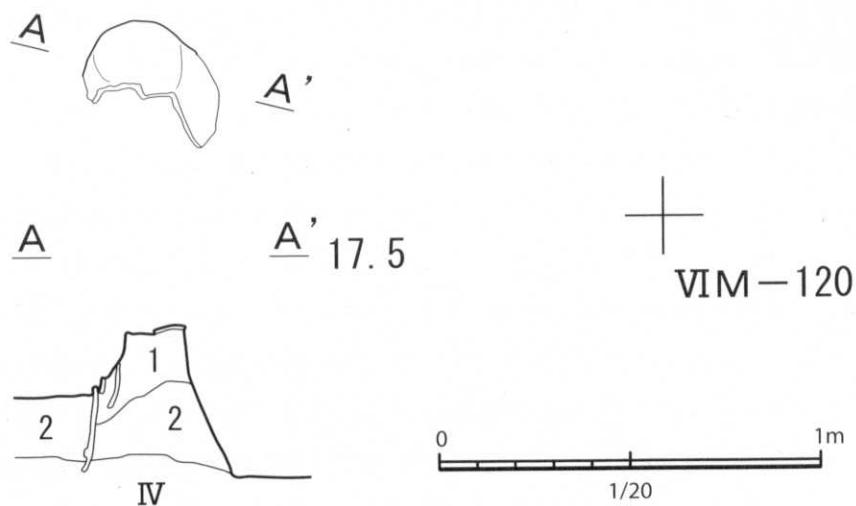
トレンチの第145層直上、4トレンチの89・89'層に対応するものと考えられる。土器は復元可能なものを含む。162-1は波頂部下の縦位隆帶間と口縁部に一巡する爪形刺突が、縄文押圧とともに施文されたものである。ほかの復元個体は地文のみのものが多い。162-5は条線状の細い沈線で矢羽状や縦横のモチーフが描かれている。石器も多量に出土した。使用痕のある剥片(162-6・8)、剥片(162-7・9・12)、使用痕のある剥片(162-10・11)がある。ほかに、土偶が4点出土した。163-1は左胸から脇部で、縄文押圧と細かい刺突が施文されている。163-2は無文の腕部である。163-3は腕部と胸部が接合したものである。

なお、本層を除去後に埋設土器を1基確認した。これについて記載する。

第794号埋設土器

VIM-119に位置する。南盛土ポイント4第15層精査後、底部を確認した。当初は、盛土の廃棄された底部と認識していたが、掘り下げていったところ、倒立している土器であることを確認した。埋設方法は倒立状態で、掘り方は周囲の大半が第IV層の黒色土であったこともあり、確認できなかった。堆積土は2層に分層した。第1層は黒褐色土(10YR2/1)を主体とする。第2層は黒褐色土(10YR2/1)を主体とする。第IV層との区別はやや曖昧である。土器内部からの出土遺物はない。出土した土器は円筒上層a式土器で、本遺構の時期は出土層位、出土土器から判断して円筒上層a式期である。

(小笠原・木村・水谷)



164図 第794号埋設土器

4. 小結

(1) 円筒上層式土器の変遷

今回報告した資料は、南盛土の出土層位を詳細な検討を加えながら取り上げた資料である。層の範囲や厚さの認定にあたっては、平面や先行トレンチによる平面・断面双方の確認を行なった。上層から掘り下げ、出土遺物は必要に応じてドットマップを作成した。トレンチ調査で範囲が狭かったこともあり、遺物の分布や出土状況には有意な特徴は見出せなかった。

出土土器は、円筒上層a式から最花式まで7型式である。これらを、1トレンチでは約150層に分層し、4トレンチも含めると細かな分層も含めると240層にもなる。円筒上層式土器及びその後の大木式系土器については、これまで層位的な関係を示す出土例が少なく、本資料はその変遷を考える上では貴重な資料になりうるものである。しかし第8.1節で触れたとおり、トレンチの幅は約50cmと狭く、破片資料が多く器形や文様の全体像を知る資料はごく限られる。また、盛土は恒常的な廃棄行為による堆積が繰り返されたものと想定され、土器片の流入・搅乱などが十分想定される。また、全ての層から土器が出土しているわけではなく、出土量も異なるため、属性分析が量的に堪えない部分もある。

いくつかの制約はあるものの、本項では各層の出土土器から円筒上層式土器と後続する大木式系土器の変遷を、従来の見解と照合していくことにする。

円筒上層式期や後続する大木式系土器の変遷については、これまで多数論じられているのは周知のとおりである。型式の設定当初から、分類の指標となる文様は明確だったし、若干の異なりはあるにせよ各研究者により示された分類には共通点が多く、今日まで踏襲されてきている。型式学的な検討に加え、調査事例の増加に伴い、竪穴住居跡など一括性の高い出土状況の中でのまとまりなどを見てても首肯しうるものだったのである。

なお、円筒式土器や大木式系土器などの土器文化としての様式の遷移について多くの論考があるが、ここでは単に時間的な変遷についてのみ触れる。

1) 基本事項の確認

まず、中期の土器群を検討するに当たり、最も基本的な再確認の作業を行う。従来の編年案がおおむね妥当なものであることを担保するためである。調査範囲が狭く、器面全体の文様構成が不明なものが多いが、メルクマールとされる文様指標も含めて再検討していく。

1・4トレンチでは各層が薄く、分布範囲も狭いものが多い。層位的な上下関係を持たなければ新旧関係を明らかにすることは困難である。そのため、1・4トレンチとも遺物が比較的多く出土している複数の層を縦断するラインを、2本ずつ任意に設定した。1トレンチでは東から約0.45mと4.9m付近、4トレンチでは東から約0.5mと5m付近に垂直方向のラインを仮設し、上下(新旧)関係を明確にした上で、それを横断する層からの出土土器を検討対象とした。

様々な属性の中で主に着目したのは、従来から分類指標とされた文様などである。それらについて検討を行った。

各属性の消長を示したのが1表である。

①口縁部の断面形状と②胴部文様帶の地文の有無、③口縁部の文様に大きく分けている。

①については、「肥厚した断面」は円筒上層式期にみられ、「凹状の断面」は口唇部に巡る太い沈線で大木式系土器の影響・定着によりみられ、「肥厚なし」は最花式土器にみられるもので、時間的な差異が考えられるものである。

②は無文面に直に「文様」が施文されるものと、「地文」施文後に文様が付加されるものである。

③の口縁部文様帶は、上述のとおり従来の型式分類の中で重視されてきたものである。「横位押圧」・「波状押圧」は上層 a 式の、「馬蹄形押圧」は同 b 式の、「刺突」は同 c 式の、「地文後貼付」は同 d 式の指標とされている。「沈線」は同 e 式～最花式までを含むことになるが、破片ではモチーフが判明しないものも多い。

この表を見る限り、円筒上層 d 式段階までは③の指標となる文様は、程度の差はあるが、前後型式と若干重複しながら出現・消滅していることがわかる。施文文様の変遷は、従来の編年の妥当性が支持されるとともに、型式変遷の狭間では前後型式が共存したことが、(使用や) 廃棄時に表れているものと考えられる。

2) 中期土器群の変遷

(1)でみた変遷過程から、これまで考えられてきた文様変遷と同じ結果となることを示した。ここでは直接的な上下関係を持たない層も含めて、1・4 トレンチ・ポイント 4 全体を通して、中期土器群の変遷をみていきたい。

1 トレンチ第145層直上、4 トレンチ第89・89' 層出土土器

縄文原体による直線状・波状押圧が施文されたもので、一部に馬蹄形押圧もある。口唇部突起は弁状と二又がある。突起下の縦位の隆帶は1条と2条のものがある。1条の隆帶の両側に斜めにも隆帶が加わり、3条で↓状になっているものもある。2条のものでも、「8」・「U」・「X」・「Y」字状になるものがある。文様帶には直線状の縄文押圧が上下に付くものと、さらにその中間にも縄文押圧が見られ上下に区画されるものがある。それぞれの間に鋸歯状押圧や馬蹄形押圧や、稀に細いヘラ状の工具による刺突が巡るものがある。従来の編年では、円筒上層 a 2 式に相当する。

4 トレンチ第60・82・83層出土土器

縄文原体による馬蹄形押圧が施文されたものである。口唇部突起は弁状のものもあるが、二又の突起が主体である。突起下の隆帶は単純な垂下する隆帶ではなく、垂下する隆帶の両側に「3」状の対照的な隆帶が付属したり、「X」字状の隆帶やさらに円形や弧状の隆帶が加わるものが多い。「X」字状(変形したものも含め)の隆帶では橋状となるものも現れる。文様帶には、上下に区画する横位の直線的な縄文押圧や隆帶、「X」字状の隆帶がある。その間に縄文による馬蹄形押圧が埋められるよう施文される。馬蹄形押圧は0段多条原体を用いている。従来の編年では、円筒上層 b 式に相当する。

円筒上層 a 式から b 式への変化は従来言われてきたような文様指標の変化とともに、貼付隆帶の本数や位置、使用される縄文原体の違いなども抽出できる。

1 トレンチ第106・109・110・112層、4 トレンチ55・57層出土土器

刺突文が施文されるが、前後段階の指標とした文様をもつものも一部含まれる。しかし、前項で見たとおり、前後段階の指標とも漸移的である以上、型式学的に刺突文が施文されたものが施文された

ものを扱う。ただし、集成図には同一層から出土したものを併せて示す。破片資料が多く、全体を知るものはほとんどない。隆帶のモチーフは前段階と同様のものが見られ、刺突がその間を埋める。つまり、前段階の馬蹄形押圧が刺突に置換されたものと考えることができる。刺突には竹管状、円形、ヘラ状などがある。従来の編年では、円筒上層 c 式に相当する。

4 レンチ第30・35層、ポイント4 第10a・10b 層出土土器

胴部まで粘土紐の貼付による文様が施文されたものである。口唇部の弁状の突起は角が丸味を帯びたものや、二又というよりも弁状の突起の中央に切れ込みを入れたようなものもある。三角形状の突起も増える。突起下の縦位の隆帶がないものは前段階から見られるが、この段階で顕著となる。地文は結束第一種が多いが、単節縄文も増加する。地文施文後に貼り付けられる隆帶は、細いものが多く、上面が素文のものと、縄文が回転・押圧されるものがある。モチーフはいわゆる胸骨文が主体である。その弧を三角形状や垂直に連結するものも見られる。縦位の区画がないものもあるものと同様のモチーフであるが、あたかも45°回転したようなモチーフとなるものもある。また、口唇部への刻みや縄文原体押圧、突起貼付のみで、文様帶をもたないものも一定量存在する。従来の編年では、円筒上層 d 式に相当する。

1 レンチ第39・57・62・67層、4 レンチ第25層出土土器

沈線によって胸骨文およびそれに類するモチーフが施文されたものである。突起は三角形状の山形突起が主体である。文様モチーフを知るものは少ないが、横位に直線的に重層するもの、突起下に対照の「コ」の字状となるもの、縦位の区画がなく山形状となるものなどがある。また、地文のみのものが前段階同様に一定量あり、(正確ではないが)半数近くに上るものと思われる。地文は結束第一種もわずかに見られるが、単節縄文が主体となる。従来の編年では、円筒上層 e 式に相当する。

1 レンチ第12・13・17・31・37層、4 レンチ第5・13・17層、ポイント4 第5b 層出土土器

口唇部に凹状沈線が施文されたものである。より下層に当たる4 レンチ第17層出土土器の口唇部は突起部の渦巻きが不明確で、沈線が浅いなど、1 レンチ出土土器に比べ、前段階の要素として考えられるものである。文様帶のモチーフが不明確なため明言できないが、4 レンチ第5層出土土器は横位の沈線と弧状の沈線の組み合わせである。より上層の1 レンチ第12層では、4 方向の弧状の沈線の中央に円形や渦巻状の沈線が配されているものと、弧状の沈線がより直線的に水平・垂下した中央に渦巻状の沈線が配されたものがある。これらは従来の編年では、榎林式に相当する。

1 レンチ第1・3層、4 レンチ第1層、ポイント4 第1層出土土器

口唇部が無文帶となり、胴部に垂下する沈線が施文されるものが特徴的である。全体の器形、文様モチーフがわかるものはない。口縁部が無文帶で、その下に刺突列があるもの、口唇部に凹状の沈線が巡るものがある。胴部文様は垂下する逆U字状の沈線、上下に4方向から対峙する弧状の沈線、渦巻状の沈線と垂下する沈線が組み合わされたものなどがある。しかし、破片資料がほとんどでこれ以上言及できる点はない。従来の編年では、最花式に相当する。

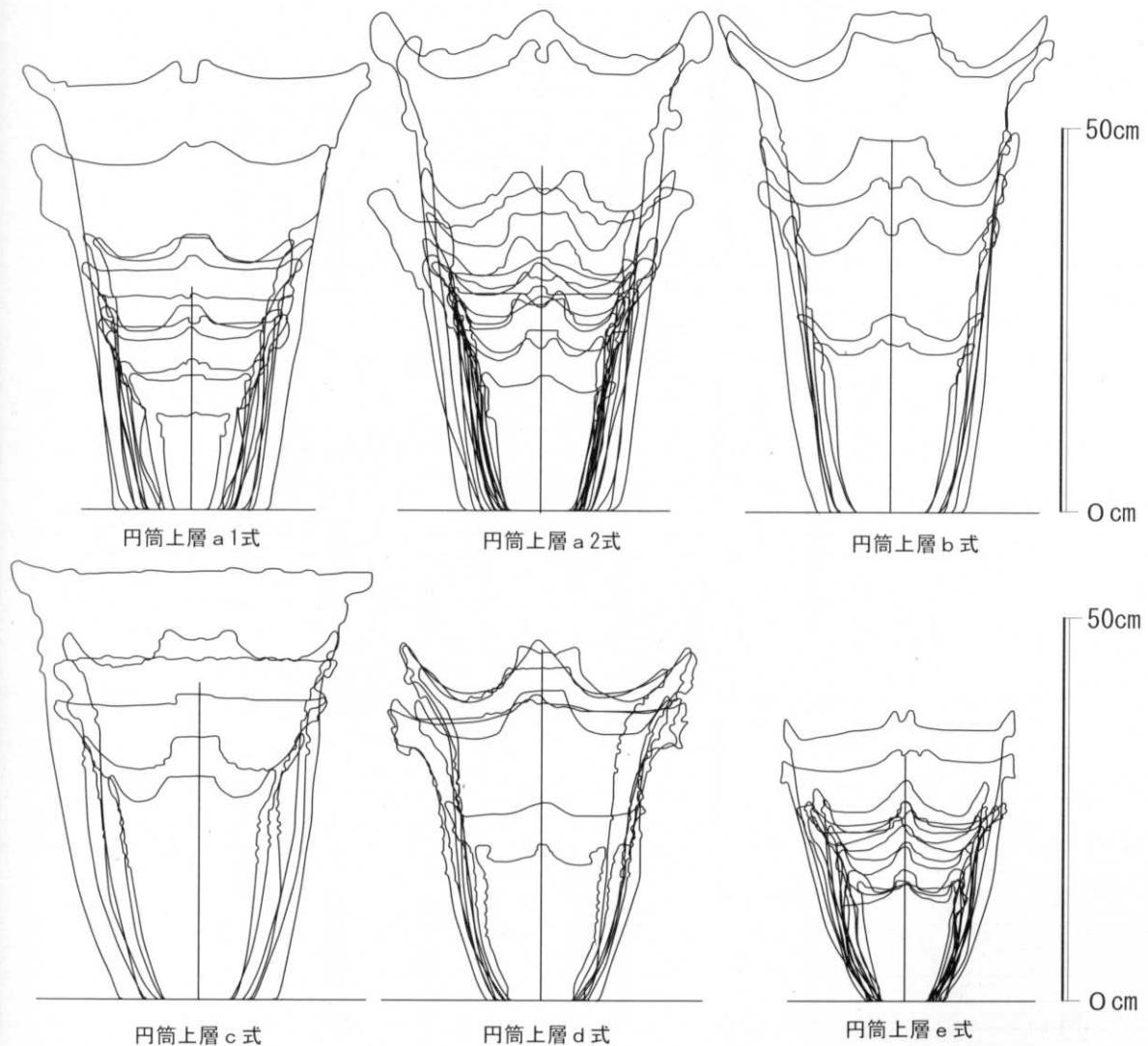
なお、参考までに三内丸山遺跡から出土した各型式の器形の変遷を165図に示した。

本報告資料では、必ずしも質・量的に十分ではない型式もあるが、円筒土器や後続する大木式系土器の変遷の概略について触れてきた。特に円筒上層 a・b 式の変遷は、特に馬蹄形押圧や地文のあり

方について従来の理解よりもやや進めることができたものと思われる。少量でもあり詳しくは触れなかったが、榎林式土器については、横位の沈線下に弧状の沈線が施文された土器よりも、弧状の沈線に囲まれた中央に円形・渦巻状の沈線が施文された土器が上層から出土しており、時間差によるものである可能性が高い。

3) 盛り土出土土器の意義

本遺構出土土器のように、同時に使われた（廃棄された）土器が複数個体あり、それらが漸移的な変化をする場合、（連続した流れの中にある）複数の属性を観察することになる。土器型式の認識は、それらを再構築したものである。これまで見てきたように、同一層中での複数の型式が出土することは、実際の使用や廃棄にあたり、それらの属性が同時存在した時期があることが想定される。土器（に関わる様々な属性）が、同一土器文化圏内である時期に一斉に新しい属性をもった土器に切り替わる可能性も否定できないが、漸移的な変化を想定するほうが、より実態に近いものと考えられる。盛土の出土土器は、そうした連続性を示しているものと言える。型式はそれらを構成する（特徴づける）属性の有無と量的変化によって設定されていることを、本盛土出土資料はあらためて示しているものである。盛土を考古学的に分析する大きな意味や価値ということができる。（小笠原）



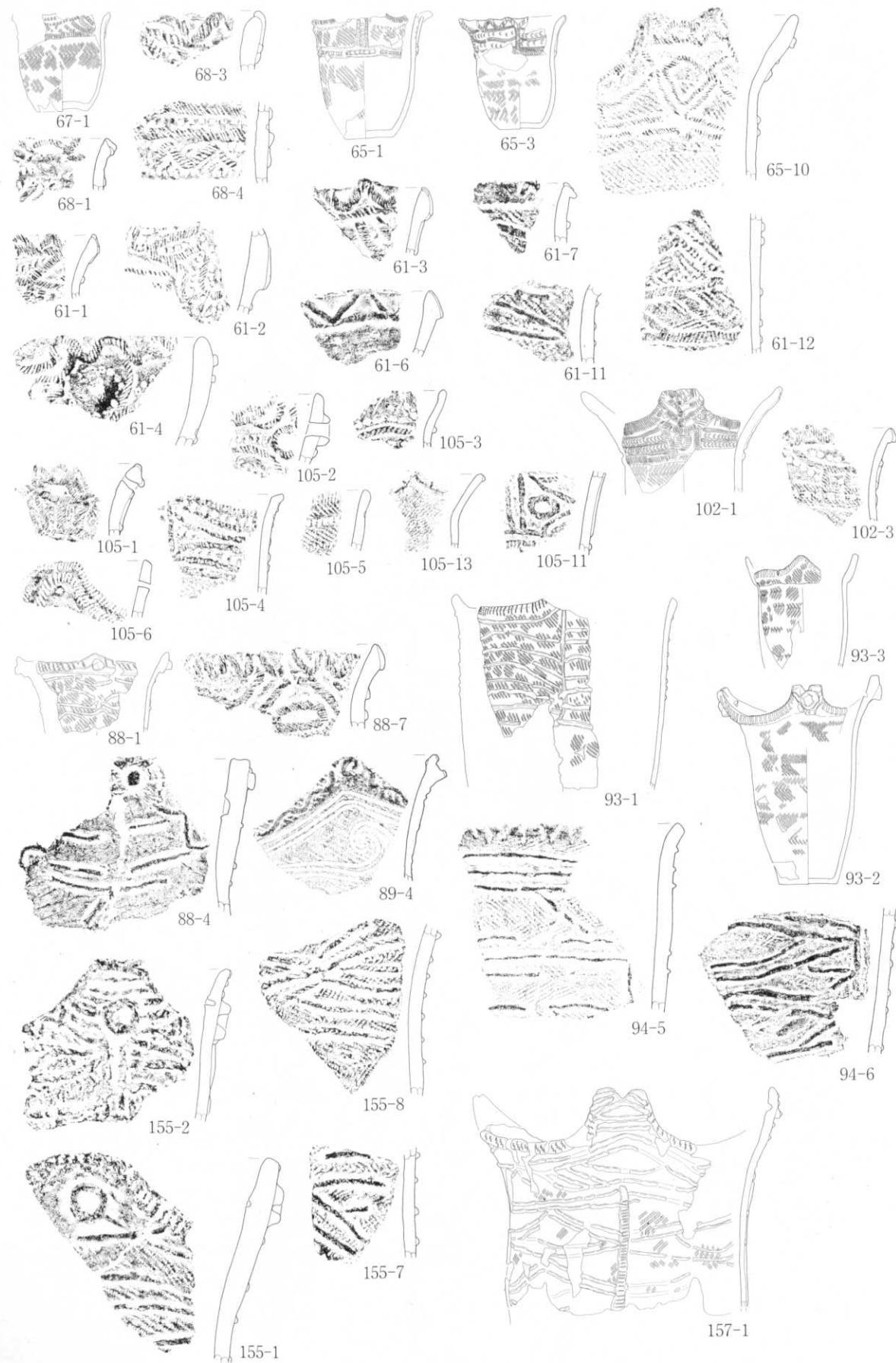
165図 円筒上層式各型式ごとの器形

	口縁部			文様帶		口縁部文様					
	肥厚なし	凹状断面	肥厚断面	地文	文様	横位押圧	波状押圧	馬蹄形押圧	刺突	地文後貼付	沈線
1ト145層											
1ト144層											
1ト143層											
1ト142層											
1ト141層											
1ト140層											
1ト139層											
1ト138層											
1ト137層											
1ト136層											
1ト135層											
1ト134層											
1ト133層											
1ト132層											
1ト131層											
1ト130層											
1ト129層											
1ト128層											
1ト127層											
1ト126層											
1ト125層											
1ト124層											
1ト123層											
1ト122層											
1ト121層											
1ト120層											
1ト119層											
1ト118層											
1ト117層											
1ト116層											
1ト115層											
1ト114層											
1ト113層											
1ト112層											
1ト111層											
1ト110層											
1ト109層											
1ト108層											
1ト107層											
1ト106層											
1ト105層											
1ト104層											
1ト103層											
1ト102層											
1ト101層											
1ト100層											
1ト99層											
1ト98層											
1ト97層											
1ト96層											
1ト95層											
1ト94層											
1ト93層											
1ト92層											
1ト91層											
1ト90層											
1ト89層											
1ト88層											
1ト87層											
1ト86層											
1ト85層											
1ト84層											
1ト83層											
1ト82層											
1ト81層											
1ト80層											
1ト79層											
1ト78層											
1ト77層											
1ト76層											
1ト75層											
1ト74層											
1ト73層											
1ト72層											
1ト71層											
1ト70層											
1ト69層											
1ト68層											
1ト67層											
1ト66層											
1ト65層											
1ト64層											
1ト63層											
1ト62層											
1ト61層											
1ト60層											
1ト59層											
1ト58層											
1ト57層											
1ト56層											
1ト55層											
1ト54層											
1ト53層											
1ト52層											
1ト51層											
1ト50層											
1ト49層											
1ト48層											
1ト47層											
1ト46層											
1ト45層											
1ト44層											
1ト43層											
1ト42層											
1ト41層											
1ト40層											
1ト39層											
1ト38層											
1ト37層											
1ト36層											
1ト35層											
1ト34層											
1ト33層											
1ト32層											
1ト31層											
1ト30層											
1ト29層											
1ト28層											
1ト27層											
1ト26層											
1ト25層											
1ト24層											
1ト23層											
1ト22層											
1ト21層											
1ト20層											
1ト19層											
1ト18層											
1ト17層											
1ト16層											
1ト15層											
1ト14層											
1ト13層											
1ト12層											
1ト11層											
1ト10層											
1ト9層											
1ト8層											
1ト7層											
1ト6層											
1ト5層											
1ト4層											
1ト3層											
1ト2層											
1ト1層											

1表 属性消長表



166図 出土土器集成図(1)



167図 出土土器集成図 (2)



168図 出土土器集成図 (3)

(2) 1・4トレンチ、ポイント4から見る南盛土の形成過程

盛土は、一定範囲を持つ人為的な廃棄の連續で形成されたものである。しかも、短期間に一気に造られたものではなく、中期初頭から後葉までの期間に徐々に高さを増したことは、出土遺物から明らかである。その範囲は第8. 2節で述べたとおりであるが、各層の特徴や出土遺物で判断される各層の堆積時期から、その形成過程を考えていく。

廃棄された土砂は、主に第VI層起源のローム土、黒色土、焼土、炭化物などである。焼土や炭化物はローム土や黒色土に混在することが多いが、遺物やその他の混入物を含まない純層で堆積することも少なくない。特に盛土形成初期段階のより下層（円筒上層b式期まで）でローム土、焼土、炭化物の純層（やその連続した堆積）が目立つ。焼土・炭化物は人為的によることは確実であるが、焼土は粒状・塊状でその場で被熱したものではなく、多くは廃棄されたものである。焼土や炭化物の形成には、調理や暖房、土器の焼成などの日常的な要因や、何らかの祭祀行為に伴う火の使用なども可能性としてはあるかもしれない。

これらの廃棄された土砂は、各層の断面で見る限りほぼ均一な厚さである。各種土砂の廃棄の際に、何らかの運搬具を用い、それをひっくり返すなどして捨てたとすれば、大小はともかく、小山のような形状になるものと思われる。しかし、層の多くは最大厚が10cm未満で、均一な層厚であることから、ある程度均すといった行為が行われた可能性が高い。傾斜した層はともかく、盛土の堆積層中央部は常に水平に近い状態であることも注目される。

169図は1・4トレンチ、ポイント4の断面図の各層を時期ごとに分けたものである。遺物は全ての層から出土しているわけではなく、出土土器が無い場合、どちらに属するか判断しにくい層もあるものの、傾向としては十分読み取ることができる。円筒上層a式期の層は4トレンチで見られるが、1トレンチでは第IV層上面で遺物が出土しているだけで、面的には広がらない。円筒上層b式期の層は、4トレンチ西側では水平に堆積するが、東側や1トレンチでは東に向かって傾斜する。円筒上層c・d式期の層も大局的には同様である。円筒上層e式期の層は、4トレンチでは水平に堆積し、1トレンチの上層d式期の層が傾斜している部分を覆うように堆積する。榎林式期の層は、1・4トレンチとも下位層の上面全体に堆積している。最花式期の層は、遺物が出土しない層があり不明な点も多いが、さらにその上に部分的であるが堆積する。

以上をまとめると、円筒上層b式期では4トレンチ西側でより厚く堆積し、4トレンチ東側以東はその端部に当たると判断される。円筒上層a式期の堆積層は薄い。上層c・d式期では、傾斜する層が東側の1トレンチで見られることから、上層b式期の層を覆い、平坦面を拡大しながら東側へと広がっていることがわかる。円筒上層e式期では、さらに上層d式期に造られた傾斜面を覆うように堆積し、榎林式期では以前の層に覆うように堆積する。このことから、1・4トレンチ部分では西側から東側へ向かって盛土が拡大していったことがわかる。もちろん、この範囲より盛土全体の範囲は広いので、盛土の初期の段階の堆積層は4トレンチよりもさらに東側になるものと思われる。このようや「深さ÷年数=1年間の堆積厚」に、時期によって盛土が主に堆積する場所が異なっており、単純に「深さ÷年数=1年間の堆積厚」や「深さ÷層数=廃棄の隔年数」とはならないことは明らかである。

土器型式ごとに分けた最大厚は、円筒上層a式期が約20cm、円筒上層b式期が約50cm、円筒上層c

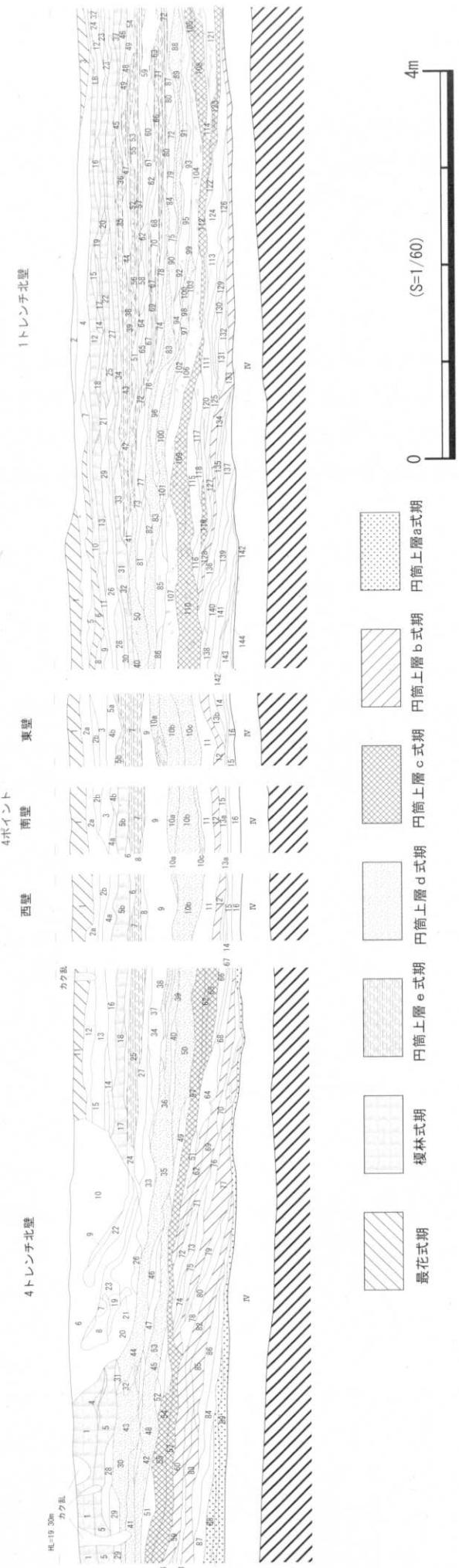
式期が約40cm、円筒上層d式期が約50cm、円筒上層e式期が約60cm、榎林式期が約40cm、最花式期が約30cmとなる。最大厚の計測地点は型式ごとに異なるため、これらの和=盛土の厚さにはならない。円筒上層a式期が他型式期に比べ薄いが、上述のように分布域の端部に当っていることや、次項で触れるように土砂の廃棄が、第6鉄塔地区に見られるように台地北端斜面で活発だったことが考えられるが、後者の土砂の廃棄は台地北端斜面に主体があった可能性が高い。盛土の形成は円筒上層a式期から開始されているものの、その段階の形成層は薄いものと考えられる。円筒上層b式期から円筒上層e式期は、最大厚はいずれもほぼ同じである。しかし、この断面観察では、前型式の層を完全に覆うように土砂が堆積していることから、後続する型式の方が平面的な広がりが大きく、土砂の堆積量も多くなっていると判断される。榎林式期において最大厚は減少しているものの、面的な広がりは確認でき、拡大していたことがわかる。しかし、最花式期では層の薄さもさることながら、面的な広がりは縮小している。

この現象は、集落規模を反映しているものと考えられる。円筒上層式前半期の遺構数は必ずしも判然としないが、盛土を見る限り、人々の活発な動きがあったことを示している。また、中期中葉から後葉にかけて集落規模と連動して盛土も拡大したことが伺うことができる。

各層間には自然堆積の土層はみられない。自然の堆積が進まないうちに人為的な堆積が連續したと考えるのが妥当であろう。また、各層は断面で見る限り、層の単位・境界が明瞭である。このことは、草木根などによる搅乱がほとんどなかったことを示しているものと考えられる。草が生えないような環境があったのか、生えさせないような人為的な環境があったのか判断できないが、草地になりにくいうな状態だったものと見られる。

(小笠原)

169図 時期ごとの堆積層



(3) 土偶、土・石製品について

1) 土偶

今回報告分の中で、土偶は12点で、そのうち2点は接合したため、11個体分である。破片のみで全体がわかるものはない。トレンチの総長は約17mで、調査面積は約8.5m²である。面積当りの出土量は、約1.3個/m²である。これを同じく中期の遺物包含層で、土砂を主体としている中期の「第6鉄塔地区」の遺物包含層と比較してみる。第6鉄塔地区（調査面積169m²）からは、土偶が26点出土しており、面積当りの出土量は、0.153個/m²である。

南盛土は中期のほぼ全般にわたる遺構で、土器型式ごとの堆積層の厚さも（場所によって違いはあるものの）、ほぼ等しい。台地上の緩斜面に形成され、端部を除き厚さは平均1.8mである。一方、第6鉄塔地区の包含層も中期のほぼ全般の時期を含むが、円筒上層a式期の堆積層がもっとも厚い。川に面した台地の北端斜面に形成された包含層で、土砂中心の廃棄物により結果的に台地が迫り出した状態となっている。最大の厚さは約2.4mである。

この2つの包含層の特徴は以下である。

	南盛土	第6鉄塔地区
共通点	<ul style="list-style-type: none">人為的な土砂主体の堆積物形成時期	
大きな相違点	<ul style="list-style-type: none">緩斜面に形成	<ul style="list-style-type: none">台地北端斜面に形成
細部での相違点	<ul style="list-style-type: none">細かい堆積層型式ごとの出土量に大きな違いはない各型式とも遺物出土量が多い	<ul style="list-style-type: none">二次堆積のローム主体（細かい堆積層が確認できる部分もあるが）形成時期の主体は中期初頭中期初頭の遺物が多い

両者には、上記のような共通・相違点がある。土砂の廃棄という点では同じとも言えるが、土偶で見た場合には、1m²当りの出土数は大きく異なっている。第6鉄塔地区の場合、主体的な形成時期や出土遺物の時期が中期初頭に偏っているため、出土量の違いに反映している可能性もあるものの、むしろこの違いは、盛土の性格の一側面を表しているものと考えられる。

土偶の分布の偏在性については、今後予定している南盛土の続編や北盛土の報告書などで述べることにし、ここでは詳細は触れないが、盛土からの土偶の出土数が多い事実は指摘することができる。

編年については、『青森県史 別編三内丸山遺跡』(2002 青森県：以下『県史』)で述べたこともあります、ここでは以前の知見を補足する。

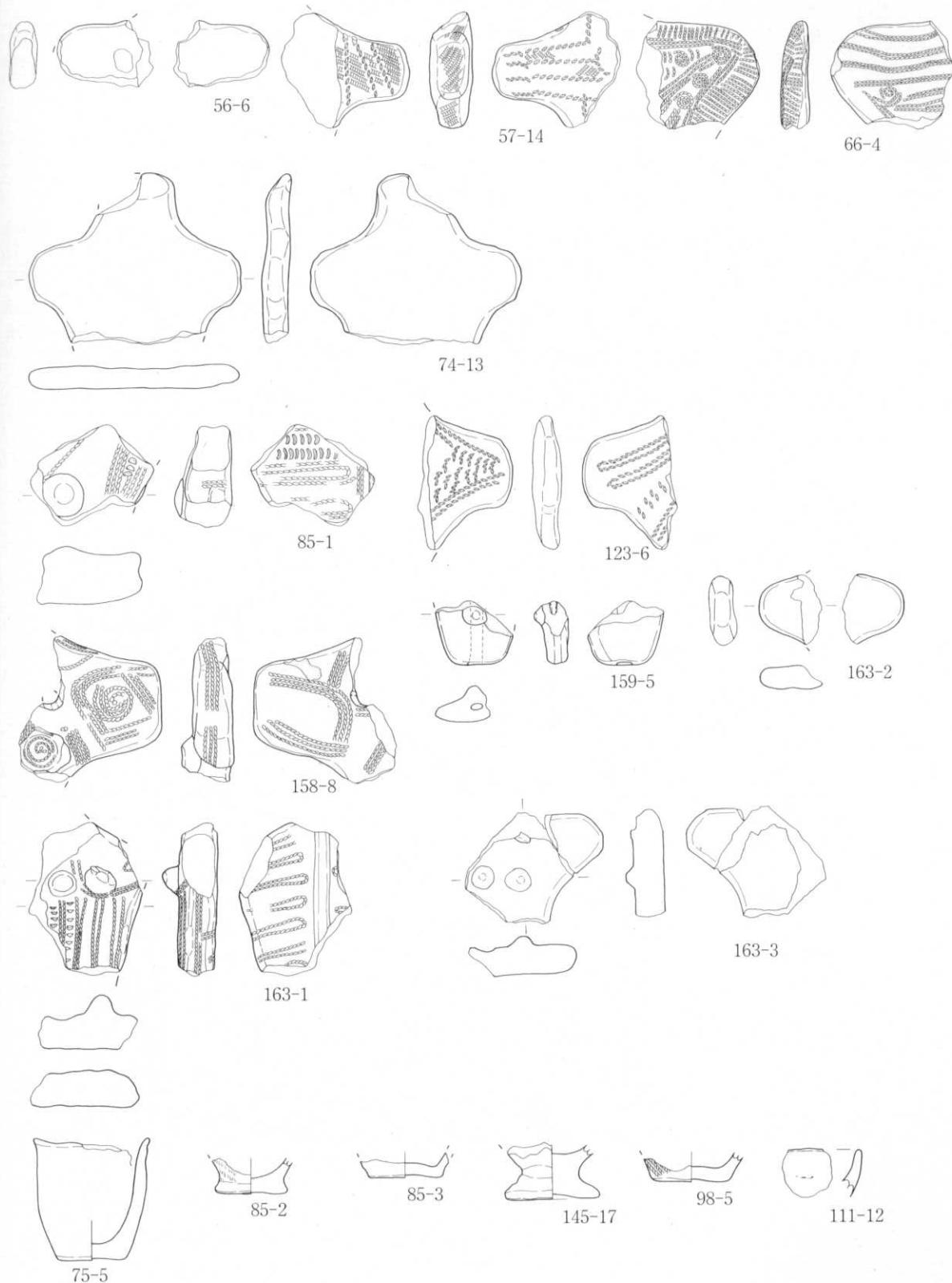
1トレンチ第100層、ポイント4第10b層出土の土偶は、円筒上層d式期のものである。地文はあるものもないものもあるが、直線状・カギ状に縄文原体が押圧されるものである。また、胸突起の上面などには渦巻状の縄文原体押圧が加えられる。『県史』で円筒上層d式期とした第349号竪穴住居跡から胴部が出土し、別地点出土の頭部片と接合した本遺跡の中で最大の板状土偶（『三内丸山遺跡XV』105図-7）の胸突起上面の文様と共通する。

4トレンチ第83層から出土した土偶の腕部には、縄文原体による馬蹄形（爪形）押圧が見られる。『県史』でも触れたとおり、円筒上層b式土器のメルクマールと同じ文様が施文されており、土器と土偶のどちらが先に採用されるかは別として、確実に両者に施文されるもので、時期認定の根拠となりうるものであることがわかる。また平面形態では、同じく上層b式期の1トレンチ第133層から出土した無文の土偶とともに、腕部の突き出しが弱く、体部（脇の下部以下）が逆三角形状になる。腕の短さとともに、肩部以下全体で見ても逆三角形状の形状が引き続き製作されるようである。

2) その他の土・石製品

ミニチュア土器を除く、土・石製品は27点である（土製品の中に粘土塊含む）。それらの中で、穿孔があり、装着部位は拘らず装身具と判断されるものは、8点である。土偶と同様に第6鉄塔地区と比較すると、南盛土は1.176個/1m²、第6鉄塔地区では0.017個/1m²となり、南盛土が卓越する。これについてもさらに分析を進め、今後の報告において遺跡内での分布のあり方を示していきたい。

（小笠原）



170図 土偶・ミニチュア土器集成図



171図 土・石製品等集成図

南盛土1 トレンチ出土土器観察表

図番号	番号	層位	文様	内面調整	分類	備考	通番
35	1	III-1	無文帯、刺突、RL、沈線	ミガキ	最花		401
35	2	III-1	渦巻状貼付	ミガキ			398
35	3	III-1	貼付				399
35	4	III-1	LR、沈線	ミガキ	最花		400
35	5	III-1	LR、沈線	ミガキ	最花		396
35	6	III-1	RL、沈線	ミガキ	最花		397
35	8	III-2	凹状沈線	ミガキ	楓林		402
35	9	III-2	RL、沈線	ミガキ	楓林		403
36	1	III-3	凹状沈線、RL、沈線	ミガキ	最花		1
36	2	III-3	貼付、LR				405
36	3	III-3	RLR	ミガキ			404
36	4	III-4	凹状沈線、RL	ミガキ	楓林		8
36	5	III-4	無文	ミガキ			2
36	6	III-4	L単絡1、沈線	ミガキ	楓林		3
36	7	III-4	LR、沈線	ミガキ	楓林		4
36	8	III-4	LR、沈線	ミガキ	楓林		5
37	1	III-6	無文帯、刺突	ミガキ	最花		11
37	2	III-6	RL、沈線	ミガキ			10
37	4	III-9	RLR、貼付	ミガキ			13
37	5	III-9	RL、沈線				14
37	6	III-10	RL単絡1	ミガキ			16
37	7	III-10	沈線				15
37	8	III-10	LR、沈線	ミガキ			17
37	9	III-11	凹状沈線、沈線	ミガキ	楓林		18
37	10	III-11	RL	ミガキ			20
37	11	III-11	縄文、沈線	ミガキ	楓林		19
37	12	III-11	RLR、沈線	ミガキ	楓林		21
37	13	III-12	LR、沈線	ミガキ	楓林		6916
37	14	III-12	凹状沈線	ミガキ	楓林		22
37	15	III-12	R単絡1、沈線、刺突	ミガキ	最花		23
37	16	III-12	RL、沈線	ミガキ	楓林		25
37	17	III-12	縄文、沈線	ミガキ	楓林	摩滅	24
38	1	III-13	凹状沈線、RLR、沈線	ミガキ	楓林		28
38	2	III-13	LR、沈線		楓林		29
38	3	III-13	RLR、沈線	ミガキ	楓林		26
38	4	III-13	RL、沈線	ミガキ			30
38	5	III-16	貼付	ミガキ	上d	貼付剥落	31
38	8	III-17	凹状沈線、RLR?	ミガキ	楓林		32
38	9	III-17	凹状沈線、LR	ミガキ	楓林		33
38	10	III-18	刺突	ミガキ		台付	34
38	11	III-18	LR、沈線	ミガキ	楓林		35
38	12	III-18	RL、沈線	ミガキ	楓林		38
38	13	III-18	RL、沈線	ミガキ	楓林		39
38	14	III-18	無文			ミニチュア?	36
39	1	III-19	RL、沈線	ミガキ	上層		40
39	2	III-19	凹状沈線	ミガキ	楓林		41
39	3	III-19	貼付、RL、沈線	ミガキ	楓林		42
39	7	III-20	RL、沈線	ミガキ	楓林		46
39	8	III-21	LR、沈線	ミガキ	楓林		48
39	9	III-21	RL、沈線	ミガキ	楓林		49
39	10	III-22	RL	ナデ			4720
39	11	III-22	凹状沈線、LR	ミガキ	楓林		55
39	12	III-22	LR	ミガキ			50
39	13	III-22	RL、沈線	ミガキ	楓林		56
39	16	III-22	縄文、沈線	ミガキ	楓林		53
39	17	III-22	無文	ミガキ			47
40	1	III-25	凹状沈線、LR	ミガキ	楓林		58
40	2	III-25	RL、沈線	ミガキ	楓林		57
40	3	III-26	無文	ミガキ	上層		62
40	4	III-26	無文帯、沈線、刺突	ミガキ	楓林		61
40	5	III-26	RL、沈線	ミガキ	楓林		60
40	6	III-26	縄文、沈線	ミガキ	楓林		59
40	7	III-26	LR、沈線	ミガキ	楓林		63
40	12	III-27	凹状沈線、LR	ミガキ	楓林		65
40	13	III-27	凹状沈線、LR	ミガキ	楓林		66
40	14	III-28	RL	ミガキ	楓林		67
40	15	III-29	RL、沈線	ミガキ	楓林		69

図番号	番号	層位	文様	内面調整	分類	備考	通番
40	16	III-29	LR	ミガキ			70
40	17	III-30	LR、沈線				73
40	18	III-30	LR	ミガキ			72
41	1	III-31	円形刺突、LR	ミガキ			83
41	2	III-31	LR押、LR	ミガキ			75
41	3	III-31	RL、沈線	ミガキ	楓林		79
41	4	III-31	縄文	ミガキ			84
41	5	III-31	LR、沈線	ミガキ			80
41	6	III-31	凹状沈線、LR	ミガキ	楓林		77
41	7	III-31	RL、沈線	ミガキ	楓林		78
41	8	III-31	LR、沈線	ミガキ			82
41	9	III-31	沈線	ミガキ			85
41	10	III-31	無文	ミガキ			74
42	1	III-32	無文	ミガキ			87
42	2	III-32	貼付	ミガキ	上層		89
42	3	III-32	LR、沈線	ミガキ	楓林		90
42	6	III-33	凹状沈線、沈線	ミガキ	楓林		91
42	7	III-34	LR	ミガキ			98
42	8	III-34	RL、貫通孔	ミガキ			95
42	9	III-34	貼付	ミガキ	上d		96
42	10	III-34	LR、沈線	ミガキ	上e		93
42	12	III-35	ボタン状貼付、	ミガキ	上層		103
42	13	III-35	無文	ミガキ			104
42	14	III-36	凹状沈線				105
42	16	III-37	凹状沈線、LR、沈線	ミガキ	楓林		106
43	1	III-38	RL	ミガキ			107
43	2	III-38	貼付	ミガキ			108
44	1	III-39	RL押、貼付、RL、沈線	ミガキ	上e		109
44	2	III-39	凹状沈線	ミガキ	楓林		110
44	3	III-39	貼付、L押、RL	ミガキ	上層		123
44	4	III-39	貼付、L押、RL	ミガキ	上層		120
44	5	III-39	刻み、LR	ミガキ	上層		117
44	6	III-39	RL、沈線	ミガキ	上e		119
44	7	III-39	RL、沈線	ミガキ	上e		122
44	8	III-39	RL、沈線				112
44	9	III-39	LR、沈線	ミガキ	上e		118
44	10	III-39	LR、沈線	ミガキ			111
44	11	III-39	縄文、沈線		上e		116
44	12	III-39	LR押、LR、沈線	ミガキ		III-34と接合	97
44	17	III-45	結束第一種	ミガキ	上層		
44	18	III-45	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		124
44	19	III-46	貼付	ミガキ	上層		127
44	20	III-46	RL	ミガキ	上層		125
44	21	III-46	貼付、沈線	ミガキ	上e		126
44	22	III-46	RL	ミガキ			129
44	23	III-46	RL、沈線	ミガキ	上e		128
45	1	III-47	縄文、沈線		上e		130
45	4	III-49	RL、沈線	ミガキ	上e		131
45	5	III-49	縄文、沈線	ミガキ	上e		132
45	6	III-50	LR	ミガキ			6889
45	7	III-50	貼付 (LR押)、結束第一種、貼付	ミガキ	上d		137
45	8	III-50	貼付 (LR)、結束第一種	ミガキ	上d		138
45	9	III-50	RL押	ミガキ	上層		139
45	10	III-50	RL	ミガキ	上層		140
45	11	III-50	RL、貼付 (LR)	ミガキ	上d		134
45	12	III-50	貼付	ミガキ	上d		135
45	13	III-50	RL、沈線	ミガキ	上e		136
46	1	III-51	LR押、LR	ミガキ	上層		143
46	2	III-51	結束第一種、貼付 (RL)	ミガキ	上d		141
46	3	III-51	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		142
46	5	III-52	刻み、貼付、LR、沈線	ミガキ	上e		144
46	6	III-52	凹状沈線	ミガキ	楓林		146
46	7	III-52	LR、沈線	ミガキ	上e		145
46	8	III-52	L、沈線	ミガキ	上e・楓林		149
46	9	III-52	RL、沈線	ミガキ	上e・楓林		148
46	10	III-52	RL、沈線	ミガキ	上e・楓林		147
46	11	III-52	RL、沈線	ミガキ	楓林		153
46	12	III-52	RL、沈線	ミガキ	楓林・最花		152

図番号	番号	層位	文様	内面調整	分類	備考	通番
46	14	III-53	刻み、貼付、LR、沈線	ミガキ	上e		155
47	1	III-57	RL押、貼付、RL、沈線	ミガキ	上e	62層と接合	6935
47	2	III-57	貼付、R押、沈線	ミガキ	上e		160
47	3	III-57	R?押、R	ミガキ	上層		156
47	4	III-57	RL、沈線	ミガキ	上e		158
48	1	III-58					162
48	2	III-59	貼付、LR	ミガキ	上層		165
48	3	III-59	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		166
48	4	III-59	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		163
48	5	III-59	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		164
48	6	III-61	LR押、LR	ミガキ	上層		167
48	7	III-61	RL、沈線	ミガキ	上e		169
48	8	III-61	RL、沈線	ミガキ	上e		168
48	9	III-62	L押、貼付、RL	ミガキ		62層と接合	6936
48	10	III-62	貼付		上層		171
48	11	III-62	刻み、LR	ミガキ	上層		172
48	12	III-62	RL、沈線	ミガキ	上e		170
48	13	III-63	LR、沈線	ミガキ	上e		173
48	16	III-66	RL、沈線	ミガキ	上e		174
48	17	III-66	LR、沈線	ミガキ	上e		175
49	1	III-67	RL押、円形貼付、RL	ミガキ			6917
49	2	III-67	貼付、LR、沈線	ミガキ	上e		176
49	3	III-67	RL押、RL、沈線	ミガキ	上e		177
49	4	III-67	RL、沈線	ミガキ	上e		178
49	5	III-67	貼付、LR、沈線	ミガキ	上e		179
49	8	III-69	RL	ミガキ	上層		181
49	9	III-69	RL押、RL、L結回	ミガキ	上層		180
50	1	III-70	RL押、RL		上層		183
50	2	III-70	貼付、縄文、沈線	ミガキ	上e		182
50	3	III-70	貼付		上層		184
50	5	III-71	LR押、LR、沈線	ミガキ	上e		185
51	1	III-72	貼付	ミガキ	上d		189
51	2	III-72	貼付、RL、沈線	ミガキ	上e		188
51	3	III-72	結束第二種、沈線	ミガキ	上e		186
51	9	III-73	LR押、	ミガキ	上層		191
51	10	III-73	突起部に縦横の貫通孔				192
51	11	III-73	貼付		上d		193
52	1	III-75	LR押、LR	ミガキ	上層		195
52	2	III-75	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		194
52	3	III-76	貼付	ミガキ	上d		197
52	4	III-76	貼付、LR押、LR	ミガキ	上層		196
52	5	III-80	無文	ミガキ	上層		6891
52	6	III-80	貼付、RL押、結束第一種	ミガキ	上層		198
53	1	III-83	貼付、LR押、LR	ミガキ	上層		199
53	2	III-83	結束第一種、貼付 (R押)	ミガキ	上d		200
53	3	III-83	貼付 (刻み)	ミガキ	上d		201
53	4	III-83	RL、貼付		上d		202
53	9	III-84	R?押、RL	ミガキ	上層	輪積み痕残る	203
53	10	III-84	RL		上層		204
53	11	III-84	結束第一種、貼付 (L押)	ミガキ	上d		205
54	1	III-87	貼付、RL	ミガキ	上層		206
54	2	III-87	結束第一種、貼付 (縄文押)	ミガキ	上d		208
54	3	III-87	LR、貼付	ミガキ	上d		209
54	4	III-87	LR、貼付		上d		207
54	5	III-87	結束第一種	ミガキ	上d		210
55	1	III-88	貼付、内面に盲孔		上層		211
55	2	III-88	貼付 (L押)	ミガキ	上d		212
55	3	III-88	貼付		上層		213
55	4	III-88	貼付	ミガキ	上層		214
55	5	III-88	貼付 (RL押)、RL、貼付	ミガキ	上d		215
55	6	III-88	RL?貼付	ミガキ	上d		217
55	7	III-88	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		216
55	11	III-90	貼付 (L押)、L押、馬蹄形押	ミガキ	上b		219
55	12	III-90	貼付 (L押)、L・R押、爪形刺突	ミガキ	上c		220
55	13	III-90	LR、貼付	ミガキ	上d		218
56	1	III-95	貼付、内面に盲孔		上層		221
56	2	III-95	結束第一種?貼付	ミガキ	上d		222
56	7	III-96	貼付 (刻み)		上層		224

図番号	番号	層位	文様	内面調整	分類	備考	通番
56	8	III-96	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		223
56	9	III-96	RL、貼付	ミガキ	上d		225
56	12	III-97	条痕	ミガキ			226
57	1	III-100	貼付 (LR押)、内面に盲孔	ミガキ	上層		236
57	2	III-100	RL押、結束第一種、貼付	ミガキ	上d		232
57	3	III-100	LR、貼付	ミガキ	上d		234
57	4	III-100	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		235
57	5	III-100	縄文、貼付	ミガキ	上d		231
57	6	III-100	LR? 貼付	ミガキ	上d		229
57	7	III-100	LR? 貼付	ミガキ	上d		228
57	8	III-100	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		233
58	1	III-101	貼付 (L押)	ミガキ	上層		240
58	2	III-101	LR	ミガキ	上層		238
58	3	III-101	無文	ミガキ	上層		242
58	4	III-102	貼付、RL押、RL	ナデ	上d・e		4528
58	5	III-102	RL? 貼付	ミガキ	上d		241
58	7	III-103	刻み、貼付、条痕	ミガキ	上層		4691
59	1	III-104	RL	ミガキ		III-62層と接合	6890
59	2	III-104					244
59	3	III-104	結束第一種、貼付 (LR押)	ミガキ	上d		242
59	4	III-104	RL	ミガキ	上層		245
59	5	III-104					246
60	1	III-105	貼付 (R押)、L・R押、L馬蹄形押	ミガキ	上b		254
60	2	III-105	貼付、貫通孔		上d		248
60	3	III-105	刺突		上c		253
60	4	III-105	貼付 (L押)、刺突	ミガキ	上d		252
60	5	III-105	結束第一種、貼付	ミガキ		台?	249
60	6	III-105	無文				249
61	1	III-106	貼付 (L押)、爪形刺突	ミガキ	上c		272
61	2	III-106	貼付 (L押)、刺突、内面に盲孔	ミガキ	上c		260
61	3	III-106	貼付 (L押)、刺突	ミガキ	上c		266
61	4	III-106	貼付 (L押)、竹管刺突	ミガキ	上c	円形貼付剥落	263
61	5	III-106	貼付 (L押)、L押、刺突	ミガキ	上層		270
61	6	III-106	貼付	ミガキ	上d		268
61	7	III-106	貼付、RL	ミガキ	上層		255
61	8	III-106	貼付、LR押、RL	ミガキ	上層		261
61	9	III-106	貼付、RLR	ミガキ	上層		265
61	10	III-106	貼付、貫通孔、結束第一種	ミガキ	上層		259
61	11	III-106	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		264
61	12	III-106	結束第一種、貼付 (L押)		上d		257
61	13	III-106	LR、貼付	ミガキ	上d		269
61	14	III-106	LR、貼付 (刻み)	ミガキ	上d		256
61	15	III-106	LR、貼付	ミガキ	上b		262
61	16	III-106	貼付 (L押)、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b	台部	271
61	17	III-106	無文、スリット		上層		267
62	1	III-107	貼付 (L押)、L・R押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b	貫通孔	282
62	2	III-107	貼付 (L押)、L馬蹄形押、LR	ミガキ	上b	内面に盲孔	283
62	3	III-107	貼付 (L押)、刺突、貫通孔	ミガキ	上c		281
62	4	III-107	貼付 (L押)、L・R押、貫通孔	ミガキ	上層		274
62	5	III-107	貼付 (L押)、刺突、LR	ミガキ	上c		273
62	6	III-107	貼付、刺突	ミガキ	上層		277
62	7	III-107	貼付、貫通孔	ミガキ	上d		279
62	8	III-107	貼付、RL	ミガキ	上d		278
62	9	III-107	結束第一種、貼付	ミガキ	上層		280
62	10	III-107	無文		輪積み痕		276
64	1	III-108	貼付 (R押)、L・R押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		287
64	2	III-108	貼付 (L押)、L押・馬蹄形押、LR	ミガキ	上b		286
64	3	III-108	貼付 (刻み)、刺突	ミガキ	上c		284
64	4	III-108	結束第一種		上層		285
65	1	III-109	結束第一種、貼付 (刺突)、刺突	ミガキ	上c	III-106・107層と接合	6892
65	2	III-109	貼付 (L押)、RL	ミガキ	上層		292
65	3	III-109	貼付 (L押)、L押・L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		1689
65	4	III-109	貼付 (L押)、L押・馬蹄形押	ミガキ	上b		295
65	5	III-109	貼付 (R押)、L・R押、L馬蹄形押	ミガキ	上b		296
65	6	III-109	口唇貼付、結束第一種	ミガキ	上層		288
65	7	III-109	貼付 (L押)、RL	ミガキ	上層		290
65	8	III-109	貼付 (L押)	ミガキ	上層		293
65	9	III-109	貼付		上層		289

図番号	番号	部位	文様	内面調整	分類	備考	通番
65	10	III-109	結束第一種、貼付 (L押)	ミガキ	上b		294
67	1	III-110	貼付 (L押)、刺突、結束第一種	ミガキ	上c		4706
67	2	III-110	貼付 (R押)、L・R押	ミガキ	上a		300
67	3	III-110	L押		上a		297
67	4	III-110	貼付 (L押)、L馬蹄形押		上b		301
67	5	III-110	貼付 (L押)、L馬蹄形押	ミガキ	上b		299
67	6	III-110	貼付 (L押)、爪形刺突、LR	ミガキ	上c		298
67	7	III-110	貼付 (L押)、刺突	ミガキ	上c		302
67	10	III-111	貼付 (L押)、L馬蹄形押	ミガキ	上b		303
68	1	III-112	貼付 (L押)、刺突	ミガキ	上c		306
68	2	III-112	貼付 (L押)、刺突	ミガキ	上c		305
68	3	III-112	貼付 (L押)、爪形刺突	ミガキ	上c		308
68	4	III-112	貼付 (L押)、刺突、結束第一種	ミガキ	上c		309
68	5	III-112	貼付 (L押)、刺突	ミガキ	上c		304
68	6	III-112	RL、貼付 (L押)	ミガキ	上d		307
68	8	III-113	貼付 (R押)、L・R押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		310
69	1	III-115	結束第一種	ミガキ	上層		4204
69	2	III-115	貼付 (R押)、L・R押、刺突	ミガキ	上c		311
69	4	III-117	貼付 (L押)、刺突、結束第一種	ミガキ	上c		312
70	1	III-119	L・R押、L馬蹄形押	ミガキ	上b		313
70	2	III-119	貼付 (L押)、刺突、結束第一種	ミガキ	上c		314
70	5	III-123	貼付 (L押)、刺突	ミガキ	上c		315
70	6	III-123	結束第一種	ミガキ			317
71	1	III-124					318
71	2	III-124					320
71	3	III-124					319
71	7	III-125	貼付 (L押)、L押	ミガキ	上a		324
71	8	III-125	貼付 (L押)、L押、結束第一種	ミガキ	上a		327
71	9	III-125	L・R押、L馬蹄形押		上a		325
71	10	III-125	貼付 (R押)、R押、LR	ミガキ	上a		326
72	1	III-128	貼付 (L押)	ミガキ	上a		328
72	2	III-128	貼付 (L押)、L・R押	ミガキ	上層	鉢形	331
72	3	III-128	貼付 (L押)、L・R押	ミガキ	上a		330
72	4	III-128	LR・RL押	ミガキ	上a	貼付剥落	329
73	1	III-129	L押、結束第一種	ミガキ	上層		334
73	2	III-129	貼付 (L押)、L押	ミガキ	上層		335
73	3	III-129	貼付 (L押)、L押・馬蹄形押				332
73	4	III-129	無文	ミガキ			333
73	5	III-131	貼付 (L押)	ミガキ	上層		336
73	6	III-131	結束第一種	ミガキ	上層		337
73	8	III-132	貼付 (L押)、L・R押	ミガキ	上a		338
74	1	III-133	貼付 (L押)、L・R押、結束第一種	ミガキ	上a		345
74	2	III-133	貼付 (L押)、L押・馬蹄形押	ミガキ	上b		343
74	3	III-133	L押・馬蹄形押		上b		350
74	4	III-133	L押、刺突	ミガキ	上c		347
74	5	III-133	R馬蹄形押、RL	ミガキ	上b		341
74	6	III-133	刺突	ミガキ	上c		342
74	7	III-133	貼付 (L押)、刺突	ミガキ	上c		339
74	8	III-133	貼付 (L押)、刺突	ミガキ	上c		340
74	9	III-133	貼付 (L押)、刺突	ミガキ	上c	皿型	348
74	10	III-133	貼付 (R押)、刺突	ミガキ	上c		346
74	11	III-133	L押、結束第一種	ミガキ	上層		344
75	1	III-136	貼付 (L押)、L押	ミガキ	上a		351
75	2	III-136	貼付 (L押)	ミガキ	上層		352
75	3	III-136	無文				353
75	6	III-137	貼付 (刺突)、LR押	ミガキ	上層		354
75	7	III-137	貼付 (L押)、L押、刺突	ミガキ	上a		355
75	8	III-137	貼付 (L押)		剥落	上層	356
75	9	III-137	L・R押	ミガキ	上a		357
75	10	III-138	貼付 (L押)、刺突	ミガキ	上c		358
75	11	III-139	L・R押	ミガキ			360
75	12	III-139	結束第一種、貼付 (L押)		剥落		359
75	13	III-139	結束第一種	ミガキ			361
75	14	III-140	L押、繩文？	ミガキ			362
75	16	III-144	LR押、LR馬蹄形押	ミガキ	上b		367
75	17	III-144	貼付 (L押)、L・R押、L馬蹄形押	ミガキ	上b		365
75	18	III-144	貼付 (L押)、RL	ミガキ			364
75	19	III-144	貼付 (L押)、L押、結束第一種	ミガキ			366

図番号	番号	層位	文様	内面調整	分類	備考	通番
75	20	III-144					363
76	1	III-145直上	貼付(L押)、L・R押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上a		6894
76	2	III-145直上	貼付(L押)、結束第一種	ミガキ	上a		4727
76	3	III-145直上	L押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		4713
76	4	III-145直上	貼付(L押)、L押、結束第一種	ミガキ	上a		6893
76	5	III-145直上	結束第一種	ミガキ	上層		388
77	1	III-145直上	貼付(LR押)、LR押、爪形刺突、結束第一種	ミガキ	上a		389
77	2	III-145直上	貼付(L押)、L・R押、R馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		390
77	3	III-145直上	貼付(L・R押)、L・R押	ミガキ	上a		386
77	4	III-145直上	貼付(L押)、L押	ミガキ	上a		384
77	5	III-145直上	貼付(L押)、L・R押	ミガキ	上a		378
77	6	III-145直上	貼付(R押)、L・R押	ミガキ	上a		377
77	7	III-145直上	貼付(L押)、L・R押、R馬蹄形押	ミガキ	上b		376
77	8	III-145直上	貼付(L押)、L押	ミガキ	上a		385
77	9	III-145直上	貼付(L・R押)、L・R押	ミガキ	上a		381
77	10	III-145直上	貼付(R押)、L・R押、結束第一種	ミガキ	上a		391
77	11	III-145直上	貼付(L押)、L・R押、R馬蹄形押	ミガキ	上b		383
77	12	III-145直上	貼付(L押)、L・R押	ミガキ	上a		382
77	13	III-145直上	R押、LR	ミガキ	上b		379
77	14	III-145直上	貼付(L押)、L押、L馬蹄形押	ミガキ	下b	織維少	375
79	1	III-145	RLR、貼付(LR押)、R単絡1	ミガキ	下層	織維多	371
79	2	III-145	RL、貼付	ミガキ	下d1	織維少	374
79	3	III-145	R・LR押	ミガキ	下層		370
79	4	III-145	多軸絡	ミガキ	下層	織維少	369
79	5	III-145	RLR	ミガキ	下層	織維少	368
79	6	III-145	RL	ミガキ	下層	織維少	372
79	7	III-145	LR	ミガキ	下層	織維少	373
79	8	III-145	L多軸絡	ミガキ	下層	織維少	

南盛土4トレンチ出土土器観察表

82	1	III-1	貼付、RL、沈線	ミガキ	上d		424
82	2	III-1	RL、沈線	ミガキ	榎林		422
82	3	III-1	口縁無文、LR	ミガキ	榎林	炭(外面)	425
82	4	III-1	頸部無文(ミガキ)、沈線、L	ミガキ	最花	広口壺頸部、炭(外面)	419
82	5	III-1	折返し状口縁、RLR	ミガキ	大木系		420
82	6	III-1	RL	ミガキ	大木系	壺形土器口頸部	421
82	7	III-1	無文(ミガキ)	ミガキ	榎林・最花		423
82	8	III-1	RL、沈線	ミガキ	大木系	底面に網代痕	426
82	9	III-1	RL?	ミガキ	榎林		427
83	1	III-5	凹状沈線、LR	ミガキ	榎林		6895
83	2	III-5	口唇突起(貼付)、RL、沈線	ミガキ	上e		434
83	3	III-5	貼付、LR押、RL	ミガキ	最花		438
83	4	III-5	口縁貼付(太沈線)、RLR	ミガキ	榎林		440
83	5	III-5	口唇凹状沈線、RLR、沈線	ミガキ	榎林	428と同一個体?	433
83	6	III-5	貼付、RL、沈線	ミガキ	榎林		439
83	7	III-5	折返し状口縁、RLR	ミガキ	最花		436
83	8	III-5	口縁無文、隆帶、橋状把手	ミガキ	大木系		441
83	9	III-5	口縁無文、貼付	ミガキ	榎林		445
83	10	III-5	LR、沈線	ミガキ	榎林		435
83	11	III-5	RLR、沈線	ミガキ	上e・榎林		443
83	12	III-5	LR、沈線	ミガキ	上e・榎林		442
83	13	III-5	RLR、沈線	ミガキ	上e		431
83	14	III-5	RLR、沈線		榎林	433と同一個体?	428
83	15	III-5	RL、沈線		榎林・最花		432
83	16	III-5	RL、沈線、円形刺突		最花		437
86	1	III-11	口縁無文(ミガキ)	ミガキ	最花	広口壺口縁部	448
86	2	III-11	RL、沈線	ミガキ	大木系		447
86	3	III-11	LR、沈線	ミガキ	榎林・最花		446
86	6	III-13	結束第一種(RL)	ミガキ	上d		450
86	7	III-13	波状口縁(貼付、太沈線)、単絡1?	ミガキ	榎林・最花		449
86	8	III-13	隆帶(沈線)		榎林		452
86	9	III-13	LR、沈線	ミガキ	榎林・最花		453
86	10	III-17	LR	ミガキ	榎林・最花		454
86	11	III-17	波状口縁(太沈線)、LR	ミガキ	榎林		455
86	12	III-17	波状口縁(貼付痕、太沈線)、斜縄文	ミガキ	榎林		456
86	13	III-17	LR、沈線	ミガキ	榎林		458
86	14	III-17	RLR?、沈線	ミガキ	上e・榎林		457
86	15	III-17	RL、沈線	ミガキ	大木系		459

図番号	番号	層位	文様	内面調整	分類	備考	通番
86	16	III-17	LR、沈線	ミガキ	楓林・最花		460
86	17	III-17	LR	ミガキ	大木系		461
87	1	III-24	口縁突起、貫通孔、貼付、刺突	ミガキ	上c		466
87	2	III-25	RL押、LR、沈線	ミガキ	上e		473
87	3	III-25	R押、貼付、LR、沈線	ミガキ	上e		467
87	4	III-25	波状口縁(貼付、L押)、RL、沈線	ミガキ	上e		470
87	5	III-25	口縁突起、貼付、RLR		上e		475
87	6	III-25	口縁突起(貼付)		上e		477
87	7	III-25	口縁突起、貼付、刺突、沈線		上e		469
87	8	III-25	口縁突起、貼付		上e	内面貼付	471
87	9	III-25	口縁突起、貼付、RL	ミガキ	上e		472
87	10	III-25	RL、沈線	ミガキ	上e		474
87	11	III-25	RL、細沈線	ミガキ	上e		468
88	1	III-30	RL押、円形貼付、RL、貼付	ミガキ	上d		6918
88	2	III-30	貼付(R押)、L・R押、馬蹄形押、RL	ミガキ	上b		4716
88	3	III-30	貼付、刺突、LR	ミガキ	上c・d		486
88	4	III-30	口縁突起(貼付)、貼付	ミガキ	上d		487
88	5	III-30	波状口縁(RL押、貼付)、RL、貼付	ミガキ	上e	内面に盲孔	485
88	6	III-30	口縁貼付・突起(貼付、RL押)、結束第1種	ミガキ	上d		479
88	7	III-30	RL、貼付(L押)	ミガキ	上d		483
88	8	III-30	貼付(L押)、L・R押	ミガキ	上a		480
88	9	III-30	口縁突起(貼付)、結束第二種	ミガキ	上d・e	内面に盲孔	488
88	10	III-30	口縁貼付(へラ刻み)、LR、貼付	ミガキ	上d		490
88	11	III-30	口縁貼付(LR押)、結束第1種、貼付	ミガキ	上d		482
89	1	III-30	波状口縁、LR押、RL	ミガキ	上d・e		489
89	2	III-30	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		478
89	3	III-30	結束第一種、貼付		上d		484
89	4	III-30	波状口縁(RL押、貼付)、RL、組沈線	ミガキ	上e・楓林		481
91	4	III-33	波状口縁(貼付)、LR	ミガキ	上d		494
91	5	III-33	RL押、LR	ミガキ	上e		491
91	6	III-33	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		493
91	7	III-33	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		492
91	8	III-33	沈線	ミガキ	上e		495
92	1	III-34	口縁突起(貼付)、結束第一種、貼付	ミガキ	上d		498
92	2	III-34	RL、貼付	ミガキ	上d		496
92	3	III-34	RL(結縛)、貼付	ミガキ	上d		497
93	1	III-35	RL押、RL、貼付	ミガキ	上d		6920
93	2	III-35	貼付、刻み、結束第一種	ミガキ	上d・e		4694
93	3	III-35	刻み、結束第一種	ミガキ		口唇肥厚顎著	6919
94	1	III-35	貼付(L押)、刺突	ミガキ	上c		501
94	2	III-35	口縁貼付、結束第一種	ミガキ	上c・d		500
94	3	III-35	口縁突起、結束第1種(LR・RL)、貼付	ミガキ	上d	内面に盲孔	508
94	4	III-35	RL、貼付(L押)	ミガキ	上d		499
94	5	III-35	口縁LR・RL押、結束第一種、貼付		上d		507
94	6	III-35	斜行繩文、貼付	ミガキ	上d		502
94	7	III-35	LR・RL(結束第一種?)、貼付	ミガキ	上d		506
94	8	III-35	LR・RL、貼付	ミガキ	上d		503
94	9	III-35	貼付(L押)	ミガキ	上d		505
95	2	III-37	LR・RL(結束第一種?)、貼付	ミガキ	上d		509
96	1	III-38	結束第一種(LR・RL)、貼付	ミガキ	上d		510
96	2	III-38	結束第一種(LR・RL)、貼付	ミガキ	上d		511
96	3	III-40	口縁貼付(刻み)、結束第1種	ミガキ	上d・e		512
96	4	III-40	口縁貼付(刻み)、LR・RL(結束第一種?)	ミガキ	上d・e		515
96	5	III-40	口縁無文	ミガキ	上層		514
96	6	III-40	RL、貼付	ミガキ	上d		513
97	1	III-41	口縁突起、貼付・橋状把手(L押)、LR・RL押、RL馬蹄形押	ミガキ	上b		516
97	2	III-41					518
97	3	III-41	貼付(へラ刻み)、半竹刺突		上c		525
97	4	III-41	口縁突起、貼付(L押)、刺突	ミガキ	上c		522
97	5	III-41	口縁突起、貼付(L押)		上d		523
97	6	III-41	口縁突起・貼付、結束第一種、貼付	ミガキ	上d		517
97	7	III-41	口縁突起(LR、貼付)	ミガキ	上d・e	突起内面に短沈線	527
97	8	III-41	結束第一種、貼付(へラ刻み)	ミガキ	上d		519
97	9	III-41	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		526
97	10	III-41	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		528
97	11	III-41	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		524
97	12	III-41	口縁突起、ボタン状貼付、LR	ミガキ	上d		520
97	13	III-41	口縁貼付(RL押)、結束第一種	ミガキ	上c・d		521

図番号	番号	層位	文様	内面調整	分類	備考	通番
98	4	III-44					529
98	6	III-46	貼付 (L・R押)、L・R押、半竹刺突	ミガキ	上c		530
98	7	III-46	結束第一種		上c・d		531
99	1	III-48	貼付、竹管斜位刺突	ミガキ	上c		532
99	2	III-48	貼付・橋状把手、竹管斜位刺突	ミガキ	上c		533
99	3	III-48	口縁貼付帶、LR、貼付	ミガキ	上d		536
99	4	III-48	口縁貼付 (貼付、ヘラ刻み)、LR・RL、貼付 (ヘラ刻み)				534
99	5	III-48	口縁突起 (貼付)、RL押、結束第一種、貼付	ミガキ	上d		535
99	6	III-48	結束第一種、貼付 (L押)	ミガキ	上d		539
99	7	III-48	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		537
101	1	III-50	貼付 (L押)、L押、半竹刺突	ミガキ	上c		542
101	2	III-50	貼付 (L押)、L押、半竹刺突、LR (結束第一種?)	ミガキ	上c		544
101	3	III-50	口縁突起、貫通孔、貼付、爪形刺突	ミガキ	上c		549
101	4	III-50	口縁貼付帶、貼付 (ヘラ刻み)	ミガキ	上c・d		547
101	5	III-50	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		543
101	6	III-50	貼付 (ヘラ刻み)		上c・d		546
101	7	III-50	結束第一種、貼付 (L押)	ミガキ	上b～d	鉢形器形	548
101	11	III-51					554
101	12	III-51					551
101	13	III-51					552
102	1	III-55	貼付 (L押)、L・R押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		6922
102	2	III-55	無文 (ケズリ調整)	ミガキ			6921
102	3	III-55	貼付 (L押)、竹管?刺突、RL	ミガキ	上c		555
102	4	III-55	貼付 (L押)、LR押	ミガキ	上b		558
102	5	III-55	波状口縁、貫通孔、橋状把手、貼付 (L押)、L・R押、刺突	ミガキ	上c		557
102	6	III-55	貼付 (L押)、L馬蹄形押	ミガキ	上c		556
104	1	III-56	口縁突起、貼付 (R押)	ミガキ	上c		559
104	2	III-56	貼付 (R押)、L・R押、R馬蹄形押、LR	ミガキ	上b		560
104	3	III-56	貼付 (L押)、R押、R馬蹄形押	ミガキ	上b		561
105	1	III-57	口縁突起、貫通孔、貼付 (L押)、L馬蹄形押	ミガキ	上b		564
105	2	III-57	口縁突起、貫通孔、貼付 (L押)、半竹刺突、L馬蹄形押	ミガキ	上b・c	0567と接合	575
105	3	III-57	貼付 (L押)、竹管斜位刺突	ミガキ	上c		571
105	4	III-57	貼付 (L押)、半竹刺突		上c		562
105	5	III-57	L押、結束第一種、刺突	ミガキ	上c		572
105	6	III-57	口縁突起 (貫通孔、ヘラ刺突)、ヘラ刺突	ミガキ	上c		577
105	7	III-57	口縁突起、貫通孔、貼付 (L押)、半竹刺突、L馬蹄形押	ミガキ	上b・c	0575と接合	567
105	8	III-57	口縁突起、貼付 (LR押)	ミガキ	上d		566
105	9	III-57	波状口縁、結束第一種、貼付 (L押)	ミガキ	上d		574
105	10	III-57	口縁貼付、結束第一種、貼付	ミガキ			573
105	11	III-57	結束第一種、貼付		上d'		576
105	12	III-57	口縁貼付帶		上層		563
105	13	III-57	口縁突起・貼付、RL	ミガキ	上d		568
107	1	III-58	貼付 (L押)、L・R押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		6896
108	1	III-58	貼付 (L押)、L押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		6923
108	2	III-58	貼付 (L押)、L押、L馬蹄形押、LR	ミガキ	上b		578
110	1	III-60	口縁突起、貼付 (L・R押)、L・R押、L馬蹄形押	ミガキ	上b		579
110	2	III-60	貼付 (L押)、L・R押	ミガキ	上a・b		581
110	3	III-60	口縁突起、貼付 (L押)、L・R押、L馬蹄形刺突	ミガキ	上b・c		583
110	4	III-60	口縁突起、貼付 (L押)、L・R押、L馬蹄形押、LR	ミガキ	上b		580
110	5	III-60	無文		上層		582
111	1	III-61	口縁突起、貼付 (L押)、L・R押、L馬蹄形押	ミガキ	上b		584
111	2	III-62	口縁突起、貫通孔、貼付 (L押)、刺突	ミガキ	上c		585
111	3	III-64	貼付 (L押)、L押、馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		590
111	4	III-64	貼付 (L押)、刺突		上c		588
111	5	III-64	L・R押、馬蹄形押	ミガキ	上b		589
111	6	III-64	貼付 (L押) L押、刺突		上c		586
111	8	III-65	口縁突起、貼付 (L押)、刺突	ミガキ	上c		591
111	9	III-65	貼付 (L押)、L押、刺突	ミガキ	上c		592
111	11	III-66	結束第1種(LR・RL)、貼付 (L押)	ミガキ	上d		593
112	1	III-69	貼付 (L押)、L押、L馬蹄形刺突	ミガキ	上b・c		598
112	2	III-69	口縁突起、貫通孔、貼付 (L押)、L馬蹄形押	ミガキ	上b		595
112	3	III-69	波状口縁、L押、L馬蹄形押	ミガキ	上b		596
112	4	III-69	口縁突起、貫通孔、貼付 (L押)、L押	ミガキ	上b・c		600
112	5	III-69	貼付 (L押)、L押、刺突	ミガキ	上c		599
112	6	III-69			上層		597
112	7	III-69	LR押、RL	ミガキ	上b		594
113	1	III-71	口縁突起、貼付 (L押)、L・R押、L馬蹄形押	ミガキ			601
113	2	III-71	貼付 (L押)、RL	ミガキ	上b		602

図番号	番号	層位	文 様	内面調整	分類	備 考	通番
113	3	III-72	口縁突起、結束第1種(LR・RL)、単絡1馬蹄形押、貼付(R押)	ミガキ	上b		604
113	4	III-72	R、L押		上層		603
113	5	III-72	橋状把手、貼付(LR単絡1押)、LR押	ミガキ	Fd2		6924
114	1	III-75	口唇刻み、刺突、条痕	ミガキ	上a		605
114	3	III-76	結束第一種	ミガキ		台付鉢	6925
114	4	III-76	L押、結束第一種(LR・RL?)	ミガキ	上層		606
114	6	III-77	貼付(L押)、L・R押、刺突	ミガキ	上c		607
114	7	III-77	貼付(L押)、L押、単絡1押	ミガキ	上b		608
114	8	III-77	貼付(L押)、L押、繩端結縛痕	ミガキ	上b		609
115	1	III-79	結束第一種(LR・RL?)、貼付、橋状把手(L押)、L押	ミガキ	上a・b		610
115	2	III-80	波状口縁、貼付(L押)、L押、L馬蹄形押	ミガキ	上b		611
115	3	III-80	L・R押、L馬蹄形押	ミガキ	上b		612
115	5	III-81	口縁貼付帶(LR押)、LR押		上a		616
115	6	III-81	LR押、L押	ミガキ	上a・b		613
115	7	III-81	貼付(R押)、R、L押、R馬蹄形押		上b		619
115	8	III-81	口縁突起、貼付(L・R押)、R馬蹄形押	ミガキ	上b		614
115	9	III-81	貼付(L押)、L・R押、LR馬蹄形押		上a・b		615
115	10	III-81	口縁貼付帶		上層		617
116	1	III-82	貼付(L押)、L・R押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b	III-60層と接合	6898
116	2	III-82	貼付(L押)、L鋸齒状・馬蹄形押	ミガキ	上b		6926
117	1	III-82	貼付(L押)、L・R押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		6897
117	2	III-82	貼付(L押)、L押、L馬蹄形押、LR	ミガキ	上b		6927
118	1	III-82	貼付(R押)、L・R押、結束第一種		上a		4693
118	3	III-82	口縁突起、貼付(L押)、L・R押、R馬蹄形押	ミガキ	上b		622
118	4	III-82	口縁突起、貼付(R押)、L・R押、RL	ミガキ	上a	621と同一個体	620
119	1	III-83	貼付(L・R押)、R馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		4711
119	2	III-83	結束第一種	ミガキ	上層		6899
119	3	III-83	貼付(L押)、L・R押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		6929
120	1	III-83	貼付(L押)、L鋸齒状押、刺突、LR	ミガキ	上a	貼付剥落多い	6928
120	2	III-83	口縁貼付帶(L押)、L・R押	ミガキ	Fd・上a		623
120	3	III-83	貼付(L押)、L押、LR	ミガキ	上a		628
120	4	III-83	口縁突起、貼付(L押)、L押、L馬蹄形押		上a・b		630
120	5	III-83	貼付(R押)、L・R押、R馬蹄形押	ミガキ	上b		624
120	6	III-83	波状口縁、貼付(L押)、L・R押、L馬蹄形押、RL	ミガキ	上b		627
120	7	III-83	L押、LR馬蹄形押	ミガキ	上a・b		629
124	1	III-84	結束第一種	ミガキ	上層		6900
124	2	III-84	貼付(R単絡1押) 半竹刺突、R単絡1押	ミガキ	Fd2		632
124	3	III-84	貼付(RL押)、LR・RL押		Fd2	織維混入	633
124	4	III-84	L・R押	ミガキ	上a		635
124	5	III-84	波状口縁、貼付(R押)、L馬蹄形押	ミガキ	上b		634
124	6	III-84	貼付(L・R押)、L・R押、結束第一種	ミガキ	上a		636
124	7	III-84	底面すだれ状压痕文		上層		637
125	1	III-85	貼付(L押)、L・R押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		1642
126	1	III-87	貼付(刺突)、R単絡1押	ミガキ	Fd2		639
126	2	III-87	L・R押、爪形刺突	ミガキ	Fd2・上a		638
126	3	III-87	口縁貼付帶(L押)、結束第一種		上層		641
126	4	III-87	貼付、LR	ミガキ	上d?		642
126	5	III-87	LR・R押	ミガキ	上a		640
127	1	III-88	貼付(LR押)、LR押、結束第一種	ミガキ	上a		6930
127	2	III-88	口縁突起、貼付(R押)、L・R押、LR	ミガキ	上a		643
127	3	III-88	口縁突起、貼付(L押)、L・R押		上a		646
127	4	III-88	貼付(R?押)、L・R押、L馬蹄形押、LR・RL		上a・b		645
127	5	III-88	口縁突起、貼付、橋状把手(撫糸压痕)		上a	摩滅激しい	644
128	3	III-89	貼付(R押)、R押、刺突、LR	ミガキ	上a		1547
129	1	III-89	貼付(L押)、L押、LR	ミガキ	上a	図地文チェック	4724
129	2	III-89	貼付(L押)、L・R押、刺突、RL	ミガキ	上a		6904
129	3	III-89	貼付(L押)、L・R押、結束第一種	ミガキ	上a		4725
129	4	III-89	貼付(R押)、LR	ミガキ	上a	III-83層と接合	6902
130	1	III-89	貼付(L押)、L押、結束第一種	ミガキ	上a		4712
130	2	III-89	貼付(L押)、L押、L馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b		4703
131	1	III-89	貼付(L押)、L押、結束第一種	ミガキ	上a		6932
131	2	III-89	貼付(L押)、L押、L馬蹄形押、RL	ミガキ	上b		6903
131	3	III-89	貼付(L押)、L押・馬蹄形押、結束第一種	ミガキ	上b	台付鉢	5617
132	1	III-89	R押、貼付(R押)、結束第一種	ミガキ	上a	地文は乱雑な施文	6901
132	2	III-89	貼付(L・R押)、L・R押、L馬蹄形押、LR	ミガキ	上b		1056
132	3	III-89	貼付(R単絡1押)、R単絡1押	ミガキ	上a	内面に盲孔	6931
132	4	III-89	単絡1押、刺突	ミガキ	Fd2		656
132	5	III-89	口縁突起、貼付(LR押)、LR押	ミガキ	上a		652

図番号	番号	層位	文様	内面調整	分類	備考	通番
132	6	III-89	口縁突起、貼付 (LR押)、LR押	ミガキ	上a		662
132	7	III-89	貼付 (LR押)、LR押	ミガキ	上a		647
132	8	III-89	R押	ミガキ	上a		651
132	9	III-89	口縁突起、貫通孔、貼付 (L・R押)、L・R押	ミガキ	上a		655
133	1	III-89	口縁突起、貼付 (LR押)、LR押	ミガキ	上a		650
133	2	III-89	貼付 (L押)、L・R押	ミガキ	上a		659
133	3	III-89	貼付 (R押)、R押	ミガキ	上a		653
133	4	III-89	貼付 (L押)、L・R押、L馬蹄形押	ミガキ	上a・b		657
133	5	III-89	貼付 (LR押)、L・R押、刺突、RL (結縛)	ミガキ	上a		648
133	6	III-89	貼付剥落痕、R押、LR	ミガキ	上a		661
133	7	III-89	口縁貼付、突起、貫通孔	ミガキ	上層		654
134	1	III-89	貼付 (L押)、L・R押、結束第二種	ミガキ	上層		6908
135	1	III-89	RL単絡1押、結束第一種、RL単絡1	ミガキ	下d1		6905
135	2	III-89	貼付 (剥落)、L・R押、L、L結回	ミガキ	上a		6906
135	3	III-89	結束第一種	ミガキ			6907
135	4	III-89	口縁突起、貼付 (L・R押)、L・R押、L馬蹄形押	ミガキ	上a・b		668
135	5	III-89	口縁突起、貼付 (LR・L・R押)、L・R押	ミガキ	上a・b		665
135	6	III-89	貼付 (LR押)、LR・RL押、結束第一種	ミガキ	上a		666
135	7	III-89	口縁突起、貼付 (L押)、L押	ミガキ	上a		667
135	8	III-89	貼付 (L押)、L押、結束第一種	ミガキ	上a		663
135	9	III-89	口縁突起・貼付帶 (LR押)、結束第一種	ミガキ	上層		664
135	10	III-89	貼付 (R押)、L馬蹄形押、L押、LR	ミガキ	上a		669
135	11	III-89	貼付 (L押)、結束第一種 (LR・LR?)	ミガキ	上a		670
139	1	III-90	貼付 (RRL押)、RRL押、RRL		II-3	織維混入	673
139	2	III-90	R押、LR押、多軸絡	ミガキ	下d・上a	摩滅激しい	672
139	3	III-90	貼付 (LR押)	ミガキ	上層		675
139	4	III-90	LR		II-6	織維少量混入	671
139	5	III-90	結束第2種?		下d・上a	摩滅激しい	674
139	9	III-90	貼付 (LR押)、LR単絡1	ミガキ	下b	織維混入	676
139	10	III-90	LR押		下d2・上a		679
139	11	III-90	R押、刺突	ミガキ			677
139	12	III-90	LR・RL押、半竹押引	ミガキ	下d2		678
139	13	III-90	貼付 (L押)、L押、半竹刺突	ミガキ	上c		680
141	1	風倒木	無文帯、刺突、RL、沈線	ミガキ	最花		6934
141	2	風倒木	無文帯、刺突、LR、沈線	ミガキ	最花		6933
141	3	風倒木	RL	ミガキ		表面摩滅、文様不明瞭	4649
142	1	風倒木	L押、馬蹄形押	ミガキ	上a・b		693
142	2	風倒木	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		691
142	3	風倒木	結束第一種、貼付、刺突	ミガキ	上c		686
142	4	風倒木	口縁突起、貼付		上c・d・		683
142	5	風倒木	口縁突起・貼付 (RL押)、LR	ミガキ	上d		692
142	6	風倒木	貼付 (R押)、半竹刺突		上c		695
142	7	風倒木	LR・RL、沈線	ミガキ	上e・榎林		684
142	8	風倒木	RL、沈線		榎林		687
142	9	風倒木	RL、沈線	ミガキ	最花		685
142	10	風倒木	折返口縁、R単絡1、沈線	ミガキ	最花		688
142	11	風倒木	RL、沈線	ミガキ	最花		689
142	12	風倒木	RL、沈線	ミガキ	最花		690
142	13	風倒木	RL、沈線		榎林・最花		682
142	14	風倒木	RL、沈線		榎林・最花		681
142	15	風倒木	LR	ミガキ	大木系		694
145	1	風倒木	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		701
145	2	風倒木	RL、沈線	ミガキ	上e		698
145	3	風倒木	RL、沈線、円形刺突	ミガキ	最花		696
145	4	風倒木	RL、沈線	ミガキ	最花		699
145	5	風倒木	LR、沈線	ミガキ	最花		700
145	6	風倒木	RL、沈線	ミガキ	最花		697
145	7	風倒木	折返口縁、RL、沈線、竹管刺突	ミガキ	最花		702
145	8	風倒木	RL、沈線	ミガキ	榎林		705
145	9	風倒木	LR、結回、沈線	ミガキ	最花		704
145	10	風倒木	RL、沈線	ミガキ	榎林		706
145	11	風倒木	RL、沈線、円形刺突	ミガキ	最花		703
145	12	風倒木	貼付 (L押)、L・R押、結束第一種	ミガキ	上a・b		707
145	13	風倒木	RL?、沈線		榎林・最花		
145	14	風倒木	単節斜繩文、沈線		榎林・最花		
145	15	風倒木	口唇貼付 (渦巻沈線)		榎林		

南盛土ボイント4出土土器観察表

図番号	番号	層位	文様	内面調整	分類	備考	通番
150	1	III-1	刺突、LR、逆U字沈線	ミガキ	最花	炭(外面)	726
150	2	III-1	折り返し状口縁	ミガキ	楓林・最花		731
150	3	III-1	RL、沈線	ミガキ	楓林・最花		733
150	4	III-1	RLR、沈線	ミガキ	最花		732
150	5	III-1	LR、沈線	ミガキ	大木系	炭(外面)	727
150	6	III-1	RL、沈線	ミガキ	最花		734
150	7	III-1	LR、沈線	ミガキ	最花	炭(外面)	728
151	1	III-2a	無文帶	ミガキ	最花		736
151	2	III-2a	折り返し状口縁	ミガキ	大木系		737
151	3	III-2a	沈線	ミガキ	楓林		740
151	4	III-2a	RL、沈線	ミガキ	楓林・最花		738
151	5	III-2a	RL、沈線、円形刺突	ミガキ	楓林・最花		735
151	7	III-2b	LR、沈線	ミガキ	楓林		742
151	8	III-2b	波状口縁、斜行縄文(LR?)	ミガキ	大木系	器面摩滅	745
151	9	III-2b	LR		大木系	器面摩滅	744
151	10	III-2b	斜行縄文、沈線		楓林		743
151	11	III-2b	LR、沈線		楓林		747
151	12	III-2b	沈線		大木系		746
151	13	III-3	LR押、貼付、沈線		上e		753
151	14	III-3	貼付(RL押)	ミガキ	上d		750
151	15	III-3	貼付		上d		749
151	16	III-3	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		748
151	17	III-3	RLR、沈線	ミガキ	楓林		752
151	18	III-3	沈線		大木系		754
151	19	III-3	渦巻き沈線	ミガキ	楓林		756
151	21	III-4b	口縁突起、貼付、ヘラ刻み	ミガキ	上d		757
151	22	III-4b	結束第一種縦位、貼付		上d		758
151	23	III-4b	貼付、L押、刺突	ミガキ	下d2		759
151	24	III-4b	波状口縁、沈線		上e		760
152	1	III-5a	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		762
152	2	III-5a	LR	ミガキ	大木系		761
152	3	III-5a	口唇凹状沈線	ミガキ	楓林		763
152	7	III-5b	LR、RL、貼付	ミガキ	上d		768
152	8	III-5b	貼付、RL		上層		770
152	9	III-5b	波状口縁、RL、沈線	ミガキ	楓林		775
152	10	III-5b	LR、沈線	ミガキ	上e・楓林		766
152	11	III-5b	RL、沈線	ミガキ	楓林・最花		769
153	1	III-7	貼付(R押)、刺突		上c		779
153	2	III-7	RL、LR、貼付	ミガキ	上d		782
153	3	III-7	貼付、L押	ミガキ	上d		781
153	4	III-7	貼付	ミガキ	上d		778
153	5	III-7	RL、沈線		中期		777
154	1	III-9	貼付、RL押、結束第一種	ナデ	上d・e	突起内面に盲孔	4555
154	2	III-9	RL、貼付	ミガキ	上d		783
154	3	III-9	RL、貼付	ミガキ	上d		786
154	4	III-9	結束第一種、L押	ミガキ	上層		784
155	1	III-10a	口縁突起、RL、貼付	ミガキ	上d	突起内面に盲孔	792
155	2	III-10a	口縁突起、RL、貼付	ミガキ	上d	突起内面に盲孔	787
155	3	III-10a	口縁貼付、RL押、RL	ミガキ	上d		802
155	4	III-10a	弁状突起、貫通孔、貼付(R押)	ミガキ	上d		800
155	5	III-10a	口縁突起、RL、貼付	ミガキ	上d		803
155	6	III-10a	RL、貼付	ミガキ	上d		791
155	7	III-10a	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		794
155	8	III-10a					789
155	9	III-10a	RL、貼付	ミガキ	上d		805
156	1	III-10a	RL、貼付	ミガキ	上d		790
156	2	III-10a	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		788
156	3	III-10a	RL、貼付	ミガキ	上d		798
156	4	III-10a	結束第一種、貼付	ミガキ	上d		807
156	5	III-10a	結束第一種、貼付(L押)	ミガキ	上d	浅鉢	795
156	6	III-10a	RL、貼付	ミガキ	上d		799
157	1	III-10b	LR押、結束第一種、貼付(R押)	ミガキ	上d		4201
157	2	III-10b	口縁突起、橋状把手、LR押	ミガキ	上a		814
157	3	III-10b	貼付(L押)、L・R押、単絡1押	ミガキ	上b	浅鉢	811
157	4	III-10b	波状口縁、貼付(L押)、L・R押、単絡1押	ミガキ	上b		812
157	5	III-10b	結束第一種、貼付(RL)	ミガキ	上層		810
159	1	III-10c	貼付	ミガキ	上c・d		816

図番号	番号	層位	文様	内面調整	分類	備考	通番
159	2	III-10c	RL、貼付	ミガキ	上d		815
159	3	III-10c	結束第一種 (RL、?)、貼付	ミガキ	上d		819
160	1	III-11	L押、R押		上a		824
160	2	III-11	貼付 (L押)、L押	ミガキ	上a・b		822
160	3	III-11	貼付 (L押)	ミガキ	上層		823
160	4	III-11	RL、貼付	ミガキ	上d		821
160	8	III-12	貼 (L押)、LR押、爪形刺突		上c		826
160	10	III-13a	LR (結縛)、L・R押	ミガキ	上b		827
161	1	III-15	貼付 (L押)、L押、刺突、結束第一種	ミガキ	上c		4707
161	2	III-15	LR、R結回		上層		4714
161	3	III-15	LR	ミガキ	上層		4690
161	4	III-15	結束第一種	ミガキ	上層		4704
162	1	III-15	貼付、單絡5、單絡1	ミガキ	下b	織維混入	833
162	2	III-15	口唇へラ刻み、R押	ミガキ	下d2		831
162	3	III-15	波状口線、口唇貼付、L押	ミガキ	上a・b		829
162	4	III-15	貼付 (R単絡1押)、R単絡1押		下d2		830
162	5	III-15	細沈線	ミガキ	上e?		828
163	5	III-16	口縁突起、貼付、LR押	ミガキ	上a・b		836
164	1	794埋設	貼付 (LR押)、LR押、結束第一種	ミガキ	上a		4687
164	2	794埋設	LR押	ミガキ	上層		838
164	3	794埋設	貼付	ミガキ	下d2		837

南盛土1トレンチ出土石器観察表

図-No.	出土地点	層位	長	幅	厚	重さ	石質	分類	備考	整理番号
図35-7	南盛土1トレ	---	71	24	10	12.6	珪質	B	S-1	南拡1トレ-SNo有-001
図35-10	南盛土1トレ	---	(47)	(82)	50	(204.8)	安	L	S-1	南拡1トレ-SNo有-104
図37-3	南盛土1トレ	VIL-120	III-6	38	14	7	3.1	珪質	A b	S-3
図38-6	南盛土1トレ	VIK-120	III-16	41	15	6	3.0	珪質	A b	S-2
図38-7	南盛土1トレ	VIK-120	III-16	81	25	17	28.7	珪質	G a	S-1
図39-4	南盛土1トレ	VIK-120	III-19	68	55	18	44.2	珪質	P c	S-1
図39-5	南盛土1トレ	VIL-120	III-19	(61)	(98)	77	(530.0)	安	L	S-3
図39-6	南盛土1トレ	VIL-120	III-19	(87)	(22)	(42)	(78.4)	安	I c	S-2
図39-14	南盛土1トレ	VIL-120	III-22	(29)	13	7	(1.7)	珪質	A c	S-2
図39-15	南盛土1トレ	VIK-120	III-22	37	20	13	7.6	珪質	A	未製品S-1
図40-8	南盛土1トレ	VIL-120	III-26	38	29	11	9.3	珪質	G a	石錐の可能性もあり
図40-9	南盛土1トレ	VIL-120	III-26	(51)	(31)	(33)	(74.9)	安	I c	S-2
図40-10	南盛土1トレ	VIL-120	III-26	(32)	(34)	(45)	(50.3)	安	I c	S-1
図40-11	南盛土1トレ	VIL-120	III-26	(44)	(35)	(58)	(70.6)	安	I c	
図41-11	南盛土1トレ	VIM-120	III-31	50	24	10	9.5	珪質	B	未製品S-4
図41-12	南盛土1トレ	VIK-120	III-31	71	47	15	40.2	珪質	G c	S-2
図41-13	南盛土1トレ	VIK-120	III-31	(107)	(56)	40	(319.2)	安	I c	S-2
図41-14	南盛土1トレ	VIK-120	III-31	(73)	78	51	(392.0)	安	I c	
図41-15	南盛土1トレ	VIK-120	III-31	49	49	61	187.4	凝	I b	S-2
図42-4	南盛土1トレ	VIK-120	III-32	(31)	13	6	(1.6)	珪質	A a	茎部にアスファルト付着 S-2
図42-5	南盛土1トレ	VIK-120	III-32	41	42	11	8.2	珪質	G c	S-1
図42-15	南盛土1トレ	VIK-120	III-36	50	24	11	10.7	珪質	B	未製品S-1
図43-3	南盛土1トレ	VIL-120	III-38	33	33	8	6.3	珪質	C b	
図43-4	南盛土1トレ	VIL-120	III-38	59	44	12	26.2	質	G c	S-2
図44-13	南盛土1トレ	VIL-120	III-39	(29)	16	6	(2.3)	珪質	A a	
図44-14	南盛土1トレ	VIL-120	III-39	(24)	24	9	(3.9)	珪質	G a	
図44-15	南盛土1トレ	VIL-120	III-39	(33)	(31)	6	(5.9)	珪質	G a	
図45-2	南盛土1トレ	VIL-120	III-47	27	12	5	1.3	珪質	A b	S-1
図45-3	南盛土1トレ	VIL-120	III-47	(41)	14	7	(3.9)	珪質	A a	S-2
図45-14	南盛土1トレ	VIL-120	III-50	54	21	14	12.3	珪質	G c	被熱
図45-15	南盛土1トレ	VIM-120	III-50	62	22	10	11.1	珪質	R	S-1
図46-4	南盛土1トレ	VIL-120	III-51	66	55	14	34.2	珪質	P c	
図46-13	南盛土1トレ	VIL-120	III-52	115	80	69	782.2	安	I c	S-1
図47-5	南盛土1トレ	VIL-120	III-57	41	16	7	3.2	珪質	A a	S-2
図47-6	南盛土1トレ	VIK-120	III-57	44	31	16	12.2	チャート	P c	被熱 S-1
図47-7	南盛土1トレ	VIK-120	III-57	54	27	16	16.3	珪質	B	未製品S-1
図47-8	南盛土1トレ	VIL-120	III-57	71	37	18	45.9	珪質	D	
図48-14	南盛土1トレ	VIL-120	III-62	28	13	5	1.4	珪質	A b	S-1
図48-15	南盛土1トレ	VIL-120	III-62	49	17	8	4.1	珪質	A b	S-1 茎部にアスファルト付着
図48-18	南盛土1トレ	VIK-120	III-66	24	11	6	1.9	珪質	A b	S-1
図48-19	南盛土1トレ	VIK-120	III-66	46	30	9	7.0	珪質	G a	
図49-6	南盛土1トレ	VIL-120	III-67	(38)	16	7	(2.9)	珪質	A	被熱
図49-7	南盛土1トレ	VIL-120	III-67'	74	44	34	106.8	安	I b・I a	
図49-10	南盛土1トレ	VIL-120	III-69	32	35	8	5.4	珪質	P c	
図50-4	南盛土1トレ	VIL-120	III-70	(35)	11	6	2.1	珪質	A b	S-1
図50-6	南盛土1トレ	VIK-120	III-71	27	11	5	1.3	珪質	A b	S-1
図50-7	南盛土1トレ	VIK-120	III-71	33	12	6	2.2	珪質	A c	S-2
図51-4	南盛土1トレ	VIK-120	III-72	42	30	17	21.4	珪質	G a	剥落
図51-5	南盛土1トレ	VIL-120	III-72	29	26	10	7.2	珪質	G a	
図51-6	南盛土1トレ	VIL-120	III-72	(18)	25	7	(2.3)	珪質	G	
図51-7	南盛土1トレ	VIK-120	III-72	(34)	65	11	(22.5)	珪質	P c	被熱
図51-8	南盛土1トレ	VIK-120	III-72	41	30	12	10.2	珪質	G c	
図52-7	南盛土1トレ	VIK-120	III-80	(33)	16	6	(2.2)	珪質	A a	S-1
図53-5	南盛土1トレ	VIL-120	III-83	42	22	7	5.0	珪質	G a	
図53-6	南盛土1トレ	VIL-120	III-83	38	28	9	6.6	珪質	G a	
図53-7	南盛土1トレ	VIL-120	III-83	48	47	16	30.9	珪質	G b	
図53-8	南盛土1トレ	VIM-120	III-83	84	39	13	42.9	珪質	G c	S-1
図53-12	南盛土1トレ	VIK-120	III-84	(22)	18	6	(1.9)	珪質	A	欠損
図54-6	南盛土1トレ	VIL-120	III-87	(27)	28	8	(5.9)	珪質	C a?	縦形石匙木端部か?
図55-8	南盛土1トレ	VIK-120	III-88	30	30	4	3.5	珪質	G c	
図55-9	南盛土1トレ	VIK-120	III-88	66	34	15	24.3	珪質	G c	末端部に整形加工
図55-10	南盛土1トレ	VIK-120	III-88	43	57	44	117.6	珪質	P a	
図56-3	南盛土1トレ	VIL-120	III-95	32	12	7	2.3	珪質	G	
図56-4	南盛土1トレ	VIL-120	III-95	38	21	6	3.5	珪質	G a	
図56-5	南盛土1トレ	VIL-120	III-95	66	40	17	27.2	珪質	G a	
図56-10	南盛土1トレ	VIL-120	III-96	31	24	23	18.9	安	Q	S-1
図56-11	南盛土1トレ	VIL-120	III-96	(30)	(54)	(31)	(79.1)	凝	Q	すす付着 S-1
図57-9	南盛土1トレ	VIL-120	III-100	48	26	8	8.9	珪質	A	未製品
図57-10	南盛土1トレ	VIL-120	III-100	39	46	14	15.3	メノウ	G c	
図57-11	南盛土1トレ	VIL-120	III-100	54	35	16	22.9	珪質	G a	
図57-12	南盛土1トレ	VIL-120	III-100	49	36	12	12.3	珪質	G a	
図57-13	南盛土1トレ	VIL-120	III-100	(69)	(29)	(52)	(107.0)	凝	I c	

図-No.	出土地点		層位	長	幅	厚	重さ	石質	分類	備考	整理番号
図58-6	南盛土 1トレ		VII-120	III-102	46	31	8	8.5	珪質	G c	南拡1トレーハク-0198
図59-6	南盛土 1トレ		VII-120	III-104	24	36	10	4.3	珪質	G c	南拡1トレーハク-0207
図59-7	南盛土 1トレ		VII-120	III-104	36	27	6	2.8	珪質	G c	南拡1トレーハク-0208
図60-7	南盛土 1トレ		VII-120	III-105	(39)	16	7	(3.1)	珪質	A a	南拡1トレーハク-0370
図61-18	南盛土 1トレ		VII-120	III-106	(79)	(46)	42	(249.1)	安	I b・I c	南拡1トレーレキ-0041
図63-1	南盛土 1トレ		VII-120	III-107	28	17	6	1.3	珪質	G a	S-2 アスファルト付着
図63-2	南盛土 1トレ		VII-120	III-107	33	54	16	20.9	珪質	P c	S-2
図63-3	南盛土 1トレ		VII-120	III-107	57	37	17	33.1	珪質	G c	S-2
図63-4	南盛土 1トレ		VII-120	III-107	31	25	10	5.6	珪質	A	未製品S-2
図63-5	南盛土 1トレ		VII-120	III-107	(72)	(61)	(34)	(125.2)	凝	I b・I a	S-2
図63-6	南盛土 1トレ		VII-120	III-107	(80)	61	(29)	(154.1)	凝	Q	寸寸付着 S-1
図63-7	南盛土 1トレ		VII-120	III-107	92	86	47	72.8	軽/スコア	T b	全面磨り・全面黒化
図63-8	南盛土 1トレ		VII-120	III-107	(99)	91	42	(549.8)	安	I c	被熱 S-2
図64-5	南盛土 1トレ		VII-120	III-108	150	61	58	792.1	安	I b・I a	寸寸付着 S-1
図66-1	南盛土 1トレ		VII-120	III-109	38	16	7	2.9	珪質	A b	
図66-2	南盛土 1トレ		VII-120	III-109	33	55	13	25.3	珪質	G c	
図66-3	南盛土 1トレ		VII-120	III-109	87	86	61	663.9	安	I c・I b	
図67-8	南盛土 1トレ		VII-120	III-110	55	28	10	8.9	珪質	G c	
図67-9	南盛土 1トレ		VII-120	III-110	(48)	50	29	(16.1)	軽	T b	全面磨り
図68-7	南盛土 1トレ		VII-120	III-112	80	53	42	193.6	凝	I b・I a	S-1
図68-9	南盛土 1トレ		VII-120	III-113	64	46	9	13.5	珪質	G a	被熱
図69-3	南盛土 1トレ		VII-120	III-115	(124)	63	56	(584.5)	安	I c・I b	S-2
図70-3	南盛土 1トレ		VII-120	III-119	48	21	9	7.0	珪質	G c	
図70-4	南盛土 1トレ		VII-120	III-119	54	54	15	39.7	珪質	G b	
図71-4	南盛土 1トレ		VII-120	III-124	34	16	7	3.0	珪質	A f	基部にアスファルト付着? S-1
図71-5	南盛土 1トレ		VII-120	III-124	(40)	(25)	18	(3.0)	軽	T b	全面磨り
図71-11	南盛土 1トレ		VII-120	III-125	(25)	18	6	(2.4)	珪質	A a	S-1
図72-5	南盛土 1トレ		VII-120	III-128	50	71	39	107.3	珪質	P c	
図72-6	南盛土 1トレ		VII-120	III-128	44	30	10	9.7	珪質	G a	
図73-7	南盛土 1トレ		VII-120	III-131	(61)	35	17	(37.2)	珪質	E	S-1
図73-9	南盛土 1トレ		VII-120	III-132	(45)	14	7	(3.7)	珪質	A a	尖頭部に衝撃剝離
図73-10	南盛土 1トレ		VII-120	III-132	36	33	12	10.4	珪質	G a	
図74-12	南盛土 1トレ		VII-120	III-133	54	77	19	57.8	珪質	G a	
図75-15	南盛土 1トレ		VII-120	III-140	(87)	53	(35)	(148.7)	真	I b	
図78-1	南盛土 1トレ		VII-120	III-145直上	43	29	10	8.9	珪質	G a	
図78-2	南盛土 1トレ		VII-120	III-145直上	44	51	15	19.3	珪質	G c	
図78-3	南盛土 1トレ		VII-120	III-145直上	28	42	9	7.6	珪質	G c	
図78-4	南盛土 1トレ		VII-120	III-145直上	43	29	11	7.6	珪質	G a	
図78-5	南盛土 1トレ		VII-120	III-145直上	76	47	57	253.9	安	I b	
図79-9	南盛土 1トレ		---	III-145	25	27	10	5.4	珪質	G a	被熱
図79-10	南盛土 1トレ		VII-120	III-145	(124)	81	49	(621.9)	安	I b・I c	
図79-11	南盛土 1トレ		VII-120	III-145	(59)	33	17	(31.1)	珪質	B? E?	石籠か 石槍か S-1
図80-1	南盛土 1トレ		---	III	28	18	8	3.1	玉髓	A	未製品
図80-2	南盛土 1トレ		---	III	24	22	7	3.7	珪質	F	
図80-3	南盛土 1トレ		---	III	35	23	9	4.9	珪質	G c	
図80-4	南盛土 1トレ		---	III	(47)	28	10	(12.9)	珪質	B	未製品
図80-5	南盛土 1トレ		---	III	45	27	13	12.9	珪質	B	未製品
図80-6	南盛土 1トレ		---	III	103	67	31	245.9	鉄石英	G a	
図80-7	南盛土 1トレ		---	III	(47)	(51)	(23)	(56.6)	安	I c	
図80-8	南盛土 1トレ		---	III	(56)	(66)	(66)	(224.1)	安	I c	
	記入なし										

南盛土 4 トレーンチ出土石器観察表

図82-10	南盛土 4トレ	VIN-120	III-1	39	13	7	2.5	珪質	G a		南拡4トレーハク-0009
図82-11	南盛土 4トレ	VIN-120	III-1	(34)	25	8	(5.4)	珪質	G		南拡4トレーハク-0018
図82-12	南盛土 4トレ	VIN-120	III-1	38	19	6	4.3	珪質	G		南拡4トレーハク-0017
図82-13	南盛土 4トレ	VIN-120	III-1	53	26	13	13.7	珪質	G		南拡4トレーハク-0026
図82-14	南盛土 4トレ	VIN-120	III-1	52	22	13	14.0	珪質	G		南拡4トレーハク-0014
図83-17	南盛土 4トレ	VII-120	III-5	29	18	9	3.7	珪質	P c		南拡4トレーハク-0966
図83-18	南盛土 4トレ	VII-120	III-5	18	38	8	2.6	珪質	D		南拡4トレーハク-0965
図83-19	南盛土 4トレ	VII-120	III-5	46	20	8	4.9	珪質	G c		南拡4トレーハク-0068
図84-1	南盛土 4トレ	VII-120	III-5	38	40	11	12.4	珪質	R?	異形石器か	南拡4トレーハク-0071
図84-2	南盛土 4トレ	VII-120	III-5	40	31	11	13.0	珪質	G a		南拡4トレーハク-0075
図84-3	南盛土 4トレ	VII-120	III-5	55	43	20	47.5	珪質	G c		南拡4トレーハク-0072
図84-4	南盛土 4トレ	VII-120	III-5	49	26	13	11.3	珪質	P c		南拡4トレーハク-0964
図84-5	南盛土 4トレ	VII-120	III-5	58	43	11	18.3	珪質	G c		南拡4トレーハク-0069
図84-6	南盛土 4トレ	VII-120	III-5	49	55	15	23.3	珪質	G c		南拡4トレーレキ-0072
図84-7	南盛土 4トレ	VIN-120	III-5	178	86	77	1820.8	安	I c		南拡4トレーハク-0082
図86-4	南盛土 4トレ	VIN-120	III-11	(19)	36	9	(6.9)	珪質	G a		南拡4トレーハク-0083
図86-5	南盛土 4トレ	VIN-120	III-11	51	53	18	37.8	珪質	A a	被熱	南拡4トレーハク-0998、旧番21021
図86-18	南盛土 4トレ	VIN-120	III-17	(28)	16	6	(2.0)	珪質	I c・I b・I a		南拡4トレーレキ-0093
図86-19	南盛土 4トレ	VIN-120	III-17	(64)	42	(19)	(40.6)	凝	A	未製品	南拡4トレーハク-0097
図87-12	南盛土 4トレ	VIN-120	III-25	20	16	8	1.8	珪質	I c	全面磨っている	南拡4トレーレキ-0104
図87-13	南盛土 4トレ	VIN-120	III-25	(53)	(36)	(37)	(36.0)	安			

図-No	出土地点		層位	長	幅	厚	重さ	石質	分類	備考	整理番号
図87-14	南盛土 4トレ	VIN-120	III-25	(68)	(68)	(35)	(220.1)	安	I c		南拡4トレーハク-0106
図89-5	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	31	11	5	1.4	珪頁	A b		南拡4トレーハク-0968
図89-6	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	(31)	11	5	(1.7)	珪頁	D d	先端摩耗 石鎌の転用	南拡4トレーハク-0969
図89-7	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	(31)	(13)	8	(1.9)	珪頁	A	欠損	南拡4トレーハク-0148
図89-8	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	42	14	7	3.1	珪頁	A b		南拡4トレーハク-0967
図89-9	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	36	22	9	6.7	珪頁	A	未製品	南拡4トレーハク-0158
図89-10	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	32	15	8	3.1	珪頁	G c		南拡4トレーハク-0156
図89-11	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	(26)	15	6	(2.8)	珪頁	G c		南拡4トレーハク-0116
図89-12	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	38	21	10	6.9	珪頁	G c		南拡4トレーハク-0168
図89-13	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	52	22	8	6.5	珪頁	C a		南拡4トレーハク-0970
図89-14	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	60	20	8	7.8	珪頁	G c		南拡4トレーハク-0161
図89-15	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	45	34	8	7.9	珪頁	G c		南拡4トレーハク-0163
図90-1	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	58	57	9	10.2	珪頁	C a		南拡4トレーハク-0169
図90-2	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	46	38	15	17.6	珪頁	Q	被熱	南拡4トレーハク-0147
図90-3	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	34	53	18	24.5	珪頁	G a		南拡4トレーハク-0124
図90-4	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	(60)	(88)	(57)	(229.8)	真	I b	ハンマーか	南拡4トレーハク-0124
図90-5	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	(88)	70	47	(365.9)	安	I c		南拡4トレーハク-0160
図90-6	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	(141)	(121)	86	(1226.4)	凝	I b・I a		南拡4トレーハク-0126
図90-7	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	(60)	(39)	(50)	(91.6)	凝	I c		南拡4トレーハク-0155
図90-8	南盛土 4トレ	VIN-120	III-30	(42)	(77)	(42)	(121.2)	凝	M a		南拡4トレーハク-0158
図91-9	南盛土 4トレ	VIN-120	III-33	31	17	5	1.1	珪頁	G c		南拡4トレーハク-0174
図91-10	南盛土 4トレ	VIN-120	III-33	28	28	5	4.3	珪頁	G c		南拡4トレーハク-0179
図91-11	南盛土 4トレ	VIN-120	III-33	52	29	12	12.3	珪頁	G c		南拡4トレーハク-0180
図91-12	南盛土 4トレ	VIN-120	III-33	(81)	(49)	(23)	(89.7)	凝	I c		南拡4トレーハク-0165
図92-4	南盛土 4トレ	VIN-120	III-34	28	15	5	0.9	珪頁	G c		南拡4トレーハク-0185
図92-5	南盛土 4トレ	VIN-120	III-34	55	46	15	36.5	玉髓	G a		南拡4トレーハク-0197
図94-10	南盛土 4トレ	VIN-120	III-35	29	16	5	1.7	珪頁	G c		南拡4トレーハク-0205
図94-11	南盛土 4トレ	VIN-120	III-35	31	22	6	2.6	珪頁	A f		南拡4トレーハク-0971
図94-12	南盛土 4トレ	VIN-120	III-35	33	25	11	10.4	珪頁	G b		南拡4トレーハク-0214
図95-1	南盛土 4トレ	VIN-120	III-35	97	90	57	534.8	真	I b	ハンマーか	南拡4トレーハク-0170
図96-7	南盛土 4トレ	VIN-120	III-40	(118)	63	42	(530.4)	デイサイト	U a		南拡4トレーハク-0172
図98-1	南盛土 4トレ	VIN-120	III-44	35	25	8	6.0	珪頁	G a		南拡4トレーハク-0227
図98-2	南盛土 4トレ	VIN-120	III-44	117	80	49	619.4	安	I c		南拡4トレーハク-0179
図98-3	南盛土 4トレ	VIN-120	III-44	44	45	45	110.8	安	I b		南拡4トレーハク-0175
図99-8	南盛土 4トレ	VIN-120	III-48	(28)	13	4	(1.5)	珪頁	A b		南拡4トレーハク-0973
図99-9	南盛土 4トレ	VIN-120	III-48	(25)	14	5	(1.7)	珪頁	A b		南拡4トレーハク-0974
図99-10	南盛土 4トレ	VIN-120	III-48	(25)	17	7	(2.4)	珪頁	A a		南拡4トレーハク-0972
図99-11	南盛土 4トレ	VIN-120	III-48	(35)	22	7	(4.3)	珪頁	B	未製品	南拡4トレーハク-0253
図99-12	南盛土 4トレ	VIN-120	III-48	42	14	5	2.6	珪頁	A a		南拡4トレーハク-0975
図99-13	南盛土 4トレ	VIN-120	III-48	50	42	19	24.2	珪頁	R		南拡4トレーハク-0279
図99-14	南盛土 4トレ	VIN-120	III-48	72	36	.26	93.8	凝	I b		南拡4トレーハク-0191
図100-1	南盛土 4トレ	VIN-120	III-49	(142)	(101)	(28)	(296.1)	デイサイト	L ?		南拡4トレーハク-0196
図100-2	南盛土 4トレ	VIN-120	III-49	(233)	(219)	(66)	(2500.0)	安	L ?	台石か	
図101-8	南盛土 4トレ	VIN-120	III-50	(25)	15	7	(2.5)	玉髓	A		南拡4トレーハク-0976
図101-9	南盛土 4トレ	VIN-120	III-50	(93)	81	47	(350.8)	安	I c・I b		南拡4トレーハク-0198+0253+0488
図101-14	南盛土 4トレ	VIN-120	III-51	35	13	10	2.4	珪頁	D	アスファルト付着	南拡4トレーハク-0322
図101-15	南盛土 4トレ	VIN-120	III-51	(50)	(83)	(68)	(175.3)	安	I c		南拡4トレーハク-0207
図102-7	南盛土 4トレ	VIN-120	III-55	(30)	16	6	(2.9)	珪頁	A a	墓部にアスファルト付着	南拡4トレーハク-0979
図102-8	南盛土 4トレ	VIN-120	III-55	(28)	15	6	(2.5)	珪頁	A b		南拡4トレーハク-0977
図102-9	南盛土 4トレ	VIN-120	III-55	(39)	15	8	(3.8)	珪頁	A a		南拡4トレーハク-0978
図102-10	南盛土 4トレ	VIN-120	III-55	39	22	7	5.6	玉髓	A	未製品	南拡4トレーハク-0980
図102-11	南盛土 4トレ	VIN-120	III-55	48	35	8	8.0	珪頁	G c		南拡4トレーハク-0343-4
図102-12	南盛土 4トレ	VIN-120	III-55	(24)	29	8	(5.9)	珪頁	G a		南拡4トレーハク-0343-1
図103-1	南盛土 4トレ	VIN-120	III-55	57	37	13	17.4	珪頁	G c		南拡4トレーハク-0343-2
図103-2	南盛土 4トレ	VIN-120	III-55	74	36	23	56.0	珪頁	G b		南拡4トレーハク-0392
図103-3	南盛土 4トレ	VIN-120	III-55	52	62	39	98.0	珪頁	P a		南拡4トレーハク-0393
図103-4	南盛土 4トレ	VIN-120	III-55	44	52	16	31.7	珪頁	G c		南拡4トレーハク-0391
図103-5	南盛土 4トレ	VIN-120	III-55	32	37	19	18.8	メノウ	G a		南拡4トレーハク-0343-3
図103-6	南盛土 4トレ	VIN-120	III-55	(39)	(40)	(30)	(56.7)	デイサイト	I c・I b		南拡4トレーハク-0222
図104-4	南盛土 4トレ	VIN-120	III-56	(112)	(117)	(32)	(641.8)	安	M a		南拡4トレーハク-0229
図104-14	南盛土 4トレ	VIN-120	III-57	27	18	7	2.1	珪頁	A a		南拡4トレーハク-0982
図105-15	南盛土 4トレ	VIN-120	III-57	32	13	5	1.9	珪頁	A		南拡4トレーハク-0981
図106-1	南盛土 4トレ	VIN-120	III-57	(38)	34	8	(9.8)	珪頁	C a	刀部に光沢あり	南拡4トレーハク-0424
図106-2	南盛土 4トレ	VIN-120	III-57	(116)	(68)	52	(595.5)	安	I c	S-5	南拡4トレーハク-0494
図106-3	南盛土 4トレ	VIN-120	III-57	144	93	58	733.1	凝	I b・I a	S-1	南拡4トレーハク-0490
図106-4	南盛土 4トレ	VIN-120	III-57	(39)	(62)	(17)	(40.2)	砂	S		南拡4トレーハク-0244
図106-5	南盛土 4トレ	VIN-120	III-57	127	94	62	954.6	安	I c・I b	S-2	南拡4トレーハク-0491
図108-3	南盛土 4トレ	VIN-120	III-58	56	46	11	18.4	珪頁	G a		南拡4トレーハク-0462
図108-4	南盛土 4トレ	VIN-120	III-58	26	18	4	1.4	珪頁	P c	被熱	南拡4トレーハク-0457
図108-5	南盛土 4トレ	VIN-120	III-58	44	15	6	3.1	珪頁	A b	アスファルト付着	南拡4トレーハク-0983
図109-1	南盛土 4トレ	VIN-120	III-58・59	28	17	7	2.3	珪頁	G c		南拡4トレーハク-0468
図109-2	南盛土 4トレ	VIN-120	III-58・59	40	22	9	6.0	珪頁	A	未製品	南拡4トレーハク-0984
図109-3	南盛土 4トレ	VIN-120	III-58・59	57	55	42	134.7	凝	I b		南拡4トレーハク-0257

図-No	出土地点		層位	長	幅	厚	重さ	石質	分類	備考	整理番号	
図110-6	南盛土 4トレ	VIN-120	III-60	68	28	12	26.6	珪質	E		南拡4トレーハク-0985	
図111-7	南盛土 4トレ	VIM-120	III-64	(46)	19	7	(4.6)	珪質	A a		南拡4トレーハク-0999, 旧番21020	
図111-10	南盛土 4トレ	VIM-120	III-65	(41)	31	12	(10.3)	珪質	G c		南拡4トレーハク-0506	
図112-8	南盛土 4トレ	VIM-120	III-69	(32)	13	6	(2.5)	珪質	A	茎部にアスファルト付着 尖頭部摩耗	南拡4トレーハク-0986	
図112-9	南盛土 4トレ	VIM-120	III-69	44	32	8	9.3	珪質	G a		南拡4トレーハク-0517	
図112-10	南盛土 4トレ	VIM-120	III-69	53	51	16	18.6	珪質	G c		南拡4トレーハク-0519	
図114-2	南盛土 4トレ	VIN-120	III-75	74	40	15	30.6	珪質	C a		南拡4トレーハク-1000, 旧番22724	
図114-5	南盛土 4トレ	VIN-120	III-76	79	57	22	50.9	珪質	G c		南拡4トレーハク-0548	
図115-4	南盛土 4トレ	VIN-120	III-80	(78)	(52)	(31)	(161.1)	デイサイト	U a・I b		南拡4トレーハク-0295	
図115-11	南盛土 4トレ	VIO-120	III-81	(92)	(82)	(42)	(190.1)	安	J	抉りあり	南拡4トレーハク-0297	
図115-12	南盛土 4トレ	VIO-120	III-81	90	64	32	63.5	軽	T b	全面磨り	南拡4トレーハク-0542	
図118-2	南盛土 4トレ	VIN-120	III-82	52	53	39	126.4	安	I b		南拡4トレーハク-0322	
図121-1	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	26	10	5	1.2	珪質	A c		南拡4トレーハク-0987	
図121-2	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	(38)	14	9	(3.8)	珪質	A	茎部にアスファルト付着	南拡4トレーハク-0988	
図121-3	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	(39)	17	6	(3.1)	珪質	A		南拡4トレーハク-0989	
図121-4	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	(43)	18	7	(5.3)	珪質	A a		南拡4トレーハク-0990	
図121-5	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	(44)	19	9	(6.4)	玉髓	A	未製品	南拡4トレーハク-0991	
図121-6	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	53	64	19	73.0	珪質	G a		南拡4トレーハク-0693	
図121-7	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	32	34	6	6.0	玉髓	G a		南拡4トレーハク-0679	
図121-8	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	(19)	(30)	(12)	(3.3)	珪質	G a		南拡4トレーハク-0649	
図121-9	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	70	80	28	93.3	珪質	P c		南拡4トレーハク-0696	
図122-1	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	65	49	13	31.2	珪質	G a		南拡4トレーハク-0697	
図122-2	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	46	57	17	29.0	珪質	G a	尖頭状の刃部? 石錐?	南拡4トレーハク-0692	
図122-3	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	56	43	21	32.4	珪質	G a		南拡4トレーハク-0695	
図122-4	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	(92)	(50)	(15)	(64.0)	凝	I c		南拡4トレーハク-0337	
図122-5	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	123	64	44	501.8	安	I b		南拡4トレーハク-0343	
図122-6	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	131	74	57	548.8	貞	I b		南拡4トレーハク-0342	
図123-1	南盛土 4トレ	VIN-120	III-83	177	85	54	1228.0	安	I b		南拡4トレーハク-0326	
図123-2	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	46	50	42	130.4	凝	I b		南拡4トレーハク-0340	
図123-3	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	61	37	37	21.1	軽	T b	全面磨り	南拡4トレーハク-0558	
図123-4	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	60	33	29	15.2	軽	T b	全面磨り	南拡4トレーハク-0556	
図123-5	南盛土 4トレ	VIO-120	III-83	45	35	19	6.1	軽	T b	全面磨り	南拡4トレーハク-0554	
図124-8	南盛土 4トレ	VIN-120	III-84	52	(51)	17	(36.9)	珪質	G a		南拡4トレーハク-0718	
図124-9	南盛土 4トレ	VIN-120	III-84	113	98	51	672.0	凝	I b・I a		南拡4トレーハク-0353	
図124-10	南盛土 4トレ	VIN-120	III-84	(43)	(41)	(11)	(10.6)	凝	I c		南拡4トレーハク-0348	
図124-11	南盛土 4トレ	VIN-120	III-84	31	18	17	2.2	軽	T b	全面磨り	南拡4トレーハク-0564	
図125-2	南盛土 4トレ	VIN-120	III-85	(39)	(43)	(40)	(69.9)	デイサイト	U a		南拡4トレーハク-0354	
図126-6	南盛土 4トレ	VIO-120	III-87	44	17	11	6.5	珪質	A	未製品	南拡4トレーハク-0992	
図126-7	南盛土 4トレ	VIN-120	III-87	56	54	21	57.9	珪質	P c		南拡4トレーハク-0726	
図126-8	南盛土 4トレ	VIO-120	III-87	(101)	69	21	(153.5)	凝	I b		南拡4トレーハク-0361	
図128-1	南盛土 4トレ	VIO-120	III-88	(58)	35	13	(32.2)	珪質	G a		南拡4トレーハク-0750	
図128-2	南盛土 4トレ	VIN-120	III-88	148	72	37	572.8	安	I b	すす付着	南拡4トレーハク-0362	
図133-8	南盛土 4トレ	VIN-120	III-89	32	17	6	1.8	珪質	G c		南拡4トレーハク-0752	
図133-9	南盛土 4トレ	VIO-120	III-89	43	16	8	3.6	珪質	G c		南拡4トレーハク-0789	
図133-10	南盛土 4トレ	VIO-120	III-89	50	32	11	14.5	珪質	E?	石籠か	南拡4トレーハク-0819	
図133-11	南盛土 4トレ	VIO-120	III-89	61	35	13	29.6	珪質	G a		南拡4トレーハク-0818	
図133-12	南盛土 4トレ	VIO-120	III-89	55	41	11	17.5	珪質	G a		南拡4トレーハク-0823	
図133-13	南盛土 4トレ	VIN-120	III-89	(45)	41	14	(19.9)	珪質	G c		南拡4トレーハク-0756	
図133-14	南盛土 4トレ	VIO-120	III-89	82	(66)	30	(39.9)	軽	T b	全面磨り	南拡4トレーハク-0590	
図136-1	南盛土 4トレ	VIO-120	III-89	(81)	(70)	(37)	(164.7)	安	J		南拡4トレーハク-0411	
図136-2	南盛土 4トレ	VIM-120	III-89	(125)	(77)	31	(388.5)	安	V·I b·I a		南拡4トレーハク-0364	
図136-3	南盛土 4トレ	VIO-120	III-89	99	83	60	636.1	安	I c·I b		南拡4トレーハク-0416	
図136-4	南盛土 4トレ	VIO-120	III-89	(67)	34	23	(17.9)	軽	T b	全面磨り	南拡4トレーハク-0588	
図136-5	南盛土 4トレ	VIO-120	III-89	113	59	43	422.9	デイサイト	U a		南拡4トレーハク-0417	
図136-6	南盛土 4トレ	VIO-120	III-89	78	(53)	(42)	(190.2)	凝	I b		南拡4トレーハク-0415	
図137-1	南盛土 4トレ	VIM-120	III-89'	(44)	16	7	(4.8)	珪質	A a		南拡4トレーハク-1001, 旧番21019	
図137-2	南盛土 4トレ	VIM-120	III-89'	(27)	18	7	(2.5)	珪質	A f		南拡4トレーハク-1002, 旧番21018	
図137-3	南盛土 4トレ	VIN-120	III-89'	39	42	11	14.7	珪質	G a		南拡4トレーハク-0769	
図137-4	南盛土 4トレ	VIN-120	III-89'	54	31	17	21.1	珪質	G a		南拡4トレーハク-0771	
図137-5	南盛土 4トレ	VIM-120	III-89'	50	44	12	18.5	珪質	G c		南拡4トレーハク-0774	
図137-6	南盛土 4トレ	VIN-120	III-89'	55	44	29	56.3	珪質	F	上面にコーン痕跡	南拡4トレーハク-0773	
図137-7	南盛土 4トレ	VIN-120	III-89'	28	50	11	13.2	珪質	P c		南拡4トレーハク-0770	
図138-1	南盛土 4トレ	VIN-120	III-89'	55	97	20	71.3	珪質	G c	刃部に光沢あり	南拡4トレーハク-0772	
図138-2	南盛土 4トレ	VIN-120	III-89'	85	80	21	96.6	凝	I c		南拡4トレーハク-0375	
図138-3	南盛土 4トレ	VIN-120	III-89'	217	257	71	5000.0	安	L		南拡4トレーハク-0376	
図139-7	南盛土 4トレ	VIO-120	III-90	91	66	55	409.4	安	I b		南拡4トレーハク-0432	
図139-8	南盛土 4トレ	VIO-120	III-90	(66)	64	22	(89.3)	貞	I b		南拡4トレーハク-0431	
図139-14	南盛土 4トレ	VIM-120	III-90	(38)	(28)	8	(6.5)	珪質	G a		南拡4トレーハク-0828	
図140-1	南盛土 4トレ	VIM-120	III-90	98	(60)	37	(223.1)	貞	H a	磨製石斧未製品か	南拡4トレーハク-0418	
図142-16	南盛土 4トレ	---	---	風倒木	(22)	14	5	(1.2)	珪質	A	茎部にアスファルト付着?	南拡4トレーハク-0993
図142-17	南盛土 4トレ	---	---	風倒木	33	16	4	1.1	珪質	A b	被熱	南拡4トレーハク-0994
図143-1	南盛土 4トレ	---	---	風倒木	(24)	17	5	(1.6)	珪質	A f	被熱	南拡4トレーハク-0995
図143-2	南盛土 4トレ	---	---	風倒木	56	27	14	16.7	珪質	B	未製品	南拡4トレーハク-0996

図-No.	出土地点	層位	長	幅	厚	重さ	石質	分類	備考	整理番号
図143-3	南盛土 4トレ	---	風倒木	52	21	11	9.3	珪頁	B	南拡4トレーハク-0906
図143-4	南盛土 4トレ	---	風倒木	51	24	8	6.0	珪頁	G c	南拡4トレーハク-0912
図143-5	南盛土 4トレ	---	風倒木	45	36	15	15.6	珪頁	G a	南拡4トレーハク-0926
図143-6	南盛土 4トレ	---	風倒木	51	27	10	11.1	珪頁	G a	南拡4トレーハク-0917
図143-7	南盛土 4トレ	---	風倒木	48	44	24	57.3	珪頁	G a	南拡4トレーハク-0933
図143-8	南盛土 4トレ	---	風倒木	50	32	9	9.3	珪頁	G c	南拡4トレーハク-0918
図143-9	南盛土 4トレ	---	風倒木	50	53	10	19.2	珪頁	G a	南拡4トレーハク-0927
図144-1	南盛土 4トレ	---	風倒木	39	22	5	3.7	珪頁	P c	被熱
図144-2	南盛土 4トレ	---	風倒木	30	54	45	55.8	珪頁	P a	コーン痕跡?
図144-3	南盛土 4トレ	VIN-120	風倒木	43	41	34	70.7	珪頁	P a	ハンマー?
図144-4	南盛土 4トレ	---	風倒木	82	55	17	37.8	珪頁	G	南拡4トレーハク-0936
図144-5	南盛土 4トレ	---	風倒木	(80)	(61)	21	(81.2)	砂	S	南拡4トレーレキ-0469
図144-6	南盛土 4トレ	VIN-120	風倒木	(60)	(61)	15	(89.0)	安	J	南拡4トレーレキ-0449
図146-1	南盛土 4トレ	VIN-120	風倒木10	(23)	12	4	(0.9)	珪頁	A a	茎部にアスファルト付着
図146-2	南盛土 4トレ	VI0-120	風倒木2?	(45)	(30)	11	(14.1)	珪頁	G	南拡4トレーハク-0997
図146-3	南盛土 4トレ	VIN-120	風倒木10	46	31	12	15.3	珪頁	G a	南拡4トレーハク-0948
図146-4	南盛土 4トレ	VIN-120	風倒木23	51	49	16	36.2	珪頁	P a	南拡4トレーハク-0960
図146-5	南盛土 4トレ	VI0-120	風倒木2?	72	31	17	67.1	頁	I b	南拡4トレーハク-0963
図146-6	南盛土 4トレ	VIN-120	風倒木23	31	41	23	10.1	蛭	T b	全面磨り
図147-1	南盛土 4トレ	---	III	42	36	10	8.6	珪頁	G a	南拡4トレーハク-0853
図147-2	南盛土 4トレ	---	III	48	50	15	28.8	珪頁	G a	南拡4トレーハク-0858
図147-3	南盛土 4トレ	---	III	65	51	27	71.6	珪頁	G a	尖頭状の刃部? 石錐?
図147-4	南盛土 4トレ	---	III	(82)	82	38	(310.7)	安	I c · I b	南拡4トレーレキ-0436
図147-5	南盛土 4トレ	---	III	(73)	37	19	(73.9)	凝灰岩	H a	被熱
図147-6	南盛土 4トレ	---	III	(54)	71	(20)	(110.9)	安	J	南拡4トレーハク-0862
図148-1	南盛土 4トレ	---	III	136	80	73	1147.9	安	I c	南拡4トレーレキ-0437
図148-2	南盛土 4トレ	---	III	154	92	57	1116.8	デイサイト	I c	南拡4トレーレキ-0438
図148-3	南盛土 4トレ	VI0-120	III	(43)	24	7	(6.7)	珪頁	G c	南拡4トレーハク-0837

南盛土ポイント4出土石器観察表

図150-8	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-1	31	12	5	1.8	珪頁	A c	未製品	南拡ボ4-ハク-0150
図150-9	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-1	(38)	29	14	(12.9)	珪頁	B ?	石槍か	南拡ボ4-ハク-0008
図151-6	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-2a	29	33	9	7.9	珪頁	G a		南拡ボ4-ハク-0014
図151-20	南盛土 ポイント4	VIL-120	III-3	(41)	(41)	(20)	(34.9)	安	V		南拡ボ4-レキ-0011
図151-25	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-4b	(30)	15	6	(2.5)	珪頁	A b	茎部にアスファルト付着?	南拡ボ4-ハク-0151
図152-4	南盛土 ポイント4	VIL-120	III-5a	27	17	6	2.0	珪頁	A b	被熱	南拡ボ4-ハク-0152
図152-5	南盛土 ポイント4	VIL-120	III-5a	(82)	63	31	(207.6)	安	I b · I c		南拡ボ4-レキ-0015
図152-6	南盛土 ポイント4	VIL-120	III-5a	80	45	25	67.5	珪頁	G a		南拡ボ4-ハク-0034
図153-6	南盛土 ポイント4	VIL-120	III-7	37	14	6	2.6	珪頁	A b		南拡ボ4-ハク-0154
図153-7	南盛土 ポイント4	VIL-120	III-7	(36)	14	8	(2.5)	珪頁	A		南拡ボ4-ハク-0153
図153-8	南盛土 ポイント4	VIL-120	III-7	60	37	7	12.9	珪頁	G a		南拡ボ4-ハク-0041
図153-9	南盛土 ポイント4	VIL-120	III-7	82	38	13	20.1	珪頁	G c		南拡ボ4-ハク-0039+0053
図153-10	南盛土 ポイント4	VIL-120	III-7	79	61	16	48.1	珪頁	G c		南拡ボ4-ハク-0044
図153-11	南盛土 ポイント4	VIL-120	III-8	32	16	6	1.9	珪頁	A f	基部にアスファルト付着?	南拡ボ4-ハク-0155
図154-5	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-9 · 10	41	42	19	27.1	珪頁	G c		南拡ボ4-ハク-0058
図154-6	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-9 · 10	31	12	4	1.0	珪頁	G c		南拡ボ4-ハク-0046
図154-7	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-9 · 10	55	38	19	30.4	珪頁	G a		南拡ボ4-ハク-0057
図158-1	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-10b	29	21	8	4.6	珪頁	F		南拡ボ4-ハク-0079
図158-2	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-10b	(34)	(16)	7	(3.6)	珪頁	G a		南拡ボ4-ハク-0085
図158-3	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-10b	63	38	13	21.3	珪頁	C a		南拡ボ4-ハク-0102
図158-4	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-10b	51	23	13	10.3	珪頁	G a		南拡ボ4-ハク-0099
図158-5	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-10b	46	27	13	7.8	珪頁	G c		南拡ボ4-ハク-0098
図158-6	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-10b	65	50	24	63.4	珪頁	G c		南拡ボ4-ハク-0103
図158-7	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-10b	40	21	18	4.5	蛭石	T b	全面磨り・一部黒化	南拡ボ4-レキ-0056
図159-4	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-10c	76	33	17	49.9	珪頁	G b		南拡ボ4-ハク-0116
図160-5	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-11	(41)	18	6	(3.9)	珪頁	A a		南拡ボ4-ハク-0156
図160-6	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-11	60	40	14	23.4	珪頁	P c	ガジリ	南拡ボ4-ハク-0135
図160-7	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-11	62	91	17	49.1	珪頁	C b		南拡ボ4-ハク-0136
図162-6	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-15	30	24	7	3.7	玉髓	G c		南拡ボ4-ハク-0138
図162-7	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-15	34	50	18	26.8	珪頁	P c		南拡ボ4-ハク-0140
図162-8	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-15	38	38	11	9.8	珪頁	G c		南拡ボ4-ハク-0142
図162-9	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-15	42	50	10	10.2	珪頁	P c		南拡ボ4-ハク-0144
図162-10	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-15	58	47	14	(20.7)	珪頁	G c		南拡ボ4-ハク-0146
図162-11	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-15	68	40	13	20.2	珪頁	G c		南拡ボ4-ハク-0141
図162-12	南盛土 ポイント4	VIM-120	III-15	60	47	15	25.7	珪頁	P c		南拡ボ4-ハク-0147

南盛土出土・石製品観察表

土偶

番号	出土地点	層位	計測値(mm)			文様		裏面	備考	整理番号	
			長さ	幅	厚さ	種類	表面				
56-6	VII-119	1トレンチ	III-95	(34)	(48)	(14)	無文	無文	土偶	腕部、右胸刺落痕	573
57-14	VII-119	1トレンチ	III-100	(58)	(64)	(22)	LR、LR押圧	LR、LR押圧	土偶	腕部	10127
66-4	VII-119	1トレンチ	III-109	(55)	(62)	(14)	R押	R押	土偶	腕部	347
74-13	VII-119	1トレンチ	III-133	(86)	(107)	(15)	無文、指痕	無文、指痕	土偶		403
85-1	VI0-119	4トレンチ	III-5	(51)	(61)	(29)	L押、半裁竹管状刺突	L押、半裁竹管状刺突	土偶	胸部	972
123-6	VI0-119	4トレンチ	III-83	(67)	(47)	(15)	LR押	LR押	土偶	腕部	398
158-8	VIM-119	ポイント4	III-10b	(73)	(72)	(27)	R・L押	R・L押	土偶	腕部、左胸上部に貫通孔	279
159-5	VIM-119	ポイント4	III-10c	(33)	(39)	(18)	無文	無文	土偶	脚部、中心に貫通孔	188
163-1	VIM-119	ポイント4	III-15	(77)	(57)	(28)	R押、刺突	R押、回線	土偶	胸部、ヘラ状工具による刺突	341
163-2	VIM-119	ポイント4	III-15	(35)	(31)	(14)	無文	無文	土偶	腕部	988
163-3	VIM-119	ポイント4	III-15	(55)	(54)	(19)	無文	無文	土偶	顔～胸部、頭部付近貼り付けの痕跡	979
163-4	VIM-119	ポイント4	III-15	(33)	(25)	(14)	無文	無文	土偶	腕部	987

土製品

番号	出土地点	層位	計測値(mm)			重さ(g)	表面	裏面	種類	備考	整理番号
			長さ	幅	厚さ						
41-16	VII-119	1トレンチ	III-31	34	35	11	8.6	無文、指跡	三角形土製品	砂粒の混入少なく、胎土良好	1074
44-16	VII-119	1トレンチ	III-39	57	27	16	18.3		焼成粘土塊		7327
63-9	VII-119	1トレンチ	III-107	25	33	16	8.0	指紋	焼成粘土塊		7233
74-14	VII-119	1トレンチ	III-133	39	(35)	(25)	(28.8)	親指跡	焼成粘土塊		7280
75-4	VII-119	1トレンチ	III-136	16	31	16	8.0		土製垂飾	砂粒混入	1399
91-1	VIM-119	4トレンチ	III-30	14	12	13	1.7		土製垂飾(土玉)	上下端にヘラ状工具痕	1467
91-2	VIN-119	4トレンチ	III-30	19	20	13	(3.0)		クルミ形付き土製品	胎土ち密、焼成良好、砂粒少量混入	1487
91-3	VIN-119	4トレンチ	III-30	(20)	(15)	(10)	(2.0)		クルミ形付き土製品	胎土良好、砂粒混入	1488
95-3	VIM-119	4トレンチ	III-37	(54)	16	15	(11.2)		不明土製品	側面に削痕を押しあげて突きを入れている	1494
101-10	VIM-119	4トレンチ	III-50	45	43	12	19.9	無文	土製耳飾	側面沈線?	2354
103-8	VI0-119	4トレンチ	III-55	(24)	(23)	(10)	(3.7)	無文、ミガキ	ミガキ	逆V字形、繊維混入	1673
114-9	VIM-119	4トレンチ	III-77	27	20	22	9.1		土製垂飾	算盤状	3204
123-7	VI0-119	4トレンチ	III-83	67	65	10	44.0	単絡5a類	円盤状土製品	土器片利用、穿孔途中、繊維混入	7341
125-3	VIM-119	4トレンチ	III-86	25	27	(13)	4.6		不明土製品	貫通孔あり	1462
126-9	VI0-119	4トレンチ	III-87	(25)	(25)	(5)	(1.7)	剥離	不明土製品?	繊維混入	7329
160-9	VIM-119	ポイント4	III-12	(26)	(26)	(19)	(9.1)		不明土製品	砂粒混入、穿孔あり	1469

ミニチュア土器

番号	出土地点	層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考	整理番号	
			口縁部	脣部上半	脣部下半						
75-5	VII-119	1トレンチ	III-136	無文	花?压痕	無文	ミガキ	無文	ミニチュア	1174	
85-2	VI0-119	4トレンチ	III-5			R		無文	ミニチュア	5242	
85-3	VI0-119	4トレンチ	III-5			無文	ミガキ	無文	ミニチュア	接合痕で割れ	5244
98-5	VI0-119	4トレンチ	III-44			RL		無文	ミニチュア		5243
111-12	VI0-119	4トレンチ	III-66	無文	無文				砂粒多		5377
145-17	VIN-119	4トレンチ	風倒木?26			無文	ミガキ	無文	ミニチュア	台付、上げ底、繊維・砂粒混入	5373

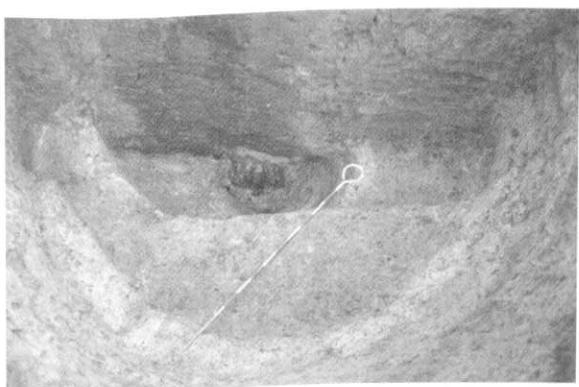
石製品

番号	出土地点	層位	計測値(mm)			重さ(g)	石質	種類	備考	整理番号	
			長さ	幅	厚さ						
ない	VII-119	1トレンチ	III-22	(45)	22	(16)	6.4	軽石	石製垂飾		4442
42-11	VII-119	1トレンチ	III-34	36	32	13	10.6	頁岩	石製垂飾		2355
54-7	VIM-119	1トレンチ	III-87	(37)	(25)	(9)	(3.9)	頁岩	不明石製品	脚の一部?	4445
60-8	VII-119	1トレンチ	III-105	40	36	20	11.4	シルト岩	不明石製品		4364
71-6	VIM-119	1トレンチ	III-124	(37)	(28)	(10)	5.5	シルト岩	石製容器		4440
78-6	VIM-119	1トレンチ	III-145直上	80	64	51	71.8	シルト岩	不明石製品	擦痕、破断面にもスリ	4292
95-4	VIM-119	4トレンチ	III-37	(59)	(30)	(22)	(21.7)	軽石	不明石製品		2416
103-7	VI0-119	4トレンチ	III-55	(35)	(27)	(4)	(4.3)	蛇紋岩?	块状耳飾	擦痕	4443
139-6	VI0-119	4トレンチ	III-90	63	40	34	57.4	頁岩	不明石製品	自然穿孔	4444
150-10	VIM-119	ポイント4	III-1	(39)	(29)	(17)	11.3	シルト岩	石製容器	擦痕	4441

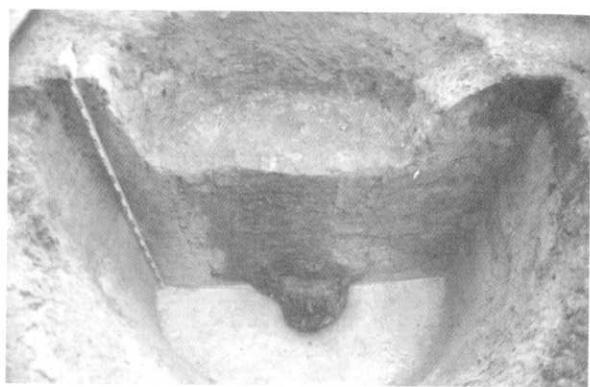
骨

番号	出土地点	層位	計測値(mm)			重さ(g)	分類	部位	材質	備考	整理番号
			長さ	幅	厚さ						
126-9	VI0-120	4トレンチ	III-87	(28)	(10)	(7.5)	(0.9)	N	未同定	未同定	663

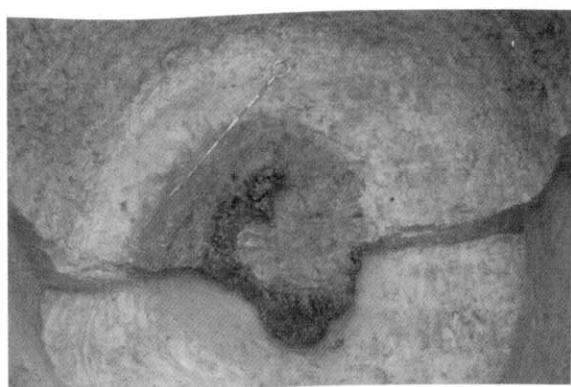
写 真 図 版



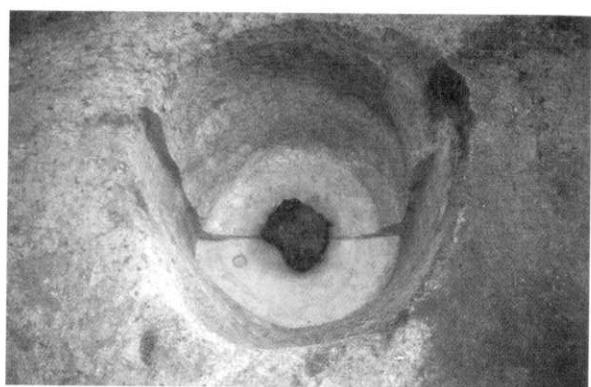
ピット1 木柱検出



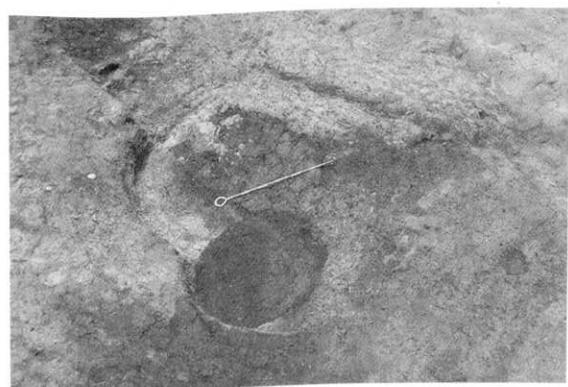
ピット1 セクション



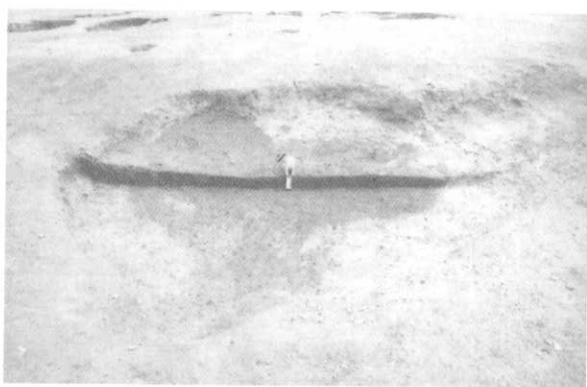
ピット1 柱痕跡確認



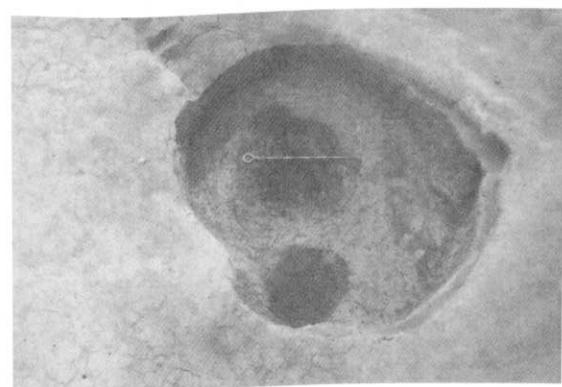
ピット1 完掘



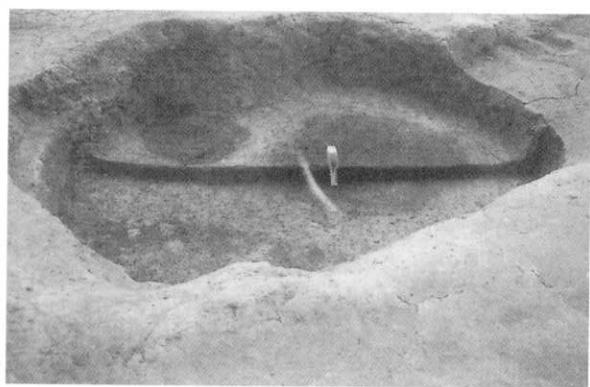
ピット2 柱痕確認1



ピット2 セクション1

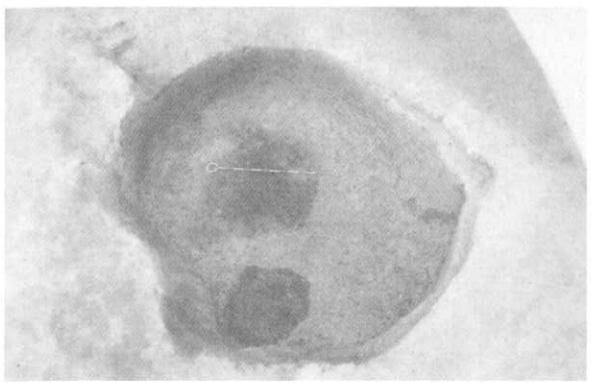


ピット2 柱痕確認4

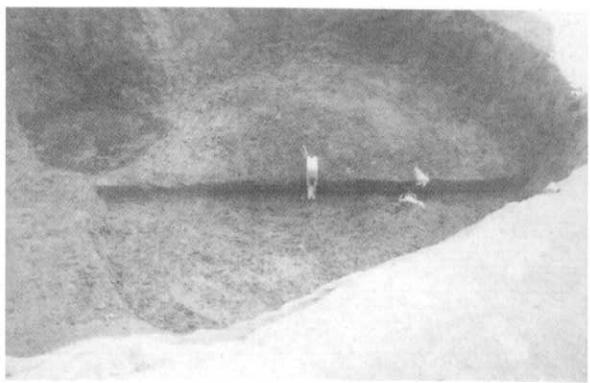


ピット2 セクション4

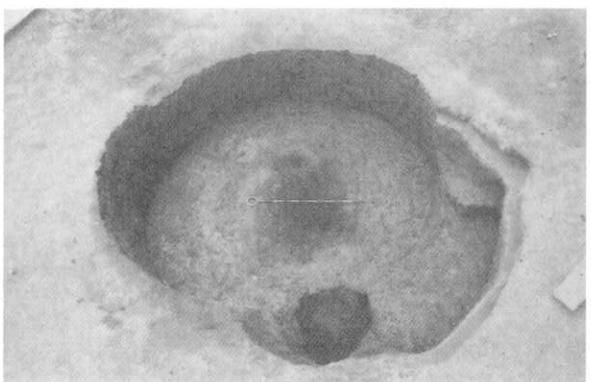
写真1



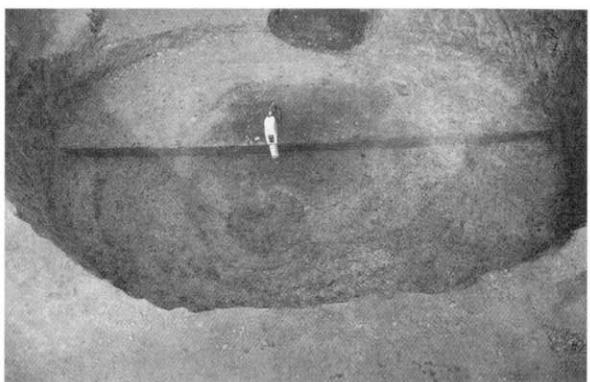
ピット2 柱痕跡確認5



ピット2 セクション6



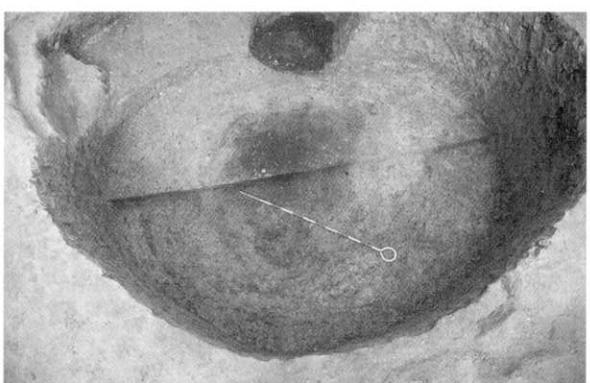
ピット2 柱痕跡確認6



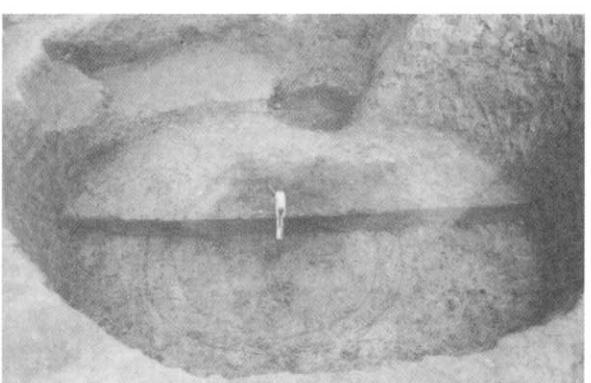
ピット2 セクション7



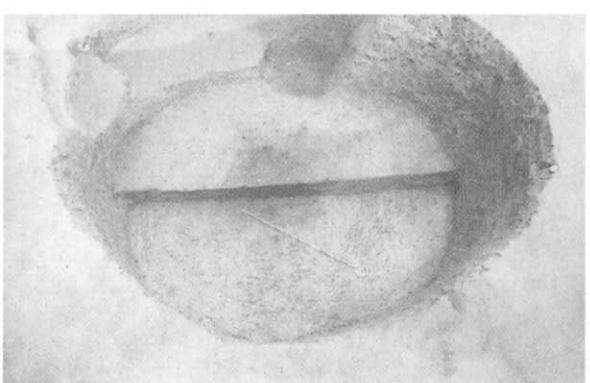
ピット2 セクション7



ピット2 柱痕跡確認7

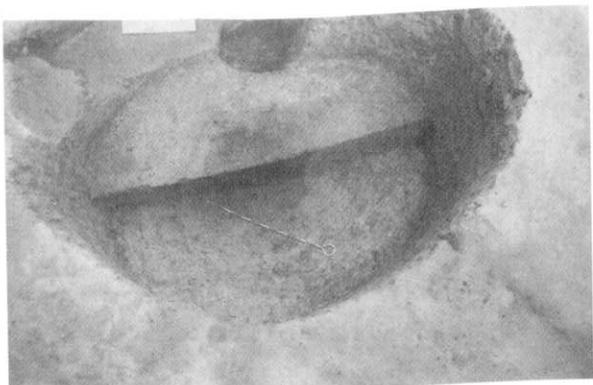


ピット2 セクション8

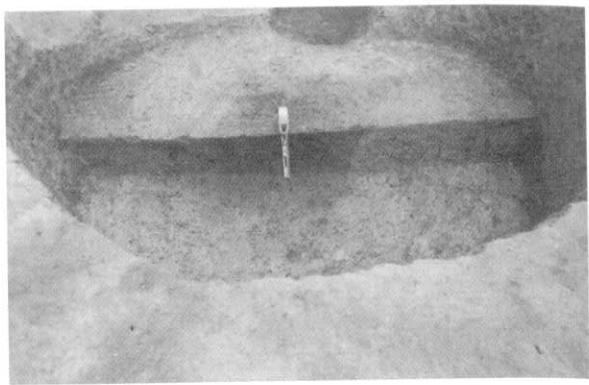


ピット2 柱痕跡確認9

写真2



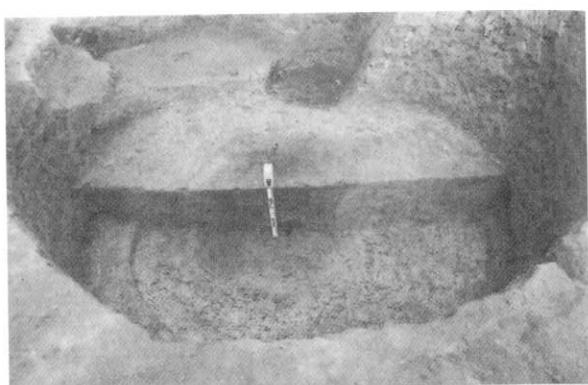
ピット2 柱痕跡確認10



ピット2 セクション10



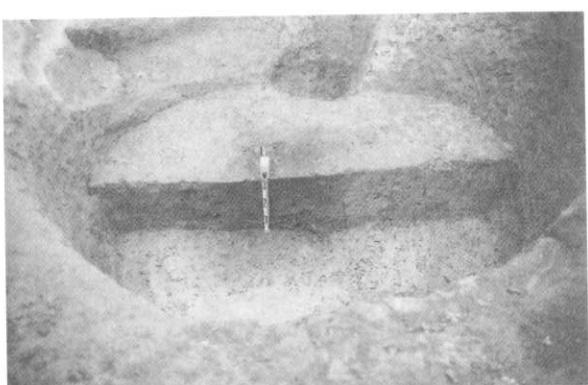
ピット2 柱痕跡確認11



ピット2 セクション11



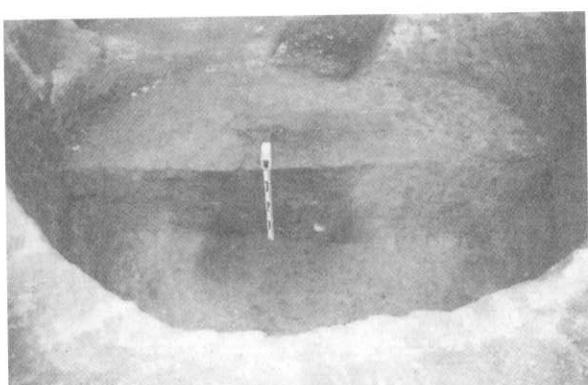
ピット2 柱痕跡確認12



ピット2 セクション12

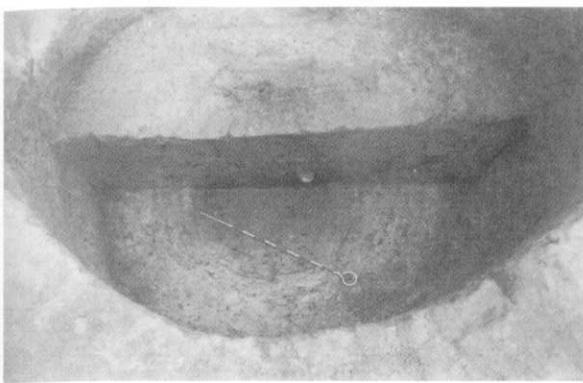


ピット2 柱痕跡確認13

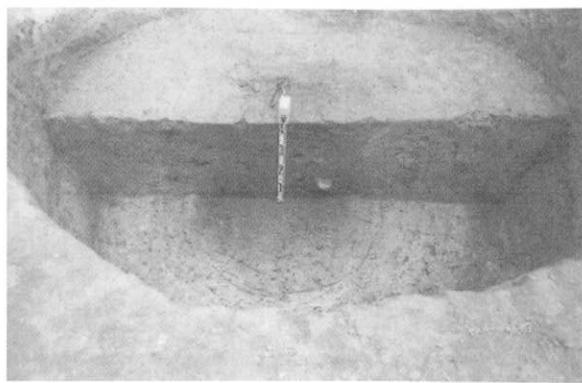


ピット2 セクション13

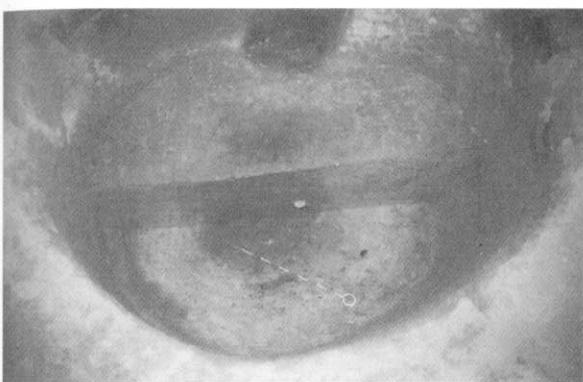
写真3



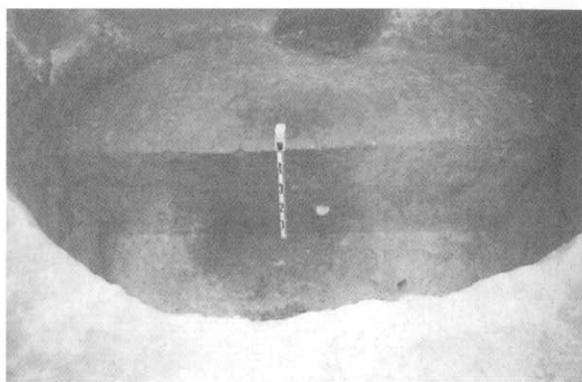
ピット2 柱痕確認14



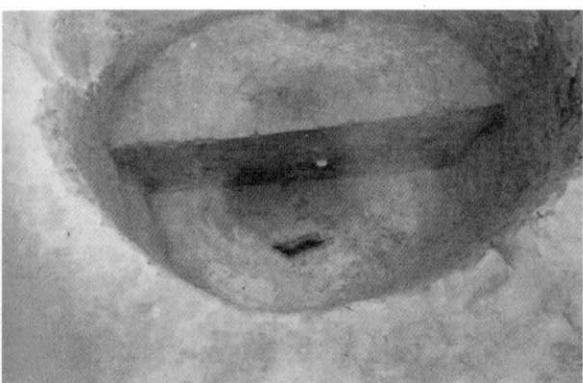
ピット2 セクション14



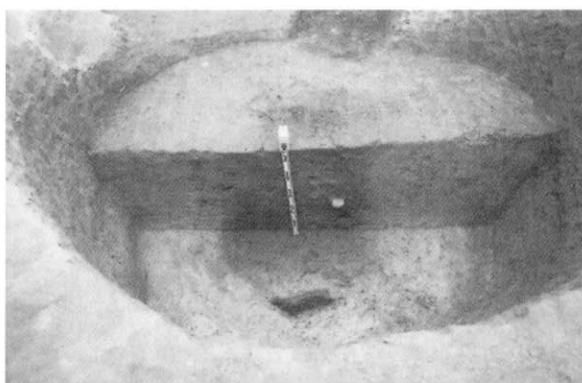
ピット2 柱痕跡確認15



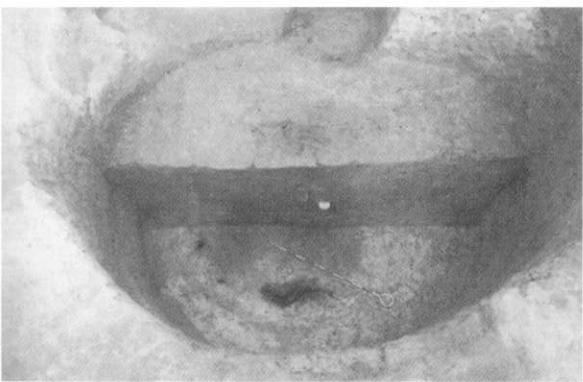
ピット2 セクション15



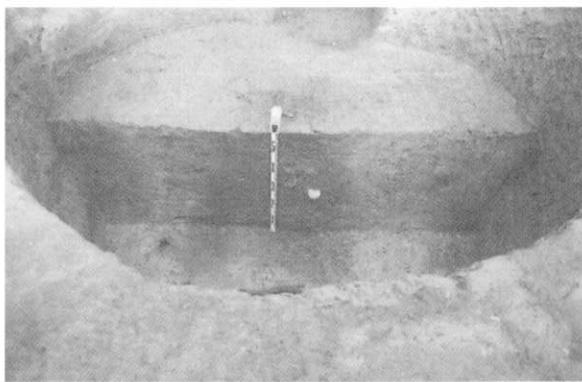
ピット2 柱痕跡確認16



ピット2 セクション16



ピット2 柱痕確認17

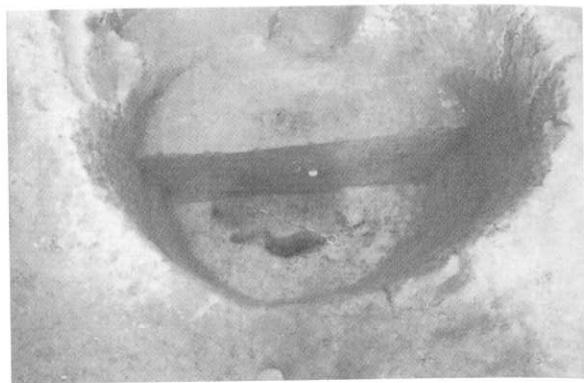


ピット2 セクション17

写真4



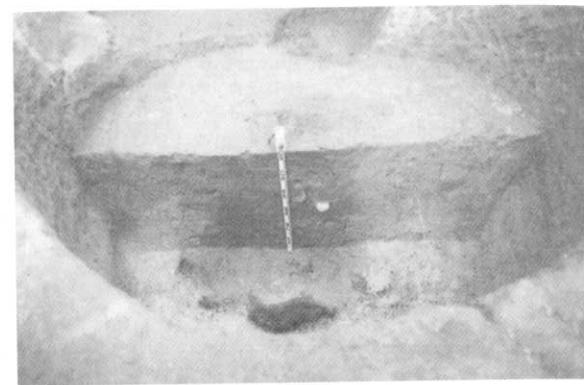
ピット2 セクション17



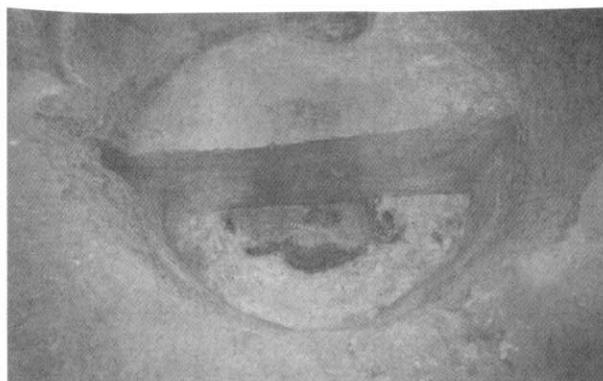
ピット2 柱痕跡確認18



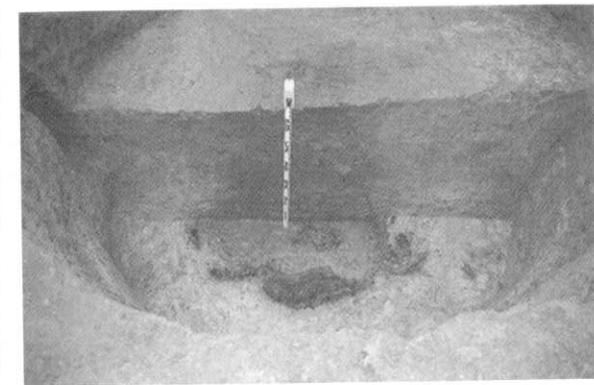
ピット2 木柱確認



ピット2 セクション18



ピット2 柱痕跡確認19



ピット2 セクション19

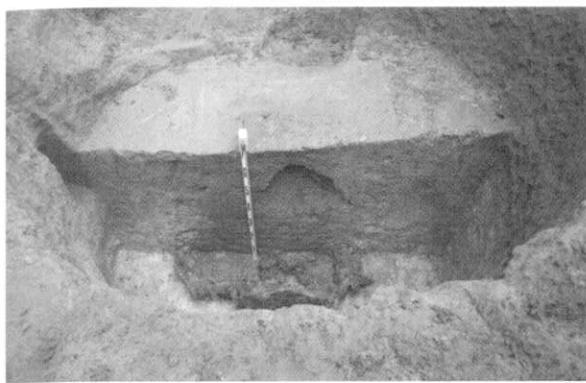


ピット2 柱痕跡確認20

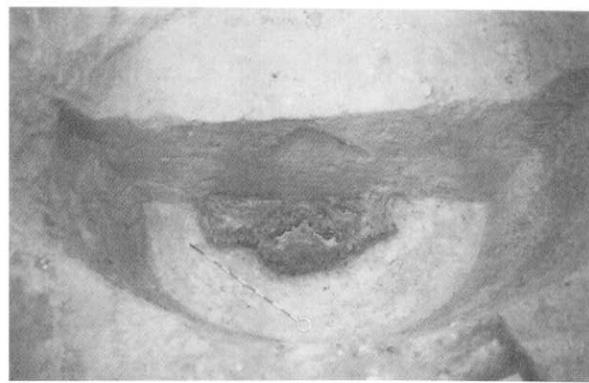


ピット2 柱痕跡確認20

写真5



ピット2 セクション20



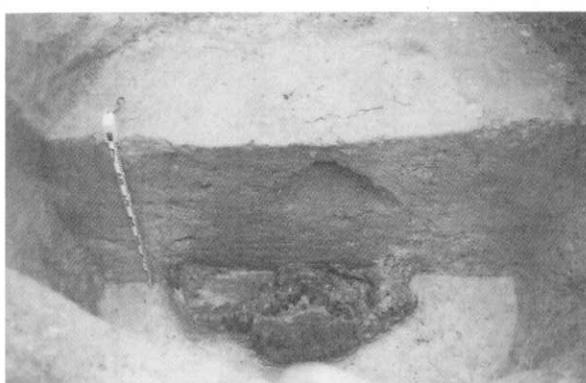
ピット2 柱痕跡確認21



ピット2 セクション21



ピット2 木柱確認22



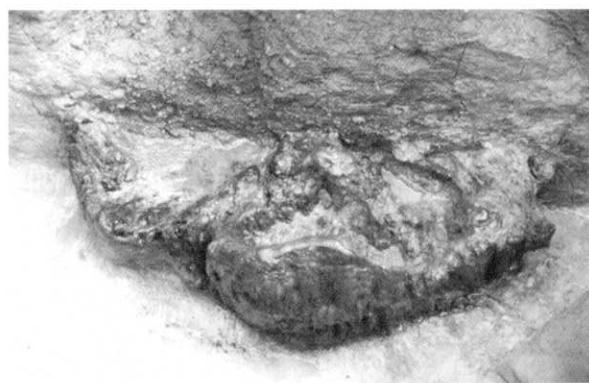
ピット2 セクション22



ピット2 セクション22



ピット2 柱痕跡確認23-1

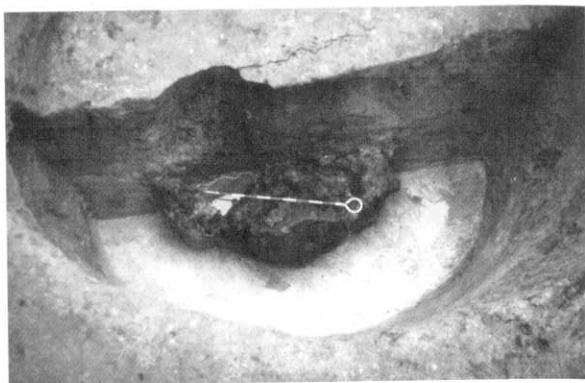


ピット2 柱痕跡確認23-2

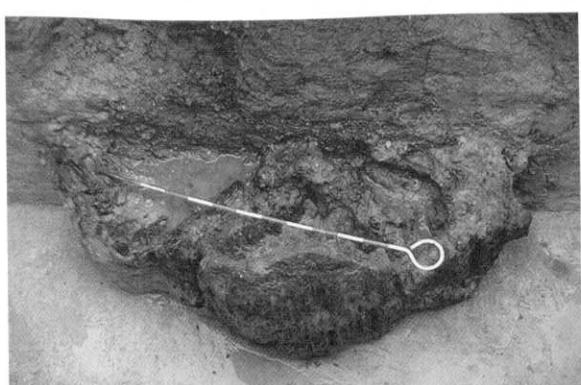
写真6



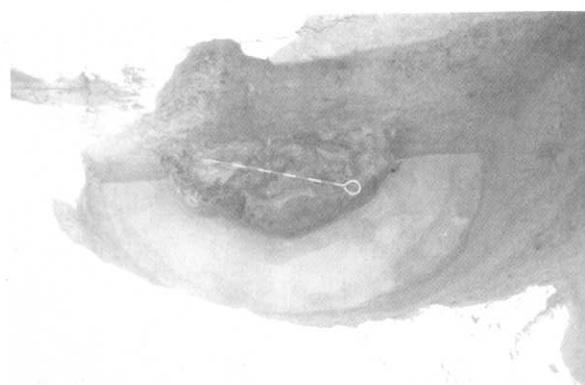
ピット2 セクション23



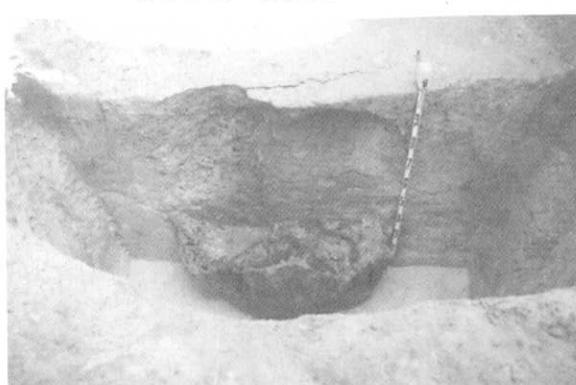
ピット2 柱痕跡確認24-1



ピット2 柱痕跡確認24-2



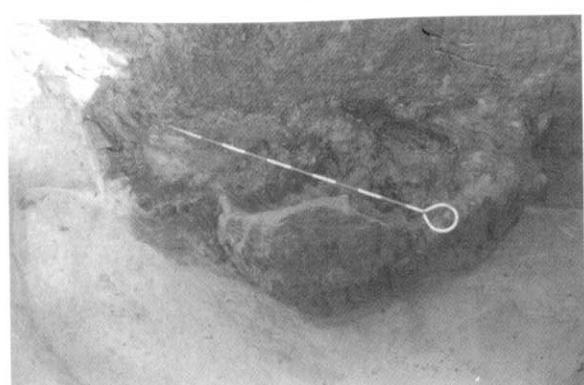
ピット2 柱痕跡確認25



ピット2 セクション25



ピット2 柱痕跡確認26-1



ピット2 柱痕跡確認26-2

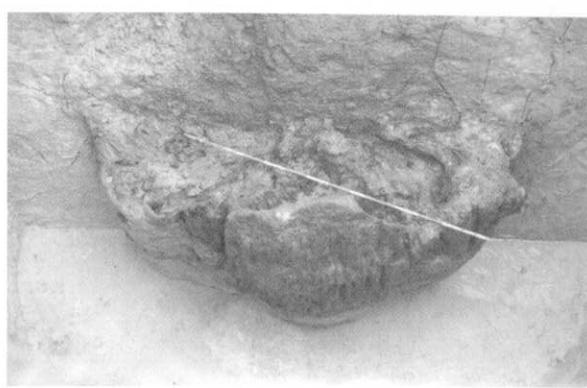


ピット2 セクション26

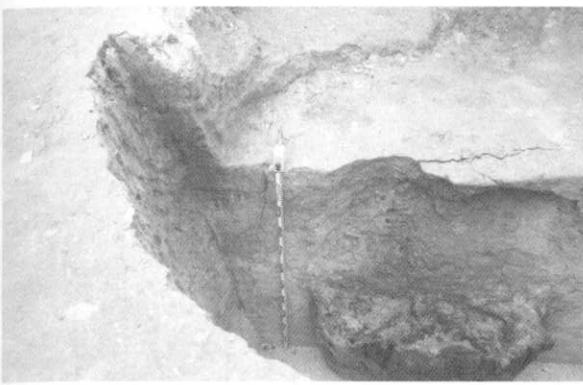
写真7



ピット2 柱痕跡確認27-1



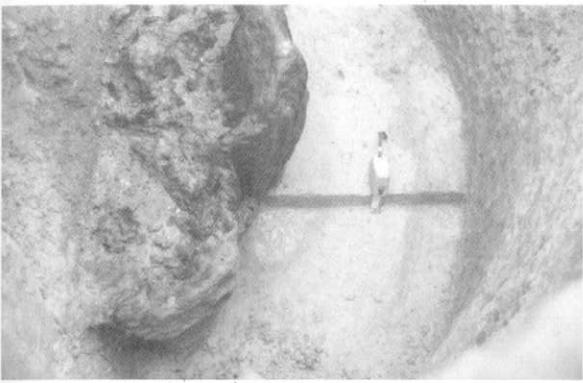
ピット2 柱痕跡確認27



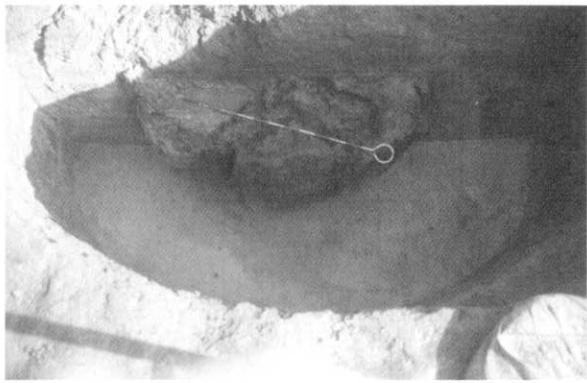
ピット2 セクション27 (北側)



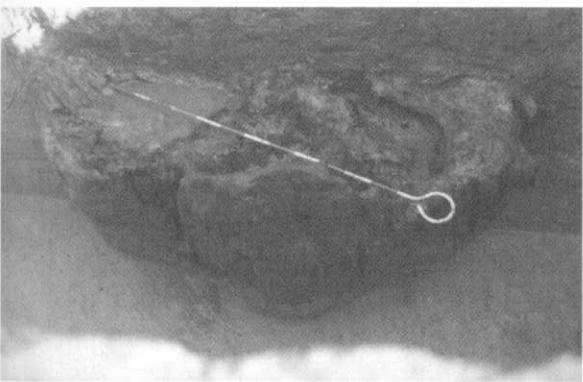
ピット2 セクション27 (南側)



ピット2 セクション27



ピット2 柱痕跡確認28-1



ピット2 柱痕跡確認28-2

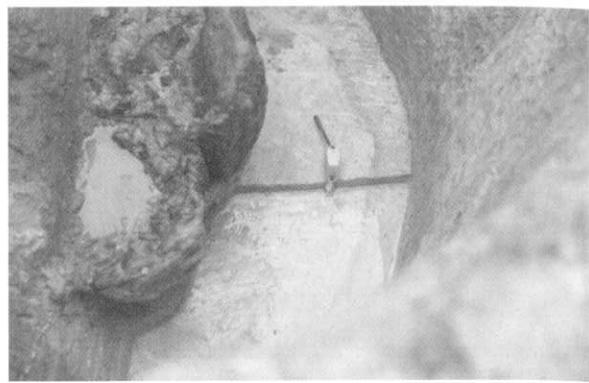


ピット2 セクション28 (北側)

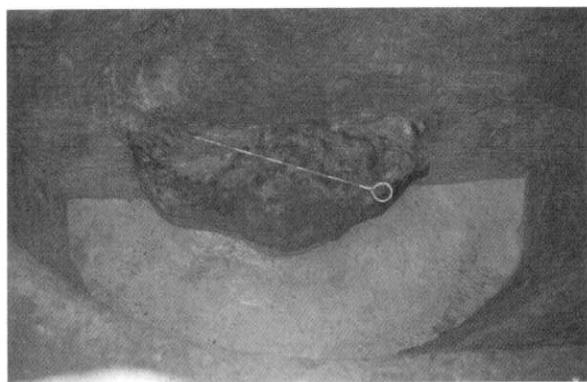
写真8



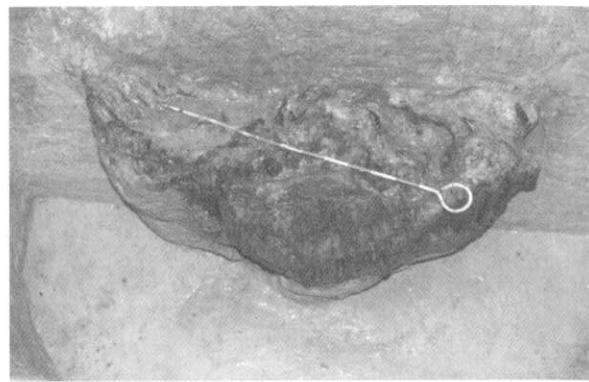
ピット 2 セクション28（南側）



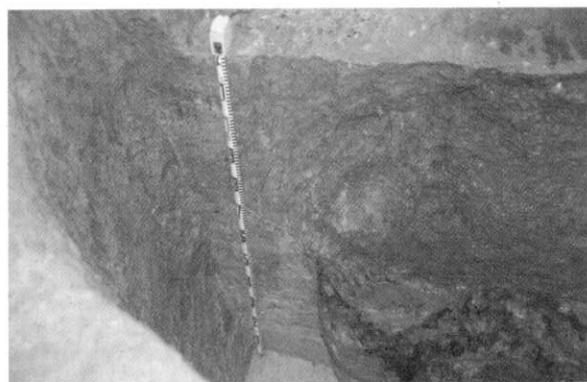
ピット 2 セクション28



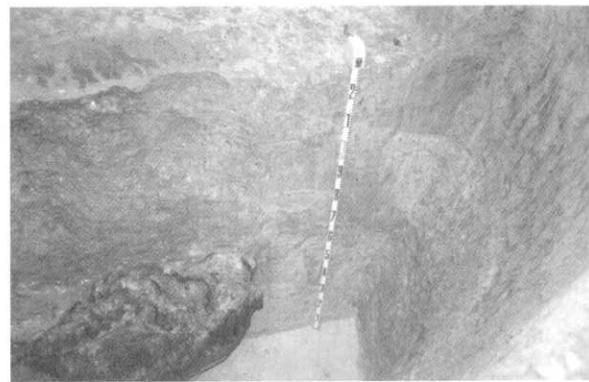
ピット 2 柱痕跡確認29



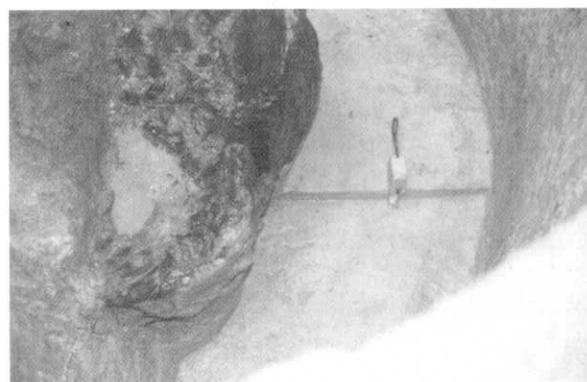
ピット 2 柱痕跡確認29



ピット 2 セクション29（北側）



ピット 2 セクション29（南側）



ピット 2 セクション29

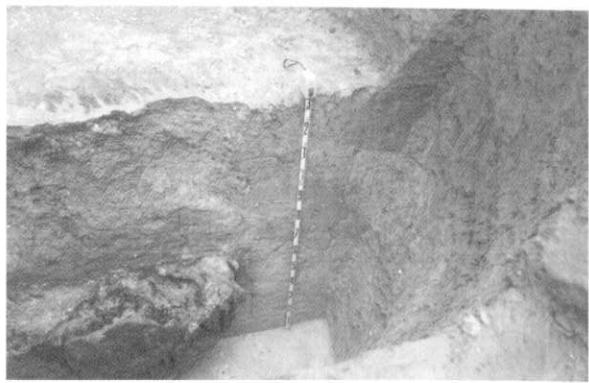


ピット 2 柱痕跡確認30

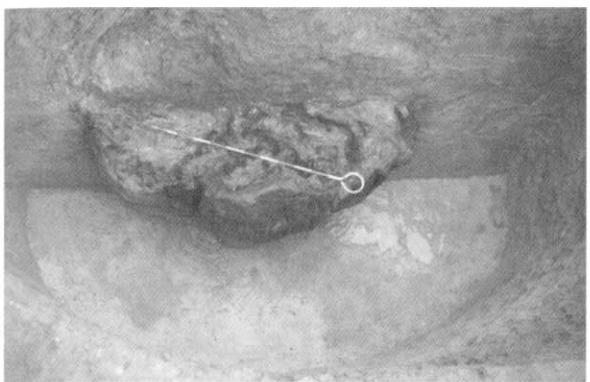
写真 9



ピット2 セクション30（北側）



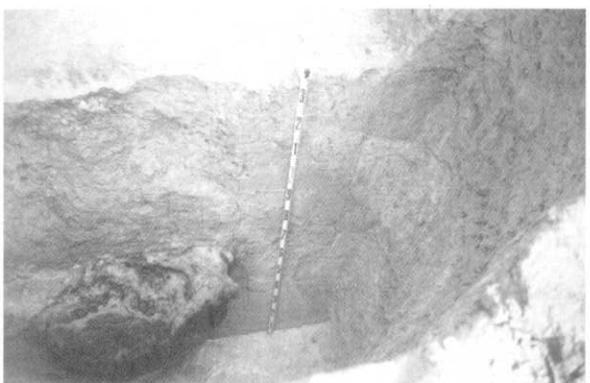
ピット2 セクション30（南側）



ピット2 柱痕跡確認31



ピット2 セクション31（北側）



ピット2 セクション31（南側）



ピット2 セクション31

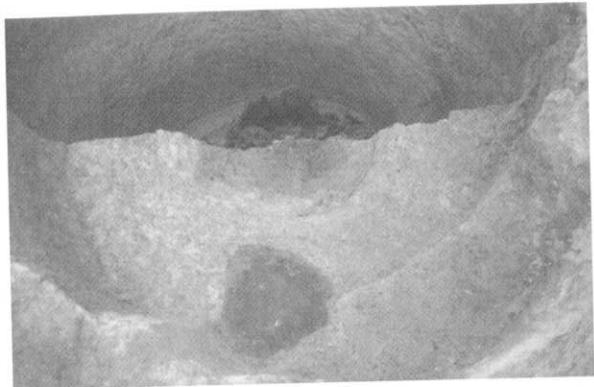


ピット2 柱痕跡確認32

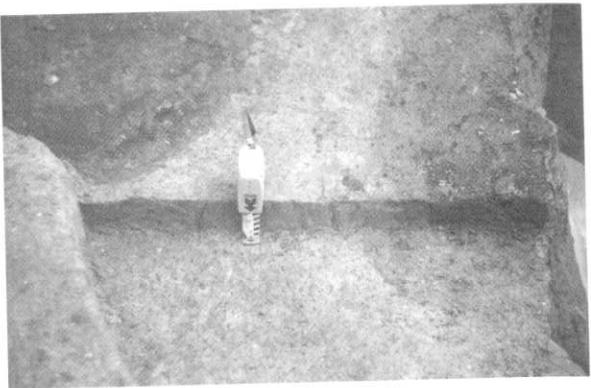


ピット2 セクション32（北側）

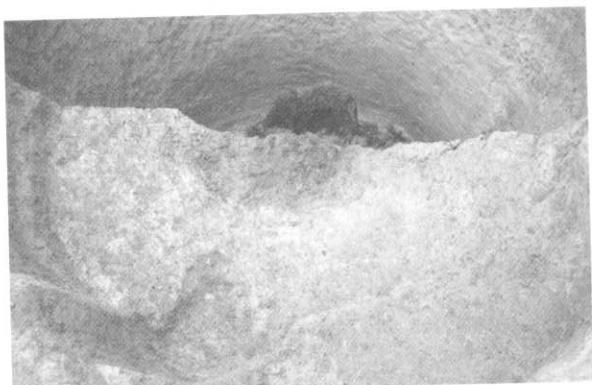
写真10



ピット2 柱痕確認7B



ピット2 セクション8B



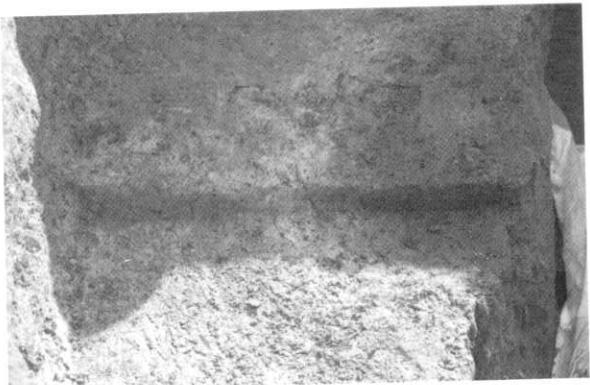
ピット2 柱痕確認9B



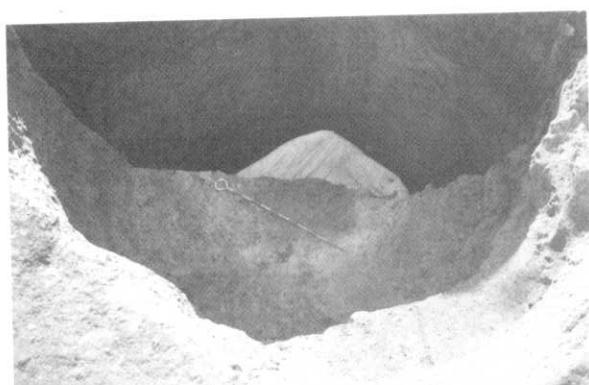
ピット2 セクション32(南側)



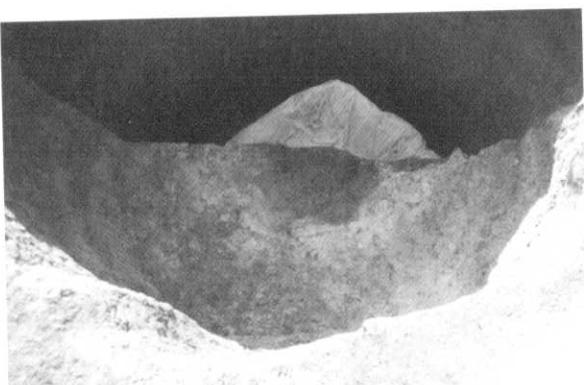
ピット2 柱痕確認11B



ピット2 セクション11B



ピット2 柱痕確認12B

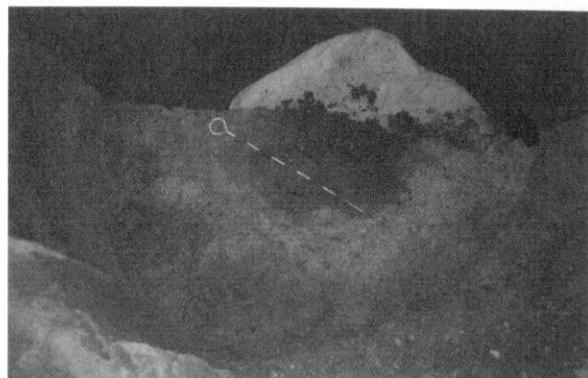


ピット2 柱痕確認13B

写真11



ピット2 セクション13B



ピット2 柱痕確認15B



ピット2 セクション15B



ピット2 柱痕確認16B



ピット2 セクション16B



ピット2 柱痕確認17B



ピット2 セクション17B



ピット2 柱痕確認18B

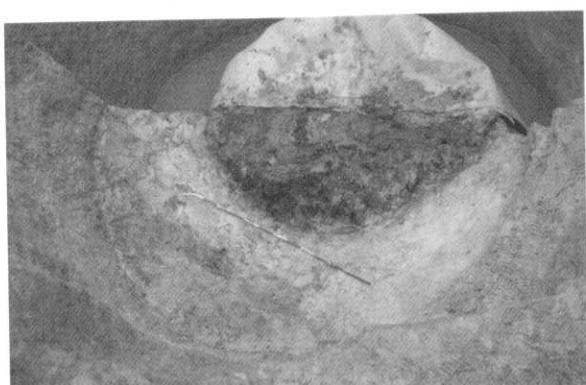
写真12



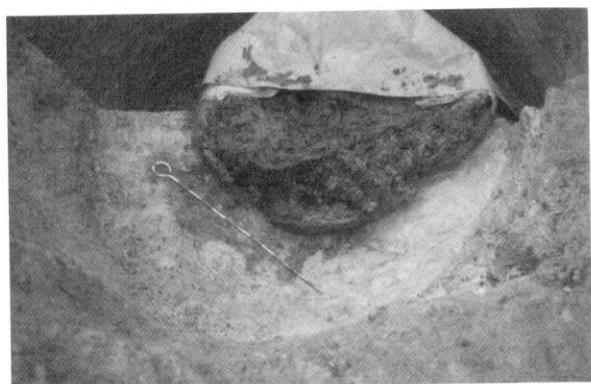
ピット2 セクション18B



ピット2 セクション19B



ピット2 柱痕確認20B



ピット2 柱痕確認22B



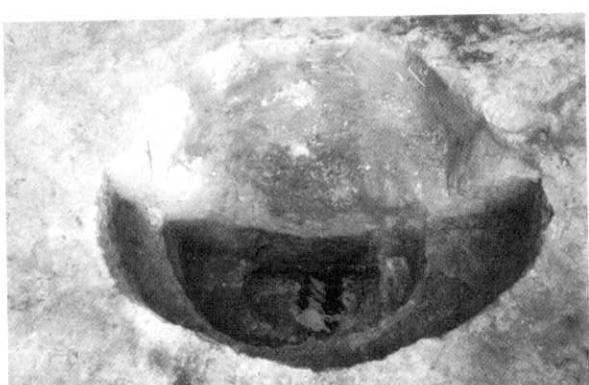
ピット2 セクション22B



ピット2 セクション24B

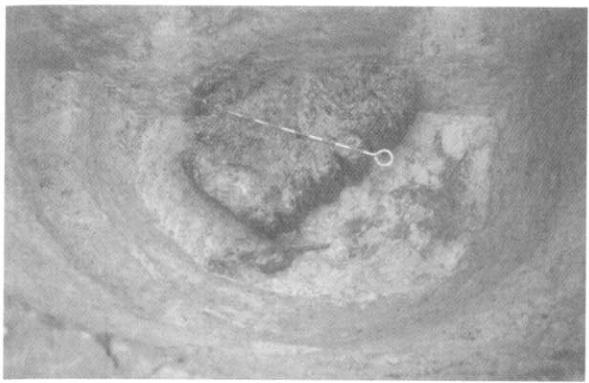


ピット2 完掘



ピット3 木柱検出

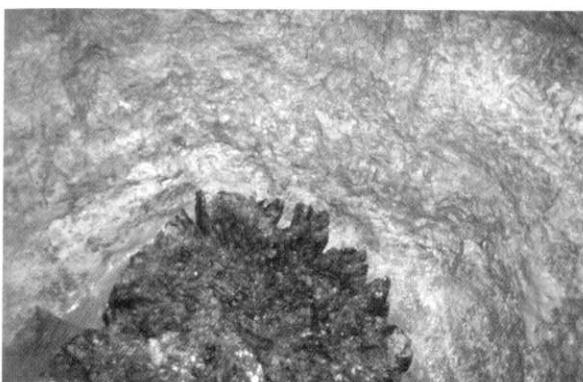
写真13



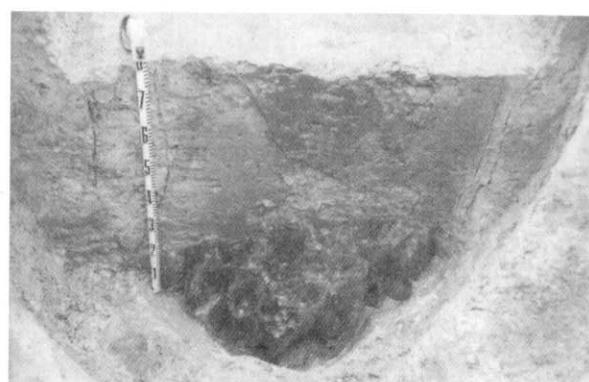
ピット3 柱痕跡確認



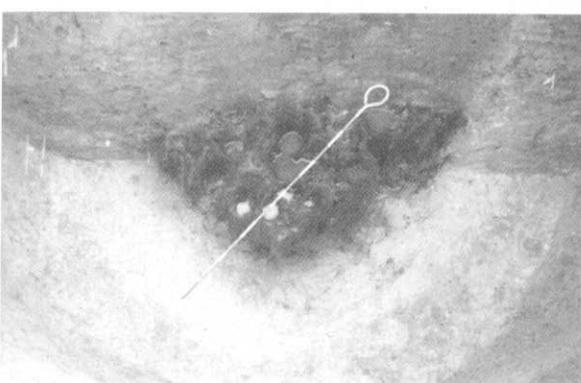
ピット3 セクション



ピット3 壁面



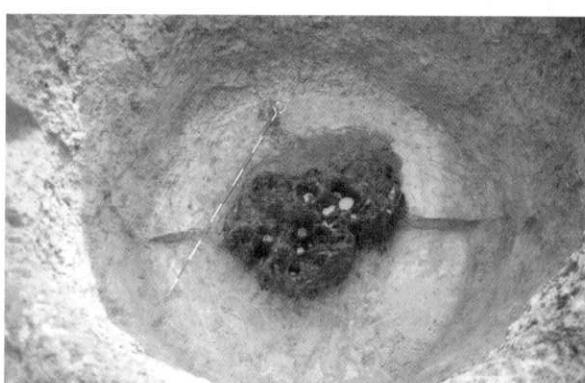
ピット4 木柱検出



ピット4 柱痕跡確認



ピット4 セクション



ピット4 柱痕跡確認



ピット4 完掘

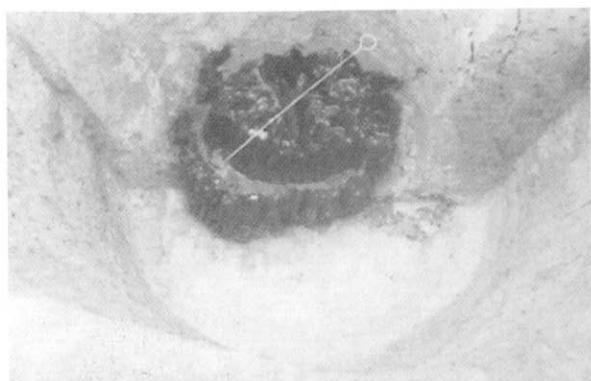
写真14



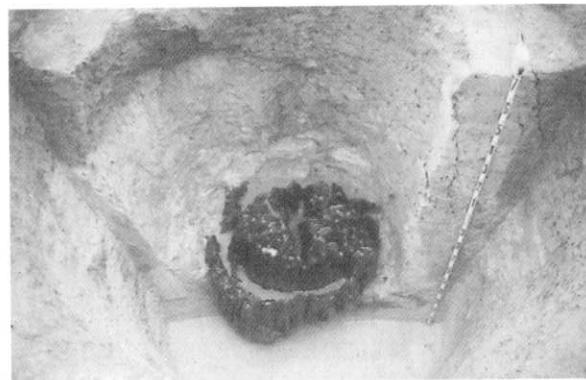
ピット5 木柱検出



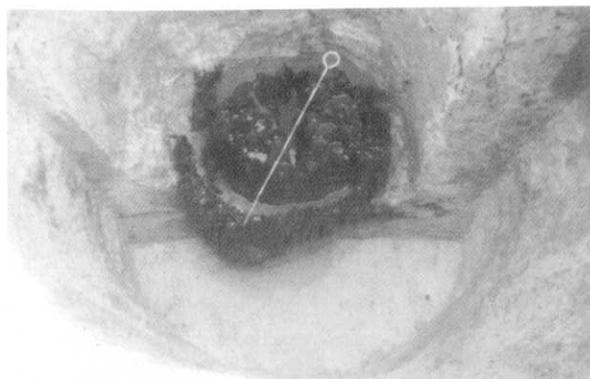
ピット5 木柱検出



ピット5 柱痕確認3



ピット5 掘り方セクション



ピット5 柱痕確認9



ピット5 完掘



ピット6 掘り方セクション



ピット6 完掘

写真15

ピット1



6-1



6-2



6-3



6-4



6-5



6-6

ピット2



6-7



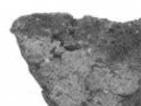
7-1



7-2



7-3



7-4



7-5



7-6



7-7



7-8



7-9



7-10



7-11



7-12



7-13



7-14



7-15



7-16



7-17



7-18



8-1



8-2

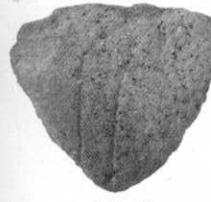


8-3

ピット3



10-1



10-2



10-3



10-4



10-5

ピット3



11-1

写真16 第26号掘立柱建物跡出土土器(1)

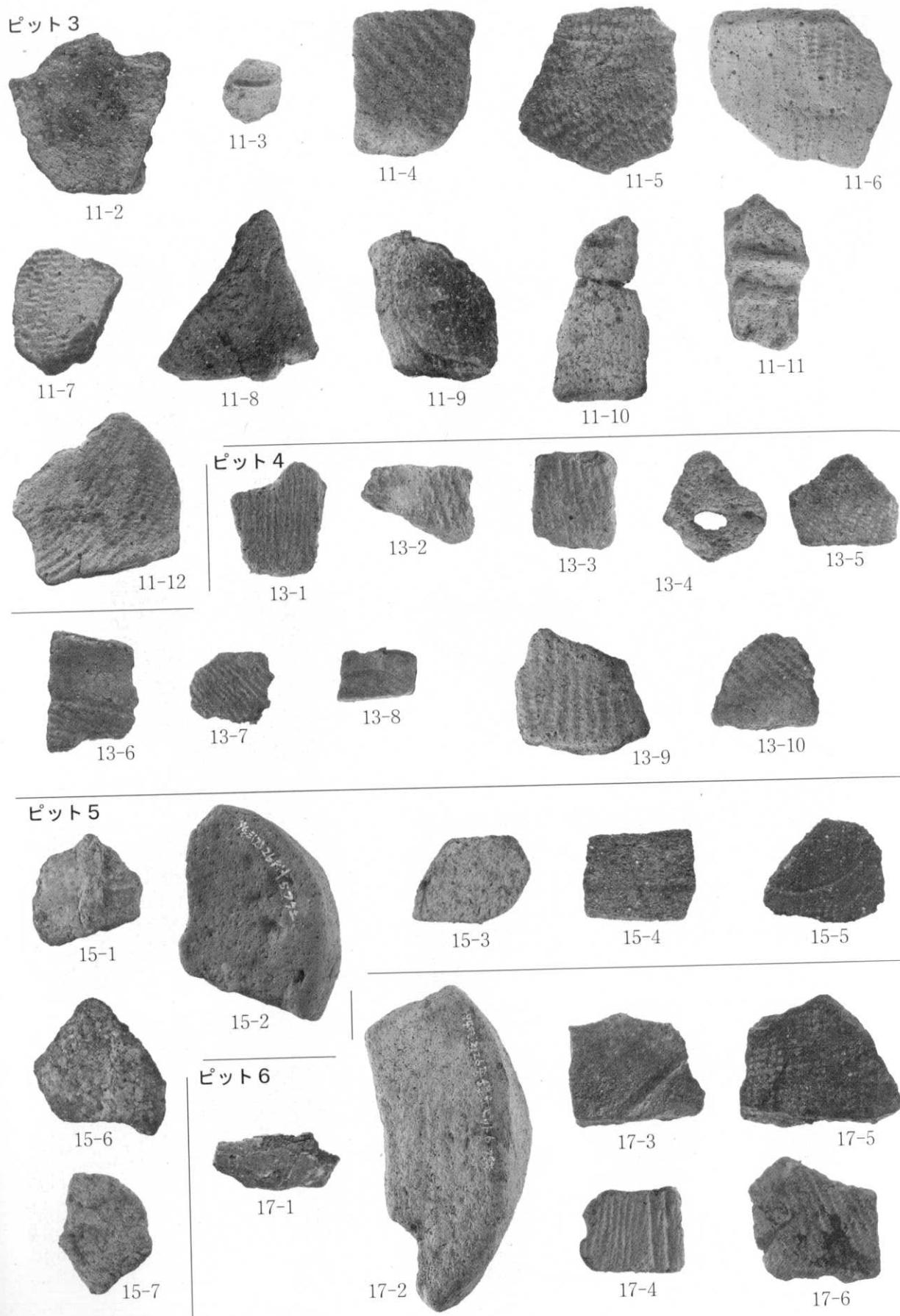


写真17 第26号掘立柱建物跡出土土器 (2)

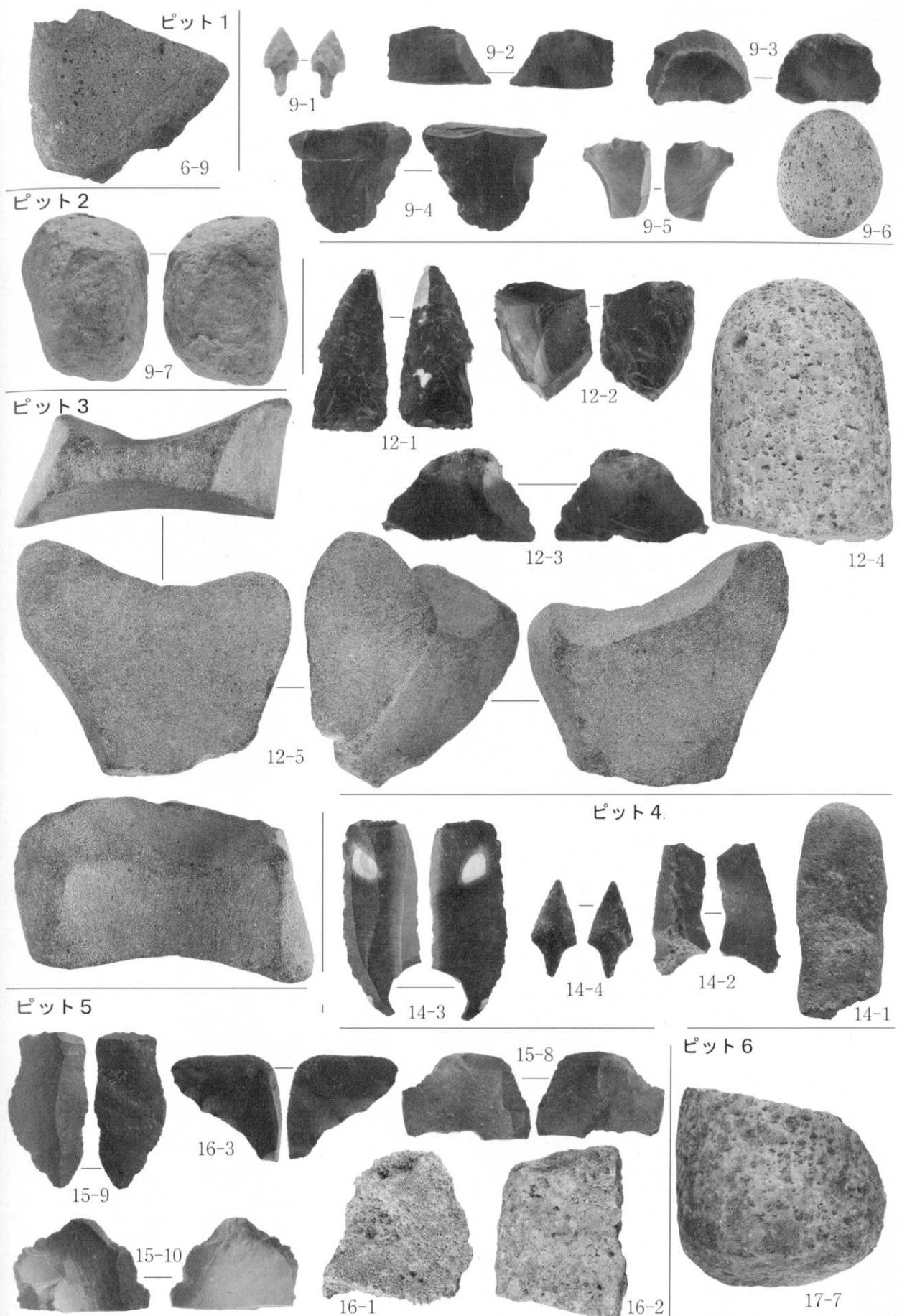
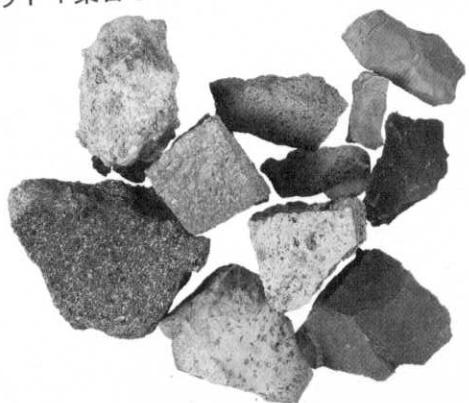
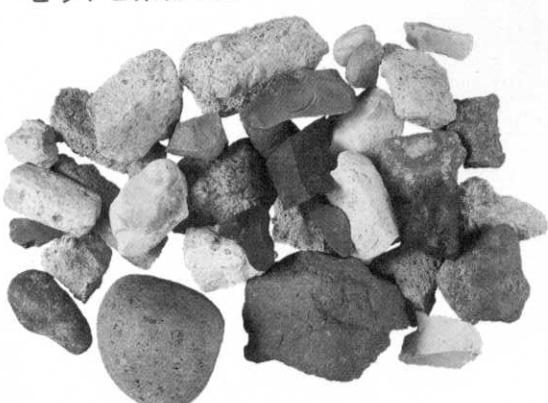


写真18 第26号掘立柱建物跡出土石器 (1)

ピット 1 集合写真



ピット 2 集合写真



ピット 3 集合写真



ピット 4 集合写真



ピット 5 集合写真



ピット 6 集合写真

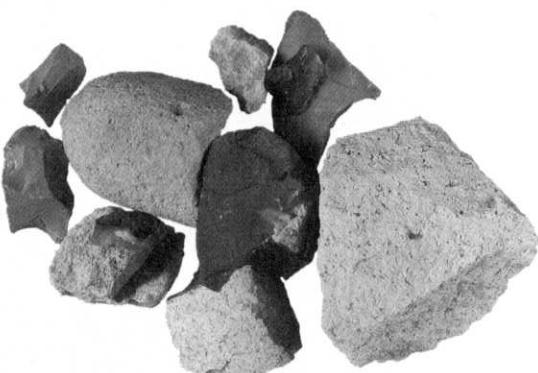
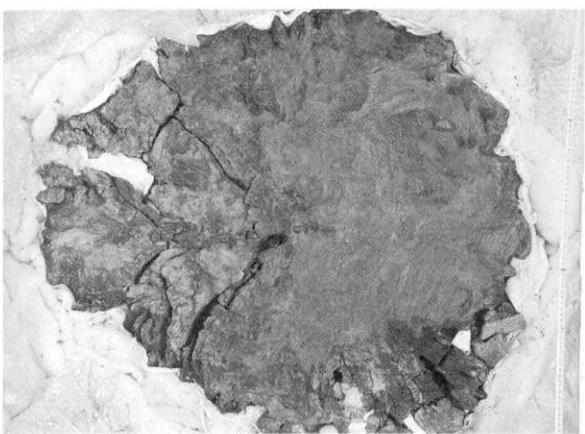
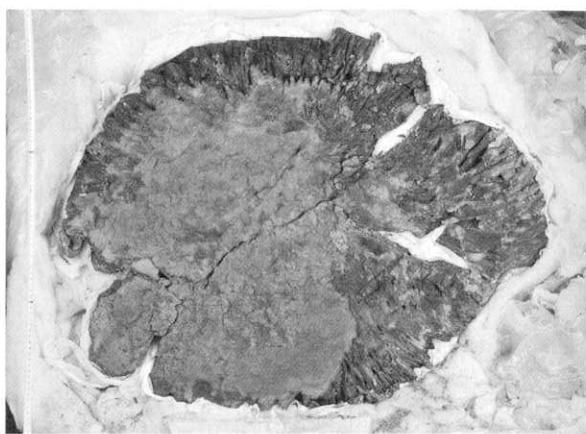


写真19 第26号掘立柱建物跡出土石器 (2)

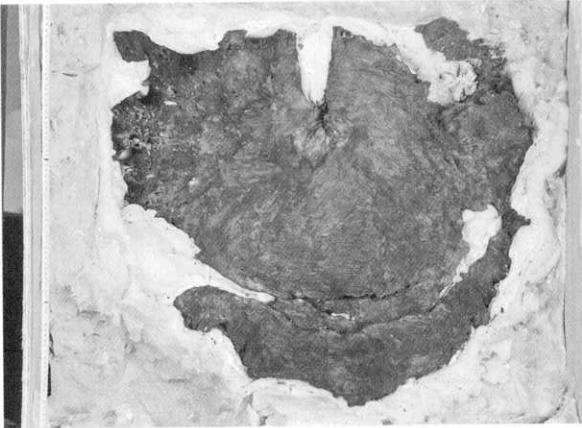
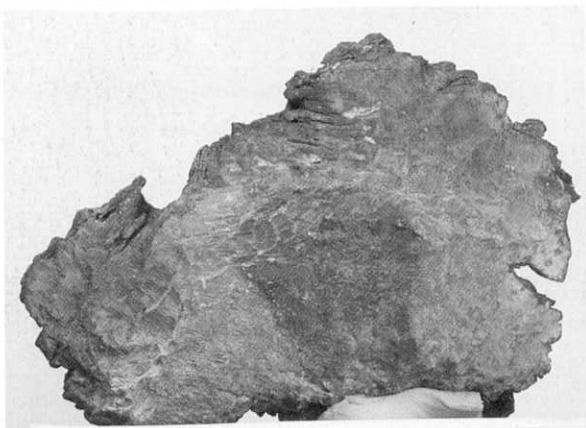
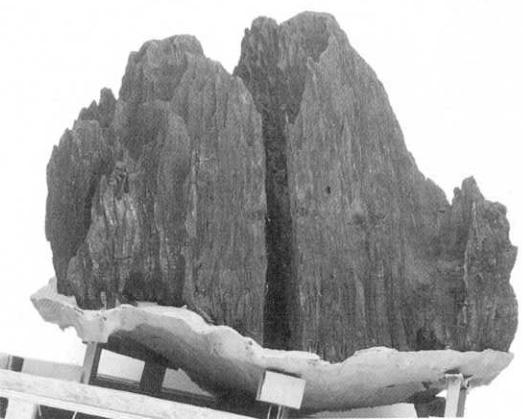


ピット2 出土木柱



ピット3 出土木柱

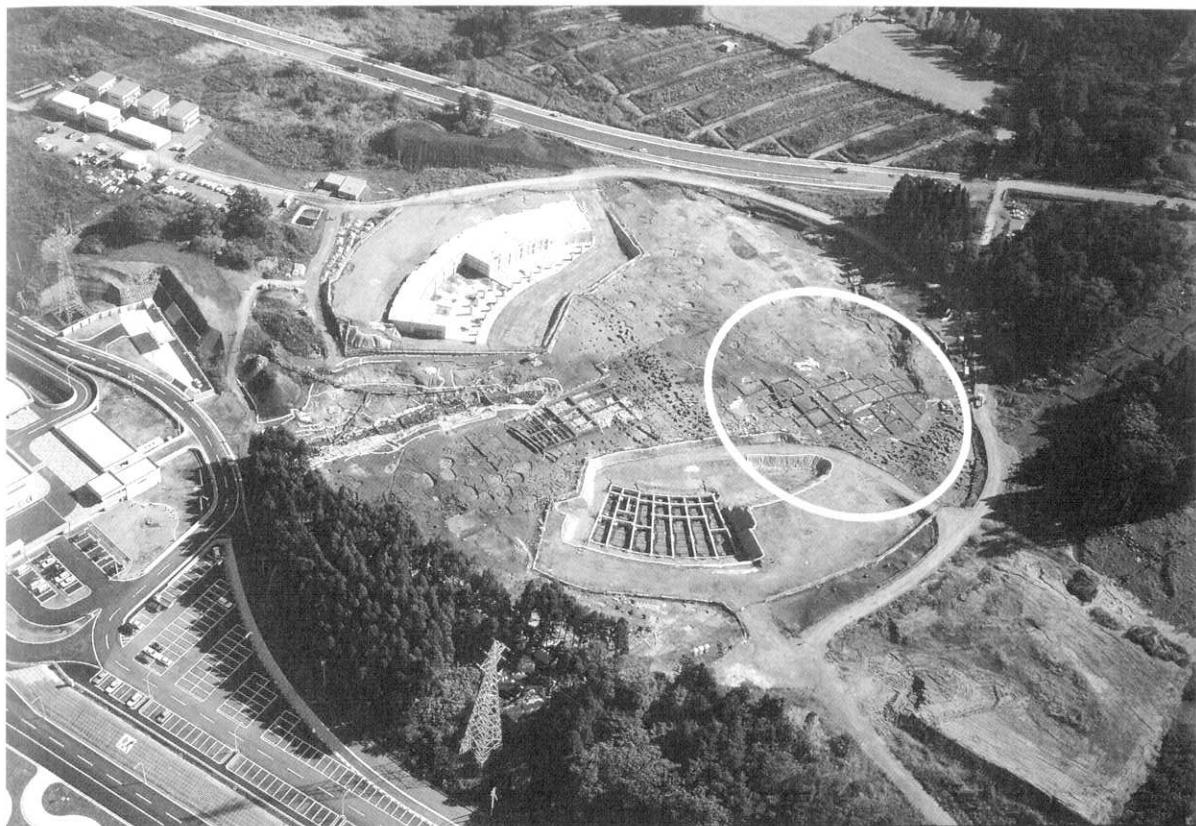
写真20



ピット4 出土木柱

ピット5 出土木柱

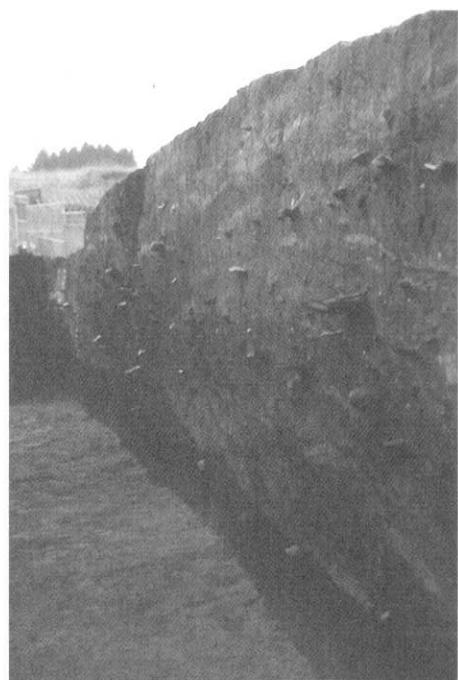
写真21



旧野球場建設予定地全景（白枠内に南盛土）



南盛土（白枠内の盛り上がりが盛土）



1・4 ドレンチ土層断面（南東から）

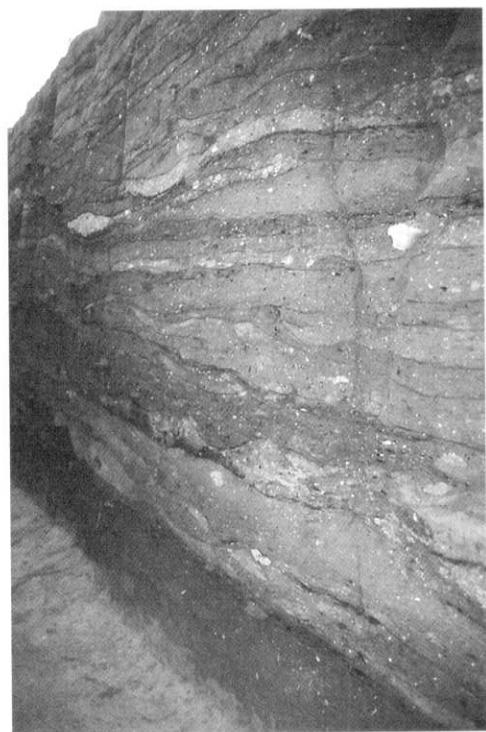
写真22



南盛土近景（南から）



南盛土近景（南東から）



土層断面（東から）

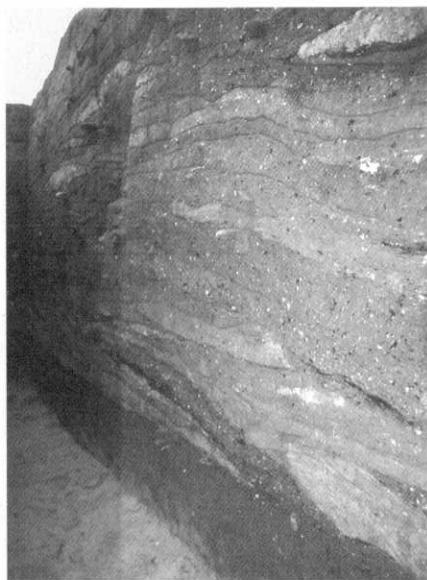


南盛土近景（南から）

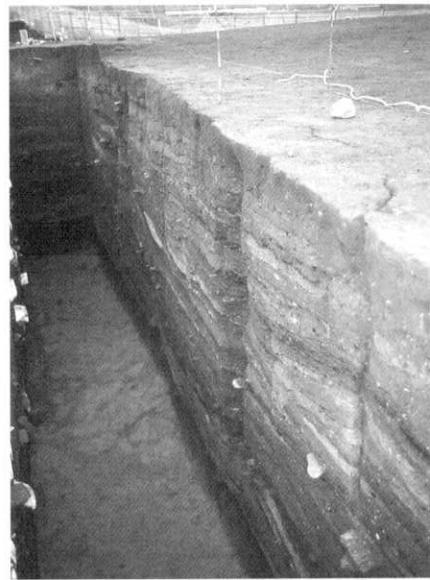
写真23



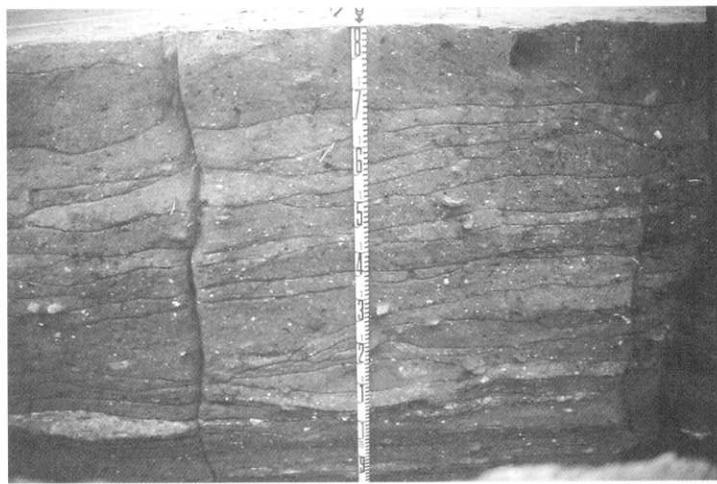
1・4トレンチ土層断面（南西から）



土層断面（東から）

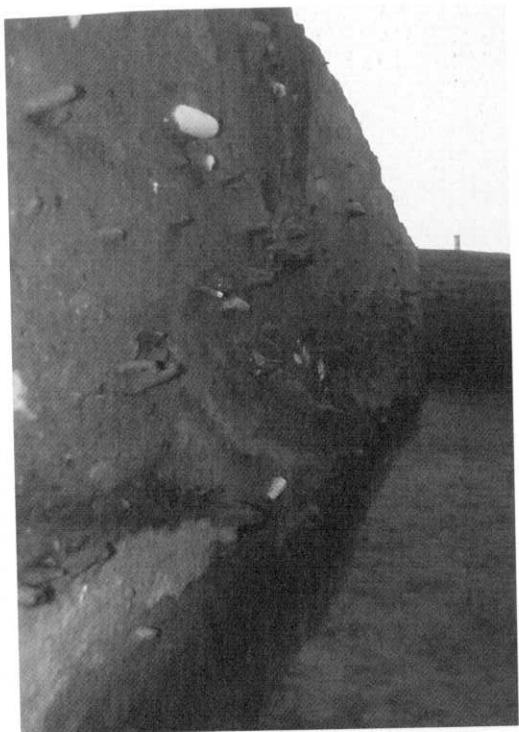


土層断面（南東上部から）

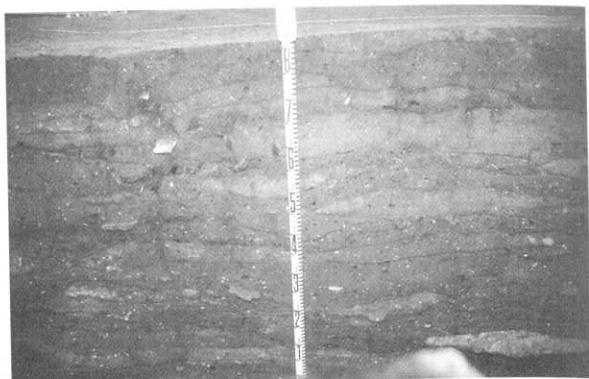


土層断面拡大

写真24



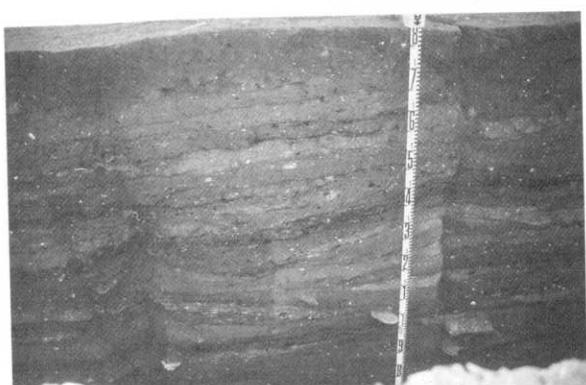
土層断面（西から）



土層断面拡大



土層断面拡大



土層断面拡大



土層断面拡大



1 ドレンチ作業風景

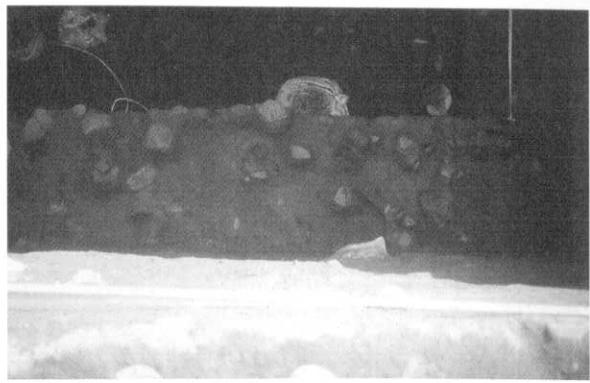


ポイント4 作業風景

写真25



1トレンチ第38層遺物出土状況



1トレンチ第107層遺物出土状況



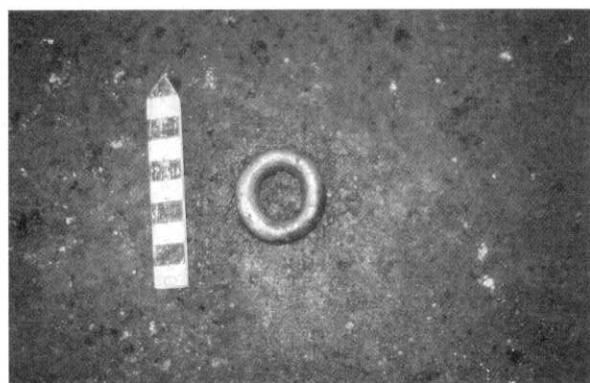
1トレンチ第109層遺物出土状況



1トレンチ第115層遺物出土状況



1トレンチ第145層直上遺物出土状況



4トレンチ第50層環状土製品出土状況



4トレンチ第35層遺物出土状況



4トレンチ第57層配石遺構

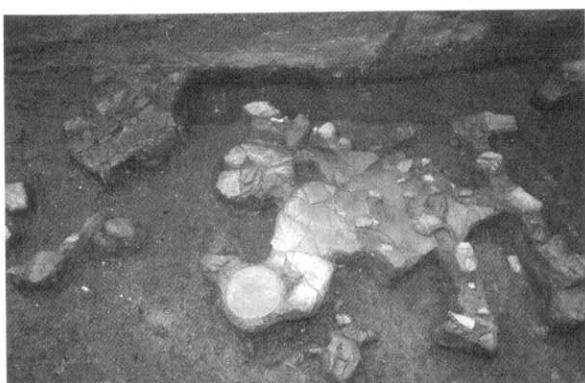
写真26



4 トレンチ第82層遺物出土状況



4 トレンチ第89層遺物出土状況



4 トレンチ第89層遺物出土状況



4 トレンチ第89層遺物出土状況



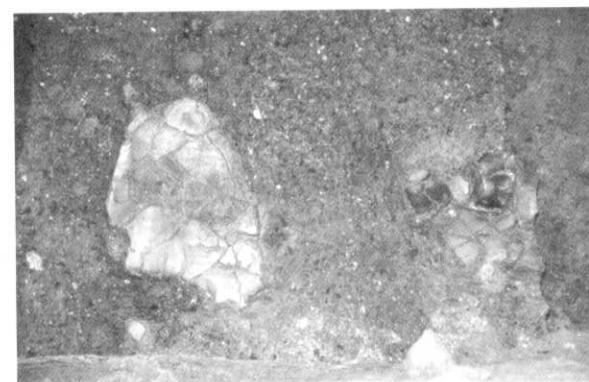
4 トレンチ第798号埋設土器確認



4 トレンチ第798号埋設土器土層断面

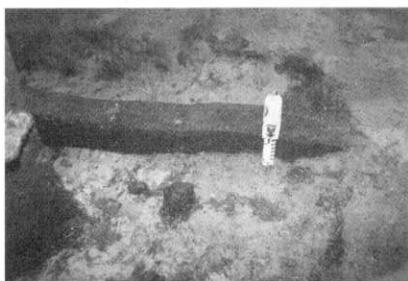


ポイント4 第10b層土偶出土状況



ポイント4 第15層遺物出土状況

写真27



第753号土坑土層断面



第753号土坑完掘

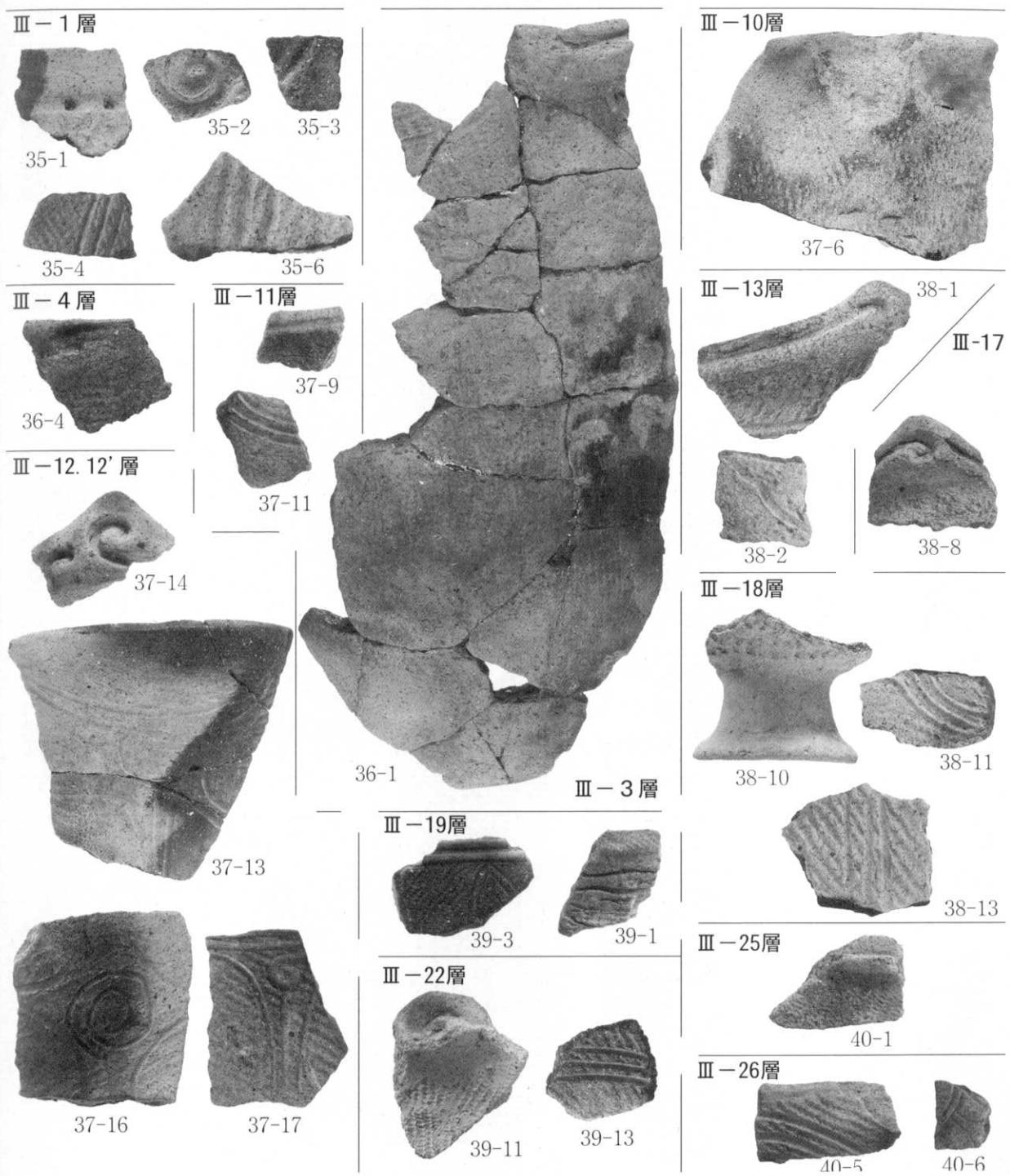


写真28 1トレンチ出土土器(1)

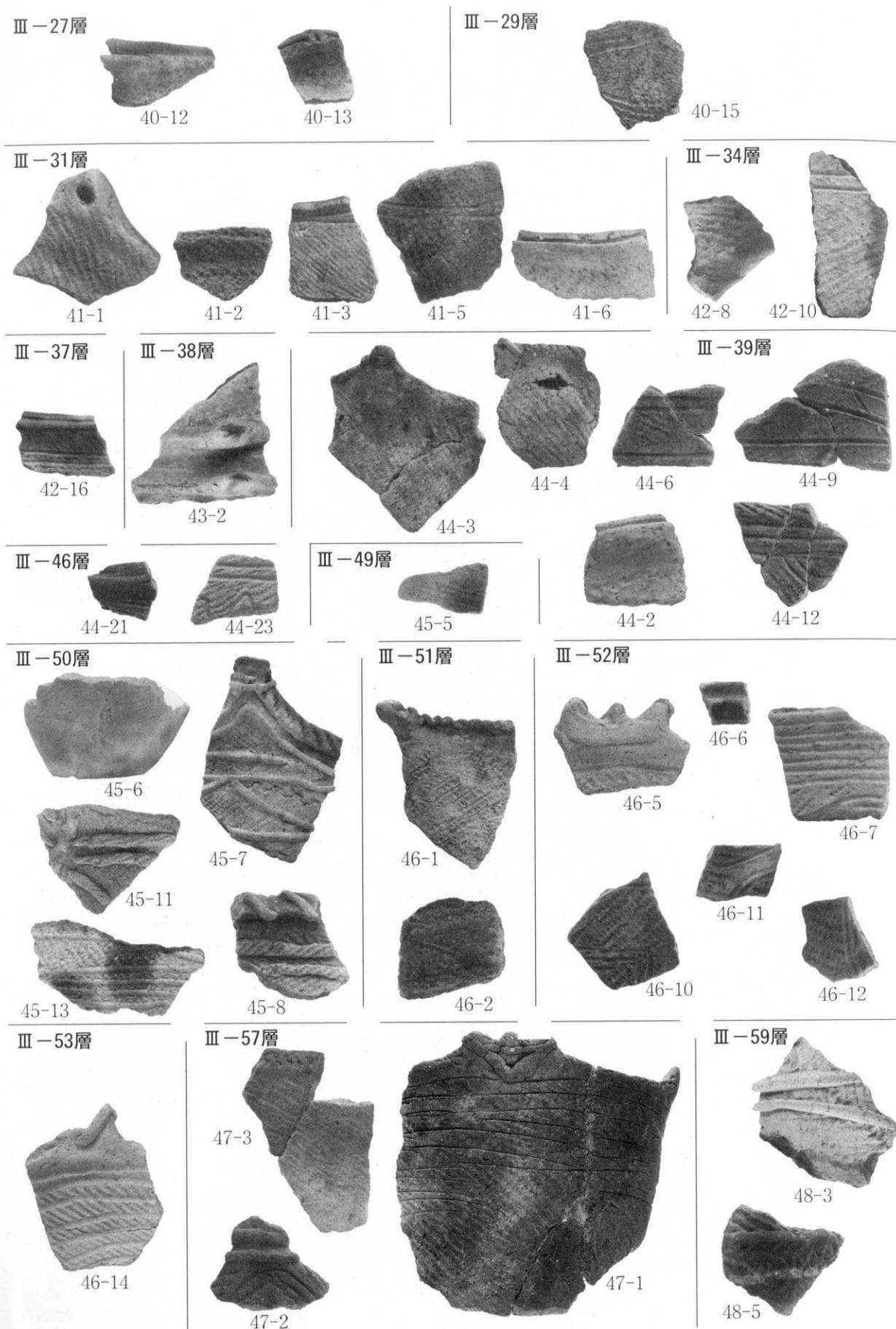


写真29 1 トレンチ出土土器 (2)

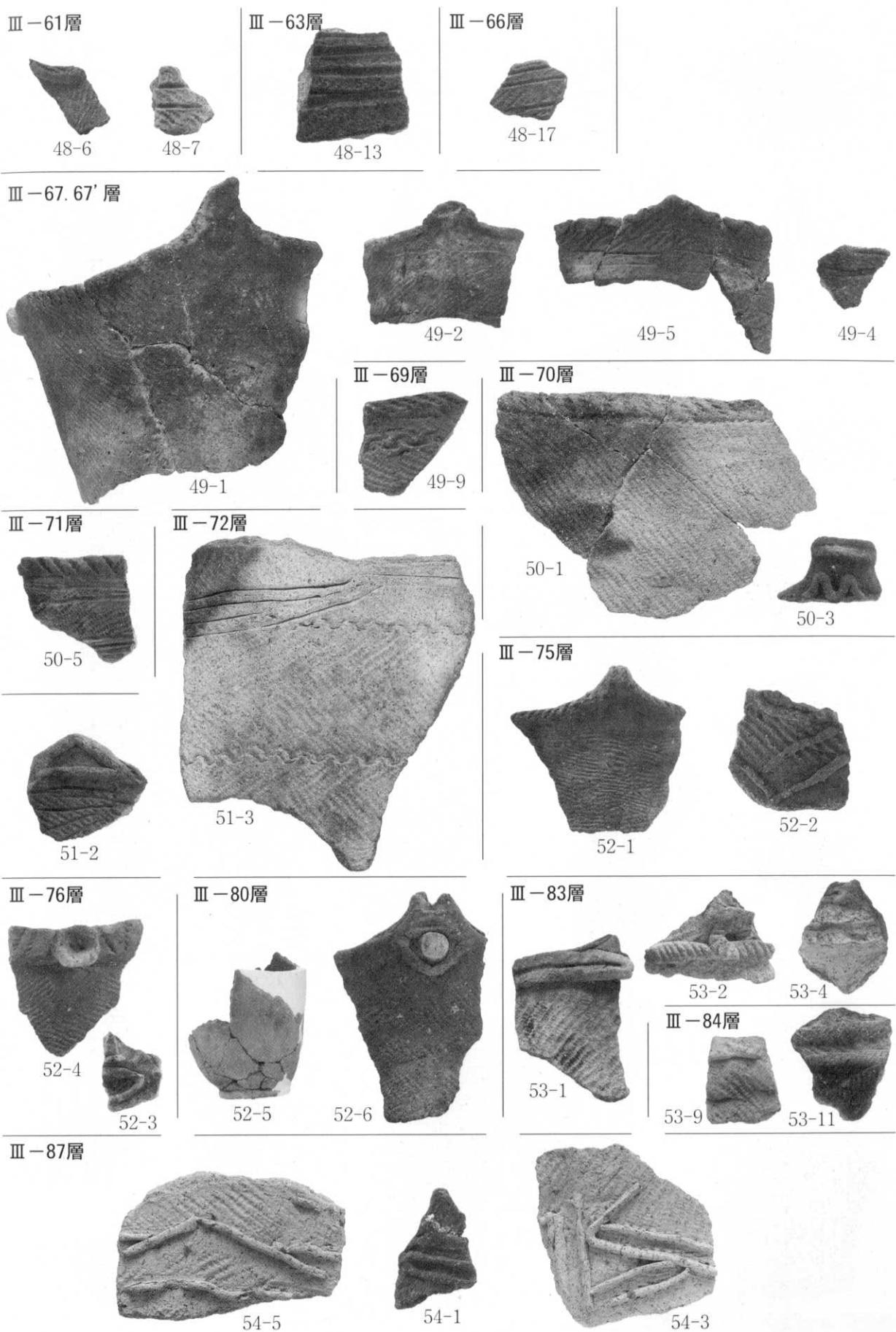


写真30 1トレンチ出土土器 (3)

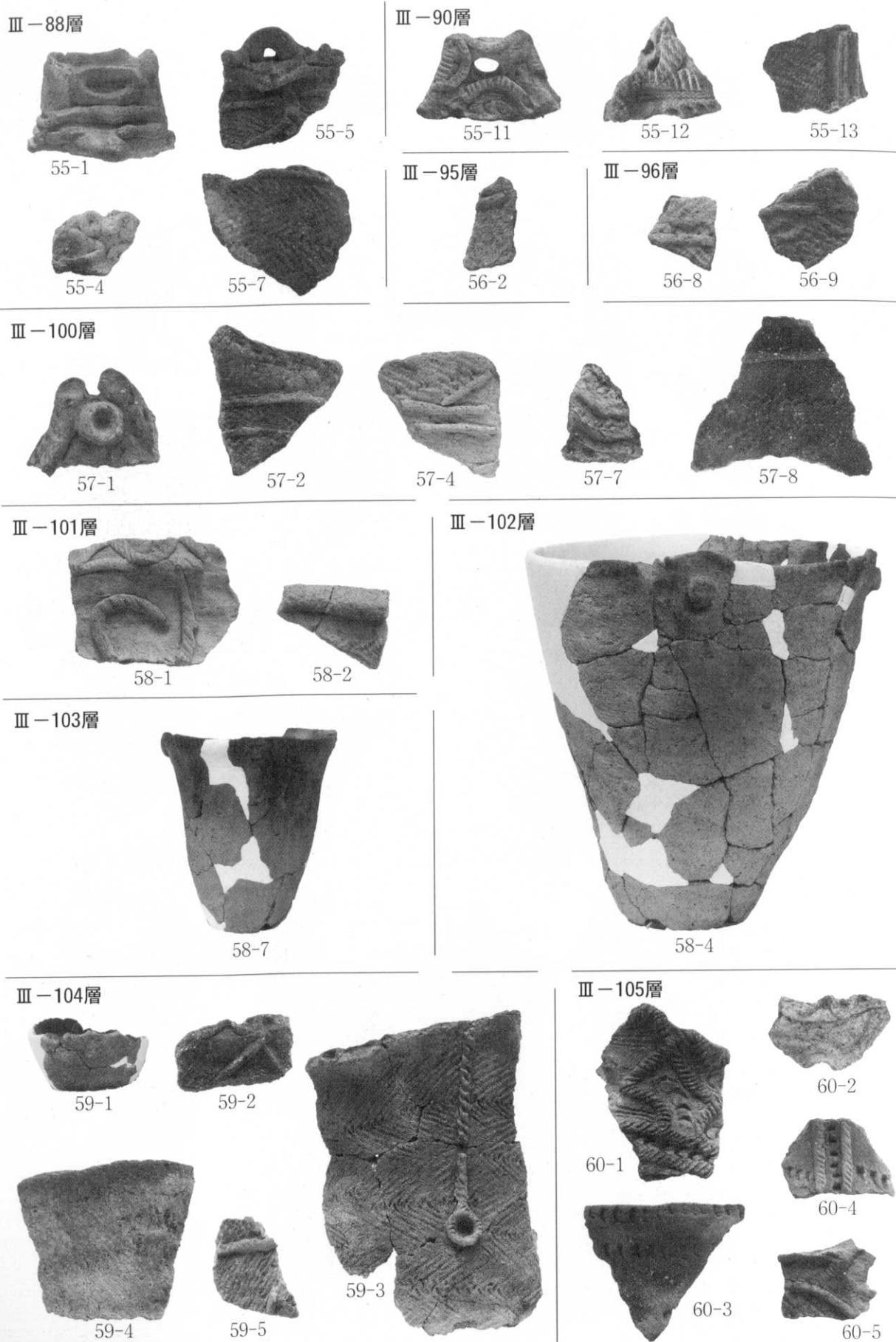
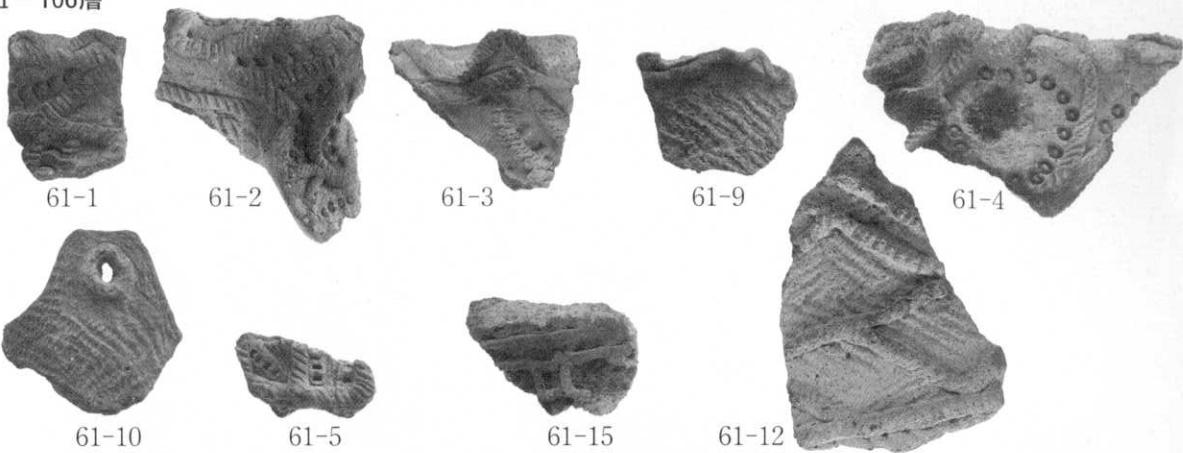


写真31 1トレンチ出土土器 (4)

III-106層



III-107層



III-108層

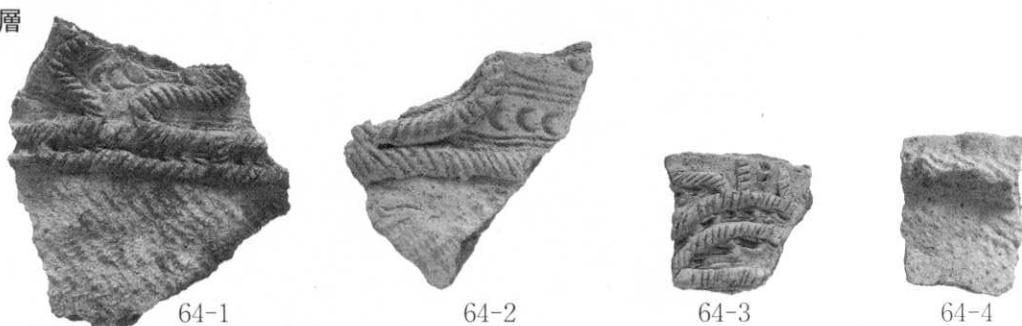


写真32 1トレンチ出土土器 (5)

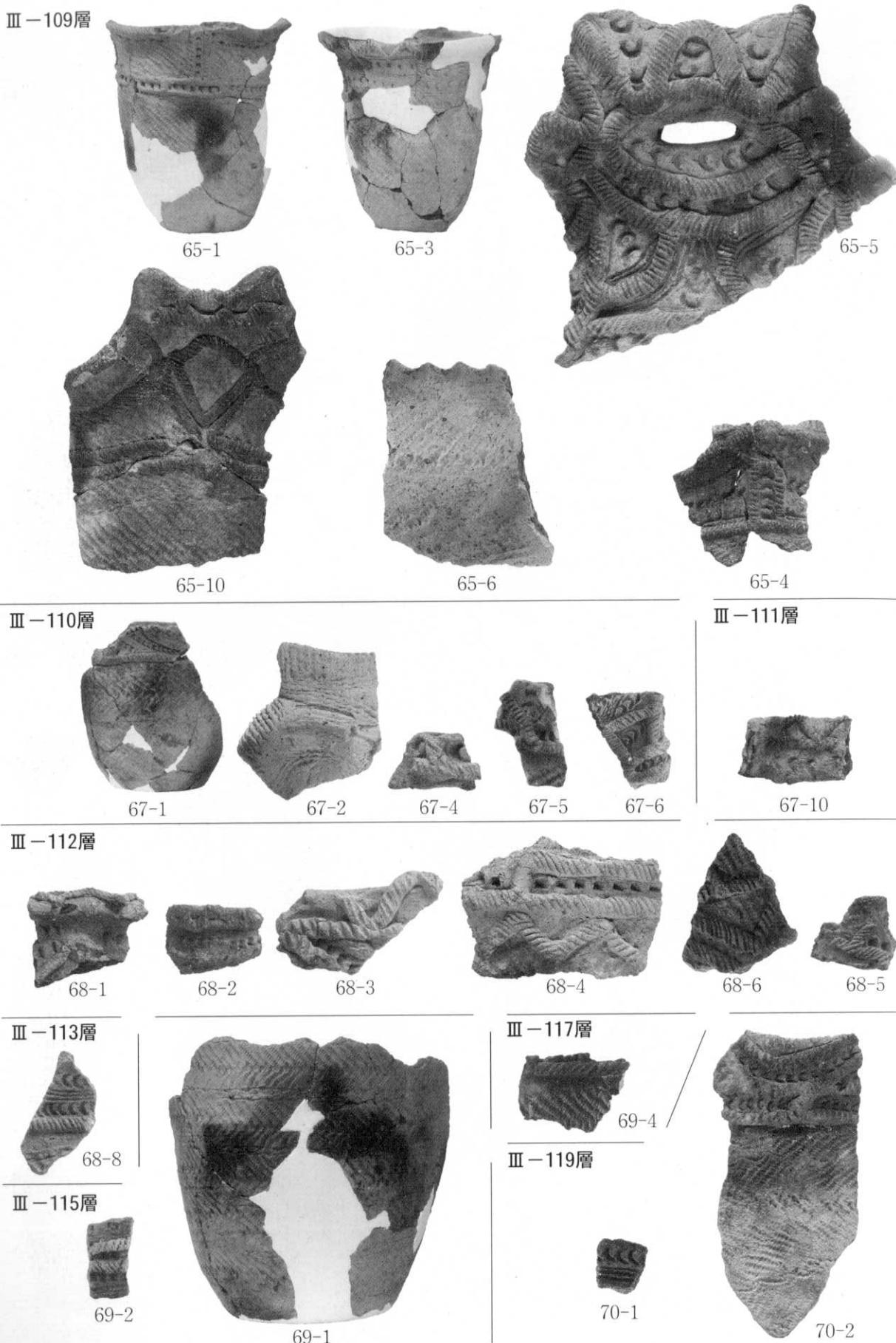
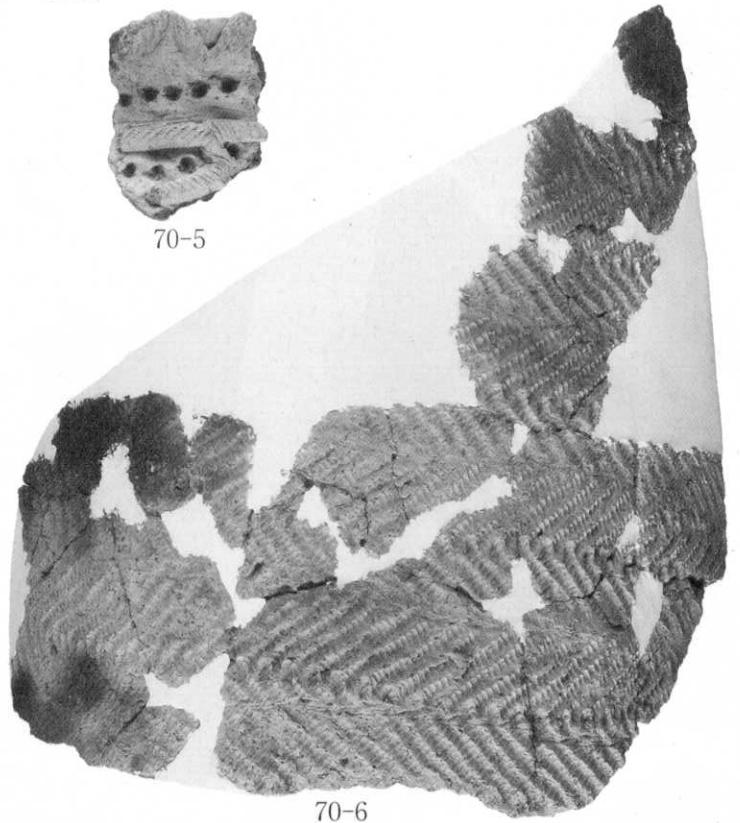
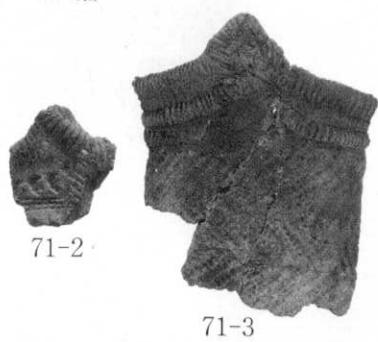


写真33 1トレンチ出土土器 (6)

III-123層



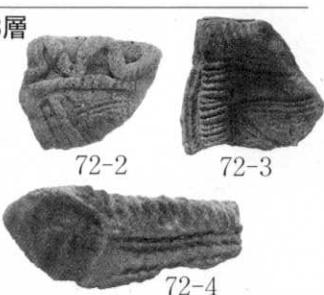
III-124層



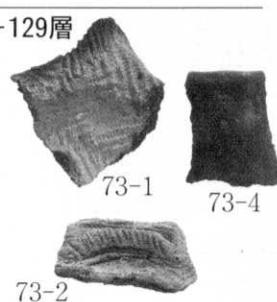
III-125層



III-128層



III-129層



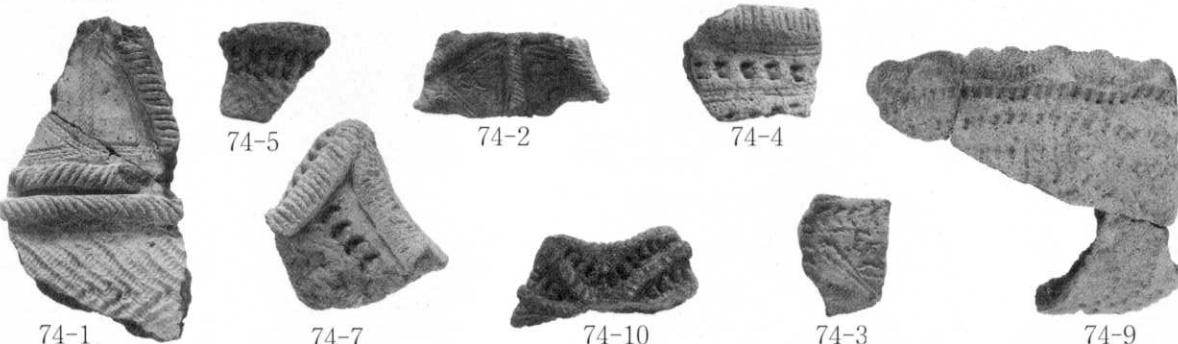
III-131層



III-132層



III-133層



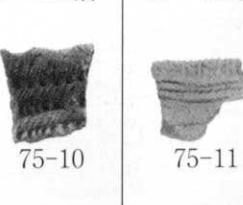
III-136層



III-137層



III-138層



III-139層

写真34 1トレンチ出土土器 (7)

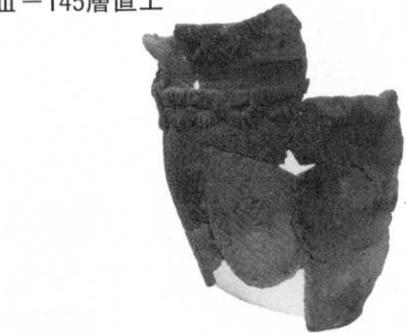
III-144層



75-17

75-19

III-145層直上



76-4



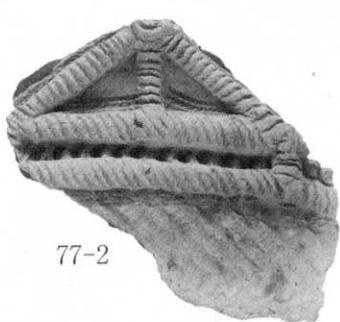
76-1



76-3



77-1



77-2



77-4



77-6



77-7



77-9



77-10

III-145層



79-1



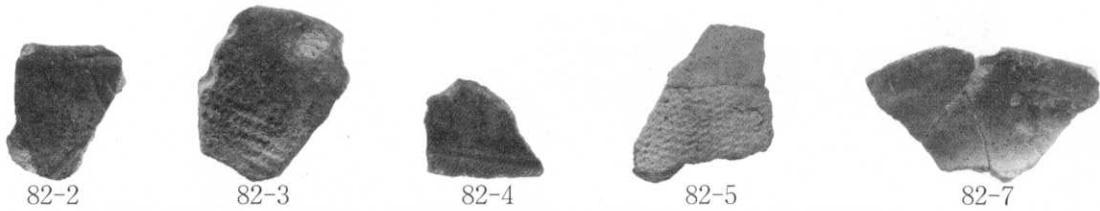
79-2



79-3

写真35 1トレンチ出土土器 (8)

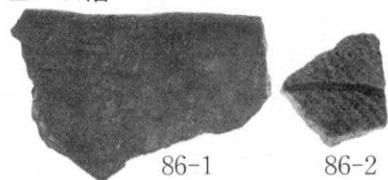
III-1層



III-5層



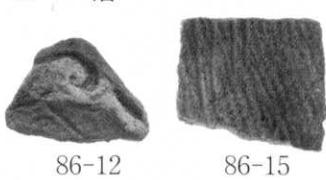
III-11層



III-13層



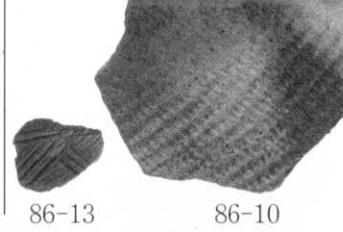
III-17層



III-24層



III-25層



III-30層

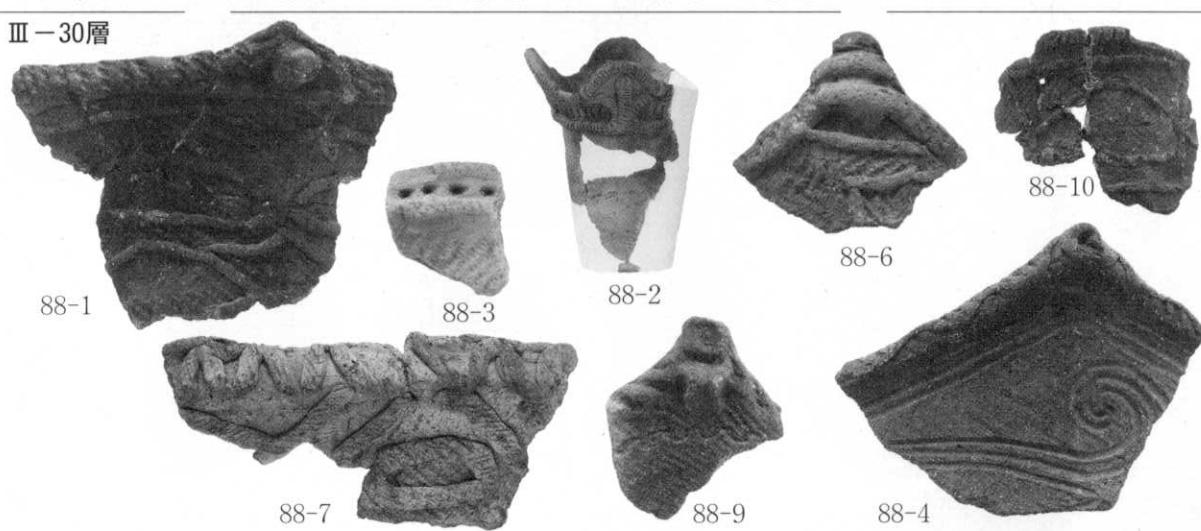
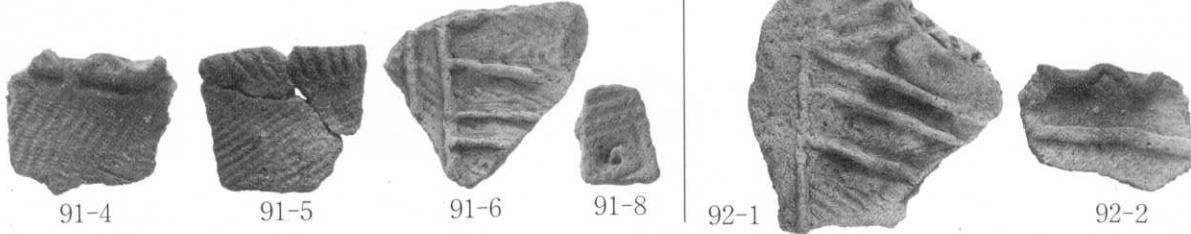
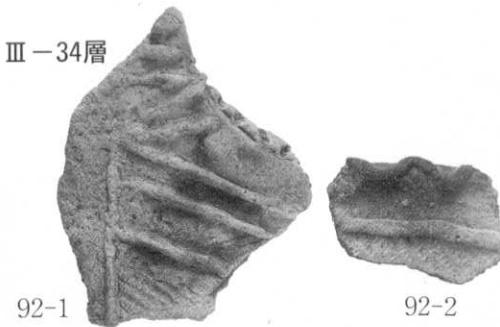


写真36 4 ドレンチ出土土器 (1)

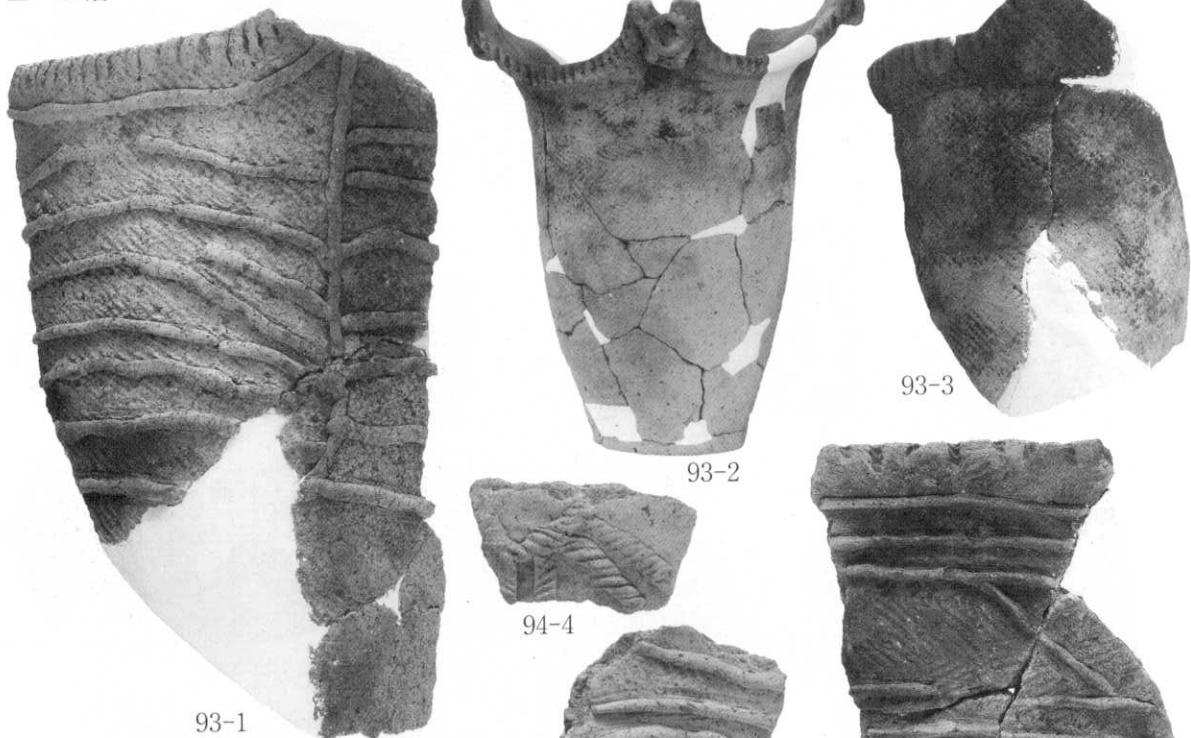
III-33層



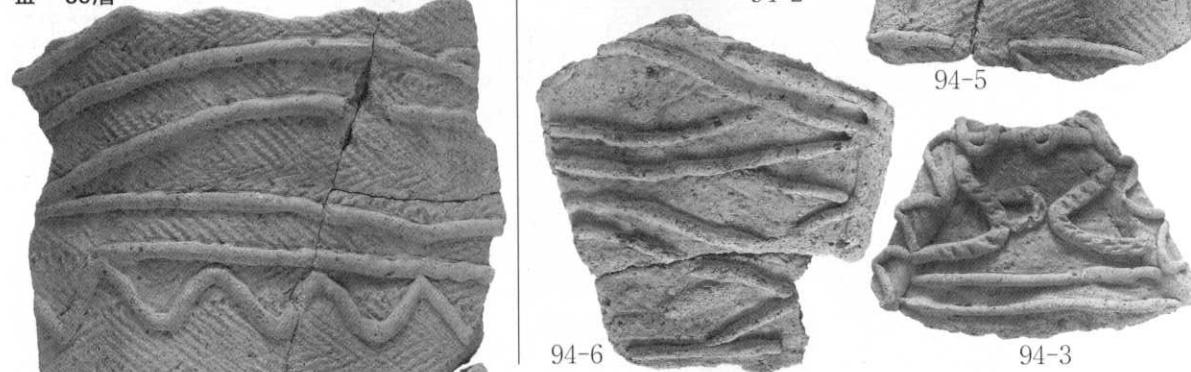
III-34層



III-35層



III-38層



III-40層

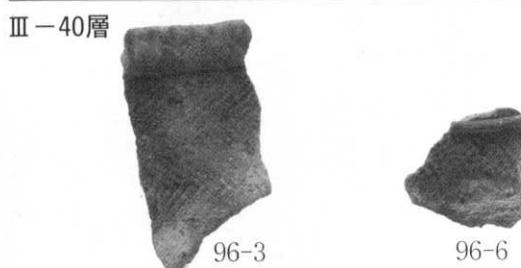
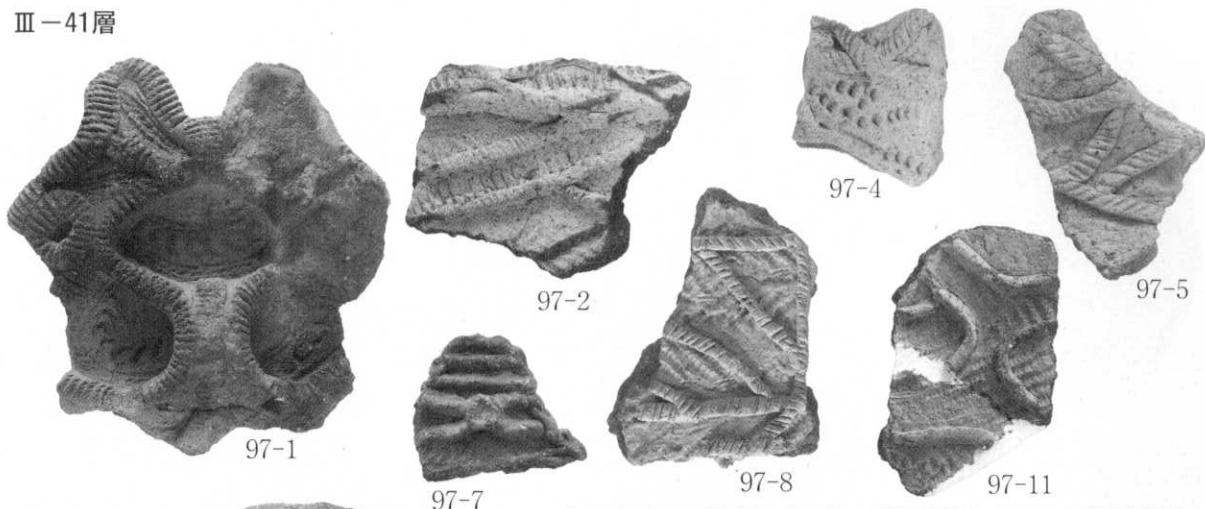
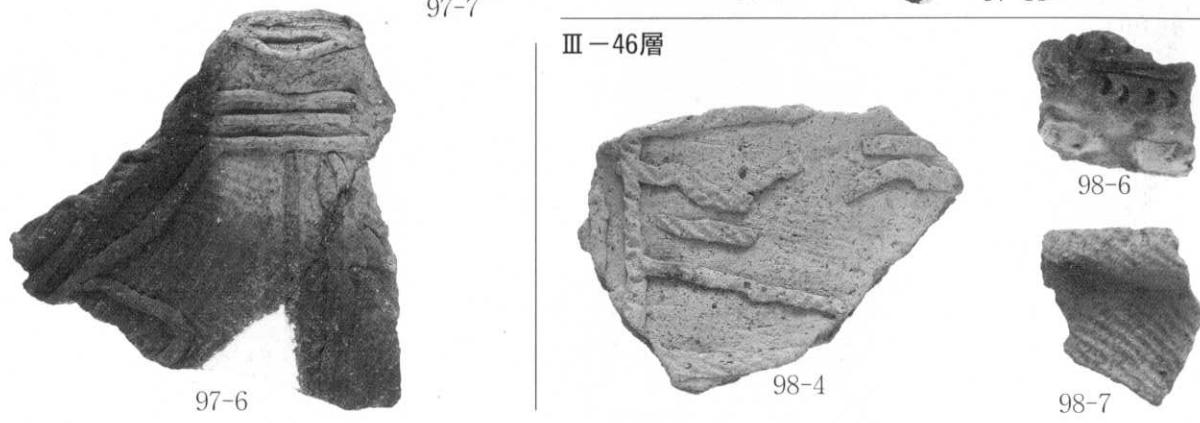


写真37 4トレンチ出土土器(2)

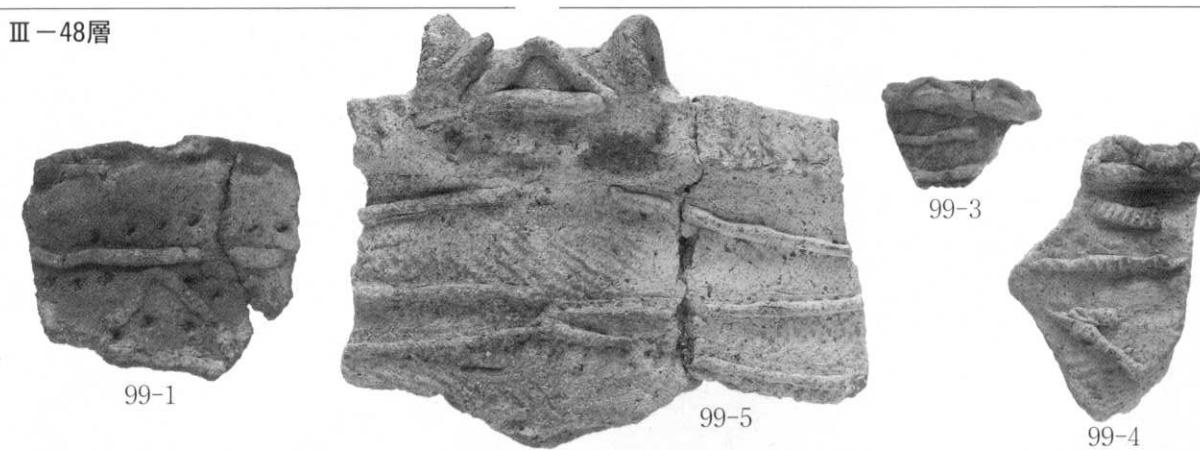
III-41層



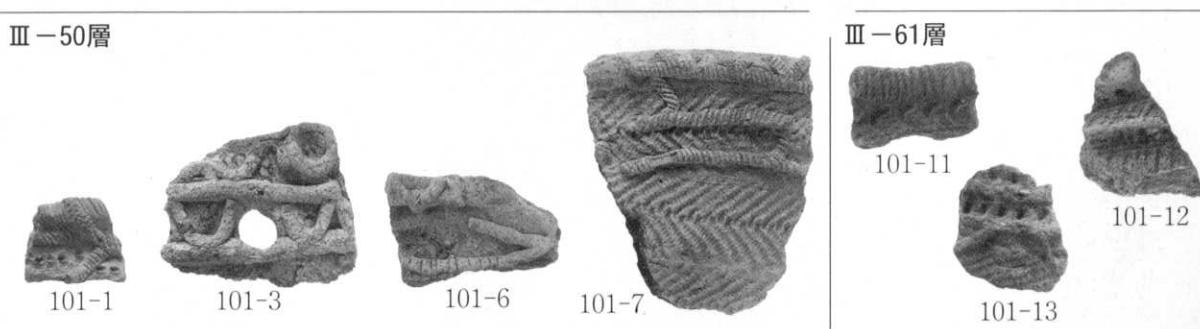
III-46層



III-48層



III-50層



III-61層

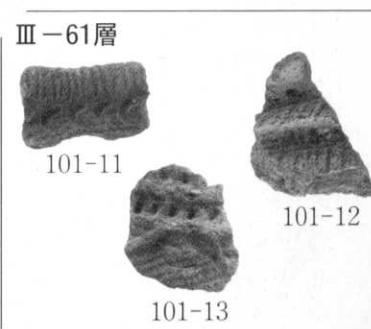
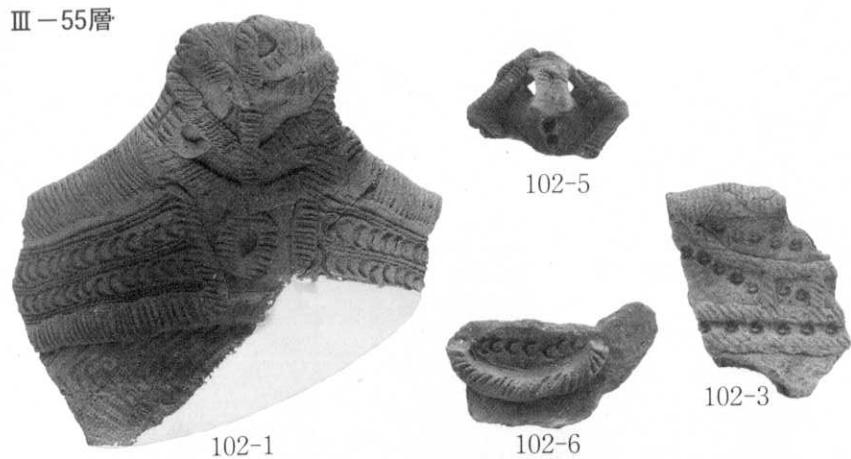
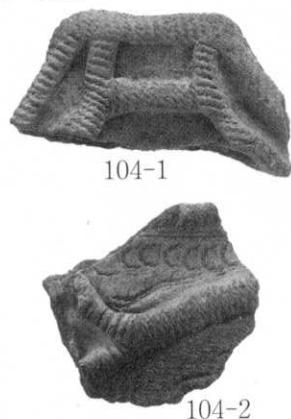


写真38 4トレンチ出土土器(3)

III-55層



III-56層



III-57層



III-58層



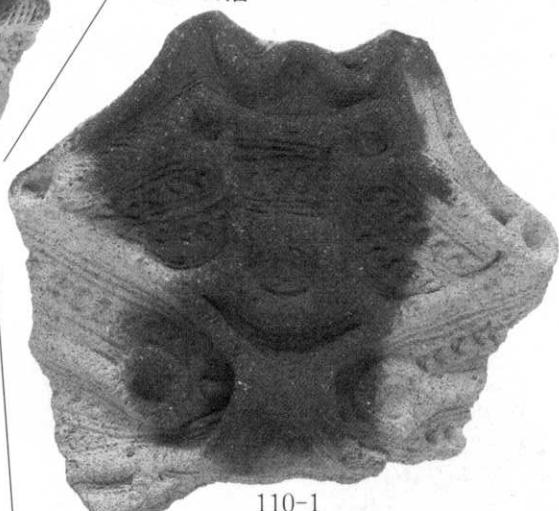
写真39 4トレンチ出土土器(4)

III-58層



108-2

III-60層



110-1

III-61層



111-1

III-62層



111-2

III-64層



111-3



111-4

III-65層

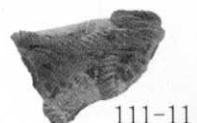


111-8



111-9

III-66層



111-11

III-69層



112-1



112-2



112-5



112-7

写真40 4 トレンチ出土土器 (5)

III-71層



III-72層



113-3
113-4

III-75層



III-77層



III-79層



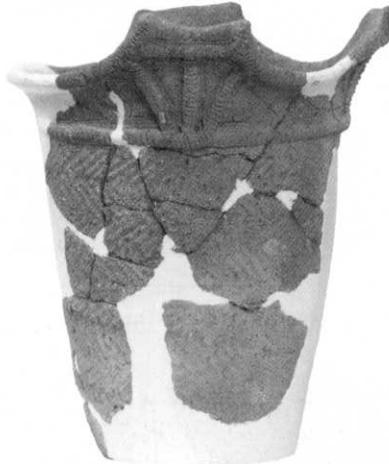
III-80層



III-81層



III-82層



118-4

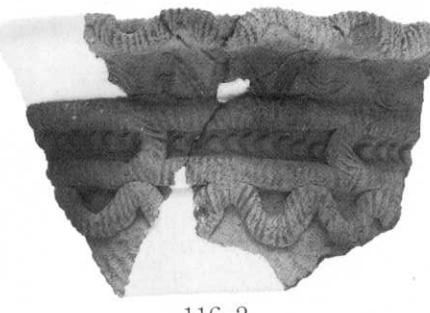
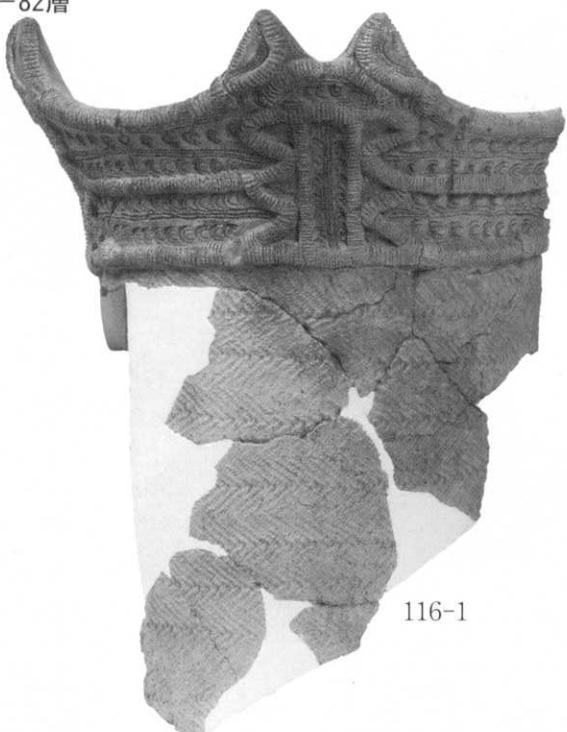


写真41 4トレンチ出土土器 (6)

III-82層

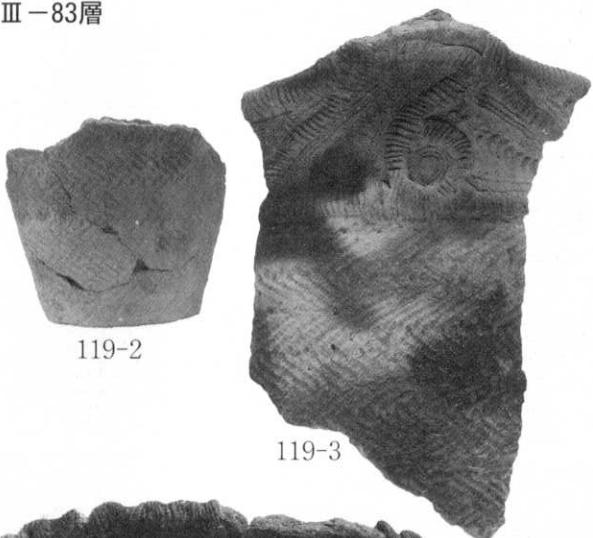


116-1



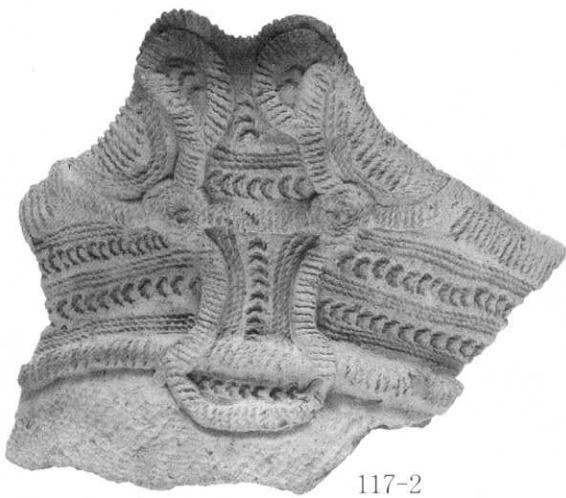
117-1

III-83層

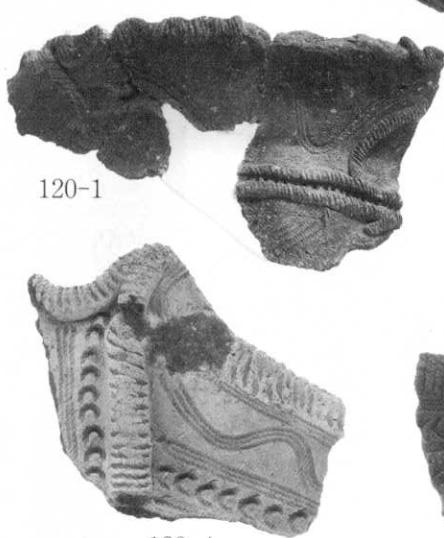


119-2

119-3



117-2



120-1

120-3

120-4

120-5

120-6

119-1

写真42 4トレンチ出土土器 (7)

III-84層



III-85層



III-88層

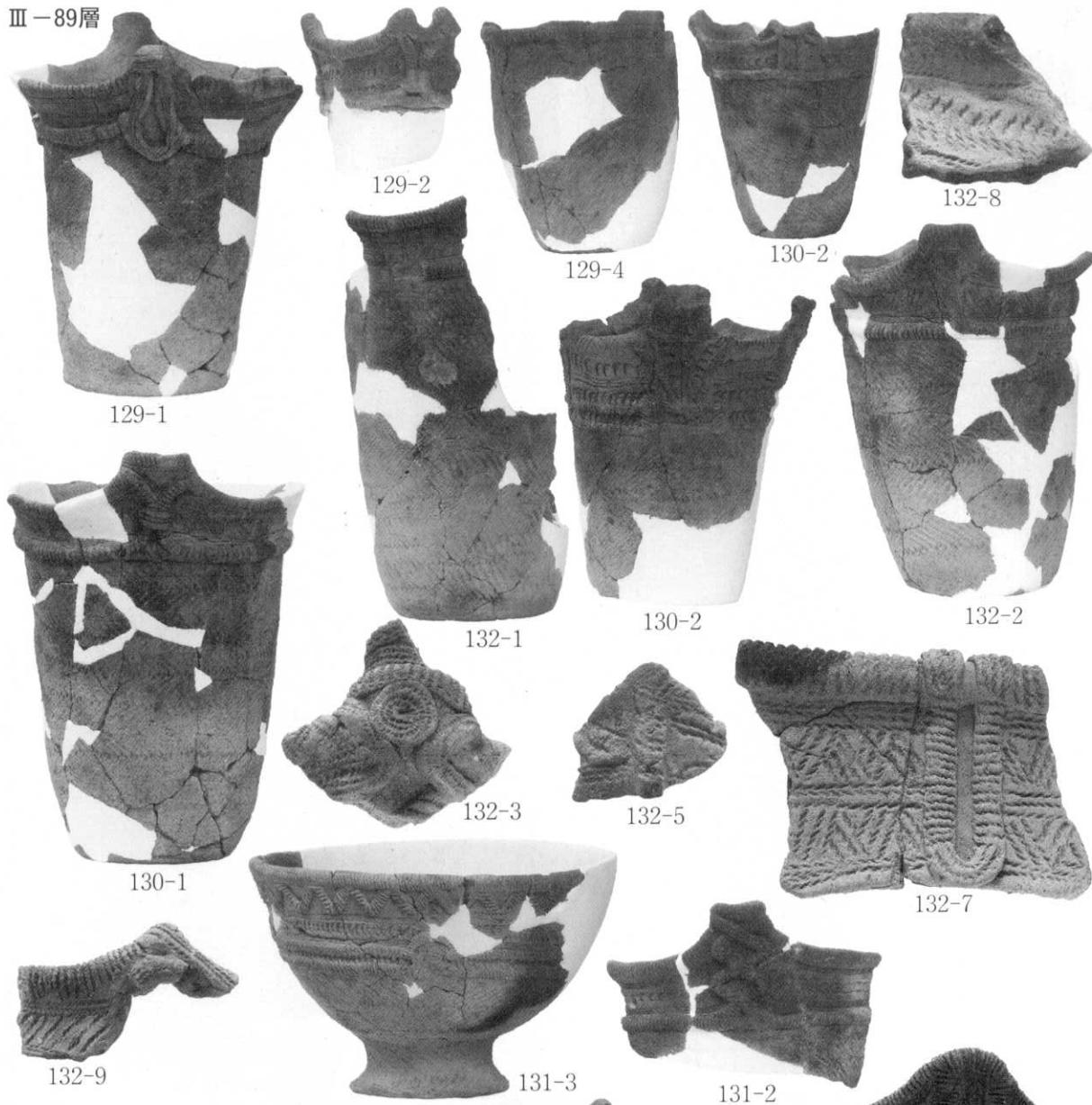


III-89層



写真43 4トレンチ出土土器 (8)

III-89層



III-89'層

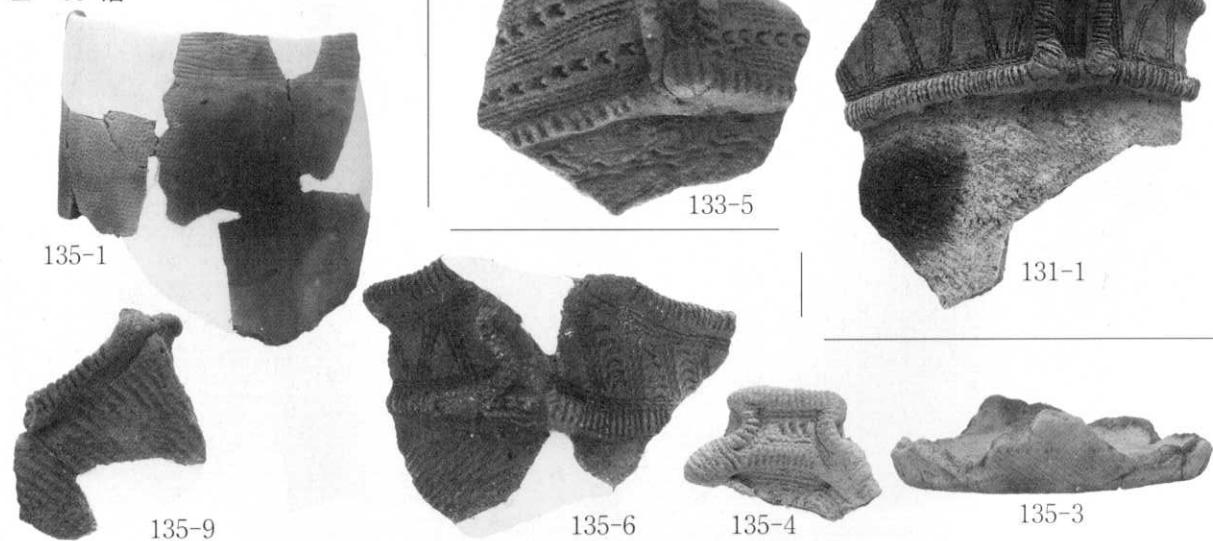
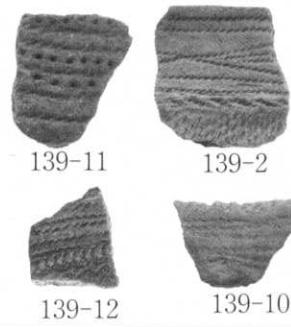


写真44 4トレンチ出土土器 (9)

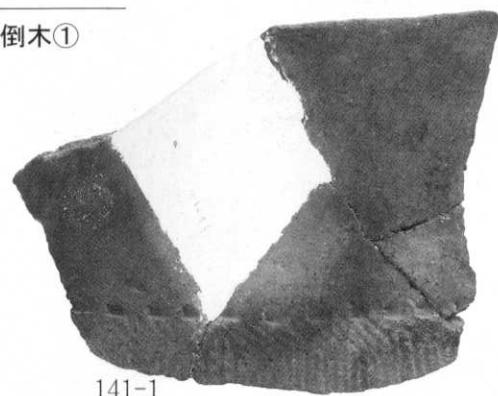
III-89'層



III-90層



III-風倒木①



III-風倒木②



III-風倒木⑤



写真45 4トレンチ出土土器(10)

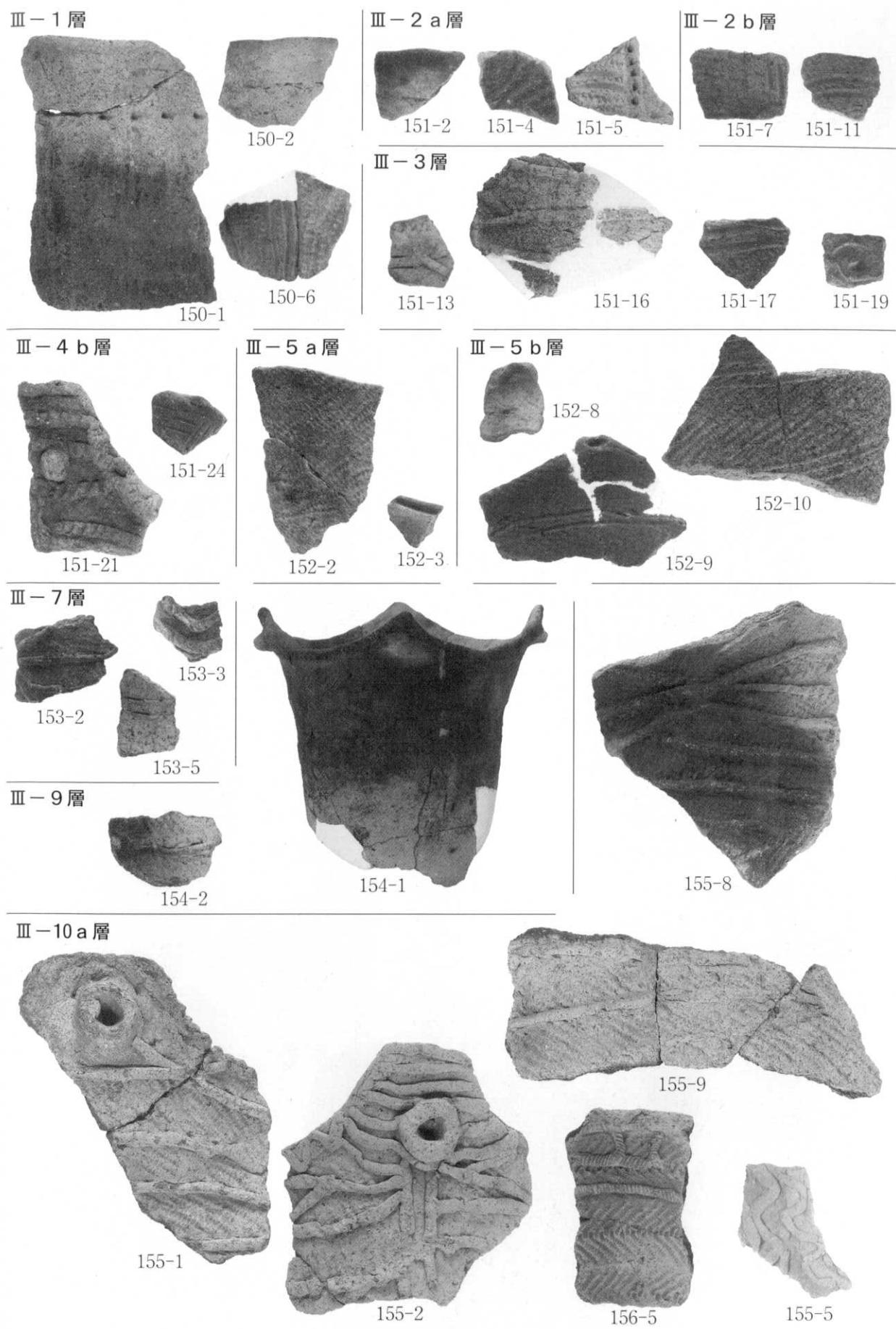
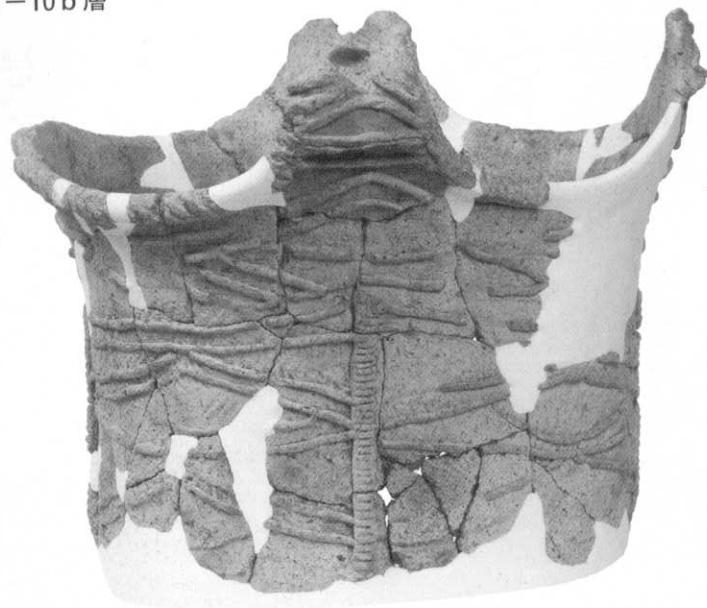


写真46 ポイント4出土土器(1)

III-10 b 層



157-1



157-2



157-3

III-10 c 層



159-1



159-2

III-11層



160-2



160-4

III-12層



160-8



160-10

III-15層



161-1



161-2



161-4

埋設



164-1



162-4

写真47 ポイント4出土土器(2)

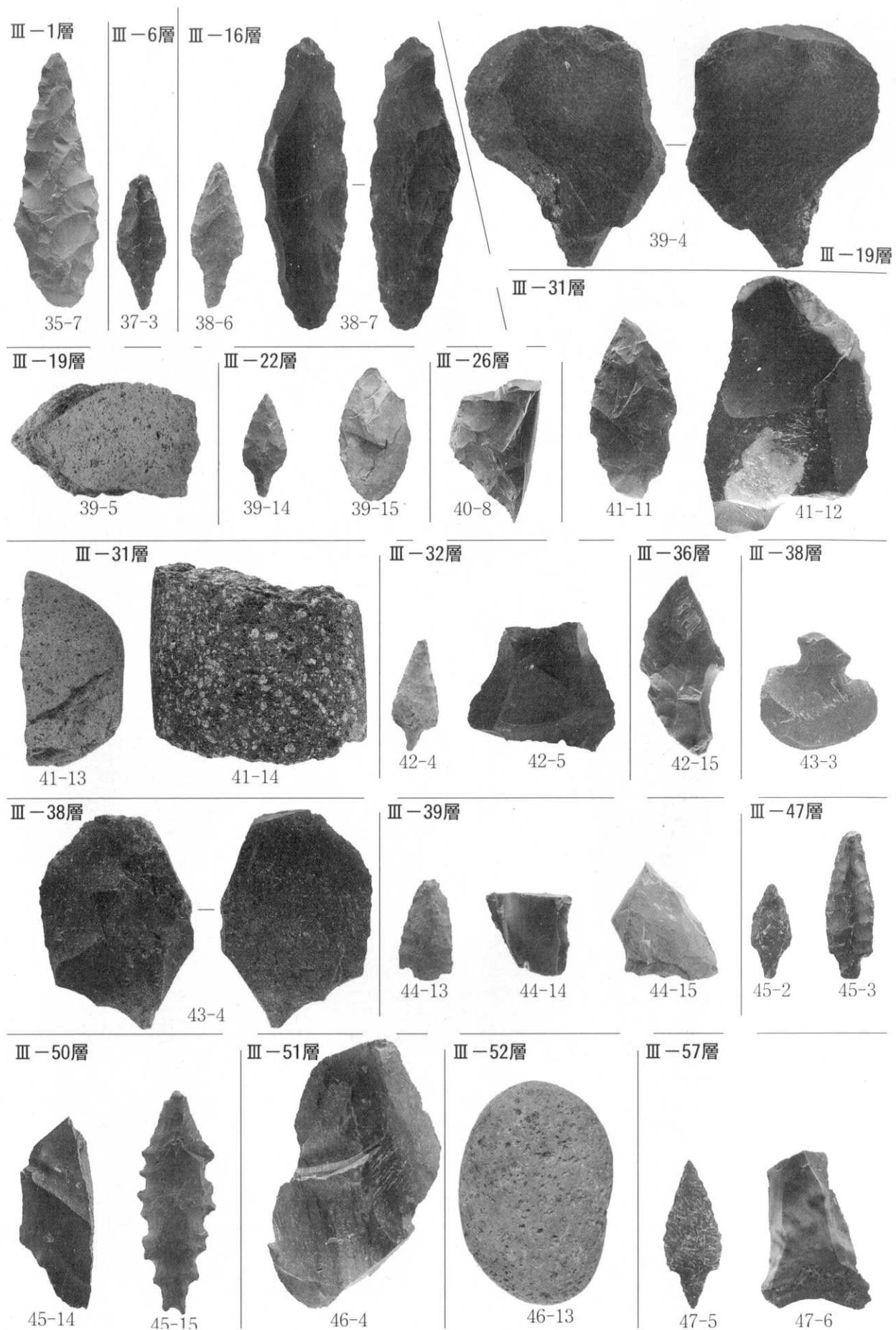


写真48 1トレンチ出土石器 (1)

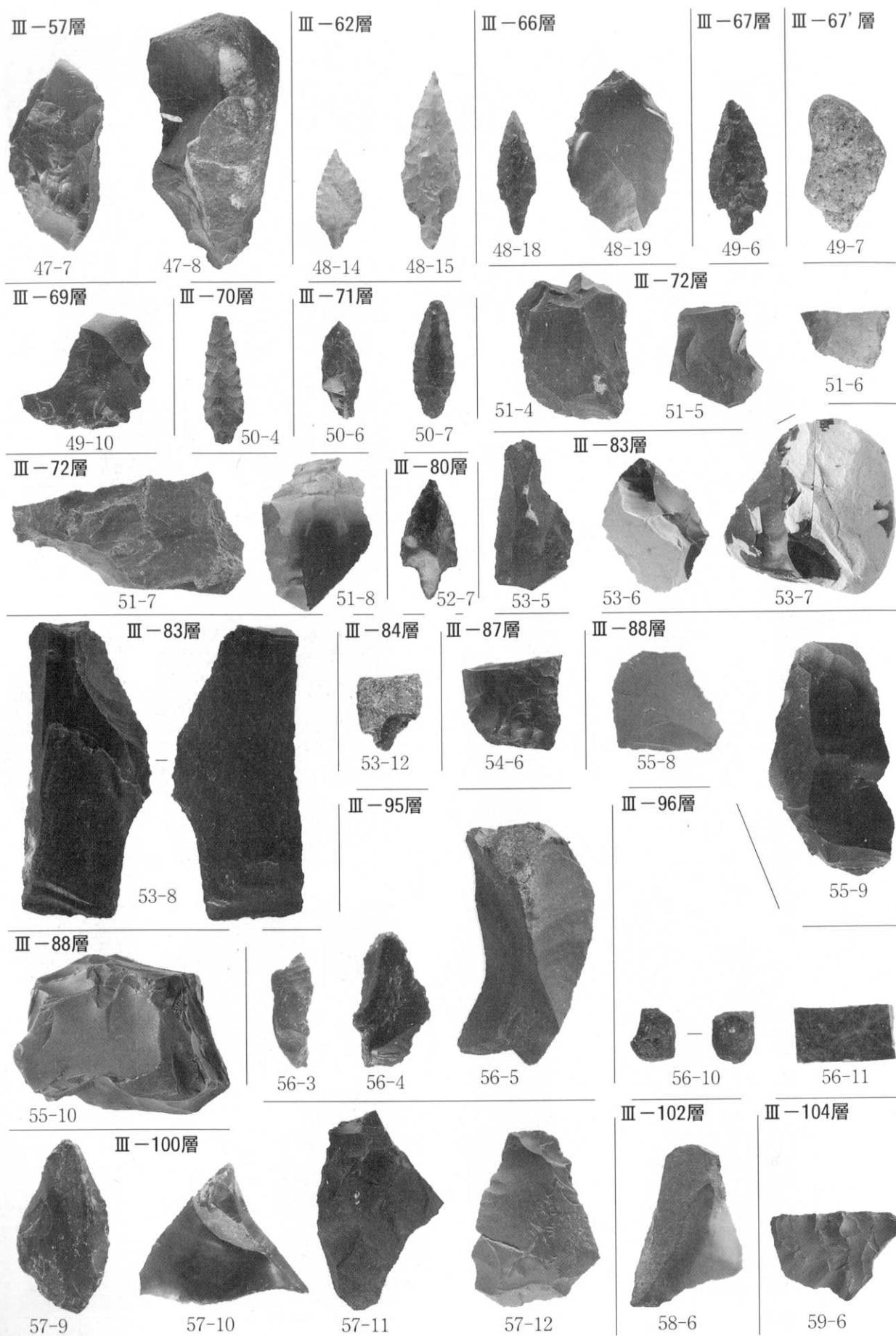


写真49 1トレンチ出土石器 (2)

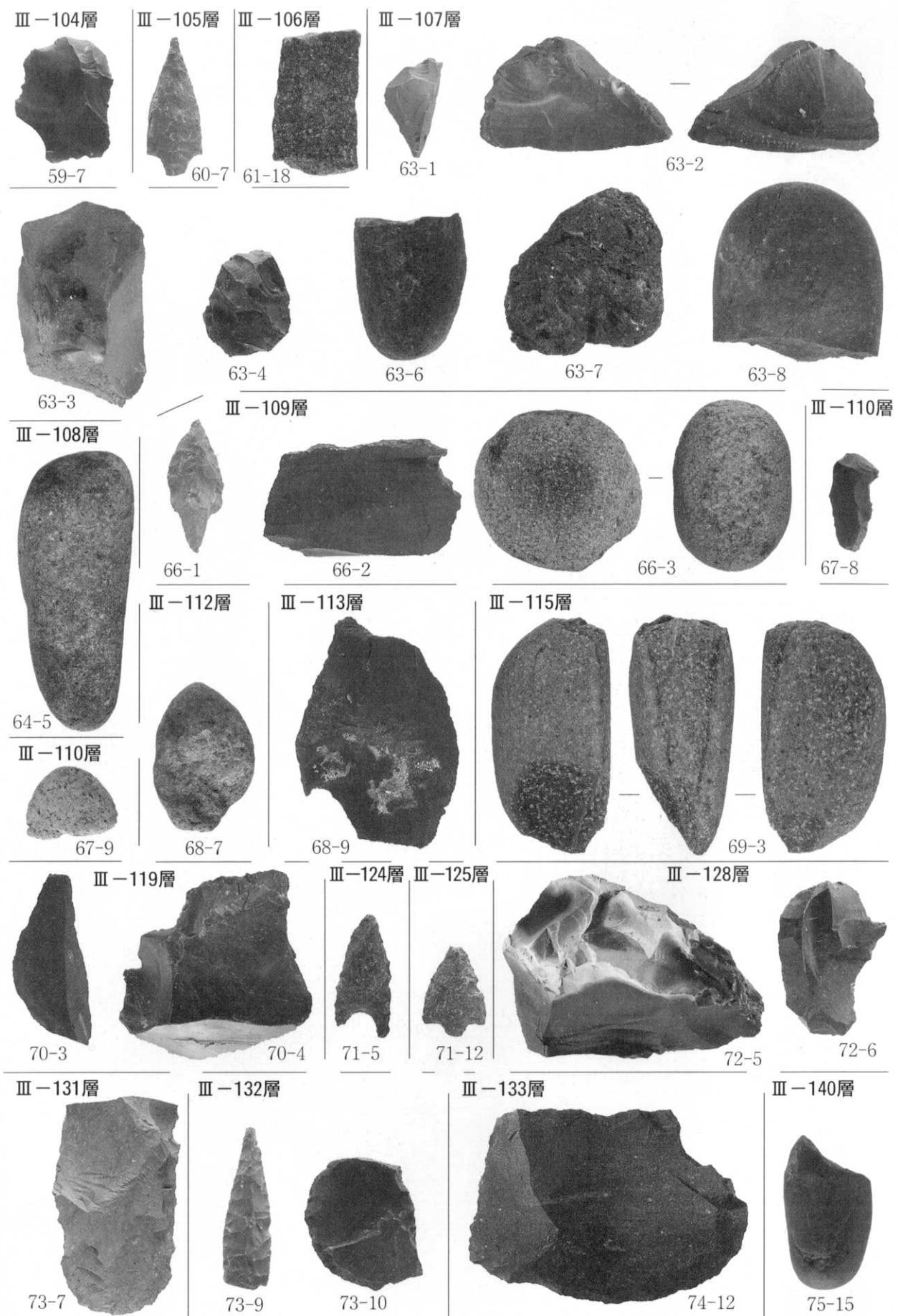
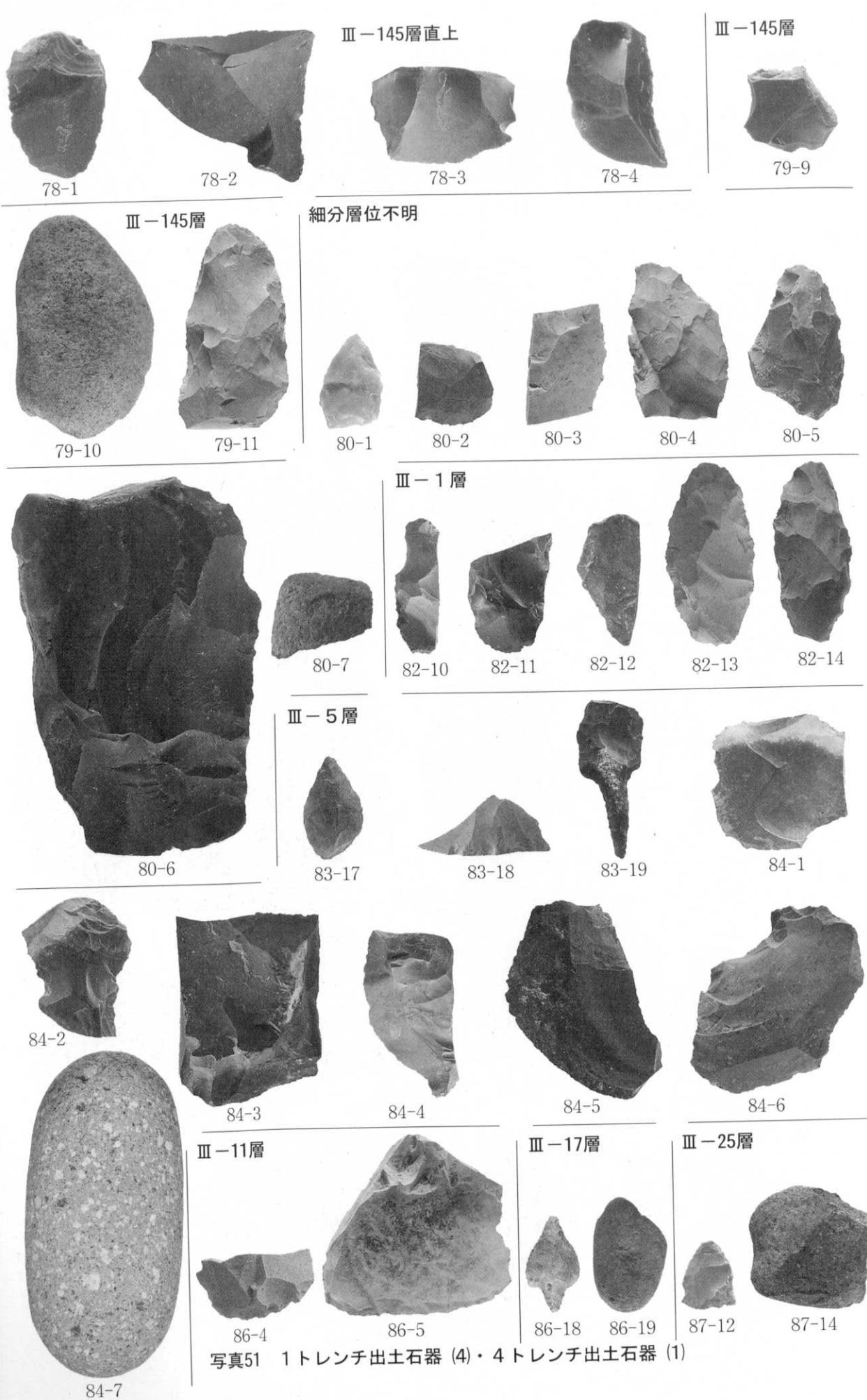


写真50 1トレンチ出土石器 (3)



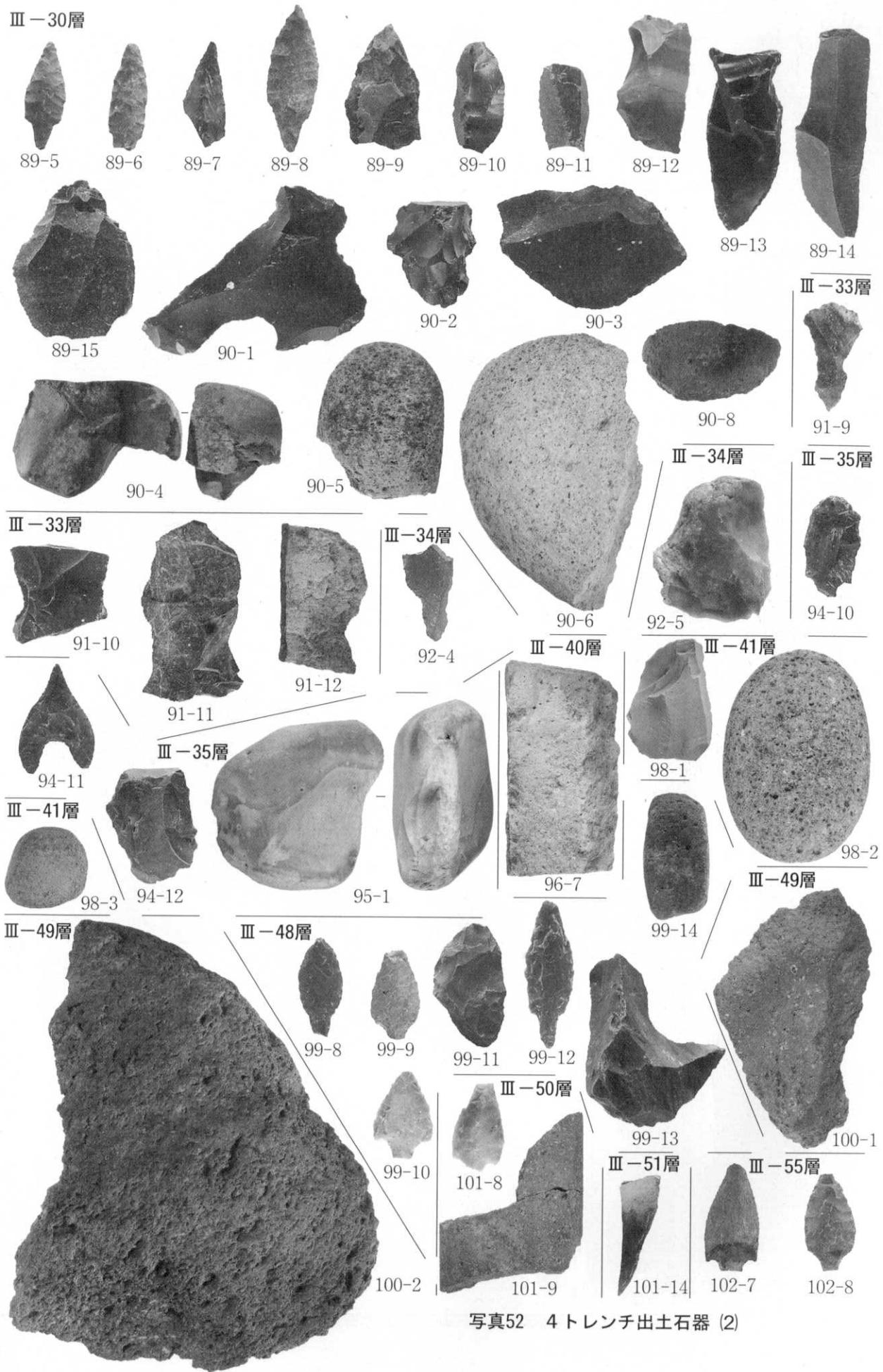


写真52 4トレンチ出土石器(2)

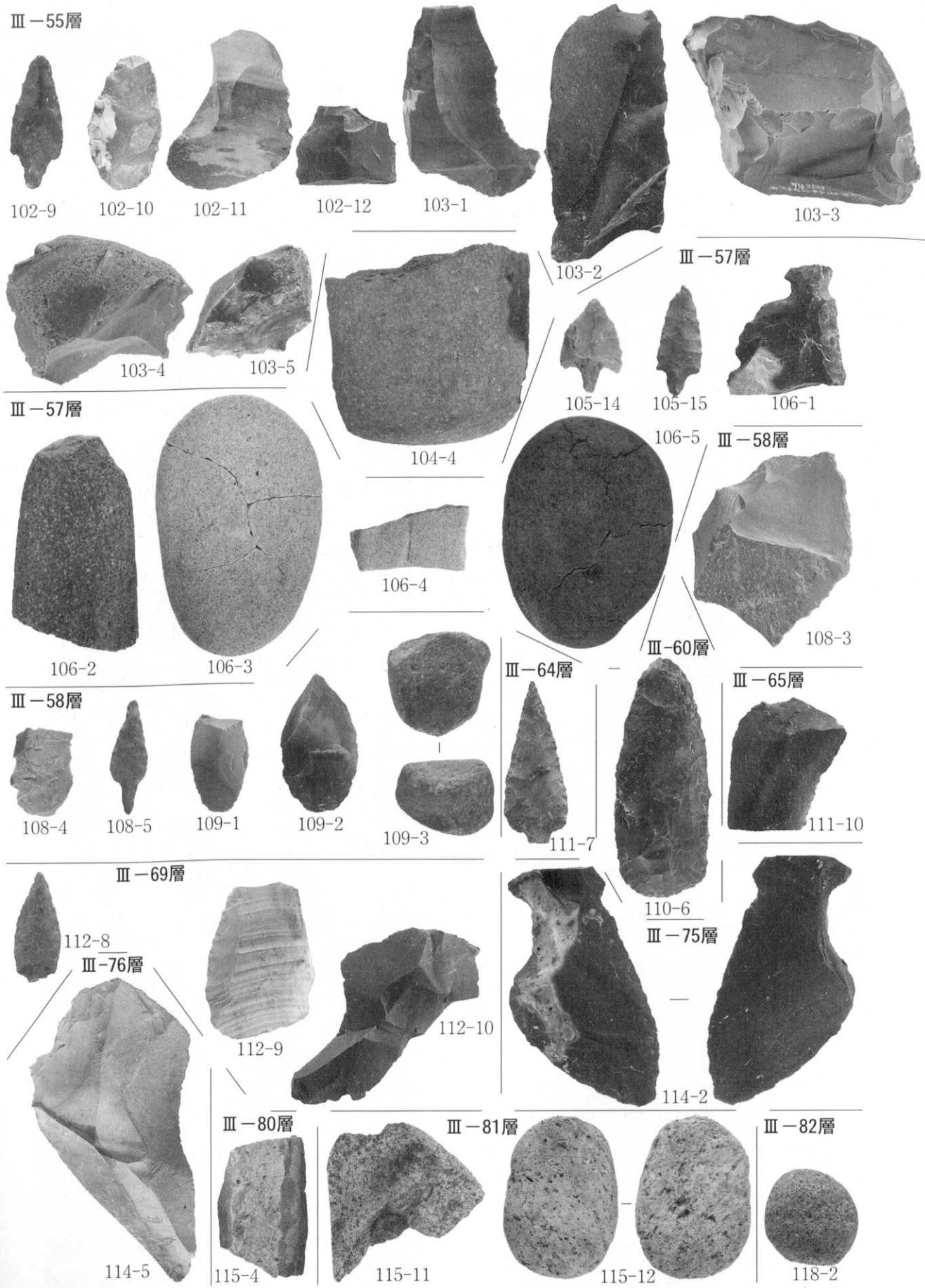


写真53 4 トレンチ出土石器 (3)

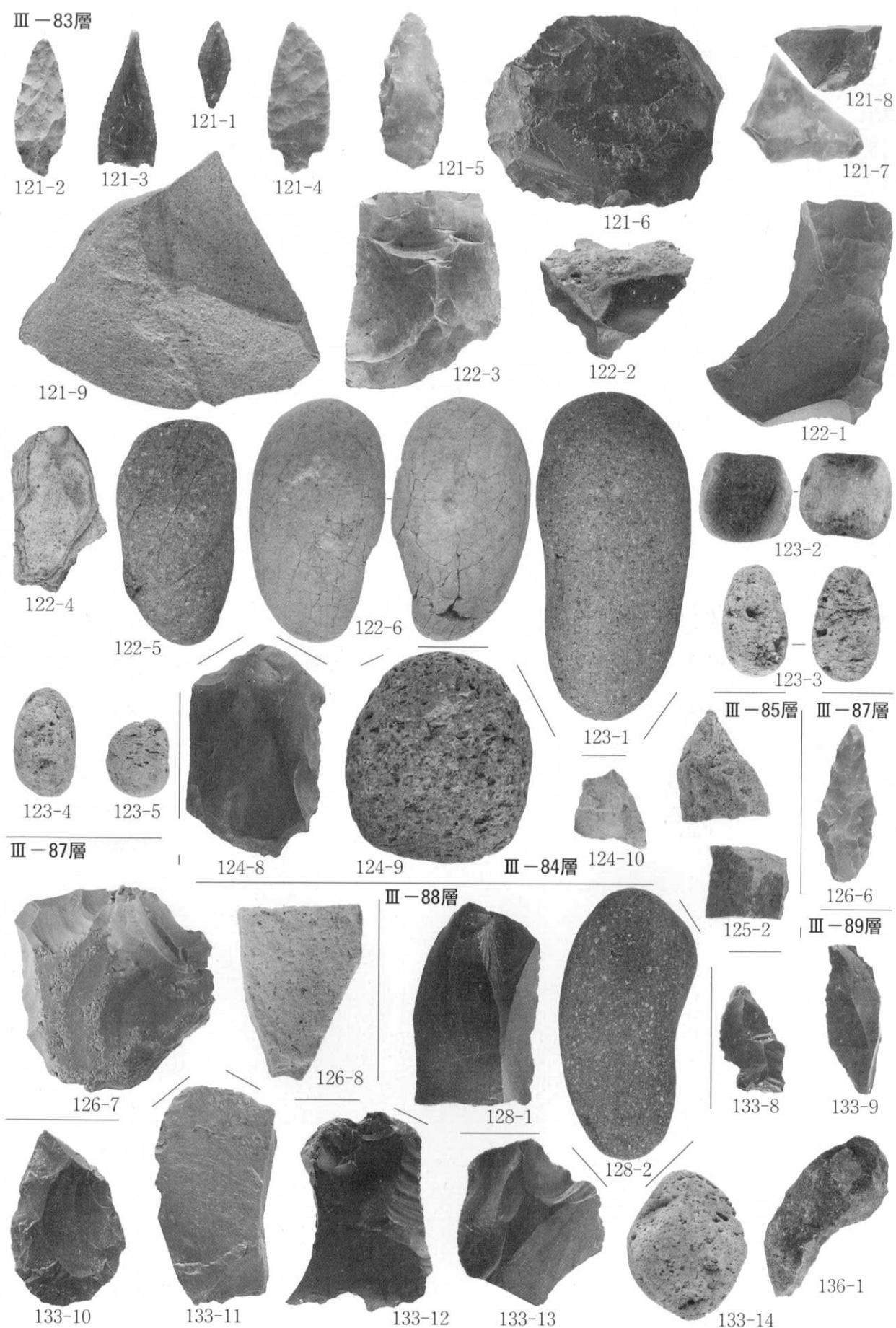


写真54 4トレンチ出土石器 (4)

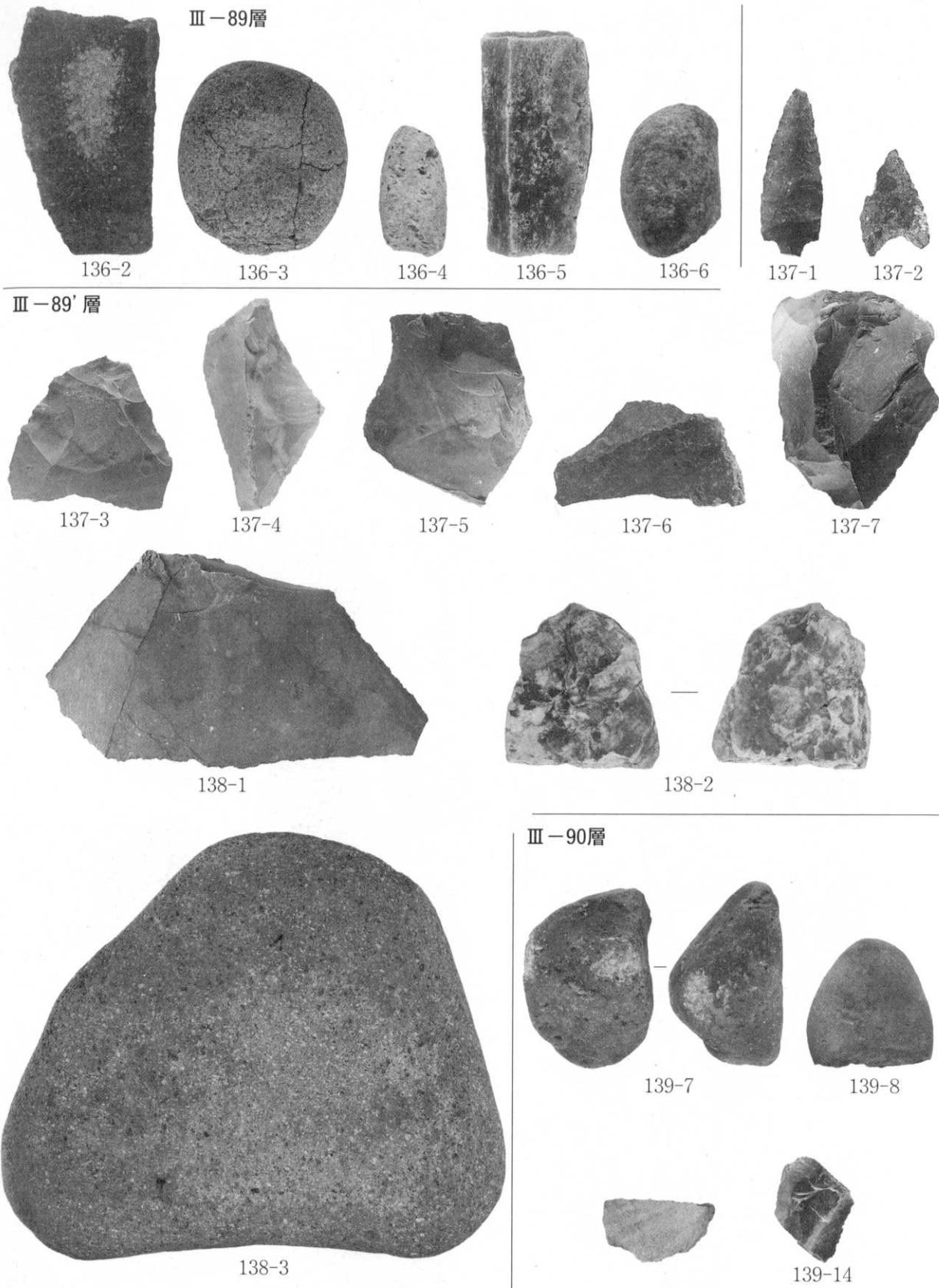
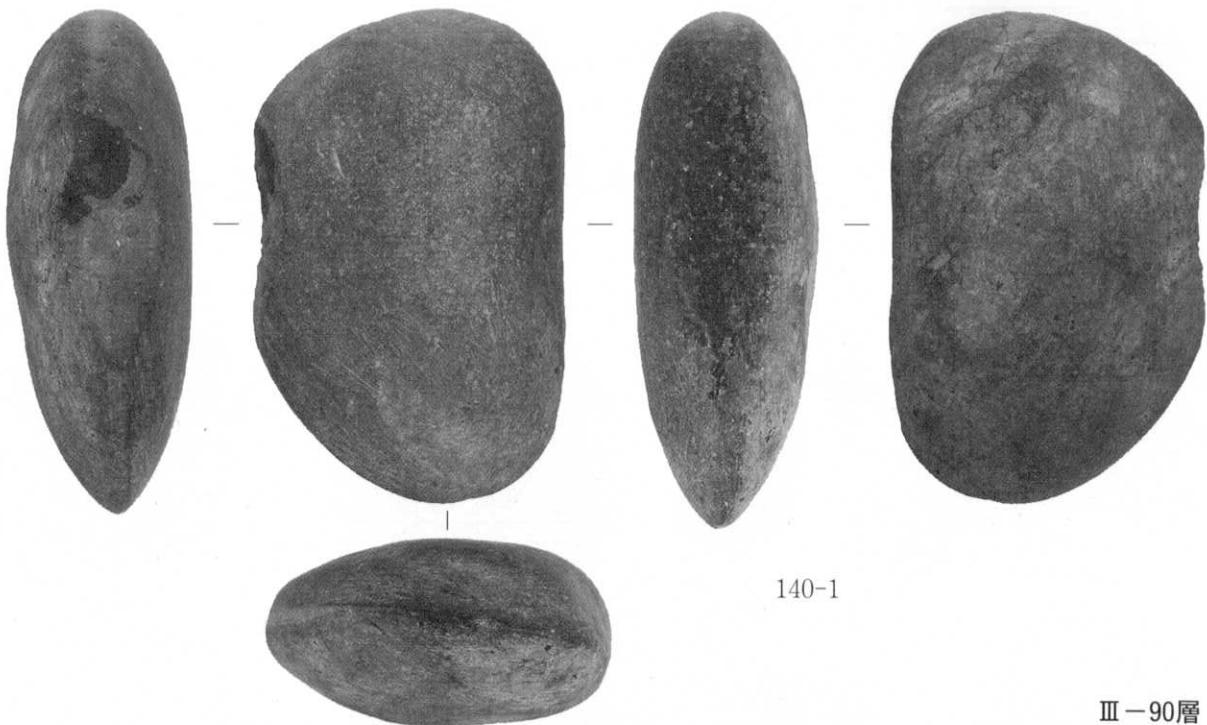


写真55 4トレンチ出土石器(5)



風倒木

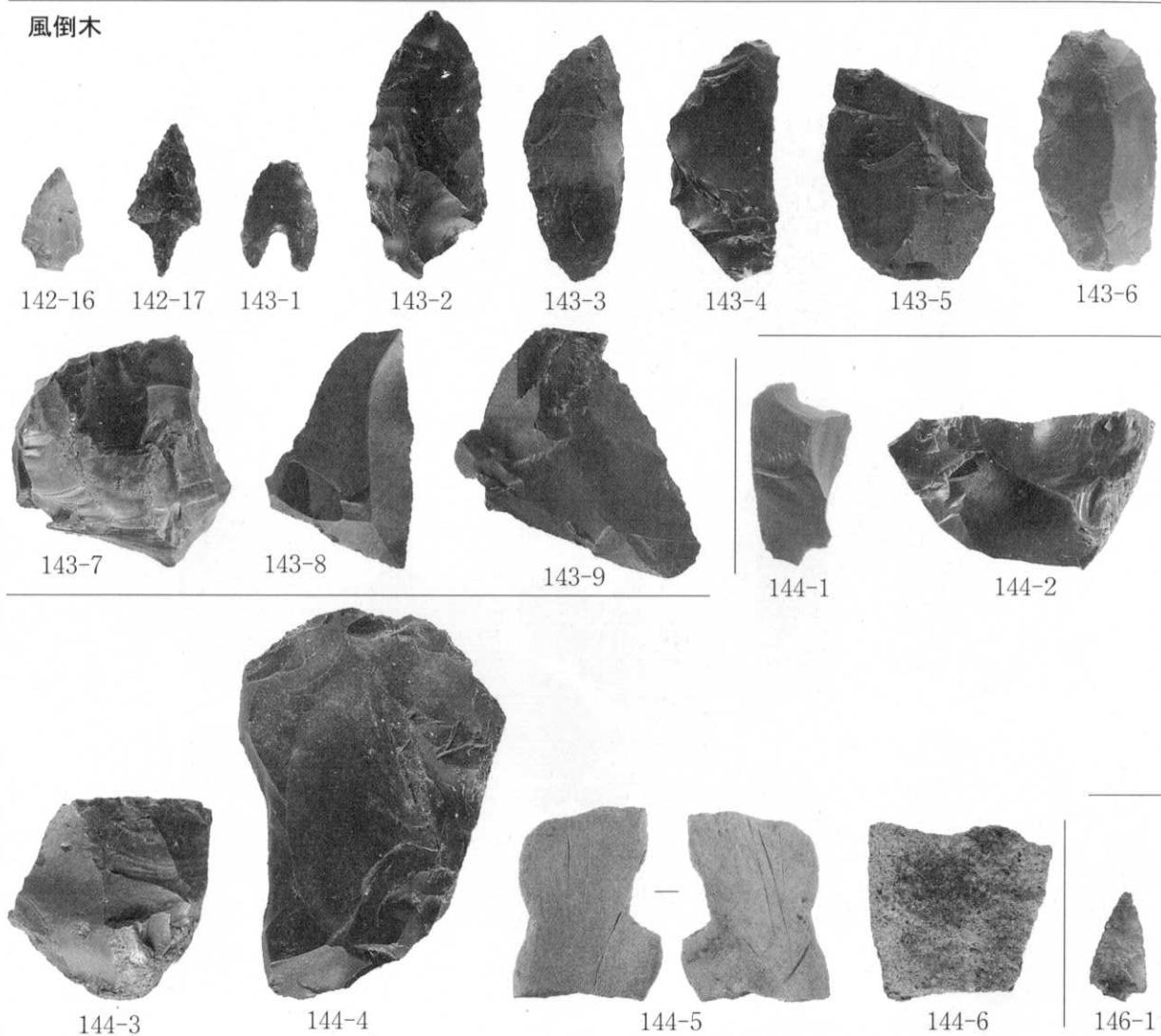


写真56 4トレンチ出土石器 (6)

風倒木



146-2



146-3



146-4



146-5



146-6



147-1

細分層位不明



147-2



147-3



147-5



147-4



147-6



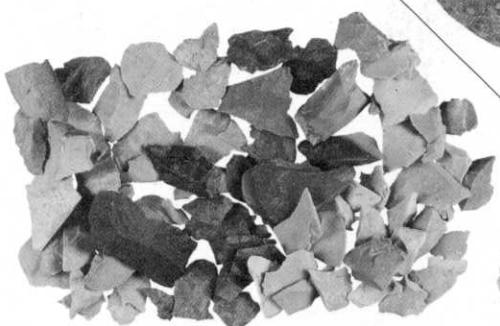
148-3



148-1



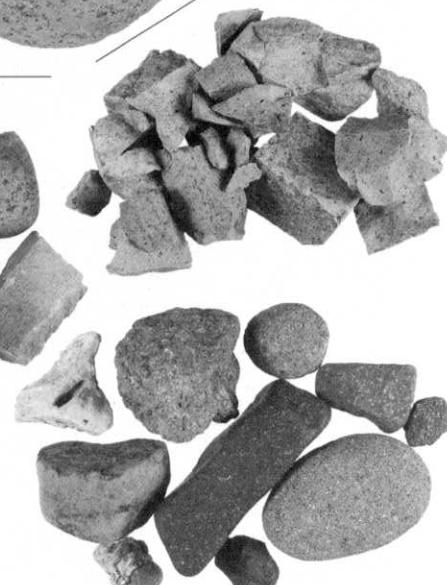
148-2



4トレンチ割れた礫集合



4トレンチ被熟礫集合



4トレンチ礫集合

写真57 4トレンチ出土石器 (7)

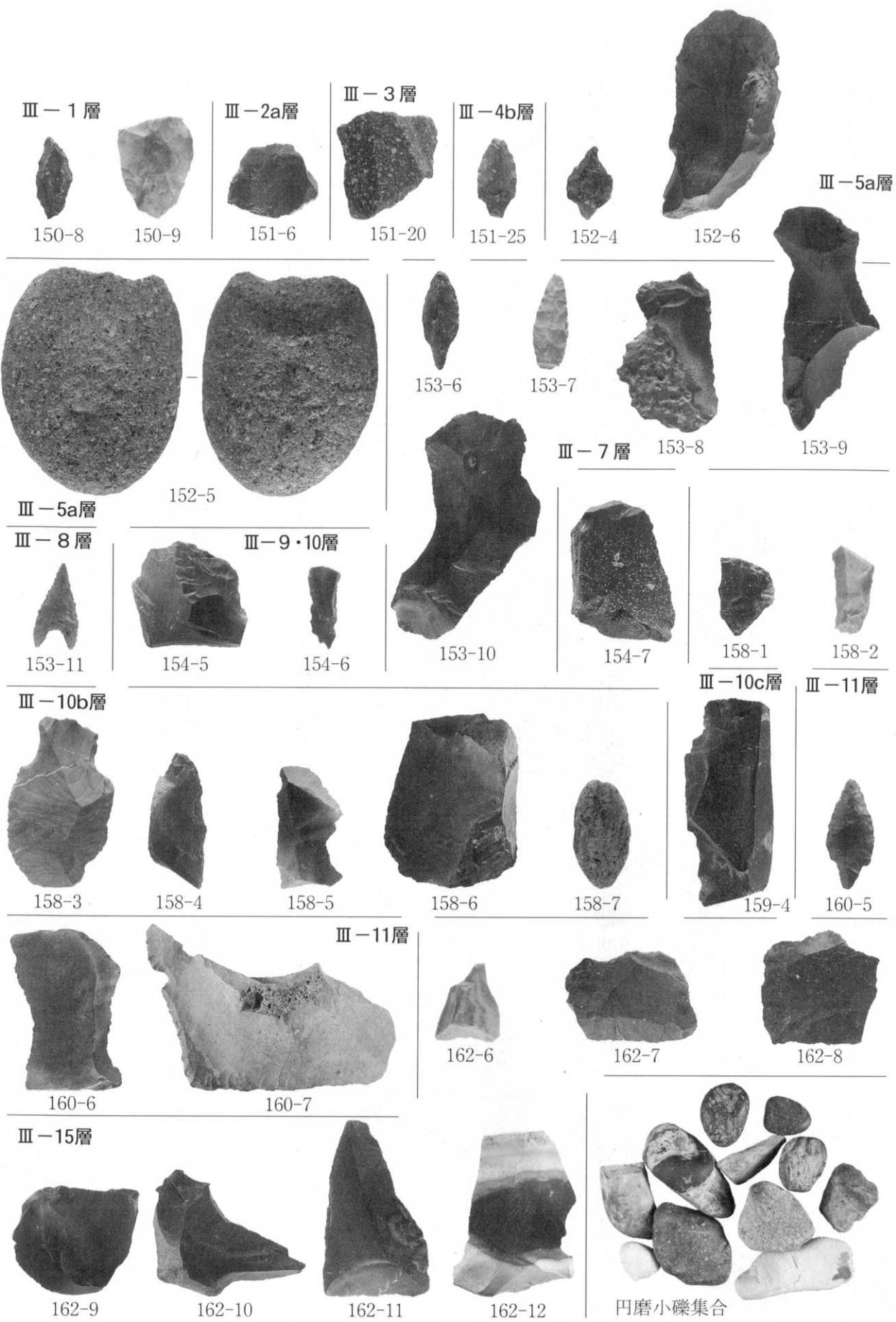


写真58 ポイント4出土石器(1)

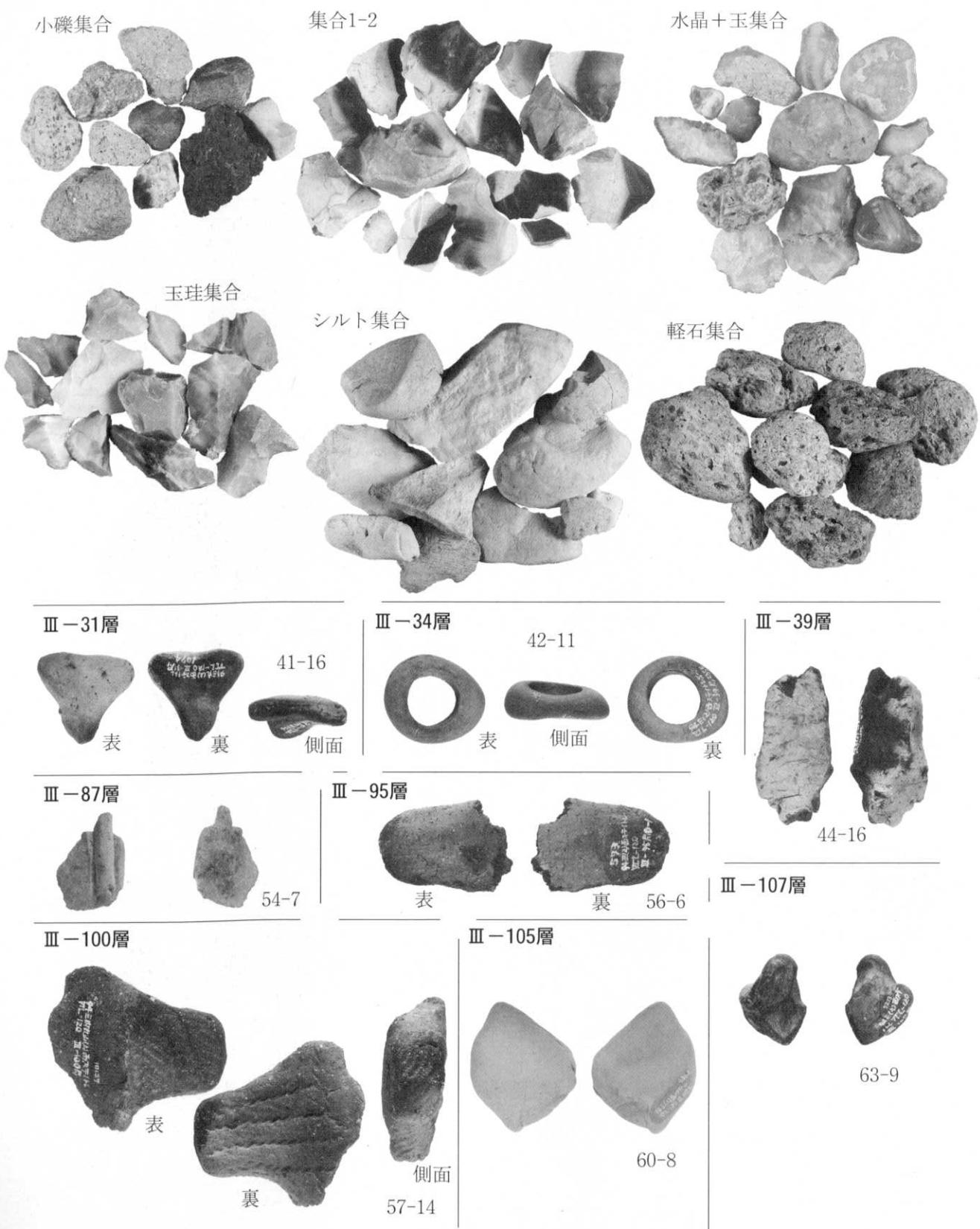


写真59 ポイント4出土石器(2)・1トレンチ出土土・石製品(1)

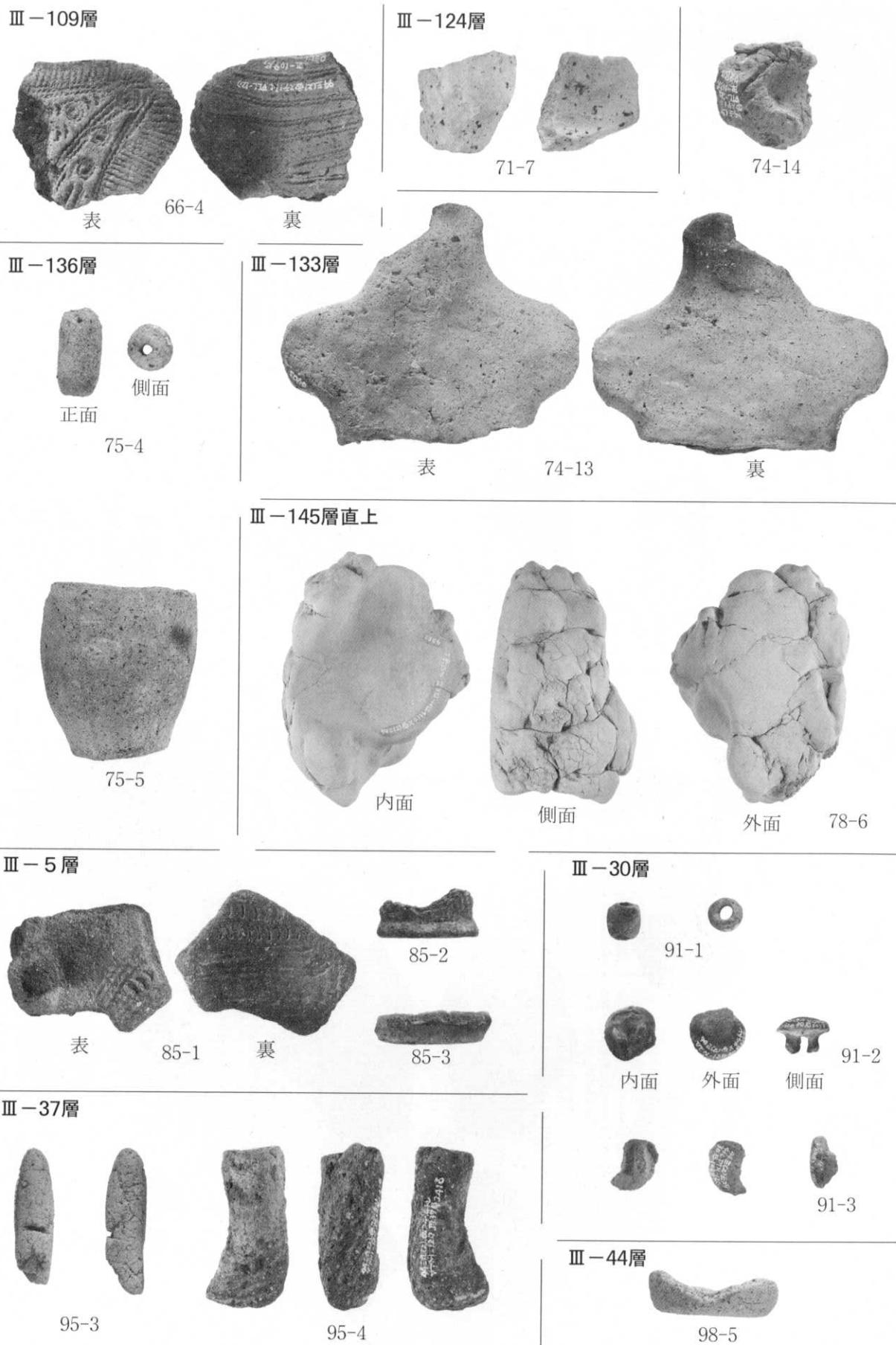


写真60 1トレンチ出土土・石製品(2)・4トレンチ出土土・石製品(1)

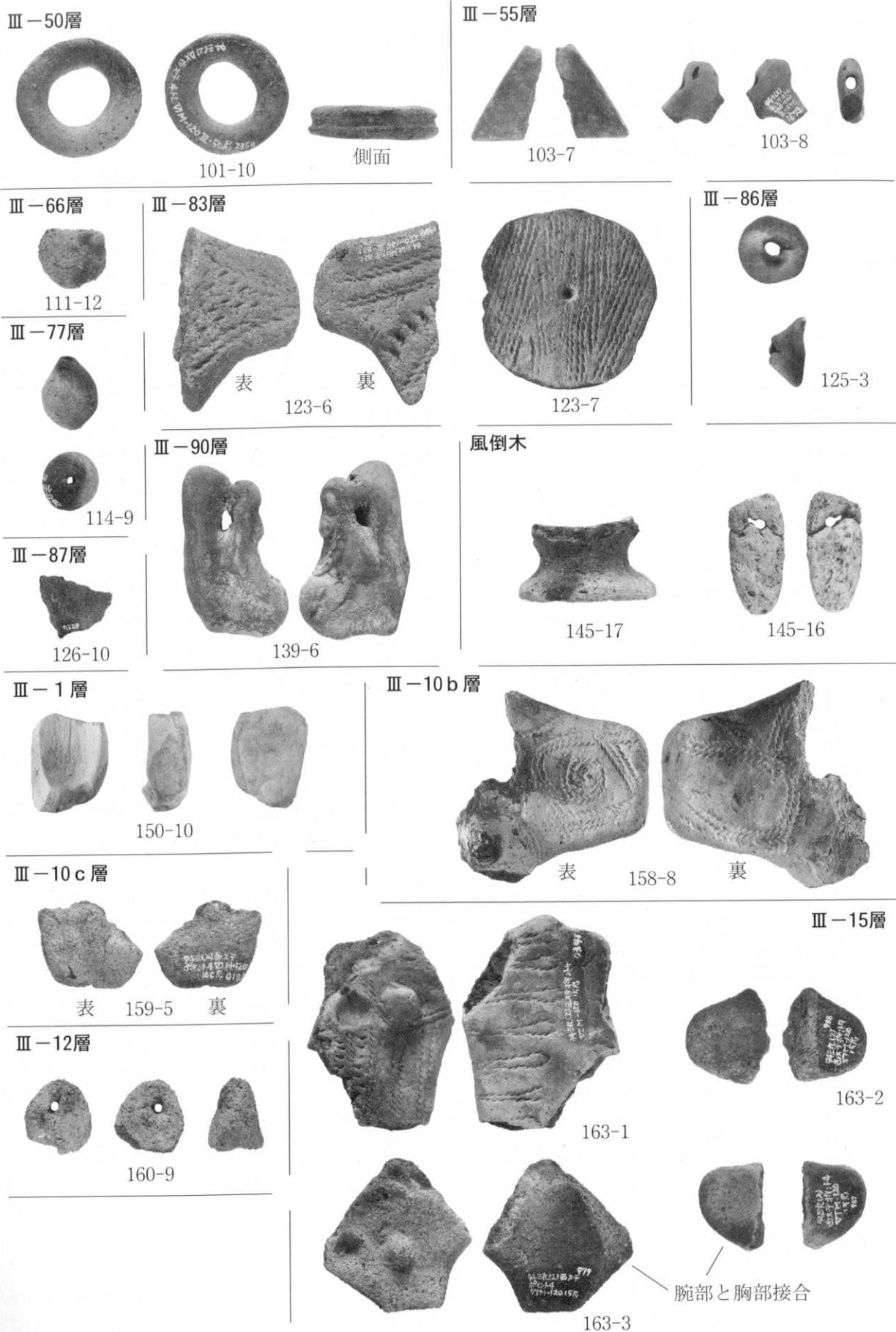


写真61 4トレンチ出土土・石製品(2)・ポイント4出土土・石製品(1)

特別史跡三内丸山遺跡発掘調査報告書一覧（県教委発行分）

年 度	書 名	県埋蔵文化財報告書	内 容
昭和51	近野遺跡発掘調査報告書（III） 三内丸山（II）遺跡発掘調査報告書 —青森県総合運動公園建設関係発掘調査—	第33集	昭和51年度に調査した県総合運動公園西駐車場地区の調査報告
昭和53	近野遺跡発掘調査報告書（IV） —青森県総合運動公園建設関係発掘調査—	第47集	昭和52年度に調査した近野地区の調査報告
平成5	三内丸山(2)遺跡Ⅱ —県営運動公園拡張事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 I —	第157集	平成4年度に調査した旧野球場建設予定地3塁側スタンド地区検出遺構
平成5	三内丸山(2)遺跡Ⅲ —県営運動公園拡張事業に係る埋蔵文化財発掘調査概報 I —	第166集	平成4～5年度の調査概要報告
平成6	三内丸山(2)遺跡IV	第185集	平成6年度に調査した旧サッカー場建設予定地の試掘調査報告
平成7	三内丸山遺跡V —第1次～4次調査報告書—	第204集	平成7年度に実施した第1次～4次調査の報告
平成7	三内丸山遺跡VI	第205集	平成4～7年度の調査概要報告
平成8	近野遺跡V —県営運動公園拡張整備事業に伴う遺跡試掘調査報告 I —	第216集	平成6～7年度に調査した近野地区の試掘調査報告
平成8	三内丸山遺跡VII —第5次～7次調査概要報告書—	第229集	平成8年度に実施した第5次～7次調査の概要報告
平成8	三内丸山遺跡VIII —第6鉄塔地区調査報告書1—	第230集	平成4～5年度に調査した第6鉄塔地区の検出遺構及び第III～Vc層の調査報告
平成9	三内丸山遺跡IX —第6鉄塔地区調査報告書2—	第249集	平成4～5年度に調査した第6鉄塔地区の第VIa・VIb層及び自然科学分野の調査報告
平成9	三内丸山遺跡X —旧野球場建設予定地発掘調査報告書2—	第250集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の竪穴住居跡に関する調査報告
平成9	三内丸山遺跡X I —第5次～7次調査報告書—	第251集	平成8年度に実施した第5次～7次調査の報告
平成9	三内丸山遺跡X II —第8次～10次調査概要報告書—	第252集	平成9年度に実施した第8次～10次調査の概要報告
平成10	三内丸山遺跡X III —第11次～13次調査概要報告書—	第265集	平成10年度に実施した第11次～13次調査の概要報告
平成11	三内丸山遺跡X IV —第14次～16次調査概要報告書—	第282集	平成11年度に実施した第14次～16次調査の概要報告
平成11	三内丸山遺跡X V —旧野球場建設予定地発掘調査報告書3—	第283集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の竪穴住居跡に関する調査報告
平成12	三内丸山遺跡X VI —旧野球場建設予定地発掘調査報告書4—	第288集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の竪穴住居跡に関する調査報告
平成12	三内丸山遺跡X VII —第6鉄塔地区調査報告書3—	第289集	平成4～5年度に調査した第6鉄塔地区の遺構外遺物に関する調査報告
平成12	三内丸山遺跡X VIII —第17次～19次調査概要報告書—	第309集	平成12年度に実施した第17次～19次調査の概要報告
平成13	三内丸山遺跡X IX—第20次～22次調査概要報告書—	第337集	平成13年度に実施した第20次～22次調査の概要報告
平成13	三内丸山遺跡X X —第8次・9次調査報告書—	第338集	平成9年度に実施した第8次・9次調査の報告

年 度	書 名	県埋蔵文化財報告書	内 容
平成14	三内丸山遺跡21 —第23次～25次調査概要報告書—	第361集	平成14年度に実施した第23次～25次調査の概要報告
平成14	三内丸山遺跡22 —第13次・14次・17次・20次調査報告書—	第362集	平成11～13年度に実施した第13次・14次・17次・20次調査の報告
平成15	三内丸山遺跡23 —第23・26次調査報告書—	第381集	平成14・15年度に実施した第23次・26次調査の報告
平成15	三内丸山遺跡24 —第13・14・17・20次調査報告書—	第382集	平成11～13年度に実施した第13次・14次・17次・20次調査の遺構外遺物に関する報告
平成15	三内丸山遺跡25 —旧野球場建設予定地発掘調査報告書5 埋設土器編—	第383集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の埋設土器に関する調査報告
平成16	三内丸山遺跡26 —第10次・11次・12次・15次・16次・22次調査報告書—	第404集	平成9・10・11・13年度に実施した第10次・11次・12次・15次・16次・22次調査の報告
平成16	三内丸山遺跡27 —旧野球場建設予定地発掘調査報告書6 土坑編—	第405集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の埋設土器・土坑に関する調査報告
平成16	三内丸山遺跡28 —第27・28次調査報告書—	第406集	平成16年度に実施した第27次調査の概要報告・第28次調査の報告
平成17	三内丸山遺跡29 —第19・25・27・29次調査報告書—	第422集	平成12・14・16・17年度に実施した第19・25・27・29次調査の報告
平成17	三内丸山遺跡30 —旧野球場建設予定地発掘調査報告書7 挖立柱建物跡編(1)—	第423集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の掘立柱建物跡に関する調査報告1
平成18	三内丸山遺跡31 —第18・21・24次調査報告書—	第443集	平成12・13・14年度に実施し第18・21・24次調査の報告
平成18	三内丸山遺跡32 旧野球場建設予定地発掘調査報告書8 挖立柱建物跡編(2)—	第444集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の掘立柱建物跡に関する調査報告2
平成19	三内丸山遺跡33 —第30次調査報告書—	第462集	平成18年度に実施した第30次調査の報告
平成19	三内丸山遺跡34 —旧野球場建設予定地発掘調査報告書9 挖立柱建物跡編(3)・南盛土(1)	第463集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の掘立柱建物跡に関する調査報告3と南盛土に関する調査報告1（拡張トレンチ部分）

は旧野球場建設予定地調査報告書

報 告 書 抄 錄

ふりがな	さんないまるやまいせき さんじゅうよん
書名	三内丸山遺跡34
副書名	旧野球場建設予定地発掘調査報告書9 掘立柱建物跡(3)・南盛土(1)
巻字	
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第463集
編著者名	岡田康博・木村真明・中村美杉・木村高・小笠原雅行・秦光次郎・水谷真由美
編集機関	青森県教育庁文化財保護課
所在地	〒030-8540 青森市新町二丁目3番1号 TEL 017-734-9924
発行年月日	西暦2008年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		旧日本測地系 (Tokyo Datum)		調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
さんないまるやまいせき 三内丸山遺跡	あおもりけんあおもりし 青森県青森市 おおあざさんないあざまるやま 大字三内字丸山	02201	01021	40° 48' 40"	140° 42' 20"	・1992.4.20 ~11.30		県営運動公
				日本測地系 (JGD2000) 北緯	東経	・1993.4.12 ~12.17	38,000	園拡張事業 に係る事前
				40° 48' 50"	140° 42' 07"	・1994.4.4 ~11.18		調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三内丸山遺跡	集落跡	縄文時代	掘立柱建物跡 1基 (今回報告分) 南盛土(拡張トレンチ部分)	縄文土器 石器 土製品 石製品 木柱	縄文時代前・中期の 拠点的集落跡の調査

青森県埋蔵文化財調査報告書第463集

三内丸山遺跡34

—旧野球場建設予定地発掘調査報告書9　掘立柱建物跡編(3)・南盛土(1)—

発行日　平成20年3月31日

発行　青森県教育委員会

編集　青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡対策室

〒030-8540　青森市新町2丁目3-1

TEL 017-734-9924　FAX 017-734-8280

印刷　株式会社　こがわ

〒038-0003　青森市大字石江字三好120-20

この印刷物は400部作成し、印刷経費は1部当たり3,413円です。